

余市町

# 大川遺跡

(2003年度)

余市川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004. 3

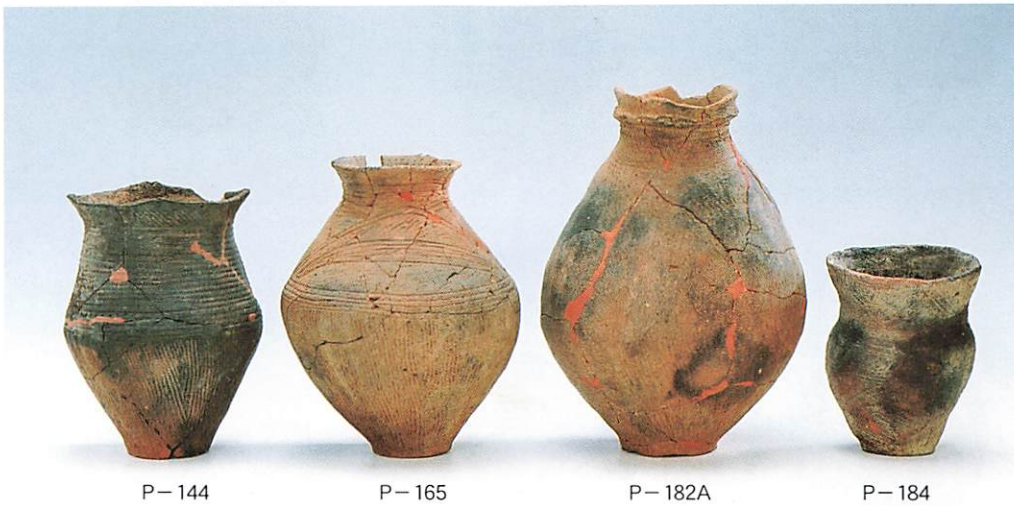
北海道余市町教育委員会



P-144 ウニ型土器



P-144 検出状況  
(北東→南西)



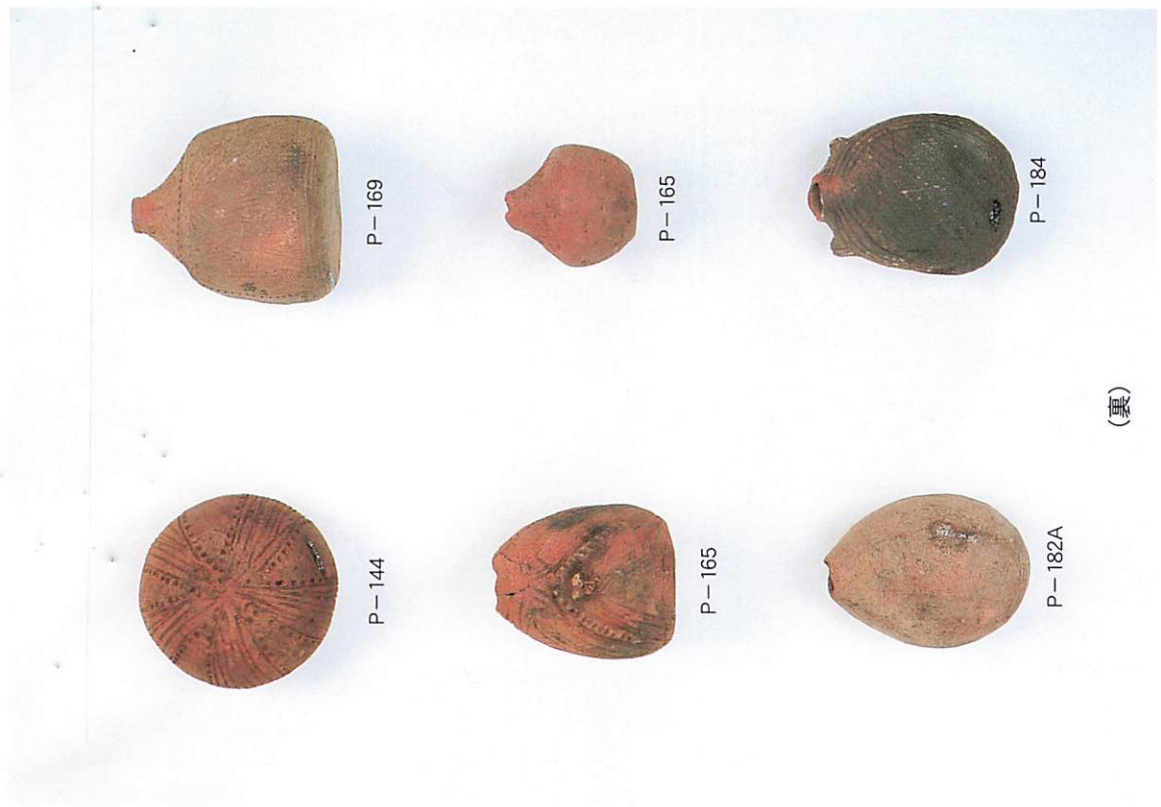
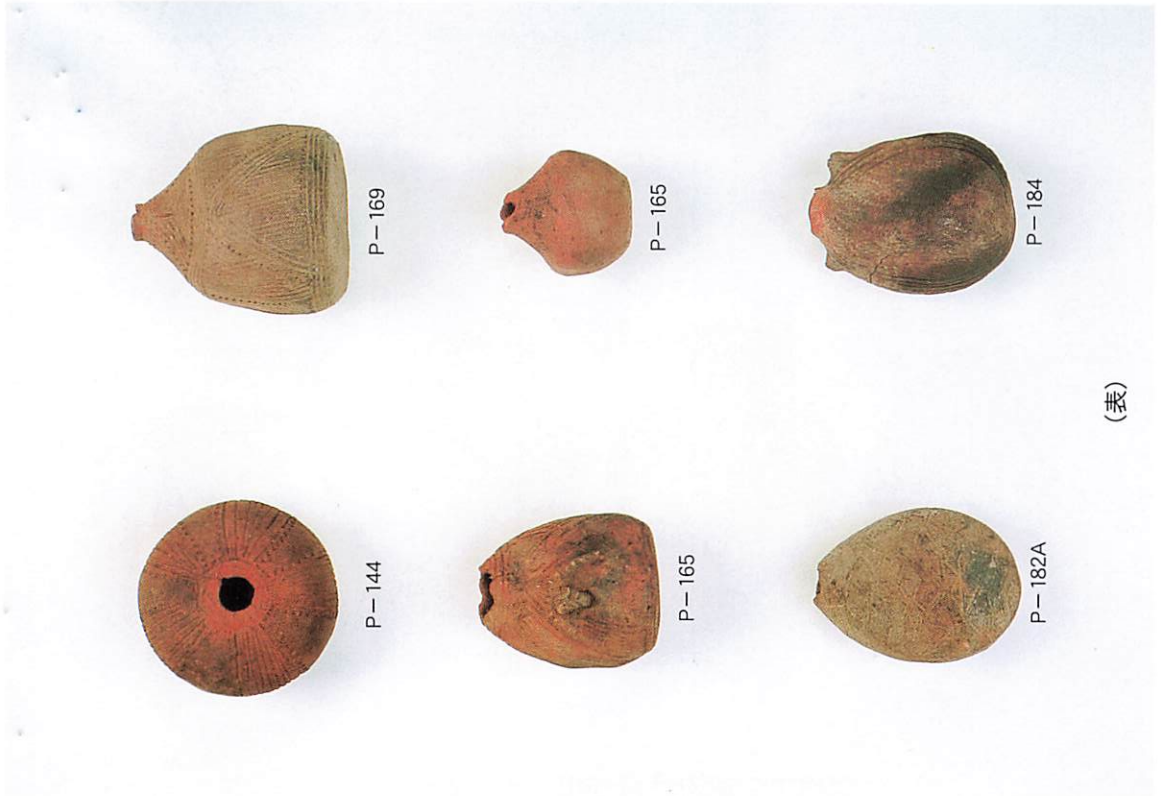
P-144

P-165

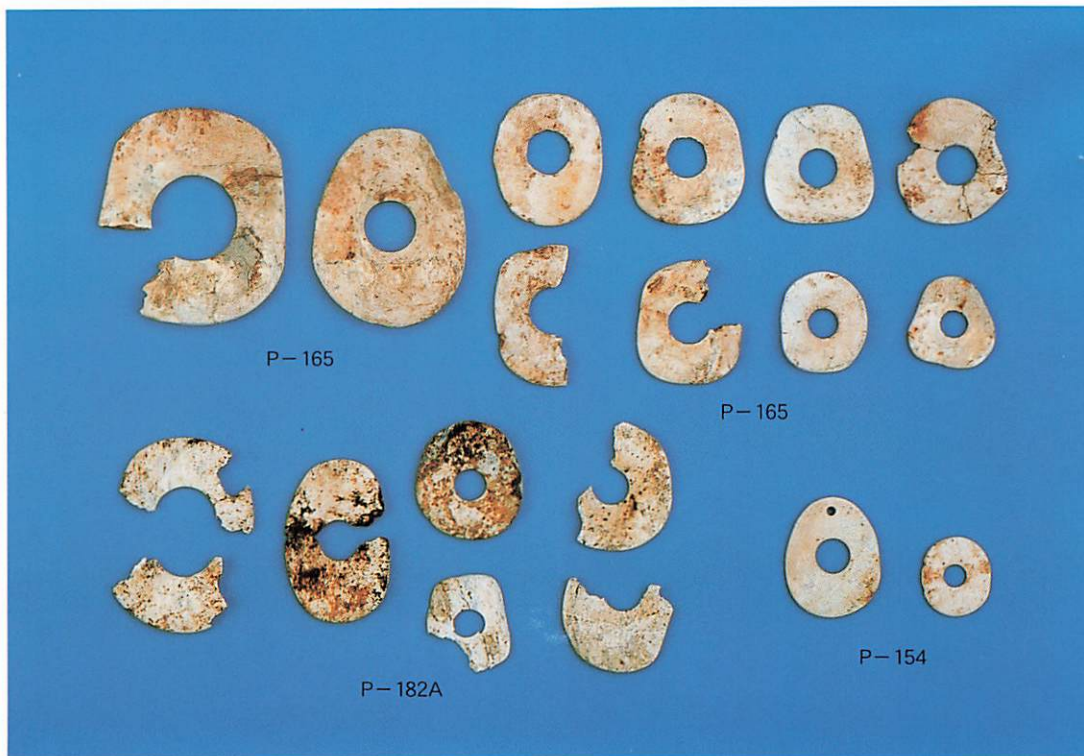
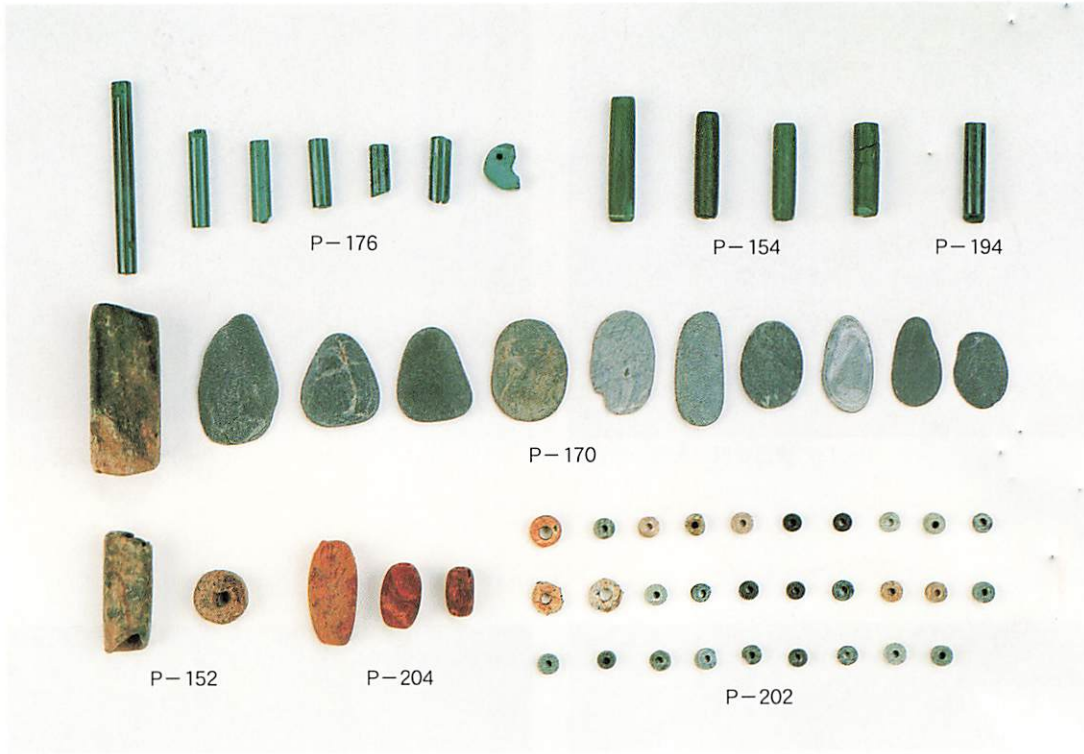
P-182A

P-184

口絵 1 道道地点検出の遺構と遺物



口絵2 道道地点出土の土器



口絵3 道道地点出土の遺物



P-137 検出状況 (南東→北西)



P-155 検出状況 (北東→南西)



P-176 遺物出土状況 (北西→南東)



P-177 検出状況 (北→南)



P-182A 検出状況 (北西→南東)



P-182B 検出状況 (北西→南東)

口絵4 道道地点検出の遺構



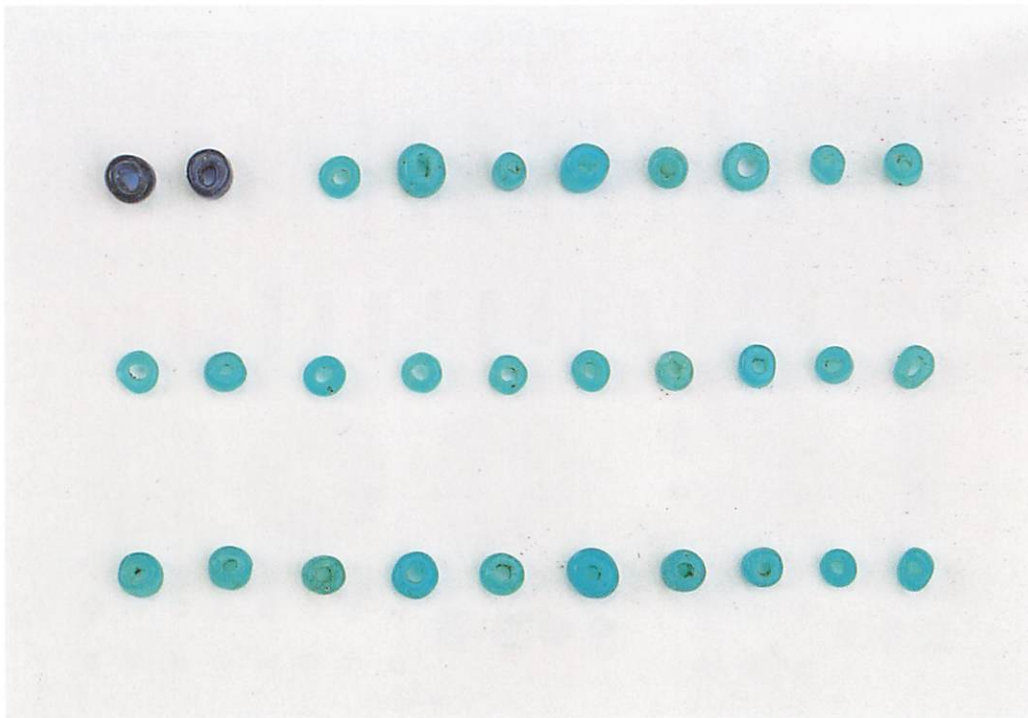
P-103 弥生系土器



P-103 検出状況 (南西→北東)



遺物出土状況



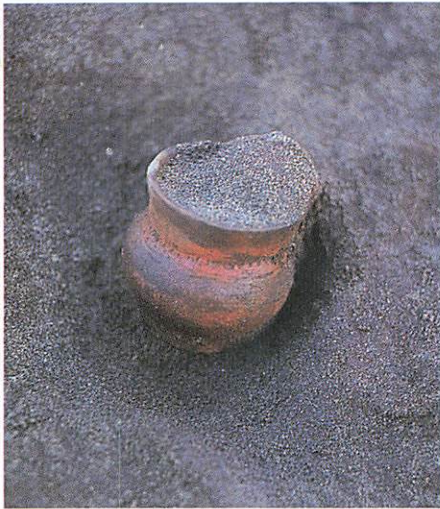
P-103 ガラス玉

口絵 5 迂回路地点検出の遺構と遺物



P-113

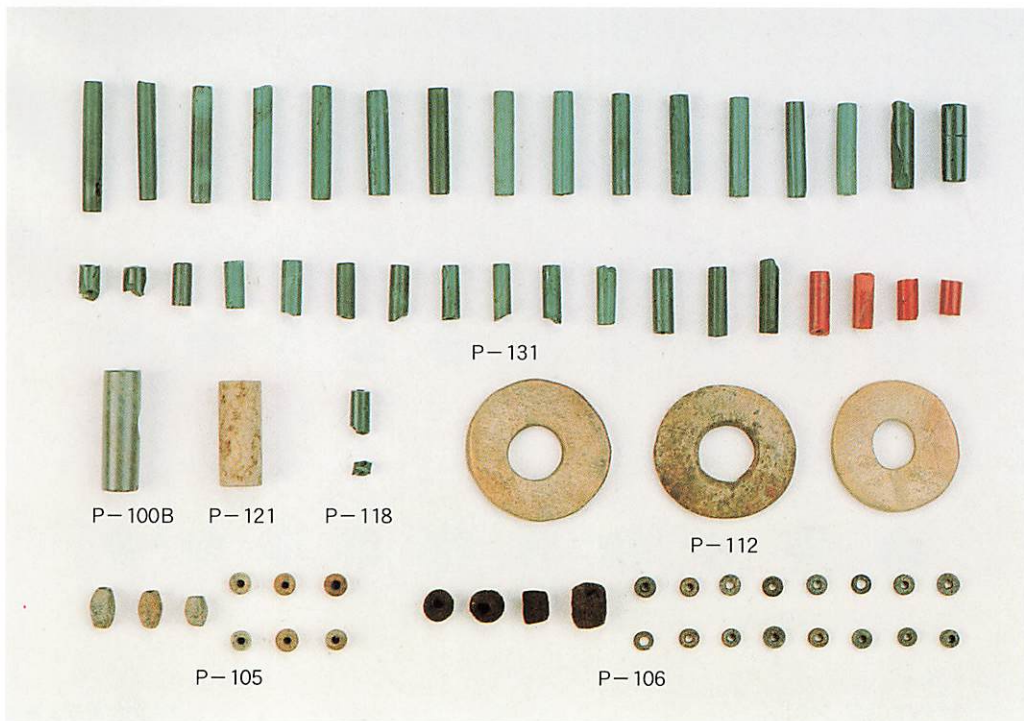
P-104



P-113 土器出土状況



P-104 土器出土状況



P-131

P-100B

P-121

P-118

P-112

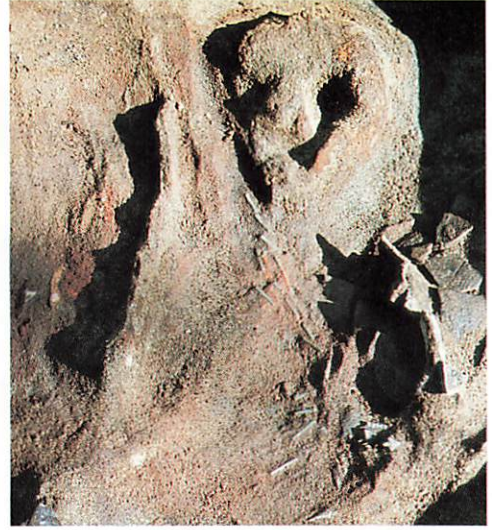
P-105

P-106

口絵 6 迂回路地点出土の遺物



P-131 検出状況 (西→東)



遺体頭部周辺 検出状況 (南西→北東)



遺物出土状況① (南西→北東)



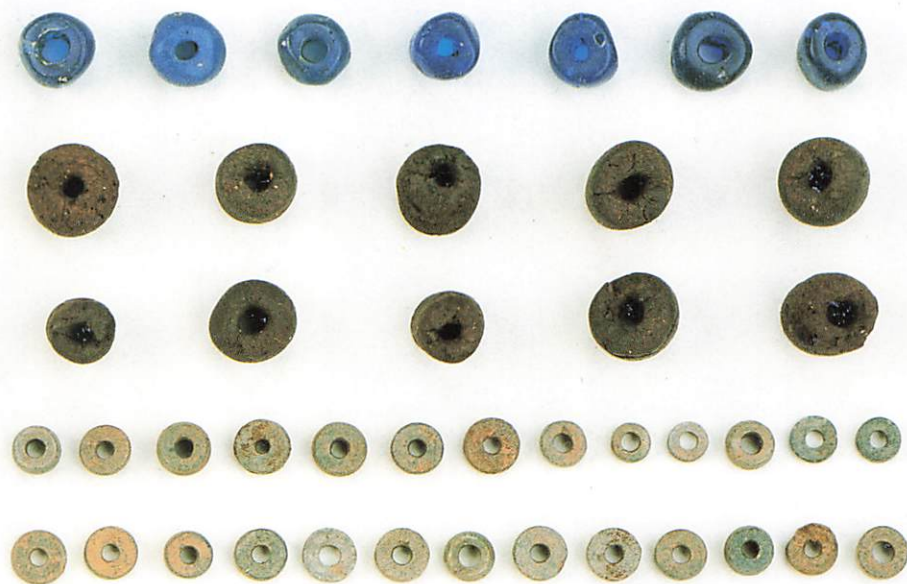
遺物出土状況② (北東→南西)



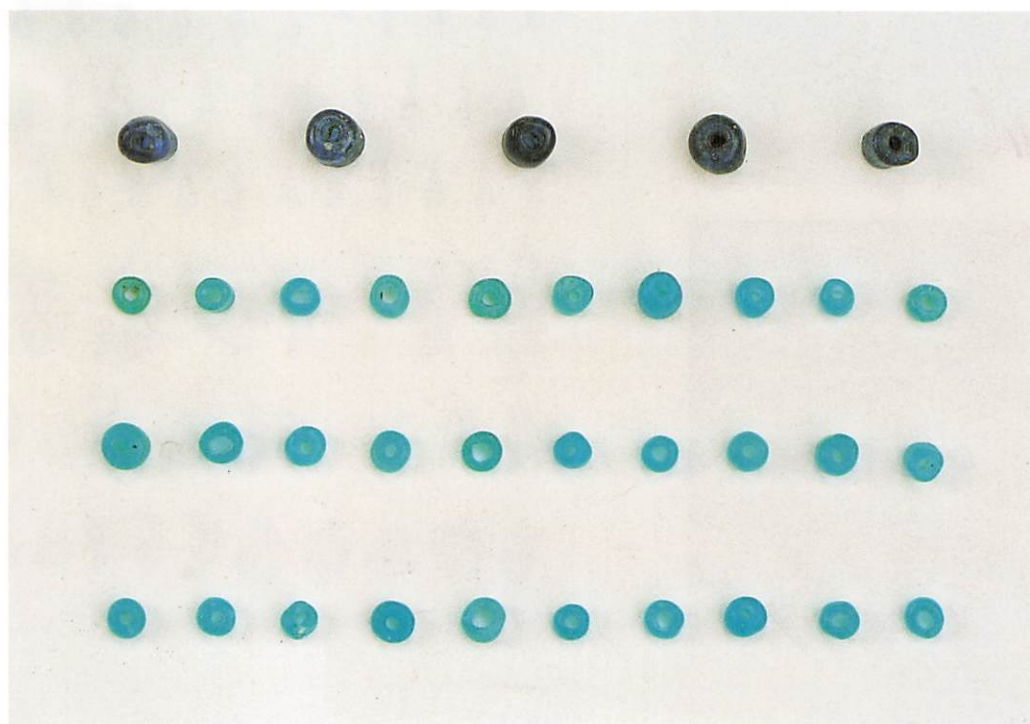
P-131 石器

口絵 7 迂回路地点検出の遺構と遺物





P-97 ガラス玉・土玉・石製玉



P-98 ガラス玉

口絵 8 迂回路地点出土の玉類

## 序

余市町は積丹半島の基部に位置し、北は日本海に面し、三方を緩やかな丘陵に囲まれた人口約24,000人の町です。

余市町は気候が比較的温暖なことから海の幸、山の幸にも恵まれ、北海道では早くから人が定住し、生活を営んでおりました。

大川遺跡は大正時代に発見され、河川改修事業に伴い平成元年から継続され発掘調査が行われてきました。

これまで大川遺跡からは縄文時代や近世・近代におよぶ遺物が約200万点出土し、住居やお墓の数は約1200基が確認されています。

今年度の発掘調査は新大川橋開通後の旧道下の発掘調査が中心となるもので、本年で発掘の終了年となりました。

当初からこの発掘区に多くの遺構と遺物が出土するのではないかと思われましたが、調査の結果、予想を上回る続縄文時代に相当する多くのお墓とともに土器や石器が大量に出土しました。特に、従前ほとんど見られなかった特殊な小形土器や弥生系の土器、ガラス玉などの極めて貴重な資料が発見されました。

この報告書とともにすでに刊行されている年度別大川遺跡を参照することによって古代から近代における余市川河口の歴史を知ることができ、さらに北海道史解明の一助となる基本文献となるものと確信しております。

昭和63年の範囲確認調査から緊急発掘調査に至るまでに北海道教育委員会には種々のご指導を頂きました。また多くの研究者からも多大なご協力を頂きました。

ここに感謝申し上げ、大川遺跡発掘調査報告書刊行の挨拶とさせていただきます。

平成16年3月

余市町教育委員会

教育長 利 輝 夫

## 例 言

1. 本書は、平成15年度余市川改修事業に伴う大川遺跡の緊急発掘調査の報告書である。
2. 本遺跡は北海道余市郡余市町大川町1丁目にあり遺跡の登載番号はD-19-6である。
3. 本書の編集は乾芳宏が行った。なお執筆については第Ⅲ章を小川康和、第Ⅱ・Ⅳ章1・2を原靖寿、他については乾が執筆した。

### 4. 発掘調査および整理体制

- ・事業主体 北海道小樽土木現業所
- ・調査主体 余市町教育委員会
  - 教育長 利輝夫
  - 教育次長 佐々木功治
  - 文化財課長 盛昭史
  - 学芸員 浅野敏昭
- ・調査担当者 文化財課文化財係長 乾芳宏
- ・調査面積 1,775 m<sup>2</sup>
- ・調査期間 平成15年5月21日～11月28日
- ・整理期間 平成15年12月1日～平成16年3月31日
- ・発掘調査 調査員 小川康和  
調査補助員 原靖寿  
作業員 鎌田敬司・瀬戸隆之・中野秋・花田直彦・松井一夫  
安本幹雄・湯谷浄治・阿部栄子・内田豊子・大森朋恵  
久保照代・北川千登世・工藤由美子・佐藤博子  
仲鉢悦子・古田千穂・前田貞子・水田るり子
- ・整理作業 遺構図 小川康和・原靖寿・中野秋  
遺物実測 土器 久保照代・北川千登世  
石器 水田るり子・阿部栄子・前田貞子  
土・石・鉄製品 阿部栄子  
拓本 水田るり子  
図版 内田豊子・仲鉢悦子・大森朋恵  
遺物接合 古田千穂・花田直彦  
遺跡測量 中野秋  
発掘写真 小川康和・原靖寿  
遺物写真 フォトスタジオ真希奈
- ・遺物保存処理 岩手県立博物館

## 5. 遺物の保管

遺跡から出土した遺物については、余市町教育委員会が保管管理する。

## 6. 発掘調査及び整理作業にあたり、下記の方々の指導、助言および協力を頂いた。

北海道教育委員会 大沼忠春・千葉英一・田才雅彦・工藤研治、北海道立中央水産試験場、(財)北海道埋蔵文化財センター 畑 宏明・田口 尚、早稲田大学 菊池徹夫、国立歴史民俗博物館 西本豊弘、小樽市教育委員会 石神 敏・青木 誠、石狩市教育委員会 石橋孝夫、北海道開拓記念館 赤松守雄・山田悟郎・右代啓視・小林幸雄・鈴木琢也・添田雄二、常呂町教育委員会 武田 修、青木延広、佐藤利雄、近藤芳二、仲鉢 浩

(敬 称 略)

## 凡 例

### 1. 本書は、遺構について略号及び記号を次のように用いている。

墓坑・土坑 P (Pit)	柱穴・小土坑 S P (Small Pit)
焼 土 F P (Fire Place)	壕状遺構 MO (Moat)
貝 塚 S M (Shell Mound)	剥片集中 F C (Flake Chip)

### 2. 各遺構No. は全地点を通じてのものではない。道道地点・迂回路地点については、1999・2000年度調査において各々連番としており、それを継続し各地点毎に複数年度に亘る通し番号となっている。旧河口港地点については今年度調査のみのNo. を使用している。なお、MO (壕状遺構) については複数年度に亘り検出される大型の遺構であるため、各地点共通の大川遺跡発掘調査初年度 (1989年度) からの通し番号となっている。

- ・道道地点 (P-132~, F P-15~等)
- ・迂回路地点 (P-97~, F P-12~, S M-4 等)
- ・旧河口港地点 (P-1~等)

### 3. 本書は基本的に次のような縮尺としている。

遺構関係	墓坑 1/20	発掘区土層断面 1/40	壕状遺構断面 1/40	その他 1/20	
遺物関係	土器 1/3	陶磁器 1/3	土製品 1/2	剥片石器 1/2	礫石器 1/3
	鉄製品 1/3	サメの歯 1/2			

なお、一部紙面の都合上、土器・石器・その他の遺物について縮尺を変えた。それらの遺物については ( ) で縮尺を示した。

### 4. 写真図版の縮尺は任意である。

# 本文目次

序	i
例言	ii
第Ⅰ章 発掘調査の概要	
1. 発掘調査に至る経緯	1
2. 遺跡の立地と層序	4
3. 発掘調査の方法	4
4. 遺物整理の方法	4
5. 遺物の分類	4
第Ⅱ章 道道地点	
1. 概要	11
2. 遺構と遺物	14
3. 遺構外出土の遺物	95
第Ⅲ章 迂回路地点	
1. 概要	121
2. 遺構と遺物	125
3. 遺構外出土の遺物	192
第Ⅳ章 旧河口港地点	
1. 概要	219
2. 遺構と遺物	222
3. 遺構外出土の遺物	233
第Ⅴ章 まとめ	251
第Ⅵ章 付編	
1. 大川遺跡出土の動物遺体	255
2. 放射性炭素年代測定結果について	260
3. 大川遺跡出土の人骨について	262

## 図 版 目 次

第1図	大川遺跡の位置図（1：50000）	1
第2図	発掘調査地点位置図（1：500）	2
第3図	明治29年の余市川流域図	3
第4図	各年度（1989年度～2003年度）発掘調査区	7～8
第5図	塚状遺構・溝状遺構分布図	9～10
第6図	道道地点調査区・道道地点遺構配置図	12
第7図	道道地点土層断面図	13
第8図	P-132・133・136平面図と出土遺物	34
第9図	P-135・138平面図とP-135出土遺物	35
第10図	P-137平面図と出土遺物	36
第11図	P-140・141・142平面図と出土遺物	37
第12図	P-143・145平面図とP-143出土遺物	38
第13図	P-144平面図と出土遺物	39
第14図	P-144出土遺物	40
第15図	P-146・147平面図	41
第16図	P-148・150平面図と出土遺物	42
第17図	P-149平面図と出土遺物	43
第18図	P-151・152・155・162平面図	44
第19図	P-151・152・155出土遺物	45
第20図	P-153・157平面図と出土遺物	46
第21図	P-154平面図と出土遺物	47
第22図	P-156・167土器集中-1・2平面図とP-167出土遺物	48
第23図	P-156出土遺物	49
第24図	土器集中-1・2出土遺物	50
第25図	P-158・159・163平面図とP-163出土遺物	51
第26図	P-160・161平面図と出土遺物	52
第27図	P-164・166平面図とP-166出土遺物	53
第28図	P-165平面図	54
第29図	P-165出土遺物（1）	55
第30図	P-165出土遺物（2）	56
第31図	P-168・169平面図と出土遺物	57
第32図	P-169出土遺物	58
第33図	P-170・172平面図と出土遺物	59
第34図	P-171・175平面図と出土遺物	60
第35図	P-173・174・176平面図と出土遺物	61
第36図	P-177平面図と出土遺物	62
第37図	P-177出土遺物	63

第38図	P-178・179 平面図と出土遺物	64
第39図	P-180・181 平面図と出土遺物	65
第40図	P-182 A 平面図と出土遺物	66
第41図	P-182 A 出土遺物	67
第42図	P-182 B 平面図と出土遺物	68
第43図	P-183 平面図と出土遺物	69
第44図	P-183 出土遺物	70
第45図	P-184 平面図と出土遺物	71
第46図	P-185・186 平面図と出土遺物	72
第47図	P-187 平面図と出土遺物	73
第48図	P-187 出土遺物	74
第49図	P-188 平面図と出土遺物	75
第50図	P-188 出土遺物	76
第51図	P-189 平面図と出土遺物	77
第52図	P-190・191 平面図と出土遺物	78
第53図	P-192 平面図と出土遺物	79
第54図	P-193・194・195 平面図とP-194・195 出土遺物	80
第55図	P-196・198 平面図とP-196 出土遺物	81
第56図	P-197・199 平面図とP-199 出土遺物	82
第57図	P-200・201 平面図と出土遺物	83
第58図	P-202・203 平面図とP-203 出土遺物	84
第59図	P-202 出土遺物	85
第60図	P-204・205 平面図と出土遺物	86
第61図	P-206・209 平面図と出土遺物	87
第62図	P-207 平面図と出土遺物	88
第63図	P-208 平面図と出土遺物	89
第64図	P-210 平面図と出土遺物	90
第65図	F P 平面図	91
第66図	S P・F C・礫玉集中平面図	92
第67図	壕状遺構・溝状遺構分布図と断面図	93
第68図	M O-23 出土遺物	94
第69図	遺構外出土の遺物(1)	97
第70図	遺構外出土の遺物(2)	98
第71図	遺構外出土の遺物(3)	99
第72図	迂回路地点遺構配置図	122
第73図	迂回路地点土層断面図(1)	123
第74図	迂回路地点土層断面図(2)	124
第75図	P-97 平面図	146
第76図	P-97 出土遺物	147

第77図	P-98 平面図と出土遺物	148
第78図	P-99 平面図と出土遺物	149
第79図	P-100A・100B 平面図と出土遺物	150
第80図	P-101・110 平面図と P-101 出土遺物	151
第81図	P-102 平面図と出土遺物	152
第82図	P-103 平面図と出土遺物	153
第83図	P-104 平面図と出土遺物	154
第84図	P-105・106 平面図と P-105 出土遺物	155
第85図	P-106 出土遺物	156
第86図	P-107・109 平面図と P-107 出土遺物	157
第87図	P-108・111 平面図と P-108 出土遺物	158
第88図	P-112 平面図と出土遺物	159
第89図	P-113・114 平面図と出土遺物	160
第90図	P-115・117 平面図と出土遺物	161
第91図	P-116・119 平面図と P-116 出土遺物	162
第92図	P-116 出土遺物	163
第93図	P-118 平面図と出土遺物	164
第94図	P-120 平面図と出土遺物	165
第95図	P-121・138 平面図と P-121 出土遺物	166
第96図	P-123 平面図と P-123・138 出土遺物	167
第97図	P-122・124 平面図と P-124 出土遺物	168
第98図	P-125・135 平面図と P-125 出土遺物	169
第99図	P-126・129・132 平面図	170
第100図	P-129・132 断面図と P-126・129・132 出土遺物	171
第101図	P-127・128 平面図と出土遺物	172
第102図	P-130・133 平面図と P-130 出土遺物	173
第103図	P-131 平面図と出土遺物	174
第104図	P-131 出土遺物	175
第105図	P-134 平面図と出土遺物	176
第106図	P-136 平面図と出土遺物	177
第107図	P-137 平面図と出土遺物	178
第108図	P-139・140 平面図と出土遺物	179
第109図	P-141・144 平面図	180
第110図	P-142 平面図と出土遺物	181
第111図	P-143 平面図と出土遺物	182
第112図	FP-12・14～19 平面図と FP-14 出土遺物	183
第113図	FP-13 平面図と出土遺物	184
第114図	FP-20～23・25 平面図と FP-22・23 出土遺物	185
第115図	FP-24・26～29 平面図と FP-26・27 出土遺物	186



第116図	迂回路地点塚状遺構・溝状遺構分布図	187
第117図	MO-10断面図	188
第118図	MO-10出土遺物	189
第119図	MO-20・21断面図と出土遺物	190
第120図	MO-19・24～26・溝状遺構-1・2断面図と出土遺物	191
第121図	遺構外出土の遺物(1)	194
第122図	遺構外出土の遺物(2)	195
第123図	遺構外出土の遺物(3)	196
第124図	遺構外出土の遺物(4)	197
第125図	遺構外出土の遺物(5)	198
第126図	旧河口港地点調査区見取り図	220
第127図	旧河口港地点土層断面図	221
第128図	石組炉-1平面図	225
第129図	石組炉-1断面図と石組炉-2平面図	226
第130図	SM-1平面図	227
第131図	SM-1出土遺物	228
第132図	SM-2平面図・P-1平面図と出土遺物	229
第133図	P-3平面図と出土遺物・FP-1平面図	230
第134図	SP集中配置図	231
第135図	建材出土状況と出土遺物	232
第136図	包含層出土の遺物(1)	236
第137図	包含層出土の遺物(2)	237
第138図	包含層出土の遺物(3)	238
第139図	包含層出土の遺物(4)	239
第140図	包含層出土の遺物(5)	240
第141図	攪乱層出土の遺物(1)	241
第142図	攪乱層出土の遺物(2)	242
第143図	攪乱層出土の遺物(3)	243
第144図	攪乱層出土の遺物(4)	244

## 写真目次

口絵1	道道地点検出の遺構(P-144)と遺物(P-144・165・182A・184)
口絵2	道道地点出土の土器(P-144・165・169・182A・184)
口絵3	道道地点出土の遺物(P-152・154・165・170・182A・194・202・204)
口絵4	道道地点検出の遺構(P-137・155・176・177・182A・182B)
口絵5	迂回路地点検出の遺構と遺物(P-103)
口絵6	迂回路地点出土の遺物(P-100B・104・105・106・112・113・118・121・131)
口絵7	迂回路地点検出の遺構と遺物(P-131)
口絵8	迂回路地点出土の玉類(P-97・98)

写真1	道道地点〔1〕作業風景	265
写真2	道道地点〔2〕調査区完掘状況	266
写真3	道道地点〔3〕遺構検出状況 (P-148・149・154)	267
写真4	道道地点〔4〕遺構検出状況 (P-140・143・150・151・152・153・156)	268
写真5	道道地点〔5〕遺構検出状況 (P-165)	269
写真6	道道地点〔6〕遺構検出状況 (P-157・163・166・170・172・173・175・178)	270
写真7	道道地点〔7〕遺構検出状況 (P-168・169・183・184・187)	271
写真8	道道地点〔8〕遺構検出状況 (P-192・199・200・201・202・203・205・206)	272
写真9	道道地点〔9〕遺構検出状況 (P-188・204・207・208)	273
写真10	道道地点〔10〕遺構検出状況 (P-209・210,土器集中-1・2,FC-3,礫玉集中,FP-17,SP-5)	274
写真11	道道地点〔11〕遺構検出状況 (MO-22・23)	275
写真12	道道地点出土の遺物 (P-144・177)	276
写真13	道道地点出土の土器〔1〕 (P-140・143・148・149・151・155・163・171・175・176・182B・196・201・203・207)	277
写真14	道道地点出土の土器〔2〕 (P-153・154・157・170・187・188・191・192・202・204・205・206)	278
写真15	道道地点出土の石器 (P-137・165)	279
写真16	迂回路地点〔1〕調査区遠景,作業風景	280
写真17	迂回路地点〔2〕調査区完掘状況	281
写真18	迂回路地点〔3〕遺構検出状況 (P-97・99・105・106)	282
写真19	迂回路地点〔4〕遺構検出状況 (P-98・107)	283
写真20	迂回路地点〔5〕遺構検出状況 (P-100A・100B・104・112・113)	284
写真21	迂回路地点〔6〕遺構検出状況 (P-108・114・117・118・120)	285
写真22	迂回路地点〔7〕遺構検出状況 (P-116・126)	286
写真23	迂回路地点〔8〕遺構検出状況 (P-122・123・127・129・132・134)	287
写真24	迂回路地点〔9〕遺構検出状況 (P-136・138・139・140・141・143)	288
写真25	迂回路地点〔10〕遺構検出状況 (P-102・137・142)	289
写真26	迂回路地点〔11〕遺構検出状況 (MO-10・19・20・21・24・25)	290
写真27	迂回路地点〔12〕遺構検出状況 (MO-24・25・26,FP-13・18,FC-1,SM-4)	291
写真28	迂回路地点出土の土器 (P-98・107・116・117・118・120・129・131・132・138,FP-13他)	292
写真29	旧河口港地点〔1〕作業風景,調査区完掘状況	293
写真30	旧河口港地点〔2〕検出状況 (P-1,石組塀-1・2他)	294
写真31	旧河口港地点〔3〕検出状況 (SM-1,SP-5,木柱-1~7他)	295
写真32	服部地点 P-27の人骨	296

# 第I章 発掘調査の概要

## 1. 発掘調査に至る経緯

余市町は北海道の西南部、積丹半島の基部に位置する。町の中央部を縦断する2級河川余市川は過去に度々氾濫を起こし、重大な被害を及ぼしてきた。そのため、治水対策が必要となり、1984（昭和59）年度より余市川改修事業が着工されることになった。しかし、河口の右岸には大川遺跡、左岸には入舟遺跡がそれぞれ立地しており、北海道小樽土木現業所にその事業内容を詳細に聴取したところ、当該地区の除外及び変更は不可能との判断により、文化財保護法に基づく手続きを行うこととなった。

1987（昭和62）年5月25日、北海道小樽土木現業所より同事業に係る事前協議書が提出され、これを受けて余市町教育委員会は北海道教育庁に進達し協議を行った。1988（昭和63）年5月より北海道教育委員会文化課による範囲確認調査が数次に亘って実施された結果、発掘調査が必要との判断がなされ、これにより1989（平成元）年度より記録保存を目的とした発掘調査が開始され、1994（平成6）年度まで継続実施された。

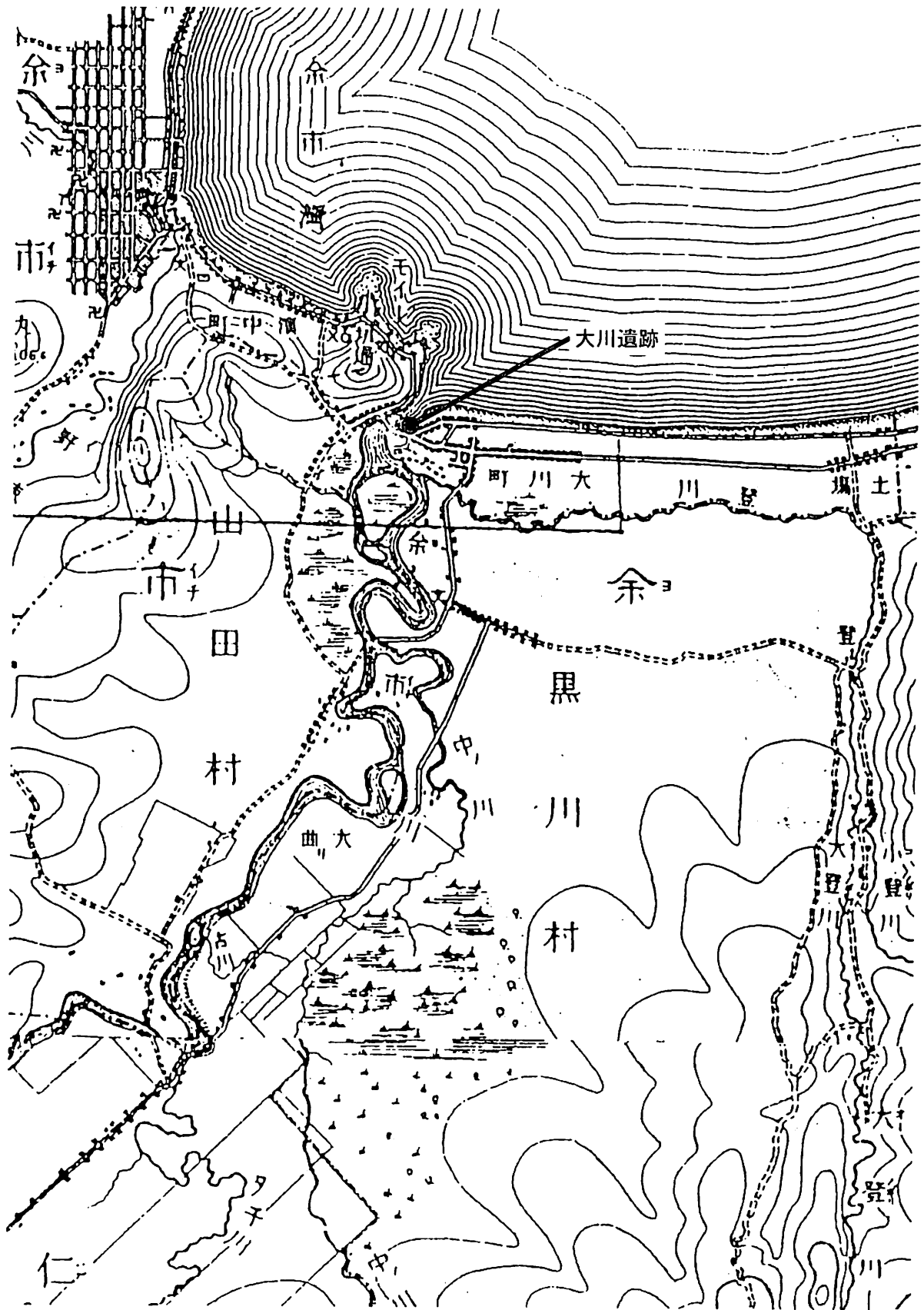
また、大川橋線街路事業が1998（平成10）年度から着工することとなり、余市町教育委員会は1997（平成9）年度から北海道教育委員会と協議を行い、範囲確認調査を実施した。その結果、発掘調査が必要とのことから1998（平成10）年度から2001（平成13）年度まで発掘調査が行われた。また大川橋が完成し道道豊丘余市停車場線の移設に伴い旧道は役割を終えたため、2002（平成14）年10月28日付で北海道小樽土木現業所から旧道道の廃止と河川改修のための掘削工事にあたり事前協議書が提出された。それに伴い余市町教育委員会は北海道教育委員会と協議し、従前の発掘区に隣接しているため発掘調査が必要、そして橋脚部分と町道の一部については工事立会との回答を得た。今年度の発掘調査は余市川改修事業に伴う最終年となり、単年度事業であるために調査体制を強化して2003（平成15）年5月から発掘調査を実施した。



第1図 大川遺跡の位置図（1：50000）



第2図 発掘調査地点位置図 (1:500)



第3図 明治29年の余市川流域図

## 2. 遺跡の立地と層序

大川遺跡は余市川河口部右岸の標高約4mの砂丘上に立地している。2003年度は大川橋の新築によって河川幅の掘削工事が始まり、道道地点、迂回路地点、さらに登川と合流する旧河口港地点の3ヶ所に分けて発掘調査を行った。

層序は基本的にⅠ層・表土、Ⅱ層・黒色土層（厚さ約10cmで縄文時代から近世～近代にかけての包含層）、Ⅲ層・茶褐色砂層（厚さ約20～30cmで縄文時代晩期から縄文時代にかけての包含層）、Ⅳ層・褐色砂層（厚さ約70cm以上でラミナが見られる。上部に縄文時代晩期の遺物が出土することがあるが、下部は無遺物層）である。

## 3. 発掘調査の方法

1989年度から調査に使用している5mグリッドを踏襲し、道道豊丘余市停車場線歩道上の基点を基準として北西～南東方向にアルファベットを、北東～南西方向には算用数字を付し、その北東交点でグリッドNo.を表した。なお、Zラインから南東側については小文字のa～zを使用した。

表土及び攪乱部分は重機によって取り除き、5mグリッドを4分割した小グリッドを単位としたが、遺構に伴う遺物や一括遺物は写真撮影を行い、墓坑・土坑については縮尺1/10とし、その他は1/20で図面記録し、全体の位置を把握するためトータルステーションによる記録も行った。写真撮影も併せて実施した。墓坑から検出された遺体は、頭部、胴部、脚部等の大まかな部位の判断できるものは部位毎に取り上げを行い、札幌医科大学に鑑定・保管を依頼した。また各墓坑の坑底部の土壌は1mmの篩にかけ、微細な遺物の収集に努めた。

発掘現場での遺構・遺物・調査風景などの写真撮影は320万画素のデジタルカメラと35mmのネガ・リバーサルフィルムを併用し、記録した。

## 4. 遺物整理の方法

遺物は洗浄後、遺構に伴うものには発掘年度、遺跡名、遺構No.、遺物No.を記し、包含層出土のものには発掘年度、遺跡名、大グリッド、小グリッド、層位を注記した。鉄製品の保存処理については岩手県立博物館に依頼した。

## 5. 遺物の分類

今年度に出土した遺物の中で出土量の多い土器・石器・陶磁器について便宜上、下記のように分類した。

### (1) 土器・陶磁器

第Ⅰ群：縄文時代後期に属するもの

前半のニセコ式、涌元式に相当するもの

第Ⅱ群：縄文時代晩期に属するもの

- a類 前葉の大洞B～BC式に並行するもの
- b類 中葉の大洞C1～C2式に並行するもの  
浜中大曲式・桃内式を含む
- c類 後葉の大洞A～A'式に並行するもの

第Ⅲ群：続縄文時代に属する土器群

- a類 前葉の琴似式・港大照寺式に相当するもの
- b類 恵山式に相当するもの
- c類 弥生系土器に相当するもの
- d類 鈴谷式に相当するもの
- e類 東歌別式に相当するもの
- f類 後北式（A～D式）に相当するもの
- g類 北大式（I～Ⅲ式）に相当するもの

第Ⅳ群：擦文時代に属する土器群

- a類 擦文土器に相当するもの
- b類 土師器坏に相当するもの
- c類 須恵器に相当するもの

第Ⅴ群：中世に属する陶磁器類

- a類 青磁・白磁に相当するもの
- b類 珠洲焼に相当するもの
- c類 瀬戸・美濃焼に相当するもの

第Ⅵ群：近世に属する陶磁器類

- a類 肥前陶磁器に相当するもの
- b類 その他の陶磁器に相当するもの

第Ⅶ群：近代に属する陶磁器類

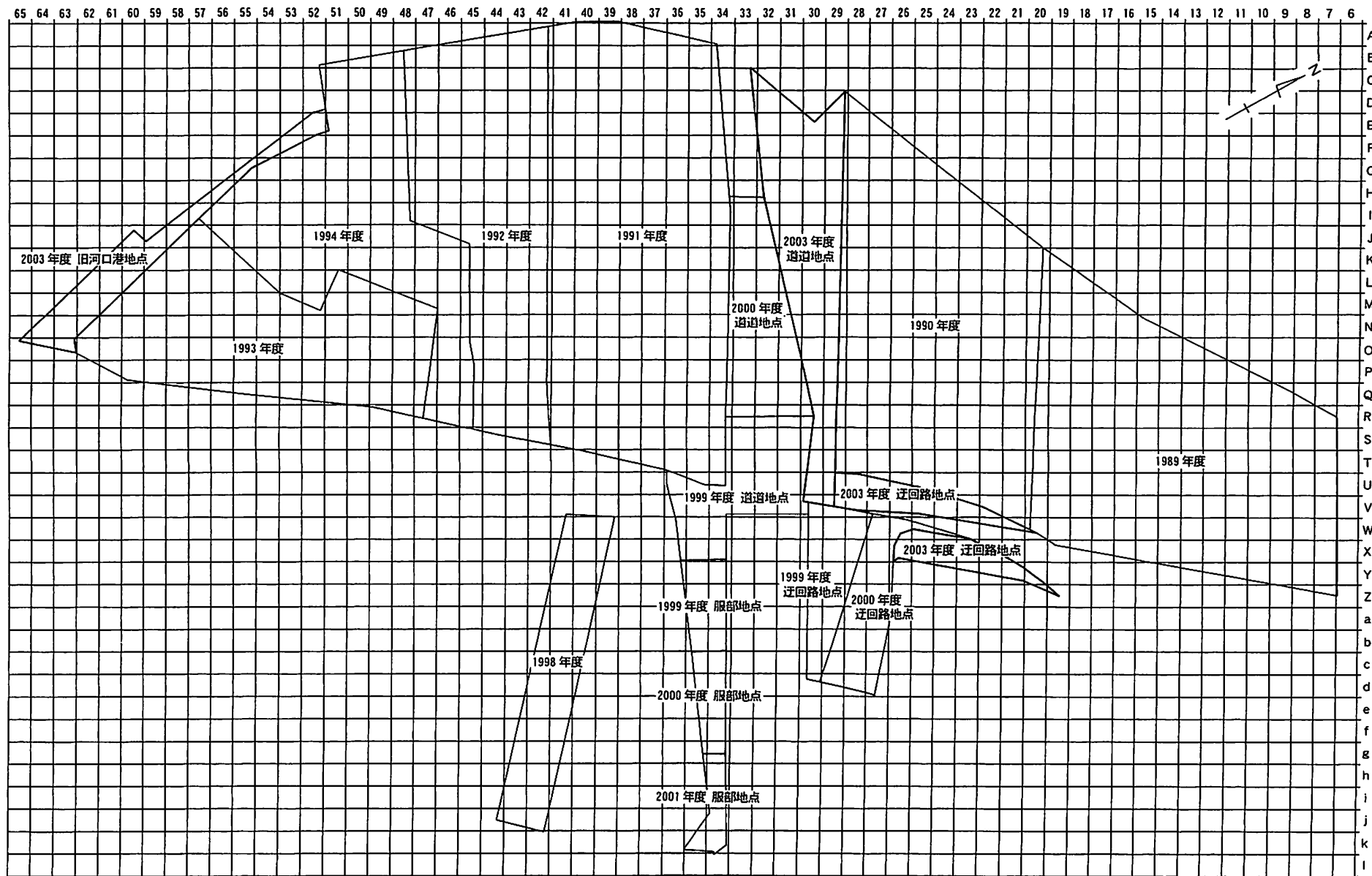
(2) 石器

第Ⅰ群：剥片石器類

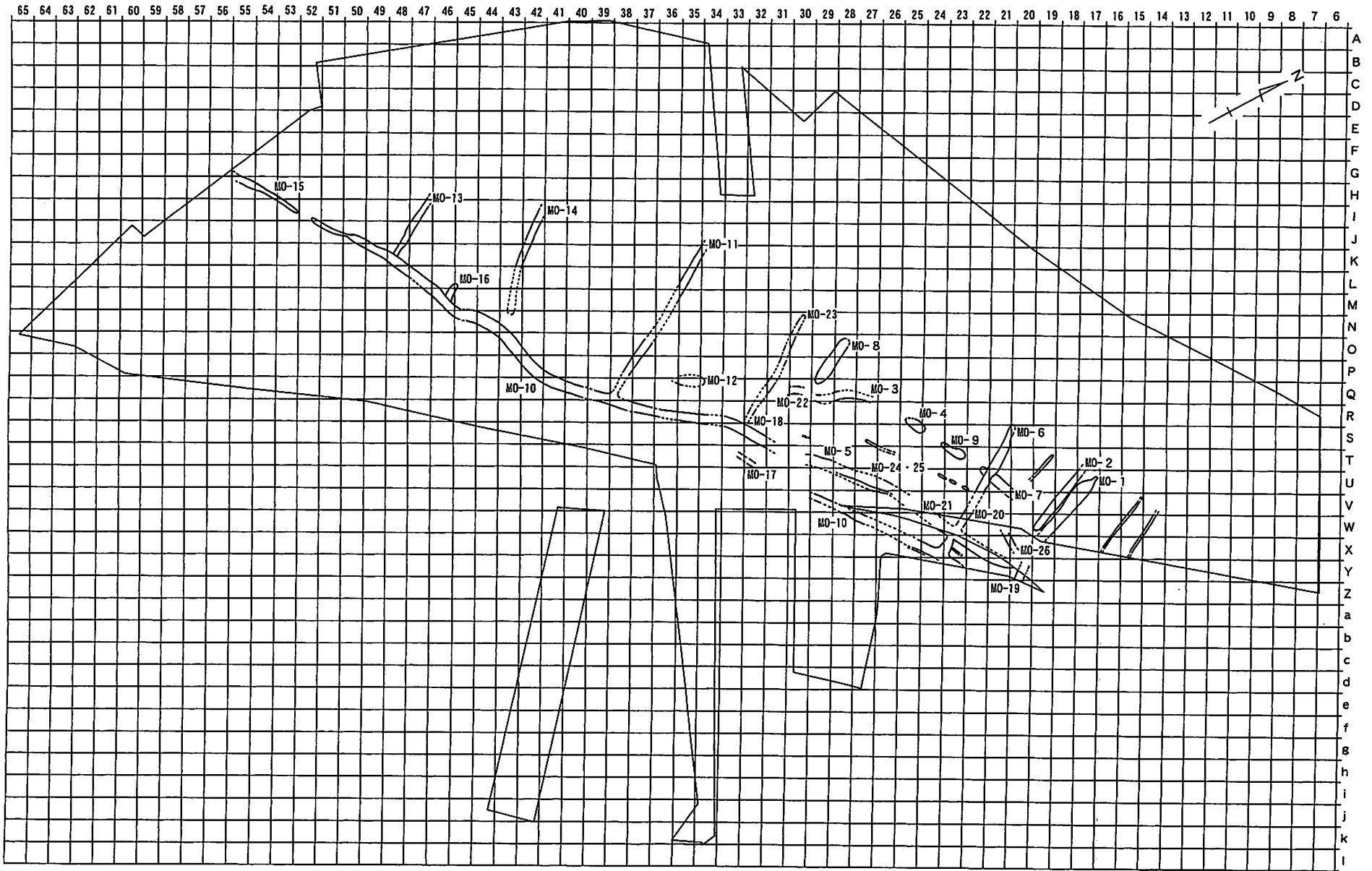
- a類 石 鏃 長さ5cm未満の尖頭器で、有茎と無茎のものがある。恵山文化には前者が多く、後北文化には後者が多い。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
- b類 石 槍 長さ5cm以上の尖頭器。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
- c類 ドリル (石錐) 厚みがあり、先端が尖るもの。石質として黒曜石、頁岩、チャート、メノウを使用することが多い。
- d類 石製ナイフ 太い柄部をもつ定型的なもので、刃部を作出しており、続縄文文化に多く使用される。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
- e類 スクレイパー 剥片の周縁に鈍角な刃部を作出しているもの

	(搔削器)	縦長剥片の側面に刃部をもつもの (サイドスクレイパー)、比較的厚手の縦剥ぎ剥片の下方に刃部をもつもの (エンドスクレイパー)、剥片を円形に加工し、刃部をもつもの (ラウンドスクレイパー) などがある。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
f 類	R・F	Retouched Flake の略で剥片の縁辺に細かい刃部を作り出すもので器種の特定できないもの。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
g 類	コ ア (石核)	剥片石器の母岩となるもので剥片を剥離した痕跡が複数あるもの
h 類	フレイク (剥片)	コアから剥離した破片。
第Ⅱ群：礫石器類		
a 類	石 斧	磨製、または局部磨製と打製があり、両刃と片刃がある。石質として泥岩、ハンレイ岩、片岩類を使用することが多い。
b 類	魚形石器	恵山文化に伴うもので頭部、尾部などを作出し、釣りの錘に使用したと思われるもの。石質として砂岩、粘板岩、泥岩類を使用することが多い。
c 類	敲 石	使用による敲打痕のあるもの。石質として砂岩、安山岩、泥岩類を使用することが多い。
d 類	凹 石	使用による窪みのあるもの。石質として砂岩、安山岩類を使用することが多い。
e 類	砥 石	礫に砥いだ痕があるゆるやかな窪みのあるもの。石質として砂岩、凝灰岩、泥岩類を使用することが多い。
第Ⅲ群：装身具類		
a 類	有孔石製品	石を薄く磨き、中央に大きな孔がみられるもの
b 類	有孔石	自然に開いた穴のある石をそのまま使用、または一部に加工が施されているもの
c 類	玉 類	形態からは管玉、丸玉、棗玉、白玉、平玉があり、石質として管玉に碧玉・鉄石英・蛇紋岩製があり、棗玉にはガラス製、コハク製、草炭や泥炭で作られた軟らかい玉 (仮称として土玉)、白玉や平玉にガラス、凝灰岩製のものが多い。異質なものは黒曜石の自然穴を中心として球形に加工しているものがある (仮称として石核玉とするが石製品の扱いとしている)。
d 類	礫玉類	自然の小礫であるが、穿孔するといわゆる礫玉となるものの素材である。





第4图 各年度(1989年度~2003年度)発掘調査区



第5圖 環状遺構・溝状遺構分布圖

# 大川遺跡道道地点

## 第Ⅱ章 道道地点

### 1. 概要

2003年度の道道地点からは、続縄文時代に属する墓坑・土坑78基、小土坑が8基、焼土が5ヶ所、剥片集中が1ヶ所、礫玉集中が1ヶ所、土器集中が2ヶ所、中・近世の塚状遺構が4基、溝状遺構が1基検出された。

出土遺物は土器10,374点、石器2,659点、近世・近代の遺物が646点である。

今年度の道道地点は1990年度と、1999・2000年度の調査が行われた部分に挟まれ、旧道道と1999・2000年度の路肩部分を含む範囲の発掘調査を行った。

立地としては標高5mの大川砂丘に立地するが、道路等に使用されていたため現道の高さから標高3m位の所まで以前の道路のアスファルトや道路基盤の砂利により攪乱されⅡ層の包含層の大半が壊されている。また、調査区全体においてもNTTケーブルや水道管埋設等のためⅢ層の包含層の大半も壊されていた。墓坑もその影響により上面が壊され坑底付近で確認出来る状態のものが多かった。また、攪乱の影響で全体が確認できない墓坑も多数あった。

続縄文時代に属する墓坑・土坑78基、その内大半が続縄文時代前半の恵山期に属するもので、それ以外では、続縄文時代後半の北大Ⅲ式期に属する墓坑が1基確認された。

恵山期の特徴としては遺体をベンガラで厚く覆う習慣があり、ベンガラと遺体が同一化しているものが多くみられ、中にはベンガラと遺体が明確なものもあった。ベンガラを取り上げ、篩での選別で人骨、歯、遺物が検出されたものもあった。

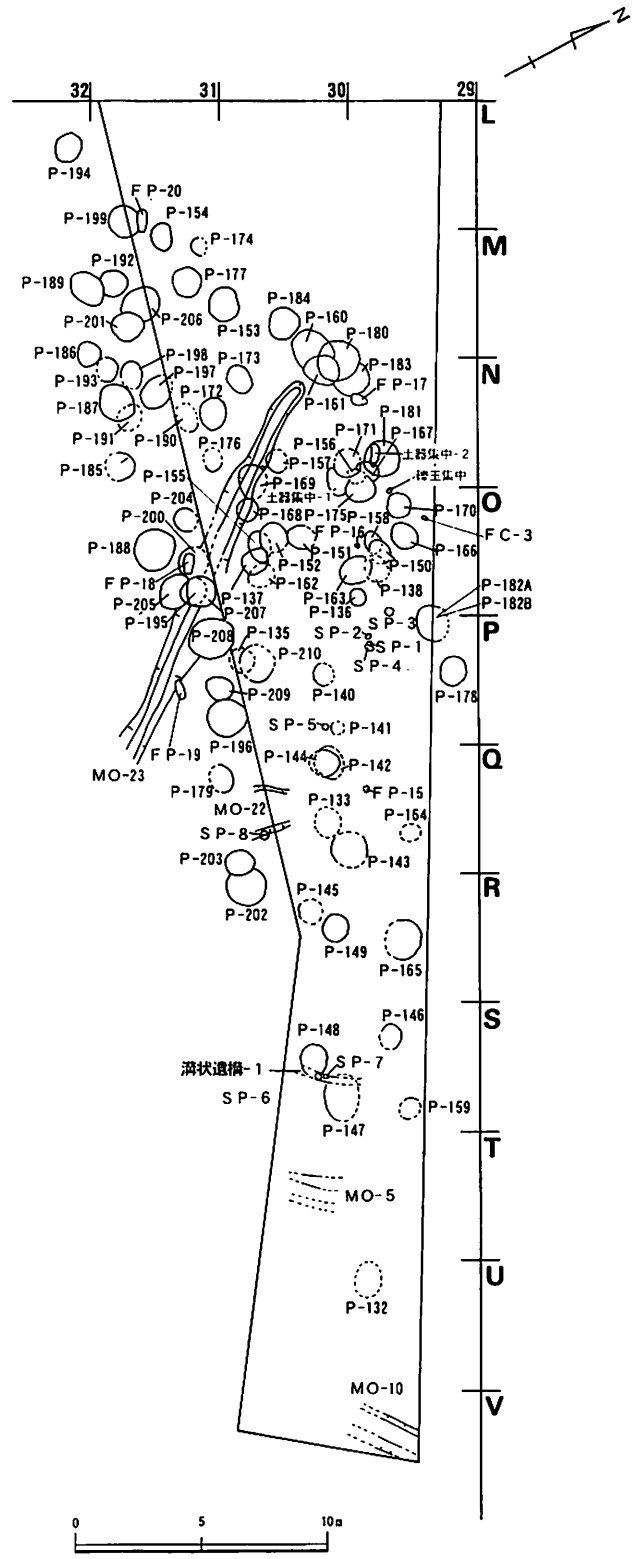
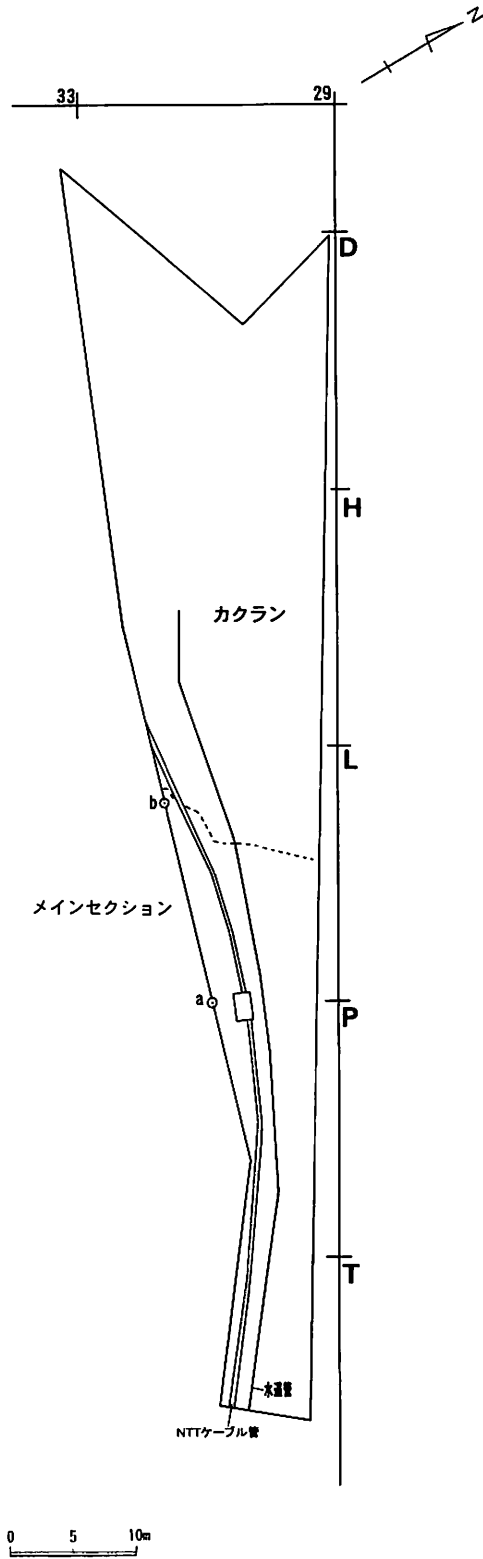
副葬品に関しては多くの墓坑で完形の土器が1点と石器や他の遺物が副葬されているものが多く、墓坑によっては完形の土器が2点と石器や他の遺物が副葬されているもの、石器や他の遺物だけが副葬されているものもあった。土器や石器の他に一緒に副葬されているものとして、恵山期の特徴である魚形石器、管玉、琥珀製の棗玉、土製平玉、石製平玉、石製の環、サメの歯などが出土した。

遺体のみ検出されたものは数が少ない。それらの墓坑に関しては攪乱のために壊されており全体が検出できないものが多かった。

今回の道道地点の調査において恵山時代の墓坑がこの様に集中して検出した例は他になく、それに伴い今までに例のない瓢箪形土器、ウニを模した小型の土器、小型の扁平なフラスコ形の土器、小型の扁平な小判形土器等が出土した。これらの土器に関しては他の恵山期の遺跡からも出土した例はないものである。また、大川遺跡において遺跡全体で確認された塚状遺構に関しては今回も検出された。以前、検出したMO-5、MO-10の続きが確認され、新たにMO-22、MO-23が検出した。

道道地点調査区

道道地点遺構配置図



第6図 道道地点調査区・道道地点遺構配置図



## 2. 遺構と遺物

(1) 墓坑および土坑 (遺構番号は2000年度からの連番、ただしP-134、139は欠番)  
P-132 (第8図)

U29グリッドに位置する墓坑で、攪乱により壊され、墓坑の一部しか確認できず、形態は不明である。規模は(1.26)×(0.89)m、深さ約11cmを測る。遺体は南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層から石鏃が6点出土。時期としては伴出遺物から続縄文時代前半のものと思われる。

P-133 (第8図)

Q30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により全体が壊され、掘り込み面は確認できず、形態は不明で、遺体の一部しか残っていない。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できず。遺体の規模は(0.68)×(0.19)mである。伴出遺物はベンガラ・遺体層から石鏃が1点、フレイクが1点出土。時期としては伴出遺物から続縄文時代前半のものと思われる。

P-135 (第9図)

O31グリッドに位置する土坑で、攪乱により壊され、掘り込み面全体は確認できず、形態も不明で、遺体層も確認できなかった。規模は1.01×(0.80)m、深さ約28cmを測る。伴出遺物は恵山期の深鉢が割れた状態で出土、他にスクレイパー、フレイクが出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-136 (第8図)

O29グリッドに位置する土坑で、形態は円形を呈し、規模は(0.60)×0.58m、深さ40cmを測る。坑底面に大きさ約38×29×10cmの円形の礫が置かれている。他に伴出遺物はなく、遺体は検出されなかった。時期は続縄文時代前半のものと思われる。

P-137 (第10図、口絵4、写真15)

O30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により一部は壊されているが、形態はほぼ円形を呈し、規模は(0.91)×(1.06)m、深さ約17cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層上面の北側に集中し、魚形石器1点、石斧3点、剥片石器が9点出土。魚形石器の下には赤い凝灰岩の塊が意図的に置かれていた。剥片石器においては頁岩、黒曜石の他に赤色のチャートが含まれており、配色を考えて副葬されたと考えられる。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期と思われる。

P-137の下にはP-155、P-162がある。

P-138 (第9図)

O29グリッドに位置する土坑で、攪乱により全体が壊され、掘り込み面は確認できず、形態も不明である。残っている部分の規模は(0.91)×(0.70)m、深さ約46cmを測る。遺体層は検出されなかったが、坑底に炭化物層が検出された。伴出遺物はない。時期としては続縄文時代前半のものと思われる。

P-140 (第11図,写真4・13)

P30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により全体の約1/2程度が壊されているが、形態は楕円形を呈している。規模は(1.09)×(0.76)m、深さ約15cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層上面に完形土器が1点出土、その他の遺物は出土していない。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-141 (第11図)

P30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により全体の約1/2以上が壊されているが、形態は円形を呈していると思われる。規模は(0.19)×(0.54)m、深さ約9cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物は石鏃が1点のみ出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代前半のものと思われる。

P-142 (第11図)

Q30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により全体の約1/2以上が壊されているが、形態は円形を呈していると思われる。規模は(1.49)×(1.22)m、深さ約8cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層からナイフが1点のみ出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代前半のものと思われる。

P-142の下にはP-144がある。

P-143 (第12図,写真4・13)

Q29・Q30グリッドに位置する墓坑で、墓坑のほぼ中央を北西-南東方向に幅約30cmの水道管で壊されているが、形態は楕円形を呈している。規模は(1.46)×(1.21)m、深さ約19cmを測る。遺体も水道管で壊されており約1/2程度しか残っていない。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層から恵山期の完形の深鉢が1点出土。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-144 (第13・14図,口絵1・2,写真12)

Q30グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.38×1.28m、深さ約29cmを測る。上面はP-142が構築されていたため壊されている。遺体は屈葬の南頭位、ベン



ガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層の上面から頭部東側に恵山期の完形の深鉢が1点、ベンガラ・遺体層の北側にウニを模した小型の土器が1点出土した。このウニ型の土器はウニの棘が無い状態を表し、ベンガラが入れられていたと思われる。その他にベンガラ・遺体層の上面からは石斧が4点、剥片石器が8点出土した。坑底からはドリルが1点、フレイク集中が2ヶ所出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-145 (第12図)

R30グリッドに位置する墓坑で、NTTケーブルや攪乱により壊され掘り込み面の全体は確認できず、形態も不明である。規模は(0.74)×(0.52)m、深さ35cmを測る。遺体もわずしか残らず、伴出遺物は見られないが、時期は続縄文時代前半のものと思われる。

#### P-146 (第15図)

S29グリッドに位置する墓坑で、攪乱により掘り込み面の約2/3程度が壊されているが、形態は円形を呈していると思われ、規模は(1.13)×(1.04)m、深さ51cmを測る。遺体は検出したが頭部は確認できなかった。伴出遺物は見られないが、時期は続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-147 (第15図)

S29・S30グリッドに位置する墓坑で、水道管や攪乱で掘り込み面の約1/2以上が壊されている。規模は(1.78)×(0.67)m、深さ45cmを測る。遺体も約1/2程度しか残らず、頭部は確認できない。伴出遺物は見られない。時期は続縄文時代前半のものと思われる。

#### P-148 (第16図,写真3・13)

S30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により上面は壊されているが、形態は楕円形を呈し、規模は(1.36)×(0.99)m、深さ38cmを測る。遺体は南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は恵山期の完形の深鉢が1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-149 (第17図,写真3・13)

R30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により一部が壊されているが、形態はほぼ円形を呈し、規模は1.07×(1.02)m、深さ31cmを測る。遺体は南東頭位を示す。伴出遺物は頭部東側に恵山期の完形土器が2点出土。1点は壺型、もう1点は深鉢である。遺体の北側には剥片石器とフレイクが数点副葬されている。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-150 (第16図, 写真4)

O29グリッドに位置する墓坑で、攪乱により掘り込み面の約1/2程度が壊されているが、形態は円形を呈し、規模は(0.93)×0.78m、深さ43cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層から石鏃1点、フレイク1点が出土した。時期は伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-151 (第18・19図, 写真4・13)

O30グリッドに位置する墓坑で、一部、P-152で切られている。形態は円形を呈し、規模は(1.11)×1.08m、深さ約18cmを測る。遺体は南東頭位、ベンガラで覆われている。ベンガラ・遺体層の南西側に礫が置かれている。伴出遺物はベンガラ・遺体層から恵山期の完形の壺が1点、石鏃が2点出土。坑底から石鏃、ナイフ、スクレイパーなどが出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-152 (第18・19図, 口絵3, 写真4)

O30グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は(1.14)×0.96m、深さ約56cmを測り、掘り込み面はP-155の上面から確認できた。遺体は屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層から土製平玉、蛇紋岩製管玉、スクレイパーが出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

なお、P-151、P-152、P-155の新旧関係は、P-152はP-151とP-155より新しいと思われる。

P-153 (第20図, 写真4・14)

M30・M31グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.35×1.25m、深さ約22cmを測る。遺体は屈葬の南東頭位を示し、遺体はベンガラで覆われているが明確であった。伴出遺物は恵山期の完形の深鉢が1点、石鏃が4点出土。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-154 (第21図, 口絵3, 写真3・14)

L31・M31グリッドに位置する墓坑で、形態は楕円形を呈し、規模は1.26×0.94m、深さ約11cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。出土遺物は覆土から恵山期の完形の杯が1点、ベンガラ・遺体層から恵山期の完形の小型の壺型の土器が2点出土した。そのうち(掲載番号2)の壺型土器の中から石製の玉が1点出土した。その他にベンガラ・遺体層からは石鏃が1点とフレイクが18点、碧玉製管玉が12点。坑底からは石鏃が3点、流紋岩製の有孔石製品が2点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-155 (第18・19図,口絵4,写真13)

O30グリッドに位置する墓坑で、一部、P-152で切られている。形態は楕円形を呈し、規模は1.27×(0.96)m、深さ約23cmを測る。遺体は南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層から恵山期の完形の深鉢が1点、遺体の首と思われる部分からはサメの歯、石鏃が集中して出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-156・土器集中-1・土器集中-2 (第22~24図,写真4・10)

P-156はN29・N30・O29のグリッドに位置する。攪乱により掘り込み面は壊され、遺体の一部が残っているだけである。遺体の周辺及び上面には土器片、剥片石器、砥石、礫が散乱していた。また、P-156の南側(N30・O30)に土器集中-1が、北側(N29)には土器集中-2がある。この3ヶ所の土器片は互いに接合するものも含まれている。P-156からは恵山期の壺が1点、土器集中-1からは恵山期の深鉢で口縁部から胴部までの個体が2点、土器集中-2からは恵山期の深鉢が1点と底部から胴部までの個体が1点、口縁部から胴部までの個体が1点の計3点出土した。P-156と土器集中-1、土器集中-2の時期としては遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

なお、P-156と土器集中-2の下にはP-167がある。

P-157 (第20図,写真6・14)

N30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により北側が一部壊され、南西側の上面の掘り込み部分はMO-23により削平されている。形態はほぼ円形を呈し、規模は(0.86)×(0.87)m、深さ31cmを測る。遺体は検出できたが頭部は確認できなかった。南東方向の遺体上部に凝灰岩粗粒の集中した部分がある。伴出遺物は遺体の東側に恵山期の完形の深鉢が1点、遺体層からフレイクが1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-158 (第25図)

O29グリッドに位置する土坑で、攪乱により全体の約1/2程度が壊され、形態は楕円形を呈していると思われる。規模は(0.88)×(0.58)m、深さ32cmを測る。遺体はなく、伴出遺物も出土しなかった。土坑の上面のほぼ中央に約54×23cmの砂質凝灰岩が置かれている。意図的に土坑上面に置いたと考えられる。時期は続縄文時代前半のものと思われる。

P-159 (第25図)

S29グリッドに位置する墓坑で、攪乱により全体の約1/3程度が壊され、形態は不明である。規模は(0.56)×(0.76)m、深さ約13cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はない。時期は伴出遺物を伴わないが続縄文時代恵山期のもの

のと思われる。

#### P-160 (第26図)

N30グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は(1.34)×1.16m、深さ約32cmを測る。墓坑の北西側はP-161に切られている。遺体は約1/2程度しか残らず、ベンガラで覆われている。遺体の頭部は確認できなかった。出土遺物は覆土から石斧が1点、遺体の上面には恵山期の深鉢で口縁部から胴部までの個体が1点、半分に割れた安山岩の擦石が1点出土した。凝灰岩の礫が遺体の上に置かれていた。遺体層からフレイクが5点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-161 (第26図)

M30・N30グリッドに位置する墓坑で、形態は楕円形を呈し、規模は1.52×(1.29)m、深さ26cmを測る。南東側の一部はP-160を切っている。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。遺体の上に礫が置かれていた。出土遺物は覆土及び遺体から土器片が出土。時期は大半が恵山期の土器であるが、弥生系の土器片も出土した。その他に覆土からナイフが1点、遺体の中からサメの椎骨が出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

なお、P-160とP-161の新旧関係はP-160が古く、P-161が新しいと思われる。

#### P-162 (第18図)

O30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により全体が壊されており、掘り込み面は確認できず、遺体層の一部と下面の一部が残っている状態で、遺体の頭部は確認できなかった。残っている部分の規模は(0.53)×(0.93)m、深さ約12cmである。伴出遺物はない。時期としては続縄文時代前半のものと思われる。

#### P-163 (第25図, 写真6・13)

O29・O30グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.13×1.01m、深さ約51cmを測る。遺体は東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は頭部の脇、南東側に恵山期の完形の深鉢が1点、ベンガラ・遺体層からは石鏃が1点、石製品が1点、フレイクが1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-164 (第27図)

Q30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により全体が壊され、掘り込み面は確認できず、形態は不明である。遺体層がわずかに残っている状態で、頭部は確認できなかった。残存する遺体の規模は(0.32)×(0.12)m、厚さ約3cmである。伴出遺物はないが、ベンガラの塊があった。時期としては続縄文時代前半のものと思われる。

P-165 (第28-30図,口絵1-3,写真5・15)

R29グリッドに位置する墓坑で、形態はほぼ円形を呈し、規模は(1.51)×(1.43)m、深さ約25cmを測る。遺体は南東頭位、ベンガラで覆われている。ベンガラが厚く堆積している部分もある。伴出遺物は恵山期の完形の壺が1点と完形の小型の壺が1点。小型の扁平なフラスコ形の土器が1点出土。この土器には全体に沈線が施され、両面に熊の意匠と思われる小さな突起がついていた。その他にベンガラが堆積した部分からは石器の集中が出土し、遺体の首の部分から有孔石製品が10点出土した。石鏃は34点、ドリルが4点、スクレイパーが6点、石斧が1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-166 (第27図,写真6)

O29グリッドに位置する墓坑で、形態はほぼ楕円形を呈し、規模は1.09×0.82m、深さ約18cmを測る。遺体は上面がベンガラで覆われ、東頭位である。出土遺物は覆土から深鉢が1点、高杯の高台が1点、石鏃が1点。遺体・ベンガラ層から石鏃が1点、黒曜石製の有孔石製品が1点、遺体の首付近からは石英製の有孔石製品が1点出土した。頭部北側の脇にベンガラの塊が置かれている。覆土の土器片集中から土器の把手状の土製品が出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-167 (第22図)

N29グリッドに位置する墓坑で、1990年度の調査の際に打ち込んだ矢板等により、上面の掘り込み面及び坑底の一部も壊されている。形態はほぼ円形を呈し、規模は(1.12)×(0.98)m、深さ約28cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層の上面に攪乱の影響で土器片が散乱し、一部が接合され、恵山期の土器の底部が1点、他にフレイクが2点出土した。P-167の上面にはP-156と土器集中-2があるこの二つの遺構の遺物にP-167の遺物も含まれている可能性がある。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-168 (第31図,写真7)

O30グリッドに位置する墓坑で、MO-23により掘り込み面の大半は壊され確認できなかった。墓坑の一部はP-169を切っている。形態は楕円形を呈し、規模は(1.18)×(0.76)m、深さ約40cmを測る。遺体は南東頭位である。伴出遺物は遺体層から恵山期の土器片が出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-169 (第31・32図,口絵2,写真7)

N30・O30グリッドに位置する墓坑で、MO-23により上面の掘り込み面は壊され下面とベンガラ・遺体層しか確認できなかった。墓坑の一部はP-168によって切られている。

下面の規模は(0.95)×(0.92) m、深さ約50cmを測る。遺体は東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層から恵山期の完形の小型の扁平なフラスコ形の土器が出土、全面には縄文が付けられその上に沈線文が施されている。石鏃集中が1ヶ所出土。その他にナイフ、スクレイパーや黒曜石の原石が出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

なお、P-168とP-169の新旧関係はP-169が古くP-168の方が新しいと思われる。

#### P-170 (第33図,口絵3,写真6・14)

O29グリッドに位置する墓坑で、形態は楕円形を呈し、規模は1.29×1.04 m、深さ67cmを測る。遺体は東頭位、ベンガラで覆われている。坑底には礫が置かれている。出土遺物は坑底に恵山期の深鉢が割れた状態で1点、ベンガラ・遺体層からサメの歯が1点、蛇紋岩製の管玉が1点、覆土とベンガラ・遺体層から礫玉が11点出土した。P-170の西側に礫玉集中-1がある。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-171 (第34図,写真13)

N29・N30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により約1/2以上が壊されている。形態は円形を呈していると思われ、規模は(1.21)×(1.11) m、深さ14cmを測る。遺体も約1/2以上が壊されている。頭部は確認できなかった。遺体はベンガラで覆われている。伴出遺物は坑底の東側に恵山期の完形の深鉢が1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-172 (第33図,写真6)

N31グリッドに位置する墓坑で、形態は楕円形を呈し、規模は1.23×0.97 m、深さ約18cmを測る。遺体は南東頭位、ベンガラで覆われている。ベンガラ・遺体層の北西側に礫が置かれている。伴出遺物は土器片が1点、頭部の東側に石鏃が4点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-173 (第35図,写真6)

N30グリッドに位置する墓坑で、南側の約1/3がNTTケーブルの攪乱により壊されているが、形態は楕円形を呈し、規模は(1.16)×(0.75) m、深さ約14cmを測る。遺体は側臥屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は遺体の頭部を囲む形で礫が2点と割れた砥石が1点、ベンガラ・遺体層からフレイクが1点出土した。時期としては続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-174 (第35図)

M31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により約2/3以上が壊されているが、形態は楕

円形を呈していると思われる。規模は(0.40)×(0.41) m、深さ約10cmを測る。遺体はわずかしこ残っておらず、頭部は確認できなかった。伴出遺物は遺体の上に石英の礫が1点出土した。時期としては続縄文時代前半のものと思われる。

P-175 (第34図,写真6・13)

N29・O29グリッドに位置する墓坑で、攪乱により上面は壊されているが、形態は円形を呈し、規模は1.33×1.14 m、深さ10cmを測る。遺体は屈葬の東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は頭部の脇に恵山期の鉢が割れた状態で1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-176 (第35図,口絵3・4,写真13)

N31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により全体の約1/2程度壊され、残りの部分でも上面からベンガラ・遺体層直上まで壊されている。形態はほぼ円形を呈していると思われる。規模は(0.73)×(0.69) m、深さ約11cmを測る。遺体も攪乱で壊され約1/2程度しか残っておらず頭部は確認できなかった。遺体はベンガラで覆われている。伴出遺物は恵山期の完形の深鉢が1点、碧玉製勾玉状製品が1点、碧玉製管玉が6点出土した。この勾玉状製品は勾玉を模したものと思われる。管玉は6点出土、そのうち1点は長さ4 cmを超えるもので、このように長いものは他の遺跡からも出土した例はない。他の5点の長さの平均は1.63cmである。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-177 (第36・37図,口絵4,写真12)

M31グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.23×1.16 m、深さ約44cmを測る。遺体は側臥屈葬の東頭位で上面はベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラの上面から石斧、メノウのフレイク、礫などが出土した。上面の擦石にはベンガラが赤く付着していた。遺体の頭部の脇に瓢箪形の完形土器が1点出土した。この土器は胴部中央から底部には縄文が、胴部中央に沈線文が施されている。この瓢箪型の土器は他に出土した例はない。その他に遺体層からサメの歯が1点、メノウのフレイク集中が2ヶ所出土した。遺体の首から胸の直上に木質らしきものが検出された。遺体の脇に炭化物の塊も出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-178 (第38図,写真6)

P29グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.16×1.05 m、深さ約23cmを測る。遺体は側臥屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は頭部の脇にスクレイパーが1点、フレイクが3点、遺体の口にくわえる形でコアが1点出土した。その他に遺物は出土していない。埋葬形態から時期としては続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-179 (第38図)

Q30グリッドに位置する墓坑で、アスファルトと攪乱により墓坑の約1/2以上が壊されているが、形態は楕円形を呈していると思われる。残っている部分の規模は(1.57)×(0.43)m、深さ約19cmを測る。遺体も攪乱で壊され頭部は確認できなかった。伴出遺物は遺体層から石斧が1点、石鏃が2点出土した。時期としては統縄文時代前半のものと思われる。

P-180 (第39図)

N29・N30グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.60×1.57m、深さ約43cmを測る。遺体は東頭位。伴出遺物は遺体から北東方向に恵山期の完形の深鉢が1点、墓坑の東側にフレイク、コア、土器片が各1点出土した。礫が墓坑の北側、西側の縁に各1点出土した。時期としては伴出遺物から統縄文時代恵山期のものと思われる。

P-181 (第39図)

N29グリッドに位置する墓坑で、1990年度の調査の矢板により、遺体の約1/2程度が壊されている。形態は円形を呈し、規模は1.38×1.22m、深さ26cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層上面にフレイク、コアが出土。ベンガラ・遺体層のほぼ中央と北西側に凝灰岩の礫が各1点置かれ、北西側の礫の一部にベンガラが付着していた。時期としては統縄文時代恵山期のものと思われる。

P-182A (第40・41図,口絵1~4)

O29・P29グリッドに位置する墓坑で、北西側の一部が壊されているが、形態は楕円形を呈し、規模は(1.42)×(1.01)mである。このP-182は一つの墓坑から上下に1体、計2体の遺体が埋葬されている。便宜上今回は、上部の遺体をP-182A、下部の遺体をP-182Bとする。

P-182Aは深さ約33cmを測る。遺体は側臥屈葬の東頭位、ベンガラで覆われている。遺体の西側の上部には礫が7個置かれていた。伴出遺物は頭部の脇、南側に恵山期の完形の壺が1点、東側には有孔石製品、石斧、擦石などが出土。西側の礫の上に小型の扁平な小判形の土器が1点出土。この土器は片面と側面に縄文が施され、亀甲と思われる沈線文が刻まれ、片面に小さな突起が2ヶ所付けられている。時期としては伴出遺物から統縄文時代恵山期のものと思われる。

P-182B (第42図,口絵4,写真13)

P-182Aの下に埋葬されている遺体で、深さ41cmを測る。遺体は側臥屈葬の東頭位、ベンガラで覆われている。坑底の北西側に礫が置かれている。伴出遺物は頭部の脇に恵山期の完形の深鉢が1点、その下から石鏃が7点出土した。遺体層からはサメの歯が1点出土した。時期としては統縄文時代恵山期のものと思われる。



P-183 (第43・44図,写真7)

N29・N30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により南西側の一部が壊されているが、形態は円形を呈している。規模は(1.36)×(1.28)m、深さ約48cmを測る。遺体の一部も壊されているが頭部は確認でき東頭位である。伴出遺物は頭部の脇に割れた状態で恵山期の深鉢が1点、遺体上面の北側に遺物が集中し、石斧が4点、敲石が1点、剥片石器が17点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-184 (第45図,口絵1・2,写真7)

M30グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.15×1.08m、深さ約31cmを測る。遺体は屈葬の南頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は遺体の頭部脇から恵山期の完形の深鉢が1点、ベンガラ・遺体層上面に小型の扁平な小判形の土器が1点出土した。この土器は全体に縄文が施され、側面周辺に沈線文が刻まれている。頸部側に小さな突起が2ヶ所付き、カメを模したと思われる。この他に、ベンガラ・遺体層からは石鏃、ドリル、ナイフ、スクレイパー、石斧、有孔石製品が出土し、その他にベンガラ・遺体層の中からサメの歯が2点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-185 (第46図)

N31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により約1/3程度が壊されているが、形態は円形と思われる。残りの部分での規模は(1.12)×(0.95)m、深さ約26cmを測る。遺体も壊され約1/2程度で頭部は確認できなかった。出土遺物は石斧が1点、土器片が覆土から4点、遺体の直上から2点出土。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-186 (第46図)

M31・M32・N31・N32グリッドに位置する墓坑で、攪乱により上面の掘り込み面は確認できなかった。下面から形態は円形を呈していると思われ、下面の規模は0.99×0.78m、深さ約10cmを測る。遺体は側臥屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は遺体の頭部から石鏃が1点、坑底面西側からスクレイパーが1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-187 (第47・48図,写真7・14)

N31グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.37×1.28m、深さ約38cmを測る。遺体は屈葬の南東頭位。遺体の足元には礫が置かれている。伴出遺物は遺体上面に石斧が、坑底の東側に恵山期の完形の深鉢が1点と石鏃集中が坑底面の北西側にナイフ、スクレイパー等の剥片石器、石斧、砥石、擦石等が出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-188 (第49・50図, 写真9・14)

O31グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.64×1.53m、深さ約60cmを測る。遺体は側臥屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は坑底の東側に完形で恵山期の外耳の付いた深鉢が1点、ベンガラ・遺体層からは石鏃集中が1ヶ所、石器集中が2ヶ所出土した。石器集中からは石鏃やナイフ、スクレイパーの剥片石器や石斧等の礫石器、竹輪状の有孔石製品、自然礫の有孔石、軽石製の研磨器等が出土した。また、石器集中の1ヶ所からは炭化物の塊が出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-189 (第51図)

M31・M32グリッドに位置する墓坑で、攪乱により一部が壊されているが、形態は円形を呈している。規模は(1.36)×(1.28)m、深さ約48cmを測る。遺体の一部も壊されているが側臥屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は遺体・ベンガラ層からフレイクが19点、砥石が1点、礫が2点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-190 (第52図)

N31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により墓坑の約1/2以上が壊されているが、形態は楕円形と思われる。残りの部分での規模は(1.30)×(0.33)m、深さ約49cmを測る。遺体も攪乱で壊されており確認できなかった。出土遺物は覆土5層から、土器片が25点、石斧が2点、石鏃が1点、フレイクが10点出土した。時期としては続縄文時代前半のものと思われる。

P-191 (第52図, 写真14)

N31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により墓坑の大半が壊されているために形態は不明である。残りの部分での規模は(0.73)×(0.36)m、深さ約16cmを測る。遺体も攪乱で壊されており確認できなかった。伴出遺物は坑底から恵山期の小型の深鉢が1点、礫が1点出土した。その他の遺物は出土していない。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-192 (第53図, 写真8・14)

M31グリッドに位置する墓坑で、攪乱で一部壊されているが、形態はほぼ円形を呈し、規模は(1.11)×(1.05)m、深さ約20cmを測る。遺体も壊されており頭部は確認できず、ベンガラで覆われている。ベンガラ・遺体層の上面東側に安山岩の礫が置かれている。伴出遺物は坑底面の東側に恵山期の完形の深鉢が1点、北側に恵山期の完形の小型の深鉢が1点、ベンガラ・遺体層上面に恵山期の完形の深鉢が1点、スクレイパー、ナイフ、敲き石

が置かれていた。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-193 (第54図)

N31グリッドに位置する土坑で、攪乱により土坑の大半が壊されているため形態は不明である。残りの部分での規模は(0.95)×(0.35)m、深さ約6cmを測る。遺体も壊されており確認できなかった。出土遺物は覆土から土器片が4点、フレイクが1点、土坑の縁から礫が1点出土した。その他の遺物は出土していない。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-194 (第54図,口絵3)

L32グリッドに位置する墓坑で、攪乱により大半が壊され下面の堀込み面の一部と遺体層しか確認できなかった。形態は円形を呈していると思われる。残りの部分での規模は(1.13)×(1.02)m、深さ20cmを測る。遺体の大半が残っていたが頭部は確認できず。遺体はベンガラで覆われていた。出土遺物は覆土から碧玉製の管玉が1点、ドリルが1点、石鏃が1点、土器片が2点、ベンガラ・遺体層から石鏃が10点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-195 (第54図)

O31グリッドに位置する墓坑で、MO-23により大半が壊されている。形態は不明である。規模は(1.68)×(0.50)m、深さ約20cmを測る。遺体は骨の一部しか確認出来なかった。出土遺物は土器片が9点、漆椀片、鉄製品が出土した。遺物の大半はMO-23からの流れ込みの可能性がある。墓坑自体の時期としては続縄文時代前半のものと思われる。

#### P-196 (第55図,写真13)

P30・P31グリッドに位置する土坑で、上面の一部が攪乱により壊されているが、形態は円形を呈している。規模は(1.50)×(1.30)m、深さ約57cmを測る。出土遺物は土坑の上面のほぼ中央に大型の礫(51×20×18cm、30.0kg、安山岩)が置かれていた。覆土2層からは恵山期の完形の深鉢が2点、石斧が1点、ナイフが1点出土した。遺体は確認できなかったが、墓坑である可能性が高く、上面の大型の礫は墓標であった可能性がある。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

#### P-197 (第56図)

N31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により一部が壊されているが、形態は楕円形を呈している。規模は(1.56)×(1.25)m、深さ約13cmを測る。遺体は側臥屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層から石鏃が2点、フレイクが1点出土した。その他の遺物は出土していない。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期の

ものと思われる。

P-198 (第55図)

N31グリッドに位置する墓坑で、掘り込み面の一部が攪乱により壊されているが、形態は楕円形を呈し、規模は(1.13)×(0.75)m、深さ約9cmを測る。遺体は側臥屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。出土遺物は覆土から土器片、フレイク、ベンガラ・遺体層からも土器片とフレイクが出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-199 (第56図,写真8)

L31・M31グリッドに位置する墓坑で東側にF P-20の一部が重なり合っている。形態は円形を呈している。規模は(1.22)×(1.14)m、深さ約30cmを測る。遺体は南東頭位の側臥屈葬、ベンガラで覆われている。遺体の北東側にベンガラの塊が出土。伴出遺物は頭部の脇に恵山期の深鉢が割れた状態で1点出土。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-200 (第56図,写真8)

O31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により東側が壊されている。形態は楕円形を呈していると思われ、規模は(1.05)×(1.27)m、深さ約23cmを測る。遺体も攪乱により一部が壊されている。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できず。伴出遺物はベンガラ・遺体層の直上に砥石、石斧、石鏃、スクレイパーが各1点出土し、坑底面から石鏃が3点出土した。土器及び土器片は伴わなかった。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-201 (第57図,写真8・13)

M31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により上面の掘り込み面は壊されているが、形態は楕円形を呈し、規模は(1.22)×(0.99)m、深さ約16cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層の直上に恵山期の完形の深鉢が1点、反対側に礫が置かれ、石鏃、スクレイパー、フレイク等の剥片石器や原石が固まって出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-202 (第58・59図,口絵3,写真8・14)

Q30・R30グリッドに位置する墓坑で、P-203を切り、攪乱により大半が壊されているため、形態は不明である。規模は(1.24)×(1.42)m、深さ約17cmを測る。遺体はベンガラで覆われている。頭部は確認できなかった。伴出遺物は坑底に続縄文時代後半の北大Ⅲ式期の完形土器が3点出土した。3点の器種は深鉢、注口土器、坏である。坏は逆さの状

態で出土し、底の中央には「十」字のシロシが刻まれている。ベンガラ・遺体層からは安山岩系凝灰岩製の石製平玉が29点、黒曜石の原石が1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代北大Ⅲ式期のものと思われる。

P-203 (第58図, 写真8・13)

Q30・R30グリッドに位置する墓坑で、P-202に切られ、攪乱により大半が壊されているため、形態は不明である。規模は(1.10)×(0.76)m、深さ19cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層に恵山期の完形の壺が1点出土、他に石鏃、ドリル、棒状原石が出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

なお、P-202とP-203の新旧関係はP-203の方が古くP-202が新しいと思われる。

P-204 (第60図, 口絵3, 写真9・14)

M31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により一部が壊されている。形態は円形を呈し、規模は(0.84)×(0.76)m、深さ約8cmを測る。遺体はベンガラで覆われ、頭部は確認できなかった。伴出遺物はベンガラ・遺体層の東側に恵山期の完形の深鉢が1点、遺体の直上からコハク製の棗玉が3点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-205 (第60図, 写真14)

O31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により一部が壊されているが、形態は円形を呈し、規模は(1.44)×(1.21)m、深さ約21cmを測る。遺体は南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層からは恵山期の完形の浅鉢が1点、石斧が1点、フレイクが1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-206 (第61図, 写真14)

M31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により一部が壊されているが、形態は楕円形を呈していると思われる、規模は(1.14)×(1.40)m、深さ約47cmを測る。遺体は東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層の南側からは恵山期の完形の深鉢が1点、石鏃、スクレイパー、フレイク、コア、石斧が出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-207 (第62図, 写真9・13)

O31グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.24×1.18m、深さ約32cmを測る。遺体は側臥屈葬の南東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層の脇から、恵山期の完形の壺が1点、石鏃が10点、スクレイパーが3点、R・Fが15

点、石斧が1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-208 (第63図,写真9)

P30・P31グリッドに位置する墓坑で、形態は円形を呈し、規模は1.55×1.45m、深さ約20cmを測る。遺体は側臥屈葬の東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物は遺体の頭部脇に口縁部が欠けた恵山期の壺が1点、同じく口縁部が欠けた恵山期の深鉢が1点、ベンガラ・遺体層の脇から恵山期の深鉢が1点、石鏃が8点、ナイフが1点、フレイクが5点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-209 (第61図,写真10)

P30・P31グリッドに位置する墓坑で、攪乱により掘り込み面は壊され、形態は不明である。規模は(1.03)×(0.77)m、遺体はベンガラで覆われ一部しか残っておらず、頭部は確認できなかった。伴出遺物は墓坑の南西側に割れた状態で恵山期の深鉢が2点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

P-210 (第64図,写真10)

P30グリッドに位置する墓坑で、攪乱により一部が壊されているが、形態は楕円形を呈し、規模は(1.54)×(1.02)m、深さ22cmを測る。遺体は東頭位、ベンガラで覆われている。伴出遺物はベンガラ・遺体層からサメの歯が2点、石斧が3点、スクレイパーが2点、ドリルが2点、フレイクが24点、礫が1点出土した。時期としては伴出遺物から続縄文時代恵山期のものと思われる。

以上のように墓坑群について説明してきたが、新旧関係は以下のとおりである。

<墓坑の新旧関係> (今年度検出分)

- \* (旧) P-155・P-162 → (新) P-137
- \* (旧) P-142 → (新) P-144
- \* (旧) P-151 → (新) P-152
- \* (旧) P-155 → (新) P-152
- \* (旧) P-167 → (新) P-156
- \* (旧) P-160 → (新) P-161
- \* (旧) P-169 → (新) P-168
- \* (旧) P-182B → (新) P-182A
- \* (旧) P-203 → (新) P-202

## (2) 焼土 (遺構番号は2000年度からの連番)

### F P-15 (第65図)

Q29グリッドに位置する。規模は0.30×0.24m、遺物は出土しなかった。時期は続縄文時代前半のものと思われる。

### F P-16 (第65図)

O29グリッドに位置する。規模は0.22×0.09m、遺物は出土しなかった。時期は続縄文時代前半のものと思われる。

### F P-17 (第65図, 写真10)

N29グリッドに位置する。規模は(0.80)×(0.51)m、焼土の一部が、P-183により切られている。遺物は出土しなかった。時期はP-183よりも古いものであると思われ、縄文時代晩期～続縄文時代前半のものと思われる。

### F P-18 (第65図)

O31グリッドに位置する。規模は(0.83)×(0.46)m、中央の焼けの強い部分の規模は(0.48)×(0.29)mである。焼土の一部が、MO-23により切られ、P-200の上面に位置する。遺物は土器片が2点、フレイクが1点検出されたが、MO-23からの流れ込みの可能性があるので直接の時期決定にはならない。時期はP-200よりも新しくMO-23よりも古いものであると思われ、中世以降であると推定できるが判然としない。

### F P-19 (第65図)

P31グリッドに位置する。規模は(0.63)×(0.21)m、焼土の一部が、MO-23により切られている。遺物はフレイクが1点出土した。時期はMO-23よりも古いものであると思われ、中世以降であると推定できるが判然としない。

### F P-20 (第65図)

L31・M31グリッドに位置する。規模は0.99×(0.22)m、P-199の上面に位置し、攪乱により一部切られている。遺物は土器片が7点出土した。時期はP-199よりも新しいものであると思われ、続縄文時代後半のものと思われる。

## (3) 小土坑

### S P-1 (第66図)

P29グリッドに位置する小土坑で、形態は円形を呈し、規模は0.25×0.22m、深さ40cmを測る。遺体・遺物は検出されなかった。S P-2と並んで位置しているため、2個組で使われた可能性がある。柱穴の痕跡である可能性が高い。時期は周辺の状況から続縄文時

代前半のものと思われる。

#### SP-2 (第66図)

P29グリッドに位置する小土坑で、形態は円形を呈し、規模は0.21×0.17m、深さ48cmを測る。遺体・遺物は検出されなかった。SP-1と並んで位置しているため、2個組で使われた可能性がある。柱穴の痕跡である可能性が高い。時期は周辺の状況から続縄文時代前半のものと思われる。

#### SP-3 (第66図)

O29・P29グリッドに位置する小土坑で、形態は楕円形を呈し、規模は0.40×0.28m、深さ26cmを測る。遺体・遺物は検出されなかった。柱穴の痕跡である可能性が高い。時期は周辺の状況から続縄文時代前半のものと思われる。

#### SP-4 (第66図)

P29グリッドに位置する小土坑で、形態は楕円形を呈し、規模は0.34×0.21m、深さ17cmを測る。遺体・遺物は検出されなかった。柱穴の痕跡である可能性が高い。時期は周辺の状況から続縄文時代前半のものと思われる。

#### SP-5 (第66図,写真10)

P30グリッドに位置する小土坑で、形態は楕円形を呈し、規模は(0.35)×(0.27)m、深さ6cmを測る。遺体・遺物は検出されなかった。確認できた掘り込みが浅いが柱穴の痕跡である可能性が高い。時期は続縄文時代前半より新しいものと思われる。

#### SP-6 (第66図)

P30グリッドに位置する小土坑で、形態は円形を呈し、規模は0.27×0.22m、深さ28cmを測る。遺体・遺物は検出されなかった。SP-7と並んで位置しているため、2個組で使われた可能性がある。柱穴の痕跡である可能性が高い。時期は周辺の状況から続縄文時代前半のものと思われる。

#### SP-7 (第66図)

P30グリッドに位置する小土坑で、形態は円形を呈し、規模は0.21×0.20m、深さ17cmを測る。遺体・遺物は検出されなかった。SP-6と並んで位置しているため、2個組で使われた可能性がある。柱穴の痕跡である可能性が高い。時期は周辺の状況から続縄文時代前半のものと思われる。



#### SP-8 (第66図)

Q30グリッドに位置する小土坑で、形態は円形を呈し、規模は0.24×0.23m、深さ約19cmを測る。遺体・遺物は検出されなかった。柱穴の痕跡である可能性が高い。時期は続縄文時代前半より新しいものと思われる。

#### (4) 剥片集中 (FC-1、2は欠番)

##### FC-3 (第66図,写真10)

O29グリッドに位置し、形態は楕円形を呈し、規模は0.18×0.12m、深さ約11cmを測る。掘り込まれた所に黒曜石の剥片が埋められていたもので、剥片の個数は約60個あった。このFC-3の下からは墓坑は検出されなかった。時期は周辺の状況から続縄文時代前半のものと思われる。

#### (5) 礫玉集中 (第66図,写真10)

O29グリッドに位置し、規模は0.29×0.21mの範囲で礫玉が散乱していた。礫玉の数は31点出土した。石質は粘板岩である。この礫玉集中の下には墓坑はなかったが、すぐ隣のP-170からは同じ未製品の礫玉が8点出土した。このことからこの礫玉集中はP-170の上面の覆土が攪乱された際に覆土の礫玉が散乱したものであると考えられる。礫玉自体の時期は続縄文時代前半の恵山期のものと思われる。

#### (6) 壕状遺構・溝状遺構-1

##### MO-5 (第67図)

1990年度に検出したMO-5の続きが今年度も確認された。上部及び南側の掘り込み面は攪乱により壊されているため全景は確認できなかった。幅は約2.10m、深さ約34cmを測り、長軸方向は北東-南西である。今年度の迂回路地点で検出されたMO-24・25につながると思われる。覆土も攪乱され一部しか確認できず、覆土には炭化物が混じっている。遺物は覆土から土器片、フレイクが出土したが続縄文時代のものであるためMO-5の直接の時期決定にはならない。時期として中世以降のものとして推定できるが判然としない。

##### MO-22 (第67図,写真11)

今年度新たに確認された。上面は攪乱により壊されている。幅は約1.47m、深さは約68cmを測り、長軸方向は北東-南西である。1990年度に検出されたMO-3につながる可能性がある。遺物は覆土から土器片、フレイク、陶磁器片が出土したが、直接の時期決定にはならない。時期として中世時代以降のものとして推定できるが判然としない。

##### MO-23 (第67・68図,写真11)

今年度新たに確認された。上面と掘り込み面の一部は攪乱により壊されている。幅は約

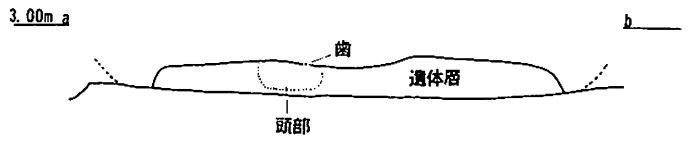
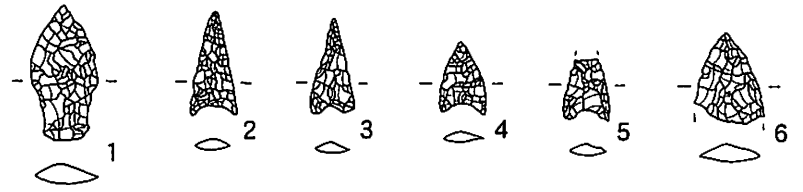
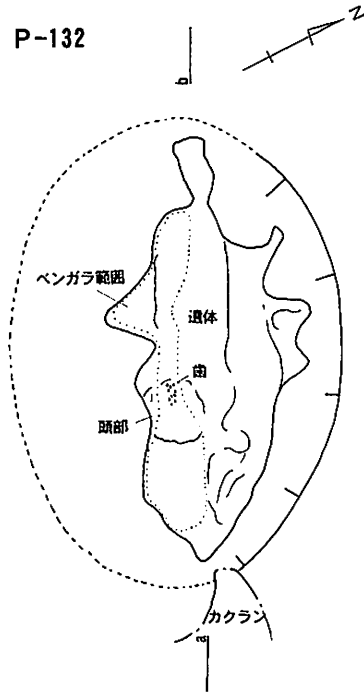
1.20m、最深部で約84cmを測り、長軸方向は北西－南東である。覆土全体においては炭化物が見られる。今年度確認された部分の長さは約16.70m。(一部、調査区外を拡幅確認した。)MO-23において1999年度に検出されたMO-18につながると思われる。

MO-23においては道道地点の墓坑を壊して作られている。そのため覆土からの伴出遺物は土器片、擦文土器片、石器、フレイク、陶磁器片、骨角器など様々な時代の遺物が出土したが、直接の時期決定にはならない。時期として中世以降のものと推定できるが判然としない。

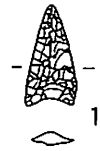
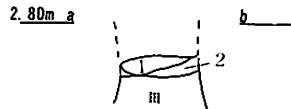
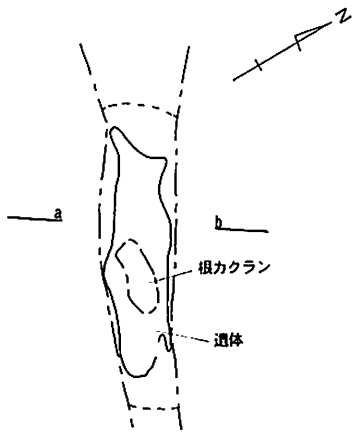
#### 溝状遺構－1 (第67図)

S30グリッドに位置する。幅は約0.40m、深さは約30cmを測り、長軸方向は北東－南西である。確認された部分の長さは約1.50m。伴出遺物はない。時期として中世時代以降のものと推定できるが判然としない。

P-132

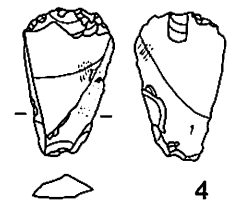
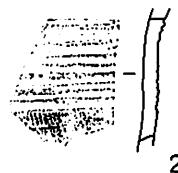
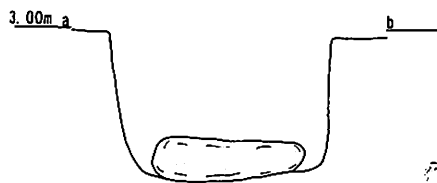
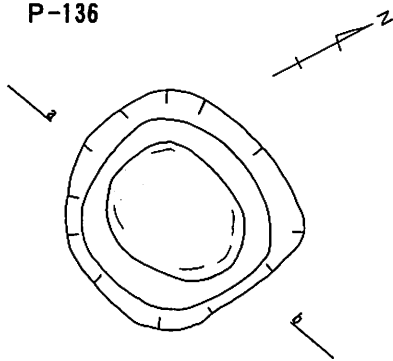


P-133



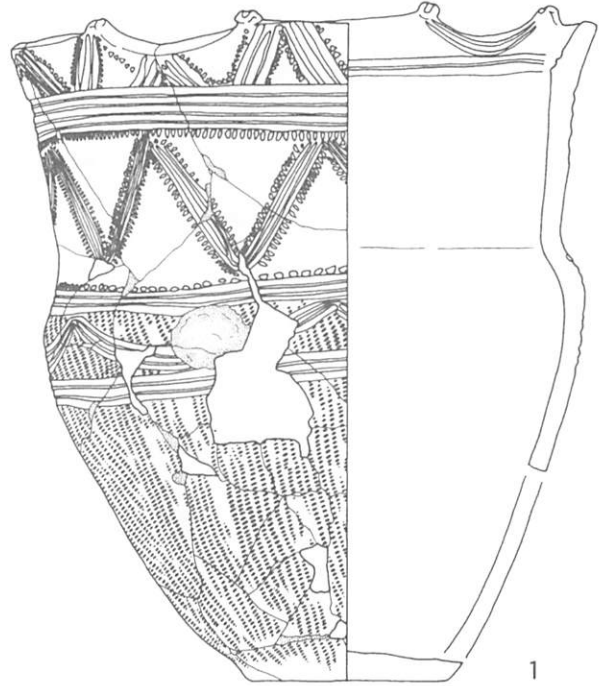
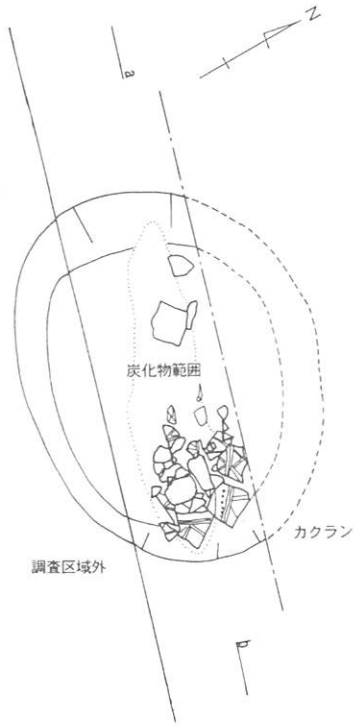
1. 赤褐色砂(遺体層)  
2. 褐色砂

P-136

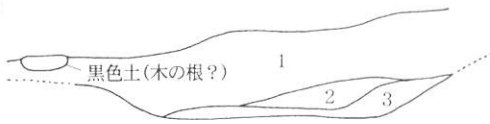


第8図 P-132・133・136 平面図と出土遺物

P-135



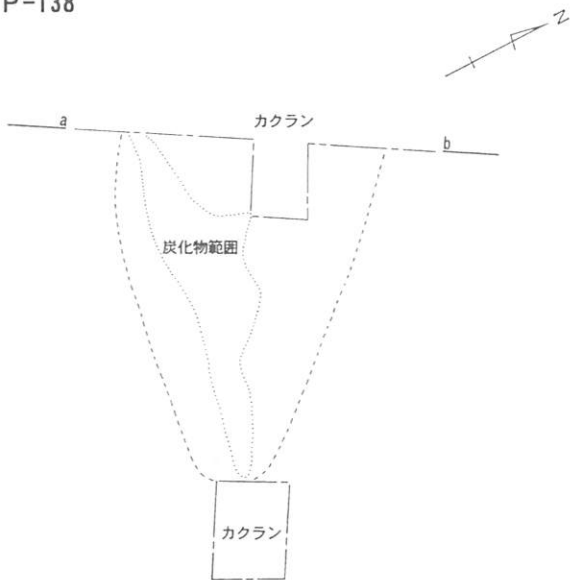
3.00m a



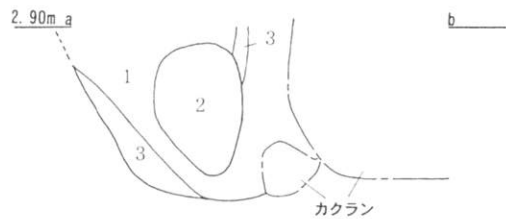
b

- 1. 褐色砂
- 2. 暗褐色砂
- 3. 褐色砂(炭化物混じり)

P-138



2.90m a

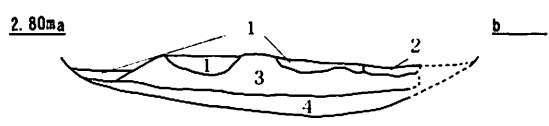
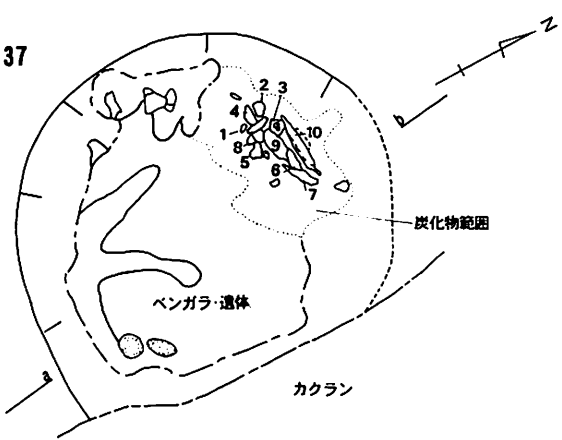


b

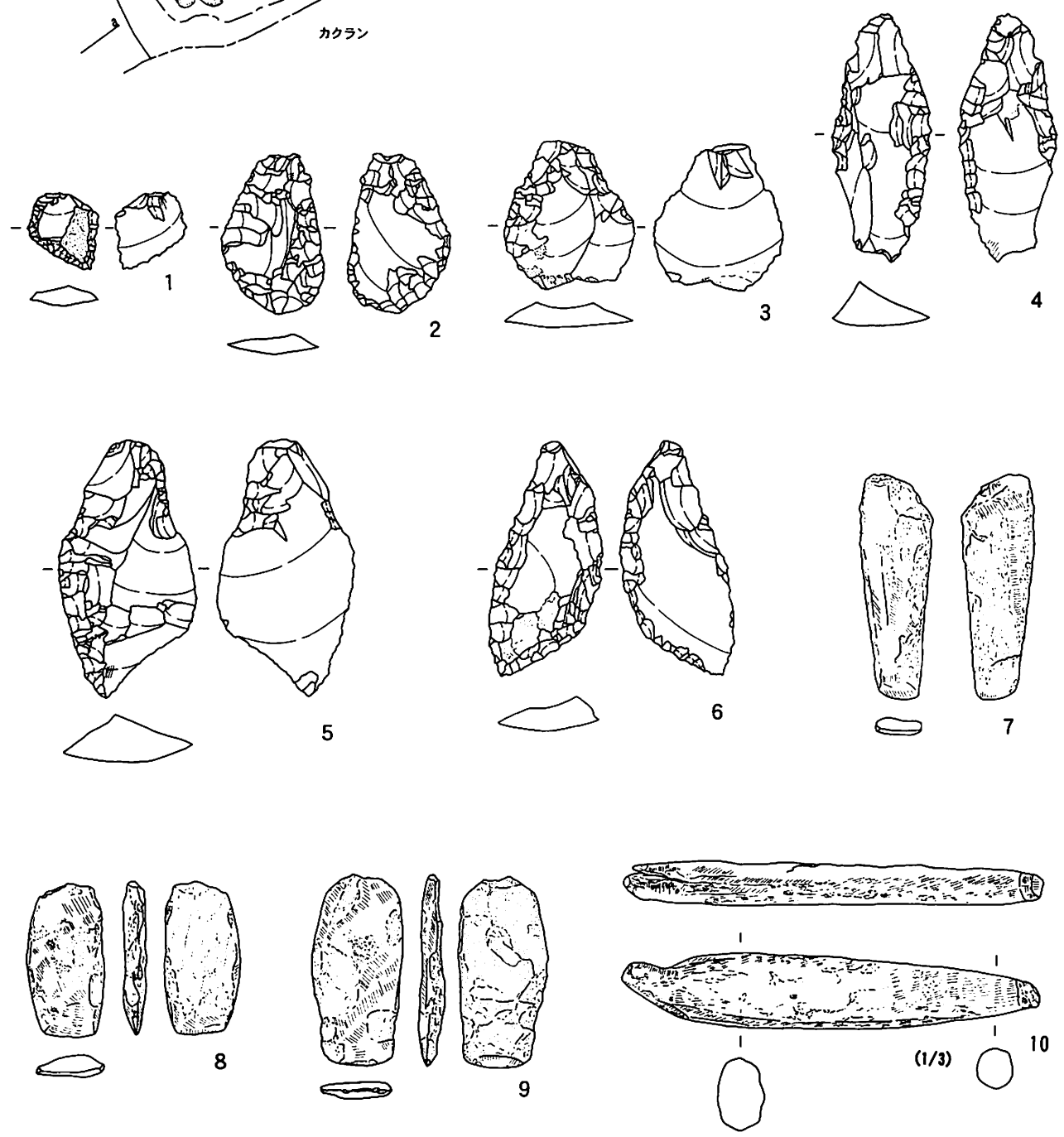
- 1. 褐色砂
- 2. 黒褐色砂(炭化物混じり)
- 3. 黒色砂

第9図 P-135・138 平面図とP-135 出土遺物

P-137

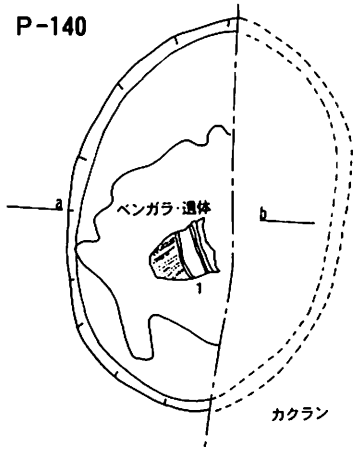


- 1. 褐色砂
- 2. 黒色砂(炭化物層)
- 3. 橙褐色砂(ベンガラ遺体層)
- 4. 褐色砂

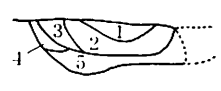


第10図 P-137 平面図と出土遺物

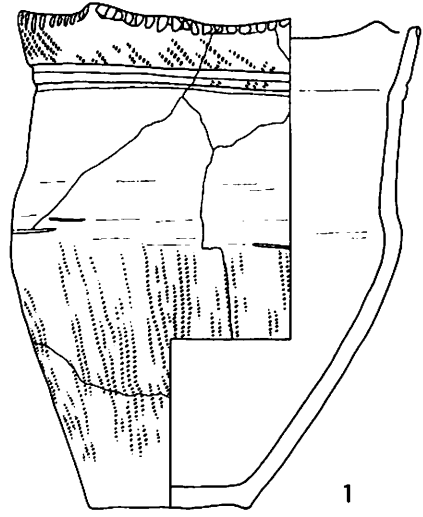
P-140



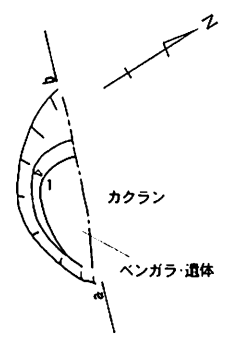
2.50m a



- 1. 褐色砂
- 2. 橙褐色砂(ベンガラ・遺体層)
- 3. 褐色砂
- 4. 暗褐色砂
- 5. 褐色砂



P-141



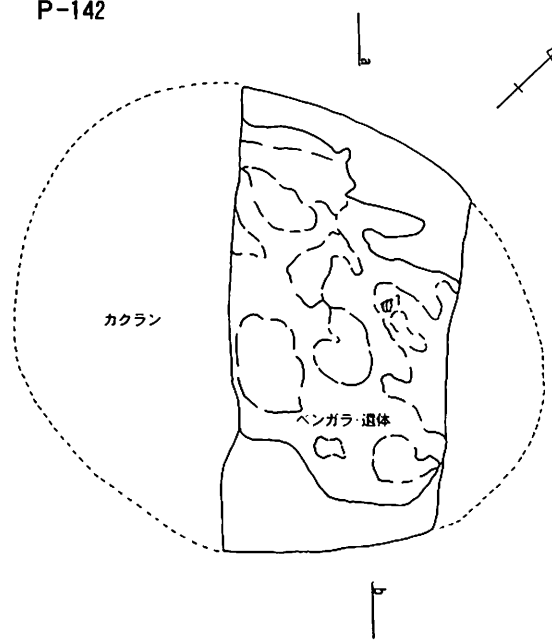
2.60m a



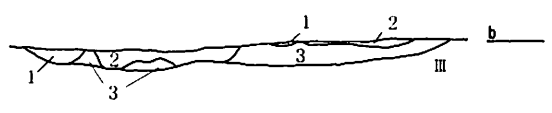
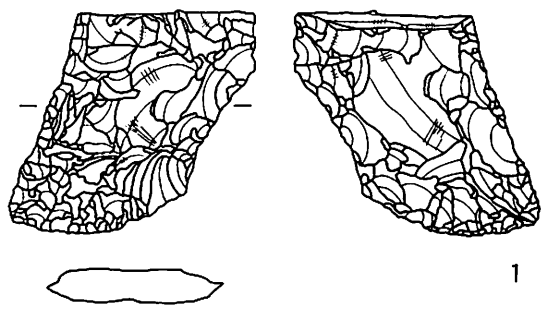
- 1. 赤褐色砂(ベンガラ・遺体層)
- 2. 黄褐色砂
- 3. 褐色砂



P-142



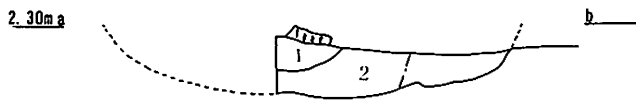
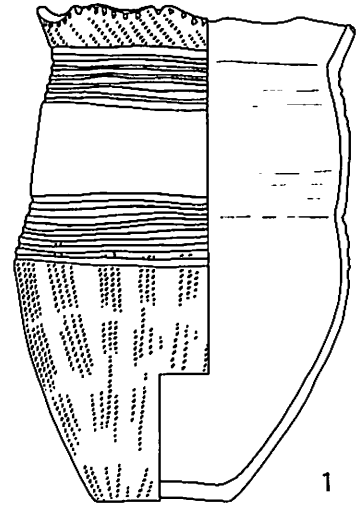
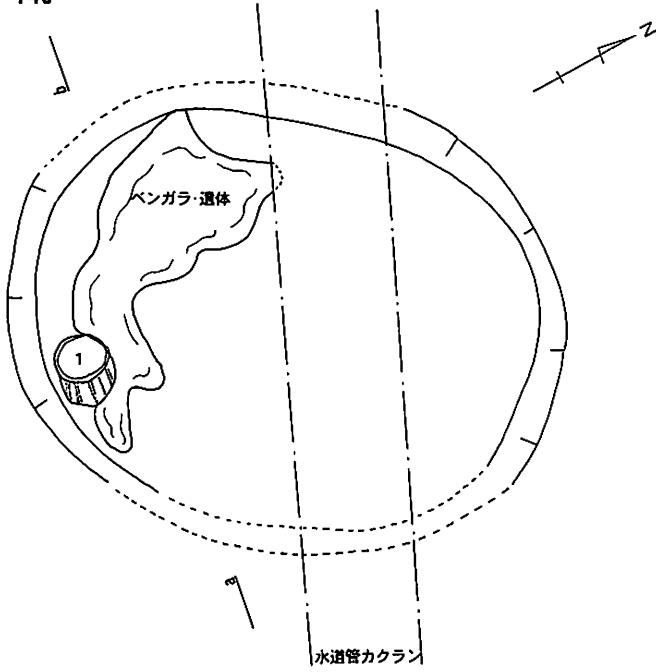
2.60m a



- 1. 暗褐色砂
- 2. 褐色砂
- 3. 黄褐色砂

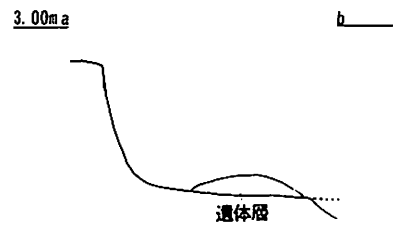
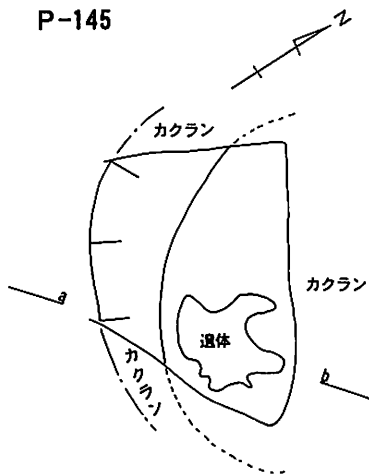
第11図 P-140・141・142 平面図と出土遺物

P-143



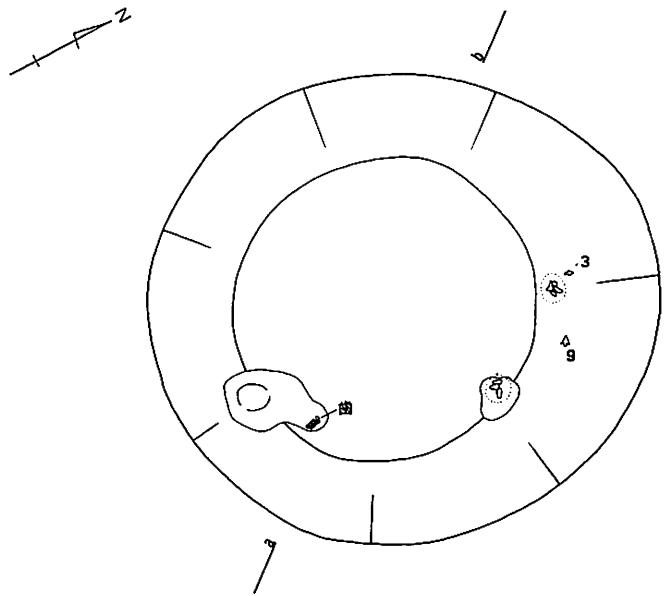
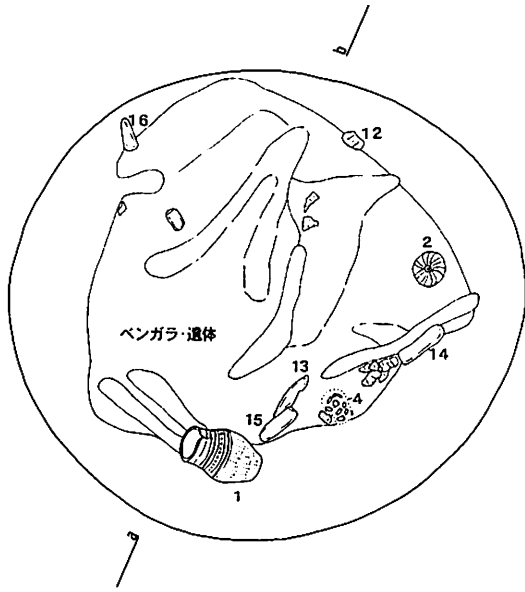
- 1. 暗褐色砂
- 2. 褐色砂(赤い筋がまばらみられる)

P-145

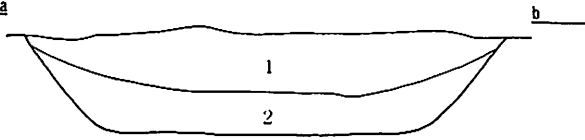


第12図 P-143・145 平面図とP-143 出土遺物

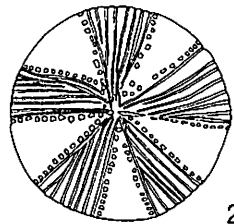
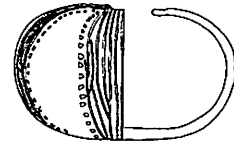
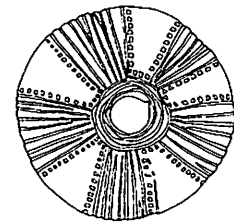
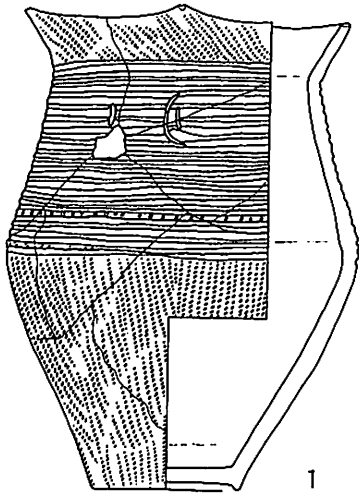
P-144



2. 30a



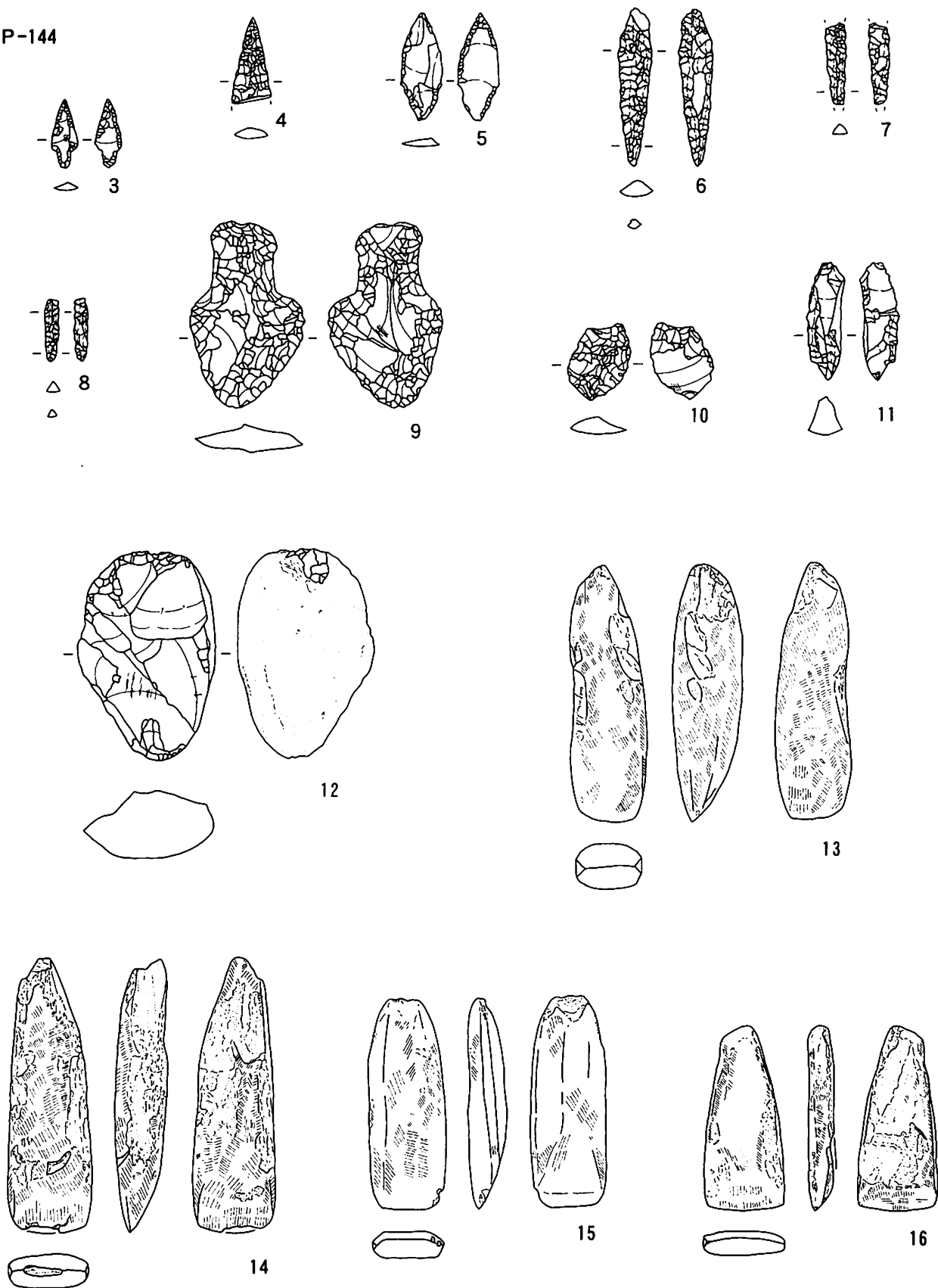
- 1. 褐色砂
- 2. 暗褐色砂(炭化物が混じっている)



第13図 P-144 平面図と出土遺物

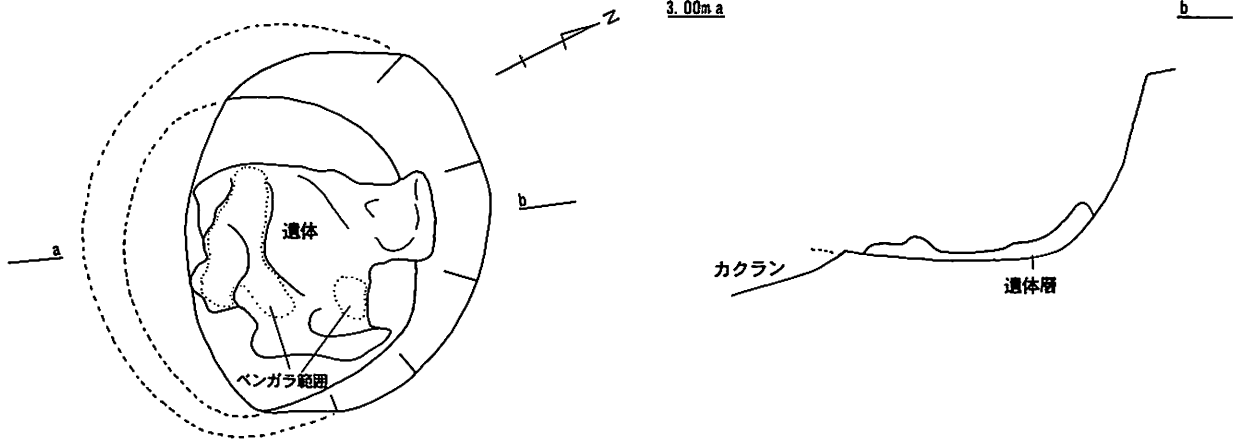


P-144

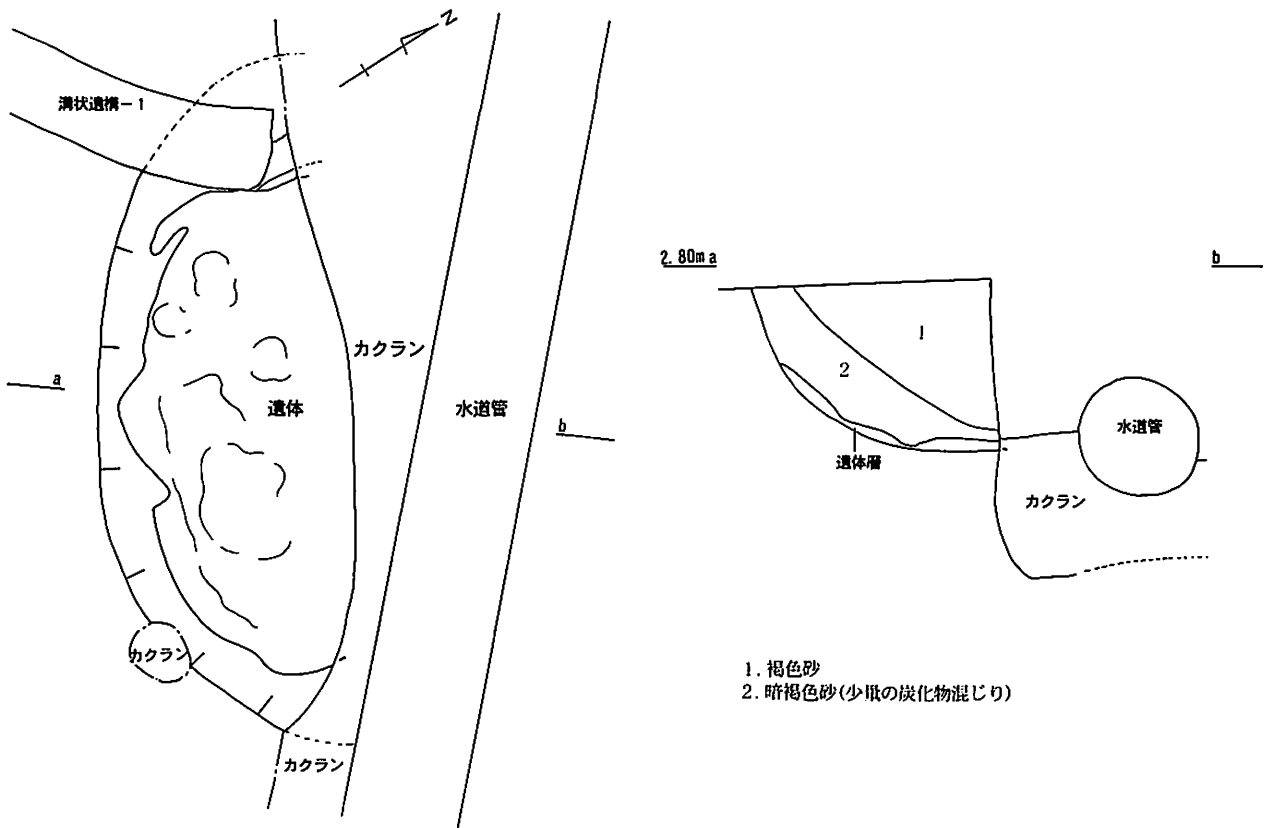


第14图 P-144 出土遺物

P-146



P-147

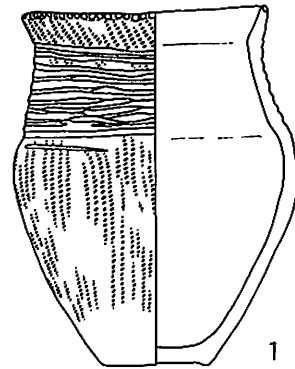
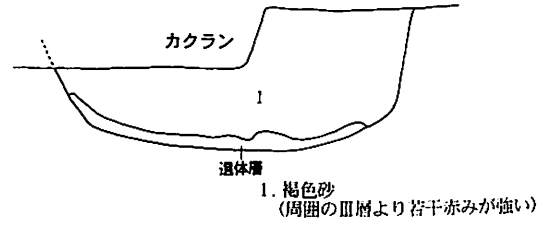
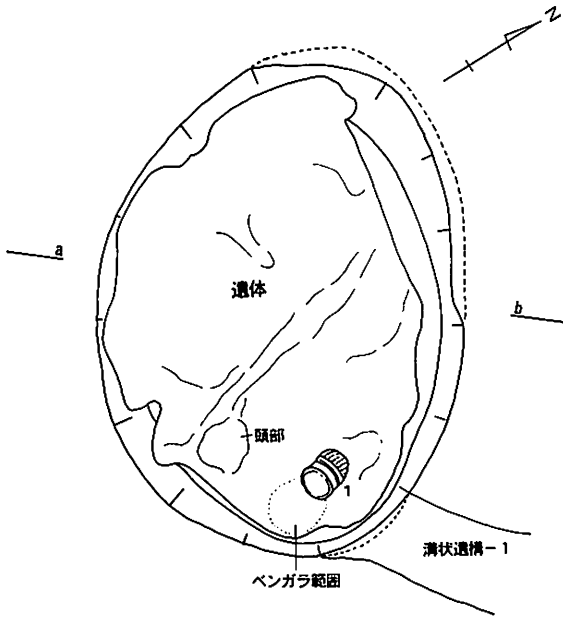


第15図 P-146・147 平面図

P-148

2.90ma

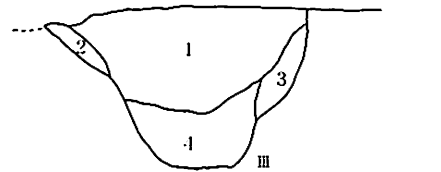
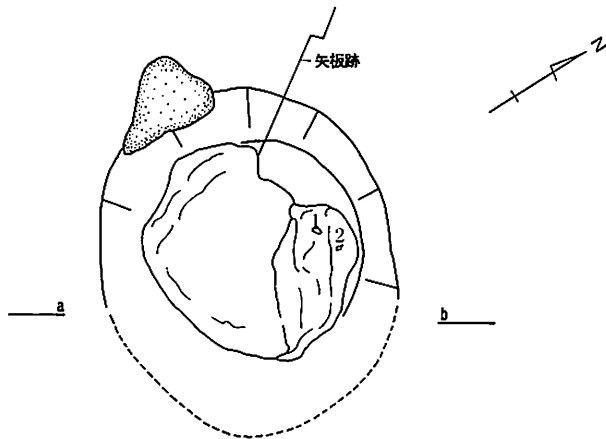
b



P-150

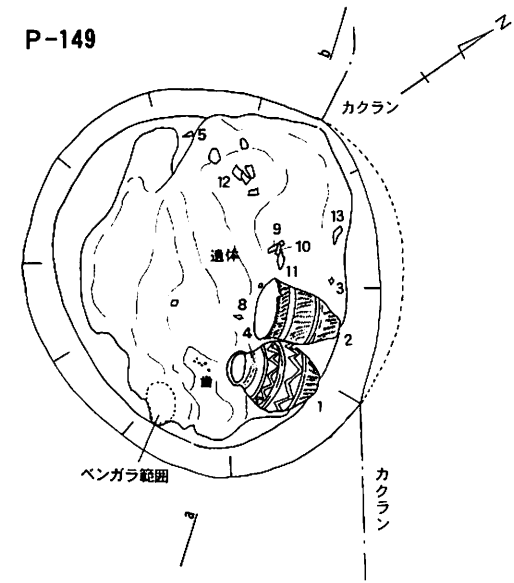
2.60ma

b

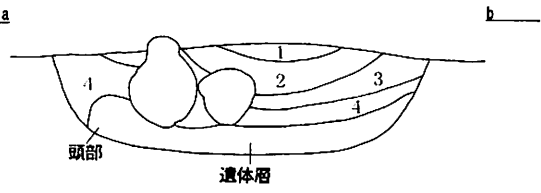


第16図 P-148・150 平面図と出土遺物

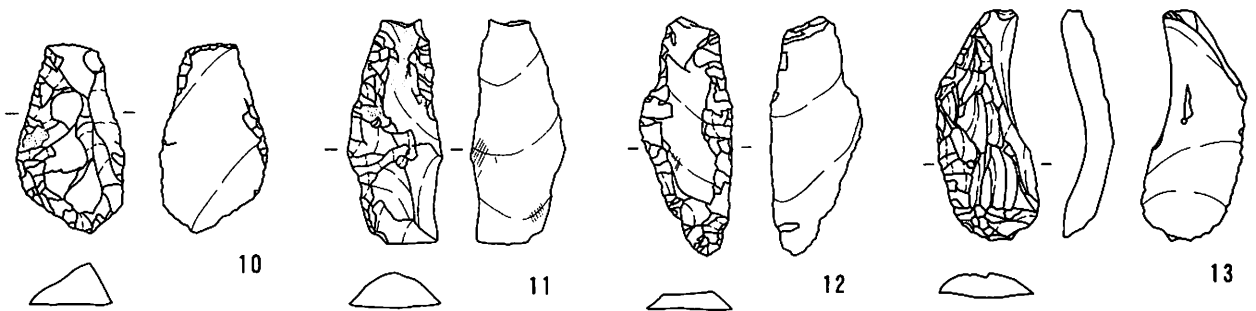
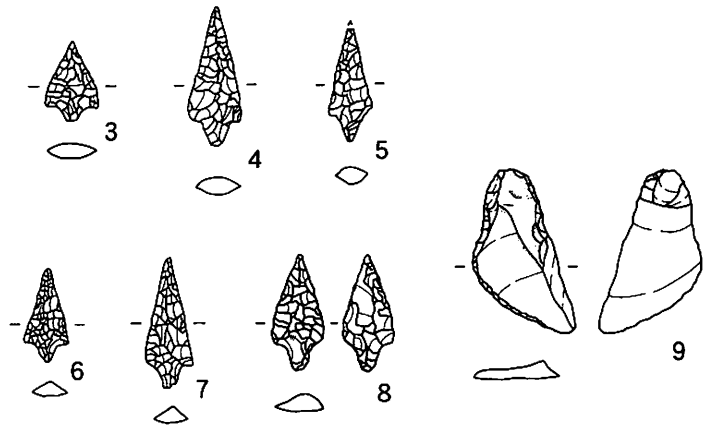
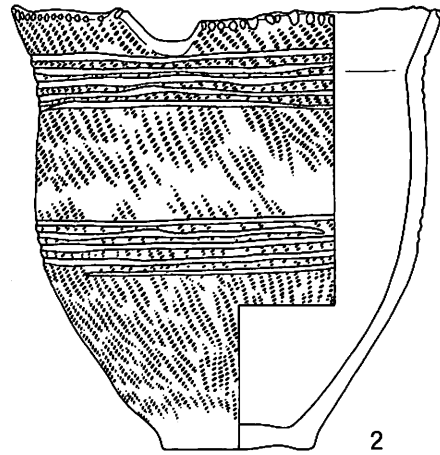
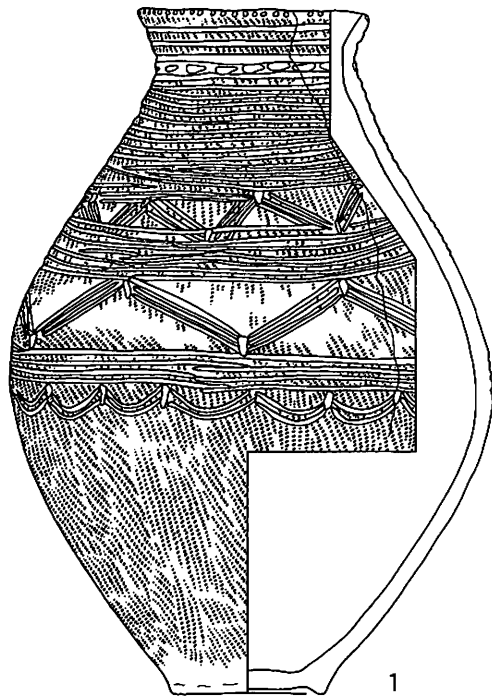
P-149



2.50m a

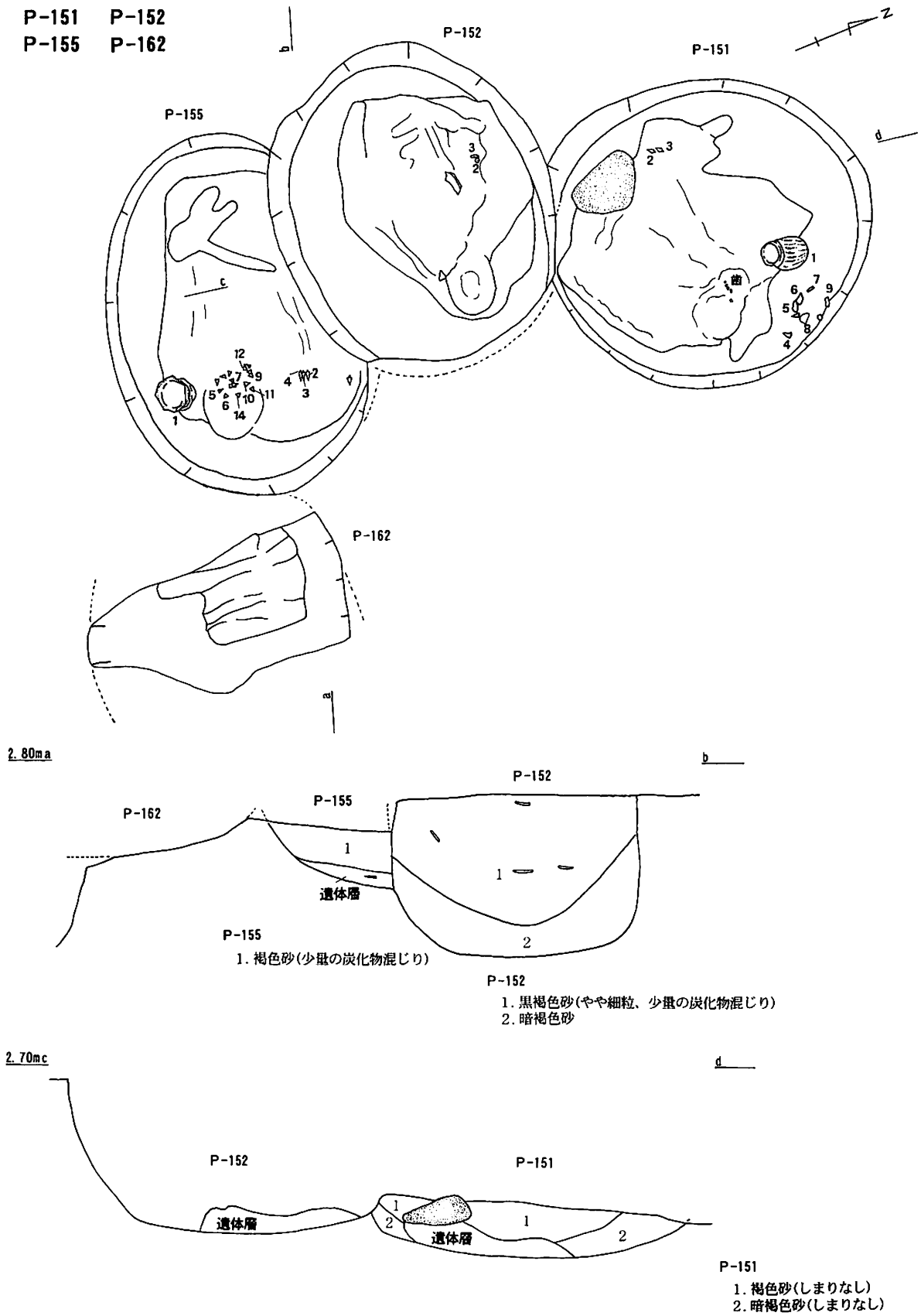


1. 黒褐色砂(少量の炭化物混じり)
2. 褐色砂(下面に黒褐色砂が縞状に入る)
3. 暗褐色砂(少量の炭化物混じり, 下面に黒褐色砂が縞状に入る)
4. 褐色砂



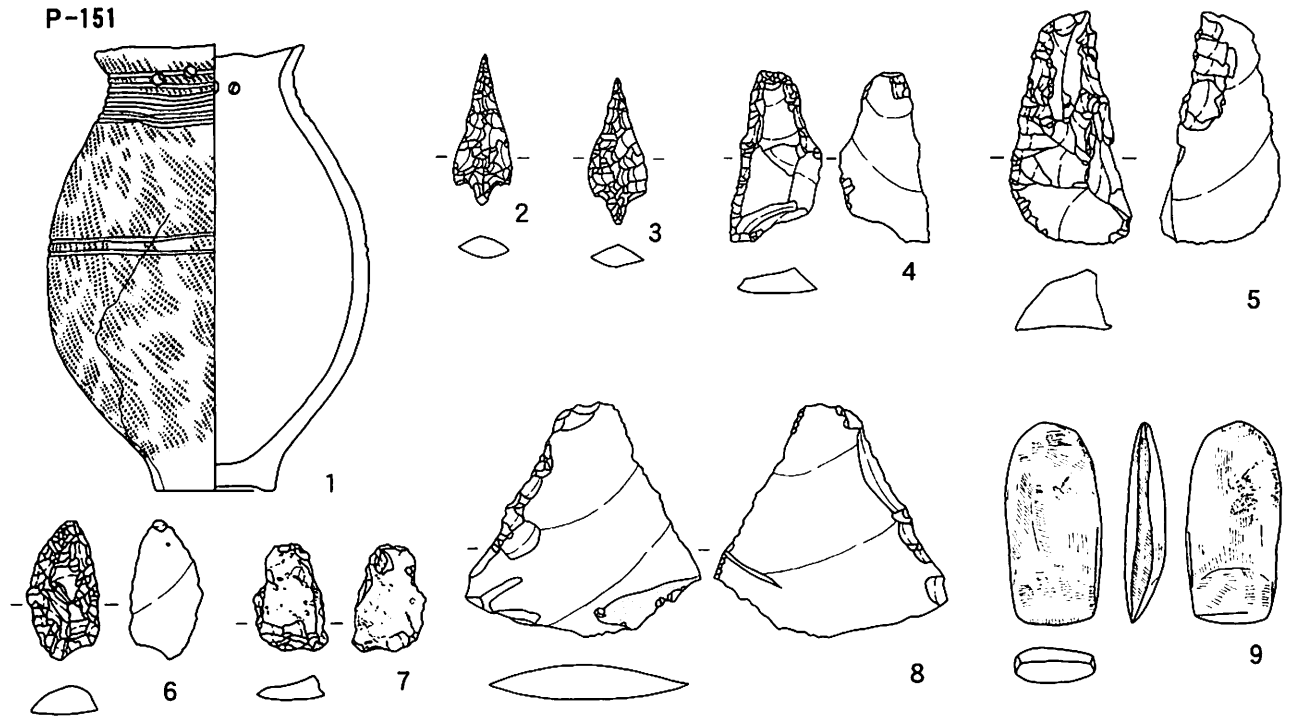
第17図 P-149 平面図と出土遺物

P-151 P-152  
P-155 P-162

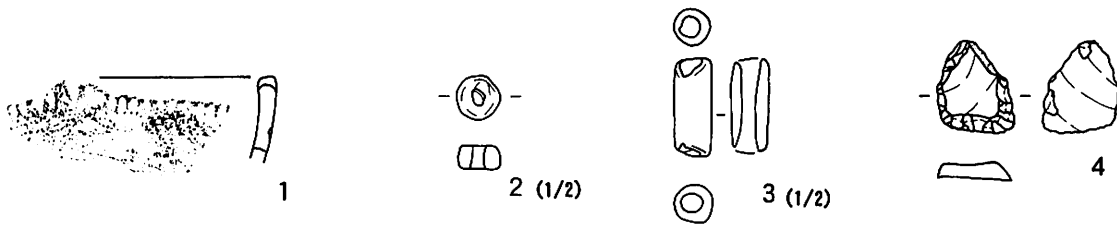


第18図 P-151・152・155・162 平面図

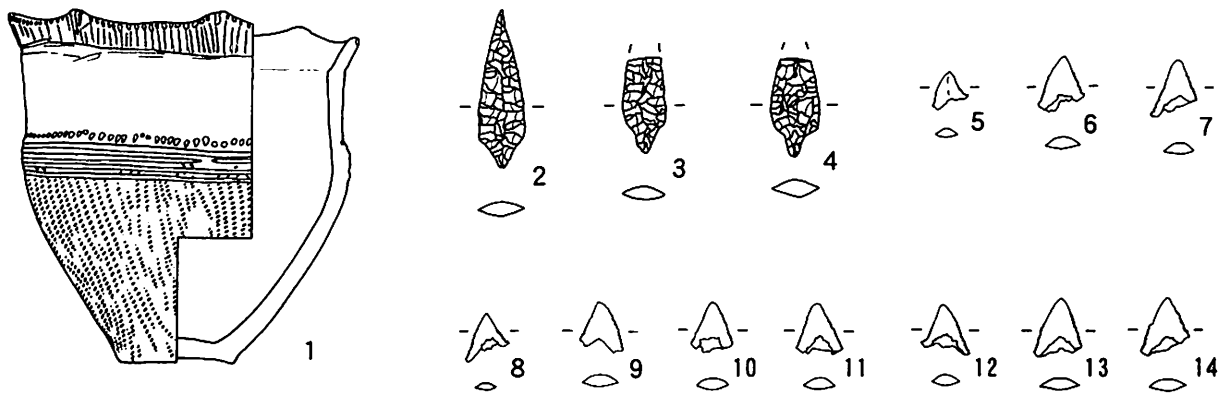
P-151



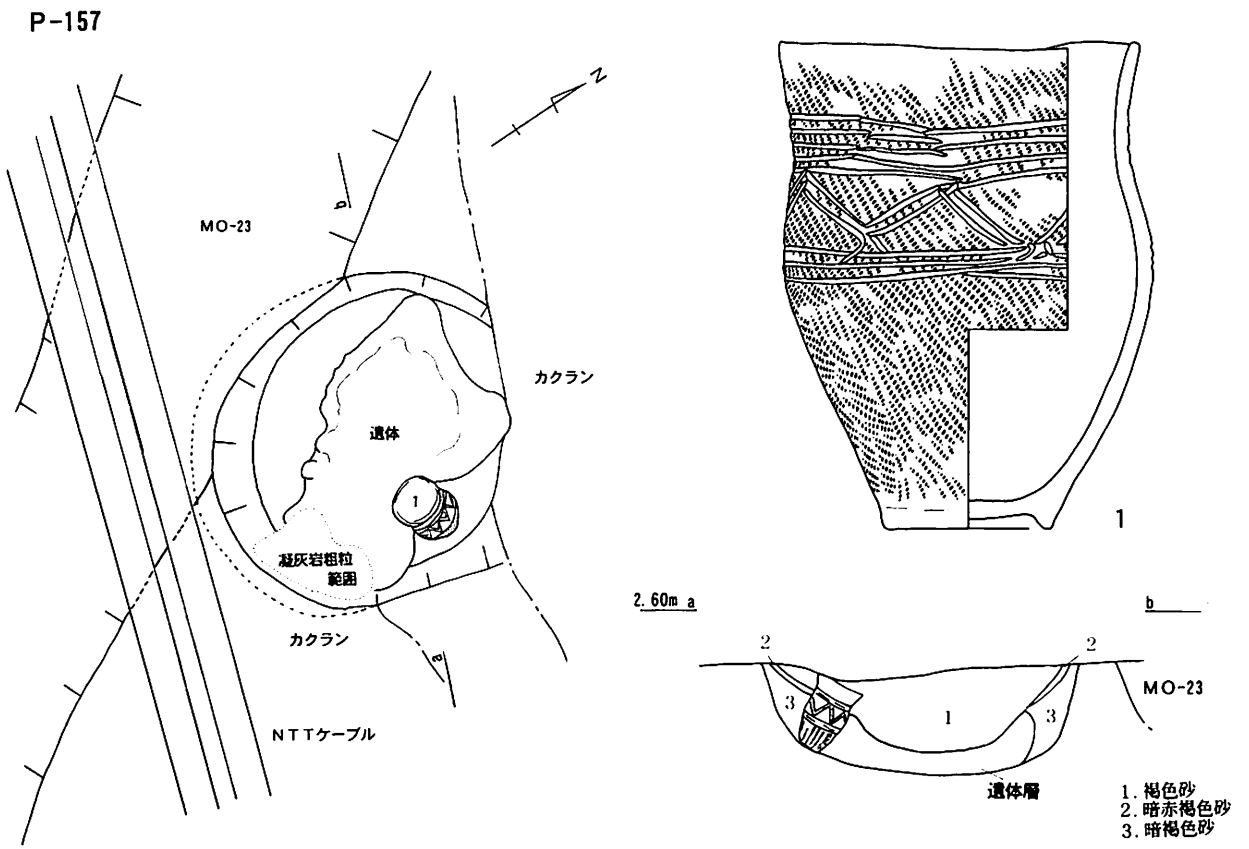
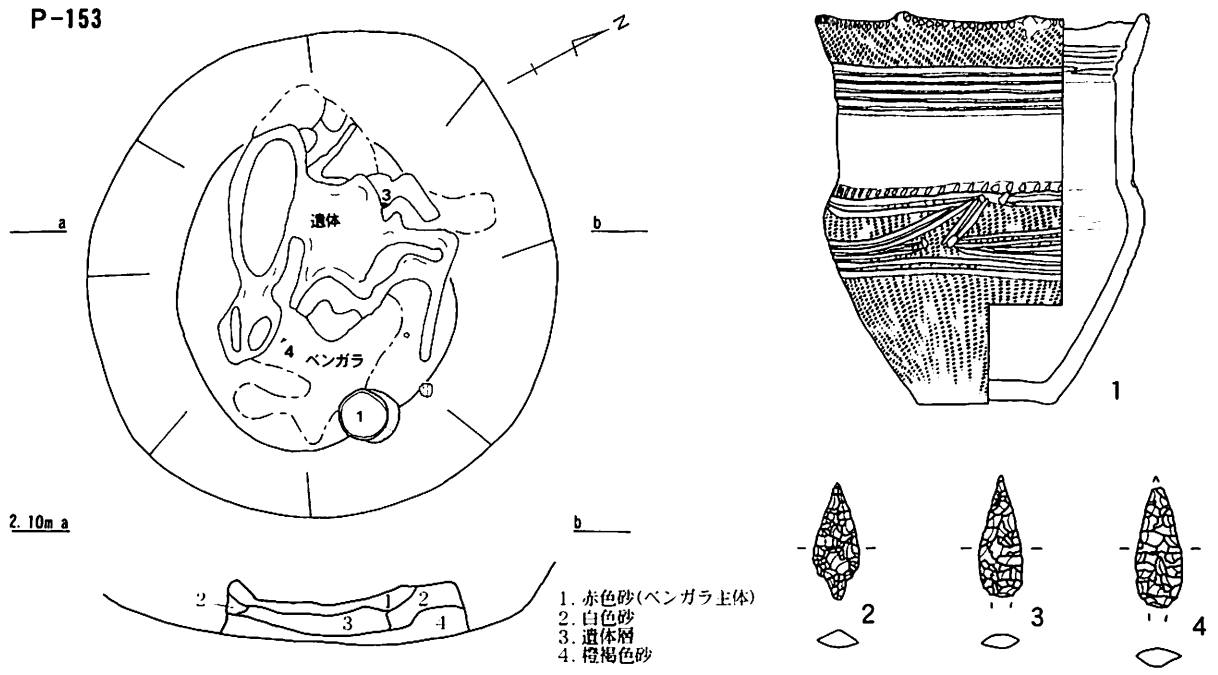
P-152



P-155

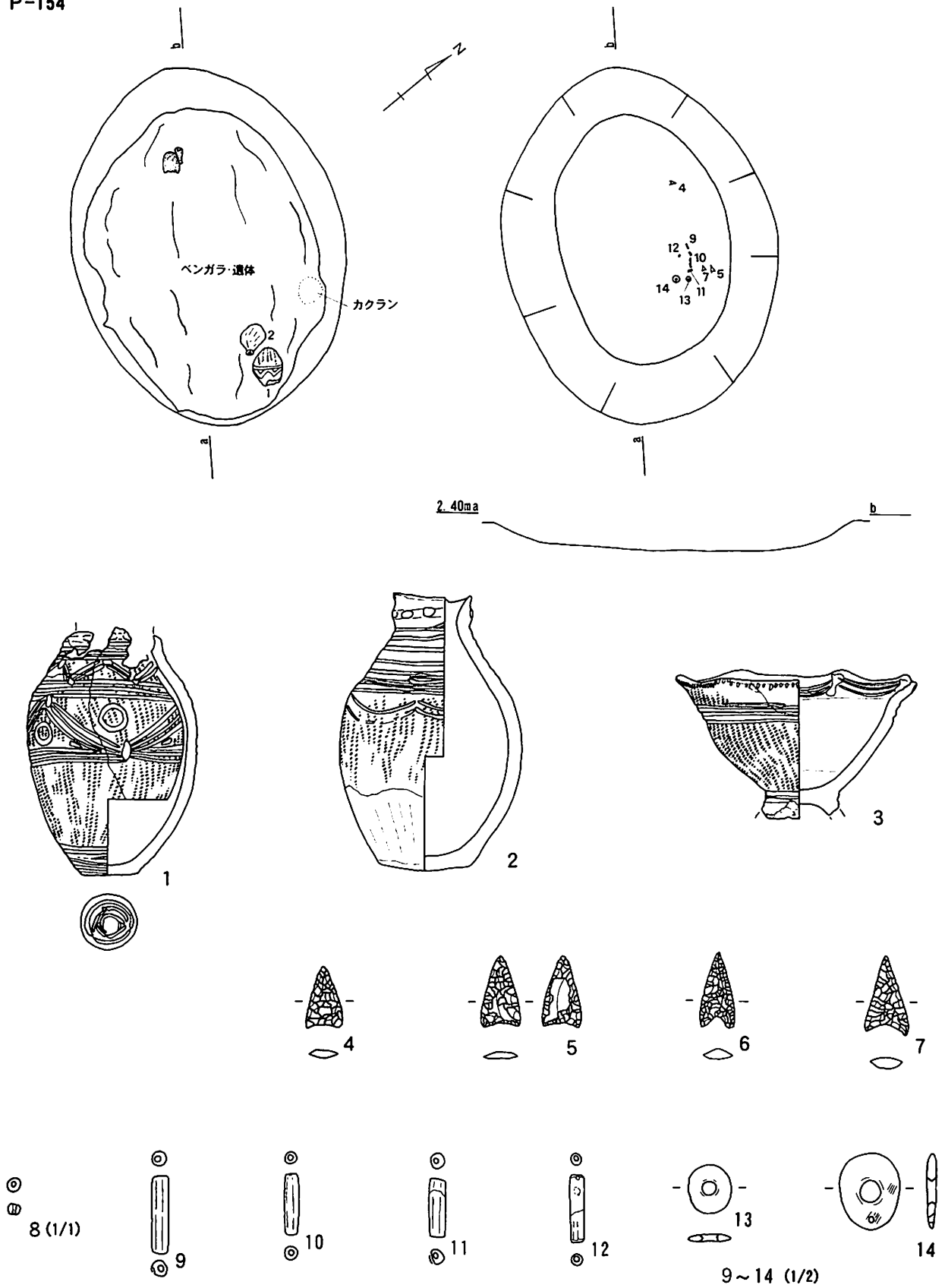


第19图 P-151·152·155 出土遺物



第20図 P-153・157 平面図と出土遺物

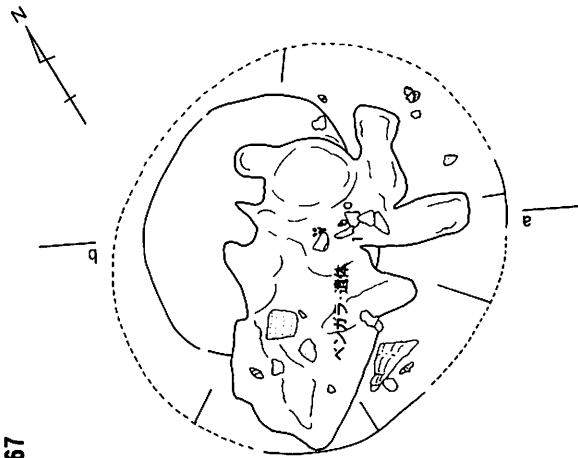
P-154



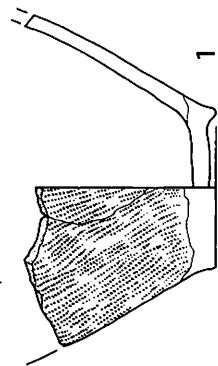
第21図 P-154 平面図と出土遺物



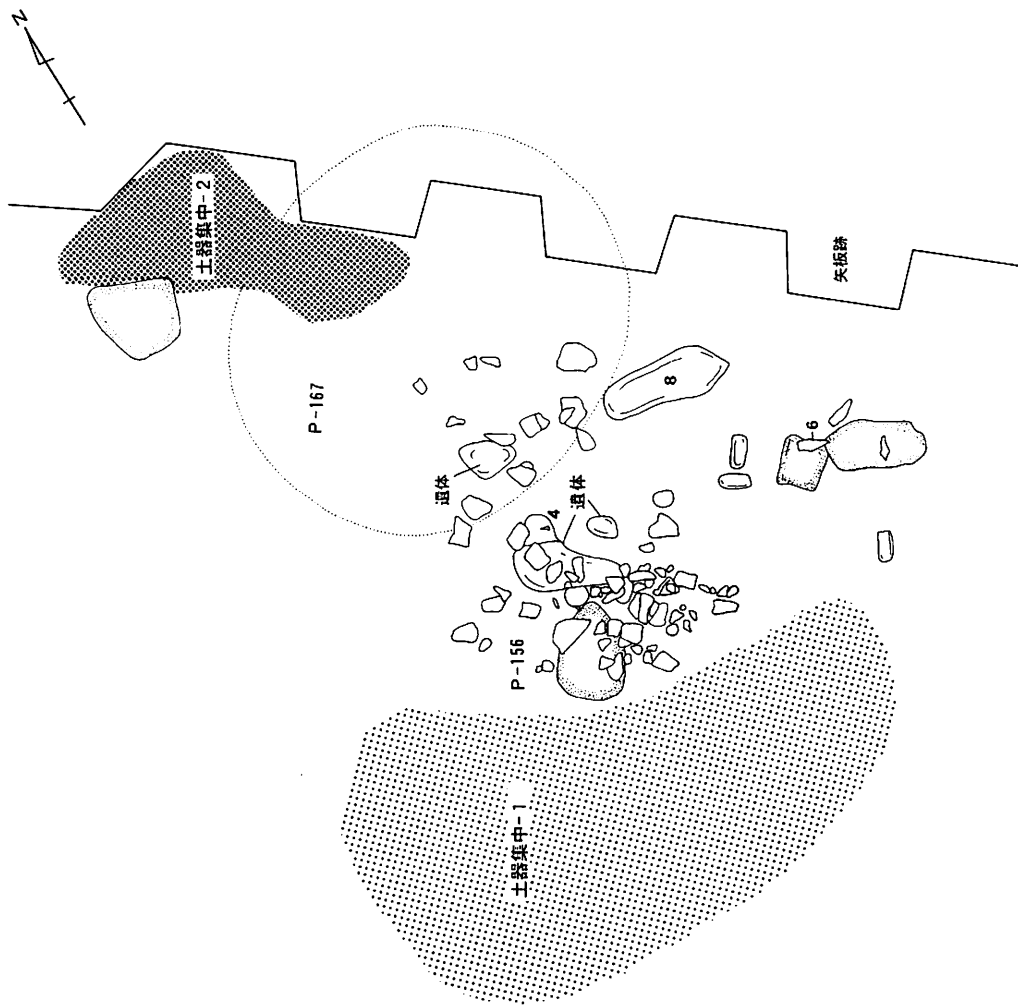
P-167



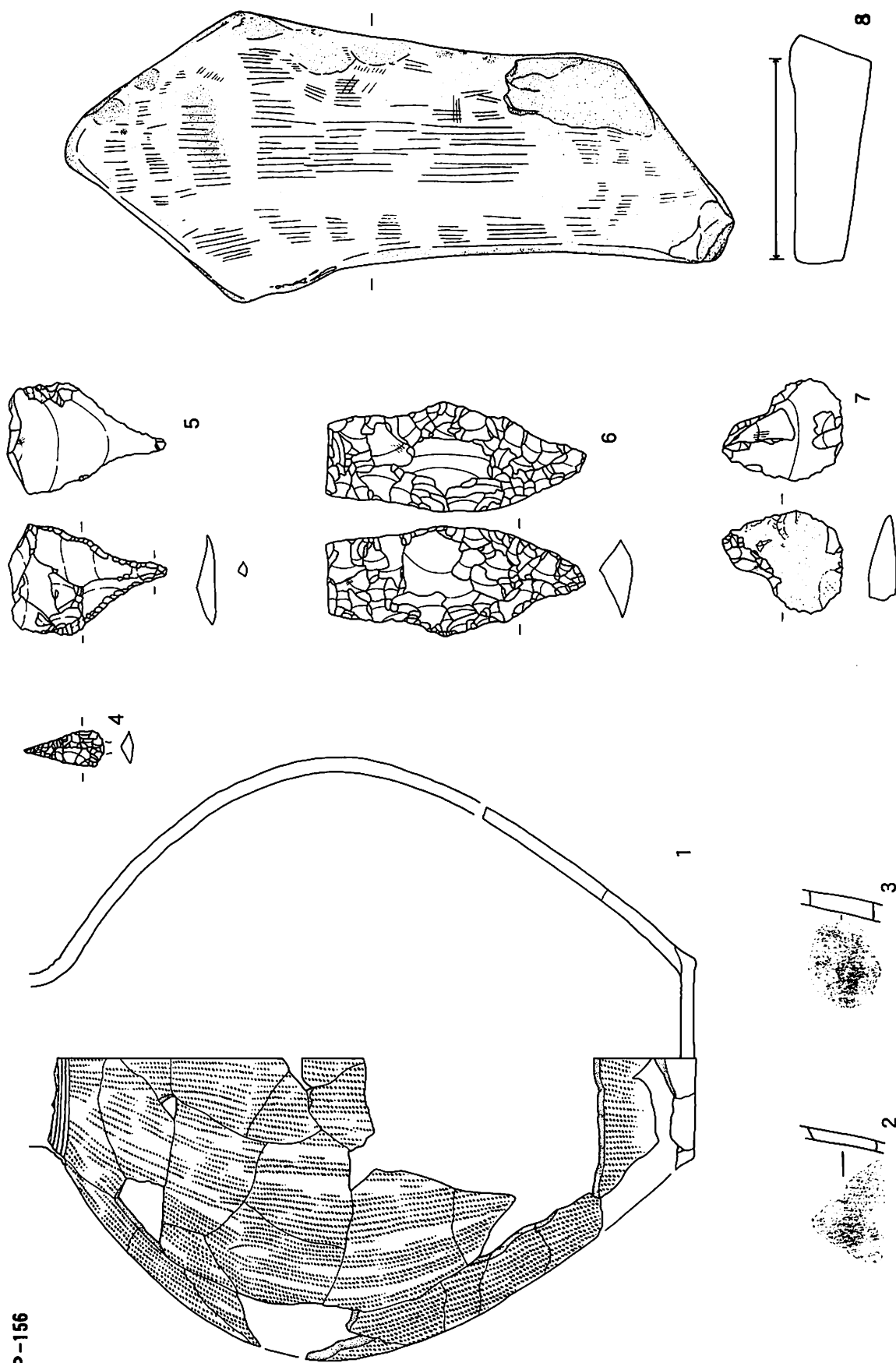
2.50m



P-156 土器集中-1 土器集中-2

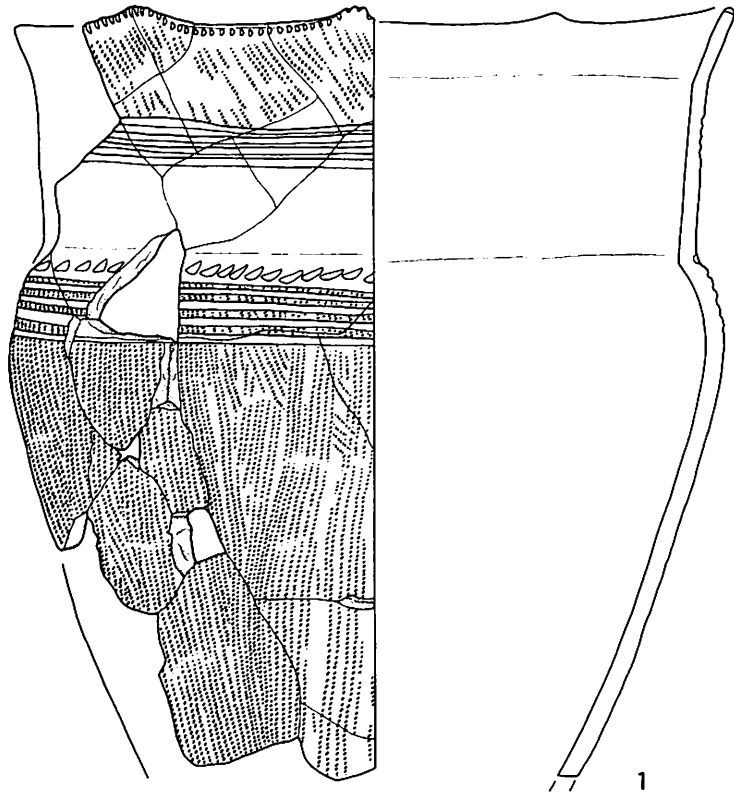


第22図 P-156・167 土器集中-1・2 平面図とP-167 出土遺物

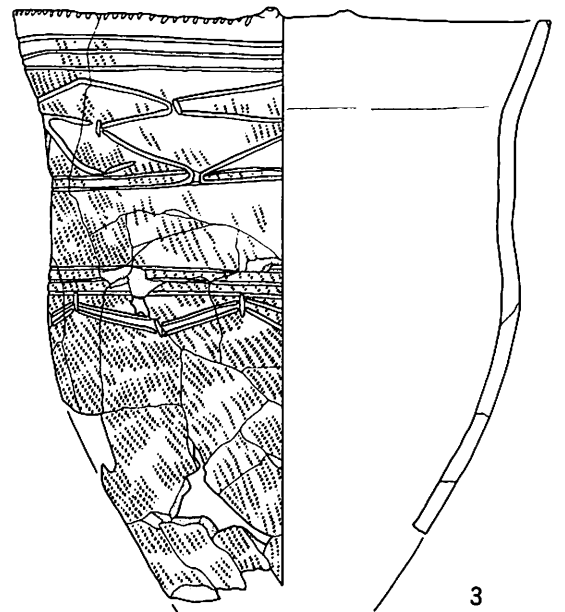
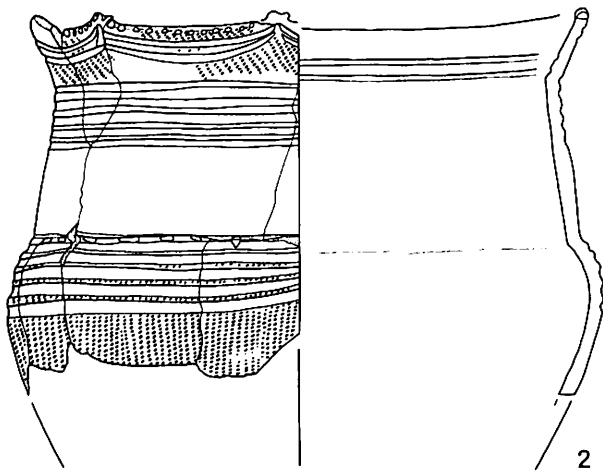
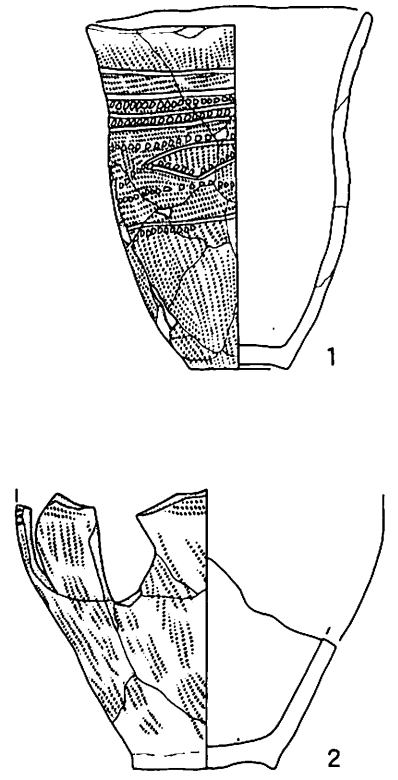


第23図 P-156 出土遺物

土器集中-1

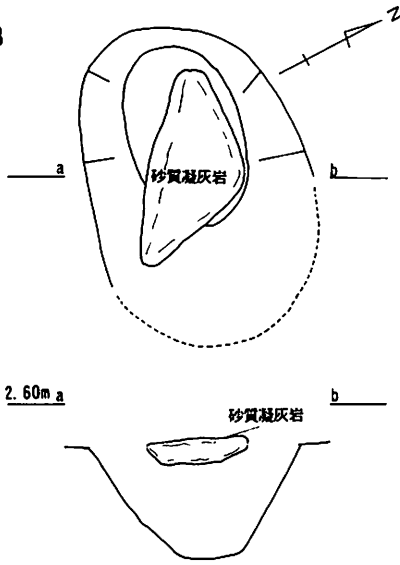


土器集中-2

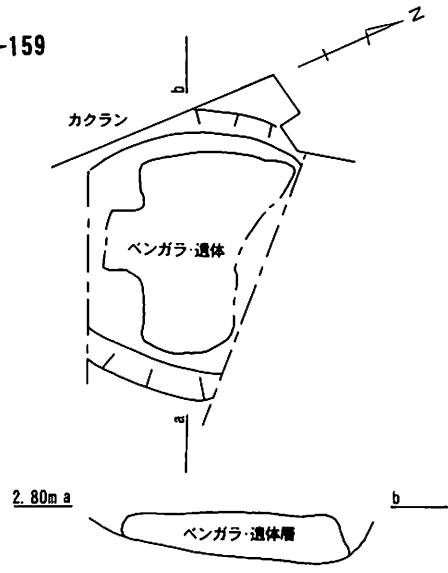


第24図 土器集中-1・2 出土遺物

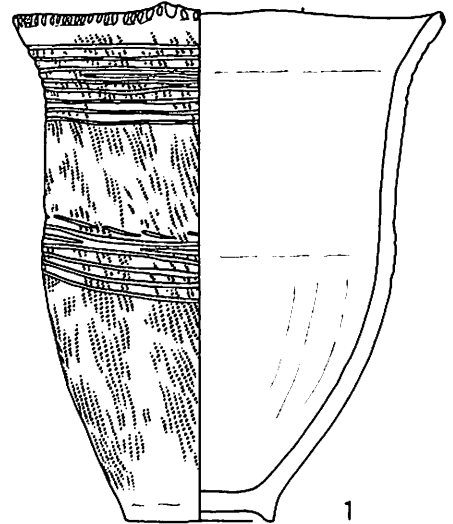
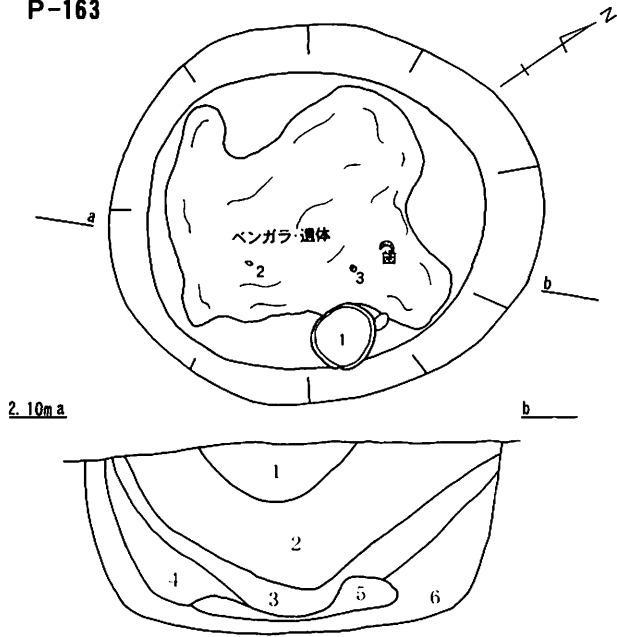
P-158



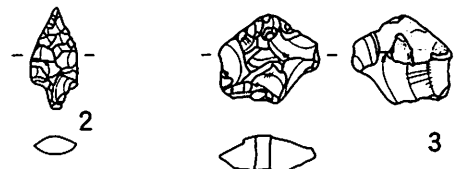
P-159



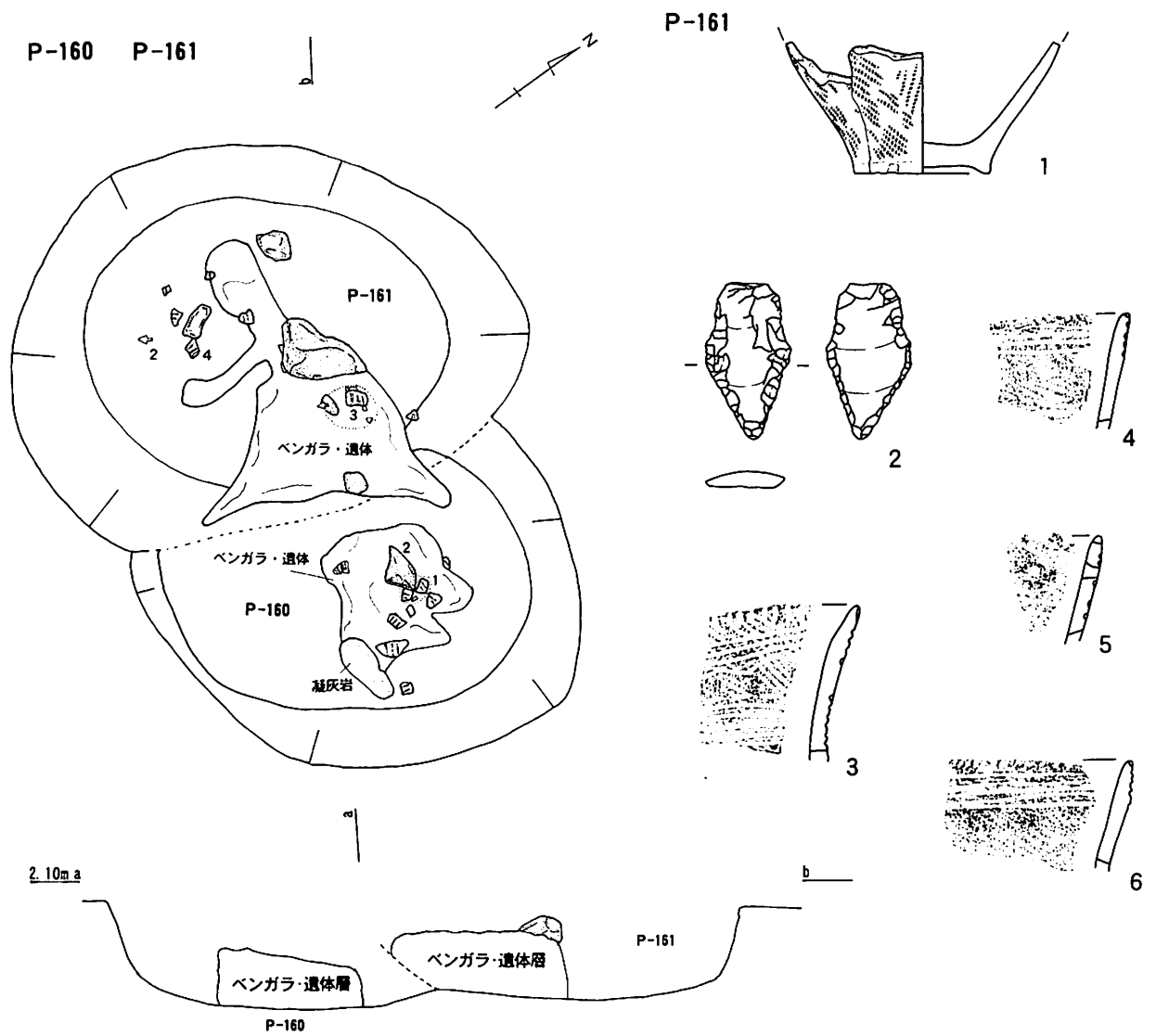
P-163



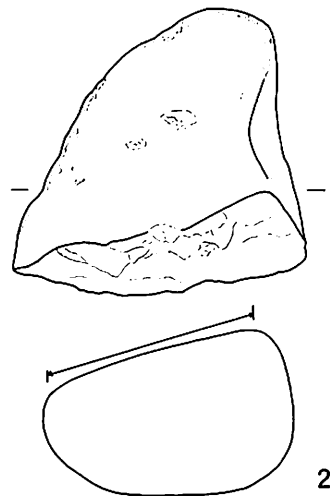
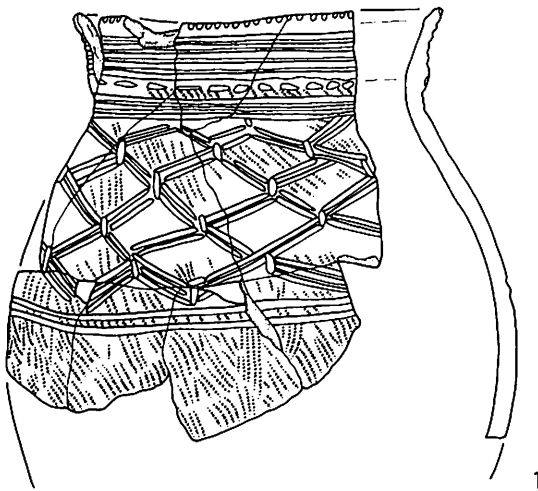
1. 暗褐色砂
2. 褐色砂(しまりあり,炭化物が混じっている)
3. 褐色砂(しまりなし,炭化物が混じっている)
4. 橙褐色砂(しまりなし,炭化物が混じっていない)
5. 赤褐色砂(遺体層)
6. 褐色砂(しまりなし,炭化物は少量混じっている)



第25図 P-158・159・163 平面図とP-163 出土遺物

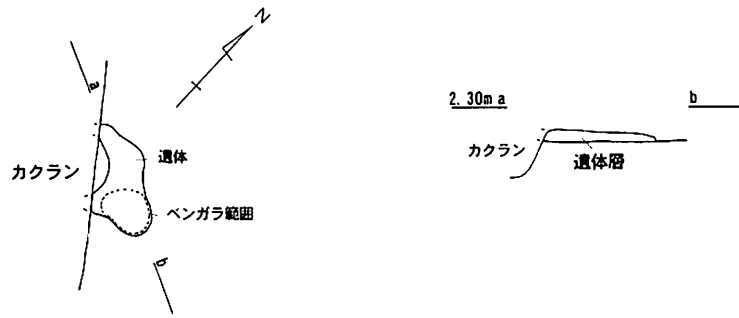


P-160

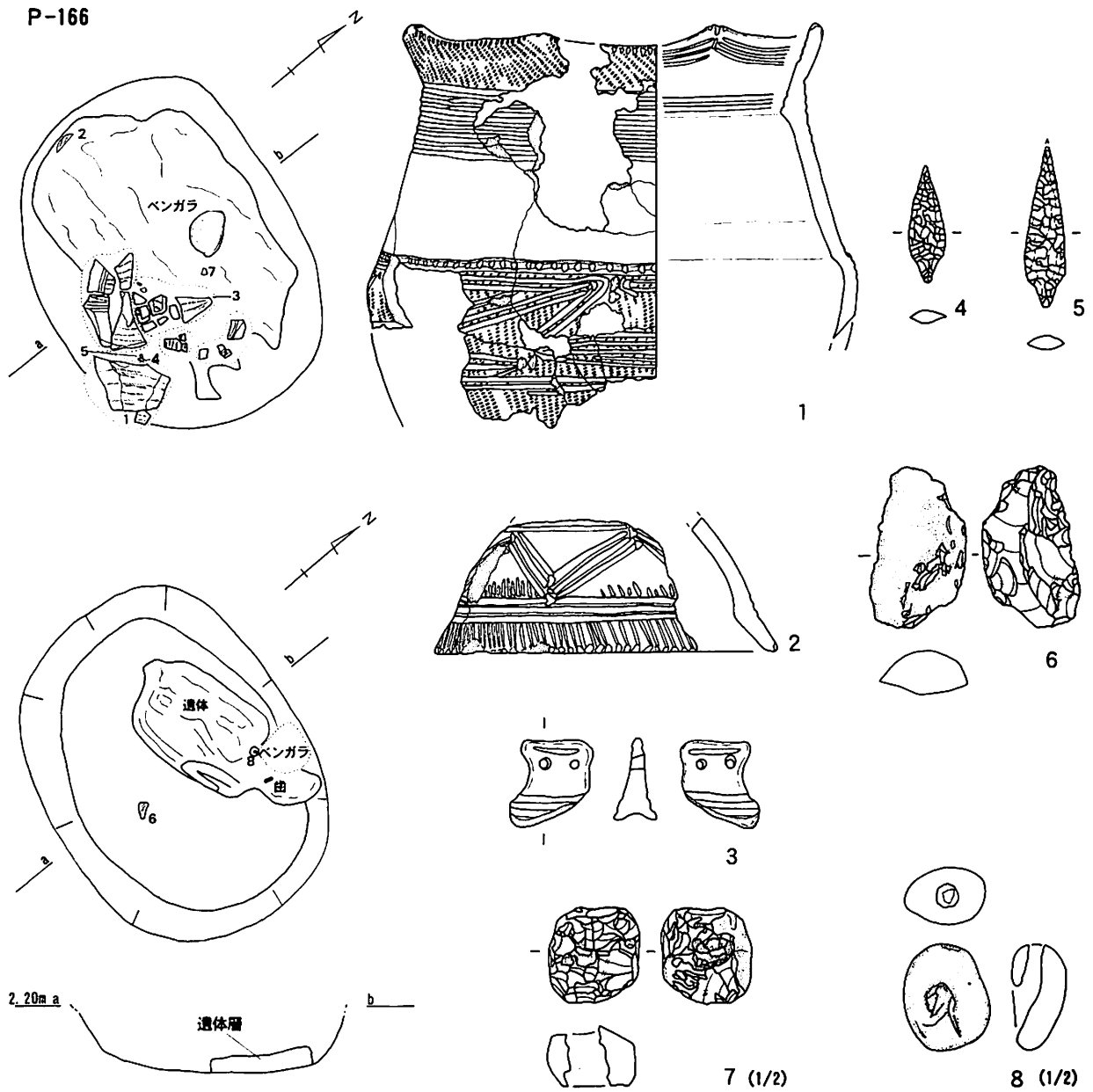


第26図 P-160・161 平面図と出土遺物

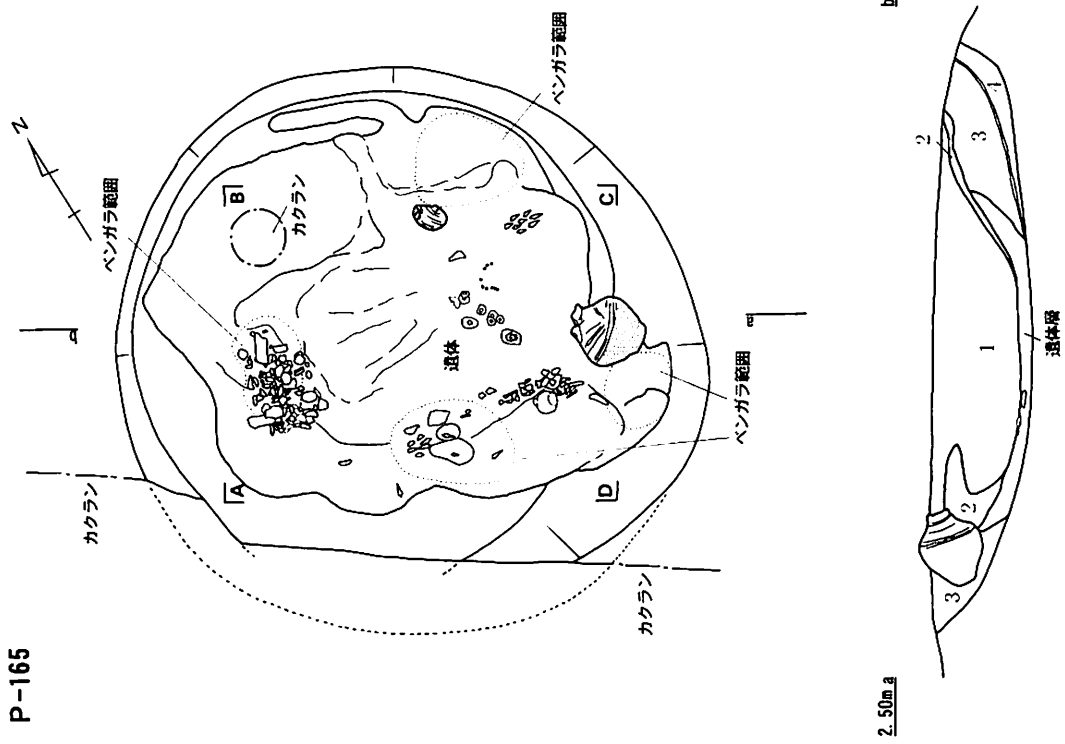
P-164



P-166

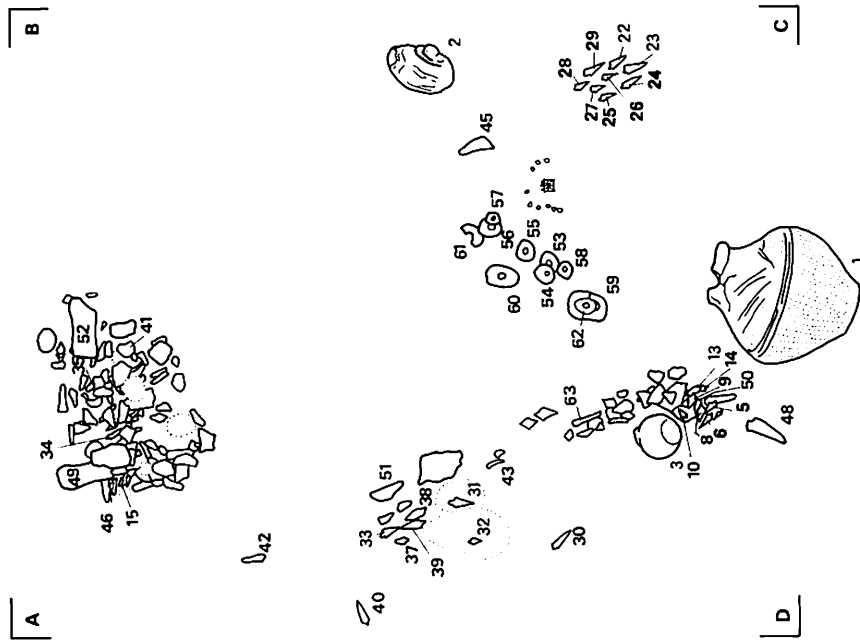


第27図 P-164・166 平面図とP-166 出土遺物



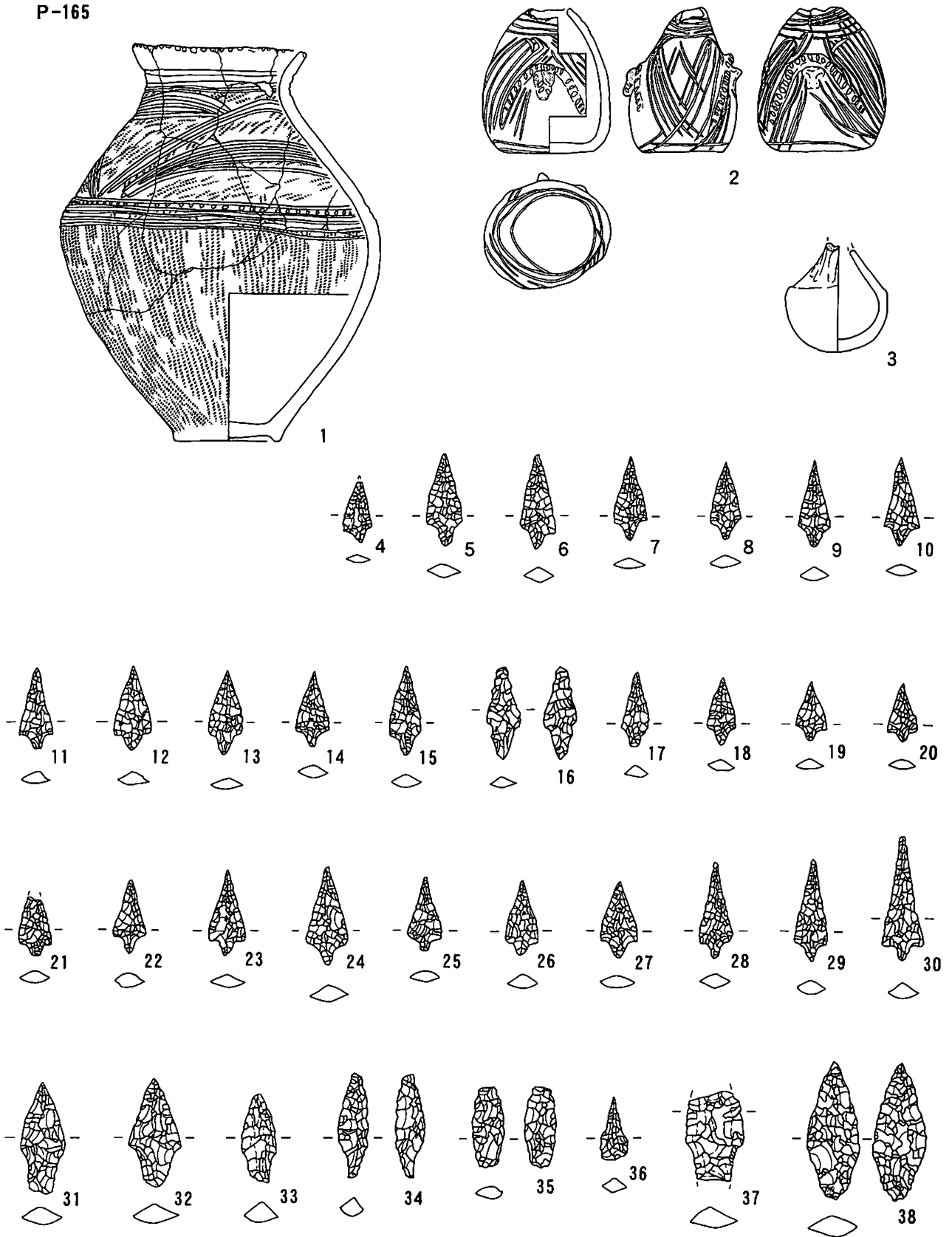
- 1. 暗褐色砂
- 2. 黒色砂(やや粘質あり)
- 3. 褐色砂
- 4. 暗赤褐色砂

<遺物出土状況> (S=1/10)



第28図 P-165 平面図

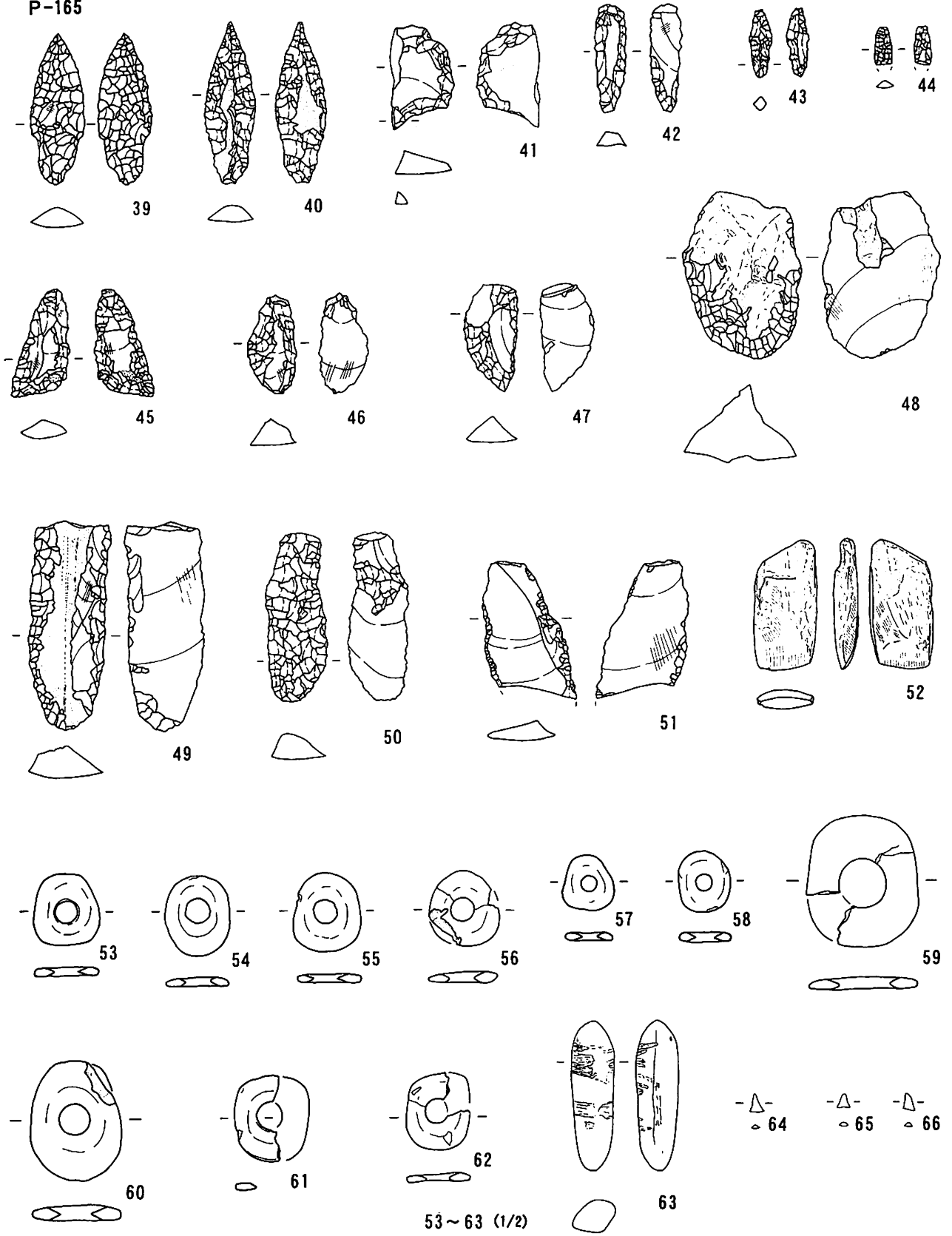
P-165



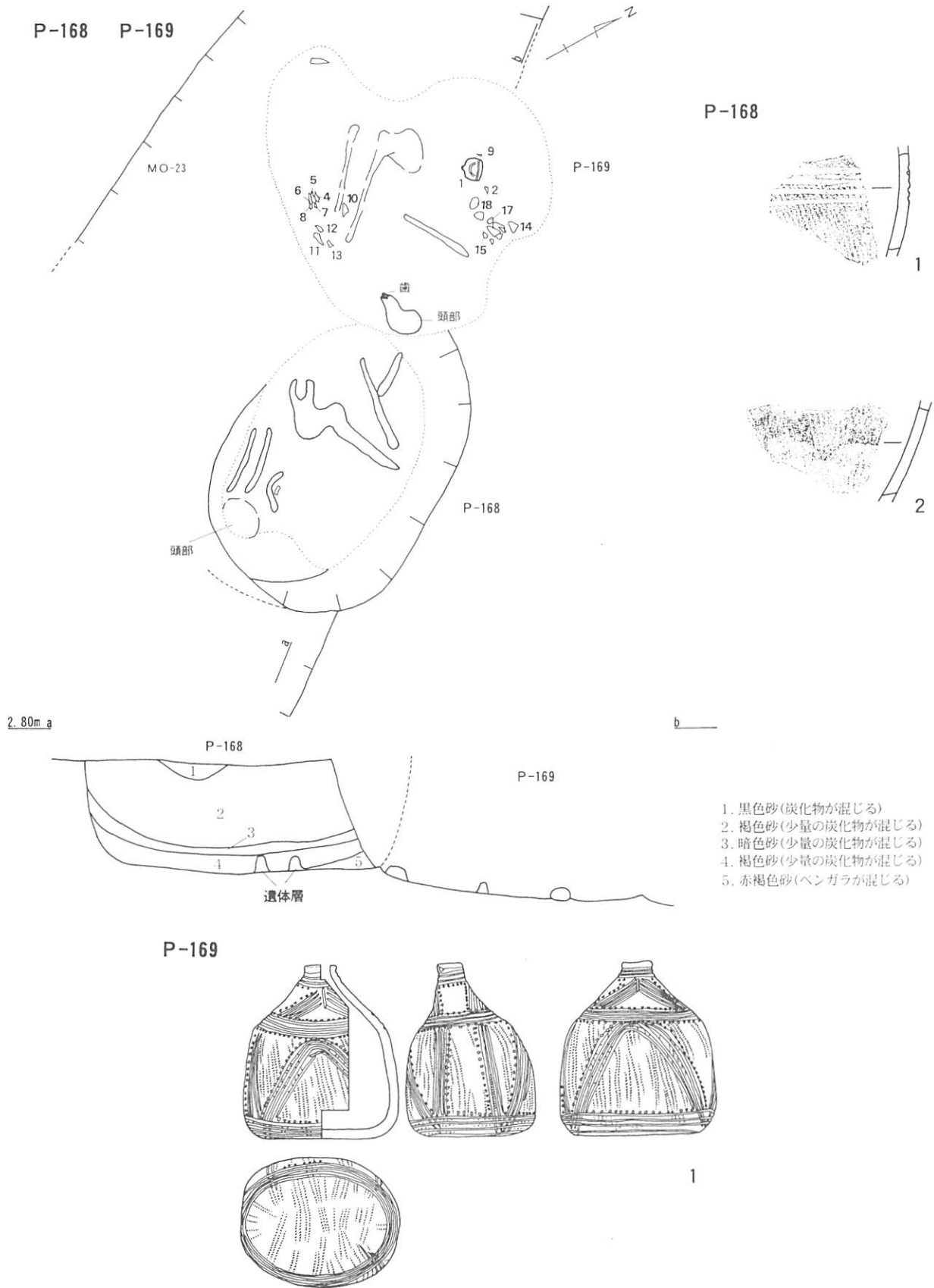
第29图 P-165 出土遺物 (1)



P-165

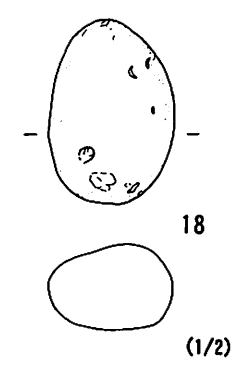
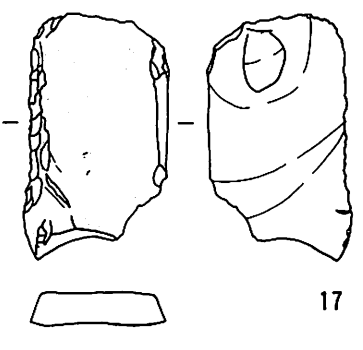
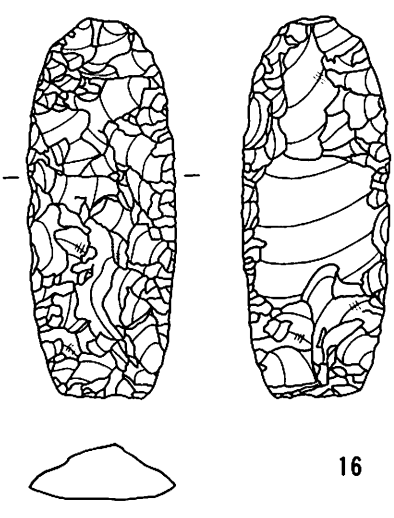
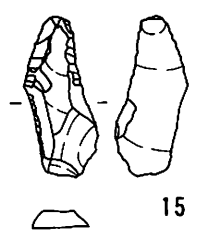
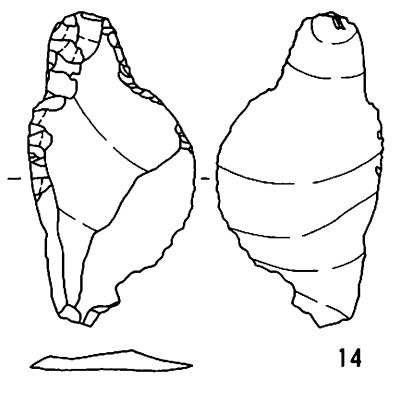
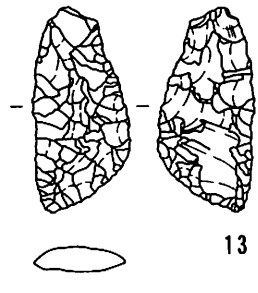
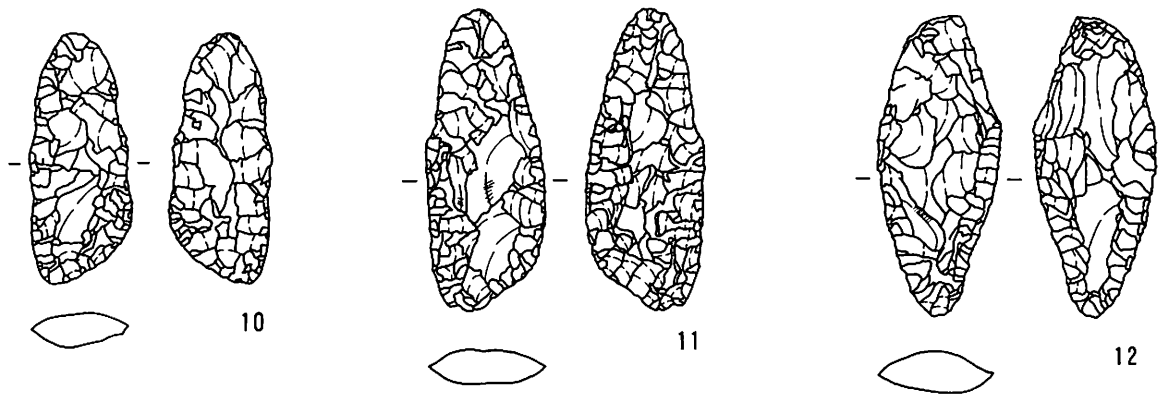
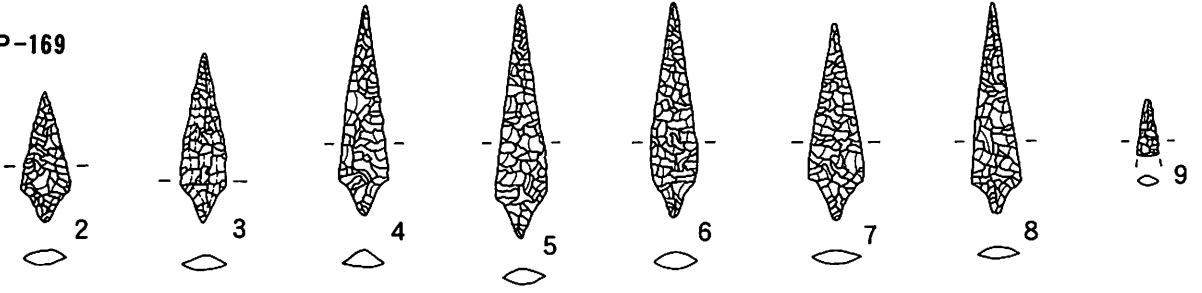


第30图 P-165 出土遺物 (2)

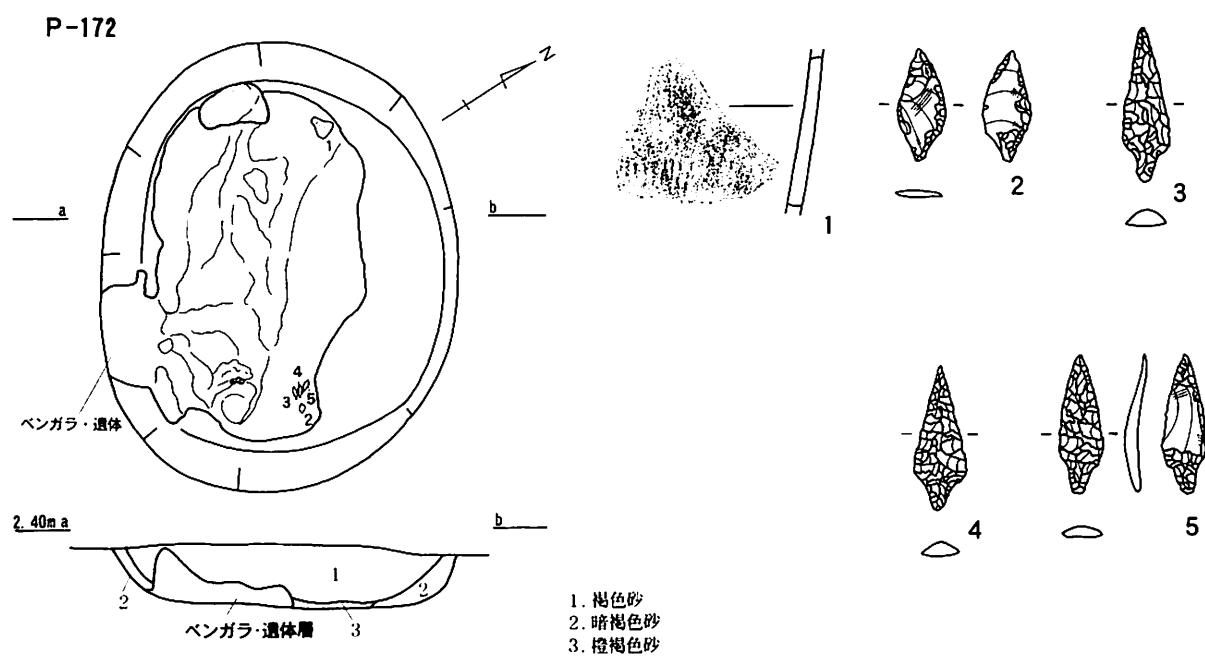
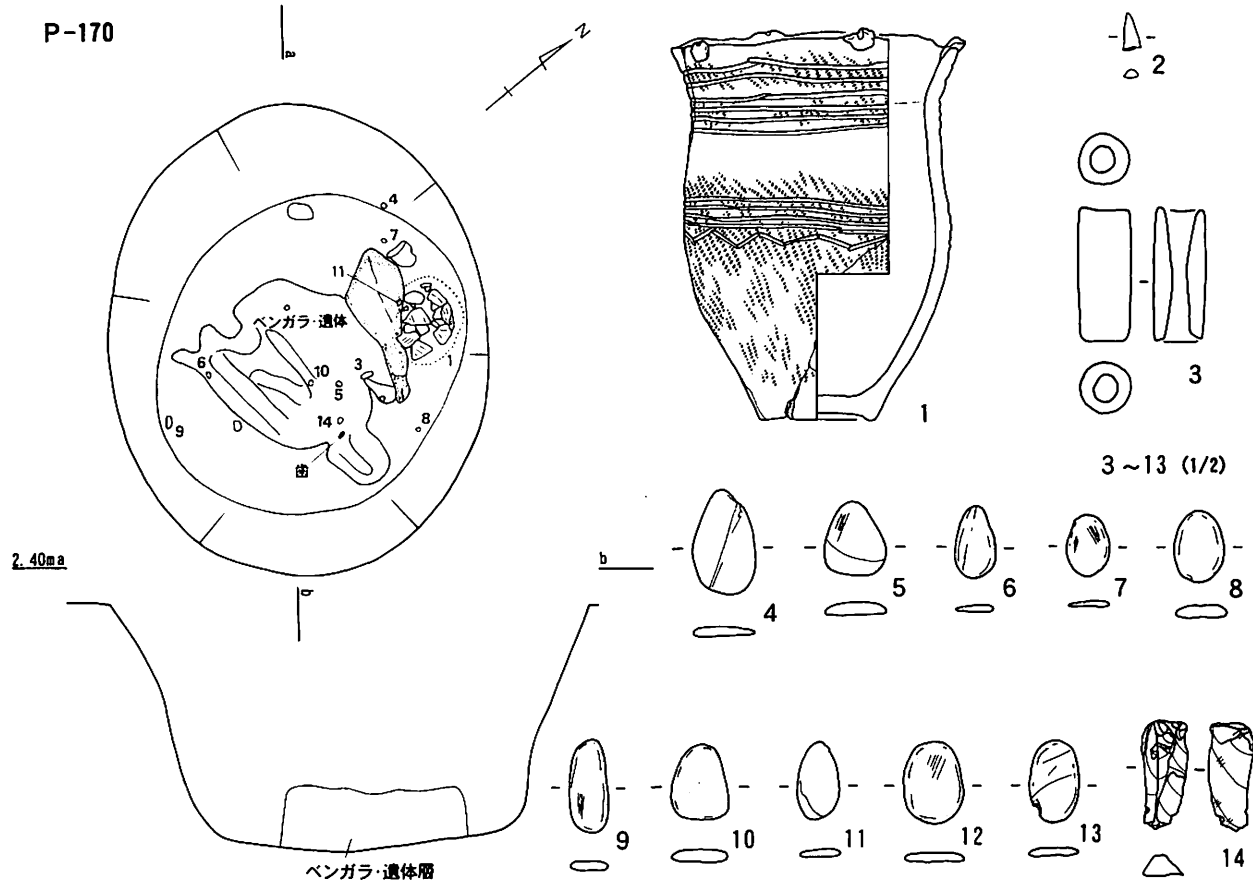


第31図 P-168・169 平面図と出土遺物

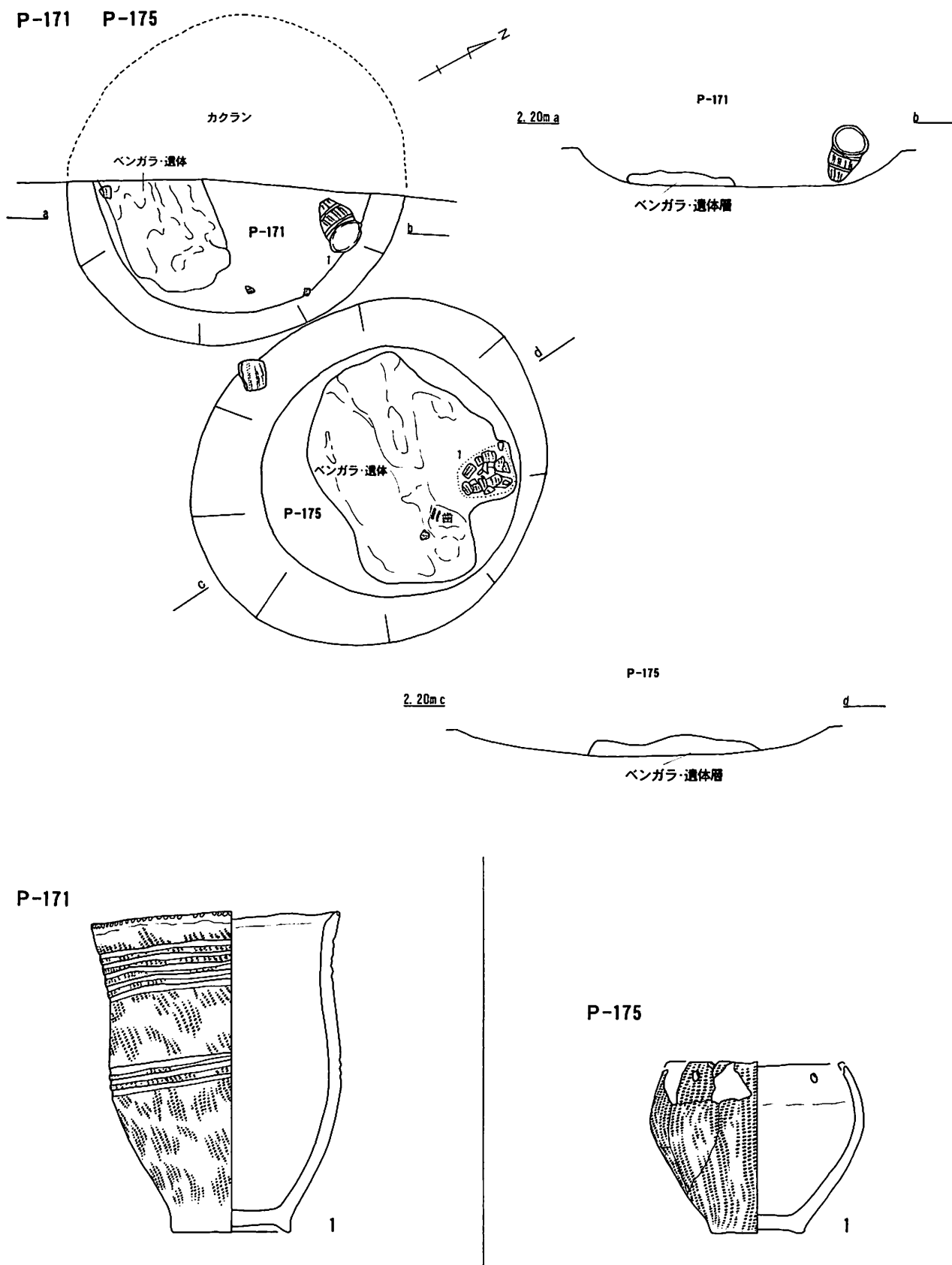
P-169



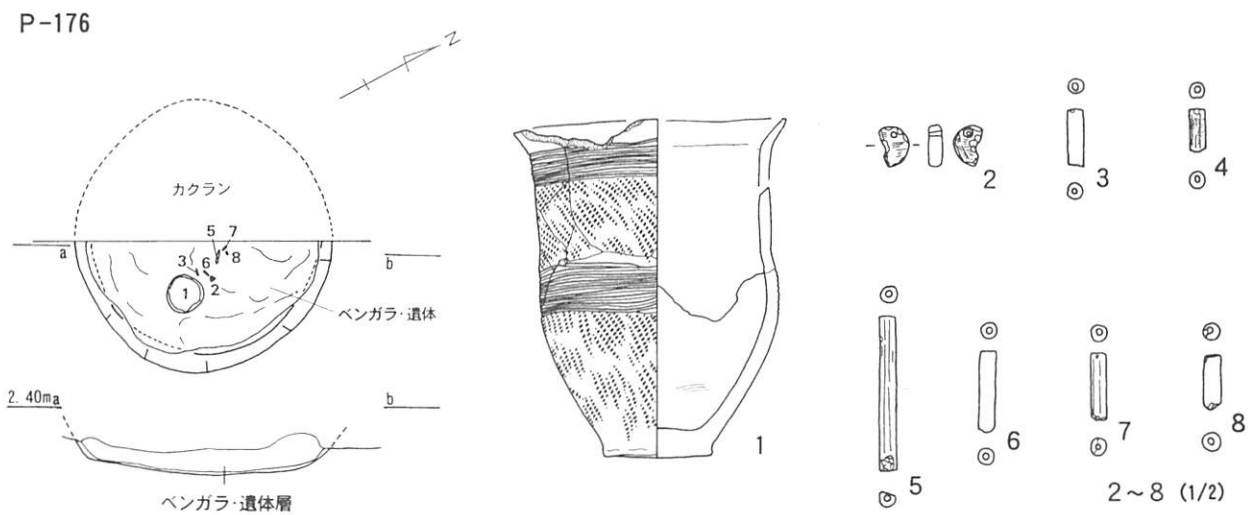
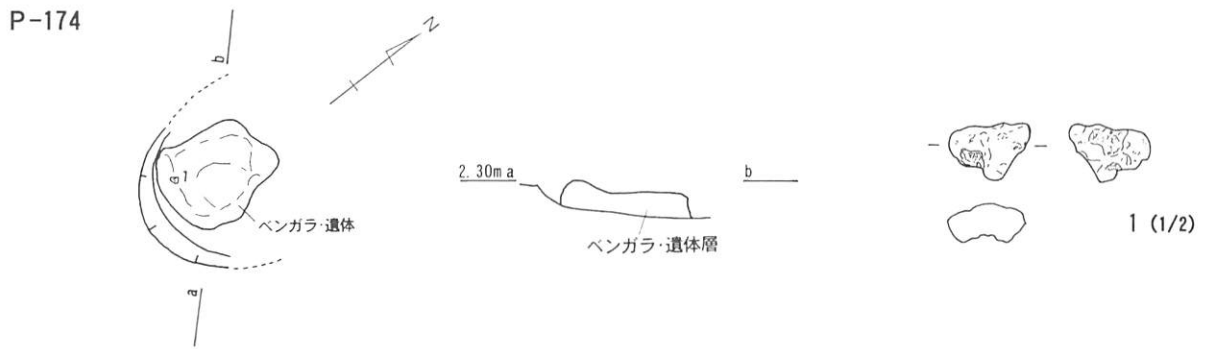
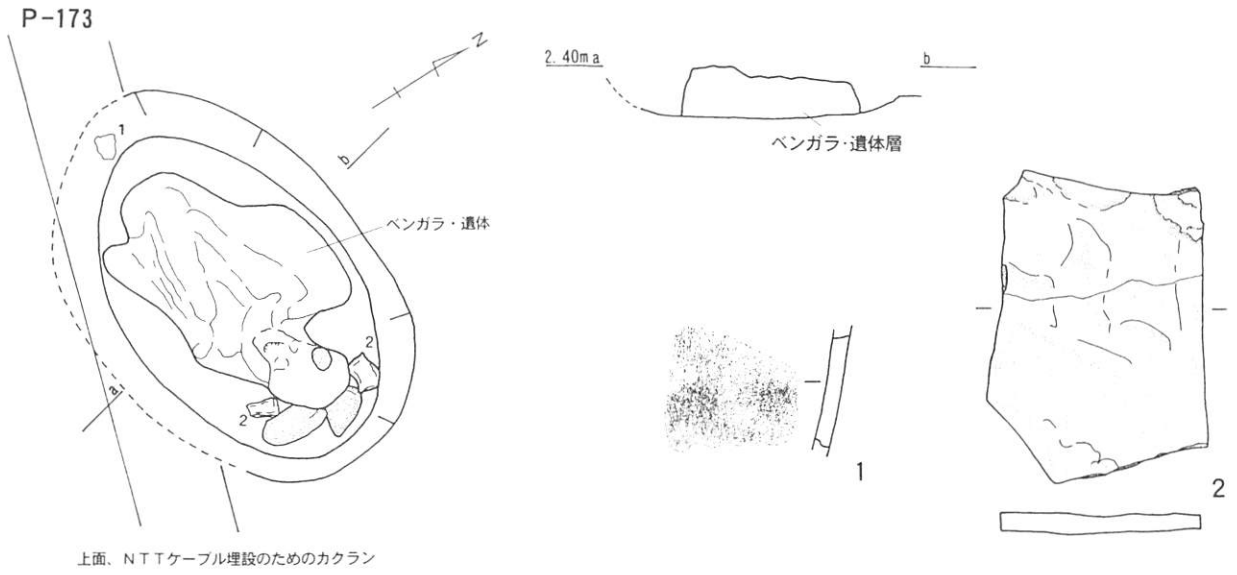
第32図 P-169 出土遺物



第33図 P-170・172 平面図と出土遺物

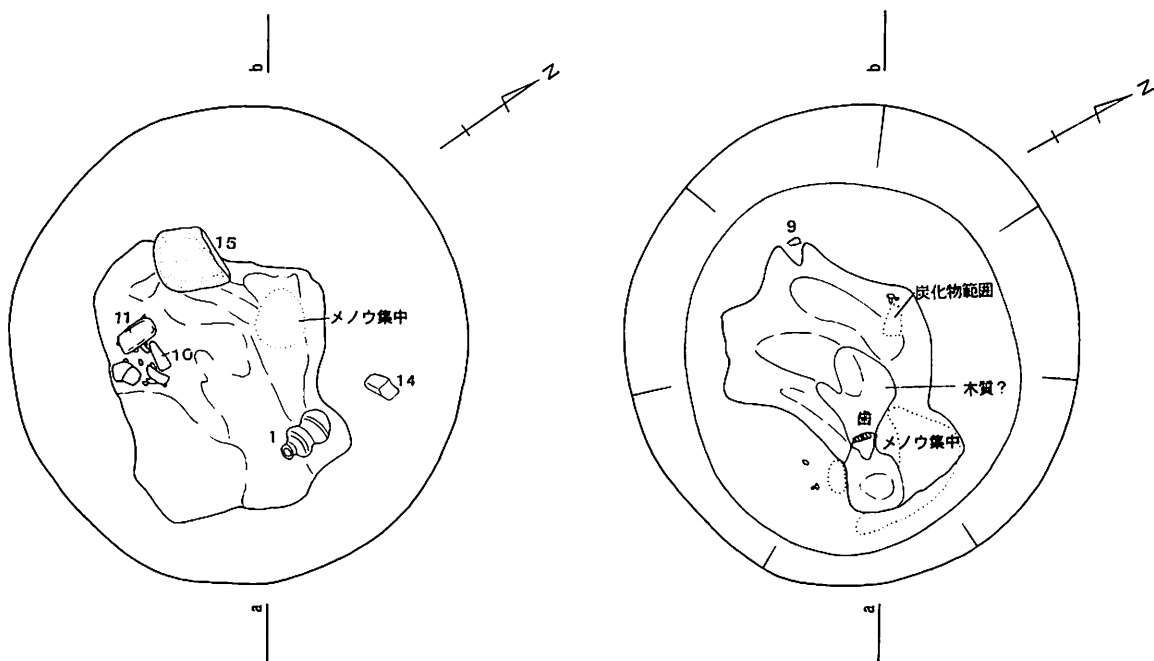


第34図 P-171・175 平面図と出土遺物

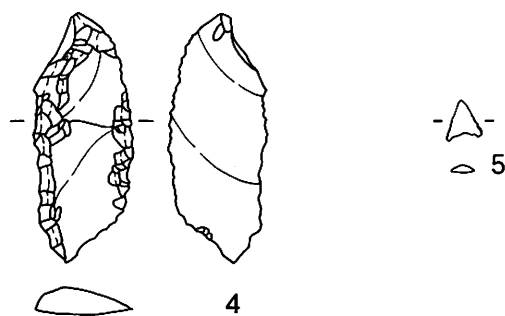
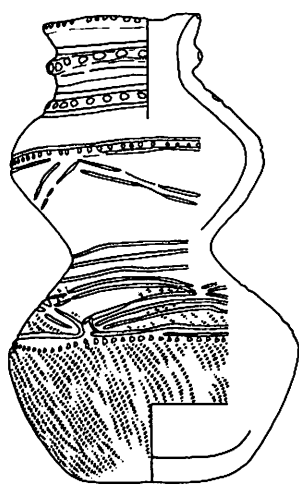
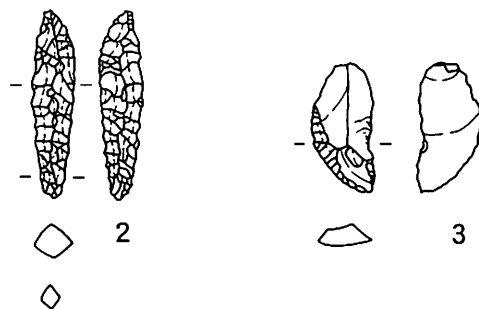


第35図 P-173・174・176 平面図と出土遺物

P-177

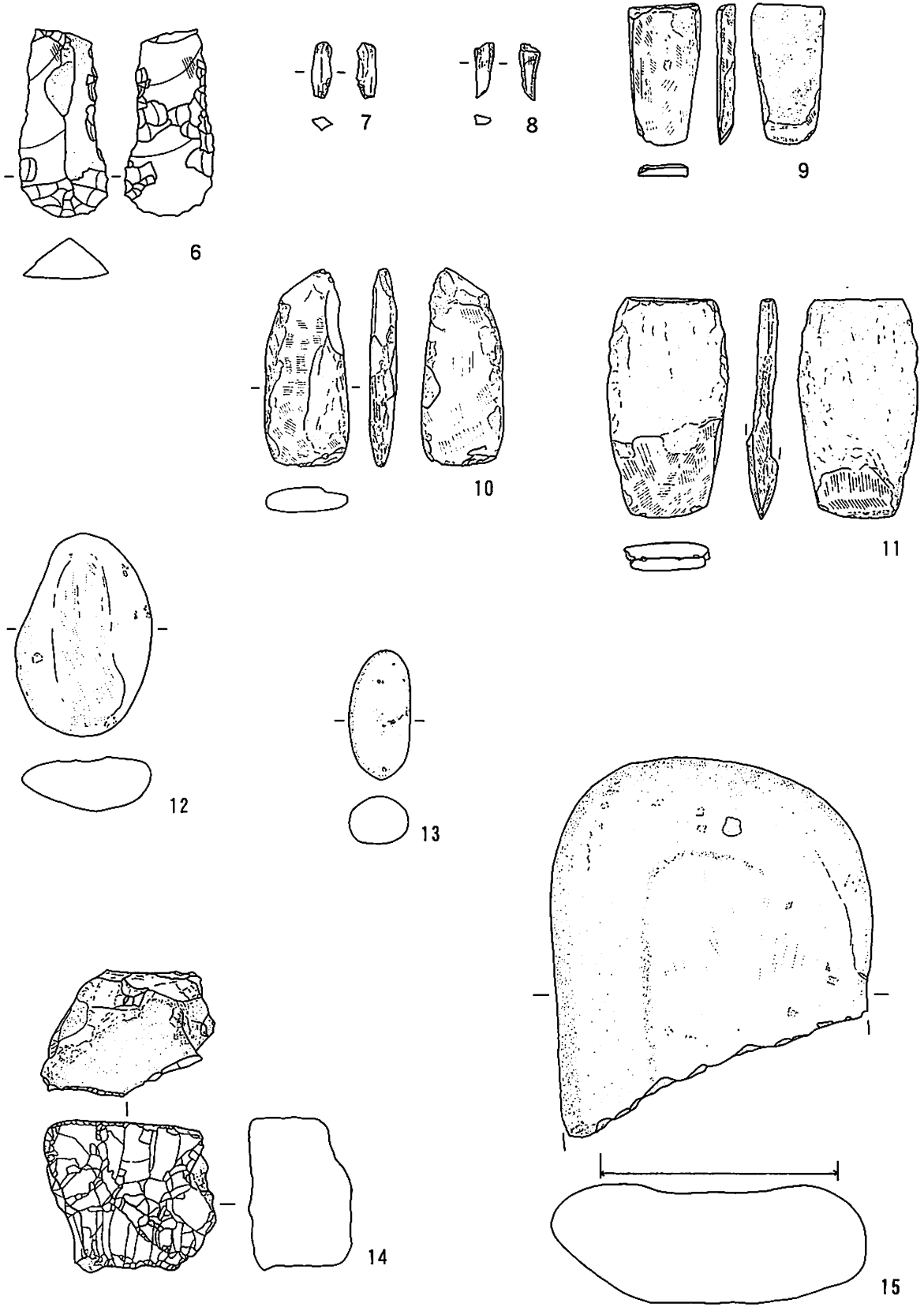


2.40m a



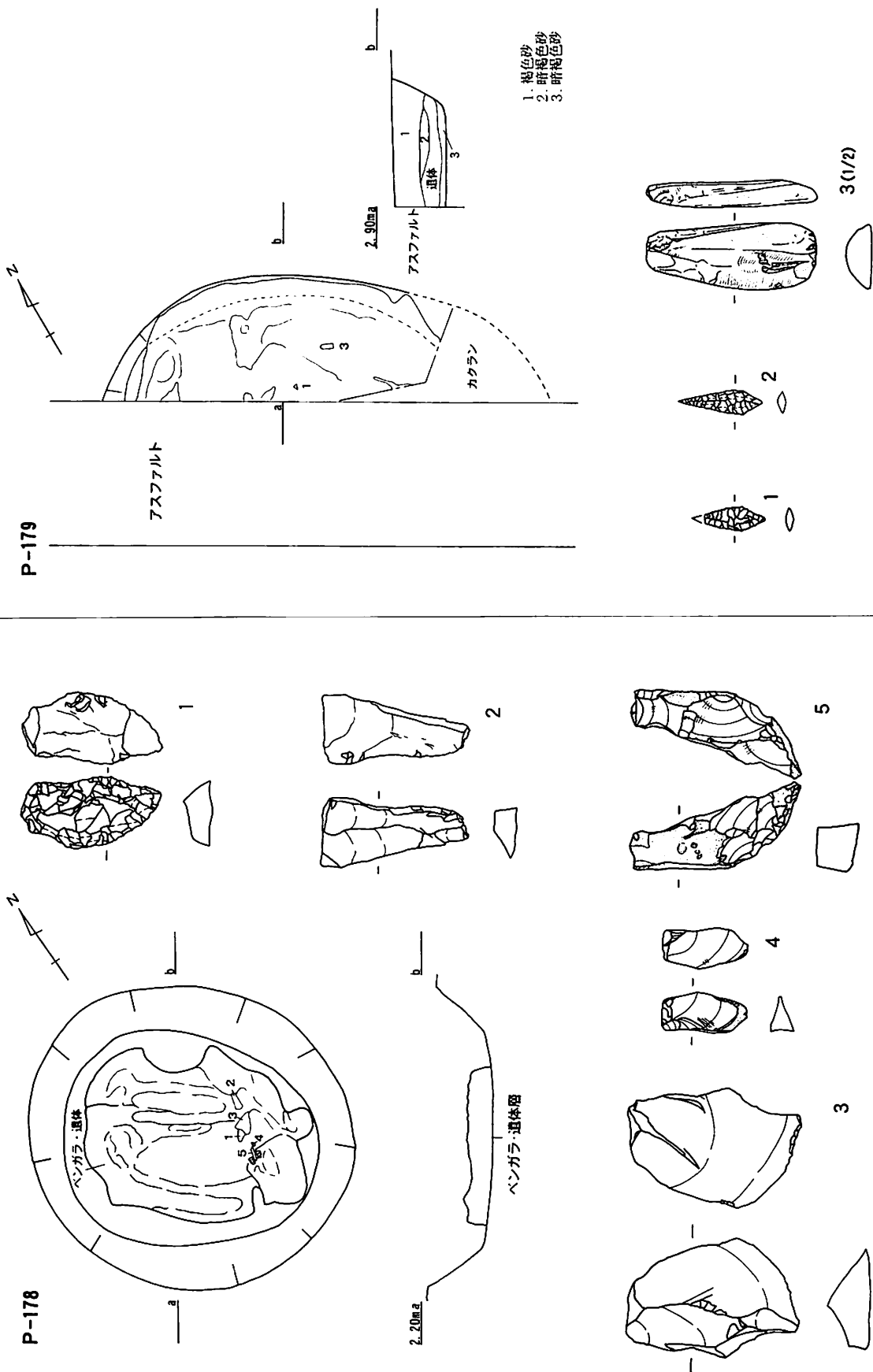
第36図 P-177 平面図と出土遺物

P-177

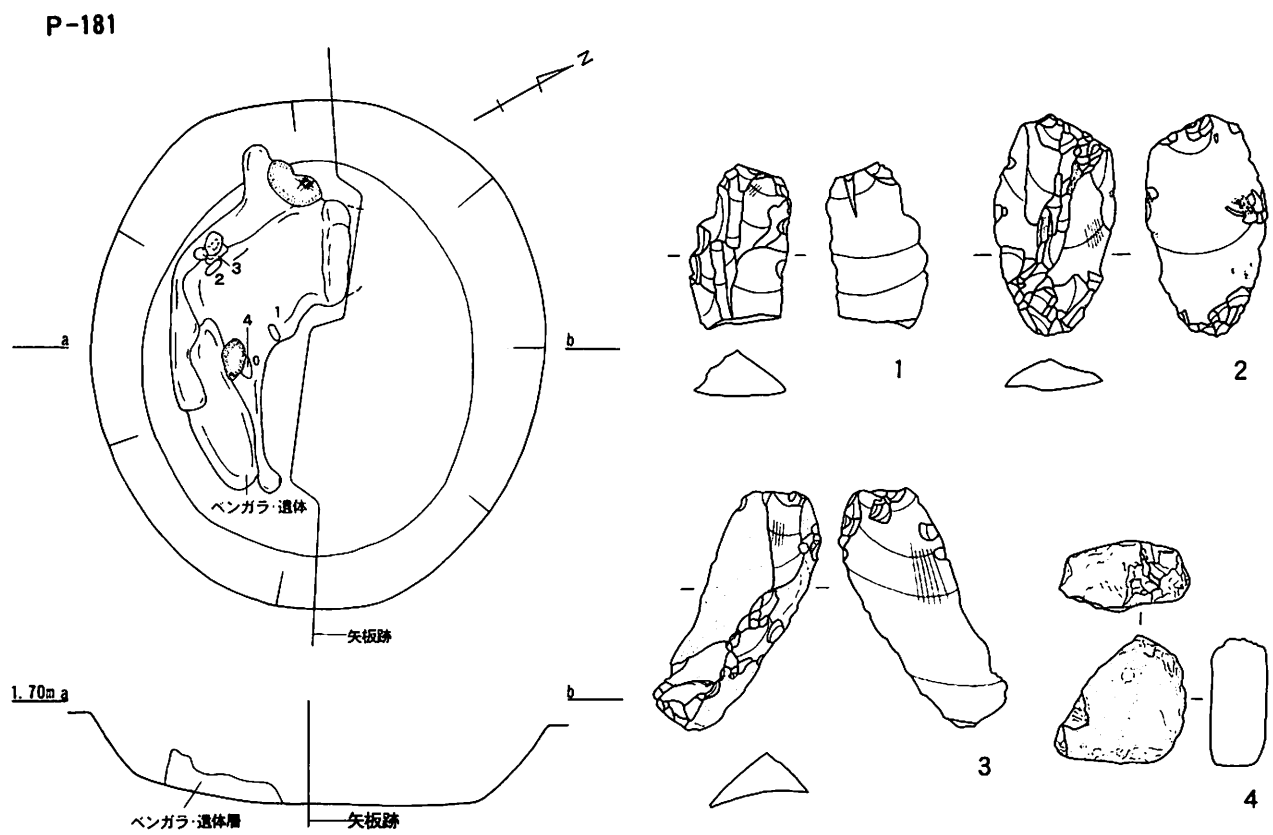
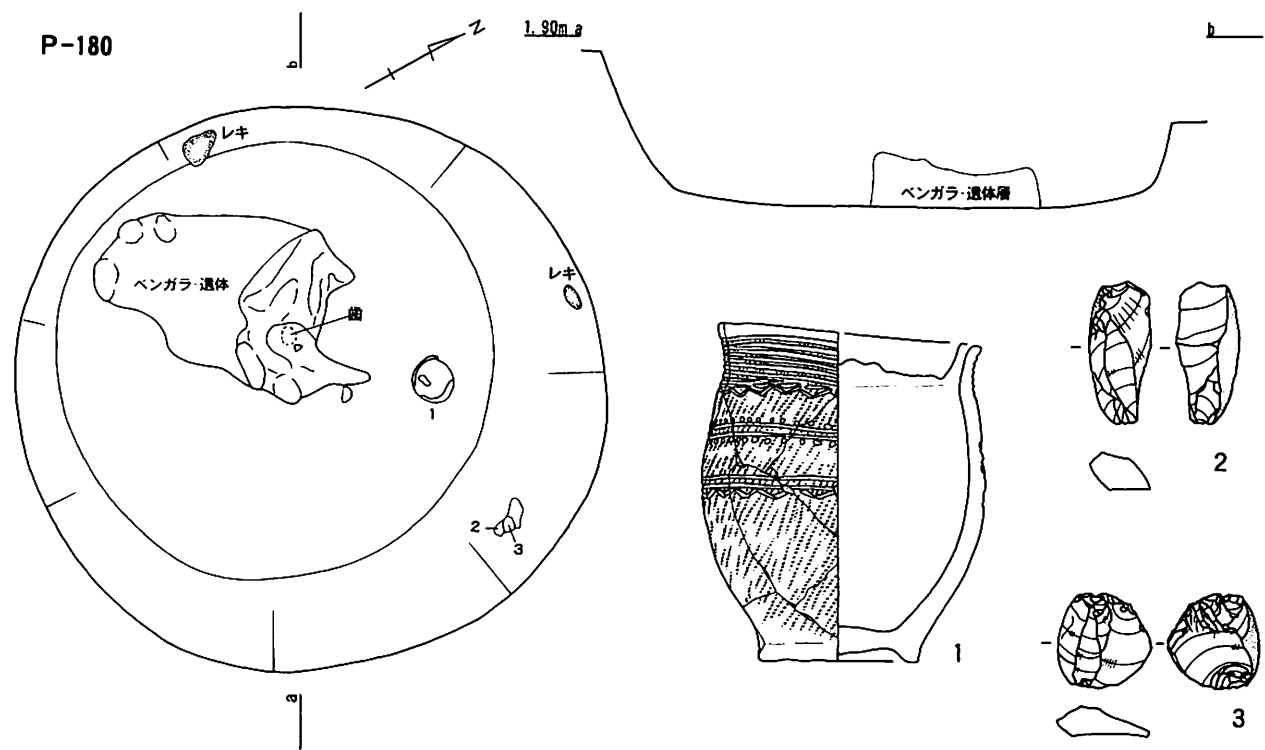


第37图 P-177 出土遺物



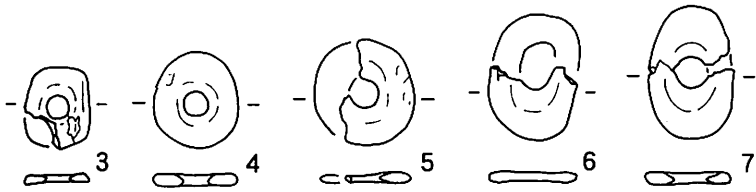
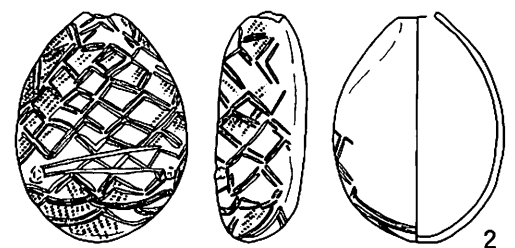
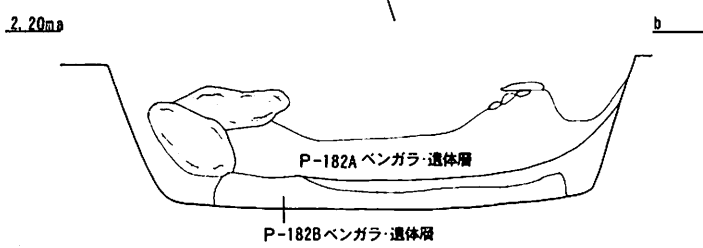
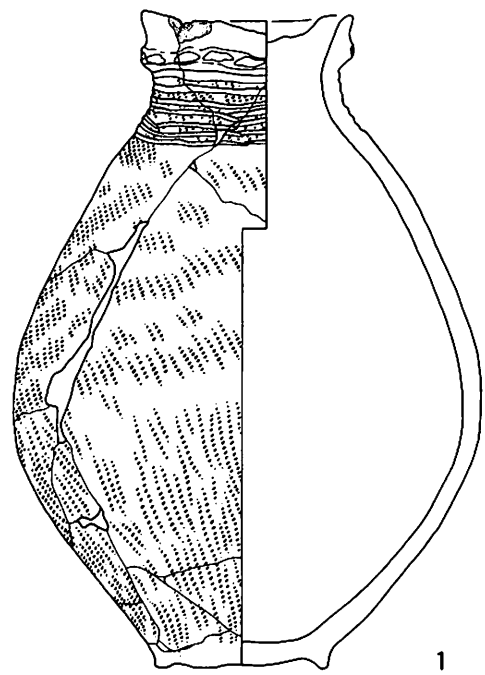
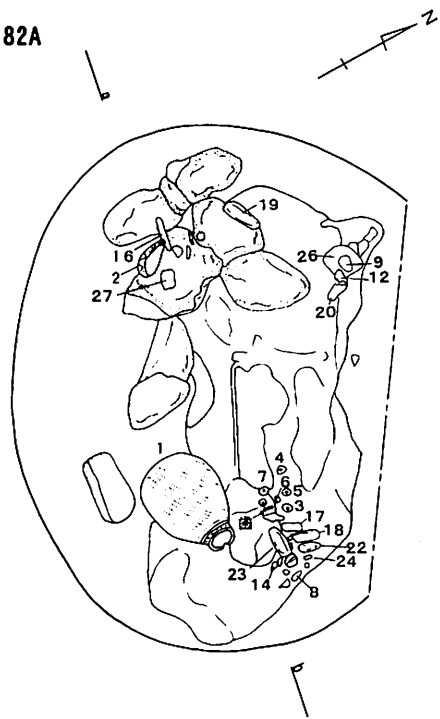


第38図 P-178・179 平面図と出土遺物

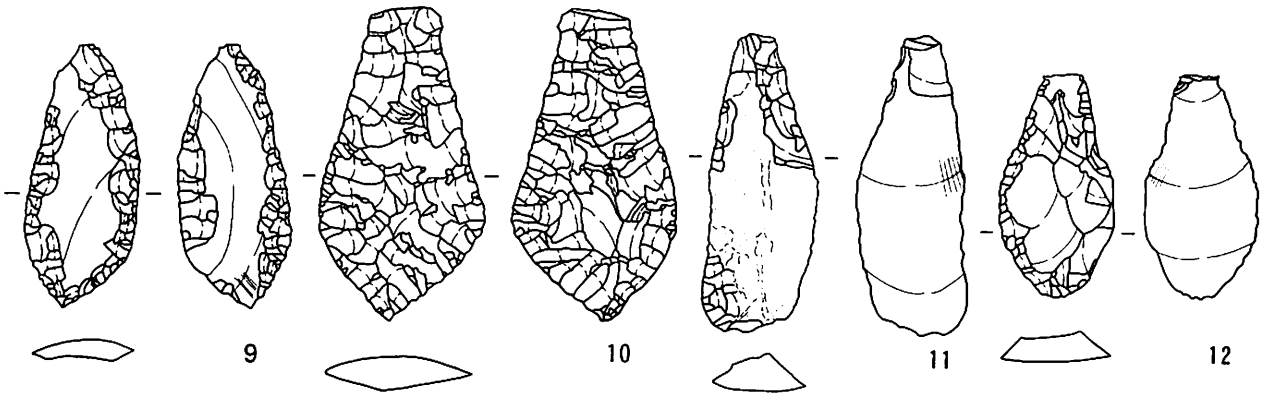
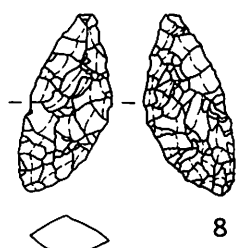


第39図 P-180・181 平面図と出土遺物

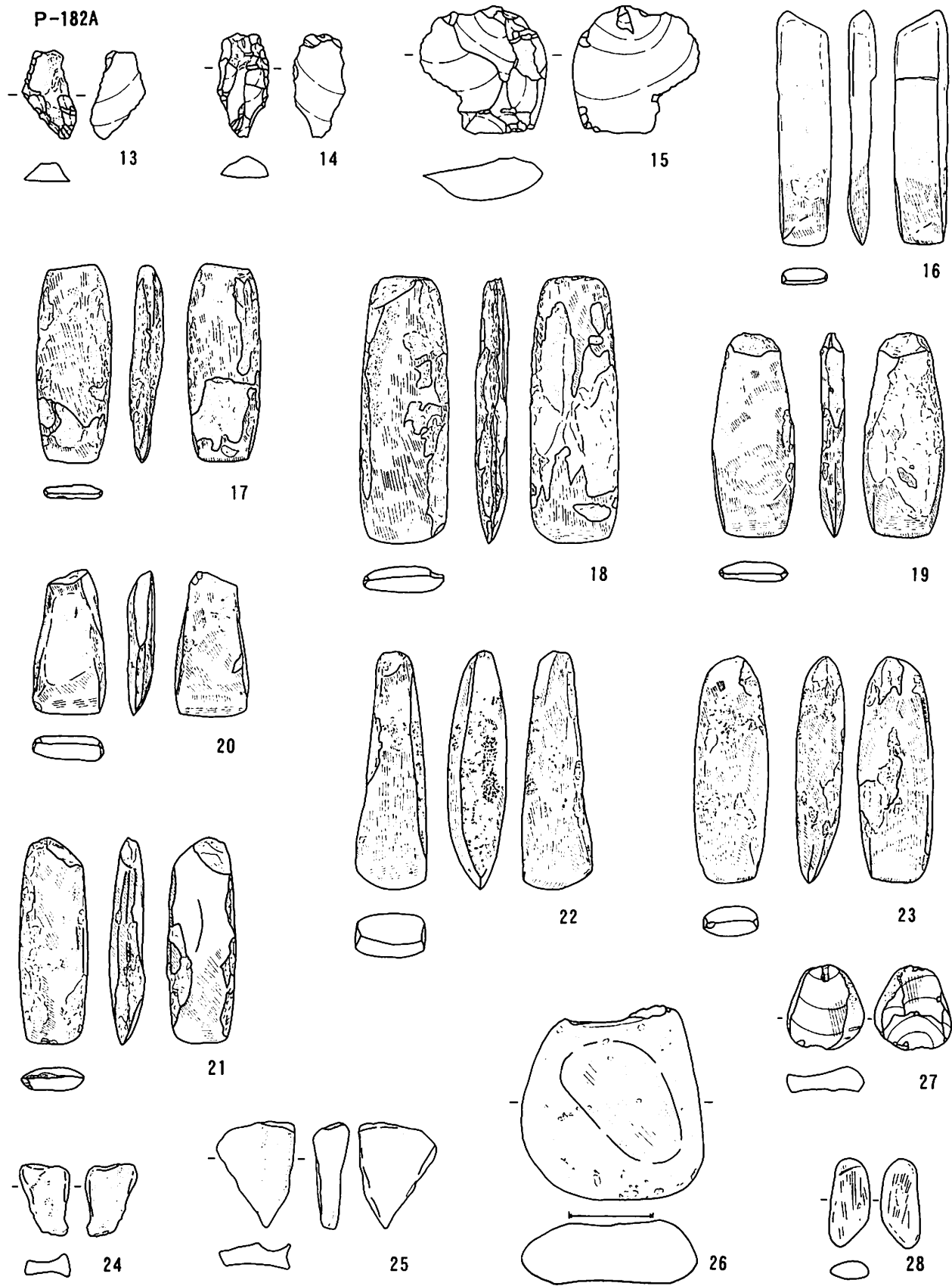
P-182A



3~7 (1/2)

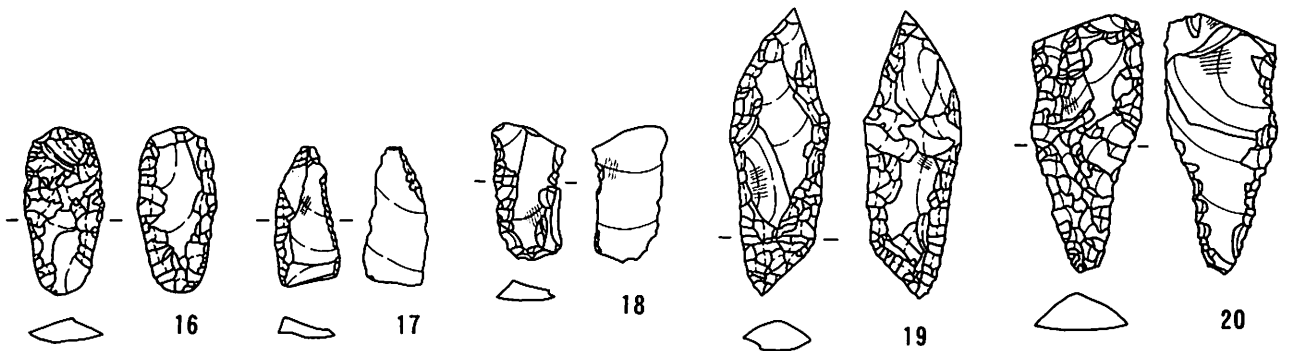
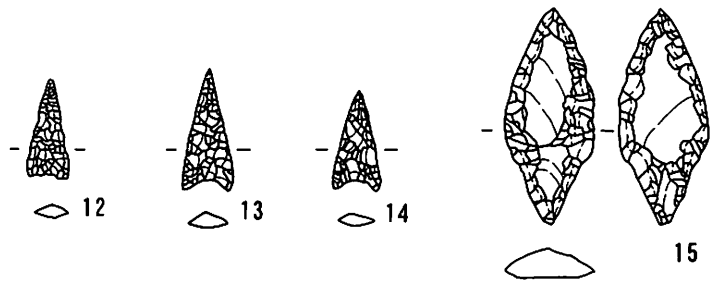
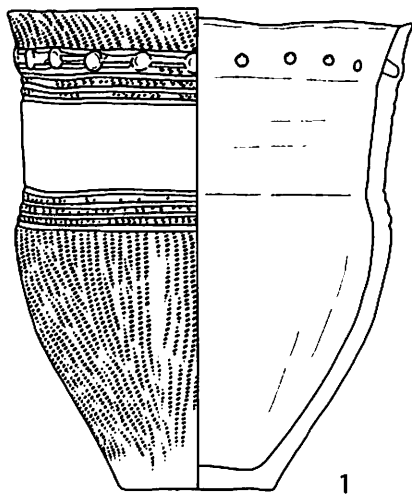
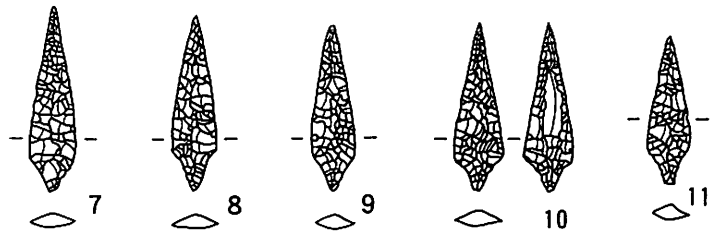
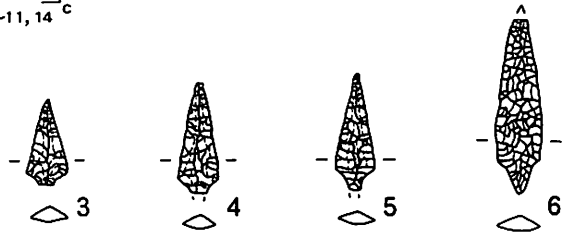
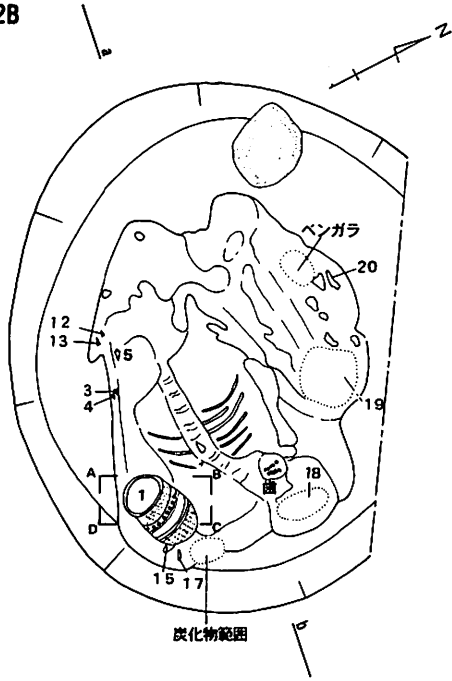


第40図 P-182A 平面図と出土遺物



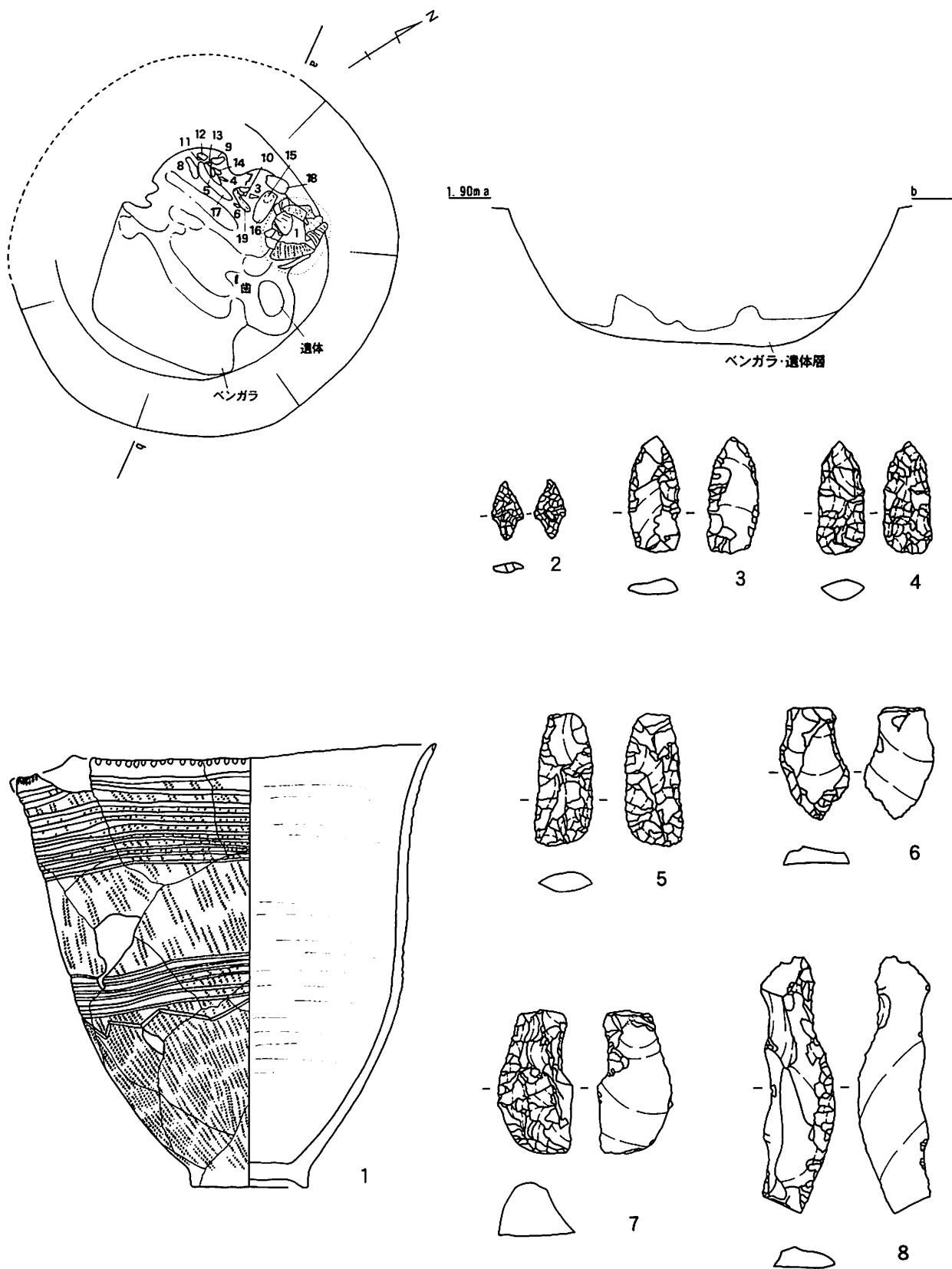
第41图 P-182A 出土遺物

P-182B



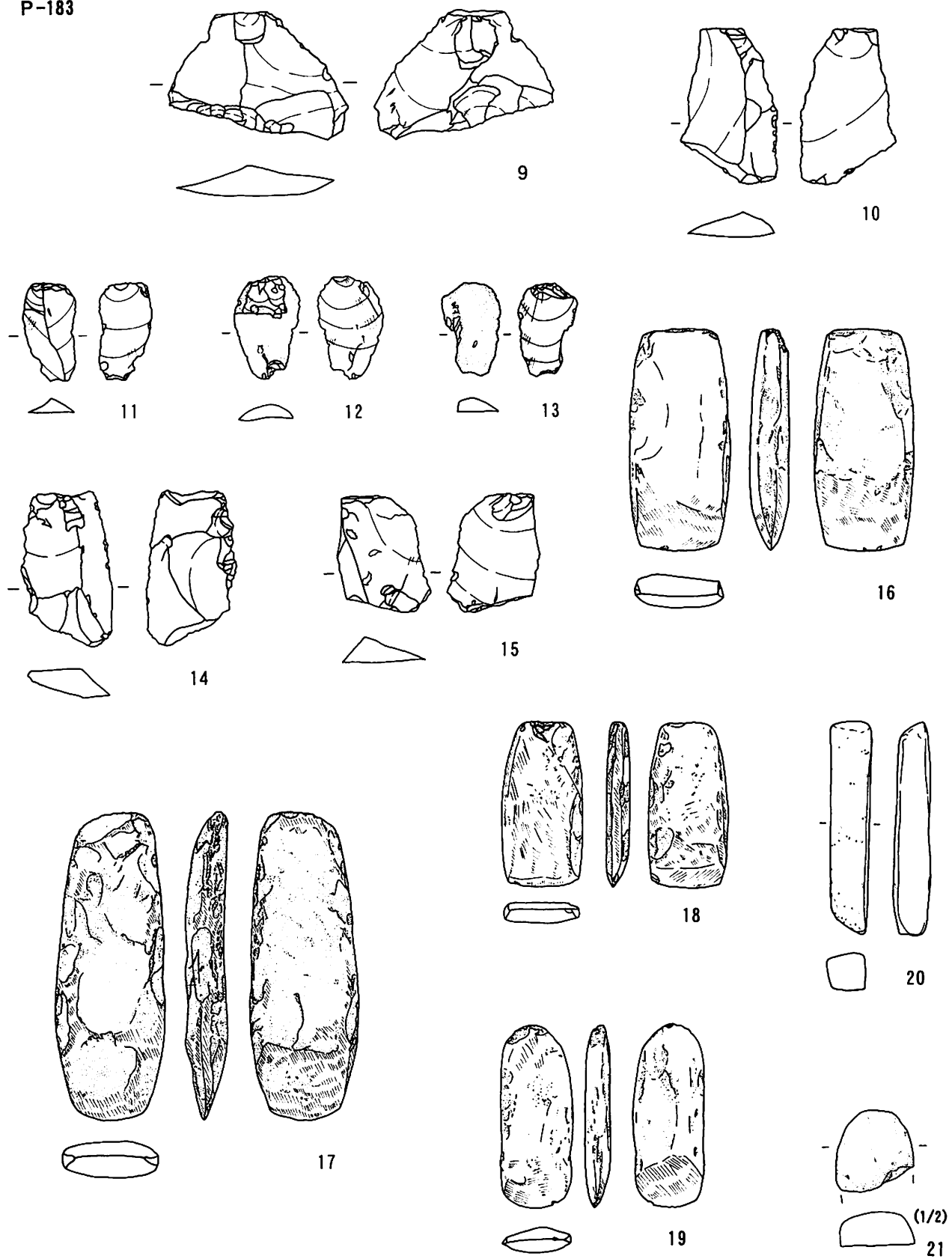
第42図 P-182B 平面図と出土遺物

P-183



第43図 P-183 平面図と出土遺物

P-183

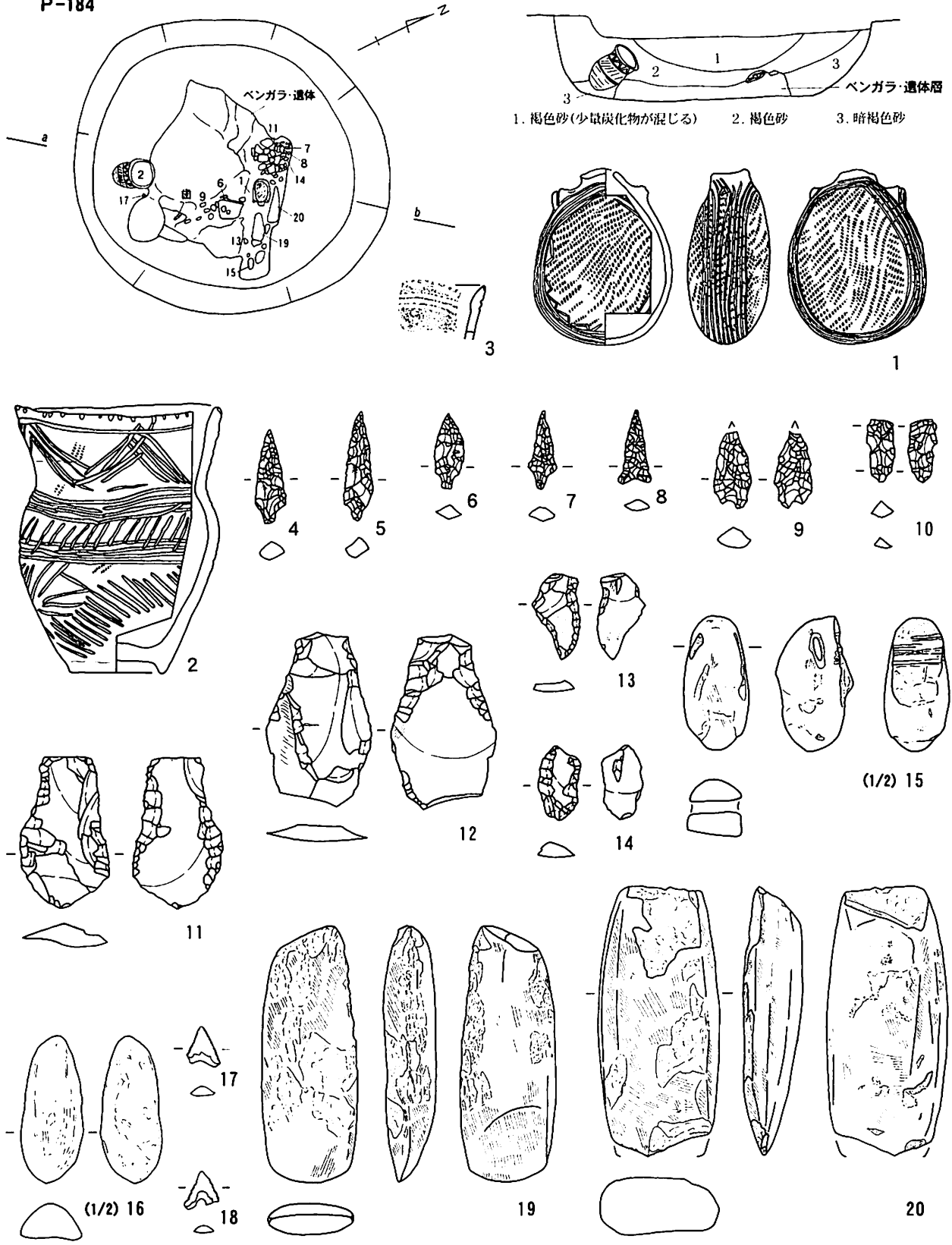


第44图 P-183 出土遺物

P-184

1.90m a

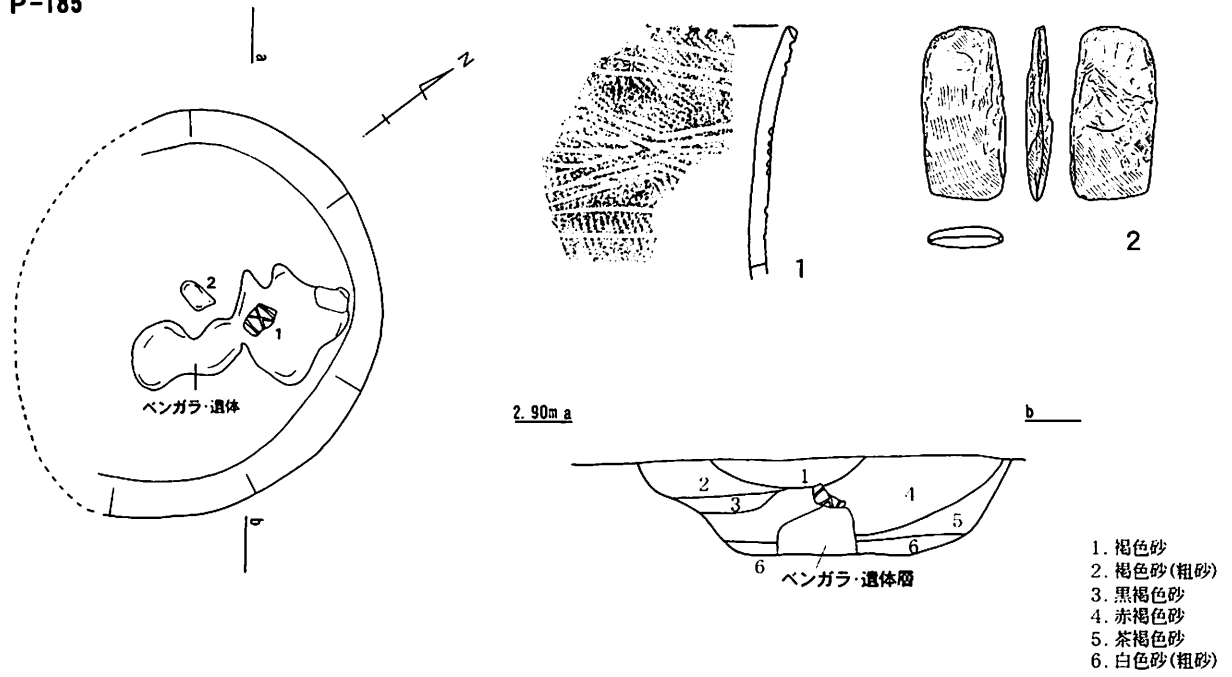
b



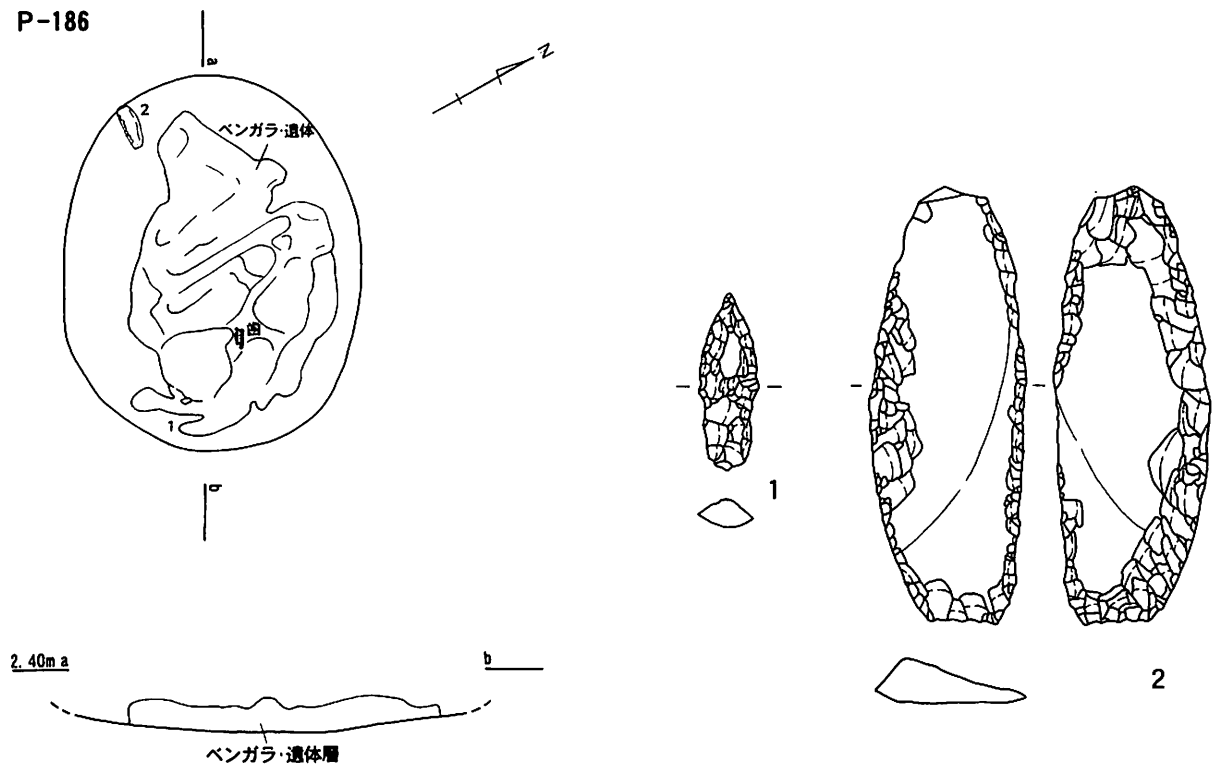
第45図 P-184 平面図と出土遺物



P-185

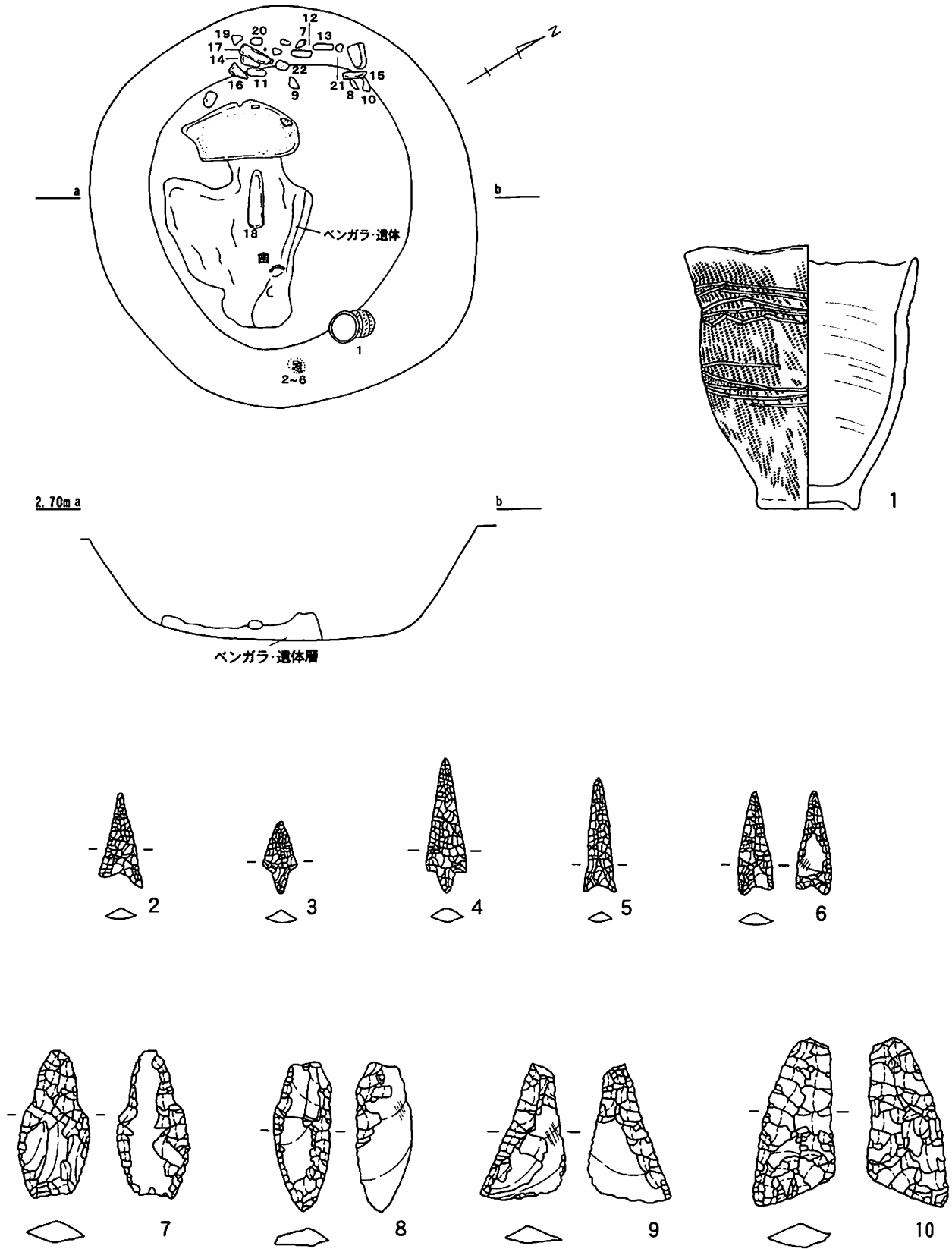


P-186



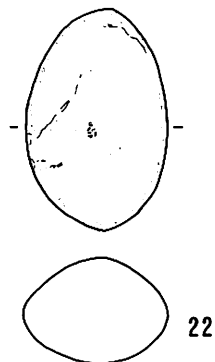
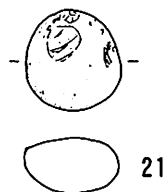
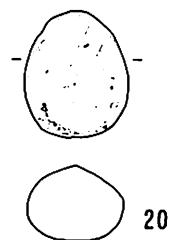
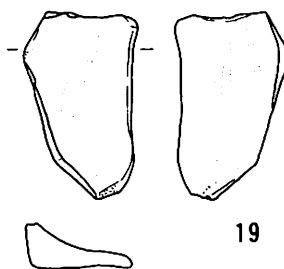
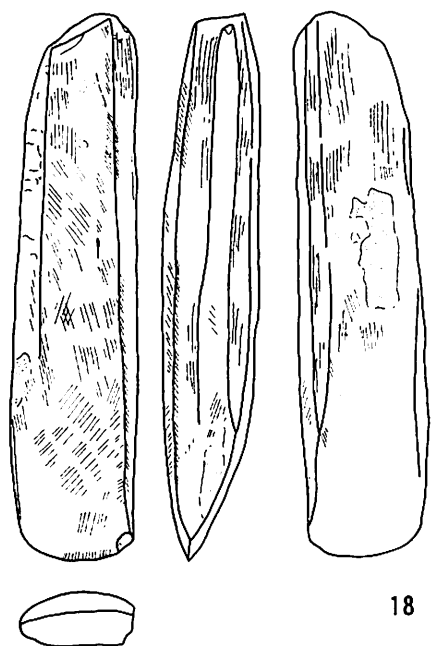
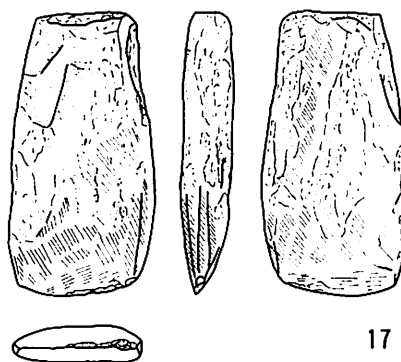
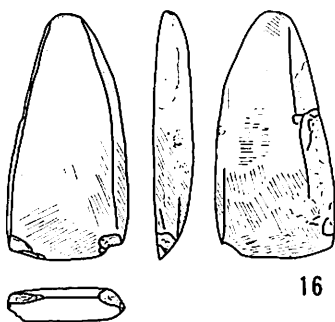
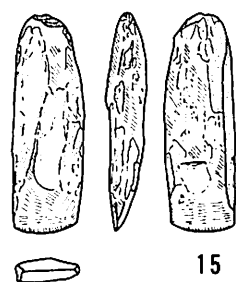
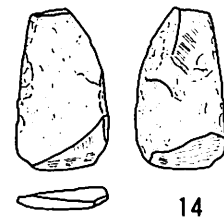
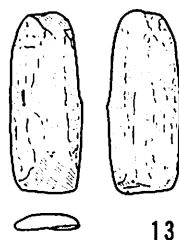
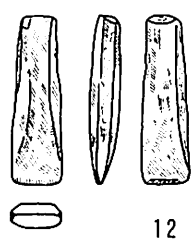
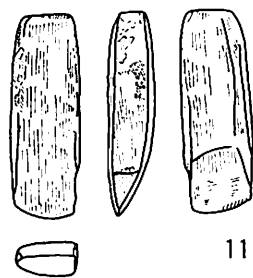
第46図 P-185・186 平面図と出土遺物

P-187

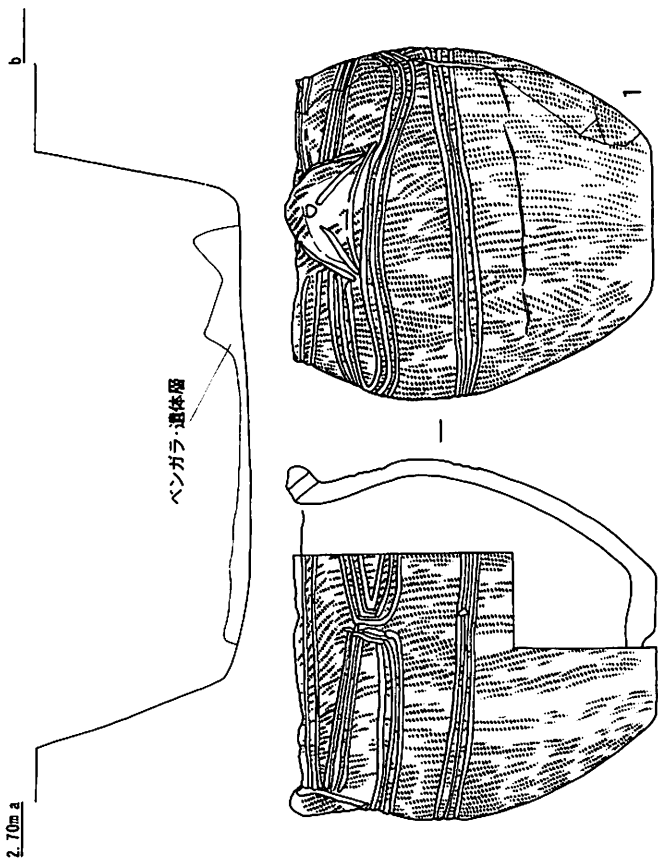


第47図 P-187 平面図と出土遺物

P-187

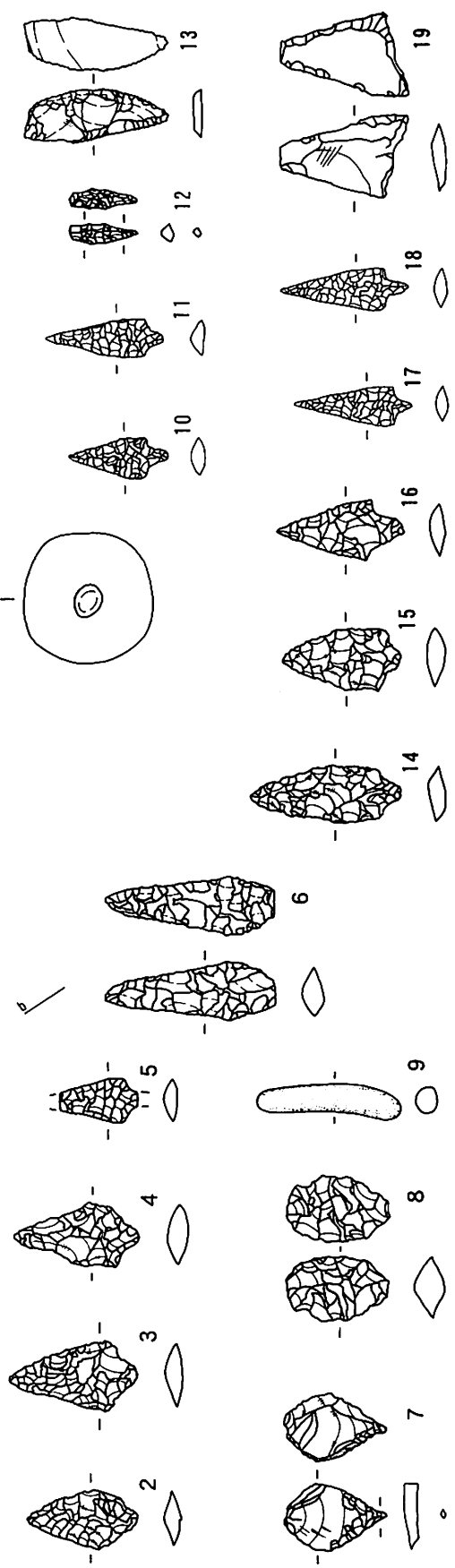


第48图 P-187 出土遺物

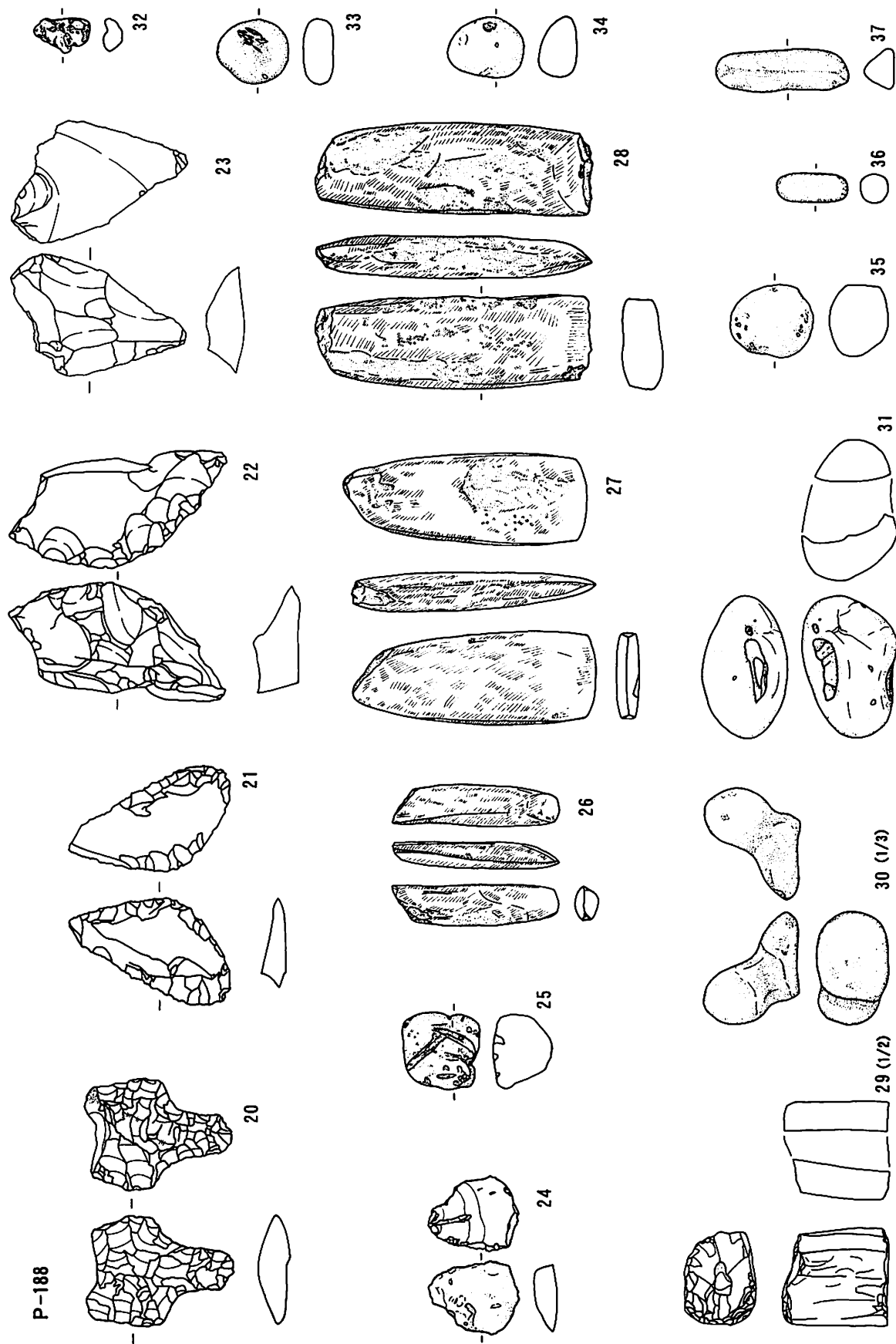


P-188

石器集中  
 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩

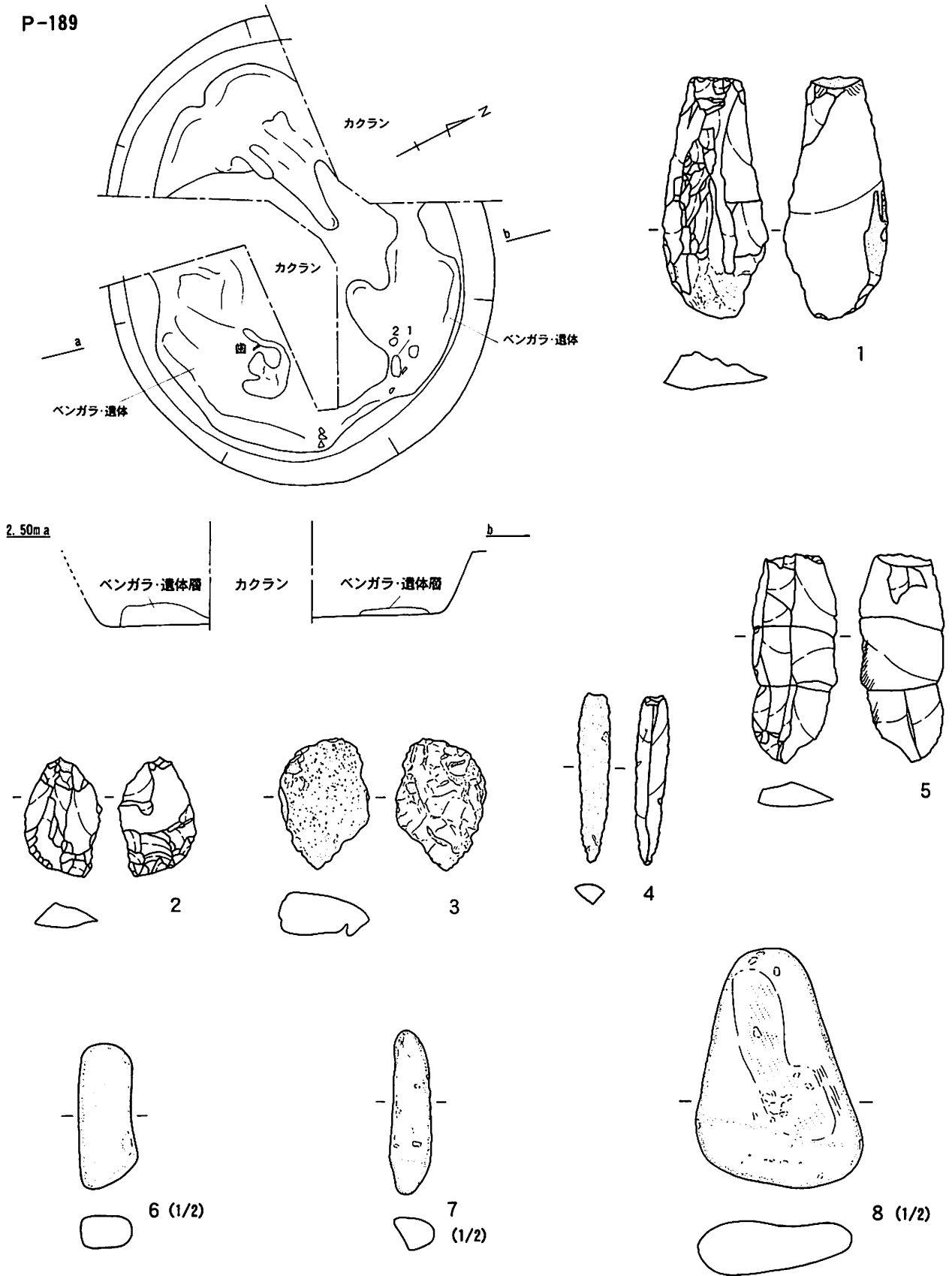


第49図 P-188 平面図と出土遺物

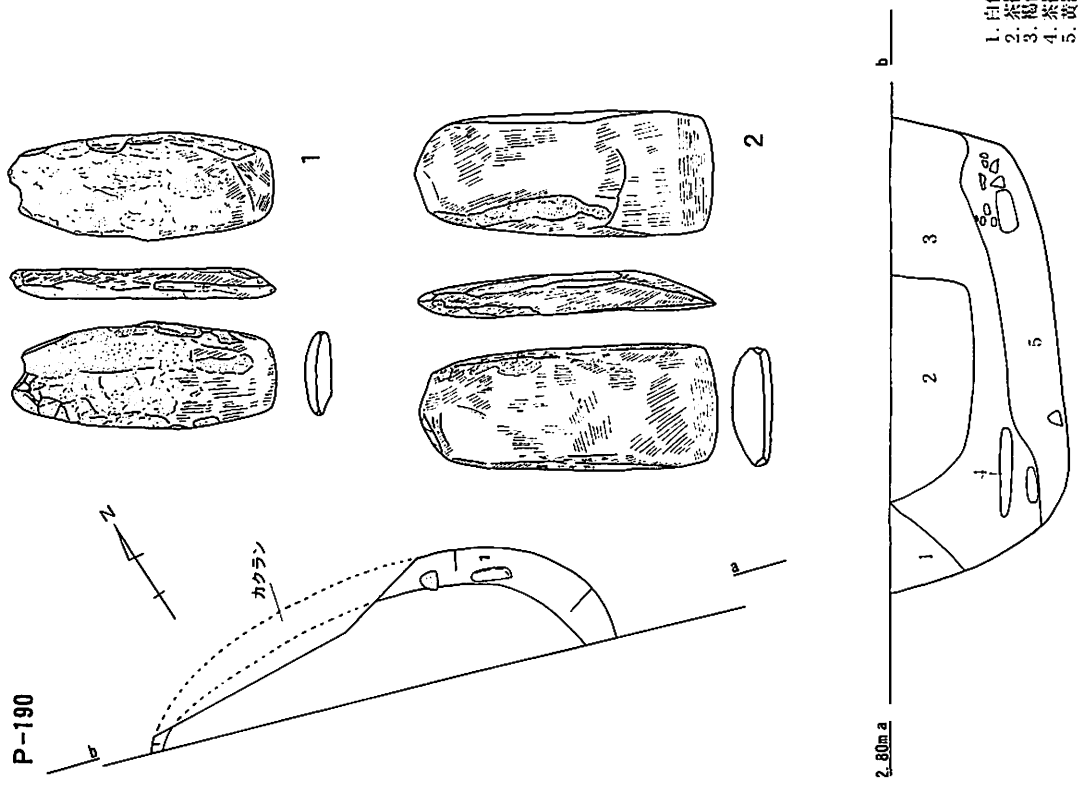
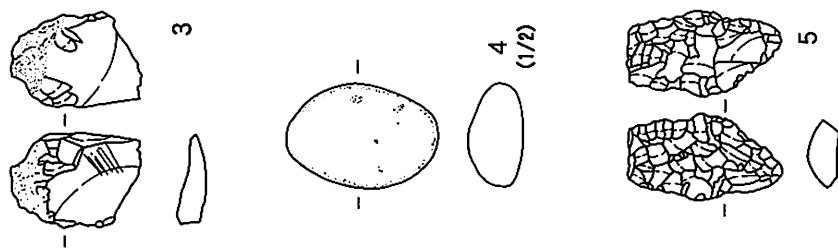
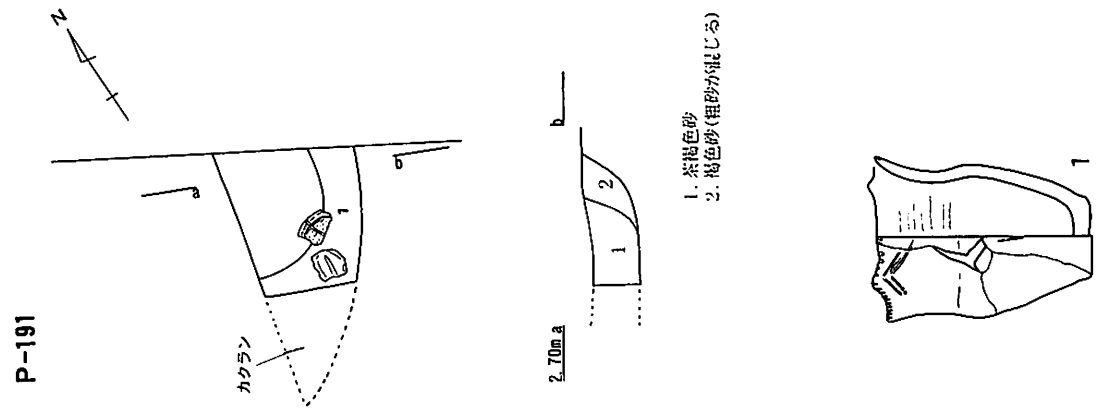


第50图 P-188 出土遺物

P-189

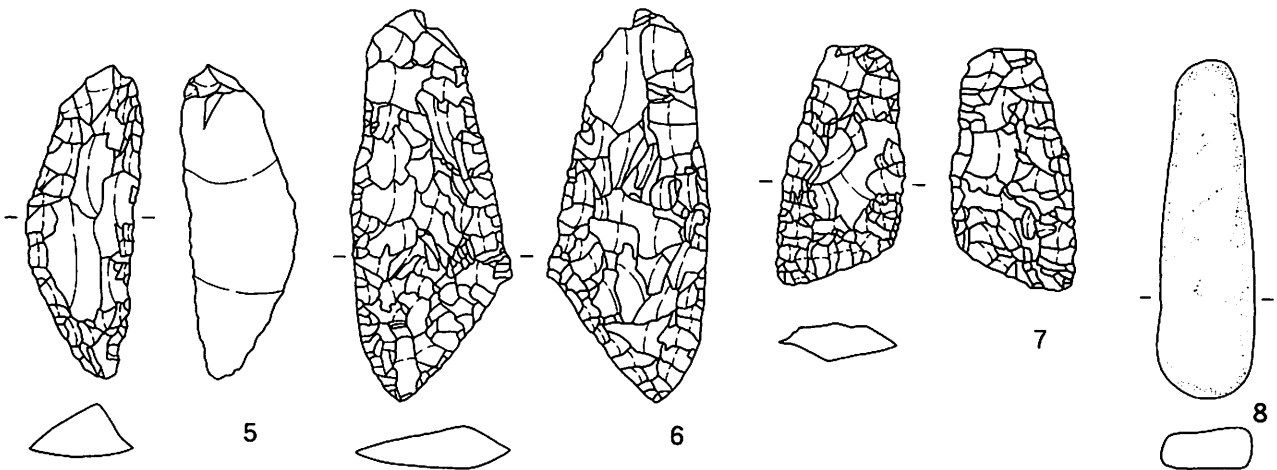
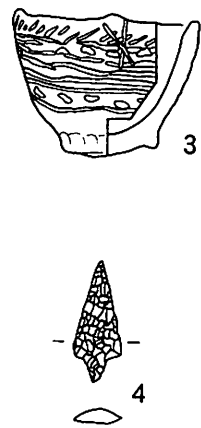
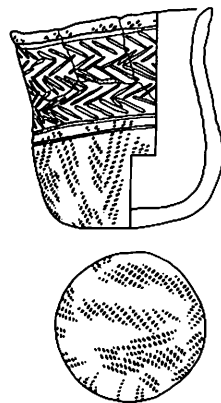
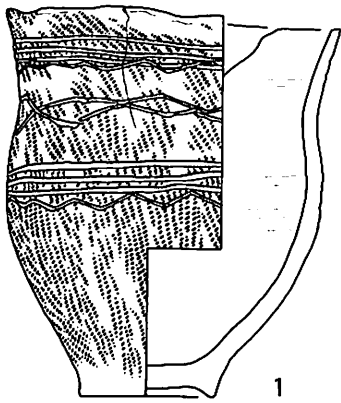
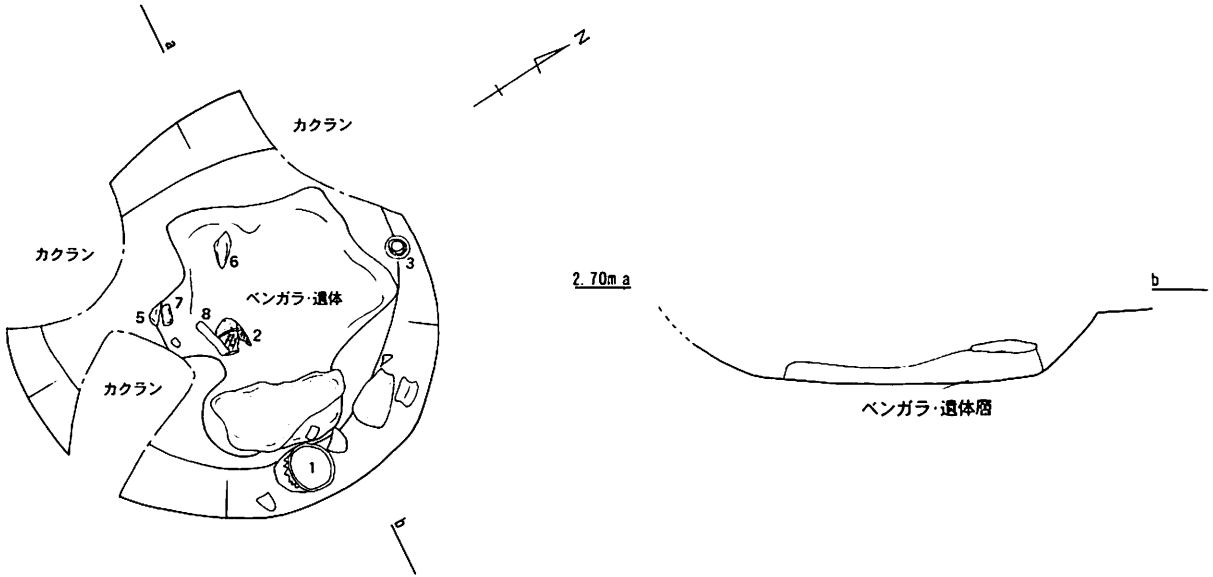


第51図 P-189 平面図と出土遺物



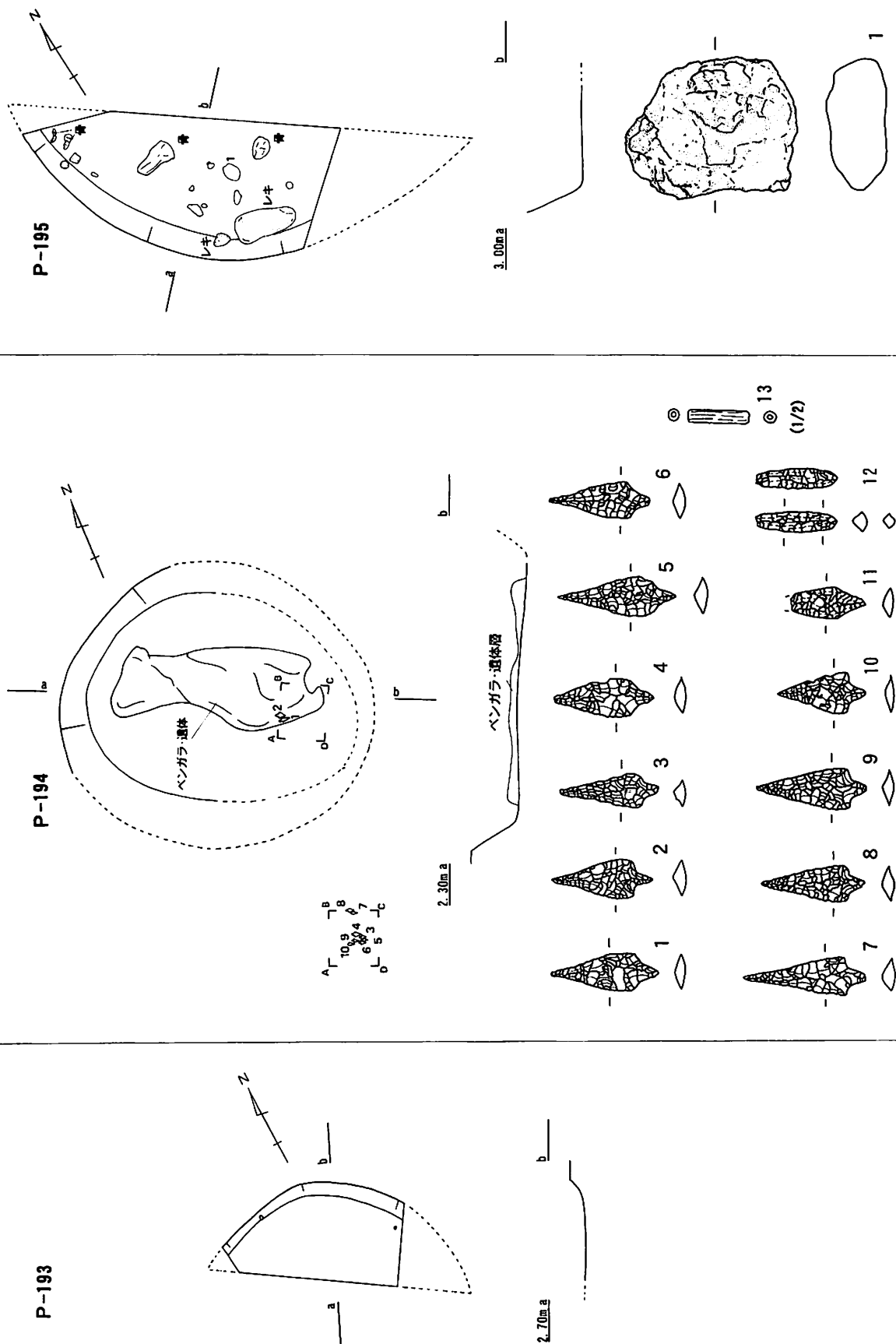
第52図 P-190・191 平面図と出土遺物

P-192

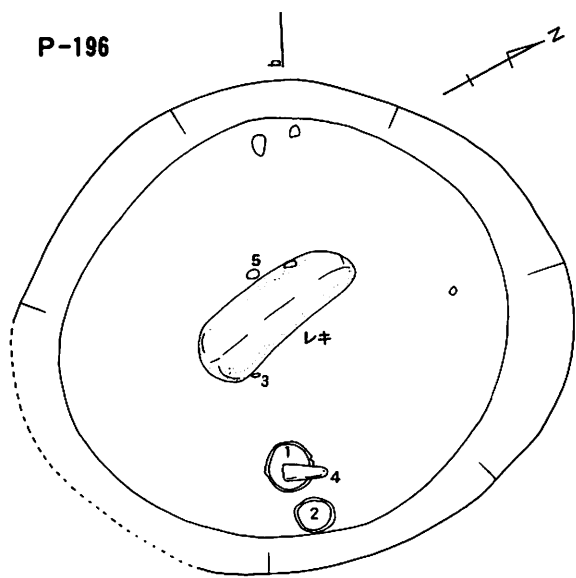


第53図 P-192 平面図と出土遺物

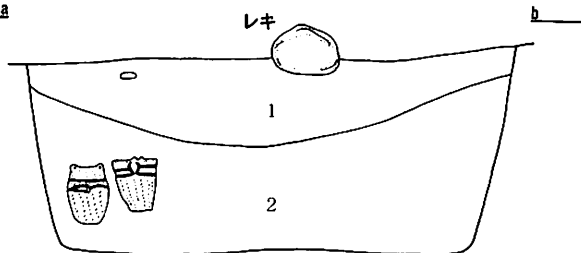




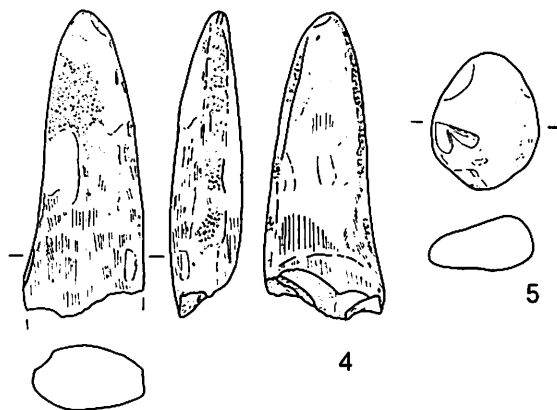
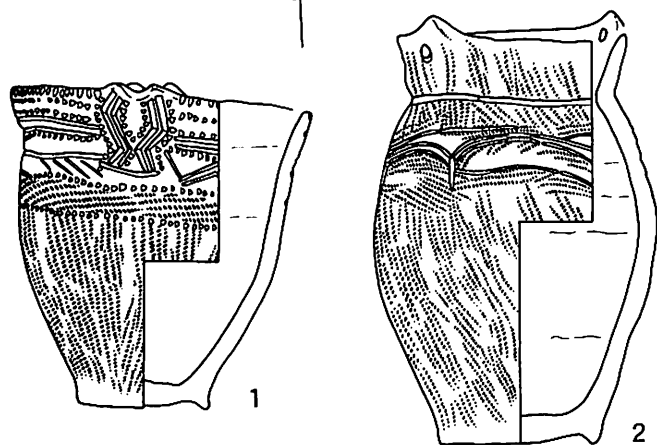
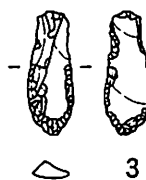
第54図 P-193・194・195 平面図とP-194・195 出土遺物



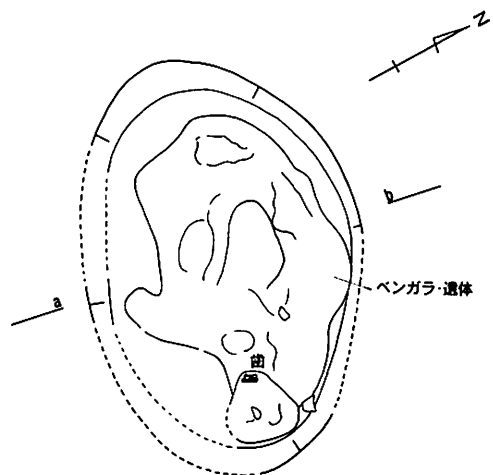
2.80m a



- 1. 白褐色砂(炭化物が少量混じる)
- 2. 褐色砂(炭化物が少量混じる)



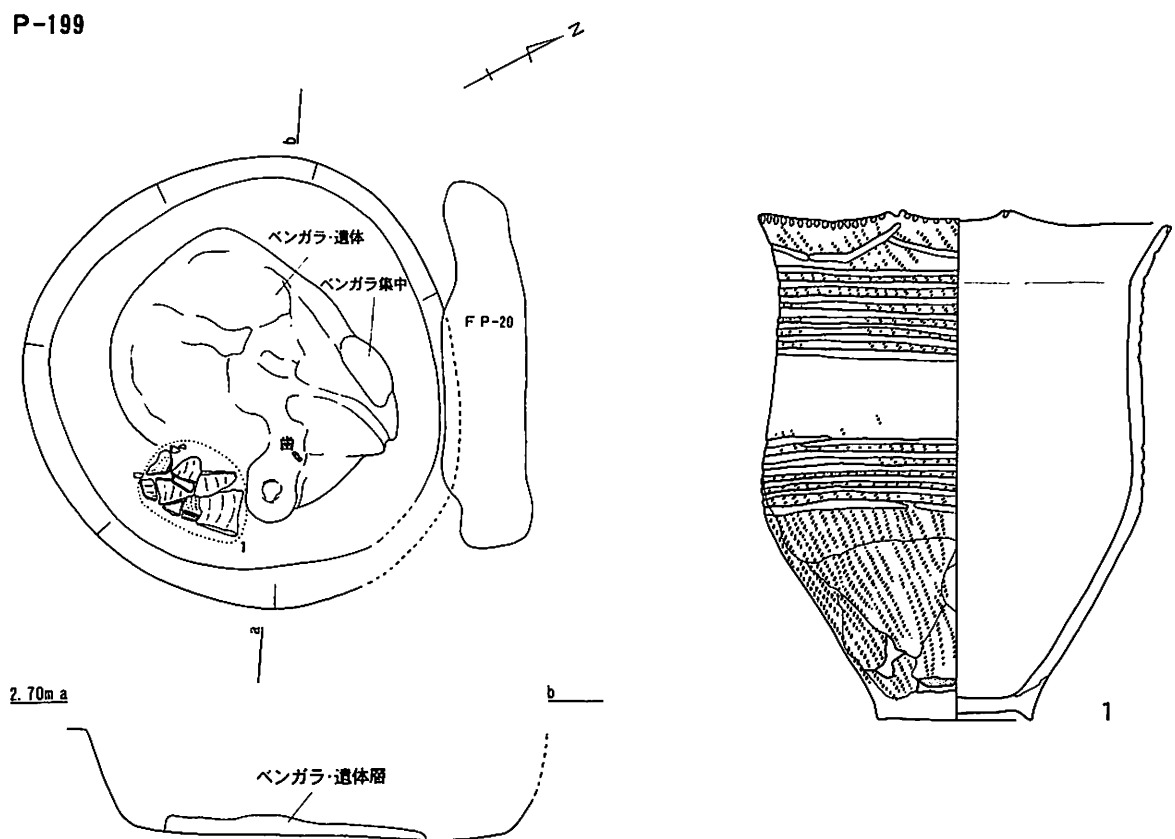
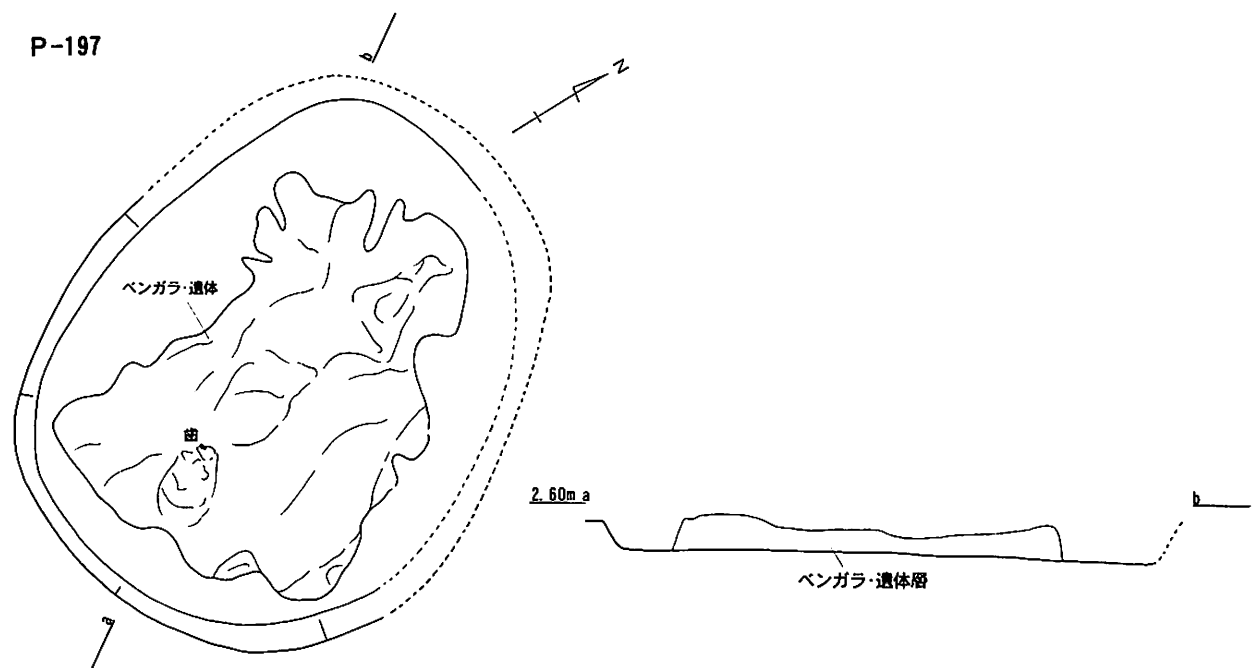
P-198



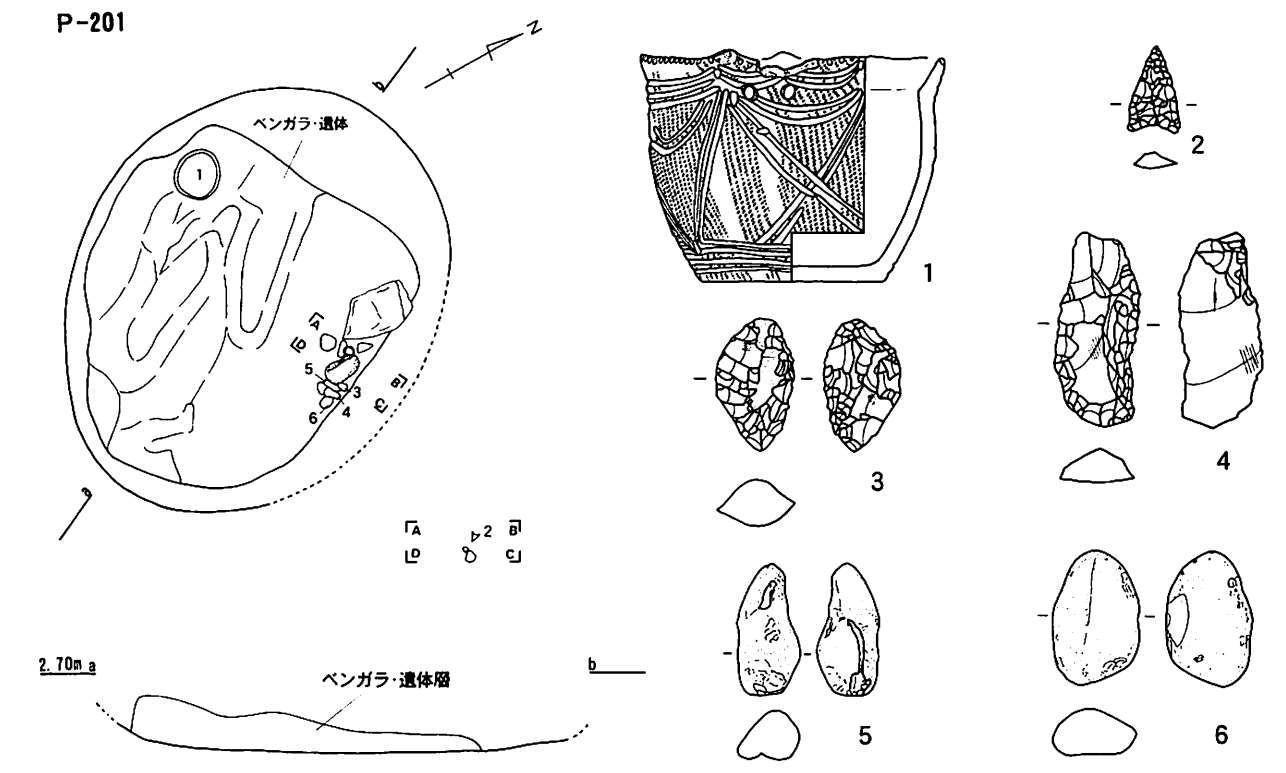
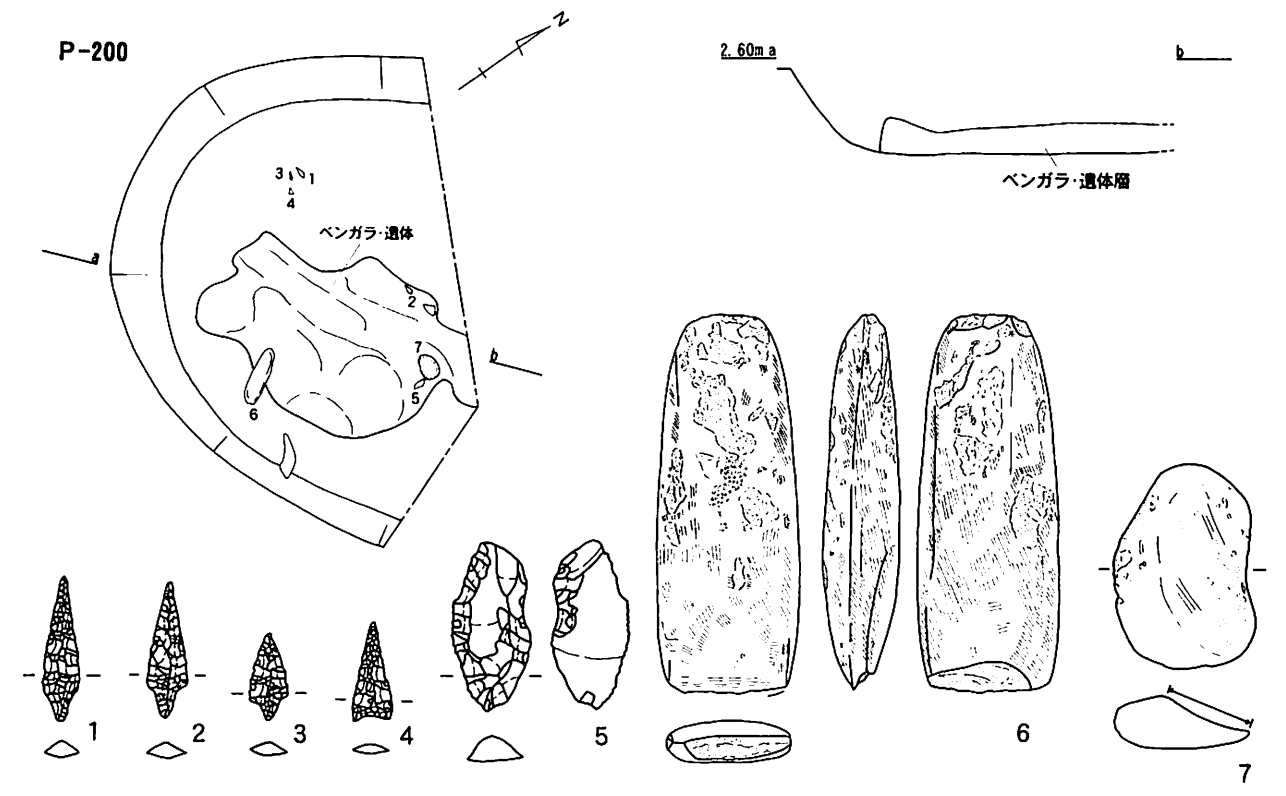
2.70m a



第55図 P-196・198 平面図とP-196 出土遺物

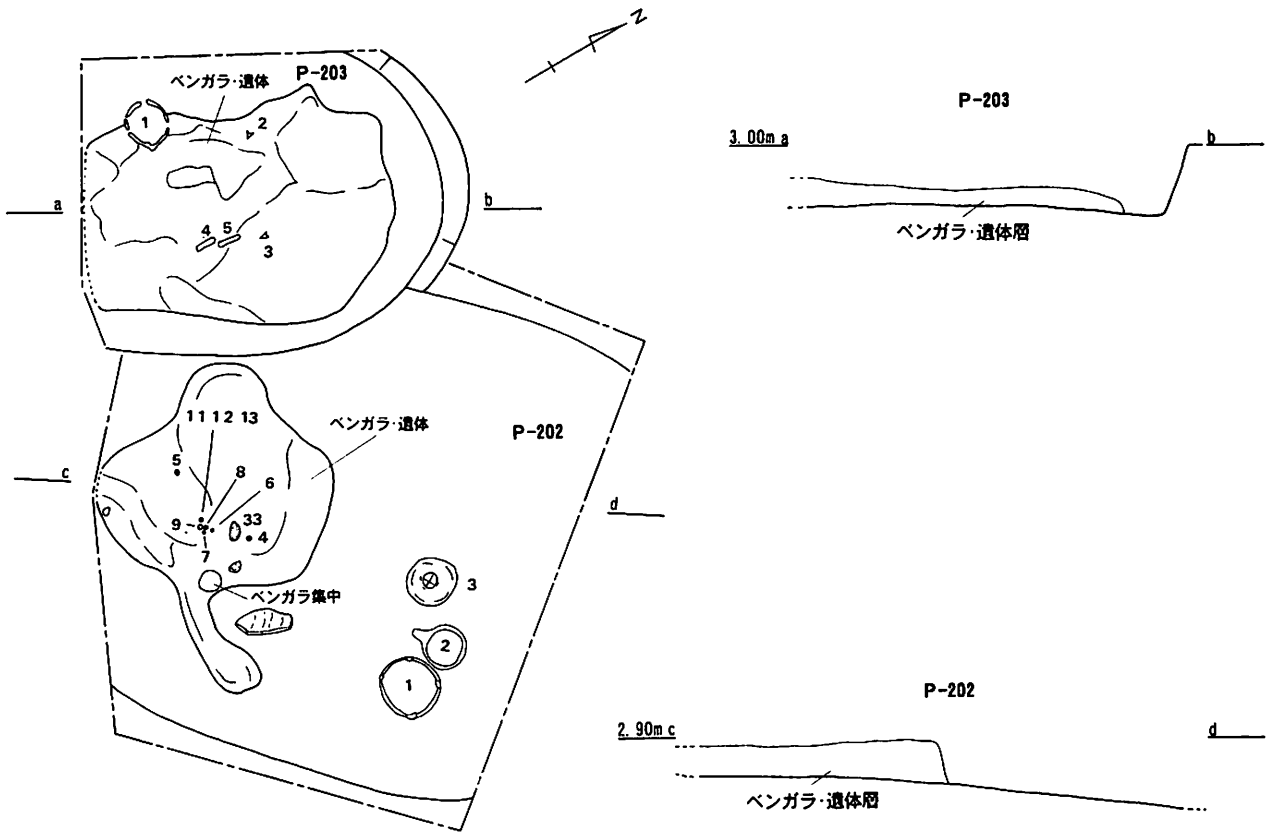


第56図 P-197・199 平面図とP-199 出土遺物

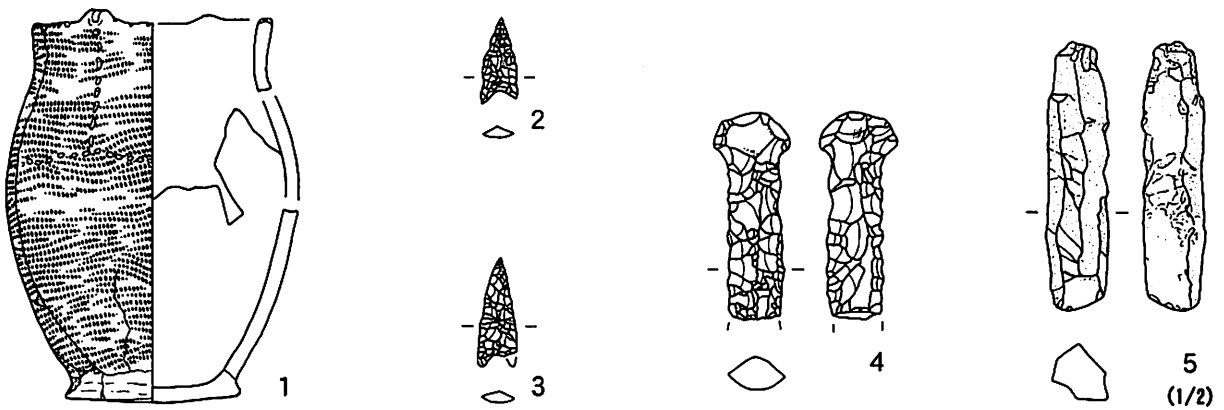


第57図 P-200・201 平面図と出土遺物

P-202 P-203

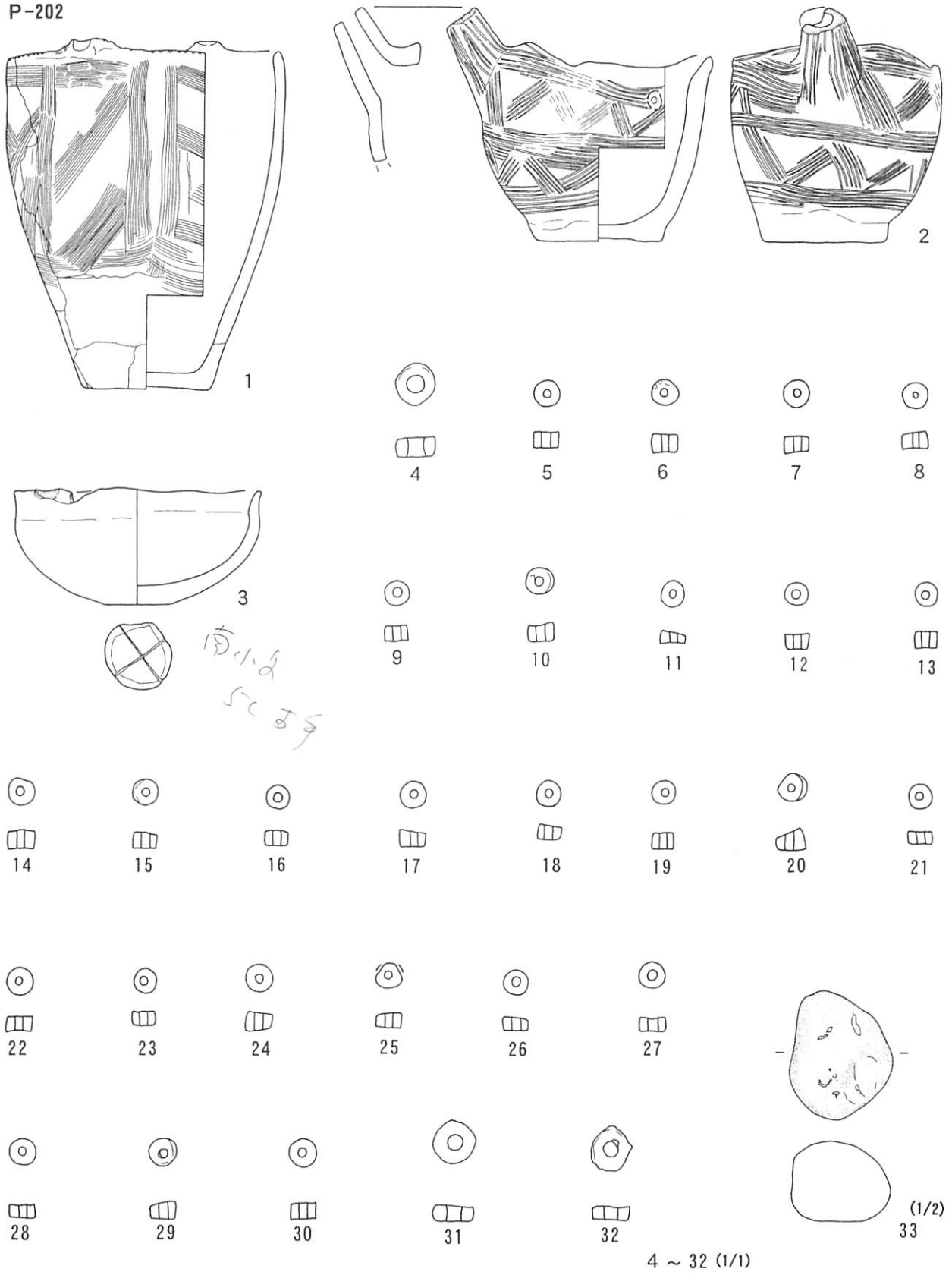


P-203



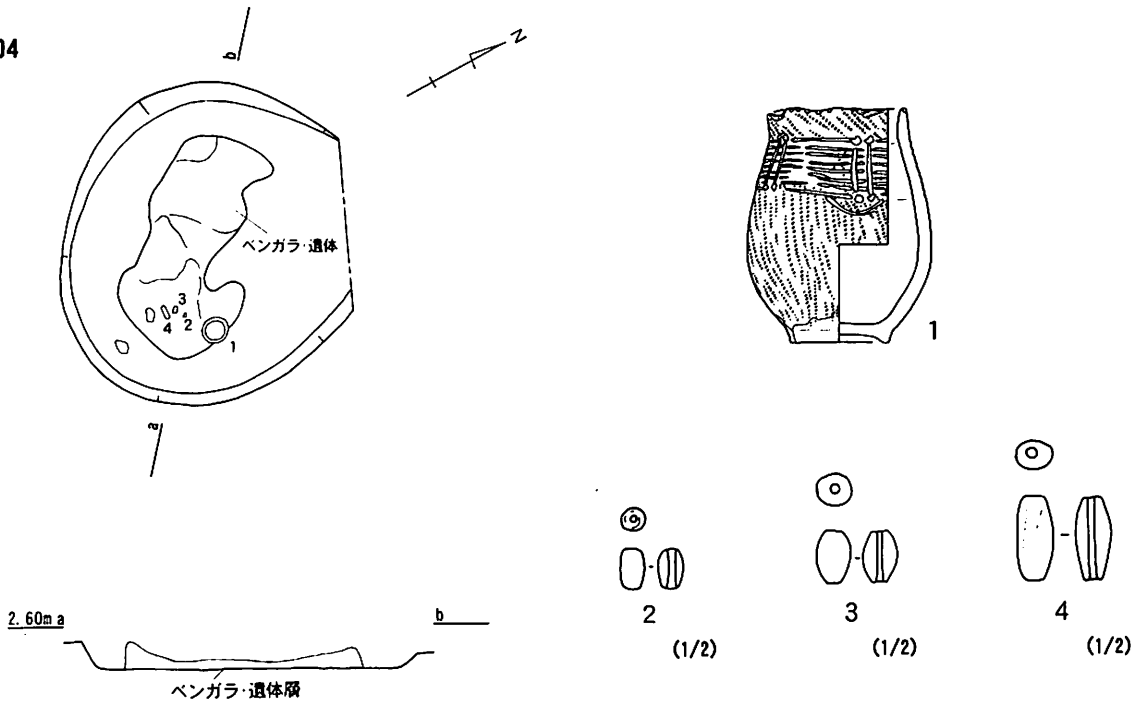
第58図 P-202・203 平面図と P-203 出土遺物

P-202

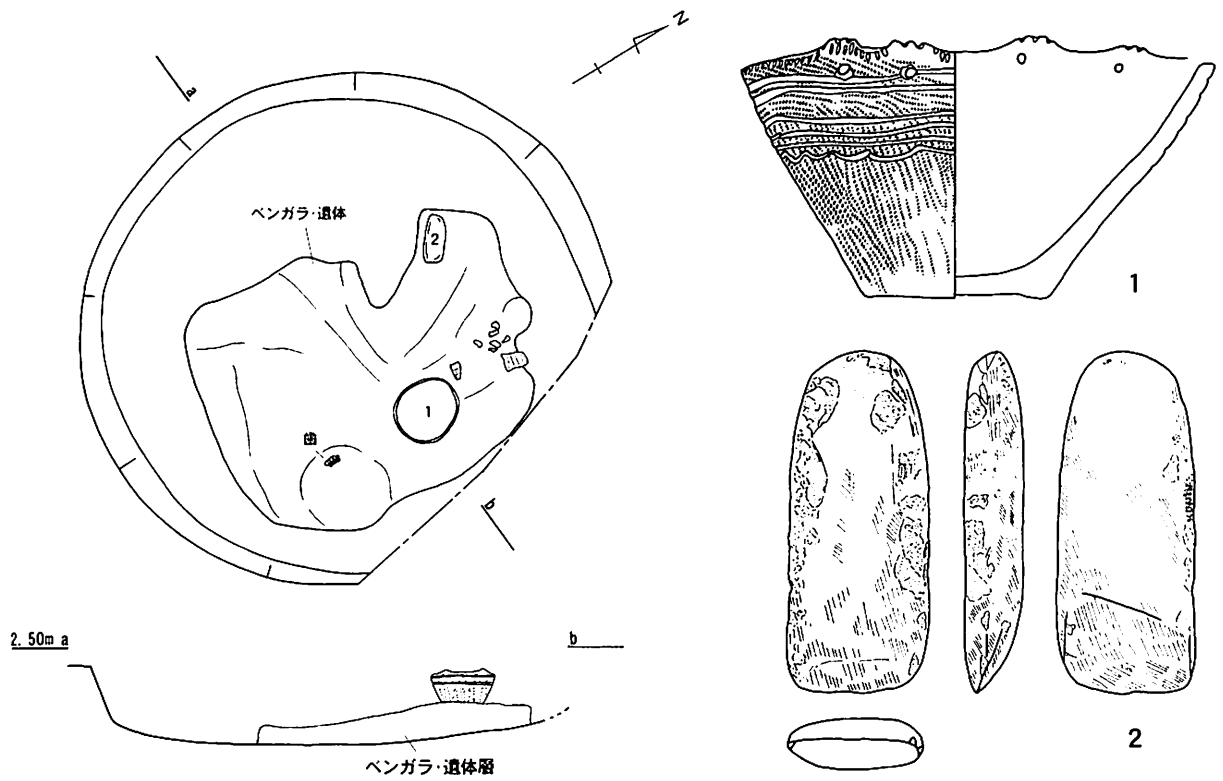


第59図 P-202 出土遺物

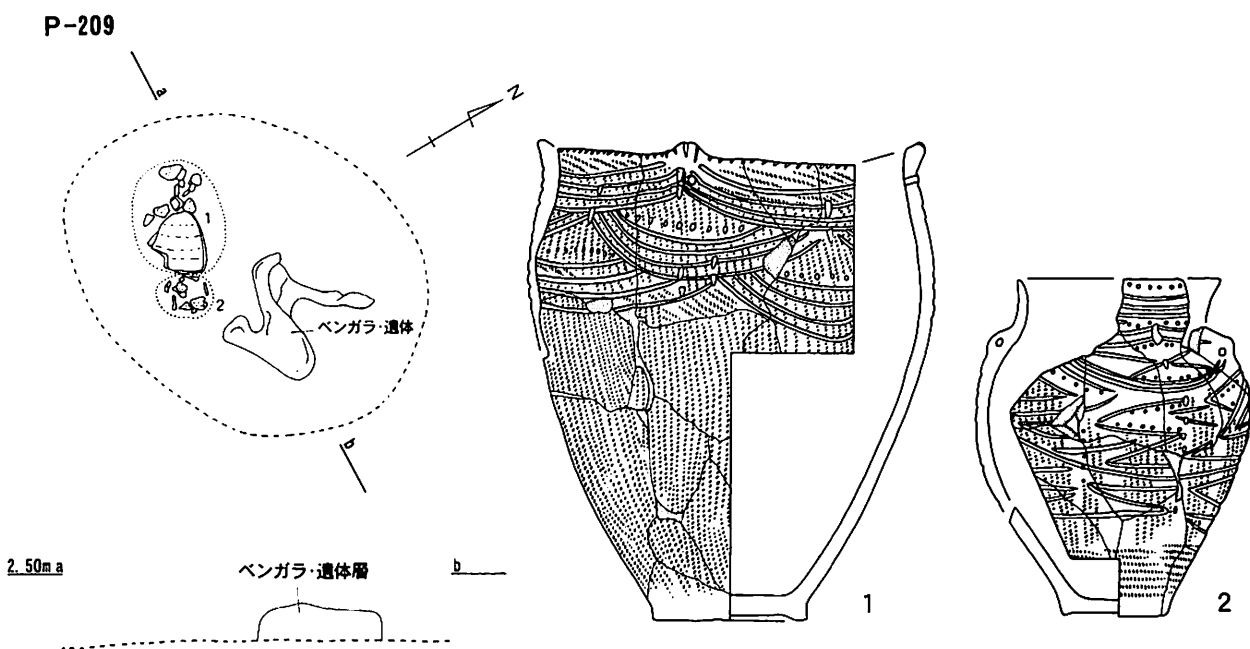
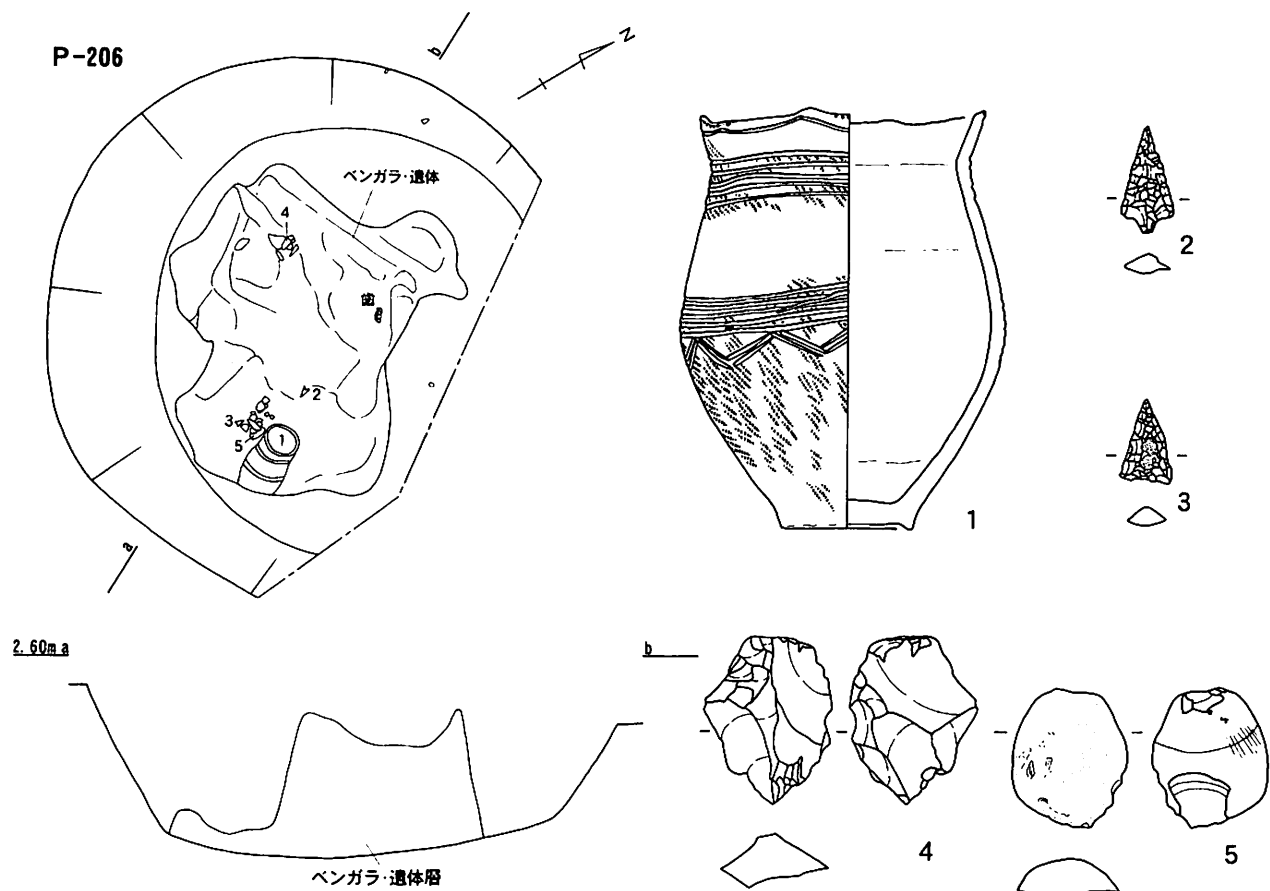
P-204



P-205



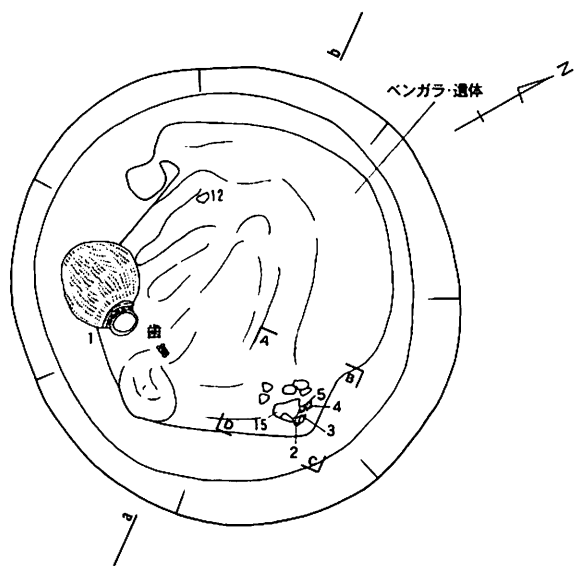
第60図 P-204・205 平面図と出土遺物



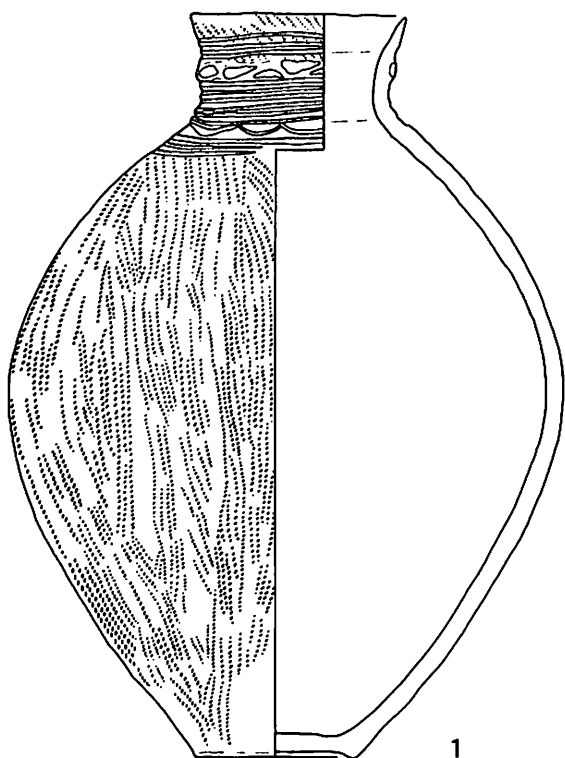
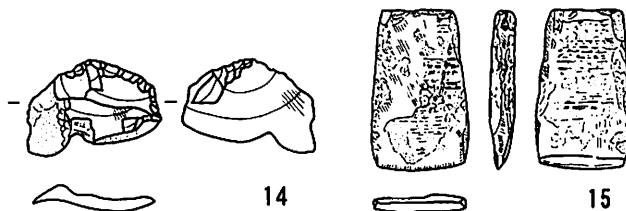
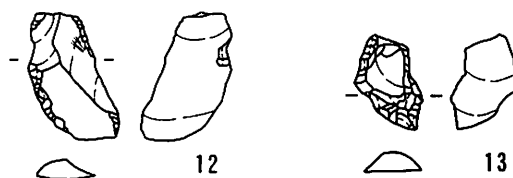
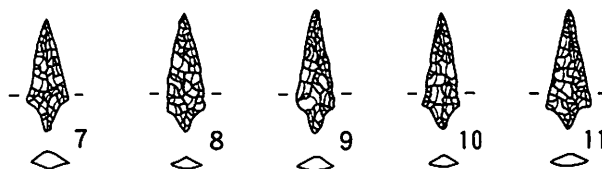
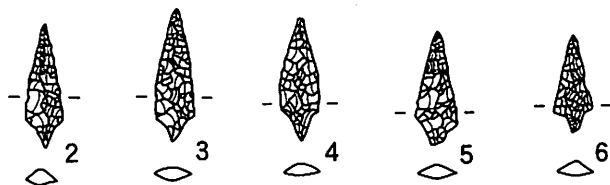
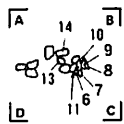
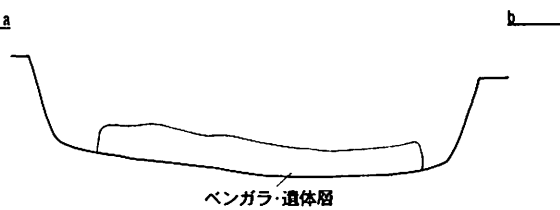
第61図 P-206・209 平面図と出土遺物



P-207

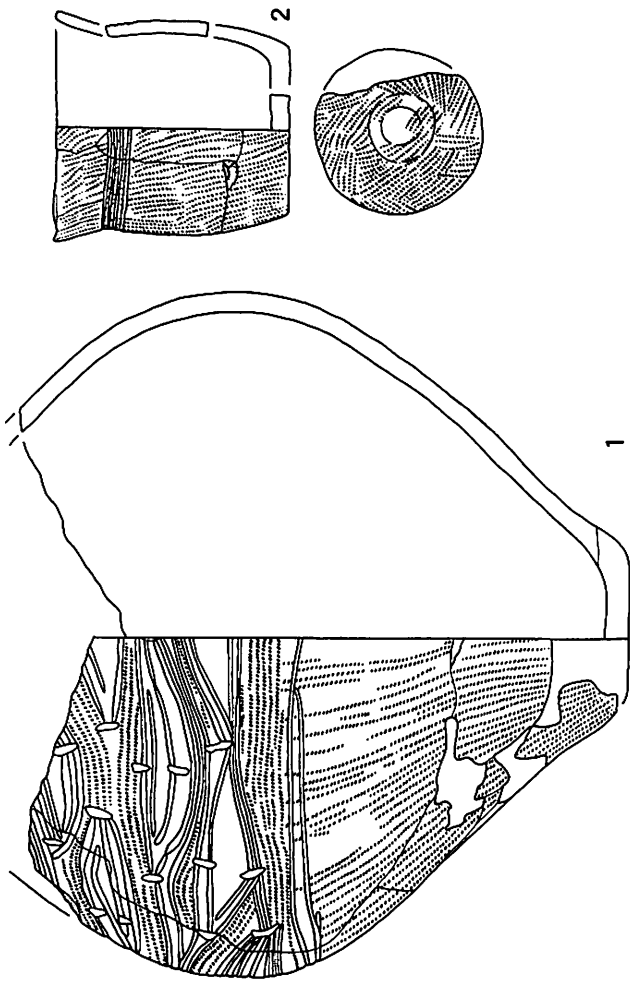
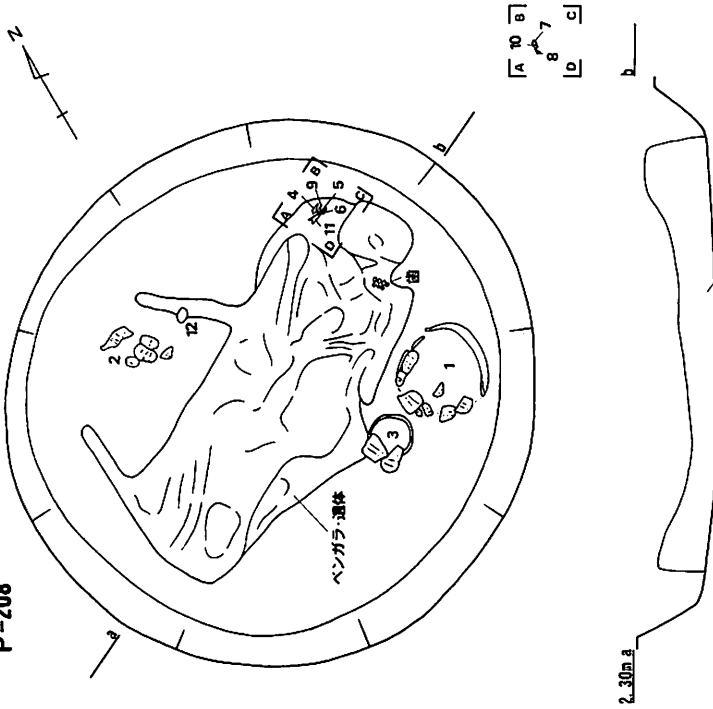


2.40m a

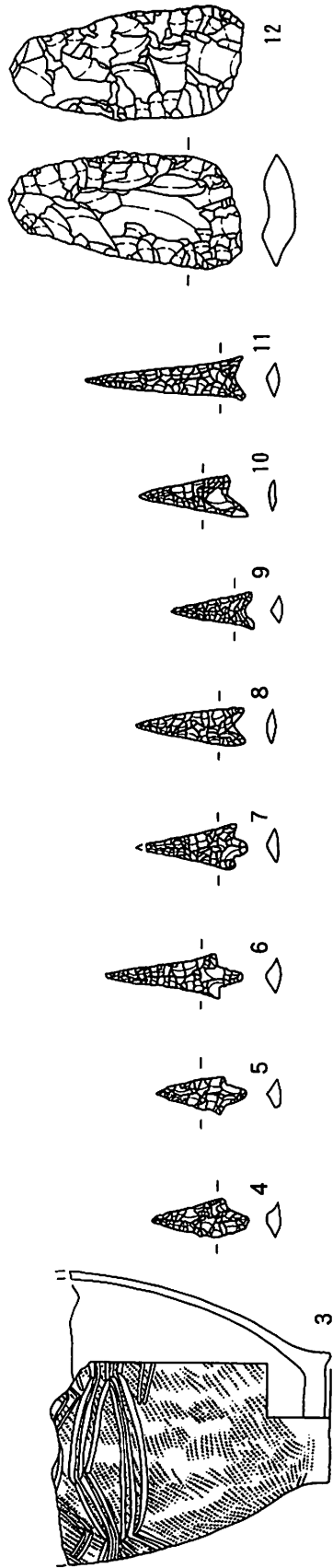


第62図 P-207 平面図と出土遺物

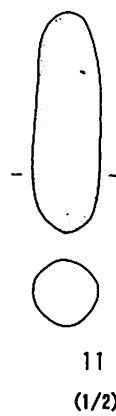
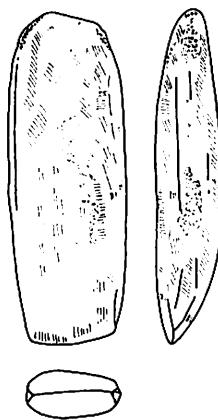
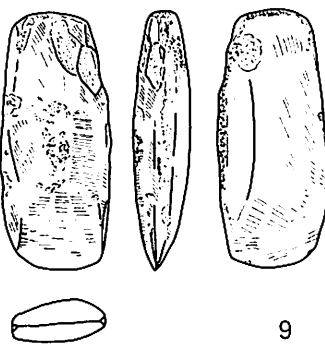
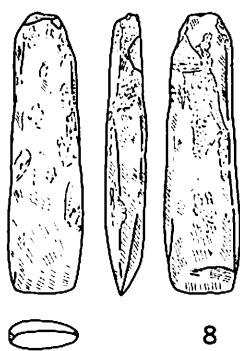
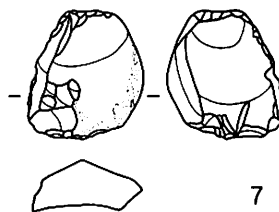
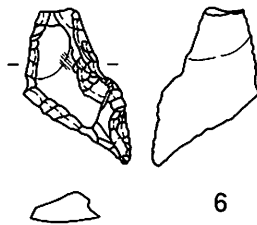
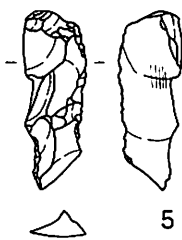
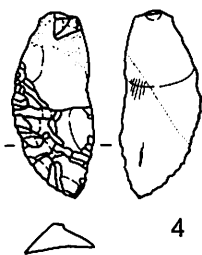
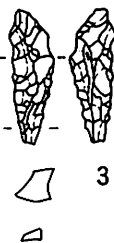
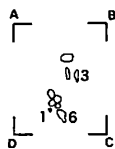
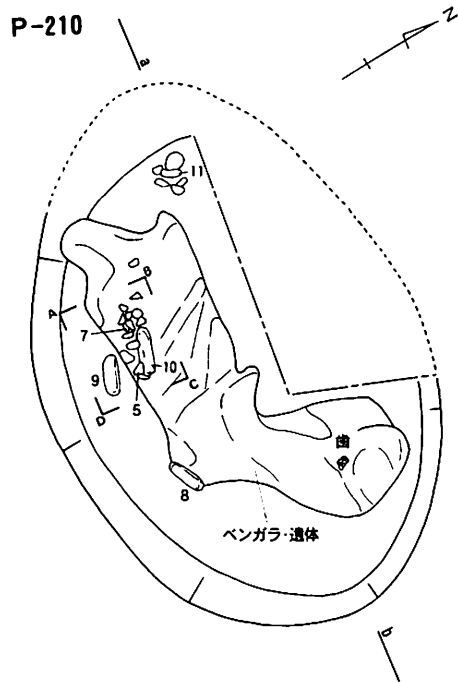
P-208



ベンガラ遺体層

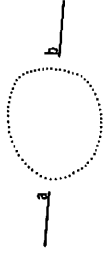


第63図 P-208 平面図と出土遺物



第64図 P-210 平面図と出土遺物

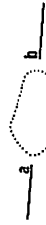
FP-15



2.40m a b

1. 赤褐色砂

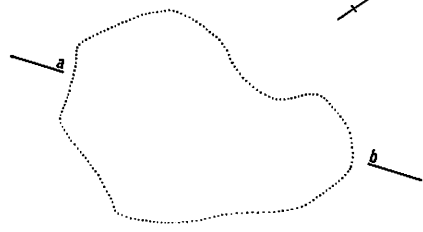
FP-16



2.90m a b

1. 橙褐色砂

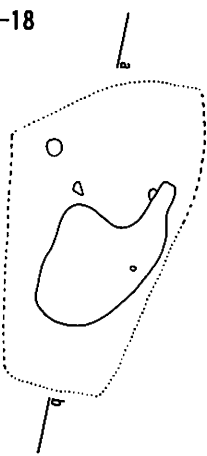
FP-17



2.50m a b

1. 橙褐色砂

FP-18



3.00m a b

1. 橙褐色砂  
2. 赤褐色砂

FP-19



2.90m a b

1. 橙褐色砂  
2. 赤褐色砂  
3. 暗褐色砂

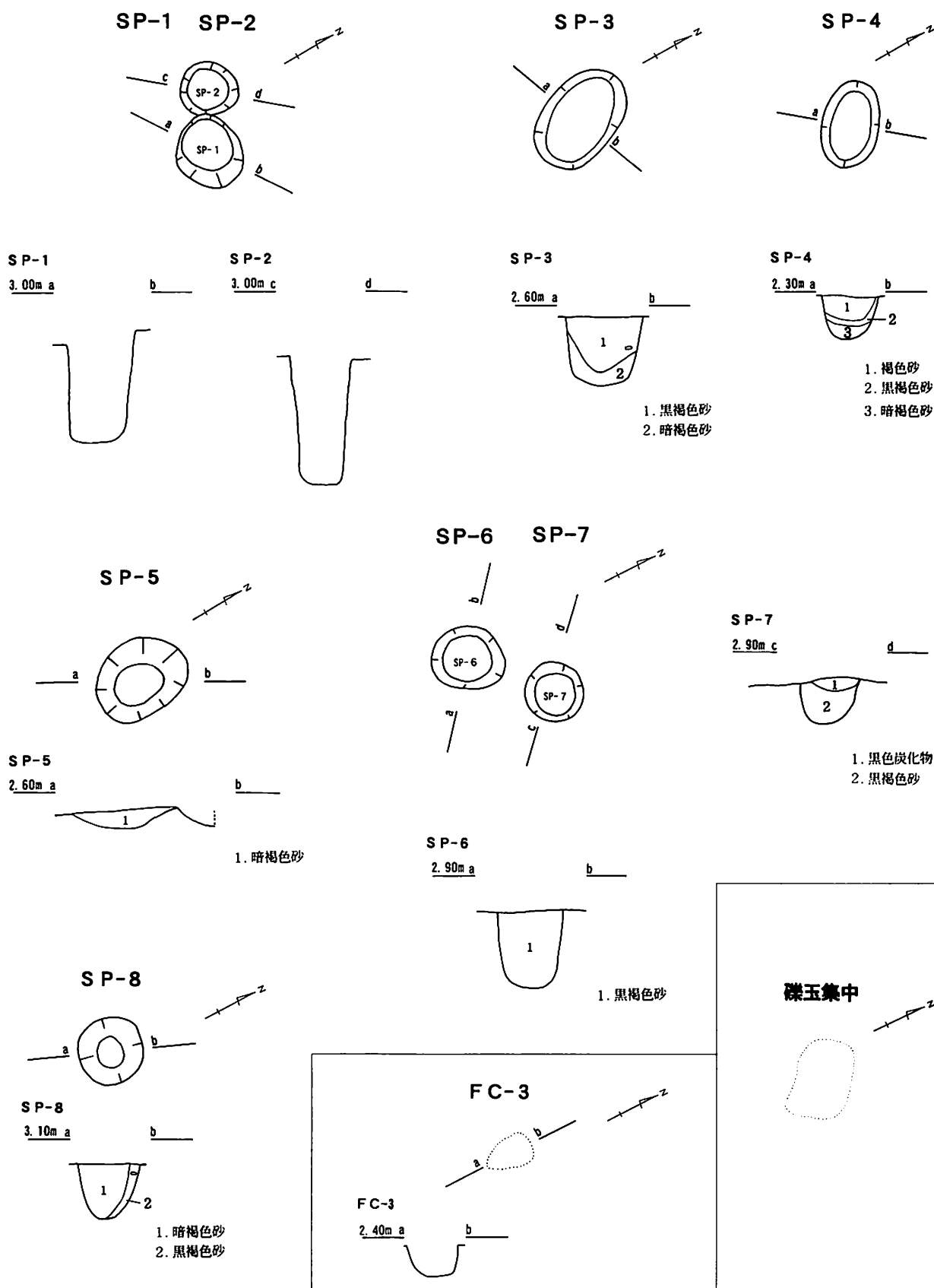
FP-20



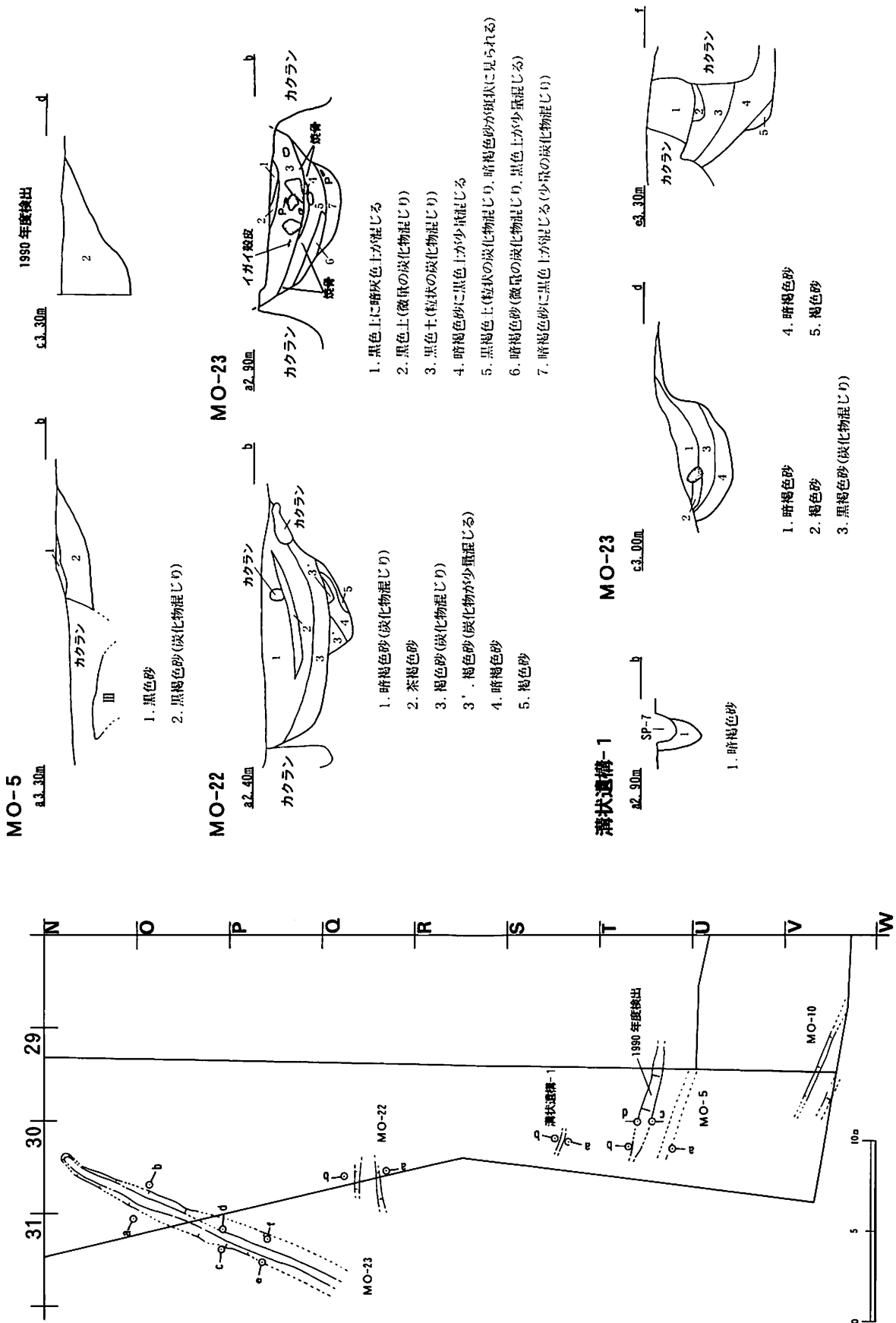
2.60m a b

1. 赤褐色砂

第65图 FP 平面图

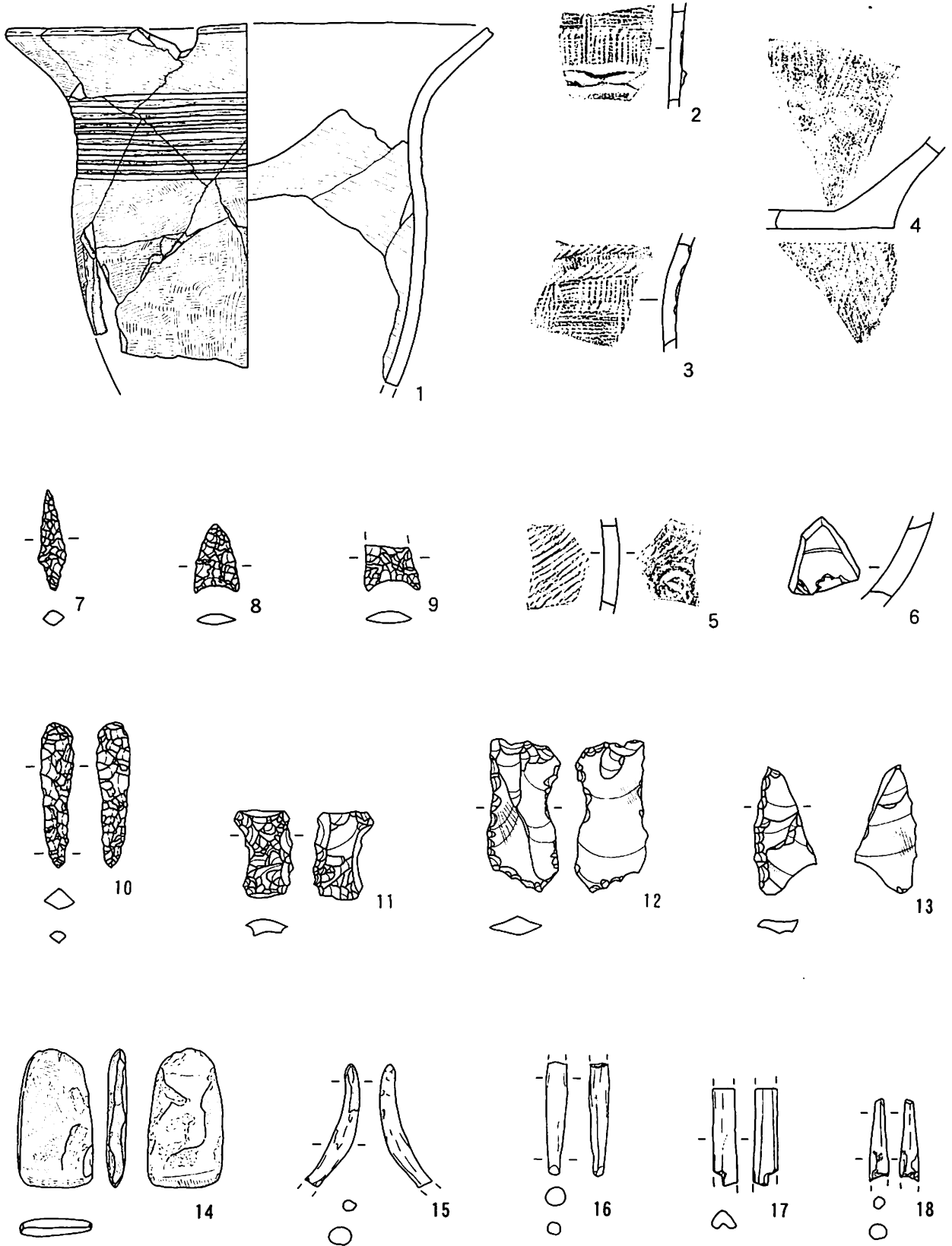


第66图 SP·FC·礫玉集中平面图



第67図 壕状遺構・溝状遺構分布図と断面図

MO-23



第68图 MO-23 出土遺物

### 3. 遺構外出土の遺物

大川遺跡道道地点の遺構外出土の遺物は9,288点出土しており、その内訳は包含層2,879点、攪乱層6,409点となっている。概要でもふれているが、旧道道のために、包含層は掘削され、埋設物（水道管、NTTケーブル）のために随所に攪乱が見られる。そのために、攪乱の出土遺物が多くなっているが、遺構の検出状況などから墓坑に伴出する遺物も多く含まれていることを記しておきたい。

#### 土 器

- ・第Ⅱ群c類（第69図 No.1）

縄文時代晩期末葉～弥生時代初頭に相当する大洞A'～砂沢式に相当するものである。白褐色を呈し、非常に焼成が良く工字文を描き、接点に粘土粒を貼付けている。恐らく本州からの搬入と思われる。

- ・第Ⅲ群b類（第69図 No.2～8）

続縄文時代前半の恵山式に属するものである。No.4は肩の張る深鉢で波状工字文を描き屈曲部に刺突をし、空間部分に円文を配置している。No.8は口縁部の破片で平行沈線の代用として縄線文を3条施している。

- ・第Ⅲ群e類（第69図 No.9）

続縄文時代前半の後北A式に先行する東歌別式に類似するものである。胎土に多量の小石を含む厚手の土器で、粘土の剥離が著しく非常に脆い土器である。口縁上部と口唇部に縄圧痕が見られ、胴部上半は帯縄文、下半に縦走縄文を施している。

- ・第Ⅲ群f類（第70図 No.10）

続縄文時代後半の後北式C<sub>2</sub>-D式に相当するもので、注口部分が楕円形を呈するものである。

- ・第Ⅳ群a類（第70図 No.11・12）

擦文時代初頭に相当するもので、同一破片と思われる。頸部に明瞭な段を有し、口縁部に2本の鋸歯状沈線を描き、その間を連続的に短刻文を施している。

- ・第Ⅳ群c類（第70図 No.13～16）

擦文時代に相当する須恵器破片である。No.13～15は大形の甕と思われ、器表に叩目が見られ、No.15は内面にも叩目が見られる。No.16は長頸壺の胴部破片と思われる。

#### 石 器

- ・石 鏟（第70図 No.17～25）

大半が有茎石鏟であり、幅広のもの、細身のものがある。後者は恵山文化に伴う可能性が強く、えぐりのあるものは縄文時代晩期末から続縄文時代に相当すると思われる。



・石 槍 (第70図 No.26・27)

大形で有莖部が太いもので、ナイフに類似するが左右が対象となっている。

・石製ナイフ (第70図 No.28～30)

太い柄をもつ特徴があり、小形から大形のものまで様々である。続縄文時代の特徴的な石器の一つで刃部は薄く加工されている。

・スクレイパー (第70図 No.31)

周縁を加工して楕円形としている。石質が玄武岩であるために切断には適さず、皮なめしや土掘り具などに使用したと思われる。

・石 斧 (第70図 No.32～第71図 No.39)

遺跡から出土するものはほとんどが磨製石斧である。製作方法は自然の原石を一部整形して刃部を作り出すもの、擦切手法によって切断し刃部を作り出すもの (No.33・34) の2種類がある。小形のもののはくさび的な用途や副葬品として製作している可能性があり、形態として細長いものが多いようである。

・砥 石 (第71図 No.40)

石質は凝灰岩で両面がわずかにくぼむもので、擦痕がわずかに見られる。

・敲 石 (第71図 No.41)

石質は安山岩で、細長い自然の礫をそのまま使用しているものである。

・魚形石器 (第71図 No.42)

続縄文時代の恵山文化に伴うもので漁具の一種と考えられている。頭部は鼻部を造出し、裏面は平坦としている。沈線によって胴部と区分しており、尾部は欠損している。

茶 臼 (第71図 No.43・44)

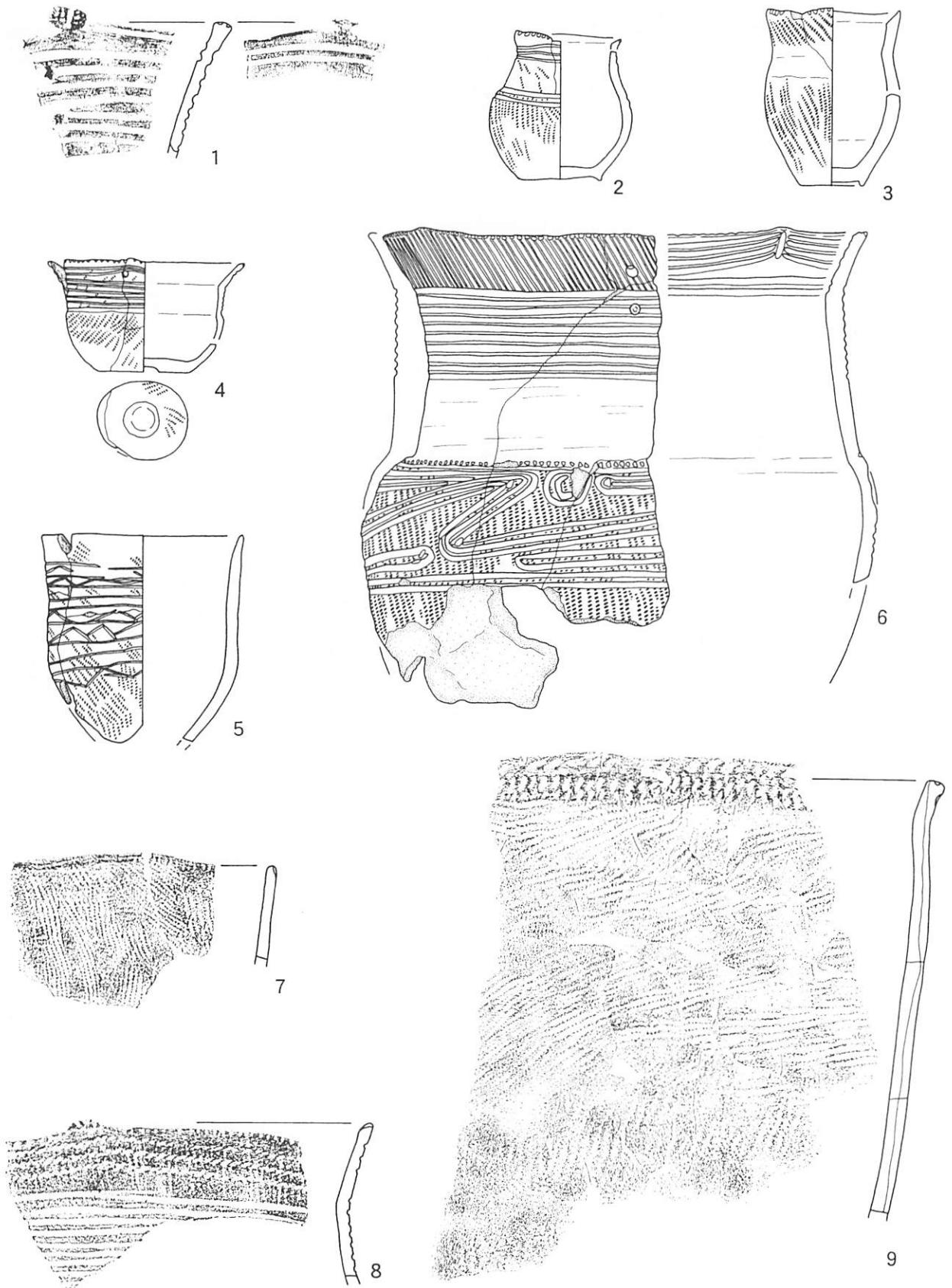
両者とも茶臼の一部破片である。No.43は受皿に相当するものである。

骨角器 (第71図 No.45～50)

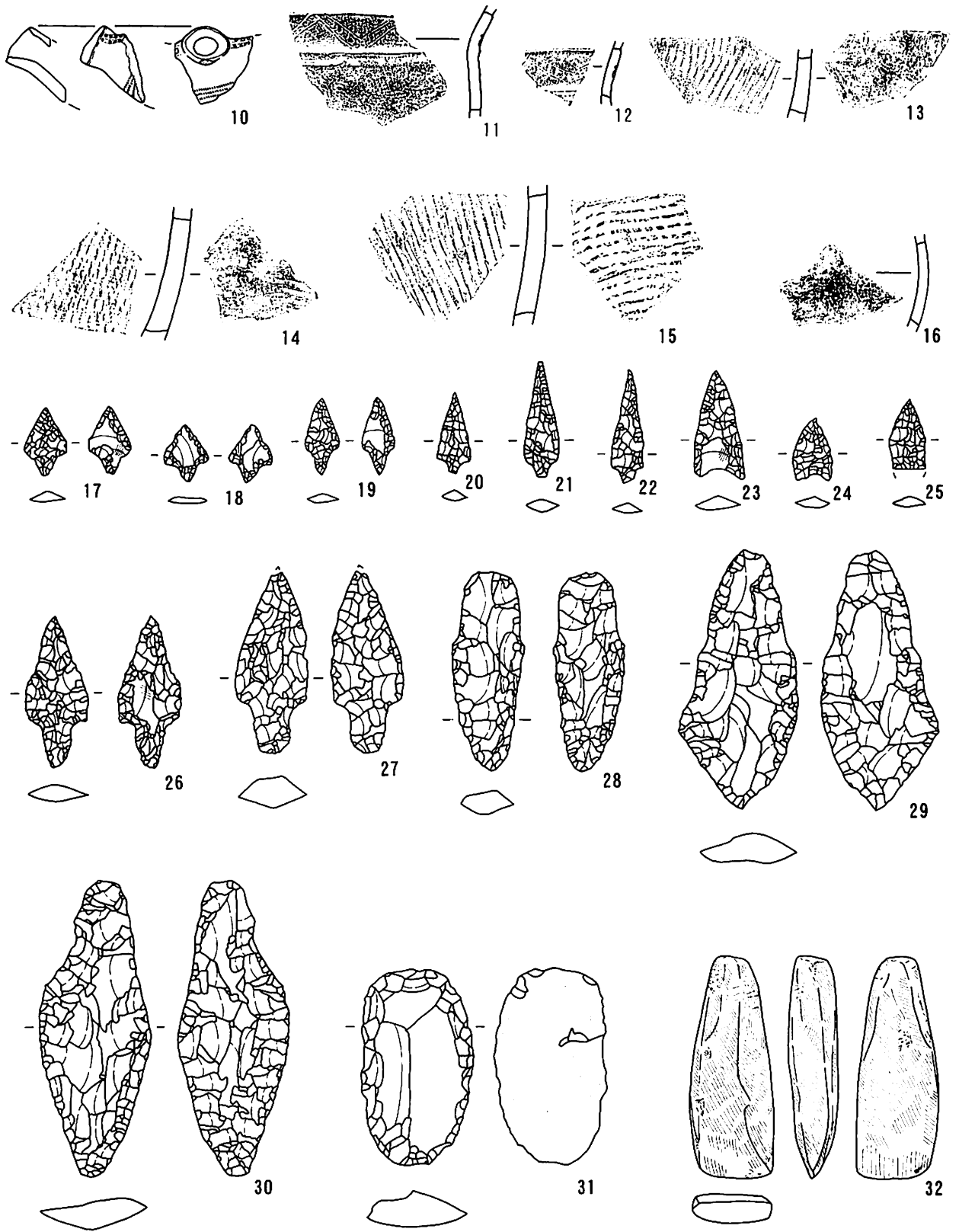
No.45～49は陸獣骨を素材とした刺突具または中柄と思われるが、断片のため判然としない。No.50は針入れの破片であり、彫刻が施されている。

古 銭 (第71図 No.51)

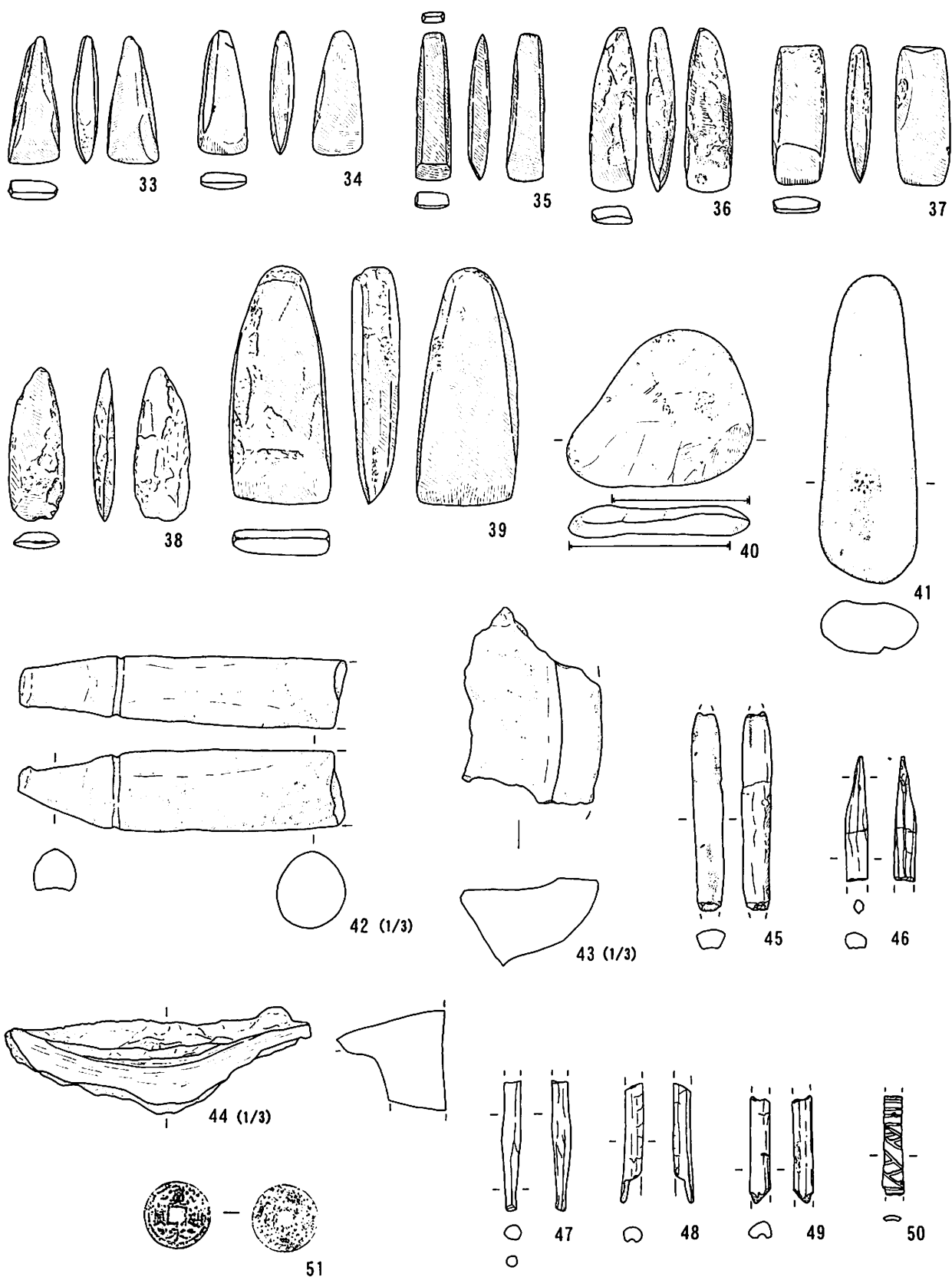
近世の寛永通宝であり、表面の磨耗が著しい。



第69図 遺構外出土の遺物 (1)



第70図 遺構外出土の遺物（2）



第71図 遺構外出土の遺物（3）

遺物一覧表 (遺構)

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計 測 値				材 質	備 考	
					口 径 長さ (cm)	底 径 幅 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)			
8-1	P-132		遺体層	石鏃	3.7	1.8	0.6	3.4 g	黒曜石		
2	P-132		遺体層	石鏃	2.9	1.3	0.3	0.8 g	黒曜石		
3	P-132		遺体層	石鏃	2.6	1.2	0.3	0.6 g	黒曜石		
4	P-132		遺体層	石鏃	2.0	1.3	0.3	0.5 g	黒曜石		
5	P-132		遺体層	石鏃	(1.7)	1.3	0.3	(0.6)g	黒曜石		
6	P-132		遺体層	石鏃	(2.5)	1.9	0.5	(1.8)g	黒曜石		
8-1	P-133		遺体層	石鏃	2.7	1.4	0.4	0.9 g	黒曜石		
8-1	P-136		覆土	Ⅲ f						口縁部 拓本 胴部 拓本	
2	P-136		覆土	Ⅳ a							
3	P-136		覆土	フレイク	1.1	2.5	0.3	0.5 g	黒曜石		
4	P-136		覆土	フレイク	4.0	2.5	0.7	5.9 g	黒曜石		
9-1	P-135	1	覆土	Ⅲ b	23.6	8.0		27.3			
10-1	P-137	5	覆土	スクレイパー	2.5	2.3	0.7	3.9 g	頁 岩		
2	P-137	15	覆土	スクレイパー	5.2	3.4	0.7	11.6 g	黒曜石		
3	P-137	16	覆土	スクレイパー	4.8	4.2	0.8	19.6 g	頁 岩		
4	P-137	14	覆土	スクレイパー	8.1	3.3	1.4	29.2 g	チャート		
5	P-137	7	覆土	スクレイパー	8.4	4.5	1.6	44.6 g	頁 岩		
6	P-137	11	覆土	ナイフ	7.6	3.8	1.1	31.4 g	頁 岩		
7	P-137	17	覆土	石斧	(11.1)	(3.6)	(0.8)	(82.0)g	ハンレイ岩		
8	P-137	6	覆土	石斧	(7.7)	3.7	(1.1)	(48.8)g	ハンレイ岩		
9	P-137	10	覆土	石斧	(9.4)	(0.8)	(4.4)	(73.0)g	泥 岩		
10	P-137	13	覆土	魚形石器	20.6	3.6	2.1	213 g	粘板岩		
11-1	P-140	1	遺体層	Ⅲ b	16.8	6.8	16.3	21.0			
11-1	P-141	1	覆土	石鏃	3.15	1.4	0.45	1.2 g	チャート		
11-1	P-142	1	遺体層	ナイフ	6.1	6.8	0.9	38.4 g	黒曜石		
12-1	P-143	1	遺体層	Ⅲ b	12.8	5.4	13.3	19.6			
13-1	P-144	1	遺体層	Ⅲ b	12.8	6.0	14.2	19.6		ウニ形土器	
2	P-144	2	遺体層	Ⅲ b	1.6	2.8	9.0	5.5			
14-3	P-144	19	坑底	石鏃	2.4	0.9	0.3	0.4 g	黒曜石		
4	P-144	10	遺体層	石鏃	(3.0)	1.4	0.4	(1.2)g	黒曜石		
5	P-144	17	坑底	石鏃	3.8	2.0	0.3	1.6 g	頁 岩		
6	P-144	17	坑底	ドリル	5.6	1.2	0.6	2.9 g	チャート		
7	P-144	10	遺体層	ドリル	(2.9)	0.7	0.4	(1.0)g	頁 岩		
8	P-144		遺体層	ドリル	2.2	0.5	0.4	0.5 g	頁 岩		
9	P-144	22	遺体層	ナイフ	6.6	4.0	1.0	23.4 g	黒曜石		つまみ付
10	P-144	10	遺体層	R・F	2.7	2.3	0.6	3.3 g	黒曜石		
11	P-144	10	遺体層	R・F	4.1	1.2	1.4	4.7 g	チャート		
12	P-144	23	遺体層	フレイク	7.3	4.8	2.4	79.5 g	黒曜石		
13	P-144	4	遺体層	石斧	13.7	4.1	3.8	295.0 g	泥 岩		ベンガラ付着
14	P-144	21	遺体層	石斧	(14.6)	4.4	2.8	(265.0)g	ハンレイ岩		
15	P-144	3	遺体層	石斧	11.3	4.2	2.1	(127.0)g	泥 岩		有機物付着
16	P-144	5	遺体層	石斧	9.8	4.3	(1.4)	(97.5)g	泥 岩		
16-1	P-148	1	遺体層	Ⅲ b	10.0	4.4	11.5	14.5			

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計 測 値				材 質	備 考
					口 径 長さ (cm)	底 径 幅 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
16-1	P-150	2	遺体層	石鏃	2.4	1.0	0.4	0.6 g	黒曜石	
2	P-150	1	遺体層	フレイク	4.0	1.6	0.9	4.7 g	黒曜石	
17-1	P-149	1	遺体層	Ⅲ b	9.5	6.4	20.0	28.4		全面ベンガラ付着
2	P-149	2	遺体層	Ⅲ b	17.8	6.2		18.5		
3	P-149	3	遺体層	石鏃	2.2	1.5	0.4	0.8 g	黒曜石	
4	P-149	7	遺体層	石鏃	3.8	1.45	0.5	1.7 g	黒曜石	
5	P-149	15	坑底	石鏃	(3.1)	1.2	0.5	(1.1)g	黒曜石	
6	P-149		遺体層	石鏃	2.5	1.2	0.4	0.7 g	黒曜石	
7	P-149		遺体層	石鏃	3.5	1.3	0.5	1.1 g	黒曜石	
8	P-149	6	遺体層	石鏃	3.15	1.4	0.5	1.3 g	黒曜石	
9	P-149	10	遺体層	ナイフ	4.45	2.8	0.5	5.6 g	チャート	
10	P-149	9	遺体層	スクレイパー	5.2	2.95	1.2	14.4 g	チャート	
11	P-149	8	遺体層	スクレイパー	6.1	2.6	1.0	12.4 g	チャート	
12	P-149	12	遺体層	スクレイパー	6.5	2.5	0.5	9.6 g	頁 岩	
13	P-149	4	遺体層	スクレイパー	6.3	2.8	0.7	13.4 g	チャート	
19-1	P-151	1	遺体層	Ⅲ b	8.4	4.8	13.0	18.2		
2	P-151	10	遺体層	石鏃	4.1	1.6	0.6	2.1 g	黒曜石	
3	P-151	9	遺体層	石鏃	4.0	1.6	0.6	2.2 g	黒曜石	
4	P-151	5	底坑	スクレイパー	4.6	2.4	0.7	7.4 g	頁 岩	
5	P-151	4	底坑	スクレイパー	6.3	3.3	1.7	24.4 g	頁 岩	
6	P-151	3	底坑	スクレイパー	3.7	2.0	0.8	6.0 g	メノウ	
7	P-151	2	底坑	R F	2.9	2.0	0.6	4.3 g	頁 岩	
8	P-151	6	底坑	R F	6.3	6.3	0.9	30.2 g	チャート	
9	P-151	7	底坑	石斧	8.3	4.0	1.1	81.5 g	泥 岩	
19-1	P-152	3	遺体層	Ⅲ b						口縁部 拓本 半玉 焼成
2	P-152	1	遺体層	土製玉	1.2	孔径 0.4	0.65	0.8 g		
3	P-152	2	遺体層	管玉	2.6	1.05	孔径 0.4	3.4 g	蛇紋岩	
4	P-152		覆土	R・F	2.5	2.1	0.5	2.8 g	チャート	
19-1	P-155	1	遺体層	Ⅲ b	14.2	4.6		14.3		
2	P-155	22	遺体層	石鏃	4.3	1.25	0.4	1.6 g	黒曜石	
3	P-155	3	遺体層	石鏃	(2.55)	1.2	0.4	(0.9)g	黒曜石	
4	P-155	4	遺体層	石鏃	(2.65)	1.3	0.5	(1.4)g	黒曜石	
5	P-155	7	遺体層	サメの歯	(1.0)	1.0	0.2	0.1g 以下	ホホジロザメ	
6	P-155	6	遺体層	サメの歯	(1.5)	1.25	0.3	0.1 g	ホホジロザメ	
7	P-155	16	遺体層	サメの歯	(1.55)	1.3	0.3	0.1 g	ホホジロザメ	
8	P-155		遺体層	サメの歯	1.3	1.2	0.2	0.1g 以下	ホホジロザメ	
9	P-155	8	遺体層	サメの歯	(1.3)	1.2	0.3	0.1 g	ホホジロザメ	
10	P-155	9	遺体層	サメの歯	(1.35)	1.1	0.3	0.1 g	ホホジロザメ	
11	P-155	10	遺体層	サメの歯	(1.35)	1.25	0.3	0.1 g	ホホジロザメ	
12	P-155	15	遺体層	サメの歯	(1.3)	1.3	0.3	0.1 g	ホホジロザメ	
13	P-155	12	遺体層	サメの歯	(1.55)	1.3	0.3	0.1 g	ホホジロザメ	
14	P-155	5	遺体層	サメの歯	(1.55)	1.3	0.35	0.1 g	ホホジロザメ	
20-1	P-153	4	坑底	Ⅲ b	13.6	5.6		15.9		

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
20-2	P-153		遺体層	石鏃	3.1	1.3	0.5	1.3 g	黒曜石	
3	P-153	1	遺体層	石鏃	(3.2)	1.2	0.4	1.2 g	黒曜石	
4	P-153	2	遺体層	石鏃	(3.2)	1.25	0.5	1.4 g	黒曜石	
20-1	P-157	1	坑底	Ⅲ b	14.7	6.8	15.0	19.7		
21-1	P-154	1	遺体層	Ⅲ b		2.7	8.9	(18.0)		ベンガラ付着
2	P-154	2	遺体層	Ⅲ b	3.9	4.7	9.6	14.6		ベンガラ付着
3	P-154		覆土	Ⅲ b	12.8			(7.9)		
4	P-154	7	坑底	石鏃	2.1	1.3	0.3	0.6 g	黒曜石	
5	P-154	6	坑底	石鏃	2.5	1.4	0.25	0.7 g	黒曜石	
6	P-154		遺体層	石鏃	2.2	1.2	0.4	0.7 g	黒曜石	
7	P-154	5	坑底	石鏃	2.75	1.55	0.4	1.1 g	黒曜石	
8	P-154	2		石製玉	0.25	孔径 0.1	0.2	0.1 g 以下	不明	No. 2 土器より出土 小玉
9	P-154	10	遺体層	管玉	2.7	0.5	孔径 0.2	1.3 g	碧玉	接合
10	P-154	11	遺体層	管玉	2.15	0.5	孔径 0.2	0.7 g	碧玉	
11	P-154	12	遺体層	管玉	2.1	0.55	孔径 0.2	1.0 g	碧玉	接合
12	P-154	13	遺体層	管玉	2.35	0.4	孔径 0.2	1.0 g	碧玉	接合
13	P-154	4	坑底	有孔石製品	長径 1.7 短径 1.5	孔径 0.5	0.25	0.4 g	流紋岩	
14	P-154	3	坑底	有孔石製品	長径 2.65 短径 2.1	孔径 0.75	0.3	1.8 g	流紋岩	
22-1	P-167	4	遺体層	Ⅲ b		(6.6)		(7.8)		
23-1	P-156		覆土	Ⅲ b		(10.5)	(31.6)	(33.7)		胴部 拓本
2	P-156	43	覆土	Ⅲ b						胴部 拓本
3	P-156	26	覆土	Ⅲ b						
4	P-156	21	遺体層	石鏃	(2.8)	1.2	0.4	(0.9) g	黒曜石	
5	P-156	49	覆土	ドリル	5.4	3.8	0.7	11.0 g	頁岩	
6	P-156	1	覆土	ナイフ	8.9	3.8	1.2	38.0 g	黒曜石	
7	P-156	33	覆土	フレイク	4.1	3.6	1.0	11.6 g	黒曜石	
8	P-156	7	覆土	砥石	34.8	15.2	4.25	2.980 g	泥岩	
24-1	土器集中-1		Ⅲ	Ⅲ b	(30.2)		(30.3)	(32.6)		
2	土器集中-1		Ⅲ	Ⅲ b	(23.4)		(25.0)	(16.2)		
24-1	土器集中-2		Ⅲ	Ⅲ b	12.1	4.0		15.3		
2	土器集中-2		Ⅲ	Ⅲ b		5.8		(11.0)		
3	土器集中-2		Ⅲ	Ⅲ b	22.4			(25.0)		
25-1	P-163	1	坑底	Ⅲ b	17.4	6.0		20.7		
2	P-163	3	遺体層	石鏃	2.7	1.25	0.5	1.1 g	黒曜石	
3	P-163	4	遺体層	石製品	2.3	2.7	1.0	4.2 g	黒曜石	
26-1	P-161		覆土	Ⅲ b		(6.0)		(5.9)		
2	P-161	1	坑底	ナイフ	4.6	2.5	0.5	5.7 g	黒曜石	
3	P-161	13	遺体層	Ⅲ b						口縁部 拓本
4	P-161	9	坑底	Ⅲ b						口縁部 拓本
5	P-161		覆土	Ⅲ b						口縁部 拓本
6	P-161		覆土	Ⅲ c						口縁部 拓本
26-1	P-160	9	遺体層	Ⅲ b	(15.2)		(21.0)	(17.6)		
2	P-160	8	遺体層	擦石	(11.8)	12.2	6.8	(600.0) g	安山岩	

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
27-1	P-166	3	覆土	Ⅲ b	(19.7)		(23.0)	(19.0)		
2	P-166	2	覆土	Ⅲ b		(14.0)		(5.5)	高台	ベンガラ付着高台部分
3	P-166	6	覆土	Ⅲ b	4.2	(4.0)	2.0			土器把手?
4	P-166	5	覆土	石鏝	3.6	1.15	0.5	1.2 g	黒曜石	
5	P-166	4	覆土	石鏝	(4.95)	1.3	0.45	(2.1) g	チャート	
6	P-166	11	覆土	R・F	5.0	3.0	1.35	19.6 g	黒曜石	
7	P-166	9	覆土	有孔石製品	3.0	孔径 1.3	1.9	20.6 g	黒曜石	玉?
8	P-166	12	遺体層	有孔石製品	3.45	孔径 0.5	1.8	20.2 g	石英	
29-1	P-165	1	遺体層	Ⅲ b	9.5	5.8	17.5	21.8		全面ベンガラ付着
2	P-165	3	遺体層	Ⅲ b	2.2	4.5	6.9	8.0		全面ベンガラ付着 クマ意匠付
3	P-165	2	遺体層	Ⅲ b		1.0	5.6	6.0		小型壺
4	P-165		覆土	石鏝	2.2	1.1	0.3	0.4	頁岩	
5	P-165	11	遺体層	石鏝	3.4	1.3	0.5	1.3 g	黒曜石	
6	P-165	12	遺体層	石鏝	3.5	1.3	0.6	1.3 g	黒曜石	
7	P-165	13	遺体層	石鏝	3.1	1.7	0.4	0.8 g	黒曜石	
8	P-165	14	遺体層	石鏝	2.8	1.1	0.5	0.8 g	黒曜石	
9	P-165	15	遺体層	石鏝	3.2	1.2	0.5	1.0 g	黒曜石	
10	P-165	16	遺体層	石鏝	3.2	1.3	0.5	1.0 g	黒曜石	
11	P-165	48	遺体層	石鏝	3.0	1.2	0.6	0.8 g	黒曜石	
12	P-165	51	遺体層	石鏝	3.1	1.4	0.5	1.1 g	黒曜石	
13	P-165	52	遺体層	石鏝	3.1	1.3	0.4	1.0 g	黒曜石	
14	P-165	53	遺体層	石鏝	2.8	1.3	0.5	0.9 g	黒曜石	
15	P-165	92	遺体層	石鏝	3.3	1.2	0.5	1.1 g	黒曜石	
16	P-165	111	遺体層	石鏝	3.4	1.3	0.4	1.2 g	黒曜石	
17	P-165	147	遺体層	石鏝	2.7	1.0	0.5	0.9 g	黒曜石	
18	P-165	148	遺体層	石鏝	2.5	1.0	0.4	0.6 g	黒曜石	
19	P-165	149	遺体層	石鏝	2.2	1.3	0.4	0.5 g	黒曜石	
20	P-165	150	遺体層	石鏝	2.1	1.0	0.4	0.5 g	黒曜石	
21	P-165	151	遺体層	石鏝	(2.2)	1.2	0.5	(0.9) g	黒曜石	
22	P-165	161	遺体層	石鏝	2.7	1.2	0.5	0.9 g	黒曜石	
23	P-165	162	遺体層	石鏝	3.2	1.3	0.5	1.0 g	黒曜石	
24	P-165	163	遺体層	石鏝	3.6	1.5	0.6	1.5 g	黒曜石	
25	P-165	164	遺体層	石鏝	2.7	1.2	0.5	0.8 g	黒曜石	
26	P-165	165	遺体層	石鏝	2.7	1.2	0.5	0.8 g	黒曜石	
27	P-165	166	遺体層	石鏝	2.8	1.4	0.4	1.0 g	黒曜石	
28	P-165	167	遺体層	石鏝	3.5	1.2	0.5	1.2 g	黒曜石	
29	P-165	168	遺体層	石鏝	3.8	1.2	0.5	1.3 g	黒曜石	
30	P-165	23	遺体層	石鏝	4.5	1.6	0.6	1.8 g	黒曜石	
31	P-165	24	遺体層	石鏝	4.1	1.6	0.7	2.9 g	黒曜石	
32	P-165	25	遺体層	石鏝	4.0	1.9	0.7	3.2 g	黒曜石	
33	P-165	31	遺体層	石鏝	3.3	1.3	0.8	2.6 g	頁岩	
34	P-165	146	遺体層	石鏝	3.8	1.1	0.7	2.0 g	黒曜石	
35	P-165	87	遺体層	石鏝	3.0	1.2	0.5	1.7 g	黒曜石	



図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重量 (g)		
29-36	P-165	145	遺体層	石鏃	2.3	1.0	0.5	0.7 g	黒曜石	石槍?
37	P-165	28	遺体層	石鏃	(3.3)	2.1	0.8	(5.2)g	頁岩	
38	P-165	30	遺体層	石槍	5.0	1.9	0.8	5.3 g	黒曜石	
30-39	P-165	29	遺体層	石槍	5.5	2.0	0.8	6.5 g	黒曜石	
40	P-165	36	遺体層	石槍	5.9	1.8	0.7	6.4 g	頁岩	
41	P-165	70	遺体層	ドリル	3.8	2.3	0.9	8.0 g	頁岩	
42	P-165	37	遺体層	ドリル	4.0	1.3	0.5	2.9 g	頁岩	
43	P-165	26	遺体層	ドリル	2.5	0.9	0.5	0.9 g	頁岩	
44	P-165		遺体層	ドリル	(1.4)	0.7	0.3	(0.3)g	頁岩	
45	P-165	169	覆土	ナイフ	3.9	2.1	0.7	5.1 g	チャート	
46	P-165	121	遺体層	スクレイパー	3.6	1.8	1.0	6.2 g	頁岩	
47	P-165	55	遺体層	スクレイパー	3.8	2.0	1.0	5.8 g	頁岩	
48	P-165	7	遺体層	スクレイパー	6.0	4.3	2.8	47.0 g	黒曜石	
49	P-165	63	遺体層	スクレイパー	7.6	3.0	1.2	26.4 g	黒曜石	
50	P-165	54	遺体層	スクレイパー	6.1	2.3	1.0	14.2 g	チャート	
51	P-165	33	遺体層	スクレイパー	5.0	3.4	0.8	9.2 g	チャート	
52	P-165	57	遺体層	石斧	(7.2)	3.5	1.4	(52.5)g	ハンレイ岩	
53	P-165	42	遺体層	有孔石製品	長径 2.6 短径 2.4	孔径 0.8	0.3	1.9 g	流紋岩	
54	P-165	40	遺体層	有孔石製品	長径 2.9 短径 2.35	孔径 0.9	0.35	2.0 g	流紋岩	
55	P-165	43	遺体層	有孔石製品	長径 2.9 短径 2.45	孔径 0.9	0.3	1.7 g	流紋岩	
56	P-165	47	遺体層	有孔石製品	長径 2.75 短径 2.6	孔径 0.85	0.4	2.6 g	流紋岩	
57	P-165	46	遺体層	有孔石製品	長径 2.0 短径 1.9	孔径 0.6	0.3	0.9 g	流紋岩	
58	P-165	41	遺体層	有孔石製品	長径 2.2 短径 1.9	孔径 0.6	0.4	1.9 g	流紋岩	
59	P-165	39	遺体層	有孔石製品	長径 (4.8) 短径 4.05	孔径 4.1	0.4	6.4 g	流紋岩	
60	P-165	44	遺体層	有孔石製品	長径 4.35 短径 3.3	孔径 1.1	0.6	8.2 g	流紋岩	
61	P-165	45	遺体層	有孔石製品	長径 3.1 短径 (1.65)	孔径 (1.0)	(0.25)	(0.8)g	流紋岩	破損
62	P-165	38	遺体層	有孔石製品	長径 (2.8) 短径 2.3	孔径 (0.8)	0.3	(1.2)g	流紋岩	破損
63	P-165	22	遺体層	自然石?	5.5	1.6	1.2	12.4 g	泥岩	石製品
64	P-165		覆土	サメの歯	0.7	0.5	0.15	0.1g 以下	メジロザメ科	
65	P-165		覆土	サメの歯	0.5	0.5	0.15	0.1g 以下	メジロザメ科	
66	P-165		覆土	サメの歯	0.6	0.45	0.2	0.1g 以下	メジロザメ科	
31-1	P-168	1	覆土	Ⅲ b						胴部 拓本
2	P-168	2	覆土	Ⅲ b						胴部 拓本
31-1	P-169	1	坑底	Ⅲ b	1.8	6.5	8.3	9.3		ベンガラ付着 扁平なプラスチック
32-2	P-169	11	坑底	石鏃	3.5	1.35	0.4	1.2 g	黒曜石	先端部
3	P-169		覆土	石鏃	4.6	1.2	0.4	1.5 g	頁岩	
4	P-169	18	坑底	石鏃	5.7	1.35	0.45	1.8 g	黒曜石	
5	P-169	19	坑底	石鏃	6.3	0.8	0.4	2.3 g	黒曜石	
6	P-169	20	坑底	石鏃	5.8	1.25	0.45	2.3 g	黒曜石	
7	P-169	21	坑底	石鏃	5.3	1.5	0.45	2.1 g	黒曜石	
8	P-169	22	坑底	石鏃	5.7	1.35	0.3	1.8 g	黒曜石	
9	P-169	12	坑底	石鏃	(1.55)	0.6	0.25	(0.2)g	黒曜石	
10	P-169	16	坑底	ナイフ	6.7	2.8	0.95	16.0 g	頁岩	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重量 (g)		
32-11	P-169	13	坑底	ナイフ	8.05	3.2	0.9	28.2 g	頁岩	
12	P-169	14	坑底	ナイフ	8.0	3.3	1.1	29.4 g	頁岩	
13	P-169	15	坑底	ナイフ	5.5	2.6	0.7	9.7 g	チャート	
14	P-169	8	坑底	ナイフ	8.45	4.45	0.55	18.2 g	チャート	
15	P-169	5	坑底	スクレイパー	4.3	2.0	0.5	3.7 g	チャート	
16	P-169	17	坑底	スクレイパー	10.25	4.0	1.5	60.5 g	黒曜石	
17	P-169	7	坑底	スクレイパー	6.6	3.9	0.9	28.8 g	頁岩	
18	P-169	10	坑底	原石	4.95	3.4	2.3	51.0 g	黒曜石	
33-1	P-170	13	坑底	Ⅲ b	12.2	4.8		16.3		
2	P-170		遺体層	サメの歯	1.05	0.5	0.25	0.1 g 以下	メジロザメ科	篩より
3	P-170	14	遺体層	管玉	3.7	1.4	0.65	12.6 g	蛇紋岩	
4	P-170	6	覆土	礫玉	2.9	1.75	0.25	1.7 g	粘板岩	
5	P-170	8	遺体層	礫玉	2.05	1.7	0.35	1.7 g	粘板岩	
6	P-170	10	遺体層	礫玉	2.0	1.15	0.2	0.6 g	粘板岩	
7	P-170	2	坑底	礫玉	1.7	1.2	0.15	0.5 g	粘板岩	
8	P-170	4	坑底	礫玉	2.0	1.4	0.35	1.3 g	粘板岩	
9	P-170	15	坑底	礫玉	2.55	1.1	0.25	1.2 g	粘板岩	
10	P-170	9	遺体層	礫玉	2.1	1.6	0.35	1.9 g	粘板岩	
11	P-170	7	覆土	礫玉	2.15	1.2	0.2	0.7 g	粘板岩	
12	P-170		覆土	礫玉	2.3	1.7	0.25	1.5 g	粘板岩	
13	P-170		覆土	礫玉	2.3	1.4	0.25	1.1 g	粘板岩	
14	P-170	5	遺体層	フレイク	3.0	1.3	0.6	1.9 g	黒曜石	
33-1	P-172	1	遺体層	Ⅲ b						胴部 拓本
2	P-172	3	遺体層	石鏃	3.1	1.35	0.2	0.7 g	黒曜石	
3	P-172	4	遺体層	石鏃	4.25	1.3	0.45	1.8 g	黒曜石	
4	P-172	5	遺体層	石鏃	4.0	1.45	0.4	1.7 g	黒曜石	
5	P-172	6	遺体層	石鏃	3.8	1.25	0.3	1.5 g	黒曜石	
34-1	P-171	1	坑底	Ⅲ b	13.2	6.3		17.2		
34-1	P-175	1	遺体層	Ⅲ b	(9.5)	5.0	11.5	9.2		
35-1	P-173	6	遺体層	Ⅲ b						胴部 拓本
2	P-173	2/5	遺体層	平石	12.9	9.0	0.95	12.0 g	泥岩	
35-1	P-174	1	遺体層	礫	1.6	2.2	1.1	2.5 g	石英	
35-1	P-176	1	遺体層	Ⅲ b	(11.1)	4.4		13.8		
2	P-176	2	遺体層	勾玉状製品	1.1	0.8	0.45	0.4 g	碧玉	
3	P-176	3	遺体層	管玉	(1.5)	0.45	0.2	(0.4)g	碧玉	
4	P-176	3	遺体層	管玉	1.15	0.45	0.15	0.3 g	碧玉	
5	P-176	5	遺体層	管玉	4.16	0.45	0.2	1.3 g	碧玉	
6	P-176	4	遺体層	管玉	(2.2)	0.45	0.2	(0.6)g	碧玉	
7	P-176	6	遺体層	管玉	(1.8)	0.5	0.2	(0.6)g	碧玉	
8	P-176	7	遺体層	管玉	(1.5)	0.55	0.2	(0.5)g	碧玉	
36-1	P-177	31	遺体層	Ⅲ b	6.0	3.8	11.1	18.1		瓢箪形土器
2	P-177	8	遺体層	ドリル	4.8	1.1	0.9	4.5 g	チャート	
3	P-177	25	遺体層	スクレイパー	3.3	1.6	0.6	2.9 g	チャート	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考	
					口径 長さ (cm)	底径 幅 (cm)	胸径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)			
36-4	P-177	4	遺体層	スクレイパー	6.3	2.5	0.7	9.9 g	チャート	篩より	
5	P-177		遺体層	サメの歯	1.0	0.9	0.2	0.1 g 以下	ホホジロザメ		
37-6	P-177	5	遺体層	R・F	6.3	2.9	1.4	20.8 g	黒曜石		
7	P-177	19	坑底	フレイク	1.9	0.7	0.5	0.5 g	メノウ		
8	P-177	15	坑底	フレイク	1.9	0.7	0.3	0.4 g	メノウ		
9	P-177	26	坑底	石斧	7.1	3.7	1.0	38.6 g	泥岩		
10	P-177	14	遺体層	石斧	9.9	4.2	1.3	82.0 g	泥岩		
11	P-177	1	遺体層	石斧	11.1	6.1	(1.5)	(152.0) g	ハンレイ岩		
12	P-177	3	覆土	砥石	10.3	6.9	7.8	200.0 g	凝灰岩		
13	P-177	10	遺体層	擦石	6.5	3.1	2.5	78.0 g	安山岩		
14	P-177	22	坑底	コア	7.7	8.6	5.2	495.0 g	メノウ		
15	P-177	21	遺体層	擦石	(19.1)	16.3	6.0	(2.440) g	安山岩		ベンガラ付着
38-1	P-178	1	遺体層	スクレイパー	4.9	2.6	1.0	14.0 g	頁岩		
2	P-178	3	遺体層	フレイク	5.15	2.45	0.8	12.4 g	チャート		
3	P-178	2	遺体層	フレイク	6.15	4.2	1.55	30.6 g	玄武岩		
4	P-178	4	遺体層	フレイク	3.05	1.45	0.8	2.9 g	黒曜石		
5	P-178	5	遺体層	コア	6.0	3.1	1.5	22.4 g	黒曜石		
38-1	P-179	2	遺体層	石鏃	(2.1)	0.9	0.25	0.3 g	チャート		
2	P-179		覆土	石鏃	3.0	0.9	0.3	0.5 g	チャート		
3	P-179	1	遺体層	石斧	6.0	7.4	0.95	16.0 g	泥岩		
39-1	P-180	1	坑底	Ⅲ b	(10.9)	6.5	11.6	13.9			
2	P-180	4	覆土	フレイク	3.85	1.7	1.05	6.6 g	黒曜石		
3	P-180	3	覆土	コア	3.85	3.8	1.25	15.0 g	黒曜石		
39-1	P-181	1	遺体層	フレイク	4.5	2.7	1.3	12.0 g	黒曜石		
2	P-181	6	遺体層	フレイク	6.0	3.3	0.9	16.8 g	黒曜石		
3	P-181	7	遺体層	フレイク	6.5	4.6	1.5	24.0 g	黒曜石		
4	P-181	3	遺体層	コア	5.2	5.3	2.4	93.5 g	石英		
40-1	P-182A	7	遺体層	Ⅲ b	(8.8)	7.0	19.3	27.0			扁平な小判形
2	P-182A	1	覆土	Ⅲ b	1.5	7.0	3.9	長さ 9.4			
3	P-182A	29	遺体層	有孔石製品	長径 2.2 短径 1.8	孔径 0.7	0.25	0.3 g	流紋岩		
4	P-182A	20	遺体層	有孔石製品	長径 2.6 短径 2.3	孔径 0.7	0.3	1.1 g	流紋岩		
5	P-182A	36	遺体層	有孔石製品	長径 2.9 短径 (0.75)	孔径 0.75	0.3	0.4 g	流紋岩		
6	P-182A	19	遺体層	有孔石製品	長径 (2.0) 短径 (2.4)		0.3	1.1 g	流紋岩		
7	P-182A	35	遺体層	有孔石製品	長径 3.6 短径 20.0	孔径 (0.8)	0.45	1.3 g	流紋岩		
8	P-182A	15	遺体層	スクレイパー	4.8	2.6	1.1	10.4 g	頁岩		
9	P-182A	23	遺体層	ナイフ	7.2	3.1	0.7	13.4 g	チャート		
10	P-182A	11	遺体層	ナイフ	8.5	4.5	0.9	31.4 g	チャート		
11	P-182A	12	遺体層	スクレイパー	8.1	3.2	1.0	28.2 g	頁岩		
12	P-182A	22	遺体層	スクレイパー	6.1	3.1	0.9	17.6 g	頁岩		
41-13	P-182A	28	遺体層	スクレイパー	3.2	2.0	0.7	4.1 g	黒曜石		
14	P-182A	26	遺体層	スクレイパー	3.7	1.9	0.8	5.8 g	頁岩		
15	P-182A	31	遺体層	フレイク	4.6	4.5	1.5	21.4 g	頁岩		
16	P-182A	2	覆土	石斧	12.9	3.0	1.5	85.0 g	泥岩	ベンガラ付着	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計 測 値				材 質	備 考
					口 径 長さ (cm)	底 径 幅 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
41-17	P-182A	13	遺体層	石斧	10.8	4.0	1.8	11.7 g	泥 岩	ベンガラ付着 ベンガラ付着
18	P-182A	10	遺体層	石斧	14.5	4.7	1.8	(20.5)g	ハンレイ岩	
19	P-182A	6	遺体層	石斧	11.2	4.5	1.4	105.0 g	泥 岩	
20	P-182A	21	遺体層	石斧	7.9	3.9	1.5	74.5 g	泥 岩	
21	P-182A	30	覆土	石斧	11.3	3.7	1.9	125.0 g	泥 岩	
22	P-182A	9	遺体層	石斧	19.0	3.8	3.2	225.0 g	泥 岩	
23	P-182A	8	遺体層	石斧	12.3	4.1	2.6	200.0 g	ハンレイ岩	
24	P-182A	18	遺体層	砥石	3.9	2.8	1.2	11.4 g	砂 岩	
25	P-182A	16	遺体層	砥石	5.8	4.3	1.3	31.6 g	砂 岩	
26	P-182A	24	遺体層	砥石	10.6	9.9	3.4	43.3 g	凝灰岩	
27	P-182A	3	遺体層	コア	4.6	4.2	1.4	21.8 g	黒曜石	
28	P-182A	25	覆土	礫	4.8	2.3	1.0	14.6 g	泥 岩	
42-1	P-182B	27	遺体層	Ⅲ b	16.4	6.2		19.6		
2	P-182B		遺体層	サメの歯	1.0	0.6	0.25	0.1g以下	ホホジロザメ	歯より
3	P-182B	51	遺体層	石鏃	2.3	1.1	0.4	0.6 g	頁 岩	アスファルト付着
4	P-182B	51	遺体層	石鏃	2.9	1.1	0.4	0.8 g	頁 岩	アスファルト付着
5	P-182B	49	遺体層	石鏃	3.1	1.1	0.4	0.7 g	頁 岩	アスファルト付着
6	P-182B	38-7	遺体層	石鏃	(4.7)	1.2	0.4	(2.0)g	黒曜石	
7	P-182B	38-4	遺体層	石鏃	4.9	1.3	0.4	1.6 g	黒曜石	
8	P-182B	38-6	遺体層	石鏃	4.7	1.2	0.4	1.4 g	黒曜石	
9	P-182B	38-2	遺体層	石鏃	4.4	1.2	0.5	1.6 g	黒曜石	
10	P-182B	38-3	遺体層	石鏃	4.5	1.4	0.4	1.4 g	黒曜石	
11	P-182B	38-5	遺体層	石鏃	3.9	1.2	0.5	1.2 g	黒曜石	
12	P-182B	50	遺体層	石鏃	2.7	1.1	0.4	0.7 g	黒曜石	
13	P-182B	50	遺体層	石鏃	3.3	1.4	0.4	1.1 g	黒曜石	
14	P-182B	38-1	遺体層	石鏃	2.7	1.3	0.4	0.9 g	黒曜石	
15	P-182B	39	遺体層	石槍	5.8	2.4	0.8	9.8 g	黒曜石	
16	P-182B	52	遺体層	ナイフ	4.5	2.1	0.6	6.4 g	頁 岩	
17	P-182B	40	遺体層	スクレイパー	3.8	1.8	0.6	3.3 g	チャート	
18	P-182B	53	遺体層	スクレイパー	3.7	2.0	0.5	3.8 g	黒曜石	
19	P-182B	41	遺体層	スクレイパー	7.8	2.7	0.8	13.6 g	チャート	
20	P-182B	47	遺体層	スクレイパー	7.0	3.0	1.0	10.8 g	黒曜石	
43-1	P-183	1	遺体層	Ⅲ b	(22.5)	6.2		23.6		有孔
2	P-183		覆土	石鏃	2.05	1.1	0.3	0.4 g	黒曜石	
3	P-183	4	遺体層	石鏃	4.1	1.8	0.53	4.4 g	チャート	
4	P-183	16	遺体層	スクレイパー	3.95	1.7	1.7	4.7 g	チャート	
5	P-183	8	遺体層	ナイフ	4.6	2.0	0.7	7.5 g	チャート	
6	P-183	7	遺体層	スクレイパー	3.9	2.4	0.6	6.4 g	チャート	
7	P-183	6	遺体層	スクレイパー	5.0	2.7	1.9	23.4 g	頁 岩	
8	P-183	10	遺体層	スクレイパー	9.0	2.55	0.7	14.8 g	頁 岩	
44-9	P-183	12	遺体層	R・F	4.65	6.4	1.1	27.4 g	頁 岩	
10	P-183	19	遺体層	R・F	5.6	3.5	0.9	17.4 g	頁 岩	
11	P-183	14	遺体層	フレイク	3.5	1.9	0.5	2.9 g	黒曜石	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計 測 値				材 質	備 考
					口 径 長さ (cm)	底 径 幅 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
44-12	P-183	11	遺体層	フレイク	3.7	2.35	0.6	4.2 g	黒曜石	
13	P-183	17	遺体層	フレイク	3.3	2.1	0.5	3.3 g	黒曜石	
14	P-183	15	遺体層	フレイク	5.6	3.2	1.05	19.8 g	頁 岩	
15	P-183	13	遺体層	フレイク	4.2	3.3	0.95	12.8 g	頁 岩	
16	P-183	3	遺体層	石斧	12.0	5.5	1.95	241 g	ハンレイ岩	
17	P-183	9	遺体層	石斧	16.8	6.95	2.2	34.3 g	ハンレイ岩	
18	P-183	2	遺体層	石斧	9.0	4.45	1.3	95.0 g	泥 岩	
19	P-183	18	遺体層	石斧	9.05	3.9	1.4	87.5 g	泥 岩	
20	P-183	5	遺体層	敲石	11.6	2.3	2.05	86.5 g	砂 岩	
21	P-183		覆土	礫	(2.9)	2.8	(1.2)	(8.7)g	凝灰岩	
45-1	P-184	6	遺体層	Ⅲ b	9.7	7.6	4.5			ベンガラ付着
2	P-184	1	坑底	Ⅲ b	11.2	5.0		14.8		扁平な小判形
3	P-184		覆土	Ⅲ b						口縁部 拓本
4	P-184	33	遺体層	石鏃	3.4	1.1	0.7	1.5 g	黒曜石	ベンガラ付着
5	P-184	34	遺体層	石鏃	4.0	1.0	0.8	1.9 g	黒曜石	ベンガラ付着
6	P-184	57	遺体層	石鏃	2.8	1.1	0.5	0.9 g	黒曜石	
7	P-184	36	遺体層	石鏃	2.9	1.1	0.5	0.8 g	黒曜石	ベンガラ付着
8	P-184	35	遺体層	石鏃	2.7	1.2	0.4	0.7 g	黒曜石	ベンガラ付着
9	P-184	54	遺体層	石鏃	2.8	1.4	0.8	2.2 g	黒曜石	ベンガラ付着
10	P-184	50	遺体層	ドリル	2.3	1.0	0.6	1.2 g	黒曜石	
11	P-184	28	遺体層	スクレイパー	5.5	3.3	0.8	14.8 g	チャート	ベンガラ付着
12	P-184	25	遺体層	R・F	6.3	3.8	0.6	16.2 g	頁 岩	ベンガラ付着
13	P-184	17	遺体層	R・F	3.1	1.8	0.5	2.4 g	頁 岩	
14	P-184	40	遺体層	スクレイパー	2.7	1.5	0.6	2.4 g	チャート	ベンガラ付着
15	P-184	14	遺体層	有孔石製品	4.9	2.4	2.8	32.8 g	泥 岩	ベンガラ付着
16	P-184		覆土	礫	5.3	2.3	1.3	12.2 g	凝灰岩	
17	P-184	61	坑底	サメの歯	1.5	1.3	0.4	0.1 g	ホホジロザメ	
18	P-184		遺体層	サメの歯	1.4	1.25	0.25	0.1 g	ホホジロザメ	篩より
19	P-184	4	遺体層	石斧	14.0	5.2	2.9	310 g	泥 岩	ベンガラ付着
20	P-184	5	遺体層	石斧	14.8	6.7	3.2	512 g	泥 岩	ベンガラ付着
46-1	P-185	2	遺体層	Ⅲ b						胴部 拓本
2	P-185	1	坑底	石斧	7.0	3.5	1.0	34.8 g	ハンレイ岩	
46-1	P-186	2	遺体層	石鏃	4.7	1.6	0.8	4.7 g	チャート	
2	P-186	1	坑底	スクレイパー	11.6	4.2	1.2	49.8 g	頁 岩	
47-1	P-187	1	坑底	Ⅲ b	12.0	5.2		13.5		
2	P-187	2	覆土	石鏃	3.2	1.5	0.4	0.7 g	黒曜石	
3	P-187	2	覆土	石鏃	2.5	1.2	0.5	0.7 g	黒曜石	
4	P-187	2	覆土	石鏃	4.6	1.4	0.5	1.8 g	黒曜石	
5	P-187	2	覆土	石鏃	3.9	1.1	0.4	0.8 g	黒曜石	
6	P-187	2	覆土	石鏃	3.5	1.2	0.4	0.9 g	黒曜石	
7	P-187	15	覆土	ナイフ	5.0	2.4	0.8	6.6 g	チャート	
8	P-187	23	坑底	ナイフ	5.0	2.0	0.6	0.3 g	チャート	
9	P-187	18	坑底	ナイフ	4.6	2.9	0.6	5.2 g	チャート	

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考	
					口径 長さ (cm)	底径 幅 (cm)	胴径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)			
47-10	P-187	24	坑底	ナイフ	5.7	2.8	0.9	118 g	チャート	ベンガラ附着	
48-11	P-187	8	坑底	石斧	8.2	2.8	1.9	72.5 g	泥岩		
12	P-187	16	覆土	石斧	6.8	2.0	1.2	27.2 g	泥岩		
13	P-187	19	覆土	石斧	(7.3)	(2.9)	(0.7)	(23.6)g	ハンレイ岩		
14	P-187	9	覆土	石斧	(6.5)	(3.7)	(0.9)	(29.8)g	ハンレイ岩		
15	P-187	22	坑底	石斧	8.7	(2.8)	1.6	(53.5)g	ハンレイ岩		
16	P-187	7	坑底	石斧	9.8	4.9	1.7	110.0 g	泥岩		
17	P-187	10	覆土	石斧	11.3	5.8	2.0	205.0 g	ハンレイ岩		
18	P-187	3	遺体層	石斧	21.8	5.1	3.7	576.0 g	泥岩		
19	P-187	11	覆土	砥石	7.5	4.5	1.8	54.5 g	砂岩		
20	P-187	12	覆土	原石	5.1	4.2	3.0	69.5 g	黒曜石		
21	P-187	20	覆土	原石	4.1	3.9	2.2	41.0 g	黒曜石		
22	P-187	17	坑底	擦石	8.9	5.7	4.3	217.0 g	安山岩		
49-1	P-188	3	遺体層	Ⅲb	11.8	6.0	15.2	15.5			ベンガラ附着 耳付土器
2	P-188	35	遺体層	石鏃	3.4	1.85	0.5	2.2 g	黒曜石		石器集中
3	P-188	40	遺体層	石鏃	3.95	2.2	0.55	3.4 g	黒曜石		
4	P-188	40	遺体層	石鏃	3.9	2.0	0.65	3.4 g	黒曜石		
5	P-188	40	遺体層	石鏃	(2.4)	1.4	0.45	(1.2)g	黒曜石		
6	P-188	40	遺体層	石槍	5.3	1.8	0.7	6.1 g	頁岩		
7	P-188	40	遺体層	ドリル	3.2	2.1	0.45	2.3 g	黒曜石		
8	P-188	40	遺体層	R・F	3.2	2.0	0.95	5.5 g	黒曜石		
9	P-188	40	遺体層	礫	6.8	1.65	1.0	14.8 g	安山岩		
10	P-188	1	遺体層	石鏃	3.1	1.3	1.45	1.1 g	黒曜石		
11	P-188	1	遺体層	石鏃	3.65	1.2	0.4	1.2 g	黒曜石		
12	P-188		遺体層	ドリル	2.1	0.7	0.5	0.5 g	黒曜石		
13	P-188	2	遺体層	スクレイパー	4.45	1.65	0.25	0.3 g	チャート		
14	P-188	38	遺体層	石鏃	4.65	1.8	0.5	3.5 g	黒曜石		
15	P-188	36	遺体層	石鏃	3.65	2.0	0.6	3.2 g	黒曜石		
16	P-188	44	遺体層	石鏃	3.95	1.9	0.55	2.4 g	黒曜石		
17	P-188	1	遺体層	石鏃	3.65	1.25	0.4	1.0 g	黒曜石		
18	P-188	1	遺体層	石鏃	3.95	1.3	0.45	1.3 g	黒曜石		
19	P-188	6	遺体層	スクレイパー	4.0	2.6	0.5	4.5 g	チャート		
50-20	P-188	37	遺体層	スクレイパー	5.3	4.0	1.15	19.4 g	黒曜石		
21	P-188	18	遺体層	ナイフ	5.8	3.8	0.9	14.4 g	チャート		
22	P-188	19	遺体層	フレイク	7.8	4.2	1.6	52.0 g	チャート		
23	P-188	16	遺体層	フレイク	6.3	4.4	5.3	32.4 g	頁岩		
24	P-188	45	遺体層	フレイク	4.95	4.0	1.3	24.4 g	黒曜石	ベンガラ附着	
25	P-188	31	遺体層	研磨器	4.2	4.2	3.2	14.0 g	軽石	ベンガラ附着、刻みあり	
26	P-188	42	遺体層	石斧	9.15	2.3	1.5	50.5 g	泥岩	ベンガラ附着	
27	P-188	12	遺体層	石斧	13.35	5.0	2.2	234.0 g	泥岩		
28	P-188	13	坑底	石斧	(15.1)	5.15	2.25	(322.0)g	泥岩		
29	P-188	4	遺体層	有孔石	3.8	3.55	2.55	62.0 g	メノウ	孔径1.45cm	
30	P-188	7	遺体層	石製品	6.1	5.25	3.95	145.0 g	泥岩	ベンガラ附着	

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計 測 値				材 質	備 考
					口 径 長さ (cm)	底 径 幅 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
50-31	P-188	5	遺体層	自然石	5.2	7.7	4.7	215 g	安山岩	穴径3.6cm 有孔石製品?
32	P-188		覆土	原石	3.05	1.9	1.1	8.0 g	石 英	
33	P-188	34	遺体層	原石	3.9	3.5	1.7	32.0 g	黒曜石	
34	P-188	30	遺体層	原石	4.2	3.3	2.1	38.6 g	黒曜石	
35	P-188	17	遺体層	原石	4.55	4.0	3.2	74.5 g	黒曜石	
36	P-188	15	遺体層	礫	3.9	1.6	1.5	16.6 g	安山岩	
37	P-188	9	遺体層	礫	7.3	2.4	1.6	40.4 g	安山岩	
51-1	P-189	7	遺体層	フレイク	8.4	3.7	1.4	38.6 g	チャート	
2	P-189	6	遺体層	フレイク	4.2	2.7	0.9	8.5 g	石 英	
3	P-189	2	遺体層	フレイク	4.5	3.1	1.5	4.3 g	黒曜石	
4	P-189	2	遺体層	フレイク	5.8	1.2	0.7	4.1 g	黒曜石	
5	P-189	2	遺体層	フレイク	7.3	3.0	0.9	21.0 g	チャート	
6	P-189	2	遺体層	礫	5.1	2.0	1.1	8.0 g	泥 岩	
7	P-189	2	遺体層	礫	5.7	1.5	1.1	12.0 g	安山岩	
8	P-189	2	遺体層	砥石	8.3	5.9	1.9	90.5 g	安山岩	
52-1	P-190	1	覆土	石斧	11.1	4.5	1.2	104.0 g	泥 岩	被熱?
2	P-190	3	覆土	石斧	12.4	5.2	1.7	192.0 g	泥 岩	
3	P-190	7	覆土	フレイク	3.6	2.6	0.8	6.4 g	メノウ	
4	P-190	5	覆土	礫	4.2	2.9	1.5	23.6 g	泥 岩	
5	P-190		覆土	ナイフ	4.3	2.4	0.9	9.6 g	チャート	
52-1	P-191	1	覆土	Ⅲ b	6.9	3.4		9.4		
53-1	P-192	6	坑底	Ⅲ b	(13.5)	5.5		15.9		ベンガラ付着
2	P-192	8	遺体層	Ⅲ b	8.0	6.0		9.0		
3	P-192	1	坑底	Ⅲ b	7.0	4.0		6.0		
4	P-192		覆土	石鏃	3.3	1.3	0.4	1.0 g	黒曜石	
5	P-192	13	遺体層	スクレイパー	8.5	3.0	1.5	24.6 g	頁 岩	
6	P-192	9	遺体層	ナイフ	10.5	4.3	1.2	53.5 g	チャート	
7	P-192	12	遺体層	ナイフ	6.5	3.4	1.0	22.2 g	チャート	
8	P-192	10	遺体層	敲石	13.8	3.9	1.7	16.5 g	泥 岩	
54-1	P-195	10	坑底	鉄製品	6.2	5.2	2.2	79.0 g		
54-1	P-194	1	遺体層	石鏃	3.8	1.4	0.4	1.4 g	黒曜石	ベンガラ付着
2	P-194	2	遺体層	石鏃	3.7	1.5	0.5	1.4 g	黒曜石	
3	P-194	3	遺体層	石鏃	3.6	1.3	0.4	1.2 g	黒曜石	
4	P-194	4	遺体層	石鏃	3.6	1.4	0.4	1.5 g	黒曜石	
5	P-194	5	遺体層	石鏃	4.3	1.4	0.5	1.7 g	黒曜石	
6	P-194	6	遺体層	石鏃	3.7	1.4	0.5	1.5 g	黒曜石	
7	P-194	7	遺体層	石鏃	4.4	1.4	0.5	1.6 g	黒曜石	
8	P-194	8	遺体層	石鏃	3.7	1.3	0.5	1.5 g	黒曜石	
9	P-194	9	遺体層	石鏃	3.0	1.5	0.4	1.5 g	黒曜石	
10	P-194	10	遺体層	石鏃	3.2	1.5	0.3	1.0 g		
11	P-194		覆土	石鏃	(2.7)	1.2	0.4	(0.8)g	チャート	
12	P-194		覆土	ドリル	2.9	0.8	0.5	0.3 g	チャート	
13	P-194		覆土	管玉	(2.2)	0.45	孔径 0.15	(0.8)g	碧 玉	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
55-1	P-196	7	坑底	Ⅲ f	12.2	5.3		13.2		
2	P-196	8	坑底	Ⅲ b	9.3	6.6	11.5	17.6		
3	P-196	9	坑底	ナイフ	3.3	1.2	0.4	1.8 g	チャート	
4	P-196	1	坑底	石斧	(12.5)	4.9	2.7	(222.0) g	泥岩	
5	P-196	2	坑底	原石	3.7	2.9	1.5	18.0 g	黒曜石	
56-1	P-199		坑底	Ⅲ b	17.0	6.4		20.9		
57-1	P-200	4	坑底	石鏃	4.0	1.0	0.5	1.1 g	黒曜石	
2	P-200	5	遺体層	石鏃	3.8	1.1	0.5	1.2 g	チャート	緑色
3	P-200	3	坑底	石鏃	2.4	1.0	0.4	0.7 g	黒曜石	
4	P-200	2	坑底	石鏃	2.7	1.1	0.3	0.6 g	黒曜石	
5	P-200	8	遺体層	スクレイパー	4.7	2.2	0.7	7.7 g	頁岩	
6	P-200	1	遺体層	石斧	(15.9)	6.0	3.2	(520.0) g	泥岩	
7	P-200	6	遺体層	砥石	8.6	(5.9)	2.2	(124.0) g	凝灰岩	
57-1	P-201	1	遺体層	Ⅲ b	12.7	7.6		9.6		わずかにベンガラ付着
2	P-201	14	坑底	石鏃	2.4	1.5	0.4	0.8 g	黒曜石	
3	P-201	7	坑底	スクレイパー	3.7	2.2	1.3	8.2 g	黒曜石	
4	P-201	10	坑底	スクレイパー	5.4	2.4	1.0	11.6 g	黒曜石	
5	P-201	8	坑底	原石	5.5	2.6	2.1	31.0 g	黒曜石	
6	P-201	11	坑底	原石	5.6	3.6	2.0	48.4 g	黒曜石	
58-1	P-203	1	遺体層	Ⅲ e	(9.5)	7.0	(11.7)	15.7		
2	P-203	2	遺体層	石鏃	2.3	1.0	0.3	0.4 g	黒曜石	
3	P-203	3	遺体層	石鏃	2.9	1.1	0.3	(0.6) g	黒曜石	
4	P-203	5	遺体層	ドリル	(5.4)	2.0	0.9	(10.8) g	黒曜石	
5	P-203	4	遺体層	棒状原石	7.0	1.2	1.5	20.0 g	黒曜石	ベンガラ付着
59-1	P-202	1	坑底	Ⅲ g	14.6	6.8		18.6		内面に木炭付着
2	P-202	2	坑底	Ⅲ g	11.0	6.6		12.5		ススの付着あり
3	P-202	3	坑底	Ⅲ g	13.1	3.5		6.2		坏、底部にシロシ有
4	P-202	5	遺体層	石製玉	径 0.75	孔径 0.3	0.35	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
5	P-202	9	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
6	P-202	10	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
7	P-202	11	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
8	P-202	12	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
9	P-202	13	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.25	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
10	P-202	13	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.35	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
11	P-202	14	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
12	P-202	14	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.25	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
13	P-202	14	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.3	0.15	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
14	P-202		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.3	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
15	P-202		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
16	P-202		遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
17	P-202		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
18	P-202		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.3	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
19	P-202		遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系



図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計 測 値				材 質	備 考
					口 径 長さ (cm)	底 径 幅 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
59-20	P-202		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.4	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
21	P-202		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
22	P-202		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
23	P-202		遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
24	P-202		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.35	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
25	P-202		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.25	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
26	P-202		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.25	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
27	P-202		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
28	P-202		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
29	P-202		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
30	P-202		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
31	P-202		遺体層	石製玉	径 0.75	孔径 0.3	0.3	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
32	P-202		遺体層	石製玉	径 0.8	孔径 0.25	0.25	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
33	P-202	8	遺体層	原石	4.5	3.6	2.75	54.0 g	黒曜石	
60-1	P-204	1	遺体層	Ⅲ b	5.7	4.0	7.5	9.7		
2	P-204	2	遺体層	琺瑯玉	1.1	0.6	孔径 0.2	0.3 g	コハク	
3	P-204	3	遺体層	琺瑯玉	1.5	0.85	孔径 0.25	0.7 g	コハク	
4	P-204	4	遺体層	琺瑯玉	2.3	0.8	孔径 0.3	1.3 g	コハク	
60-1	P-205	1	遺体層	Ⅲ b	19.5	7.5		10.7		
2	P-205	3	覆土	石斧	14.0	5.8	2.5	345.0 g	ハンレイ岩	
61-1	P-206	3	遺体層	Ⅲ b	11.7	5.4	13.4	17.3		
2	P-206	1	遺体層	石鏃	3.0	1.5	0.6	1.1 g	黒曜石	
3	P-206	4	遺体層	石鏃	2.3	1.5	0.6	1.2 g	黒曜石	
4	P-206	12	遺体層	コア	4.6	3.6	1.5	16.2 g	チャート	
5	P-206	17	遺体層	フレイク	3.8	3.2	1.0	10.4 g	黒曜石	
61-1	P-209	1	坑底	Ⅲ b	(15.8)	6.4	(16.7)	19.7		
2	P-209	2	坑底	Ⅲ b	(8.5)	(4.2)	(11.8)	13.8		工字文の沈線文有
62-1	P-207	1	遺体層	Ⅲ b	8.8	6.7	22.7	30.7		
2	P-207	2	遺体層	石鏃	3.4	1.1	0.4	0.8 g	黒曜石	
3	P-207	3	遺体層	石鏃	3.6	1.1	0.4	0.9 g	黒曜石	
4	P-207	4	遺体層	石鏃	3.3	1.1	0.3	0.9 g	黒曜石	
5	P-207	5	遺体層	石鏃	3.1	1.2	0.4	0.9 g	黒曜石	
6	P-207	14	遺体層	石鏃	2.6	1.1	0.4	0.7 g	黒曜石	
7	P-207	15	遺体層	石鏃	3.1	1.1	0.5	0.9 g	黒曜石	
8	P-207	16	遺体層	石鏃	3.2	1.1	0.3	0.7 g	黒曜石	
9	P-207	17	遺体層	石鏃	3.4	1.1	0.4	0.8 g	黒曜石	
10	P-207	18	遺体層	石鏃	3.2	1.0	0.3	0.6 g	黒曜石	
11	P-207	28	遺体層	石鏃	3.2	1.2	0.4	0.8 g	黒曜石	
12	P-207	13	遺体層	スクレイパー	3.4	2.5	0.6	3.3 g	頁 岩	
13	P-207	22	遺体層	スクレイパー	2.0	1.9	0.6	2.0 g	チャート	
14	P-207	20	遺体層	スクレイパー	2.7	3.7	0.7	4.3 g	黒曜石	
15	P-207	7	遺体層	石斧	6.6	4.0	1.0	50.5 g	ハンレイ岩	
63-1	P-208	1	坑底	Ⅲ b		5.0	25.2	(22.4)		

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径 長さ (cm)	底径 幅 (cm)	胴径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
63-2	P-208	3	坑底	Ⅲ b	(9.9)	(7.2)	(9.2)	10.0		
3	P-208	2	坑底	Ⅲ b		(6.0)	(13.7)	(13.0)		
4	P-208	9	遺体層	石鏃	3.0	1.2	0.5	0.9 g	黒曜石	有肩石鏃
5	P-208	7	遺体層	石鏃	2.8	1.2	0.4	0.9 g	黒曜石	
6	P-208	6	遺体層	石鏃	4.2	1.4	0.5	1.3 g	黒曜石	
7	P-208	12	遺体層	石鏃	(3.1)	1.4	0.3	(0.9)g	黒曜石	
8	P-208	11	遺体層	石鏃	3.4	1.2	0.3	0.7 g	黒曜石	
9	P-208	8	遺体層	石鏃	2.6	1.2	0.4	0.5 g	黒曜石	
10	P-208	10	遺体層	石鏃	3.3	1.3	0.3	0.7 g	黒曜石	有肩石鏃
11	P-208	5	遺体層	石鏃	4.9	1.3	0.4	1.3 g	黒曜石	
12	P-208	4	遺体層	ナイフ	7.2	3.5	1.0	31.0 g	チャート	
64-1	P-210	28	遺体層	サメの歯	0.95	1.0	0.2	0.1 g 以下	ホホジロザメ	
2	P-210		遺体層	サメの歯	1.4	1.4	0.3	0.1 g	ホホジロザメ	篩より
3	P-210	32	遺体層	ドリル	3.7	1.3	0.9	3.3 g	チャート	
4	P-210		覆土	スクレイパー	5.1	2.2	0.8	7.2 g	チャート	
5	P-210	3	遺体層	スクレイパー	4.9	1.7	0.7	4.5 g	頁岩	
6	P-210	29	遺体層	スクレイパー	4.2	3.0	0.8	7.0 g	チャート	
7	P-210	9	遺体層	フレイク	3.5	3.2	1.9	13.2 g	黒曜石	
8	P-210	1	遺体層	石斧	11.6	3.1	1.6	93.5 g	泥岩	
9	P-210	2	坑底	石斧	10.6	4.6	2.3	171.0 g	泥岩	
10	P-210	16	遺体層	石斧	13.7	4.9	2.8	315.0 g	泥岩	
11	P-210	19	坑底	礫	6.0	1.9	1.8	27.6 g	泥岩	
68-1	MO-23		覆土	Ⅳ a	(26.2)			(19.8)		
2	MO-23		覆土	Ⅳ a						胴部 拓本
3	MO-23		覆土	Ⅳ a						胴部 拓本
4	MO-23		覆土	Ⅳ a						胴部・底部 拓本
5	MO-23		覆土	Ⅳ c						胴部 拓本
6	MO-23		覆土	V a						
7	MO-23		覆土	石鏃	3.55	1.0	0.55	1.3 g	黒曜石	
8	MO-23		覆土	石鏃	2.45	1.55	0.35	1.0 g	黒曜石	
9	MO-23		覆土	石鏃	(1.6)	2.0	0.4	(1.2)g	黒曜石	
10	MO-23		覆土	ドリル	5.2	1.2	0.7	4.2 g	チャート	
11	MO-23		覆土	ナイフ	3.1	2.0	0.6	4.7 g	黒曜石	
12	MO-23		覆土	ナイフ	5.4	2.6	0.65	8.6 g	黒曜石	
13	MO-23		覆土	スクレイパー	4.5	2.2	0.5	4.2 g	黒曜石	
14	MO-23		覆土	石斧	7.6	4.1	1.0	52.5 g	泥岩	
15	MO-23		覆土	骨角器	(4.4)	0.8	0.6	(2.0)g	クジラ骨	中柄
16	MO-23		覆土	骨角器	(4.05)	0.75	0.65	(2.1)g	クジラ骨	中柄
17	MO-23		覆土	骨角器	(3.45)	0.9	0.65	(1.8)g	シカ骨	中柄
18	MO-23		覆土	骨角器	(3.0)	0.7	0.5	(0.9)g	シカ骨	中柄

遺物一覧表 (遺構外)

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
69-1	P-29-1		Ⅲ	Ⅲ a						ベンガラ付着 口縁部 拓本
2	P-30		攪乱	Ⅲ b	(5.7)	4.4	7.6	8.0		
3			攪乱	Ⅲ b	(7.0)	3.4	(7.2)	9.6		
4	M30		攪乱	Ⅲ b	(10.4)	(4.8)		6.0		
5	N29-4		Ⅲ	Ⅲ b	(10.6)		(10.1)	(11.1)		
6	P29-1 P30-1		Ⅲ	Ⅲ b	(26.6)		(27.5)	(25.7)		
7	M30-2		Ⅱ、Ⅲ	Ⅲ b						口縁部 拓本
8	O30-4 O30		Ⅲ 攪乱	Ⅲ b						口縁部(細線文有) 拓本
9	O29	1	Ⅲ	Ⅲ e						口縁部+胴部 拓本
70-10	Q30		Ⅲ	Ⅲ f	注1 口部長 2.0	注1 口部幅 2.5				
11	P29		攪乱	Ⅳ a						胴部 拓本
12	P29		攪乱	Ⅳ a						胴部 拓本
13	N30		攪乱	Ⅳ c						胴部 拓本
14	R30		攪乱	Ⅳ c						胴部 拓本
15	M31		攪乱	Ⅳ c						胴部 拓本
16	O30		攪乱	Ⅳ c						長頸壺の胴部破片 拓本
17			攪乱	石鏃	2.5	1.6	0.4	0.8 g	黒曜石	
18	Q30-4		Ⅲ	石鏃	2.1	1.6	0.3	0.5 g	黒曜石	
19	P30		攪乱	石鏃	2.8	1.2	0.3	0.7 g	黒曜石	
20	P29-1		攪乱	石鏃	3.0	1.2	0.4	0.8 g	黒曜石	
21	N30-3		Ⅱ	石鏃	4.2	1.3	0.5	1.9 g	黒曜石	
22	O29-1		攪乱	石鏃	4.1	1.1	0.4	1.1 g	黒曜石	
23			攪乱	石鏃	4.0	1.3	0.5	2.4 g	黒曜石	
24	O29-4		Ⅲ	石鏃	(2.3)	1.5	0.4	(1.1)g	黒曜石	
25	P30		攪乱	石鏃	(2.6)	1.3	0.4	(1.2)g	黒曜石	
26			攪乱	石槍	5.5	2.3	0.6	5.0 g	黒曜石	
27	O30-4		Ⅲ	石槍	(6.5)	1.2	2.6	(13.0)g	黒曜石	
28	O31		攪乱	ナイフ	7.2	2.6	0.9	17.2 g	頁岩	
29	R30		攪乱	ナイフ	9.3	4.3	1.1	34.8 g	頁岩	
30	Q31		攪乱	ナイフ	10.7	4.0	1.2	41.2 g	チャート	
31	N30		攪乱	スクレイパー	7.1	4.1	1.3	40.4 g	玄武岩	
32	P29		攪乱	石斧	12.0	2.2	1.5	220.0 g	泥岩	
71-33	N29		攪乱	石斧	6.9	2.8	1.1	35.2 g	泥岩	
34			攪乱	石斧	6.8	2.7	0.9	31.8 g	泥岩	
35	O30		攪乱	石斧	8.1	1.9	0.9	31.8 g	泥岩	両頭
36	O29-4		Ⅲ	石斧	8.9	2.5	1.5	50.5 g	泥岩	
37			攪乱	石斧	7.65	2.9	0.9	62.0 g	ハンレイ岩	
38			攪乱	石斧	8.3	3.1	0.9	39.6 g	蛇紋岩	
39	P30		攪乱	石斧	12.9	5.6	1.4	302.0 g	泥岩	
40	O29-4		Ⅲ	砥石	8.5	10.1	1.7	190.0 g	凝灰岩	
41	U29-3		Ⅱ	敲石	16.65	5.4	2.8	345.0 g	安山岩	
42	N31		攪乱	魚形石器	(17.6)	4.4	3.7	(270.0)g	砂岩	
43	N30-3		Ⅲ	茶臼	10.6	7.6	4.8	261.0 g	安山岩	受け皿

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
71-44	N30-1		Ⅱ	茶臼	(16.6)	(5.1)	(6.0)	(296.0) g	安山岩	接合
45	Q29		攪乱	骨角器	(7.1)	1.1	0.7	(4.7) g	陸獣骨	
46	N30-3		Ⅱ	骨角器	(4.45)	0.8	0.6	(2.0) g	陸獣骨	
47	O30		攪乱	骨角器	(4.65)	0.7	0.55	(1.9) g		
48	N30-3		Ⅱ	骨角器	(4.3)	0.7	0.55	(1.6) g	シカ骨	
49	O30		攪乱	骨角器	(3.8)	0.75	0.6	(1.5) g		
50	O30			針入れ	(3.56)	(0.8)	0.2	(0.5) g		
51	T30		攪乱	古銭	2.35		0.15	4.0 g		「寛永通宝」 拓本

道道地点 遺物集計表

遺構等	土器		石						器					類							装身具				金属製品			陶磁器	土製品	石製品	骨角器	サメの歯	その他	合計
	(完形)総数	石鏃 石槍	スクレイパー ナイフ	ドリル	R・F	コア フレイク	石斧	魚形 石器	楯石 砥石	原石 礫	有孔 石製品	石製正	管玉	土玉	礫玉	刀	キセル	その他	刀	石製玉	土玉	礫玉	骨角器	サメの歯	その他									
Pit	1,071 <sup>(47)</sup>	177	84	17	42	895	50	1	18	63	22	34	21	1	12			2	1	4					33	2	2,550							
FP	24				1	2																					27							
CP	380					2																					382							
FC						60																					60							
礫玉集中																											31							
MO	1,355 <sup>(47)</sup>	2	2	1	4	157	1	1	1									1								1,562								
小計	2,830 <sup>(47)</sup>	179	86	18	47	1,116	51	1	19	63	22	34	21	1	43		3	7	1	4	31			33	2	4,612								
包含層II	950		5	2	6	90		1															11		1	1,071								
包含層III	1,508	4	3		3	275	9	2																	1	1,807								
攪乱	5,086 <sup>(1)</sup>	22	16		17	599	13	1	5	3					1		3	16	610	1	15				1	6,409								
小計	7,544 <sup>(1)</sup>	26	24	2	26	964	22	1	8	3				1	1	3	16	617	1	26				3	9,287									
合計	10,374 <sup>(48)</sup>	205	110	20	73	2,080	73	2	27	66	22	34	21	1	44		3	19	624	1	5	57	33	5	13,899									



道道地点 遺構出土遺物集計表 (2)

遺構等	土器		石器					類				装身具					金属製品			陶磁器	土製品	石製品	骨角器	サメの歯	その他	合計											
	(完形)総数	石鏃 石槍	スクレットナイフ	ドリル	R・F	コア フレイク	石斧	魚形 石器	撥石 砥石	原石 礫	有孔 石製品	石製玉	管玉	土玉	礫玉	刀	キセル	その他																			
P-159																																					0
P-160	57					5	1		1															1												65	
P-161	65		1			4			1	3																										74	
P-162	(1)																																			0	
P-163	2	1				1				1														1												6	
P-164																																				0	
P-165	(3)	4	34	6	4	11	95	1		4	10											1													178		
P-166	121	2				1				1	1													1												127	
P-167	50					2																														52	
P-168	7																																			7	
P-169	(1)	8				6				2																										25	
P-170	(1)	2				2				2																										19	
P-171	(1)	17																																		17	
P-172	1	4				3				1																										9	
P-173	1					1				4																										8	
P-174											1																									1	
P-175	(1)	4								1																										5	
P-176	(1)	3																																		10	
P-177	(1)	1	3	1	1	324	4			2	1																								339		
P-178			1			4																														5	
P-179		2																																		3	
P-180	(1)	5				2				1																										8	
P-181	6					8					3																									17	
P-182A	(2)	12				20	8			3	1																								58		
P-182B	(1)	3	14	4		2	52																												76		







# 大川遺跡迂回路地点

## 第三章 迂回路地点

### 1. 概要

今年度発掘調査区は町道大川町11号線に沿って北東―南西方向に長く、2000年度迂回路地点調査区の北西側に直交し、1990年度調査区と1999・2000年度迂回路地点調査区の間を埋める形となっている。周辺工事との関係も有り、数回に分けて調査を行った。大まかに北西側調査区と南東側調査区に分けられ、当初、調査対象外であった両調査区の間の部分についても工事立会を実施し、一部発掘調査を行った。

町道の舗装・砂利層や排水溝、またその下に巡らされた各種配管等により全体に攪乱部分が多く、各遺構も部分的に影響を受け、一部は基盤層であるⅣ層にまで至る。また、2000年度迂回路地点調査区北西側に引き続いて、今年度調査区においても南東側調査区の南西端から北西側調査区の中央部にかけて大規模な攪乱を受けている。続縄文時代から近世にかけての遺物包含層であるⅡ層は攪乱の影響から部分的に見られる程度で、Ⅲ・Ⅳ層については、各層において粗粒砂層と細粒砂層が互層を成す部分が見られ、河川や海が氾濫を繰り返し堆積したものと考えられる。

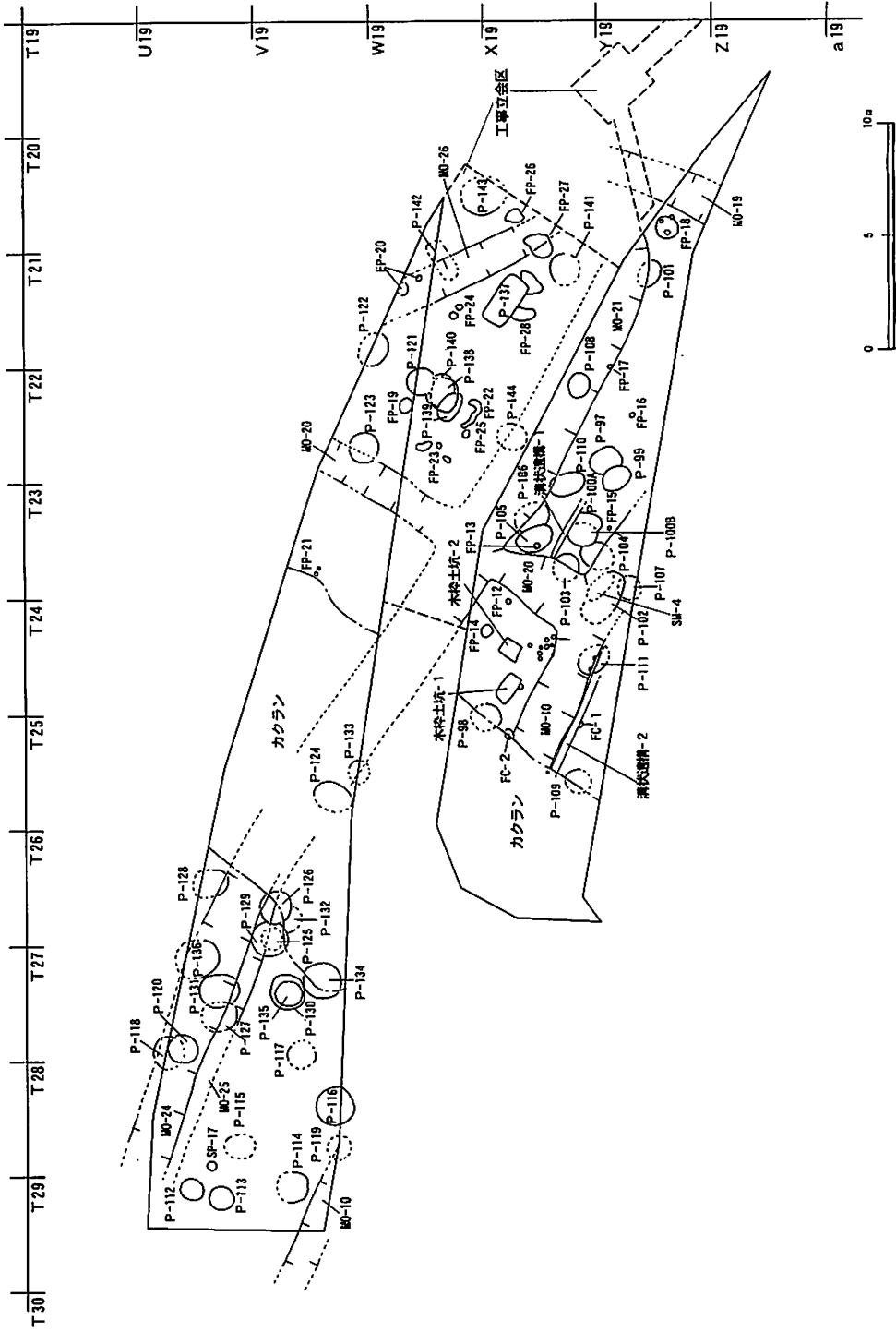
遺構としては、続縄文時代前半の恵山式期に属する墓坑21基、続縄文時代後半の後北式期から擦文時代初頭に属する墓坑23基、擦文時代前半に属する墓坑1基、近世～近代に属する墓坑3基、続縄文時代後半から擦文時代初頭に属する土坑1基、続縄文時代後半の後北式期に属する焼土1ヶ所、時期不明の焼土17ヶ所、時期不明の剥片集中2ヶ所、時期不明の小土坑17基、中世～近世に属する壕状遺構6基・溝状遺構2基、近世～近代に属する貝塚1基、近代に属する木枠土坑2基等が検出された。

続縄文時代前半の恵山式期に属する墓坑については、調査区南西側に集中し、隣接している今年度道道地点調査区において検出された同時期の墓坑群と一つの墓域を形成している。形態としては円形またはそれに近い楕円形を成し、遺体や坑底面に鮮やかなベンガラを散布しているものが多い。遺物としては、完形のものや意図的に壊して副葬されたと思われる土器、石鏃・石槍・ナイフ・スクレイパー・石錐・石斧等の石器、石器の原材や未製品と思われる剥片、管玉等の石製品他、各種の副葬品が多数見られる。

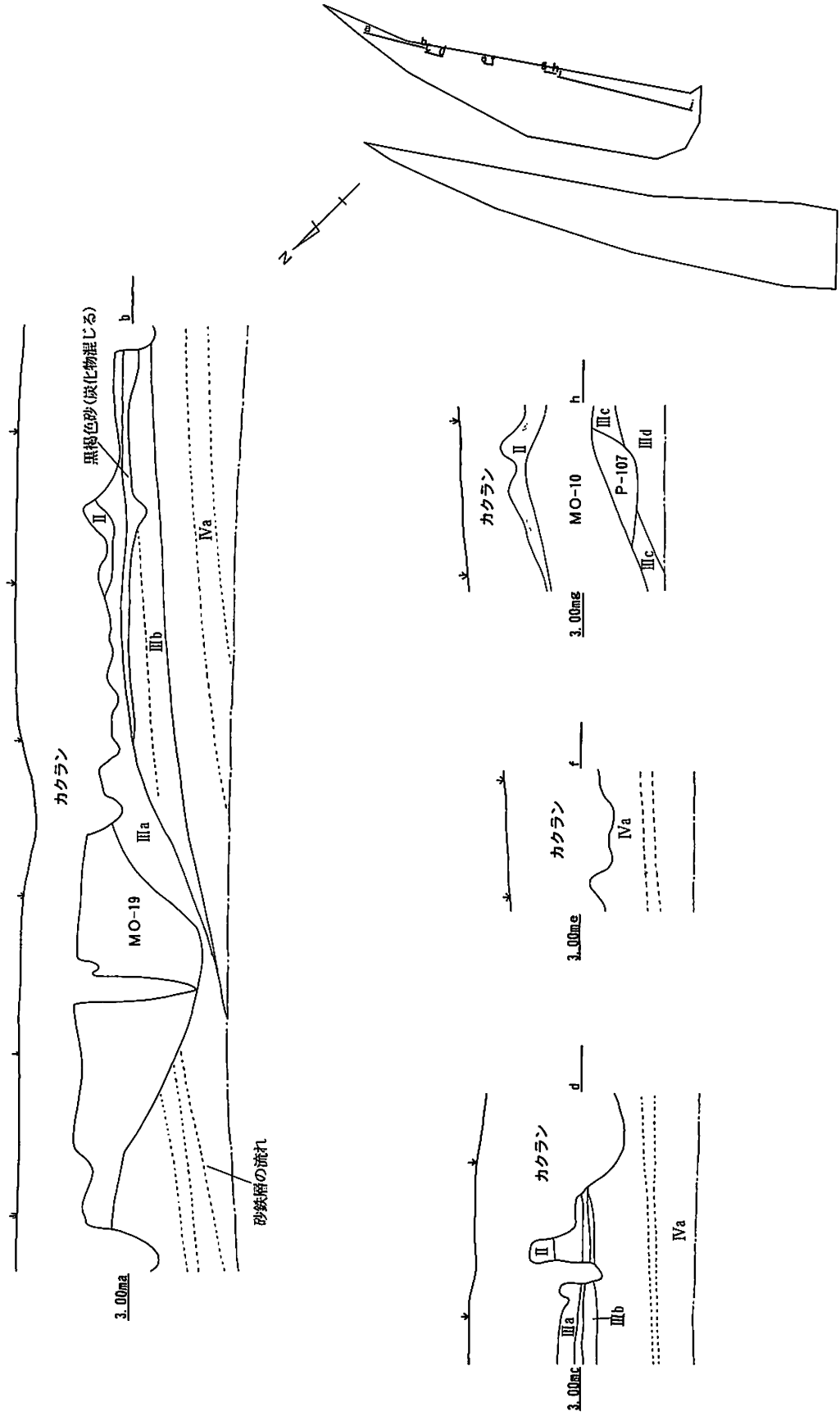
続縄文時代後半の後北式期から擦文時代初頭に属する墓坑・土坑については調査区北東側に集中し一つの墓域を成している。墓坑の形態としては楕円形を呈するものが多く、遺体の残存状態は比較的良好で大まかな頭位・埋葬方法が明確なものも見られる。ベンガラの散布は一部で見られるものの、さほど明瞭ではない。土器・石器を伴うものは少なく、遺物量は恵山式期に比して極端に減少するが、ガラス玉・土玉・石製玉が副葬された検出例が数基確認された。

また、これまでの調査に引き続き、壕状遺構が複数検出されている。伴出遺物が無いため、時期は判然としないが、壕の再構築や直交する壕との重複が確認された。

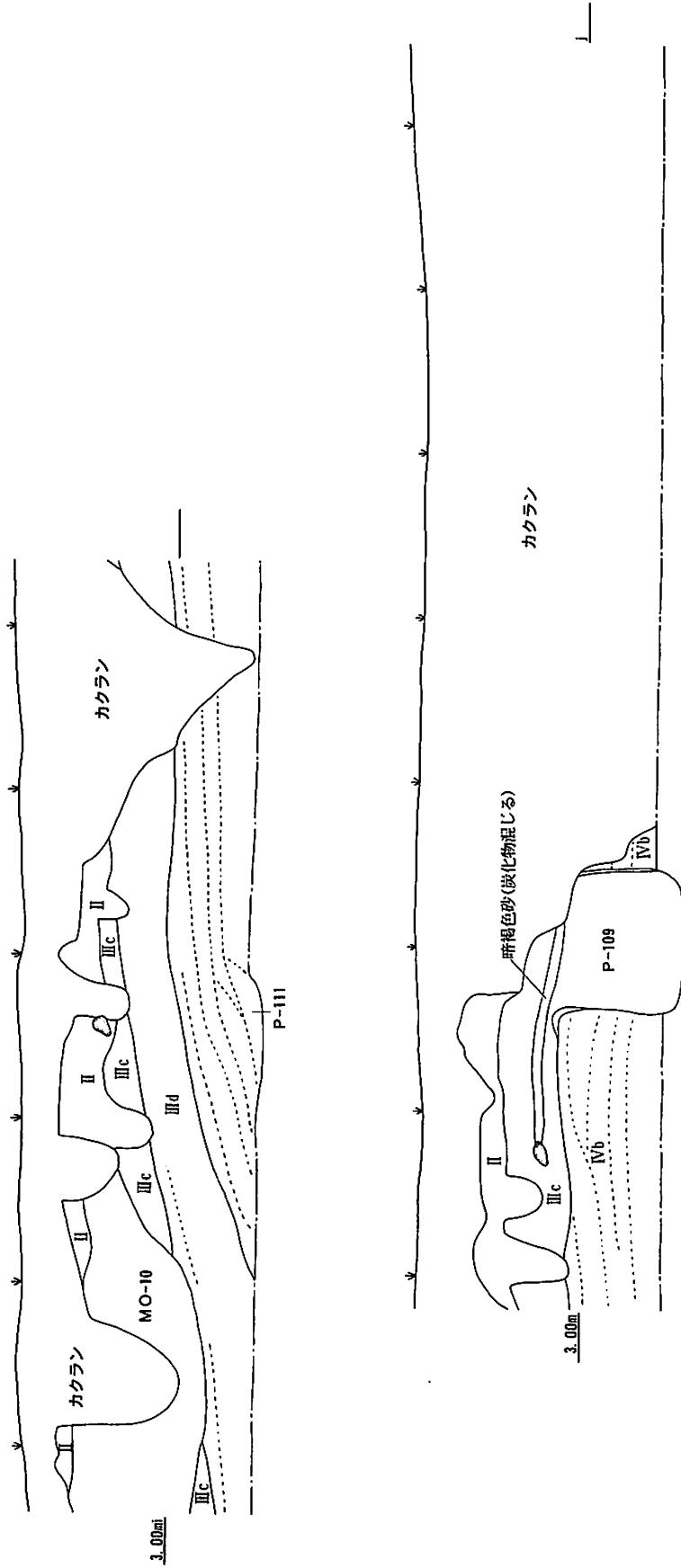
全体の出土遺物は土器11,231点、土製品（玉を含む）58点、石器3,544点、石製品（玉



第72図 迂回路地点遺構配置図



第73図 迂回路地点土層断面図(1)



- II 層：黒色土(上面は部分的に固くしまり、一部に炭化物が混じる。)
- IIIa 層：暗褐色砂(薄い砂鉄層が見られる。)
- IIIb 層：暗褐色砂(IIIa 層に比して色調はやや暗く、薄い砂鉄層が見られる。)
- IIIc 層：黄褐色砂(IIId 層に比して粒子が粗くしまりはない。薄い砂鉄層が見られる。)
- III d 層：黄褐色砂(粒子が細かくややしまりがある。砂鉄層が見られる。)
- IVa 層：褐色砂(細粒層と粗粒層が互層を成し、砂鉄層が見られる。)
- IVb 層：褐色砂(砂鉄層が発達しており、全体にしまりはない。)

第74図 迂回路地点土層断面図(2)

を含む) 203点、ガラス玉92点、骨角器 9 点、金属製品74点、陶磁器126点、その他15点、計15,352点を数える。

## 2. 遺構と出土遺物

遺構No.については1999・2000年度調査からの連番となっており、既刊の各年度調査報告書を参照願いたい。また、塚状遺構については1989年度からの大川遺跡発掘調査の全体を通しての連番となっている。

### (1) 墓坑および土坑

P-97 (第75・76図, 口絵 8, 写真18)

X22・Y22グリッドに跨り位置する。長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈し、南側をP-99に切られるが、現状で長軸1.35m×短軸1.00m、深さ約67cmを測る。遺体は2体確認され、両遺体ともに東頭位の屈葬で歯も検出されたが、両遺体の境は明瞭ではない。南側の遺体Aは顔面やや北向き、北側の遺体Bは南側を向き、ほぼ接した状態で検出された。2体の頭部周辺には濃い藍色を呈するガラス玉8点・土玉20点・石製平玉93点が出土し、特に遺体A側に多く見られ、一部は連なって出土したが、糸は確認されなかった。各種玉の並びには規則性は見られず、また遺体中央やや西側にも土玉1点が出土した。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-98 (第77図, 口絵 8, 写真19・28)

W24・25、X24・25グリッドに跨り位置する。北西~南西側を攪乱により切られプランを喪失している。長軸を北西-南東方向に持つ楕円形を呈すると思われる、現状で長軸1.03m×短軸1.10m、深さ約29cmを測る。遺体は北西側を欠いているが、南東頭位の屈葬と思われる。遺体頭部東側には骨片の範囲が検出され、南西側にはほぼ完形の土器が立った状態で出土し、2ヶ所に外耳が付き僅かではあるが赤色顔料により彩色が施される。頭頂部に濃い藍色を呈するガラス玉4点、側頭部及び右胸部に水色のガラス玉各1点が確認され、遺体取り上げ後に精査したところ、さらに40点(藍色2、水色38)のガラス玉が主に頭部周辺から出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代後半の後北C<sub>2</sub>-D式期に属するものと思われる。

P-99 (第78図)

Y22・23グリッドに跨り位置し、北側はP-97の南側を切って構築されている。長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈し、長軸1.25m×短軸0.91m、深さ約50cmを測る。遺体は東頭位の屈葬で顔面は北向き、歯も確認された。また、遺体西側に遺体とは別のものと思われる骨片も検出されている。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-100A (第79図, 写真20)

X23・Y23グリッドに跨り位置する。南西側上面をP-100Bに切られるが、長軸方向を北西-南東方向に持つ楕円形を呈し、現状で長軸1.40m×短軸1.04m、深さ約66cmを測る。遺体は東頭位の屈葬で顔面はやや北向き、歯も確認された。また、遺体上面西側に歯片が散らばって検出された。遺体は15~27cmほどの礫12点で囲まれ、頭部に2点、胸部に1点、腹部に1点、計4点の土玉が出土した。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-100B (第79図, 口絵6, 写真20)

X23グリッドに位置する。北東側がP-100A上面を切って構築されていると思われるが、確認できなかった。長軸を北西-南東方向に持つ楕円形を呈すると思われる。現状で長軸1.31m×短軸0.60m、深さ約28cmを測る。遺体は判然とせず、頭部から胸部周辺までの確認に留まるが、南東頭位の屈葬と推定され、歯も検出、わずかにベンガラ散布が見られる。遺体頭部周辺は14~19cmほどの礫5点で囲まれ、胸部に石製管玉1点出土した。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-101 (第80図)

Y21グリッドに位置する。MO-21に北西側を切られるが、長軸を北東-南西方向に持つ楕円形を呈し、現状で長軸1.22m×短軸0.80m、深さ約23cmを測る。遺体は北東頭位の屈葬で顔面は南向き、歯も確認された。遺体頸部に土玉2点出土し、坑底面に微量のベンガラが散布される。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-102 (第81図, 写真25)

X23・24、Y23・24グリッドに跨り位置する。MO-10とMO-20の交差部分のトレンチ調査中にその覆土より検出、北西から南西側のプランを喪失しており、上面にはSM-4が形成されている。長軸を北東-南西方向に持つ隅丸方形を呈すると思われ、現状で長軸2.05m×短軸1.00m、深さ約20cmを測る。遺体Aは身長165cmほどで、北東頭位の伸展葬、顔面は南東を向く。ほぼ全身が確認されたが、骨は脆弱で両手部を欠く。その北西側に頭部等部分的ではあるが、北東頭位のやや小柄な遺体Bが検出され、2体合葬と考えられる。遺体A右胸部に抱えるように太刀、右前腕部先端に刀子、右脚部南西側に高台内にシロシの見られる漆椀が膳或いは折敷と思われる漆器の上に伏せた状態で出土し、椀の上には別個体の一部と思われる漆器片に装着された銅製の金具が見られた。また、頭部北側に5点ほどの骨角器が出土したが、いずれも脆弱である。墓標穴は確認されなかった。検出状況等より近世~近代に属するアイヌ墓と思われる。



P-103 (第82図, 口絵5)

X23グリッドに位置する。MO-20に南側上面を切られるが、長軸を北西-南東方向に持つ円形或いは楕円形を呈すると思われ、現状で長軸1.13m×短軸0.95m、深さ約31cmを測る。覆土北東側に黒曜石約230点の剥片集中が検出され、同一母岩とも考えられるが、接合には至っていない。坑底面にはベンガラが散布され、遺体は判然とせず、歯も確認されなかったが、検出状況から東頭位の屈葬と推定される。西側に石鏃1点、剥片1点が出土した他は北東側に遺物が集中しており、濃い藍色を呈するガラス玉2点、薄い水色のガラス玉33点が一部を除いて散らばった状態で見られ、その南東側には弥生系土器が立った状態で出土した。土器の外観は肩のあまり張らない壺型を呈しており、口縁部に横方向の2条の結節縄文、頸部から胴部に撚糸文が縦走、赤色顔料により彩色が施され、丸模様などが看取される。これらの伴出遺物より続縄文時代後半の後北C<sub>2</sub>-D式期に属するものと思われる。

P-104 (第83図, 口絵6, 写真20)

X23・Y23グリッドに跨り位置する。北側上面をP-100Bに、南東側をMO-10に切られ、プランを喪失している。長軸を北東-南西方向に持つ楕円形を呈すると思われ、現状で長軸1.28m×短軸0.98m、深さ約28cmを測る。坑底面にはベンガラが散布され、遺体は判然とせず、歯も確認されなかったが、検出状況から東頭位の屈葬と推定される。北側に土器3点、その東側にやや離れて土器1点が出土、いずれも高さ10cmに満たない小型のもので、縦方向や地文に沿って赤色顔料により彩色が施される。うち1点は4方向から透かしの入った高台付きの土器で1ヶ所に外耳が見られる。これらの伴出遺物より続縄文時代後半の後北C<sub>2</sub>-D式期に属するものと思われる。

P-105 (第84図, 口絵6, 写真18)

X23グリッドに位置する。北側をP-106に切られるが、長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈し、現状で長軸1.58m×短軸1.02m、深さ約42cmを測る。遺体は東頭位の屈葬で歯も検出、顔面はやや南向きと思われ、うっすらとベンガラが散布される。遺体頭部周辺に石製平玉・棗玉計11点、魚骨(ニシン)2点が出土した。また、覆土上面にはFP-13が検出されており、埋葬後、何らかの儀礼を行った等の関連性が考えられる。検出状況等より続縄文時代後半後北式期に属するものと思われるが判然としない。

P-106 (第84・85図, 口絵6, 写真18)

X23グリッドに位置し、南側はP-105を切って構築されている。北側はMO-21に切られるが、長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈すると思われ、現状で長軸1.52m×短軸1.00m、深さ約29cmを測る。遺体は南東頭位の屈葬で歯も検出、顔面は北向きと思われ、うっすらとベンガラが散布される。遺体頭部周辺に土玉7点、石製平玉49点が集中し、一

部は連なって出土した。また胸部周辺にも土玉2点が見られた。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-107 (第86図, 写真19・28)

Y23グリッドに位置する。MO-10に覆土上面および北西側を切られておりプランを喪失、また南東側は調査区法面に入り込むが、長軸を北東-南西方向に持つ楕円形を呈すると思われ、現状で長軸1.05m×短軸0.65m、深さ約30cmを測る。遺体は北東頭位の屈葬で、頭部の残存状況は良好、首を立てた状態で検出された。明瞭なベンガラ散布は認められない。遺体北西側にほぼ完形の土器が出土しており、伴出遺物より続縄文時代後半の後北C<sub>2</sub>-D式期に属するものと思われる。

P-108 (第87図, 写真21)

X22グリッドに位置する。MO-21により上面を斜めに削平され、MO-21の底面より検出された。現状で長軸0.93m×短軸0.92m、深さ約40cmを測り、ほぼ円形を呈するが、本来は長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈すると思われる。遺体は東頭位の屈葬で歯も検出され、うっすらとベンガラ散布が認められる。遺体頭部周辺に土玉1点、石製丸玉1点、北側に剥片1点が出土した。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-109 (第86図)

X25グリッドに位置する。南東側は調査区法面に入り込み未確認、西側は攪乱を受けており、現状で0.50m×0.90m、深さ75cmを測るが、全体としては長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈し、長軸1.20m×短軸1.00m前後と推定される。遺体は脚部側の一部のみの確認で、東或いは北東頭位の屈葬と思われる。明瞭なベンガラ散布は認められず、伴出遺物も見られなかった。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-110 (第80図)

X22・23グリッドに跨り位置する土坑である。長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈し、長軸1.50m×短軸0.92m、深さ約24cmを測る。遺体は確認されず、覆土・坑底ともに遺物は見られなかった。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属する墓坑の可能性が考えられるが判然としない。

P-111 (第87図)

X24・Y24グリッドに跨り位置する。南東側は調査区法面に入り込み、一部拡幅して確認を行ったが、プラン上面と北-東側は波の浸食により、遺体頭部とともに喪失したもの

と思われる。推定で長軸1.50m×短軸1.00m前後、現状で深さ14cmを測り、長軸を東－西方向に持つ楕円形を呈すると思われる。遺体は頭部を欠くが、南東頭位の屈葬と思われ、一部にベンガラが散布される。遺体脚部北側に大型の礫を伴う。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-112 (第88図, 口絵6, 写真20)

U29グリッドに位置する。上面を攪乱により削平され、坑底面直上での検出であるが、現状で長軸1.00m×短軸0.87m、深さ約6cmを測り、長軸を北西－南東方向に持つ楕円形を呈する。遺体は判然としないが、上面ほぼ中央にベンガラが散布されており歯が検出され、東或いは南東頭位の屈葬と推定される。北東・南東・南西側に土器が各1点出土したが、いずれも攪乱により、上部を欠損する。また、歯の北東側に石製環3点、遺体南西側にはスクレイパー・ナイフ等石器と剥片の集中が出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-113 (第89図, 口絵6, 写真20)

U29グリッドに位置する。上面を攪乱により削平されるが、現状で長軸1.20m×短軸1.13m、深さ約16cmを測り、北－南方向にやや長い円形を呈する。遺体は判然とせず上面ほぼ中央にベンガラが散布されており歯は確認されなかったが、東或いは南東頭位の屈葬と推定される。ベンガラ範囲西側には赤色顔料により彩色が施された小型土器、中央付近にはスクレイパー、東側には石鏃等が出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-114 (第89図, 写真21)

V28・29グリッドに跨り位置する。北西側は配管工事に伴う攪乱を受けプランを喪失するが、現状で長軸1.40m×短軸1.16m、深さ約35cmを測り、北東－南西方向にやや長いほぼ円形を呈すると思われる。遺体は北東頭位の屈葬と思われ、頭部は立った状態で検出された。遺体の上面にはベンガラの散布が認められる。また、遺体東側にやや離れて歯やベンガラ範囲が検出された。頭部北東側に石斧1点、胸部周辺にスクレイパー1点、東側に石槍1点出土した。検出状況等より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われるが判然としない。

P-115 (第90図)

U28グリッドに位置する。上面を攪乱に削平され、北西側の一部を除いて攪乱によりプランを喪失している。推定で長軸1.20m×短軸1.10m前後、現状で深さ約12cmを測り、北西－南東方向にやや長い円形或いは楕円形を呈すると推定される。遺体はプランとともに攪乱を受け判然としないが、歯の位置等から南東頭位の屈葬と思われ、上面の一部には

ベンガラが認められる。遺体中央やや東側に15cmほどの礫が置かれ、歯の北西側には石鏃5点が出土したが、先端の向きは統一されていない。検出状況等より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われるが判然としない。

P-116 (第91・92図, 写真22・28)

V28グリッドに位置する。長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈し、長軸1.68m×短軸1.44m、深さ約60cmを測る。確認面西側および覆土東側に30cm前後の礫が計3点出土した。遺体上面および坑底ほぼ全面に厚くベンガラが散布され、遺体は判然としないが、歯が確認され、南東頭位の屈葬と思われる。遺体頭部周辺には石鏃・スクレイパー等の石器や剥片が出土、南側には完形土器が配される。頭部南側の石鏃はチャート質で先端北西向き、北側の石鏃は黒曜石製で先端南東向きとなっている。また、ベンガラ範囲西側には石斧やスクレイパー等の石器や剥片集中が見られ、同じく北側にはスクレイパー・ナイフ等の石器や剥片が凝灰岩を伴って出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-117 (第90図, 写真21・28)

V27・28グリッドに位置する。配管工事に伴う攪乱により、南西側・北東側のプランを喪失するが、現状で長軸1.27m×短軸0.50m、深さ約43cmを測り、東-西方向に長い楕円形を呈すると思われる。遺体上面および坑底ほぼ全面に厚くベンガラが散布されていたと思われるが、攪乱は一部坑底面にまで達しており、南西側を欠く。遺体は判然としないが、歯が確認され、南東頭位の屈葬と思われる。歯の東側にほぼ完形の土器が立った状態で出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-118 (第93図, 口絵6, 写真21・28)

U27・28グリッドに位置し、東側はP-120の西側上面を切って構築されている。南東側をMO-24に切られるが、現状で長軸1.34m×短軸1.15m、深さ約31cmを測り、北東-南西方向にやや長い円形或いは楕円形を呈すると思われる。遺体は北東頭位の屈葬で、上面にはベンガラが認められる。遺体北西側に遺物が集中しており、完形土器1点、石斧3点、石錐1点が出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-119 (第91図)

V28グリッドに位置する。上面および周辺を攪乱され、プランを喪失しており、57×38cm、厚さ約9cmを測る遺体範囲のみの検出で、頭位・葬法等詳細は不明である。明瞭なベンガラが散布は見られない。検出状況等より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われるが判然としない。

P-120 (第94図, 写真21・28)

U27・28グリッドに位置する。西側上面をP-118に切られ、上面全体をMO-24に削平されており、MO-24底面からの検出である。現状で長軸1.31m×短軸1.13m、深さ約36cmを測り、北西-南東方向にやや長い楕円形を呈する。遺体上面および坑底ほぼ全面に厚くベンガラが散布され、遺体は判然とせず、歯も確認されなかったが、東頭位の屈葬と思われる。遺体頭部南西側に土器が潰れた状態で出土、同じく北側に凝灰岩を伴ってナイフ・スクレイパー等の石器や剥片、遺体北西側にナイフ2点が出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-121 (第95図, 口絵6)

W22グリッドに位置する。北西側調査区と工事立会区に跨っており、南東側はP-138北西側と重複するが、新旧関係は確認できなかった。また、その下面に位置するP-140北西側を切って構築されている。東-西方向に長軸を持つ楕円形を呈し、現状で長軸1.46m×短軸1.10m、深さ約110cmを測る。遺体は東頭位の屈葬で歯が検出され、明瞭なベンガラの散布は認められない。遺体頭部南側より管玉1点が出土した。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-122 (第97図, 写真23)

V21・W21グリッドに跨り位置する。北西側は調査区法面に入り込み未確認、全体の1/2程度の検出に留まる。北東-南西方向に長軸を持つ楕円形を呈すると思われ、現状で長軸1.35m×短軸0.58m、深さ約74cmを測る。遺体は北東頭位の屈葬で顔面は北西向き、歯も確認された。明瞭なベンガラの散布は認められない。遺物の伴出は見られず、検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-123 (第96図, 写真23)

W22・X22グリッドに跨り位置する。上面は攪乱により削平されるが、現状で長軸1.36m×短軸1.27m、深さ約25cmを測り、北東-南西方向にやや長い円形を呈する。遺体は北東頭位の屈葬で歯も検出され、一部にベンガラの散布が認められる。頭部北西側と遺体ほぼ中央にいずれも欠損品であるが石鏃各1点が出土した。検出状況等より続縄文時代後半の後北式期に属するものと思われるが判然としない。

P-124 (第97図)

V25グリッドに位置する。調査区を横断する大型の攪乱の下からの検出のため、上面を削平され南側のプランを喪失しており、遺体層直上での検出である。現状で長軸1.68m×短軸0.75m、深さ約15cmを測り、北西-南東方向にやや長い円形を呈すると思われる。遺体は一部のみの検出で、頭位・葬法等詳細は不明、明瞭なベンガラの散布は認められな

い。遺体範囲南東側に小型の土器が出土したが、攪乱により上部を欠く。伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

#### P-125 (第98図)

V26グリッドに位置する。攪乱等の影響もありプランは確認できず、84×26cm、厚さ約10cmを測る北東-南西方向に長い遺体範囲とその直上南西側に潰れた状態の土器のみの検出である。歯が検出されており、北東頭位と推定されるが、葬法は不明である。明瞭なベンガラ散布は認められない。伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

#### P-126 (第99・100図, 写真22)

V26グリッドに位置し、南西側はP-129の北東側を、南東側はP-132の北側を各々切つて構築されている。東側は攪乱により切られるが、北東-南西方向に長い楕円形を呈し、現状で長軸1.45m×短軸1.23m、深さ約66cmを測る。遺体は北東頭位の屈葬で、ベンガラ散布は認められない。頭部両脇に20cmほどの礫各1点が配されており、ウサクマイ葬法に類似する。遺体南東側に刀子1点、頭部北西側に石製品1点出土した。検出状況等より擦文時代前半に属するものと思われるが判然としない。

#### P-127 (第101図, 写真23)

U27グリッドに位置する。南西側を攪乱され、北-西側をMO-24・25に切られ、プランを喪失している。現状で長軸1.33m×短軸0.81m、深さ約35cmを測り、北東-南西方向にやや長い円形或いは楕円形を呈すると思われる。遺体は西側を欠くが南東頭位の屈葬で一部にベンガラ散布が認められる。遺物は石鏃1点、剥片75点等で、一部は遺体上面にも見られるが、その殆どは頭部南東側に集中して出土した。検出状況等より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われるが判然としない。

#### P-128 (第101図)

U26グリッドに位置する。北西側は調査区法面に入り込み未確認、全体の1/2程度の検出に留まる。南東側はMO-24に斜めに切られ、プランを喪失するが、現状で長軸1.50m×短軸1.08m、深さ約18cmを測り、東-西方向に長い円形或いは楕円形を呈すると思われる。ほぼ中央に頭部および遺体の一部が検出され、頭位方向は東と推定されるが、葬法等詳細は不明である。ベンガラは遺体とやや離れて小範囲として確認された。遺体頭部周辺に遺物が集中しており、土器が潰れた状態で出土した他、剥片1点、有孔石製品1点等が出土した。土器は周辺の包含層出土の土器片と接合した事から、MO-24構築時に破壊され、散乱したものと推定される。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-129 (第99・100図, 写真23・28)

U26・27、V26・27グリッドに跨り位置し、東側はP-132の西側を切って構築されている。北東側の一部をP-126に切られるが、長軸1.61m×短軸1.45m、深さ約55cmを測り、北西-南東方向にやや長い円形を呈する。遺体は南東頭位の屈葬で歯も確認された。遺体上面および坑底ほぼ全面に厚くベンガラが散布され、遺体北西側には18cmほどの礫が1点配されている。頭部南西側に土器が潰れた状態で出土し、また、頸部に剥片が1点出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-130 (第102図)

V27グリッドに位置し、P-135の上面を削平して構築されている。上面は北東-南西方向に幅60~100cmに亘り配管に伴う攪乱により切られるが、現状で長軸1.65m×短軸1.65m、深さ約48cmを測り、北東-南西方向にやや長い円形を呈すると思われる。プランほぼ中央に遺体が検出され、南頭位の屈葬と思われるが、判然としない。明瞭なベンガラの散布は認められず、遺体北側に石鏃3点、東側に石鏃・スクレイパー各1点出土した。また南東側にも遺体の一部と歯が検出された。検出状況等より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われるが判然としない。

P-131 (第103・104図, 口絵6・7, 写真28)

U27グリッドに位置する。MO-24・25に上面を削平されており、MO-24底面からの検出である。現状で長軸1.62m×短軸1.46m、深さ約35cmを測り、東-西方向にやや長い円形を呈する。遺体は2体検出され、両遺体ともに東頭位の屈葬、歯も確認された。遺体上面および坑底ほぼ全面には厚くベンガラが散布される。北側の遺体Aの脚部周辺には石鏃が約50点集中して出土、先端は一部を除いて概ね西或いは北西方向を向く。また頭部南東側には先端南東向きの石鏃2点出土した。南側の遺体Bの頭部南側には土器が潰れた状態で、その周辺には石鏃・石槍・スクレイパー・ナイフ・石錐等の石器や剥片の集中が凝灰岩を伴って出土、石鏃は7点ほどの集中が見られるが、先端は概ね南東方向を向いており、遺体Aの脚部に見られた石鏃集中とはほぼ逆を向いて置かれている。また遺体B頸部から胸部にかけて碧玉製管玉と鉄石英製管玉が連なって出土したが、糸は確認されなかった。遺体Aと遺体Bの間にも石鏃・スクレイパー・ナイフ等の石器とともに管玉が出土しており、全体が一連のものかは、やや距離が離れていることもあり判然としないが、合計で35(碧玉31、鉄石英4)点が確認され、そのうち碧玉製2点が接合した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-132 (第99・100図, 写真23・28)

V26グリッドに位置する。北-西側をP-126・129に切られ、東側は攪乱を受けており、南側の一部を除いてプランを喪失する。深さは現状で約24cmを測り、推定で径1.20m前後

の円形を呈するものと思われる。遺体上面には厚くベンガラが散布され、遺体は判然とせず、頭位・葬法等詳細は不明である。遺体上面東側に剥片1点、西側には土器がやや立っているが割れた状態で出土した。これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-133 (第102図)

V25グリッドに位置する。調査区を横断する大型の攪乱により上面を削平されプラン南側の一部を喪失しており、遺体層直上での検出である。南東側は調査区法面に入り込み未確認、全体の1/3程度の検出に留まる。現状で長軸0.82m×短軸0.31m、深さ約10cmを測る。北西-南東方向にやや長い円形或いは楕円形を呈すると推定され、遺体は部分的な確認のみであるが、東或いは南東頭位の屈葬と思われ、北側に小範囲ながらベンガラの散布も見られた。遺体北東側に土器片1点が出土した。検出状況等より続縄文時代前半の恵山式期のものと思われるが判然としない。

P-134 (第105図, 写真23)

V27グリッドに位置する。調査区を横断する大型の攪乱により上面の一部を切られるが、北西-南東方向にやや長い円形を呈し、長軸1.66m×短軸1.56m、深さ約54cmを測る。遺体は南東頭位の屈葬で歯も確認された。遺体上面および坑底ほぼ全面に厚くベンガラが散布され、遺体ほぼ中央には20cmほどの礫が1点配されている。頭部南西側に土器が潰れた状態で出土し、南側には石鏃1点、同じく北西側には石槍・有孔石製品・剥片各1点が出土した。また、遺体北側に石製品1点、西側には石鏃1点等が見られ、これらの伴出遺物より続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われる。

P-135 (第98図)

V27グリッドに位置する。上面はP-130に削平され、現状で長軸1.45m×短軸1.36m、深さ約22cmを測り、東-西方向にやや長い円形を呈する。遺体上面および坑底面にベンガラが散布され、遺体は判然としないが、歯が検出されており西頭位と推定、葬法は不明である。遺物は見られないが、検出状況等から続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われるが判然としない。

P-136 (第106図, 写真24)

U26・27グリッドに跨り位置する。北西側は調査区法面に入り込んでおり、一部拡幅したがプランは確認できなかった。現状で長軸1.75m×短軸1.50m、深さ約32cmを測り、長軸を東-西方向に持つ楕円形を呈すると思われる。遺体は東頭位の屈葬で歯も検出され、上面にはベンガラが散布されており、脚部北西側には板状礫が立った状態で配置される。遺体北側に石鏃6点が出土、その北西側にメノウ質の剥片が集中、土器片1点の出土も見



られた。また、遺体南側には石鏃・ナイフ・スクレイパー各1点が出土した。検出状況等から続縄文時代前半の恵山式期に属するものと思われるが判然としない。

#### P-137 (第107図, 写真25)

W21・X21グリッドに跨り位置し、工事立会区からの検出である。部分的に攪乱を受けるが、現状で長軸2.26m×短軸1.13m、深さ約13cmを測り、長軸を北東-南西方向に持つ隅丸方形を呈する。遺体の残存状態は不良、頭部の他は右腕を除く四肢骨の一部のみの検出に留まり、北東頭位の伸展葬と思われ、顔面はやや南東を向く。頭部西側に太刀と山刀各1点が並んで出土、その北側には器種不明の木製品が出土した。また、頭部東側には漆椀が2点重なった状態で配置され、同じく西側脇には鉄製釣針4点が錆化し固まった状態で出土した。墓標穴は確認されなかった。検出状況等より近世～近代に属するアイヌ墓と思われる。

#### P-138 (第95・96図, 写真24・28)

W22グリッドに位置し、工事立会区からの検出である。北西側はP-121南東側と重複するが、新旧関係は確認できなかった。また、P-139・140の上面を削平して構築されている。北-南方向に長軸を持つ楕円形を呈し、現状で長軸1.70m×短軸1.36m、深さ約61cmを測る。遺体は判然とせず、小範囲として確認するに留まるが、歯が確認されており頭部周辺と推定される。検出状況から東頭位の屈葬と推定され、明瞭なベンガラ散布は認められない。遺体東側より完形土器1点が出土した。伴出遺物より続縄文時代後半の後北C<sub>2</sub>-D式期に属するものと思われる。

#### P-139 (第108図, 写真24)

W22グリッドに位置し、工事立会区からの検出である。北側はP-140南側を切って構築されている。上面北側をP-138に削平され、現状で長軸1.32m×短軸0.95m、深さ約55cmを測り、北東-南西方向に長軸を持つ楕円形を呈する。遺体は北東頭位の屈葬で歯も明瞭に残存、顔面は南東を向き、P-140遺体と頭位・顔面の向き等が共通する。遺体上面南西側に小礫1点、遺体西側に土器片1点が出土した。検出状況等から続縄文時代後半の後北式期に属するものと思われるが判然としない。

#### P-140 (第108図, 写真24)

W22グリッドに位置し、工事立会区からの検出である。北側をP-121に、南側をP-139に各々切られており、上面はP-138に削平される。現状で長軸1.45m×短軸1.10m、深さ約51cmを測り、北東-南西方向に長軸を持つ楕円形を呈すると思われる。遺体は北東頭位の屈葬で歯も確認され、顔面は南東を向く。遺体上面ほぼ中央に石製品1点が出土した。検出状況等から続縄文時代後半の後北式期に属するものと思われるが判然としない。

P-141 (第109図, 写真24)

X21グリッドに位置し、工事立会区からの検出である。北東側は調査区法面に入り込み確認できず、南側は配管に伴う攪乱によりプランを喪失する。現状で長軸1.28m×短軸1.00m、深さ約49cmを測り、北東-南西方向に長軸を持つ楕円形を呈すると思われる。覆土および遺体上面に14~25cmほどの礫11点が配される。遺体は北東頭位の屈葬で、歯も確認され、明瞭なベンガラ散布は認められない。頭部下より剥片1点が出土した。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-142 (第110図, 写真25)

W20・21グリッドに跨り位置し、工事立会区からの検出である。攪乱により上面を削平され遺体層直上での検出、坑底面にまで攪乱が及び、東側の一部を除いてプランを喪失する。現状で長軸0.90m×短軸0.79m、深さ約14cmを測り、北-南方向に長軸を持つ隅丸方形或いは長楕円形を呈すると思われる。遺体は頭部の一部・歯・右腕・骨盤の一部のみに検出に留まり、北頭位の伸展葬と推定される。太刀は右腕に沿う形で出土、表面には黒色漆塗りが見られ、その鏝の一部と思われる鉄製品も確認された。また、太刀の直下に骨角器が出土したが、脆弱で判然としない。墓標穴は検出されなかった。検出状況等より近世~近代に属するアイヌ墓と思われるが、他の同時期の検出例とは頭位等が異なり、再考を要する。

P-143 (第111図, 写真24)

W20・20グリッドに跨り位置し、工事立会区からの検出である。北~東側は調査区法面に入り込み未確認、一部は配管に伴う攪乱を受ける。深さは現状で約78cmを測り、推定で長軸1.90m×短軸1.80m前後の東-西にやや長い円形或いは楕円形を呈すると思われる。遺体は4体検出され、全遺体ともに東頭位の屈葬、歯も確認された。遺体上面および坑底面にはうっすらとベンガラが散布される。南側の遺体Aは顔面やや北向き、北側に遺体C・Dが向かい合うように検出され、2体に抱かれるように顔面北向きでやや小柄な遺体Bが確認された。遺体A上面ほぼ中央にスクレイパー1点、遺体Bやや西側に剥片4点とイガイ殻皮1点が出土した。また、遺体B頭部周辺には土玉14点が出土したが、糸は確認されず、一連のものかは不明である。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

P-144 (第109図)

X22グリッドに位置し、工事立会区からの検出である。南東側は調査区法面に入り込み未確認、北西側は配管に伴う攪乱を受け、プランを喪失する。深さは現状で約39cmを測り、推定で長軸1.20m×短軸0.95m前後の楕円形を呈すると思われる。遺体は脚部周辺と思われる部分のみに検出に留まるが、東頭位の屈葬と思われ、上面にはうっすらとベンガラ

の散布が認められる。遺体上面に剥片2点、炭化したクルミ片1点が出土した。検出状況等より続縄文時代後半から擦文時代初頭に属するものと思われるが判然としない。

〈墓坑の重複関係〉（今年度検出分）

- \* (旧) P-97 — P-99 (新)
- \* (旧) P-100A — P-100B (新)
- \* (旧) P-104 — P-100B (新)
- \* (旧) P-105 — P-106 (新)
- \* (旧) P-120 — P-118 (新)
- \* (旧) P-140 — P-139 — P-138・121 (新)
- \* (旧) P-132 — P-129 — P-126 (新)
- \* (旧) P-135 — P-130 (新)

(2) 焼土

続縄文時代後半後北C<sub>2</sub>-D式の土器を伴うFP-13以外は伴出遺物が見られず、時期が判然としないものが大半を占めるが、北西側調査区の北東側から工事立会区にかけてはⅡ層の下面に焼土とともに炭化物を多く含む層が全体に見られ、この層位から検出されたFP-19~28については、ほぼ同時期のものと思われる。そのうちFP-28は、近世~近代に属すると思われるP-137の下から検出されており、これらの焼土はP-137より時期が遡ると考えられ、概ね近世に属する可能性が有る。またその他のFPについては、FP-19~28より下面からの検出という事から、さらに時期が遡るものと思われる。以下に個別の検出状況等について詳述する。

FP-12 (第112図)

X24グリッドに位置し、Ⅱ層からの検出である。西側は攪乱により切られており、現状で径0.25×0.15m、厚さ約8cmを測る小範囲である。炭化物が混じり、少量の焼骨片が見られるが、伴出遺物は確認されず時期は判然としない。

FP-13 (第113図, 写真27・28)

X23グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。西側を攪乱により切られるが、径0.38×0.27m、厚さ約10cmを測る範囲である。焼土層の下には厚さ約10cmの黒色砂層が見られる。範囲内にはほぼ完形の土器2(うち1底部穿孔)点、また範囲東側に潰れた状態の透かし高台付きの土器1点(底部穿孔)、ほぼ完形の土器1点(底部穿孔)、黒曜石の原石およびコア12点・剥片1点が集中して出土した。P-105の覆土上面に位置しており、遺体埋葬後、火を伴う儀礼を行った等の関連性が考えられるが判然としない。伴出遺物より続縄文時代後半後北C<sub>2</sub>-D式期に属するものと思われる。

F P-14 (第112図)

W24・X24グリッドに跨り位置し、Ⅱ層下面からの検出である。径0.57×0.50m、厚さ約5cmを測る範囲である。炭化物が少量混じるが、伴出遺物は確認されず時期は判然としない。

F P-15 (第112図)

Y23グリッドに位置し、Ⅲ層からの検出である。径0.18×0.15m、厚さ約2cmを測る小範囲である。伴出遺物は確認されず時期は判然としない。

F P-16 (第112図)

Y22グリッドに位置し、Ⅲ層からの検出である。径0.22×0.16m、厚さ約5cmを測る小範囲である。炭化物が混じり、少量の焼骨片が見られるが、伴出遺物は確認されず時期は判然としない。

F P-17 (第112図)

Y21・22グリッドに跨り位置し、Ⅲ層からの検出である。径0.19×0.15m、厚さ約2cmを測る小範囲である。伴出遺物は確認されず時期は判然としない。

F P-18 (第112図, 写真27)

Y20グリッドに位置し、Ⅲ層からの検出である。径1.01×0.91m、厚さ約7cmを測る範囲である。炭化物が混じり、少量の焼骨片が見られるが、伴出遺物は確認されず時期は判然としない。

F P-19 (第112図)

W22グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。径0.61×0.59m、厚さ約9cmを測る範囲である。炭化物が混じり、少量の焼骨片が見られるが、伴出遺物は確認されず概ね近世に属すると思われるが判然としない。

F P-20 (第114図)

W21グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。北西側は調査区法面に入り込み、現状で径0.52×0.27m厚さ約9cmを測る範囲と、その南側に径0.12×0.10m厚さ約2cm、東側に径0.25×0.17m厚さ約3cmを測る2ヶ所の小範囲が検出された。伴出遺物は確認されず概ね近世に属すると思われるが判然としない。

F P-21 (第114図)

V23グリッドに位置し、Ⅲ層からの検出である。南西側から径0.21×0.20m厚さ約6cm、

径0.15×0.12m厚さ約3cmを各々測る2ヶ所の小範囲が並んで検出された。伴出遺物は確認されず概ね近世に属すると思われるが判然としない。

**F P-22 (第114図)**

W22グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。1.35×0.60m、厚さ約4cmを測る不整形を呈する範囲である。北西側から土器片1点、石斧1点が出土したが、伴出とは考えにくい。概ね近世に属すると思われるが判然としない。

**F P-23 (第114図)**

W22グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。北西側から径0.76×0.30m厚さ約3cm、径0.26×0.21m厚さ約5cm、西側を攪乱に切られ現状で径0.43×0.25m厚さ約4cmを各々測る3ヶ所の範囲が検出された。いずれも少量の焼骨片が見られ、周辺には土器片や石器・剥片等も出土したが、伴出とは考えにくい。伴出遺物は確認されず概ね近世に属すると思われるが判然としない。

**F P-24 (第115図)**

W21グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。南西側から径0.19×0.17m厚さ約5cm、径0.17×0.14m厚さ約3cmを各々測る2ヶ所の小範囲が並んで検出された。伴出遺物は確認されず概ね近世に属すると思われるが判然としない。

**F P-25 (第114図)**

W22グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。径0.35×0.32m、厚さ約6cmを測る範囲である。北東側にF P-22が隣接している。伴出遺物は確認されず概ね近世に属すると思われるが判然としない。

**F P-26 (第115図)**

X20グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。径0.87×0.67m、厚さ約5cmを測る範囲である。伴出遺物は確認されず概ね近世に属すると思われるが判然としない。

**F P-27 (第115図)**

X20・21グリッドに跨り位置し、Ⅱ層下面からの検出である。径1.37×1.01m、厚さ約14cmを測る範囲である。伴出遺物は確認されず概ね近世に属すると思われるが判然としない。

**F P-28 (第115図)**

X21グリッドに位置し、Ⅱ層下面からの検出である。径1.04×0.54m、厚さ約7cmを

測る範囲である。少量の焼骨片が見られる。近世～近代に属すると思われるP-137の下から検出されており、概ね近世に属すると思われるが判然としない。

#### FP-29 (第115図)

X21グリッドに位置し、Ⅲ層からの検出である。径1.10×1.00m、厚さ約5cmを測る範囲で少量の炭化物を含む。伴出遺物は見られず時期は判然としない。

### (3) 剥片集中

#### FC-1 (写真27)

X25グリッドに位置する。Ⅲ層からの検出で、径0.39×0.15mほどの範囲に黒曜石の剥片338点が出土した。続縄文時代に属すると思われるが判然としない。小範囲のため、個別の検出状況図は割愛した。

#### FC-2

X25グリッドに位置する。Ⅲ層からの検出で、径0.48×0.47mほどの範囲に黒曜石の剥片46点が出土した。続縄文時代に属すると思われるが判然としない。小範囲のため、個別の検出状況図は割愛した。

### (4) 小土坑

Y20グリッドに3基(SP-1～3)、X24グリッドに13基(SP-4～16)、U28グリッドに1基(SP-17)が検出された。いずれもⅢ層にて確認されたもので、攪乱等により削平されており上部を欠くため、坑底面近くでの検出である。SP-1～3、SP-4～16については、各々集中して検出されたものの、その配置には規則性が見られず、規模としては径0.15～0.23m、深さ5～23cmを測り、坑底面の標高はSP-1～3が2.80m前後、SP-4～16が3.00m前後である。前者はMO-19、後者はMO-10・20と関連する可能性があり、特にSP-14・15はMO-10の壁柱穴とも考えられるが、本来、どの辺りから掘り込まれたものかが不明の上、伴出遺物と言えるものも無いため、時期は判然としない。SP-17については、他のSPに比して規模が大きく、0.41×0.33m、深さ37cmを測り、坑底面の標高は2.55m前後で、時期はやや遡るものと思われる。いずれも個別の検出状況図は割愛した。

### (5) 壕状遺構

MO-10、19、20、21、24・25、26が検出されている。前述の通り、1989年度からの大川遺跡発掘調査の全体を通しての連番となっているが、ここで訂正と補足説明をしておかなければならない。

今年度検出されたMO-10については迂回路地点南東側調査区において、位置関係から

1999年度迂回路地点検出部分に継続する事が確認されたため、遺構No.はそのまま継続して使用する事とした。しかし調査が進み、迂回路地点北西側調査区と道道地点調査区との境界付近にMO-10を検出し位置を確認したところ、1999年度迂回路地点検出部分とは繋がるが、1991～1994年度調査と1999年度道道地点において検出された本来のMO-10とは位置・方角が合致せず繋がらない事が判明した。つまり、今年度と1999年度迂回路地点においてMO-10とした壕状遺構は、正しくはMO-10ではなく、図面照合の結果、1999年度検出MO-17に繋がる可能性が高いと考えられる（第5図）。

また、1991～1994年度調査と1999年度道道地点において検出された本来のMO-10に継続するものとしては、1990年度と今年度道道地点検出のMO-5と今年度迂回路地点検出のMO-24・25、間を攪乱によって切られるが、さらに北東側へ進み今年度検出のMO-21に繋がると考えられる（第5図）。以下に対応関係と重複関係について示すとともに個別の検出状況等について詳述するが、訂正すべき部分には既に報告済みの箇所も含まれているという事もあり、遺構No.については文章中・図中ともに訂正せずに使用する事を御理解頂きたい。

#### <壕状遺構の対応関係>

\* 本来のMO-10（1991～1994,1999道道地点）

= MO-5（1990,2003道道地点）+ MO-24・25・21（2003迂回路地点）

\* MO-17（1999道道地点）= MO-10（1999迂回路地点,2003道道地点・迂回路地点）

#### <壕状遺構の重複関係>（今年度検出分）

\*（旧）MO-21 — MO-20 — MO-10（新）

#### MO-10（第116～118図,写真26・28）

北西側調査区の南西端と南東側調査区やや南側の2ヶ所に分かれて検出された。両者の間は約20mを隔てており、北西側調査区検出部分には1999年度検出部分が継続し、その北東側は大型攪乱により喪失するが、南東側調査区検出部分へと繋がるものと思われる。

北西側調査区検出部分は道道地点調査区とに跨り、V29グリッドに位置する。南東側は調査区法面に入り込み未確認、上面は攪乱により大幅に削平され、現状で長さ約4.10m、幅1.50m前後、深さ約54cmを測る。北東-南西（川に平行）方向に延びており、北東側は1999年度検出部分に繋がりが、南西側は攪乱により切られ判然としないが、1999年度検出のMO-17に続くと思われ、前述のように、1991～1994年度調査区および1999年度道道地点にて検出された本来のMO-10には繋がらない事が判明した。覆土には炭化物を多く含む層が見られ遺物も多数出土したが、伴出と言えるものは確認されなかった。

南東側調査区検出部分はX23～25、Y23・24グリッドに跨り位置する。南西側は大型攪乱により喪失し、1999年度検出部分とは直接繋がらない。東側は調査区外に入り込み、全景は確認できず、現状で長さ11.25m、幅2.10m前後、深さ約95cmを測る。北東-南西（川

に平行) 方向に延びており、P-104・107を切って構築されている。断面形は緩やかな立ち上がりを見せU字状を呈し、北西側調査区検出部分に比して底面の標高は低い。また、底面は長軸方向に向かって緩やかに波打ち、一定ではない(第117図 断面 i-j)。X23・24グリッドにおいて北西-南東方向に延びるMO-20と直交しており、MO-20を更に掘り込んでMO-10が構築されている事が確認された(第117図 断面 g-h)。南東側には溝状遺構-2が平行しており、同時期に構築・使用されていたと推定される。同じく南東側の立ち上がり際にはSP-14・15が検出されており、壁柱穴とも考えられるが判然としない。また、覆土中よりP-102・SM-4が検出されており、塚が埋没した後の窪みに構築・形成されたものと思われる。覆土には炭化物層が見られ遺物も多数出土したが、伴出と言えるものは確認されなかった。

両検出部分が繋がり同一の遺構を形成するとした場合、1999年度検出部分も含め長さ約36.50mを測り、1999年度検出のMO-17までをも含めると全長約55.75mとなり、更に北東側へと延びている。全体を通して伴出遺物が無く、時期は判然としないが、これまでの調査を含めた検出状況等から他の塚状遺構と同様に概ね中世-近世に属すると思われる。

#### MO-19 (第116・120図, 写真26)

南東側調査区の北東端より検出され、Y20グリッドに位置する。上面は攪乱により削平され、部分的に深く攪乱を受けているため、現状で長さ1.65m幅1.75m前後、深さ約80cmを測る。断面形は底面からやや急に立ち上がり、V字状に近い。北西-南東(川に直交)方向に延びており、北西側の工事立会調査においても北東側の立ち上がりの一部が検出され、更に北西側に延びて1989年度検出のMO-1へと繋がる可能性が考えられる。南東側は調査区外に延びており、全景は確認できていない。覆土には炭化物を多く含む層が確認され遺物の出土も見られるが、伴出と言えるものは無い。そのため時期は判然としないが、これまでの調査を含めた検出状況等から他の塚状遺構と同様に概ね中世-近世に属すると思われる。

#### MO-20 (第116・119図, 写真26)

北西側調査区と工事立会区と南東側調査区に分かれて検出され、V22・23、W22・23、X23・24グリッドに跨り位置する。

北西側調査区および工事立会区においては、上面は攪乱により削平され、部分的に深く攪乱を受けているため、現状で長さ約5.20m、幅1.60m前後、深さ約70cmを測る。北西-南東(川に直交)方向に延びており、南東側は配管に伴う攪乱により喪失し、MO-21との重複部分は確認されなかったが、W23グリッドにおいて直交するものと思われる。北西側は調査区外に延びて1990年度検出のMO-6に繋がる可能性が高いと考えられる。

南東側調査区においては、上面は攪乱により削平されるものの、攪乱される部分は比較的少なく、P-103を切って構築されている。断面形は緩やかな立ち上がりを見せU字状



を呈し、北西側調査区検出部分と底面の標高に変化はあまり見られない。現状で長さ約4.85m、幅2.50m前後、深さ約80cmを測る。北西-南東（川に直交）方向に延びており、X23グリッドにおいて溝状遺構-1と直交している。北西側はX23グリッドにおいてMO-21と、南東側はX23・24グリッドにおいてMO-10と各々直交している。土層断面の状況から、構築された順番はMO-21→MO-20→MO-10と考えられる（第117図 断面g-h、第119図 断面o-p）。また、MO-10と重複する部分から更に南東方向に延びる可能性もあるが、調査区外に入り込み確認できなかった。

今年度検出部分の全長は約12.50m、1990年度検出のMO-6に繋がると仮定した場合、全長約34.50mを測る。全体を通して覆土には炭化物を多く含む層が確認され遺物の出土も見られるが、伴出と言えるものは無い。そのため時期は判然としないが、これまでの調査を含めた検出状況等から他の壕状遺構と同様に概ね中世～近世に属すると思われる。

#### MO-21（第116・119図、写真26）

北西側調査区・工事立会区・南東側調査区に亘って検出され、V24・25、W23・24、X21～23、Y20～22グリッドに跨り位置する。

北西側調査区および工事立会区においては、大型攪乱等によりその殆どを喪失し、攪乱の下から僅かに、長さ約1.75m、幅約0.32m、深さ約10cmを測る北東-南西（川に平行）方向に延びる壕の最深部の一部を確認するに留まる。本来は2.50m前後の幅で南西側に延びてMO-24・25と繋がり、同一の遺構を形成するものと推定される。また、配管に伴う攪乱により北西側をほぼ全面的に喪失しており、MO-20との北西側重複部分は確認されなかったが、W23グリッドにおいて直交するものと思われる。

南東側調査区においては、上面は攪乱により削平されるものの、下面に至る部分は比較的少なく、P-101・106・108を切って構築されている。断面形は緩やかな立ち上がりを見せU字状を呈し、MO-24・25に比して底面の標高はやや低い。現状で長さ約18.90m、幅1.75m前後、深さ約70cmを測る。北東-南西（川に平行）方向に延びており、X23グリッドにおいて北西-南東方向に延びるMO-20と直交しており、MO-21より後にMO-20が構築されている事が確認された（第119図 断面o-p）。また、北東端は他の部分とはやや方向を変え、北へ徐々に曲がっており、壕の最端部の可能性もあるが調査区外に入り込むため、全景の確認には至らなかった。

両検出部分の全長は約25.85m、今年度検出のMO-24・25に繋がり同一の遺構を形成するとした場合、全長約45.60mを測る。また、前述のように更にMO-5と繋がり、1991～1994年度および1999年度道道地点検出の本来のMO-10と一連のものと仮定した場合、総延長約180mを測り、これまで検出された壕状遺構全体の根幹を成すものと考えられる。

全体を通して覆土には炭化物を多く含む層が確認され遺物の出土も見られるが、伴出と言えるものは無い。そのため時期は判然としないが、これまでの調査を含めた検出状況等から他の壕状遺構と同様に概ね中世～近世に属すると思われる。

#### MO-24・25 (第116・119図, 写真26・27)

MO-24はこれまでの調査においても確認された壕状遺構(1994年度検出MO-10)と同様に、元々存在したMO-25を再度掘り込んで再構築した部分で、便宜上別々のNo.を付したが、同一の遺構である。北西側調査区の南西端にて検出され、T28、U26~28、V26・27グリッドに跨り位置し、P-118・120・127・128・131・136等を切って構築されている。上面は攪乱により削平され、特に南西側はその影響が大きく、部分的に下面まで攪乱が至る。また、北東側は大型攪乱により喪失しており、現状で長さ約13.45m、幅2.80m前後、深さ約100cmを測る。断面形は元々緩やかな立ち上がりを見せ、U字状を呈していた(MO-25)と思われるが、再構築時(MO-24)には底面中央を幅0.70~0.80m前後、深さ25~30cmほどにさらに掘り込んでおり、底面に段がつく形となっている(第120図 断面u-v, 断面w-x)。北東-南西(川に平行)方向に延びており、北西側から南西側にかけては調査区外に入り込む部分もあり、一部拡幅して精査を行った。しかし、攪乱を受けており、繋がり確認できなかったが、検出状況等からMO-5に繋がる可能性は高いと思われる。北東側についても大型攪乱に切られ喪失するものの、今年度検出のMO-21に繋がると思われ、1991~1994年度および1999年度道道地点検出のMO-10と一連のものとして推定される。MO-21とともにこれまで検出された壕状遺構全体の根幹を成す総延長約180mを測る壕の一部と考えられる。

全体を通して覆土には炭化物を多く含む層が確認され遺物の出土も見られるが、伴出と言えるものは無い。そのため時期は判然としないが、これまでの調査を含めた検出状況等から他の壕状遺構と同様に概ね中世~近世に属すると思われる。

#### MO-26 (第116・120図, 写真27)

工事立会区にて検出され、W20・21、X20・21グリッドに跨り位置する。他の壕状遺構とは長軸方向が大きく異なり、東-西方向に延びており、底面の標高もやや低い。北西側調査区においては北東端の狭い範囲の中では確認できなかった。また、東側は調査区外に延びており、全景の確認には至らず、現状で長さ約4.20m、幅1.45m前後、深さ約35cmを測る。断面形は底面からやや急に立ち上がり、U字状を呈する。覆土には部分的に焼土層と炭化物層が見られるが、周辺にはII層の下面に焼土とともに炭化物を多く含む層が全体に見られ、それらがMO-26埋没後の窪みに堆積したものと思われる。伴出遺物は確認されず、時期は判然としないが、検出状況等から他の壕状遺構と同様に概ね中世~近世に属すると思われる。

### (6) 溝状遺構

#### 溝状遺構-1 (第116・120図)

X23グリッドに位置する。北東側は攪乱により切られており、現状で長さ2.81m最大幅0.32m深さ約10~16cmを測り、西から東に向かってやや下がる。北東-南西(川に平行)

方向に長軸を持ち、南西側はMO-20と直交し、MO-10・21と平行する形で延びている。これらの壕状遺構とほぼ同時期に構築・使用されていたと推定され、中世～近世に属するものと思われる。

#### 溝状遺構-2 (第116・120図)

X24・25グリッドに跨り位置する。南西側は攪乱により切られ、北東側は調査区法面に入り込んでおり、現状で長さ3.10m最大幅0.35m深さ25～50cmを測り、東から西に向かってやや下がる。北東-南西(川に平行)方向に長軸を持ち、北西側に隣接するMO-10と平行する形で延びている。壕状遺構とほぼ同時期に構築・使用されていたと推定され、中世～近世に属するものと思われる。

### (7) 貝塚

#### SM-4 (写真27)

X23・24、Y23グリッドに跨り位置する。MO-10とMO-20の交差部分のトレンチ調査中にその覆土より検出された。1.43×0.66m、厚さ約10cmを測る範囲である。イガイを主体とし、ウバガイ、鳥類等の獣骨、ニシン・カレイ・ホッケ等の魚骨、鉄製品等が出土した。近世～近代に属すると思われるP-102の上に検出されたことから、それ以降の時期に属するものと思われる。個別の検出状況図は割愛した。

### (8) 木枠土坑

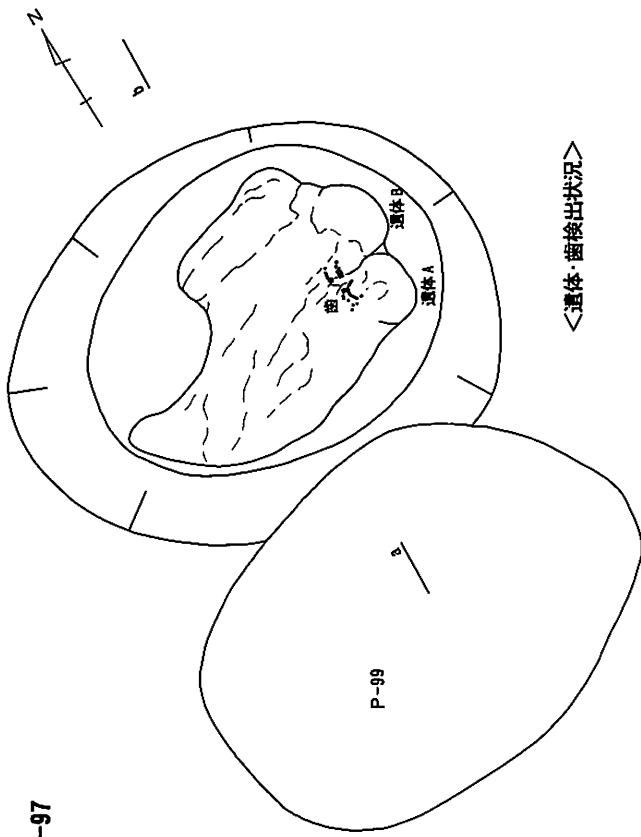
#### 木枠土坑-1

X24グリッドに位置する。北東-南西方向に長軸を持つやや歪な長方形を呈し、長軸1.24m×短軸0.69m、深さ約9cmを測る。北西側と南東隅の一部に木枠の木質が残り、坑底面中央にも床板の一部と推定される木材が検出された。また、北東側の木枠を支えるように壁際に4本の杭状に刺さる木材が並んで確認された。伴出遺物は無いが近代に属するものと思われる。個別の検出状況図は割愛した。

#### 木枠土坑-2

X24グリッドに位置する。南東側の一部を攪乱されるが、北西-南東方向に長軸を持つやや歪な長方形を呈し、長軸0.95m×短軸0.74m、深さ約12cmを測る。北西側と南西側と北東側の一部に木枠の木質が残り、坑底面やや南西側に床板の一部と推定される木材が検出された。伴出遺物は無いが近代に属するものと思われる。個別の検出状況図は割愛した。

P-97



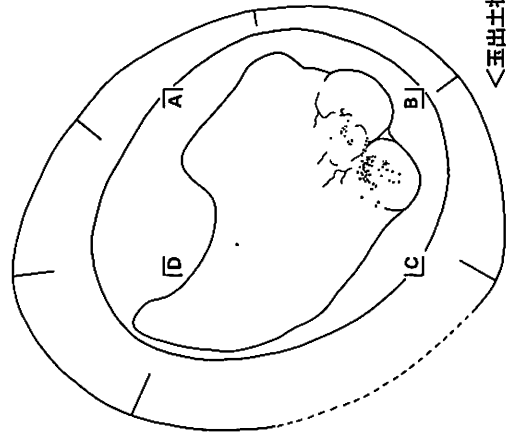
2.90m a

b



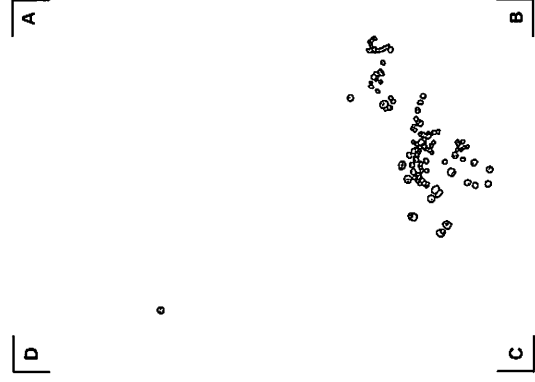
- 1. 黒褐色砂 (少量の炭化物が混じる)
- 2. 黒色砂
- 3. 暗褐色砂
- 4. 黒褐色砂 (少量の炭化物が混じる)
- 5. 褐色砂 (皿層に比してやや細かい)

<遺体・歯検出状況>



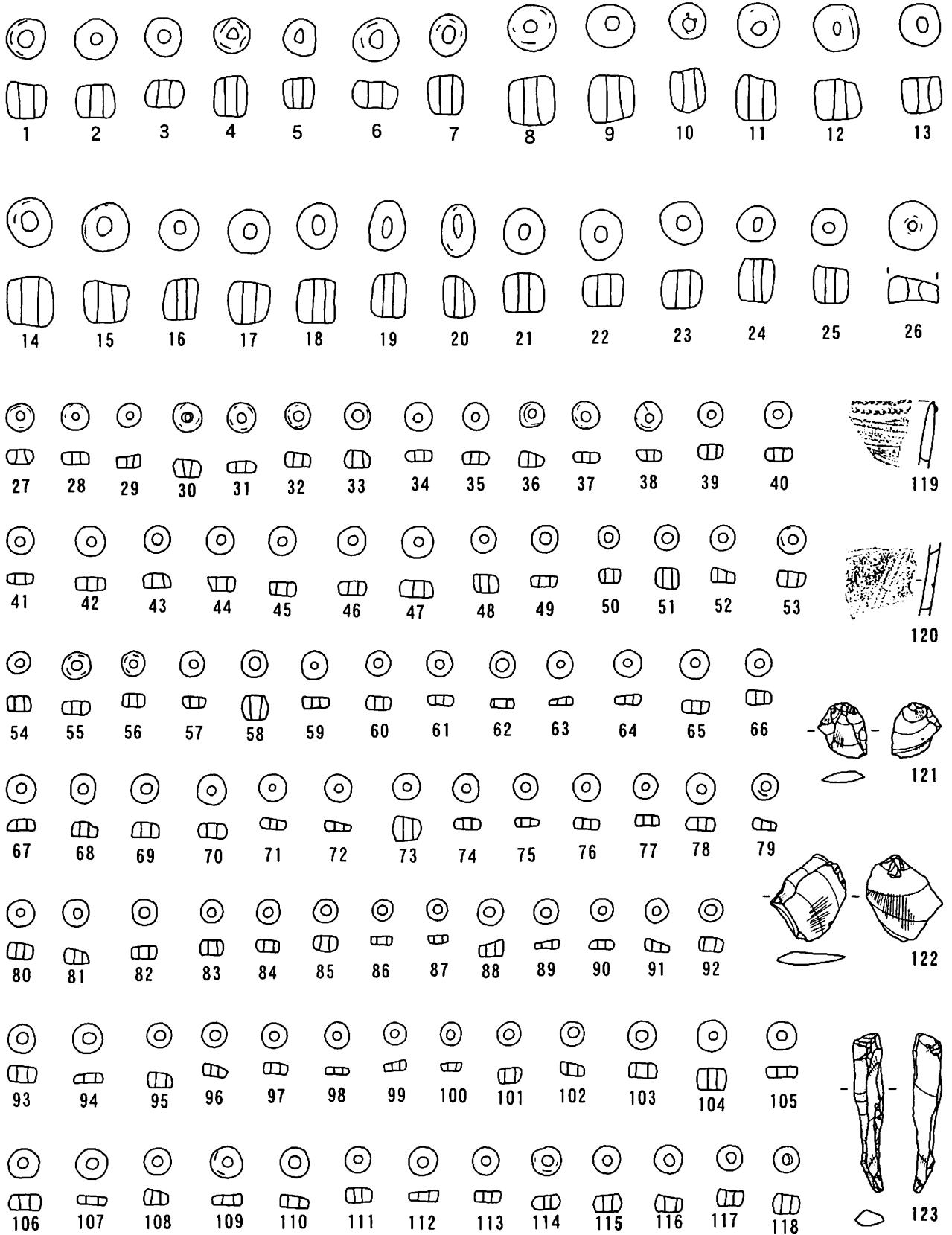
<玉出土状況>

<玉出土状況> (S=1/10)

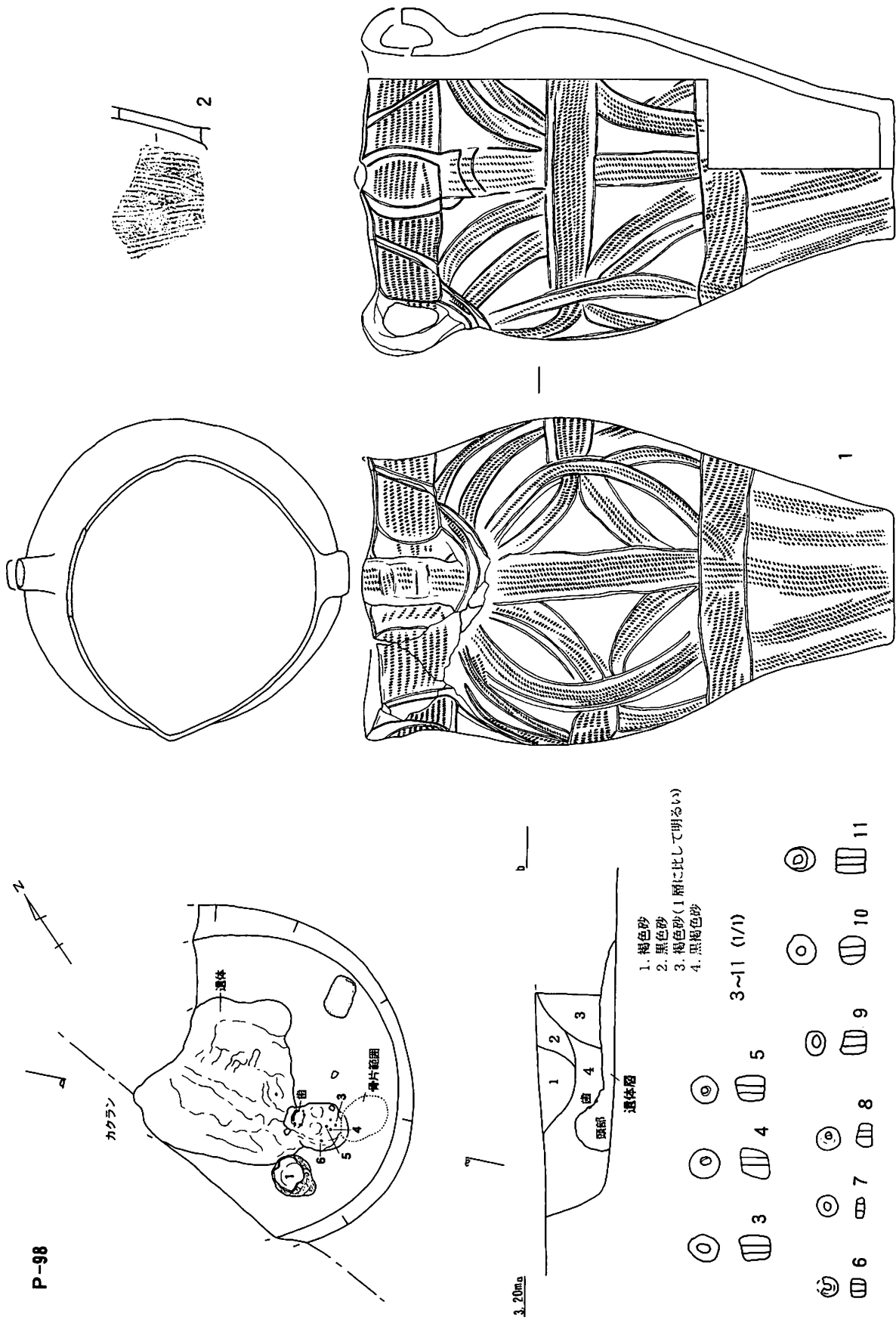


第75図 P-97 平面図

P-97 1~118 (1/1)

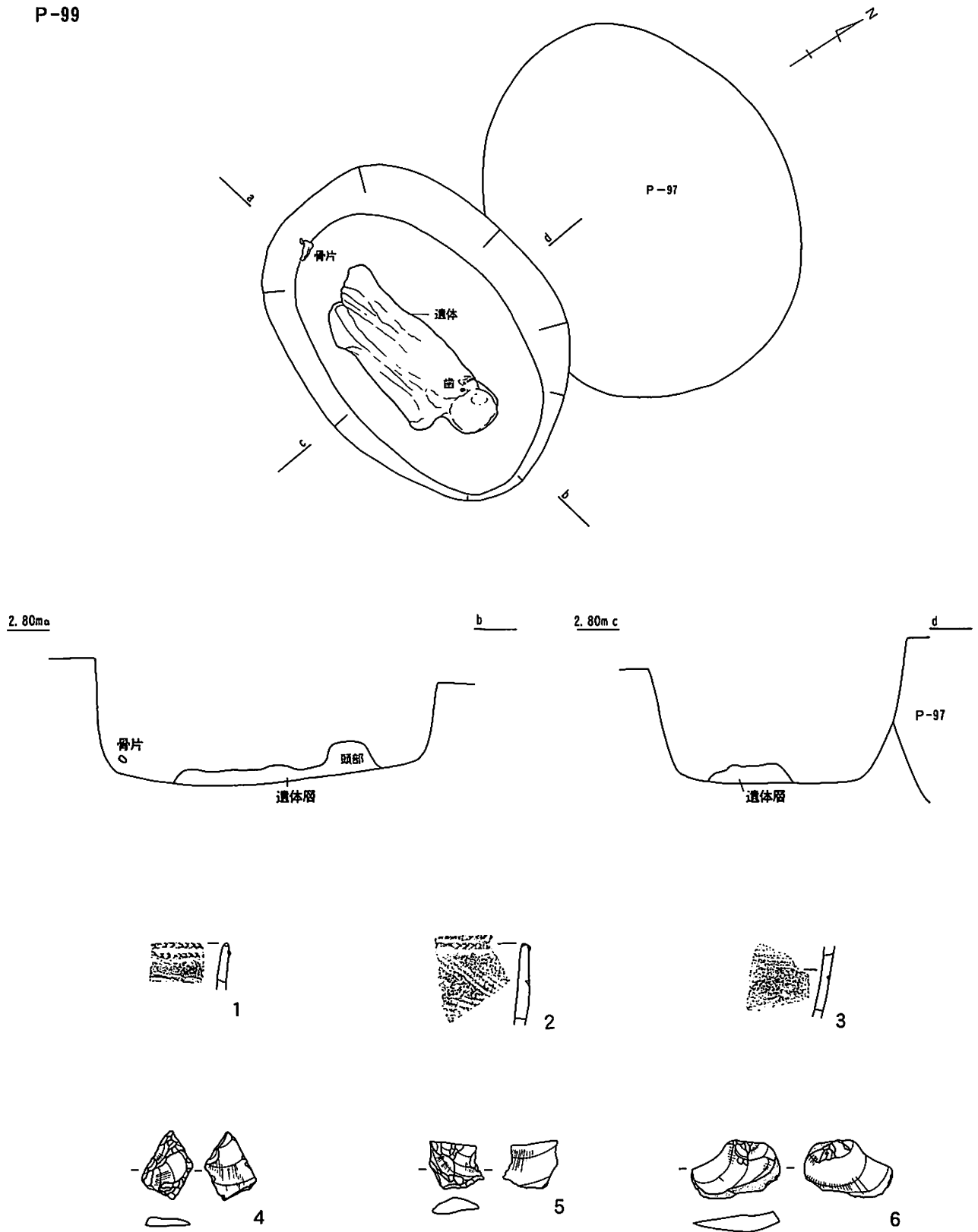


第76图 P-97 出土遺物

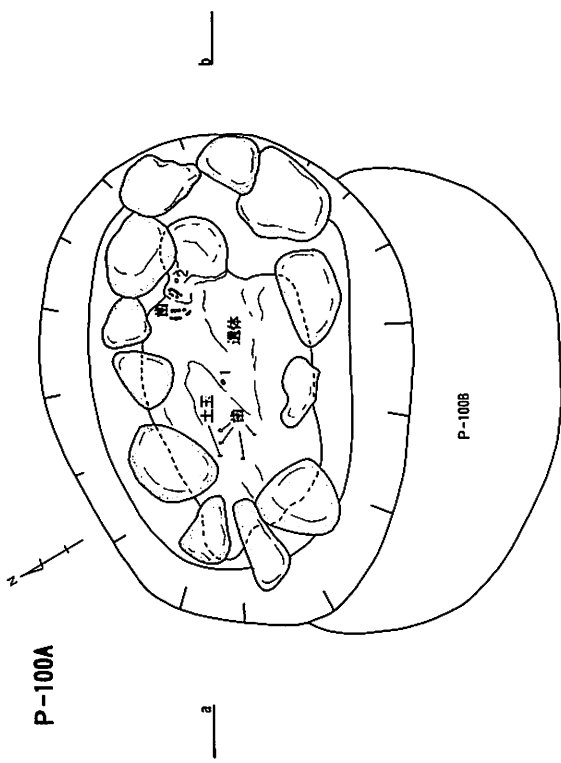


第77図 P-98平面図と出土遺物

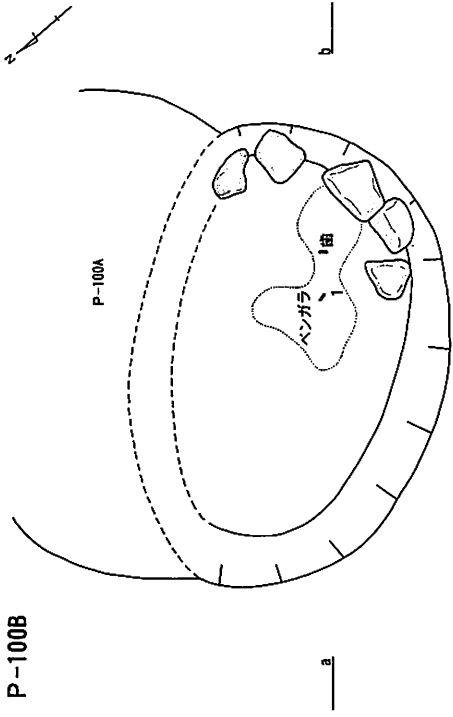
P-99



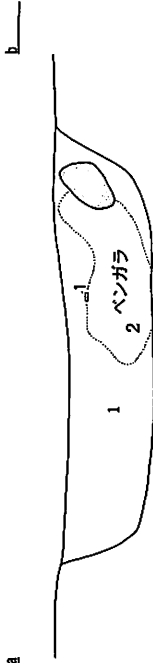
第78図 P-99 平面図と出土遺物



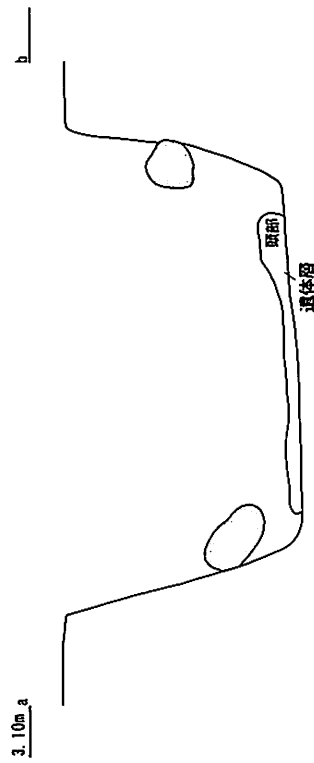
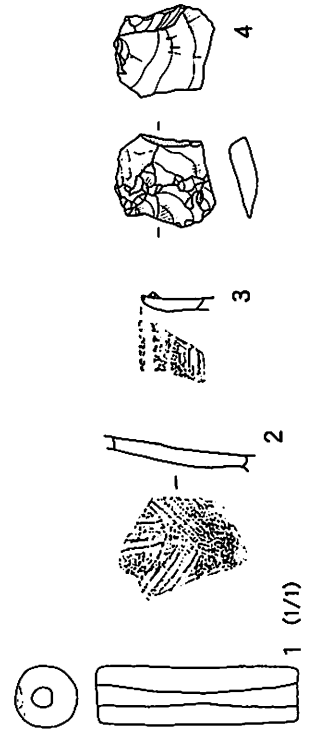
P-100B



3.00m a



- 1. 暗褐色砂
- 2. 暗褐色砂(ベンガラを多く含む)



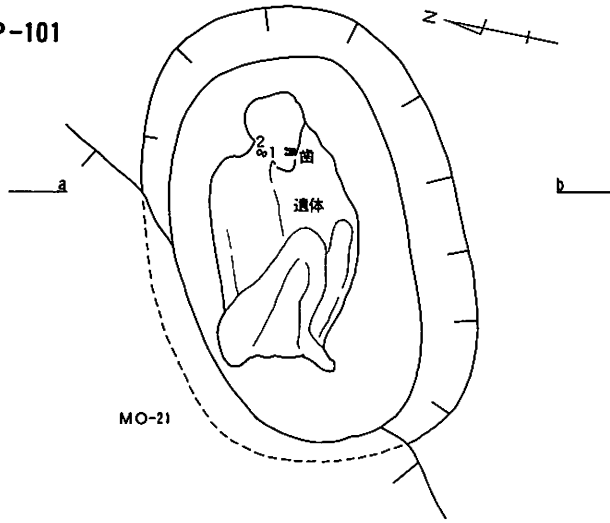
3.10m a



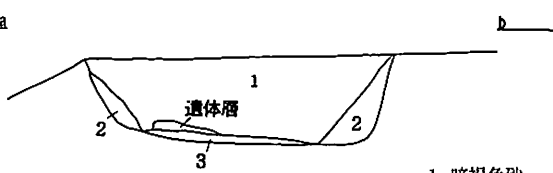
第79図 P-100A・100B 平面図と出土遺物



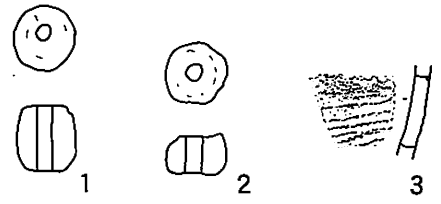
P-101



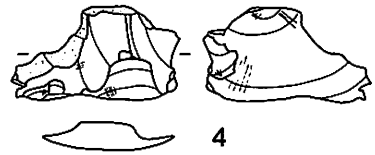
2. 60m a



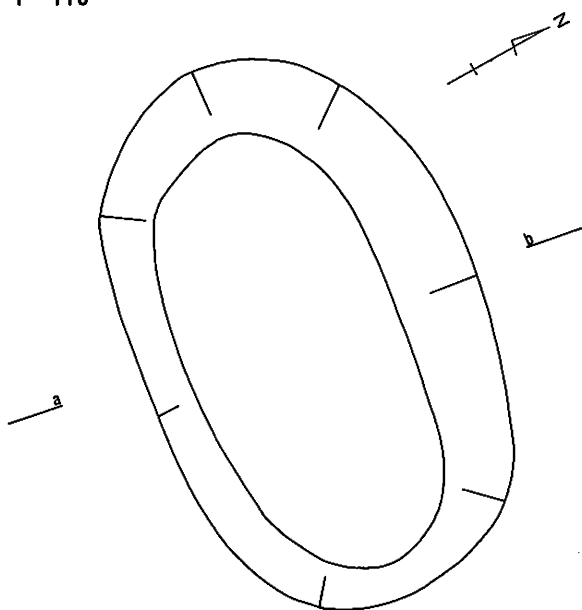
- 1. 暗褐色砂
- 2. 白褐色砂
- 3. 暗褐色砂(粘性を帯び、わずかにベンガラが混じる)



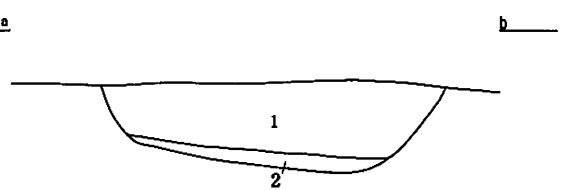
1~2 (1/1)



P-110

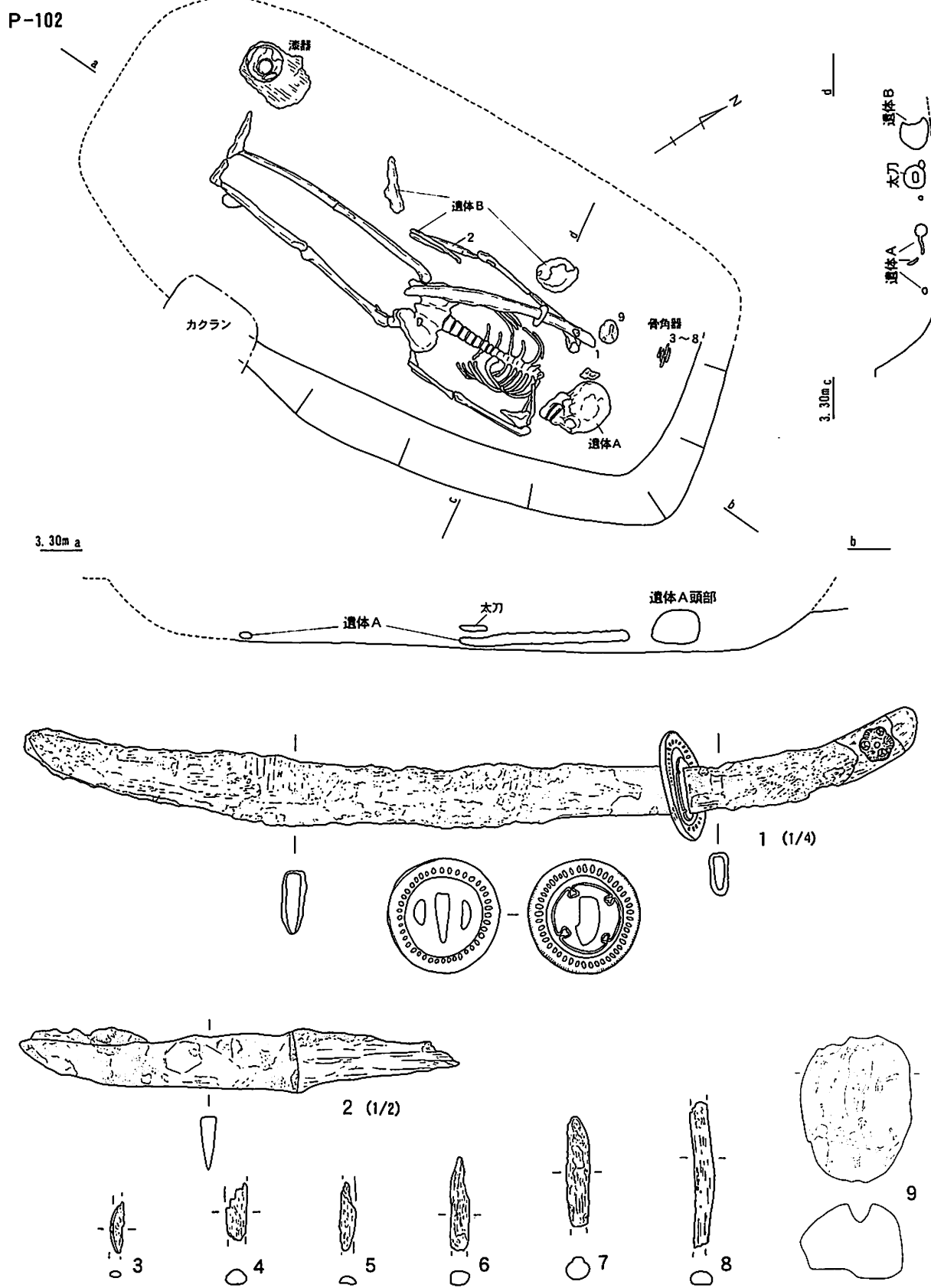


2. 60m a

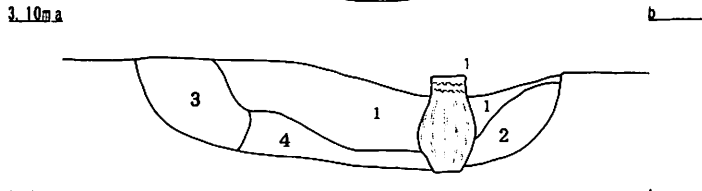
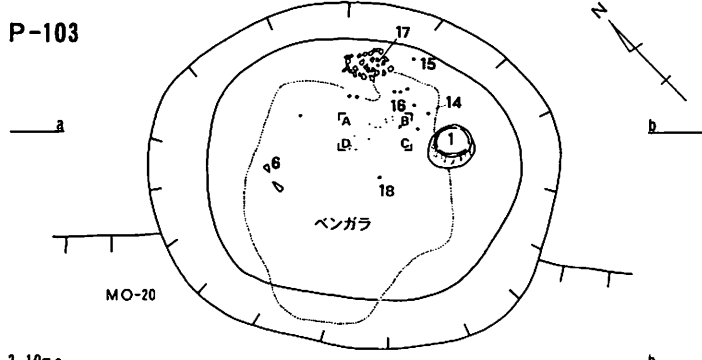


- 1. 褐色砂
- 2. 黒色砂

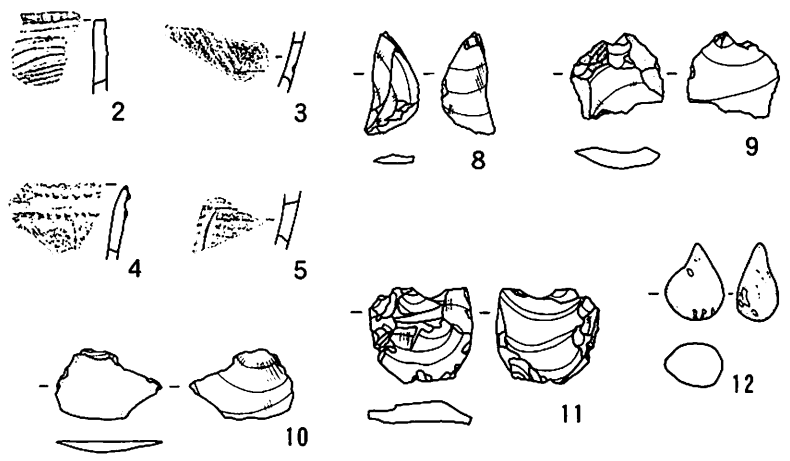
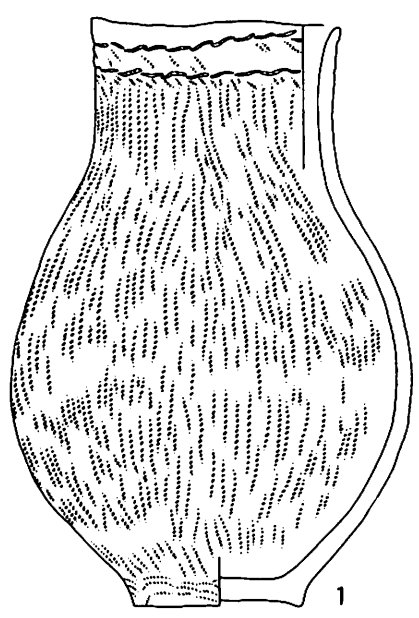
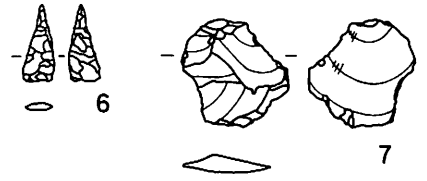
第80図 P-101・110 平面図とP-101 出土遺物



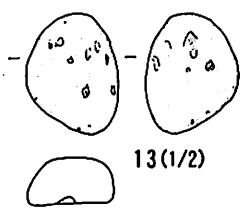
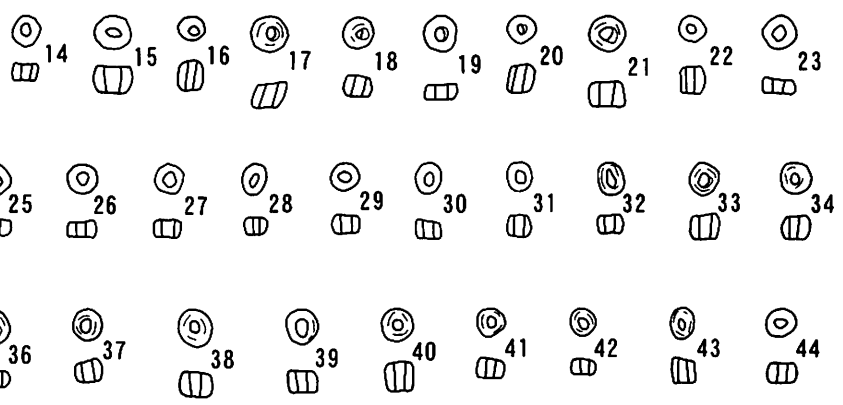
第81図 P-102 平面図と出土遺物



1. 暗褐色砂
2. 白褐色砂
3. 白褐色砂(暗褐色砂ブロックを含む)
4. 白褐色砂(ベンガラを多く含む)

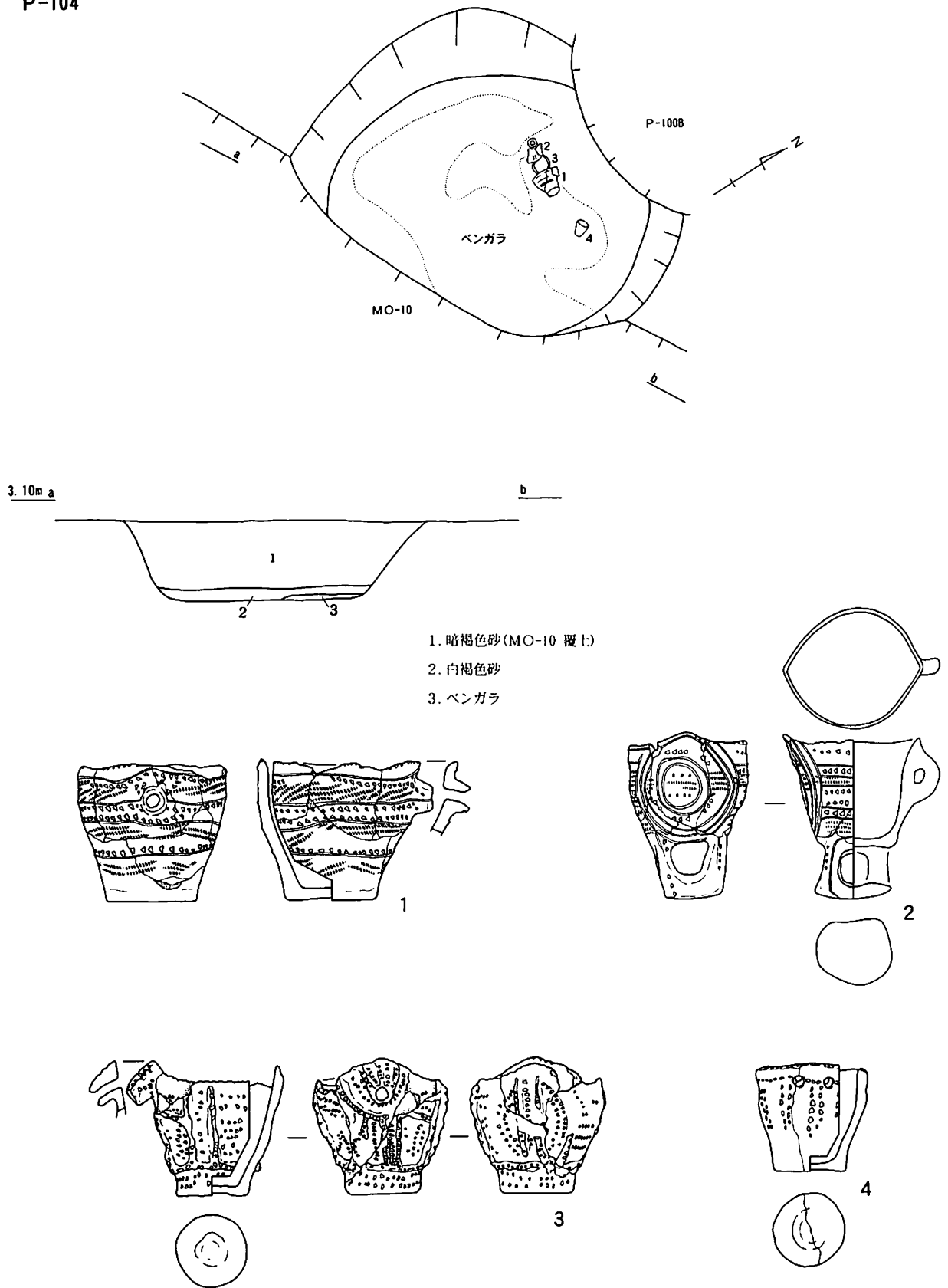


14~44 (1/1)



第82図 P-103 平面図と出土遺物

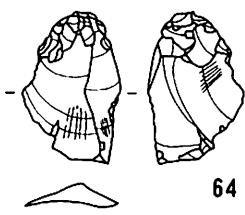
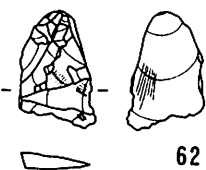
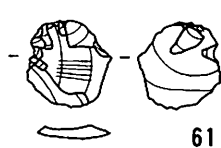
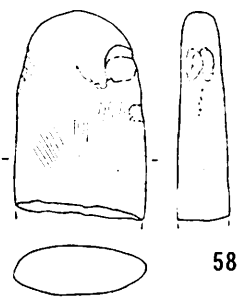
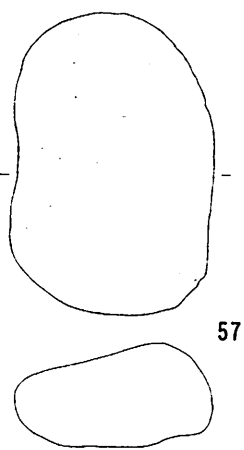
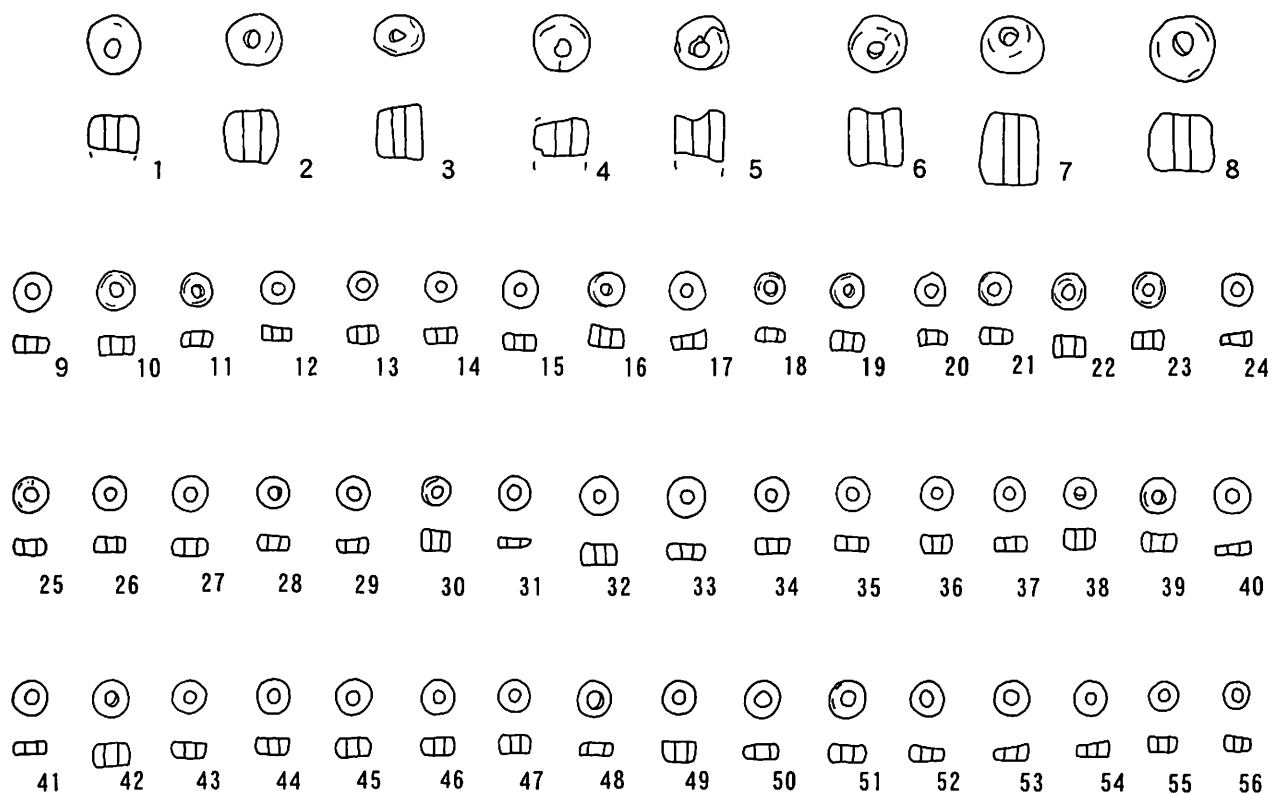
P-104



第83図 P-104 平面図と出土遺物

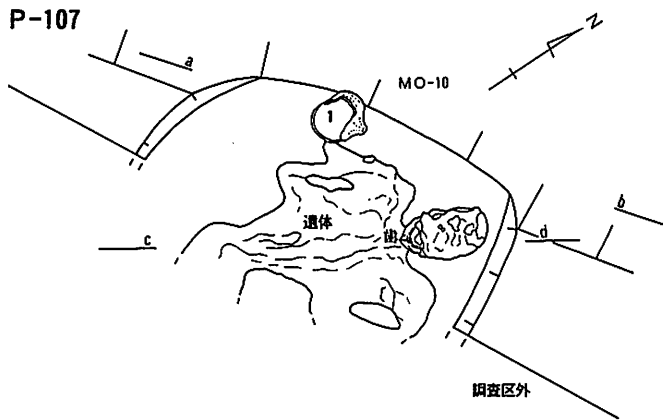


P-106 1~56 (1/1)



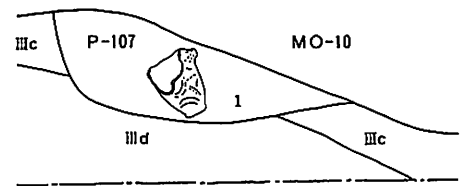
第85图 P-106 出土遺物

P-107



3.00m a

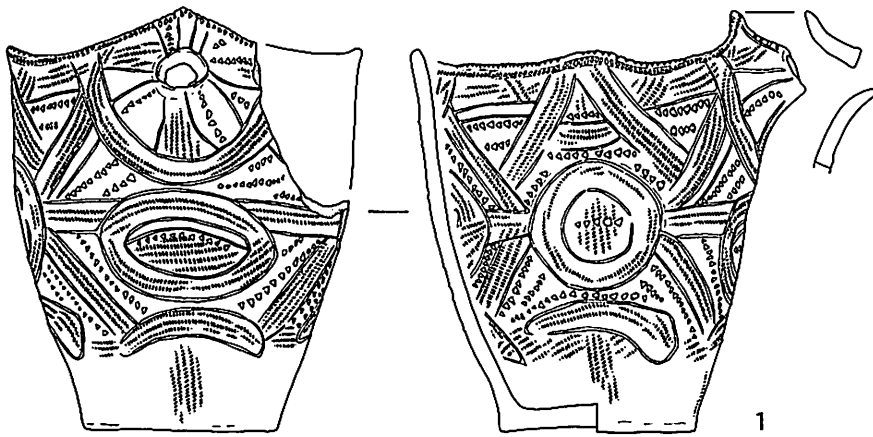
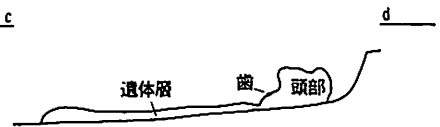
b



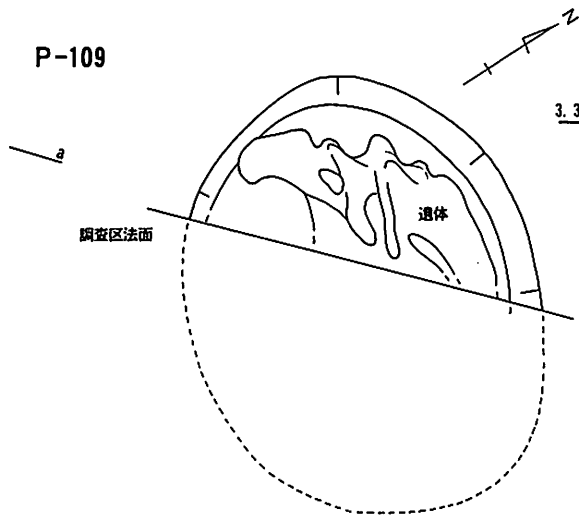
1. 褐色砂 (IIIc, III d 層に比べてやや暗い、炭化物少量混じる)

2. 80m c

d

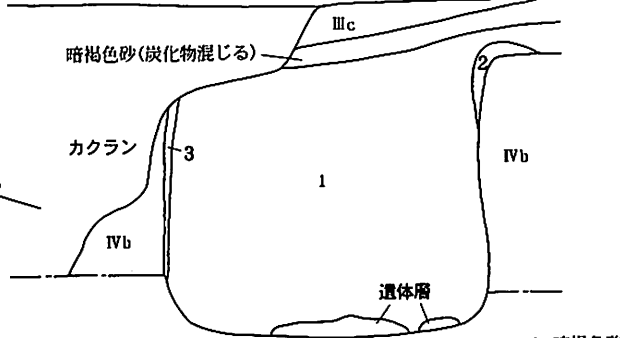


P-109



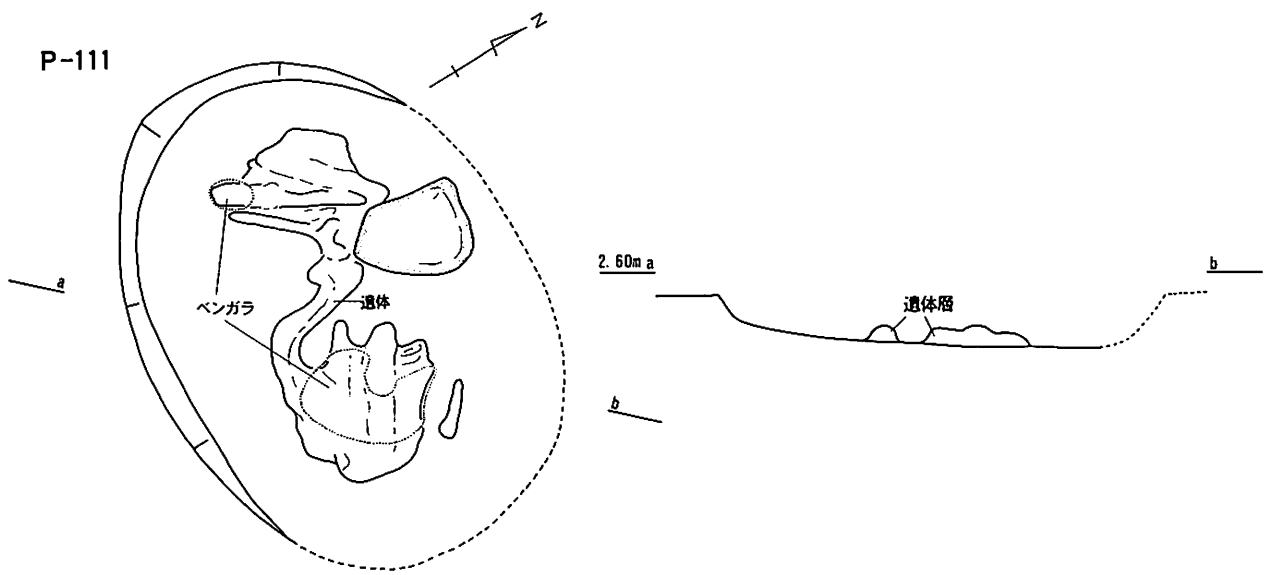
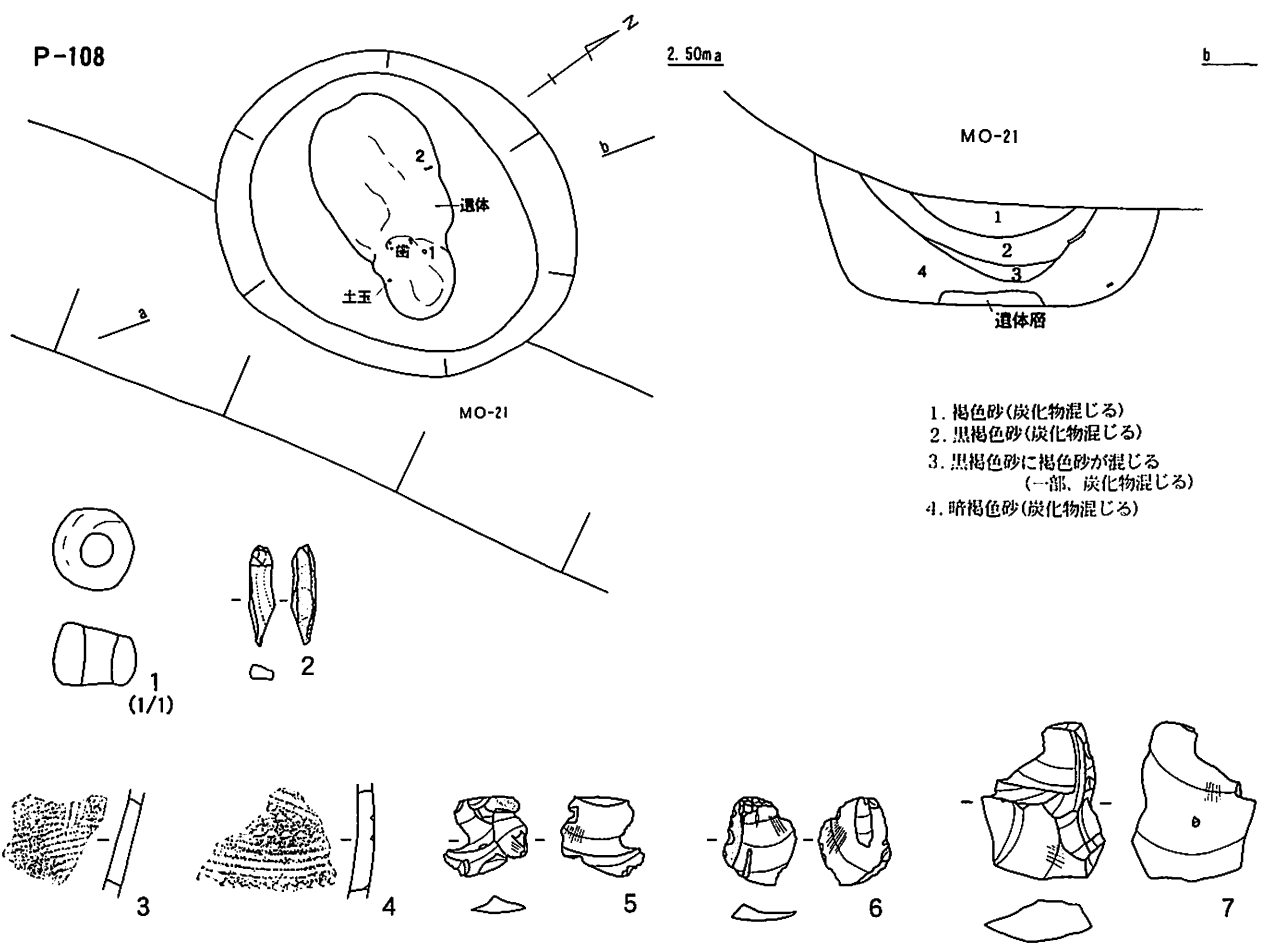
3.30m a

b



1. 暗褐色砂  
 2. 黒褐色砂  
 3. 暗赤褐色砂

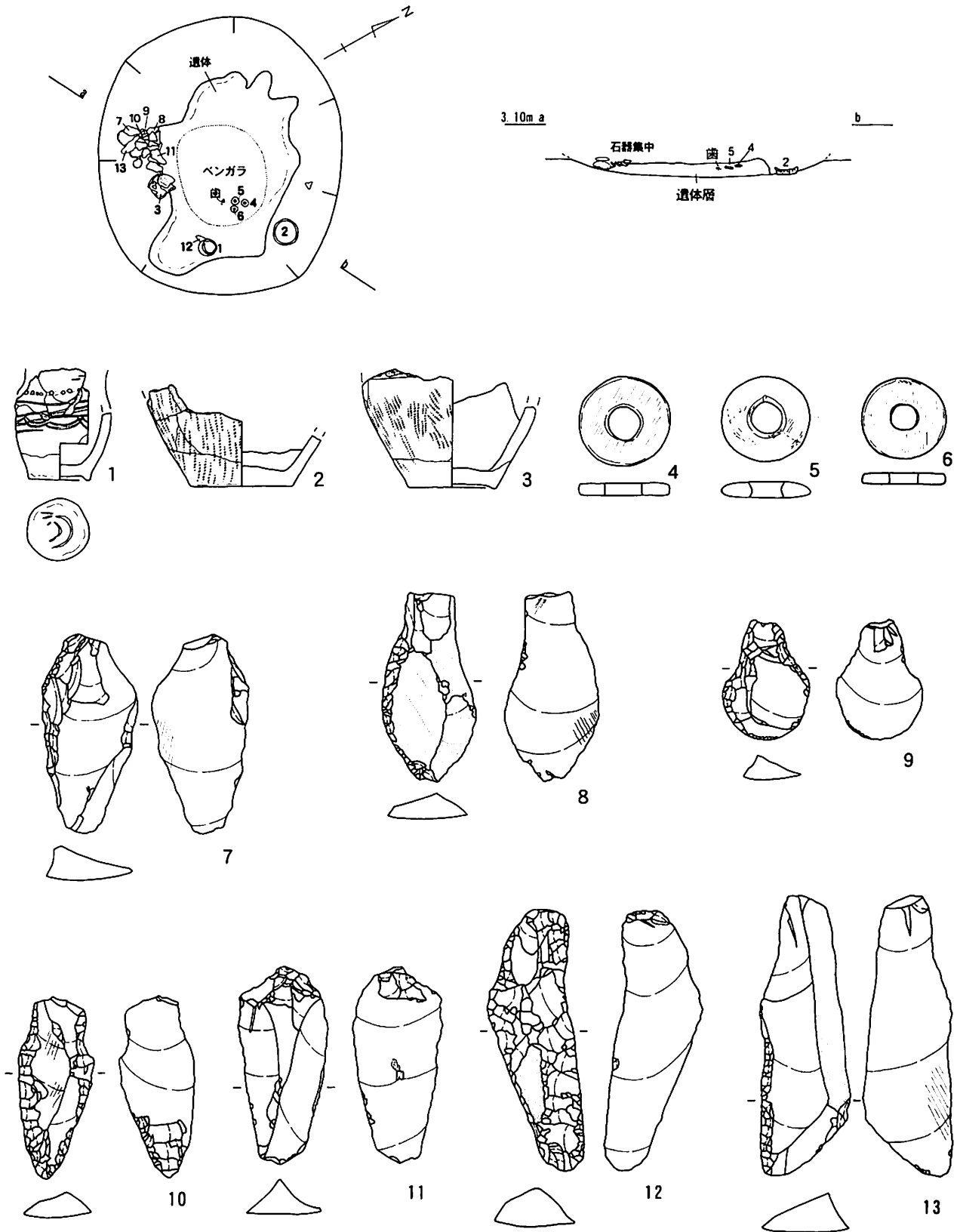
第86図 P-107・109 平面図とP-107 出土遺物



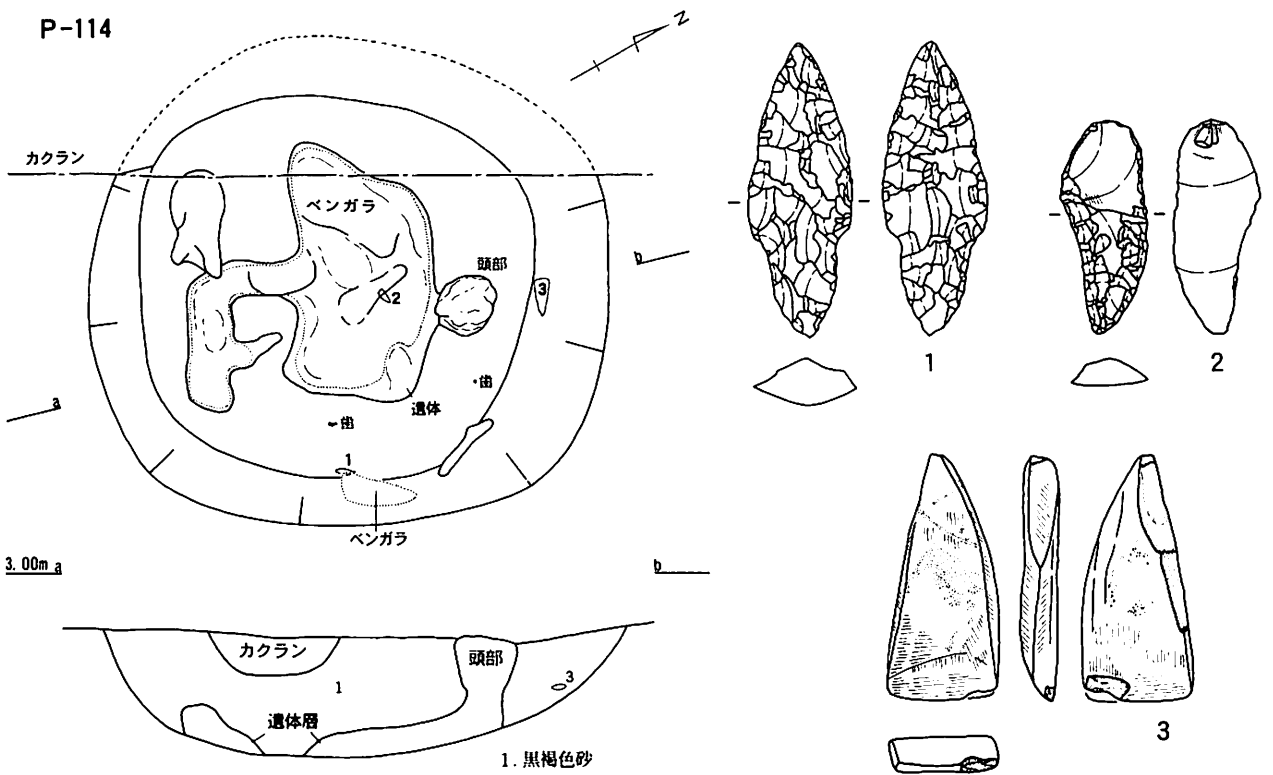
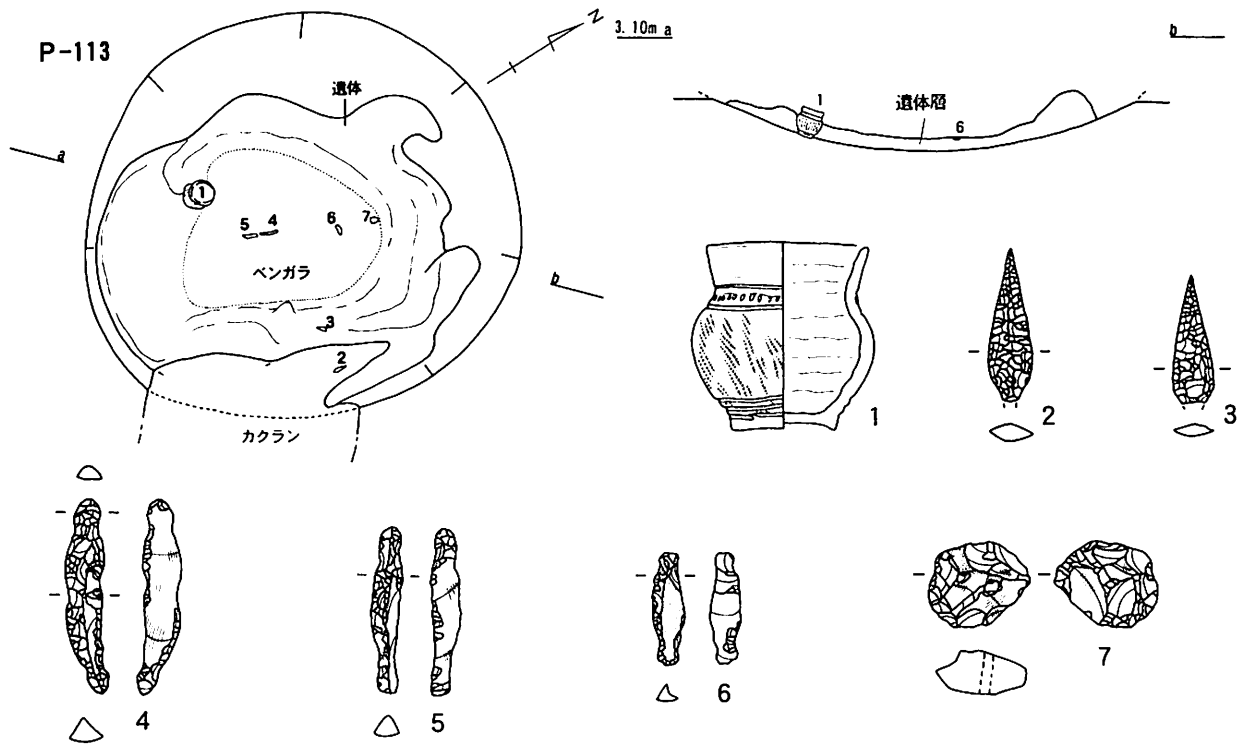
第87図 P-108・111 平面図とP-108 出土遺物



P-112

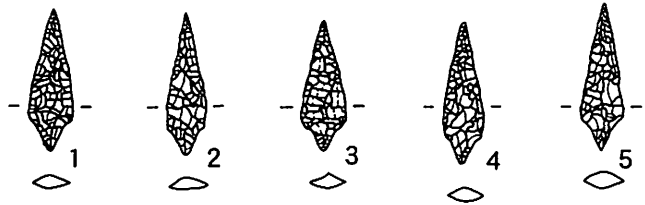
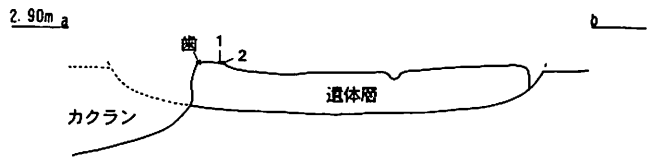
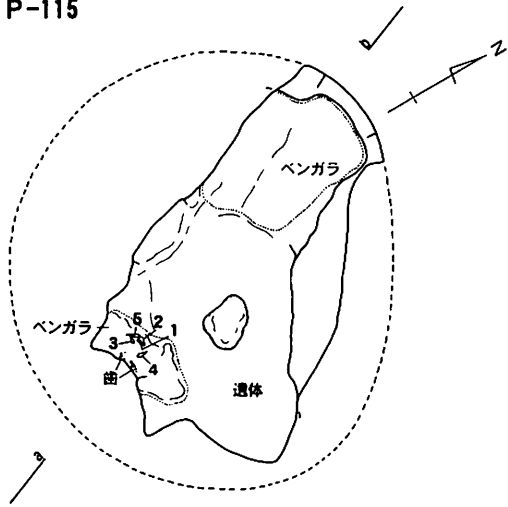


第88図 P-112 平面図と出土遺物

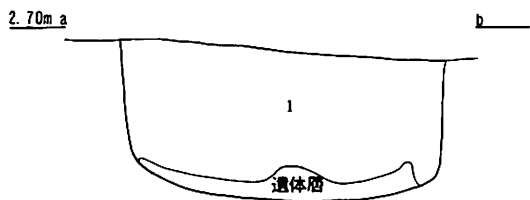
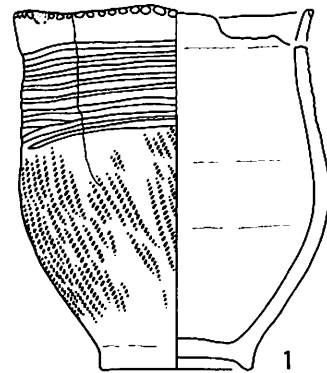
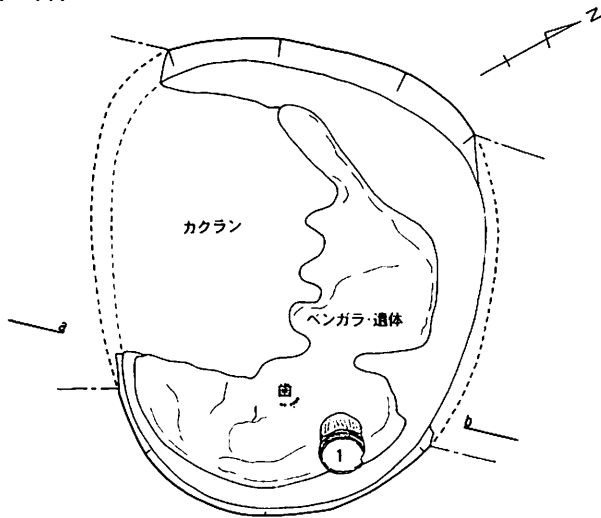


第89図 P-113・114 平面図と出土遺物

P-115



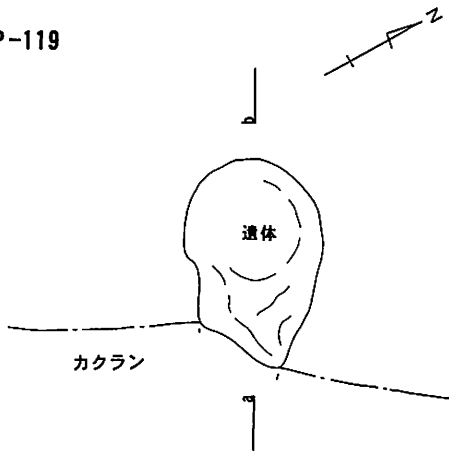
P-117



1. 褐色砂(黒色砂鉄が混じる)

第90図 P-115・117 平面図と出土遺物

P-119



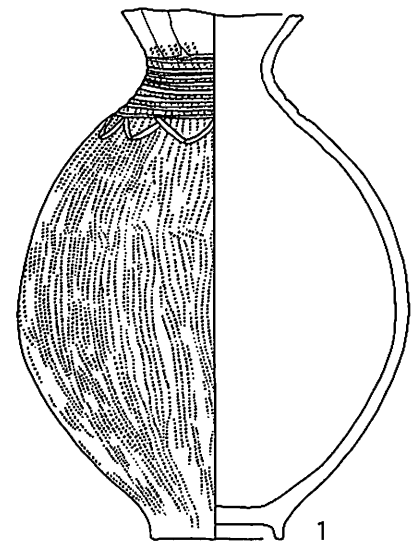
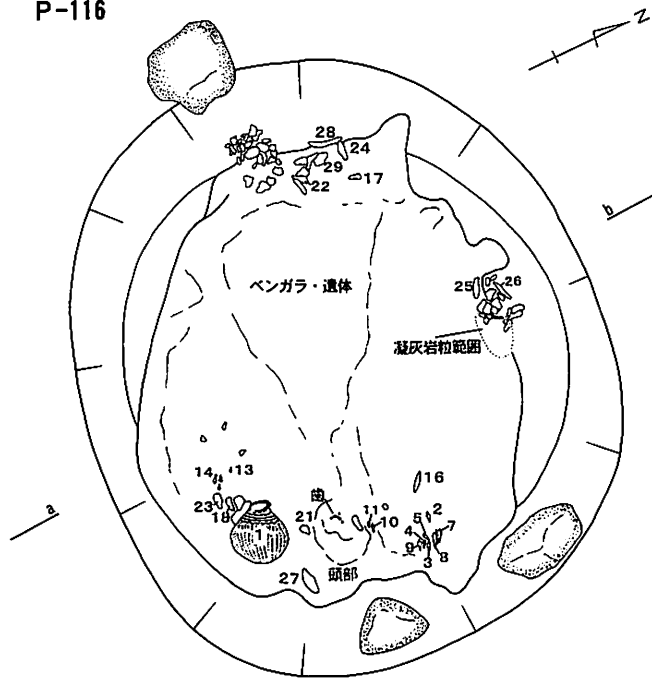
2.80m a

カクラン

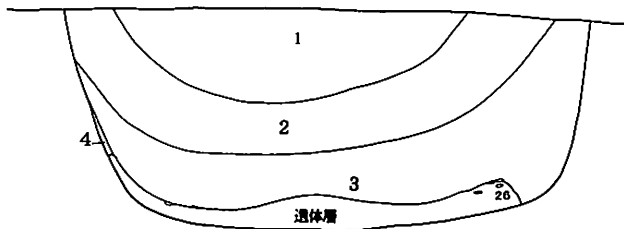
遺体層

b

P-116



3.00m a

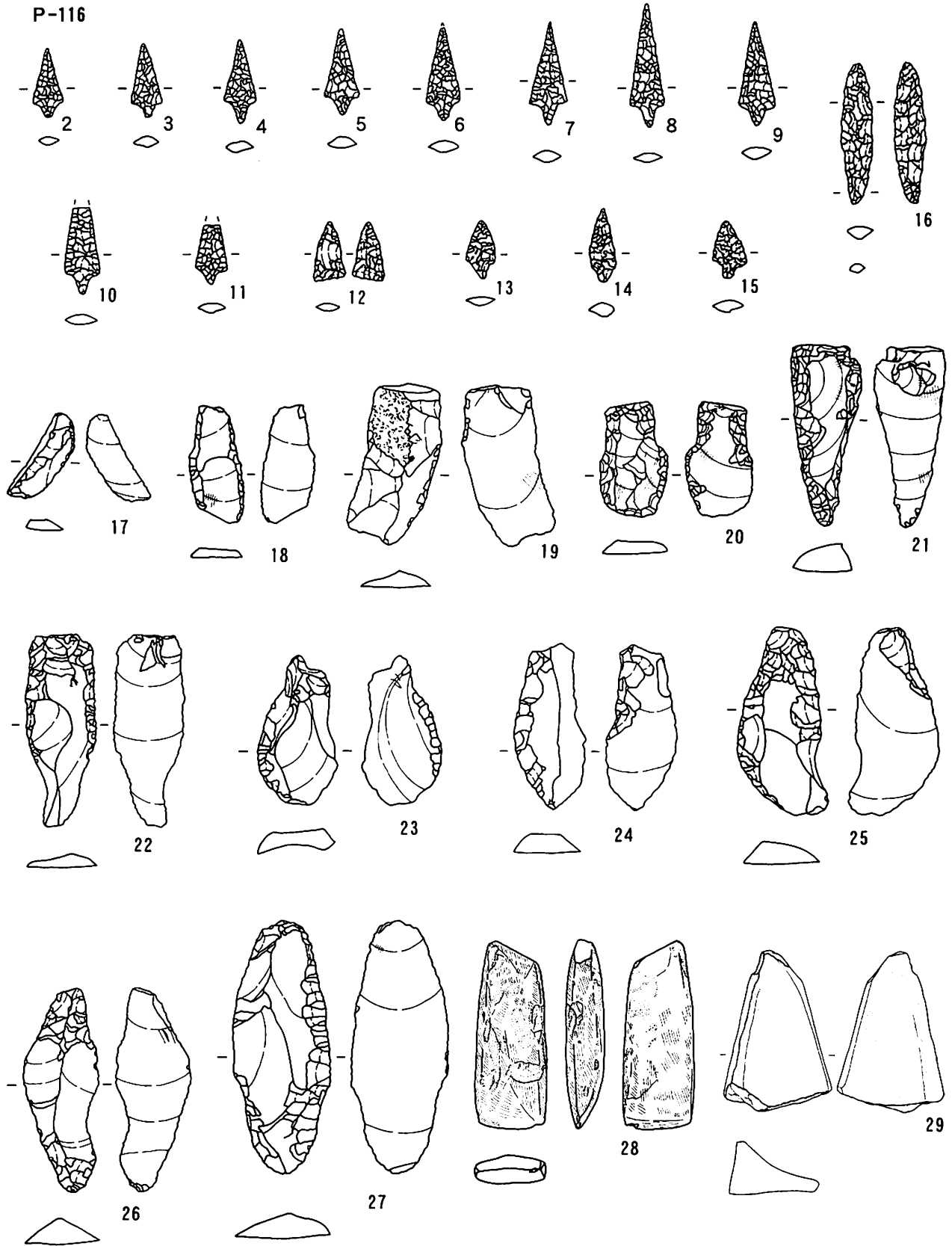


b

1. 暗褐色砂(上・下面にうっすらと黒色砂鉄層が縞状に入る。)
2. 暗褐色砂(下面にうっすらと黒色砂鉄層が縞状に入る。  
1層に比してやや暗い。少量の炭化物が混じる)
3. 褐色砂(下面は砂鉄層が錯化して固化。少量の炭化物が混じる)
4. 暗赤褐色砂

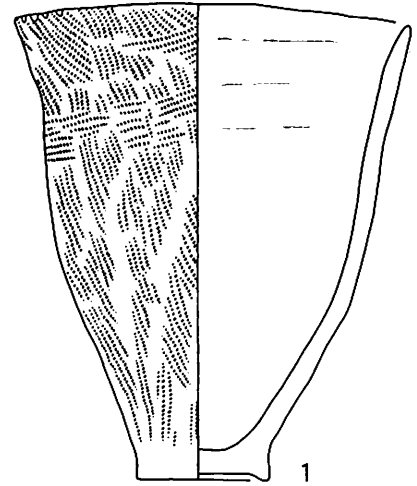
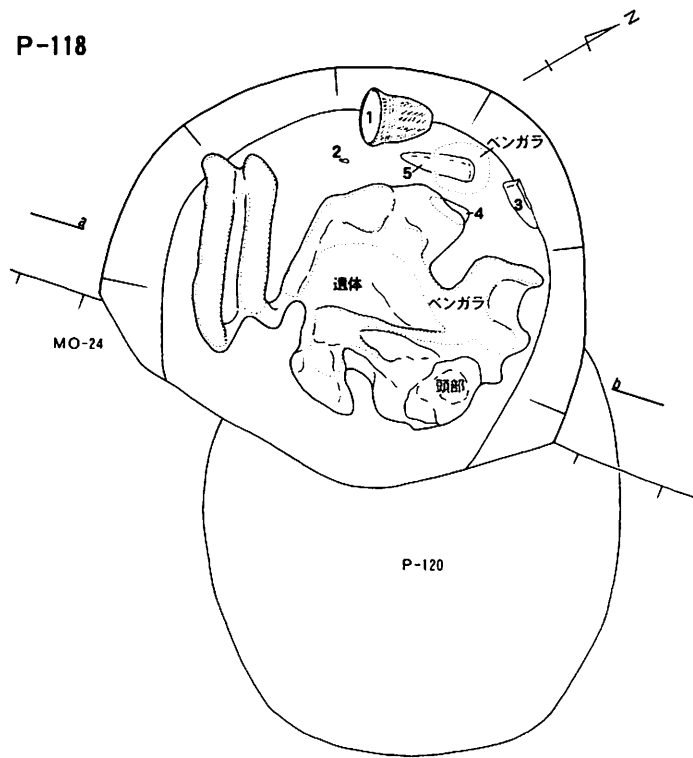
第91図 P-116・119 平面図とP-116 出土遺物

P-116

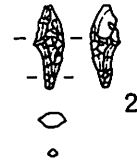
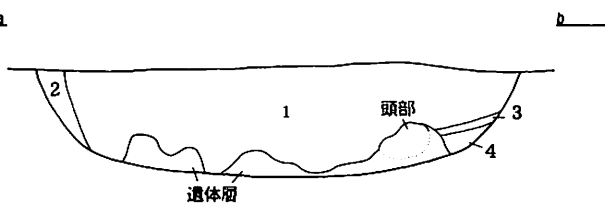


第92图 P-116 出土遺物

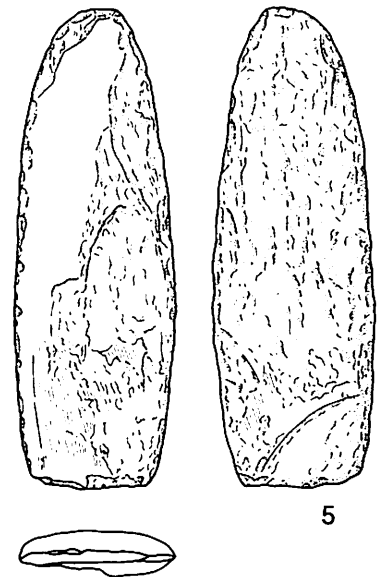
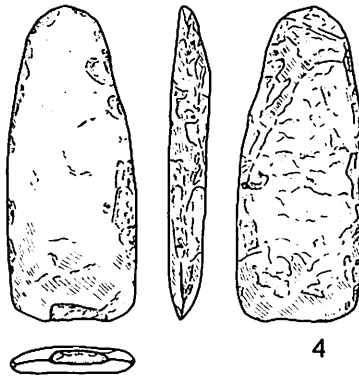
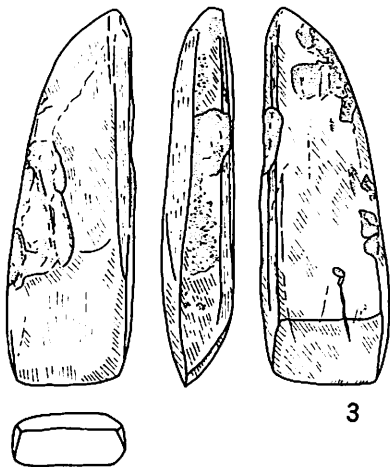
P-118



2.60m a

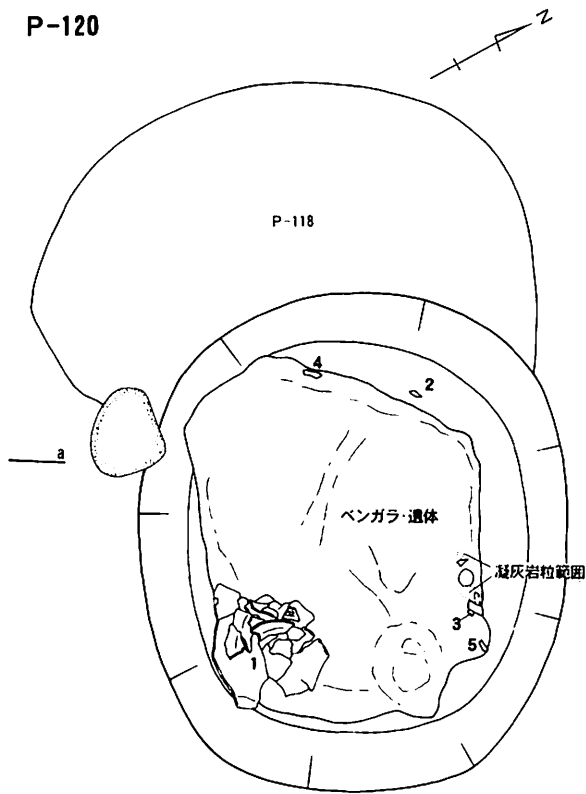


1. 褐色砂(暗赤褐色砂が斑状に混じる。少量の炭化物が混じる)
2. 暗赤褐色砂
3. 暗赤褐色砂(ベンガラ層)
4. 黒褐色砂



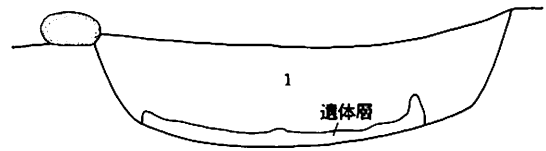
第93図 P-118 平面図と出土遺物

P-120

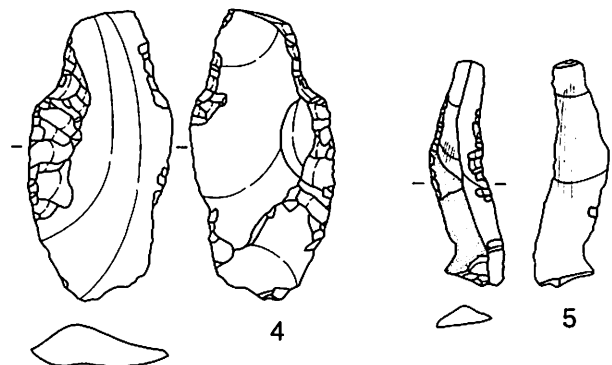
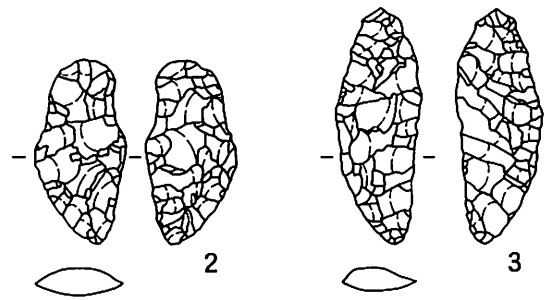
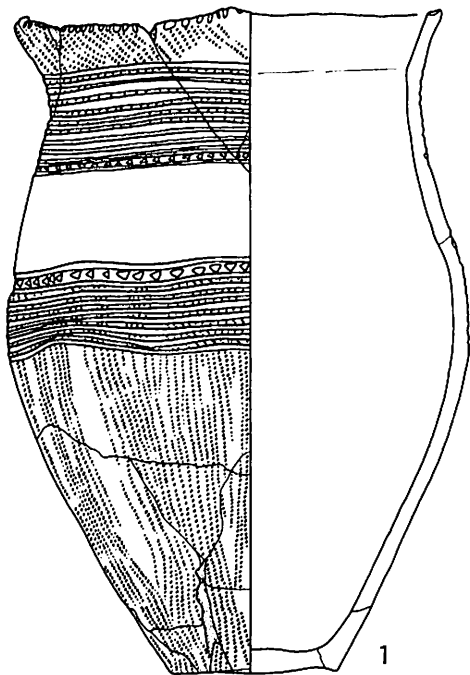


2. 40m a

b

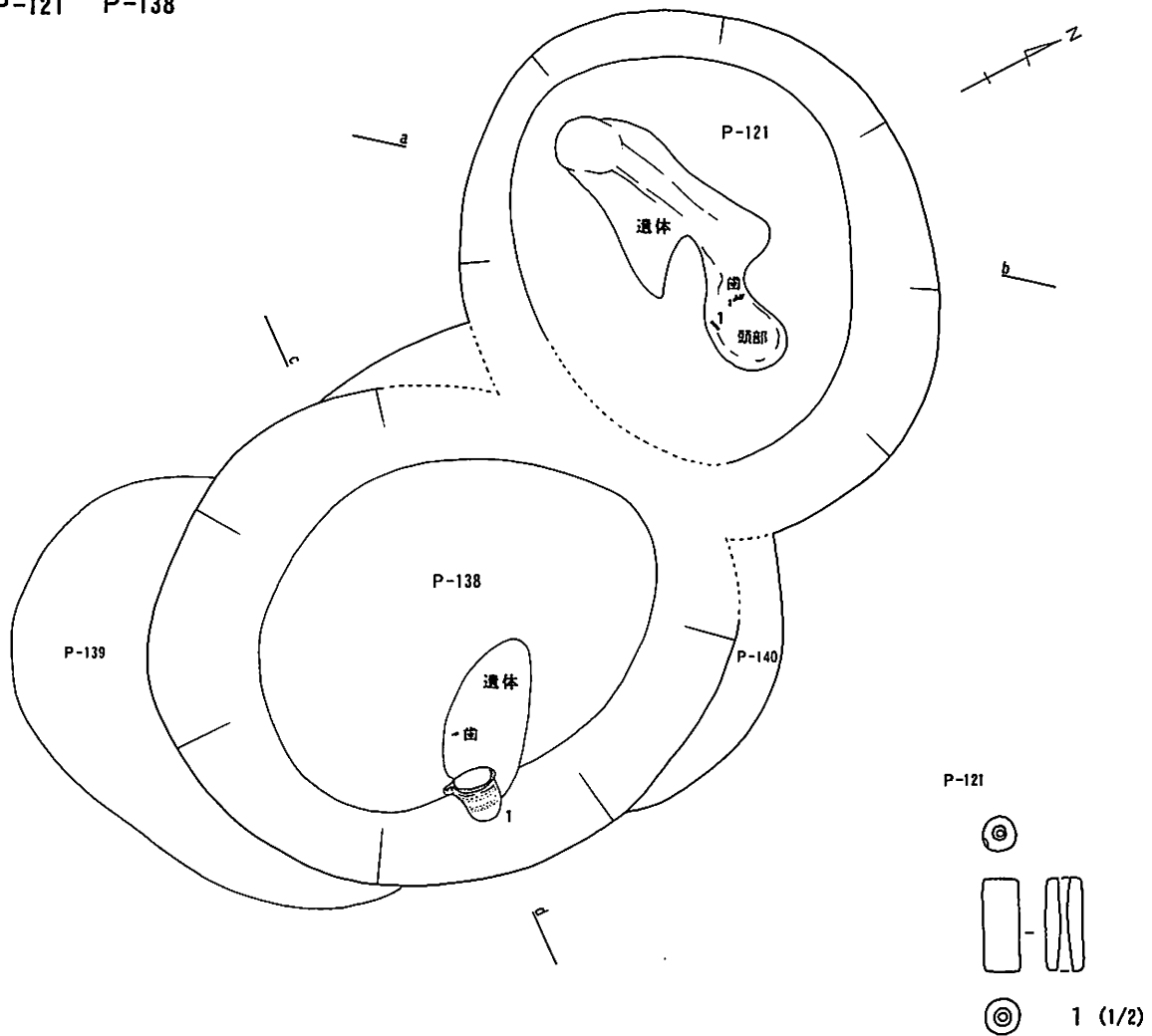


1. 暗褐色砂 (IV層に比して暗く、灰色がかかる)



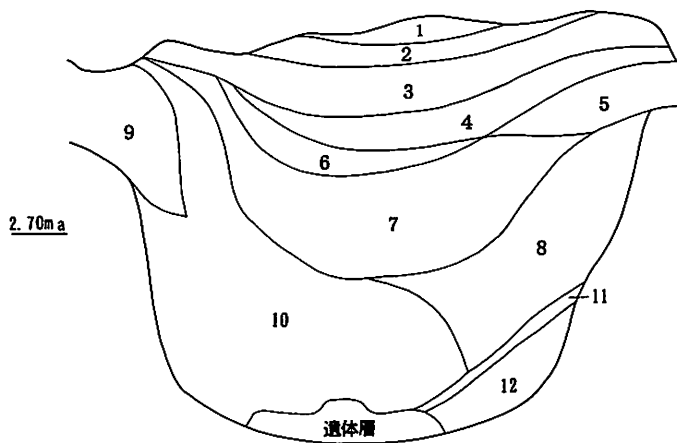
第94図 P-120 平面図と出土遺物

P-121 P-138



アスファルト

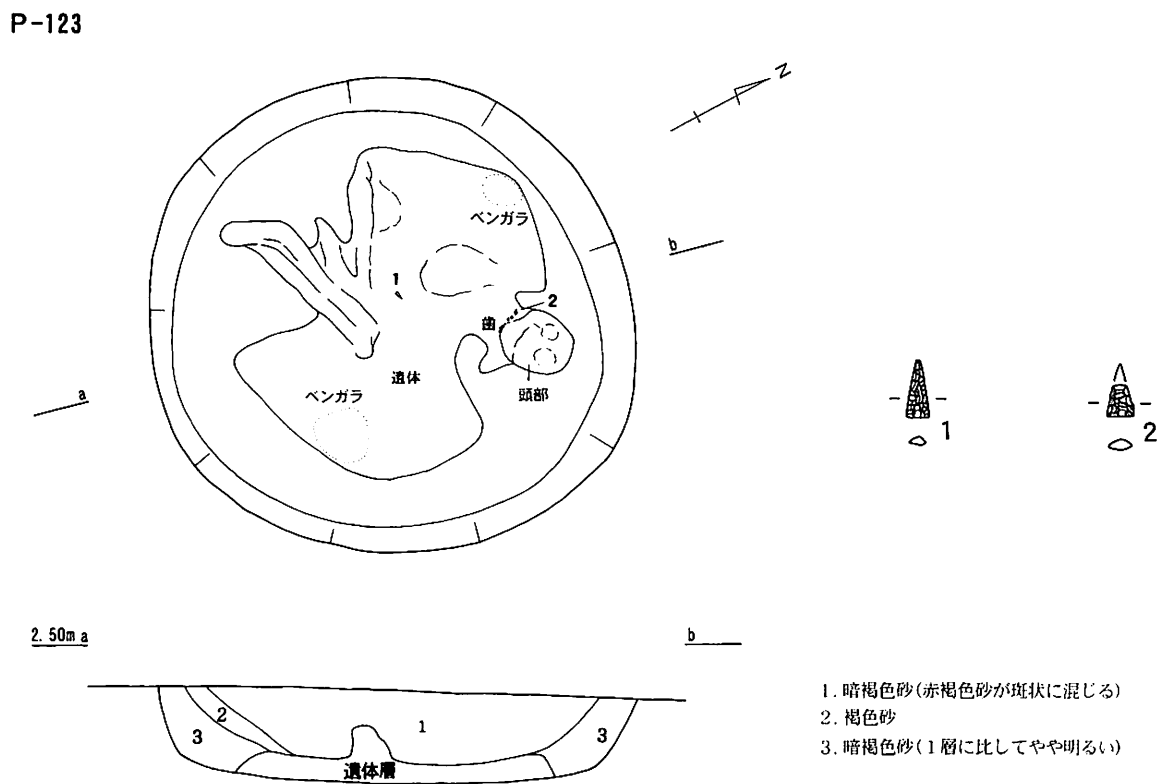
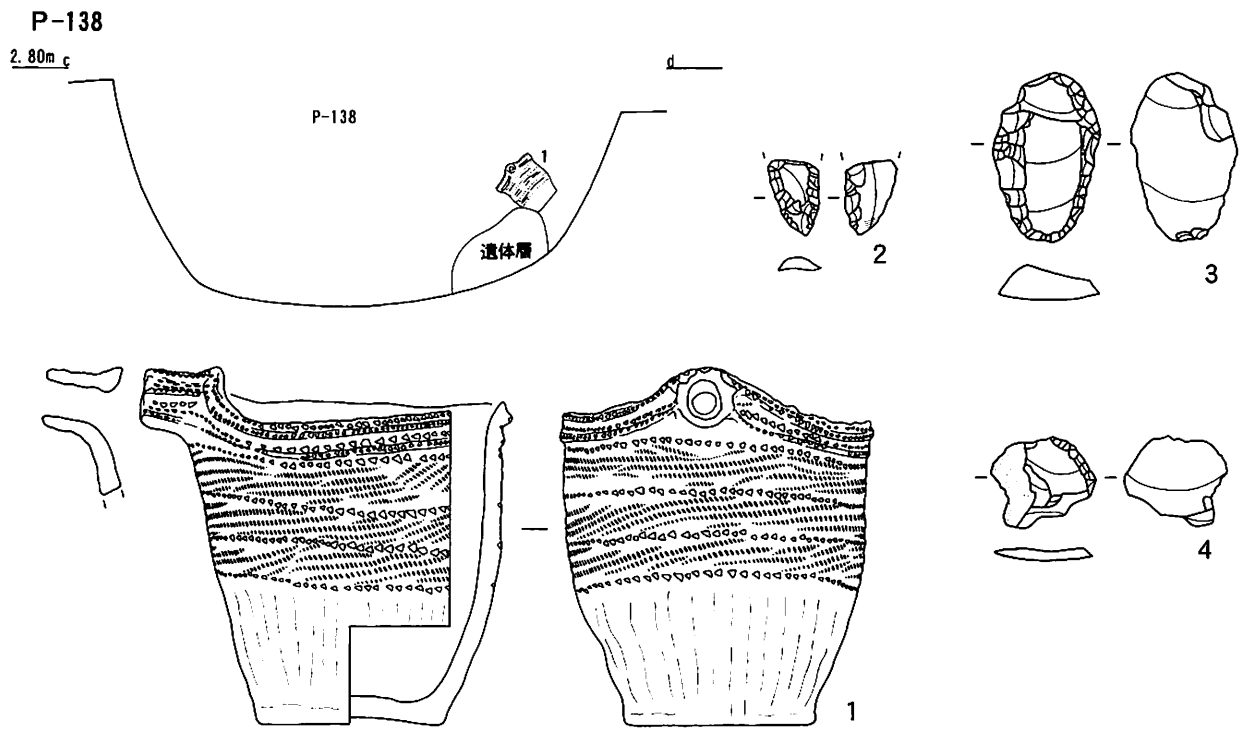
カクラン(砂利層を含む)



1. 黒色土(やや固くしまる)
2. 黒色土に暗褐色砂が混じる
3. 黒色土(少量の炭化物が混じり、やや固くしまる)
4. 暗褐色砂(少量の炭化物が混じる)
5. 黒褐色砂
6. 褐色砂
7. 暗褐色砂(少量の炭化物が混じる)
8. 暗褐色砂(微量の炭化物が混じり、一部赤味が強い(焼土?))
9. 黒褐色砂に褐色砂が混じる。(微量の炭化物が混じる)
10. 褐色砂(少量の炭化物が混じる)
11. 黒色砂
12. 褐色砂

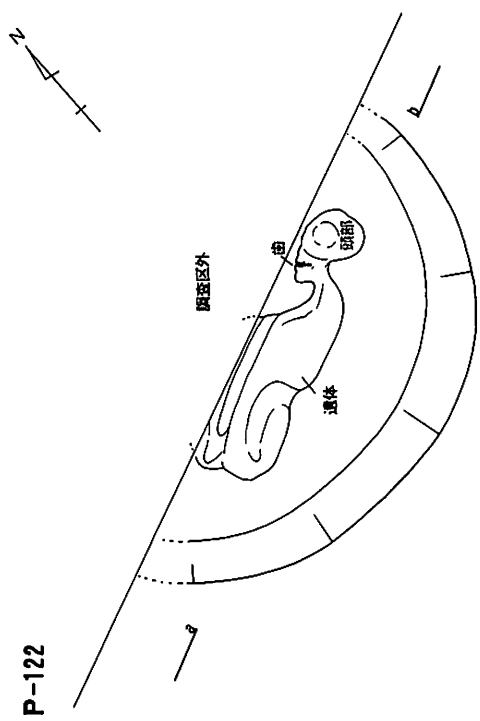
第95図 P-121・138 平面図とP-121 出土遺物



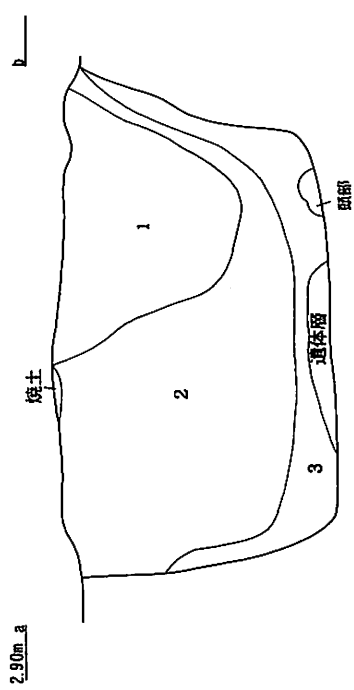


1. 暗褐色砂(赤褐色砂が斑状に混じる)
2. 褐色砂
3. 暗褐色砂(1層に比してやや明るい)

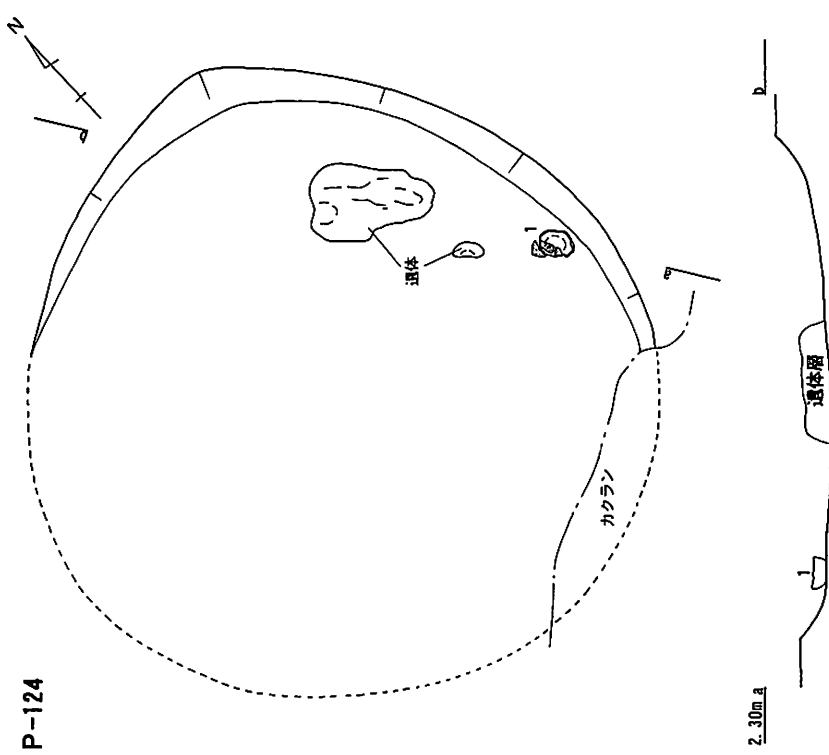
第96図 P-123 平面図とP-123・138 出土遺物



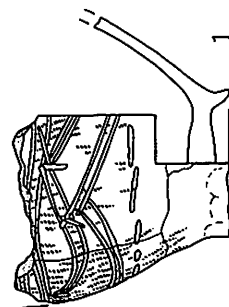
P-122



1. 暗褐色砂と褐色砂の混じり(少量の炭化物混じり。埋め戻しか?)
2. 藍色砂(微量の炭化物が混じる)
3. 黒褐色砂(微量の炭化物が混じる)

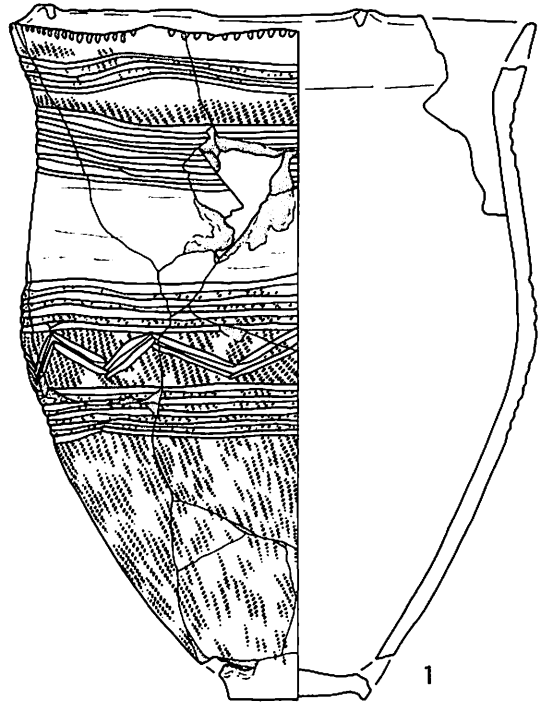
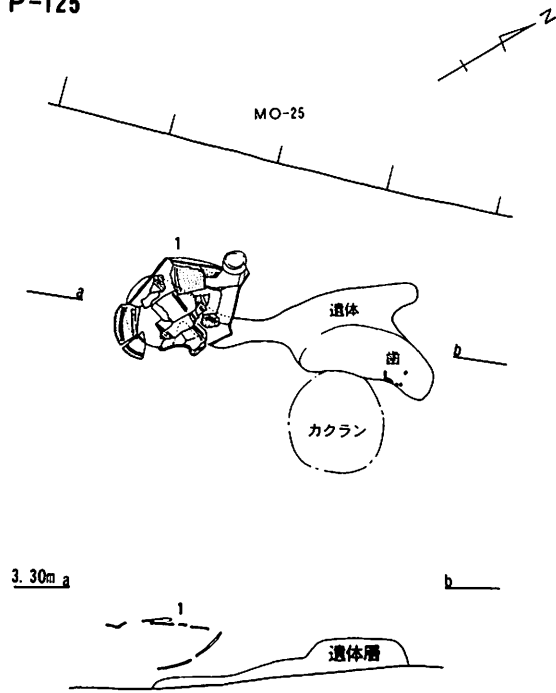


P-124

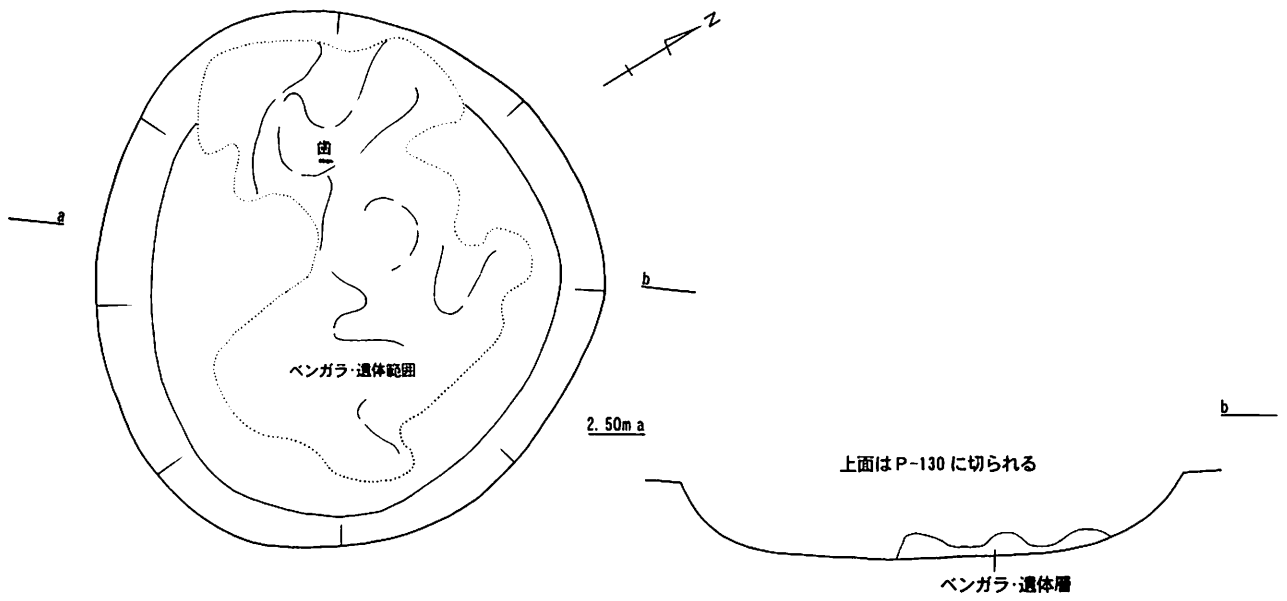


第97図 P-122・124 平面図とP-124 出土遺物

P-125

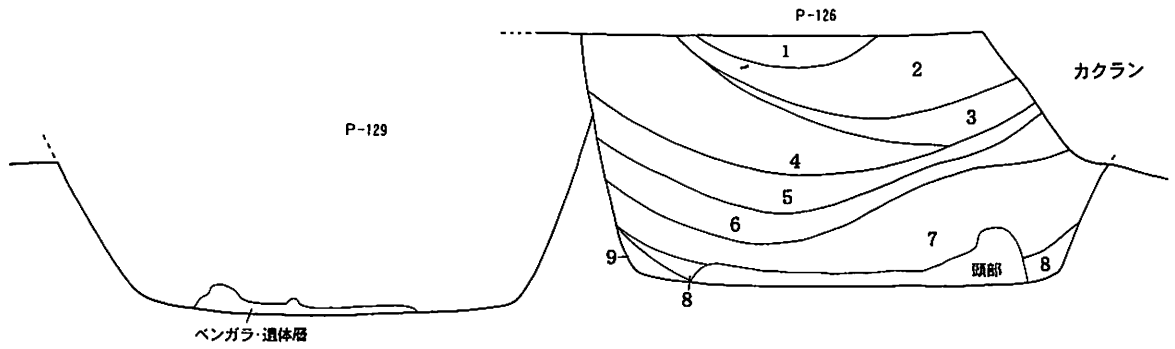
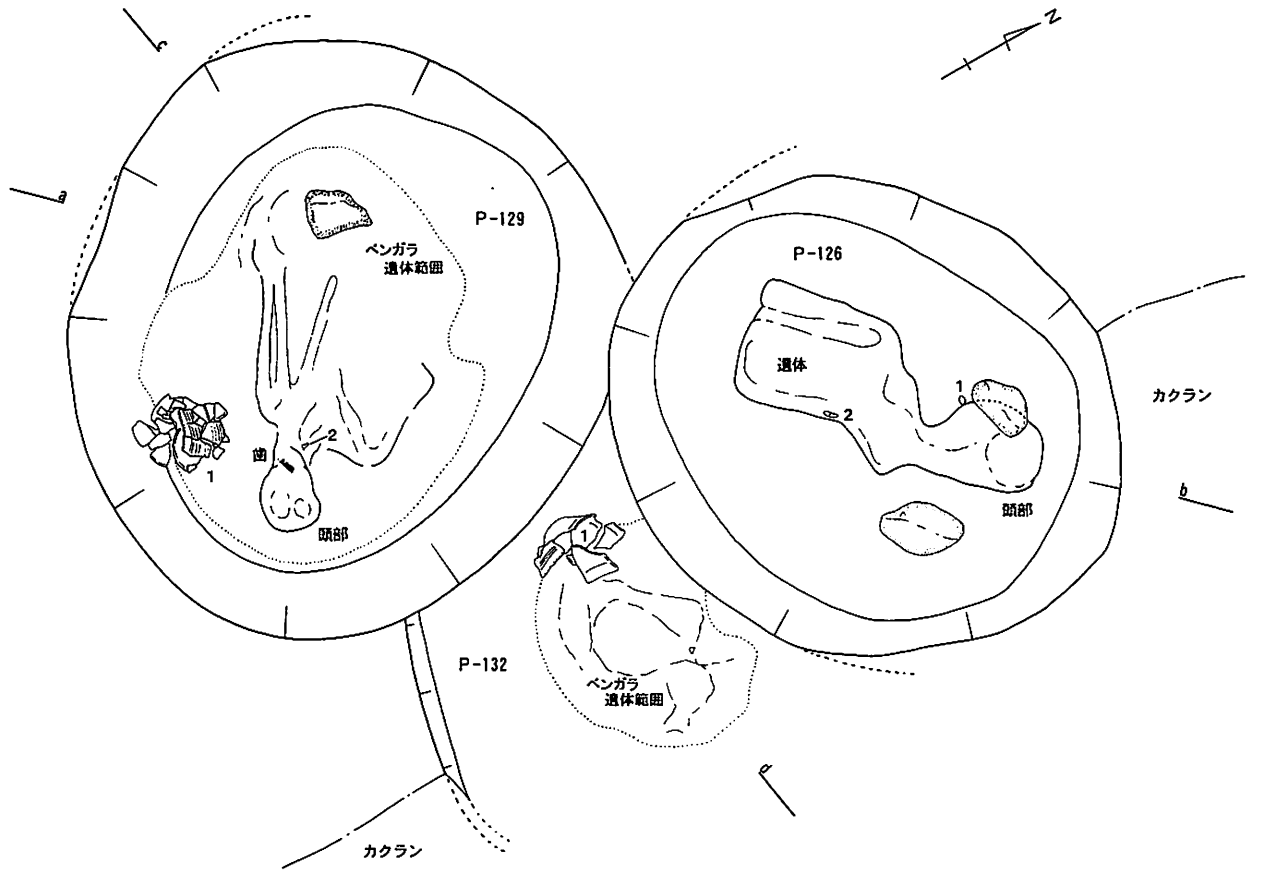


P-135



第98図 P-125・135 平面図とP-125 出土遺物

P-126 P-129 P-132



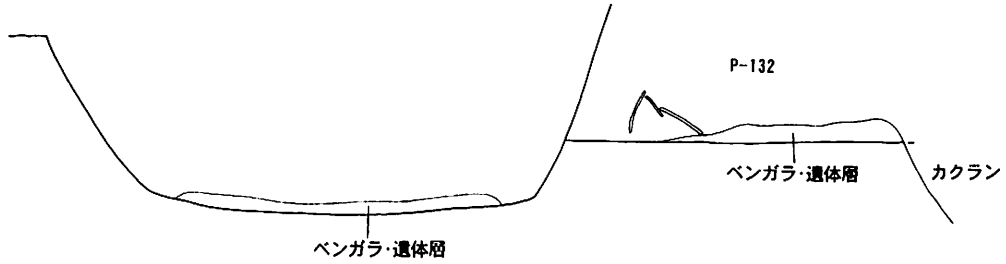
- |                                 |                    |
|---------------------------------|--------------------|
| 1. 暗褐色砂                         | 5. 暗褐色砂            |
| 2. 黒褐色砂(微量の炭化物が混じる)             | 6. 黒褐色砂            |
| 3. 暗褐色砂に褐色砂が縞状に混じる              | 7. 褐色砂(微量の炭化物が混じる) |
| 4. 暗褐色砂(微量の炭化物が混じる。3, 5層に比して暗い) | 8. 黒色砂             |
|                                 | 9. 褐色砂(7層に比して粗粒)   |

第99図 P-126・129・132 平面図

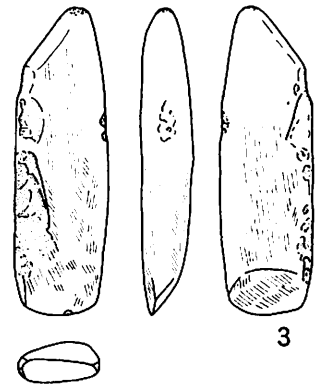
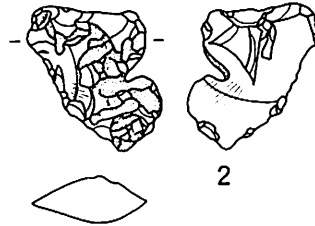
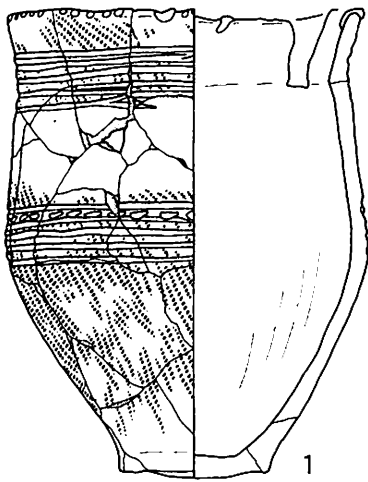
2.80m c

P-129

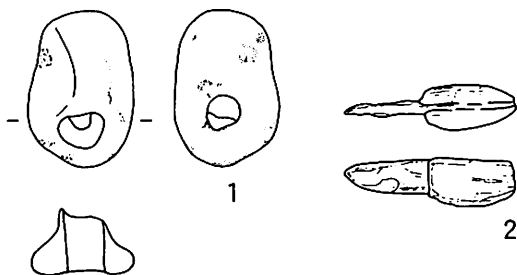
d



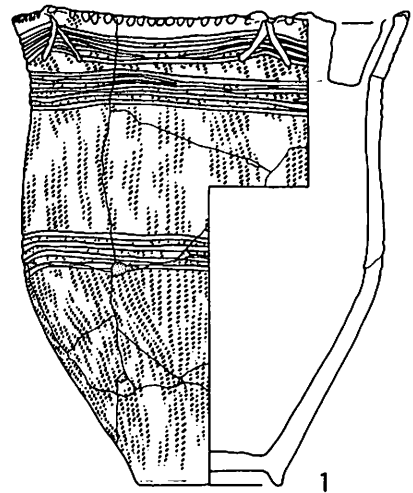
P-129



P-126

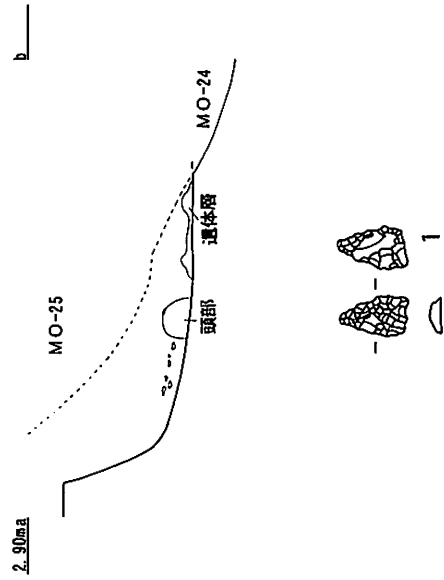
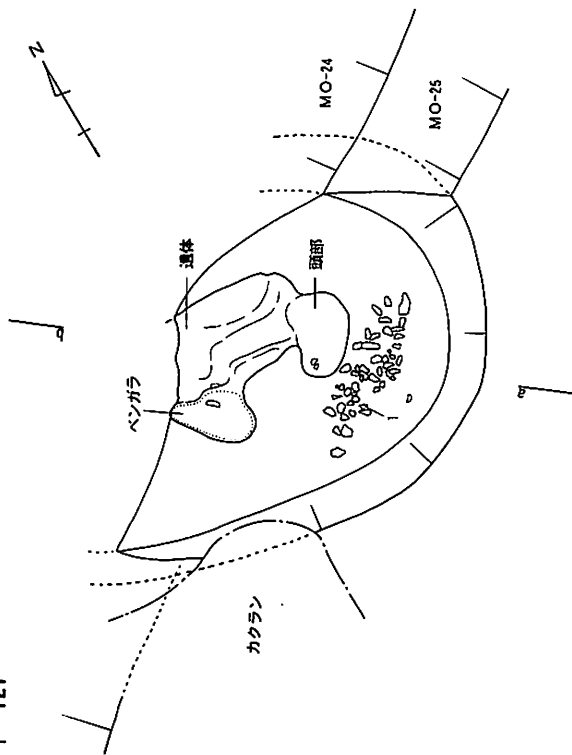


P-132

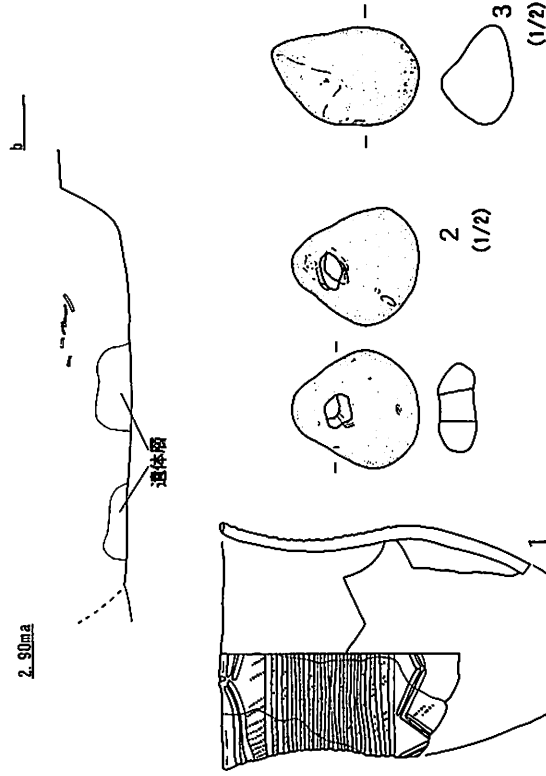
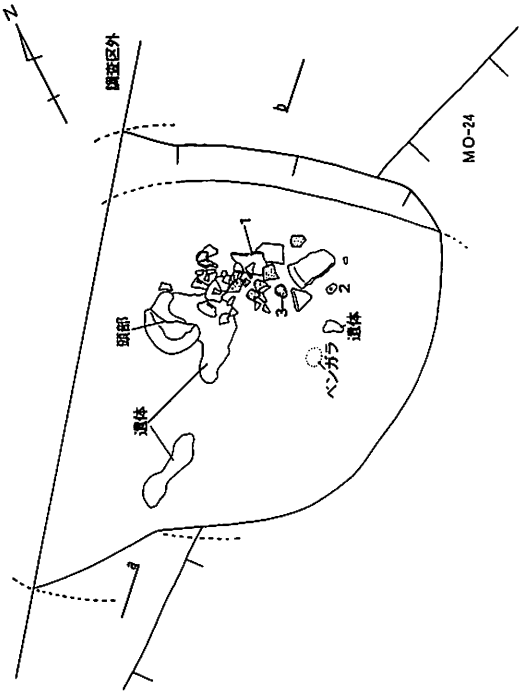


第100図 P-129・132 断面図と P-126・129・132 出土遺物

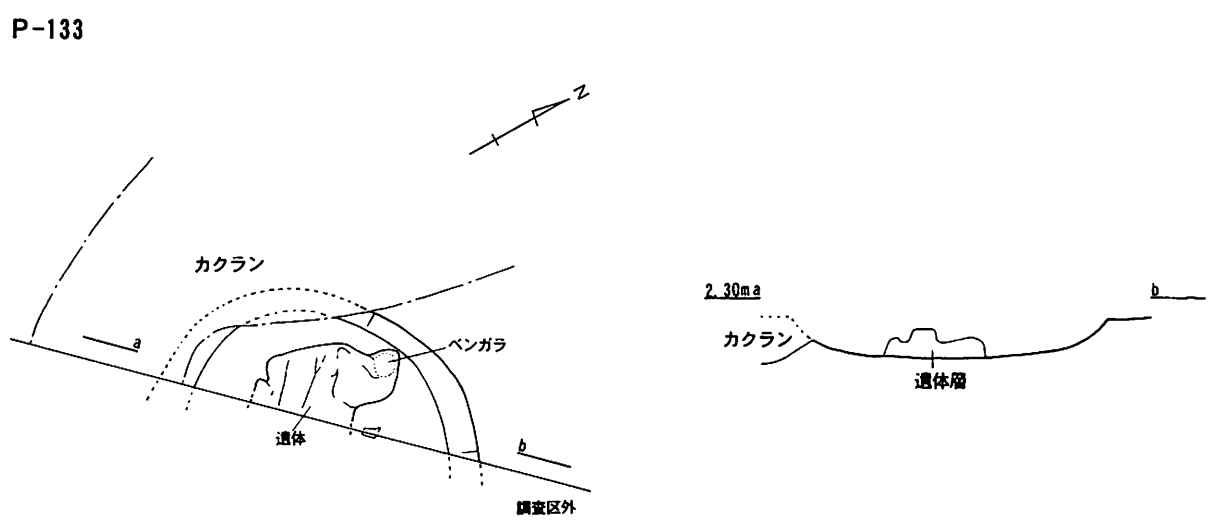
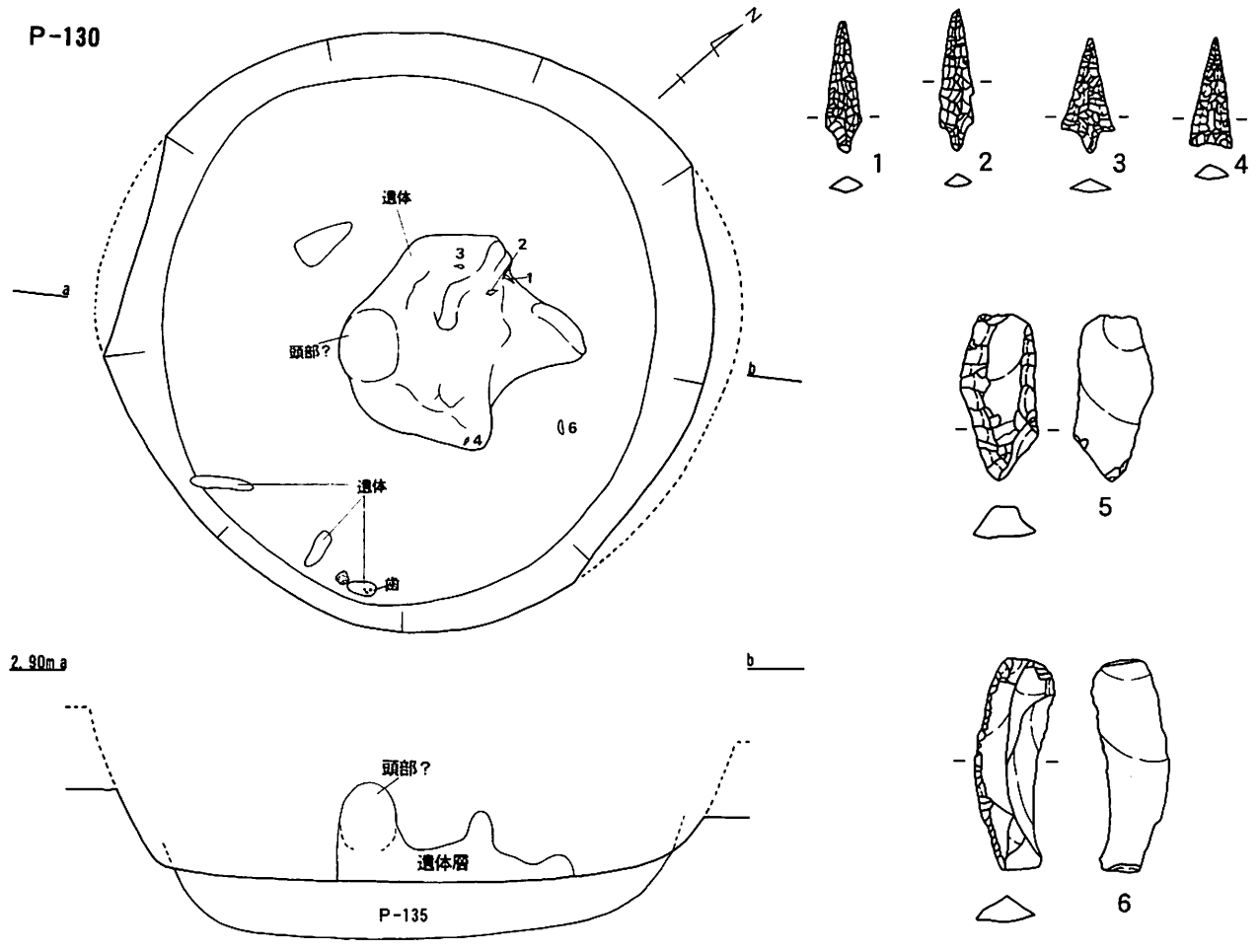
P-127



P-128

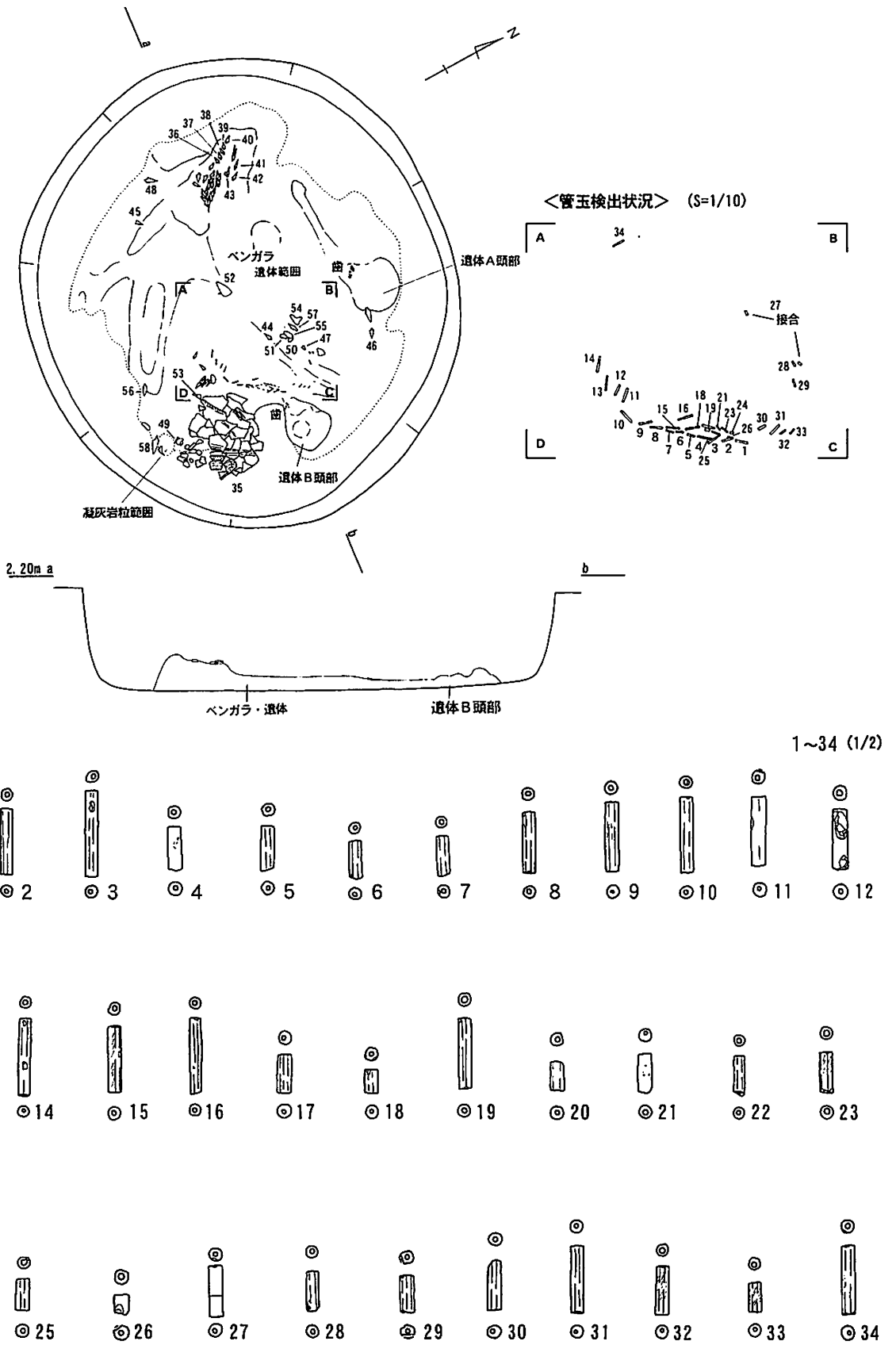


第101図 P-127・128 平面図と出土遺物



第102図 P-130・133 平面図と P-130 出土遺物

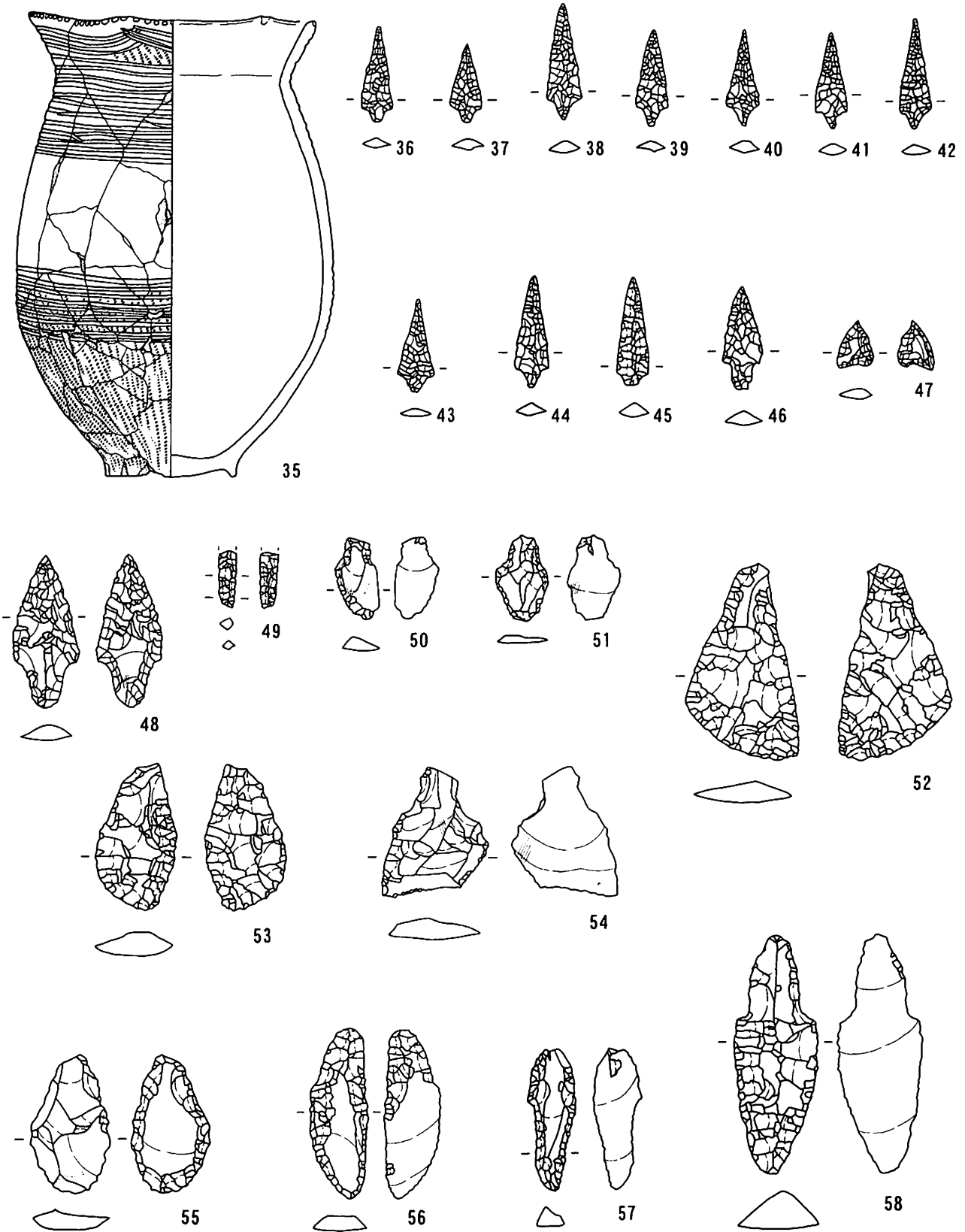
P-131



第103図 P-131 平面図と出土遺物

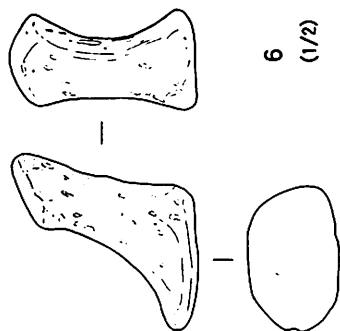
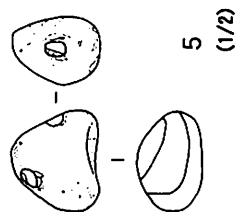
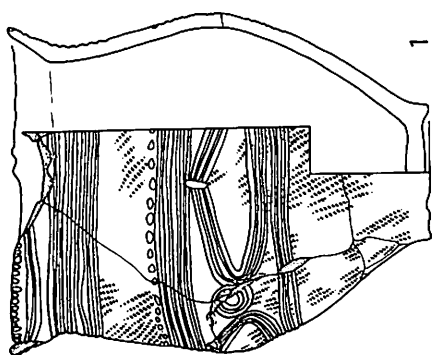
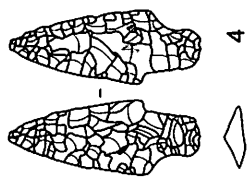
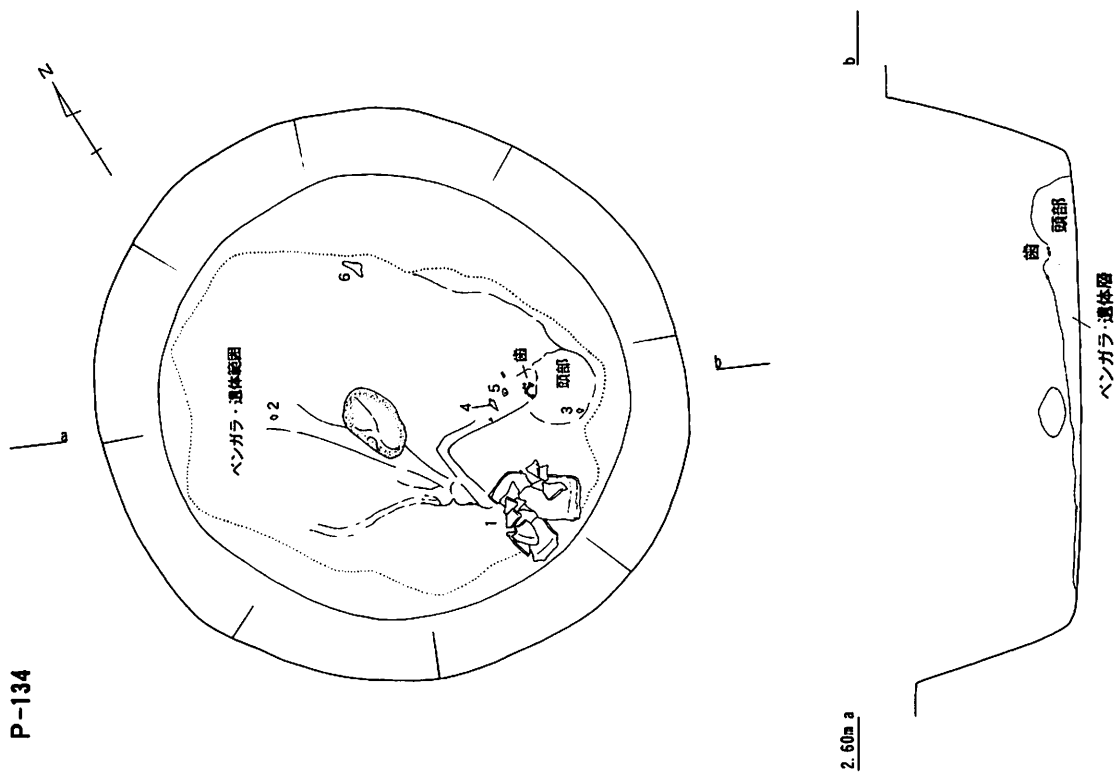


P-131



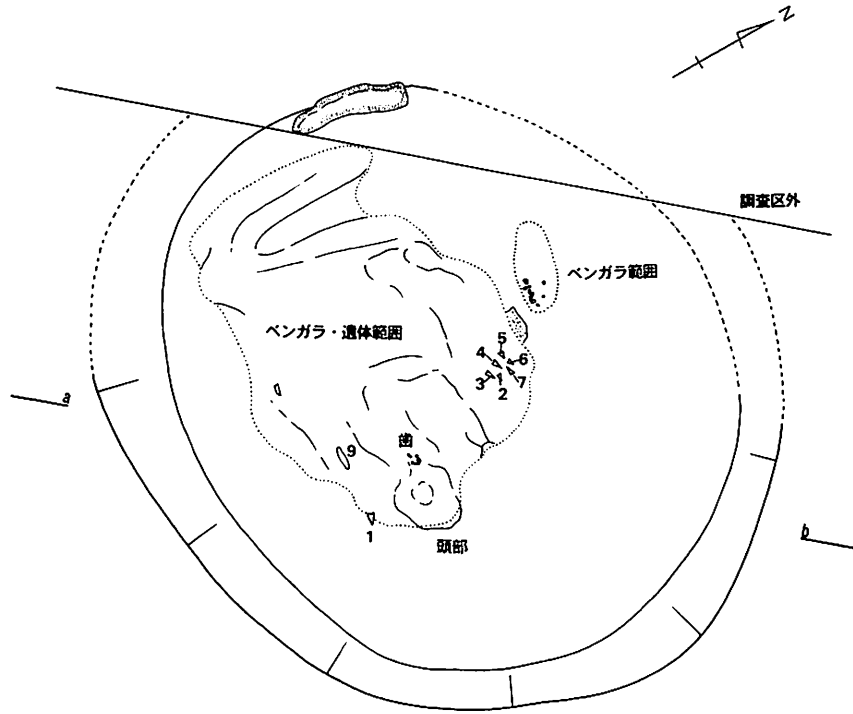
第104图 P-131 出土遗物

P-134

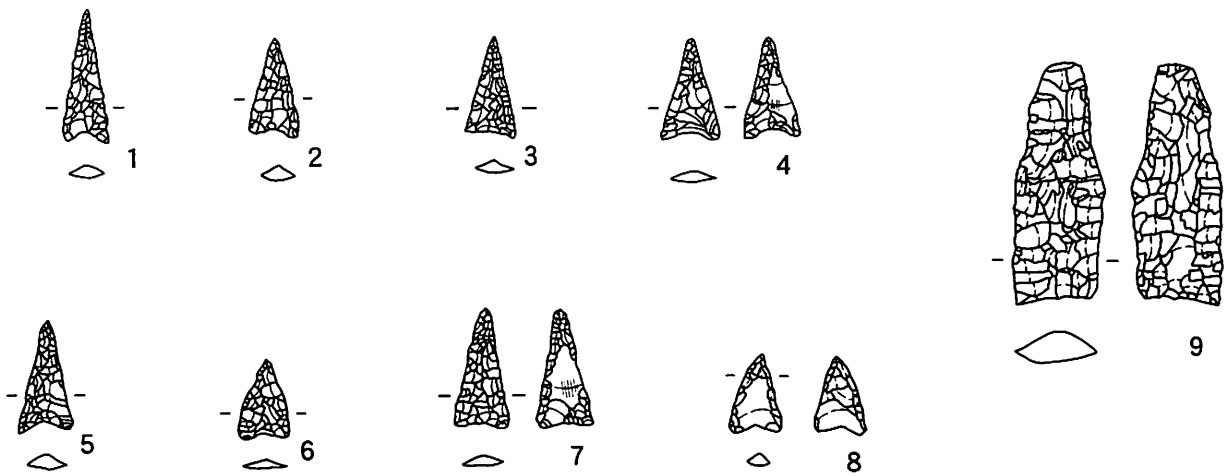
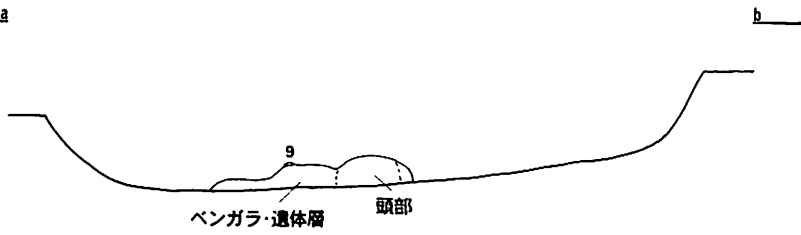


第105図 P-134 平面図と出土遺物

P-136

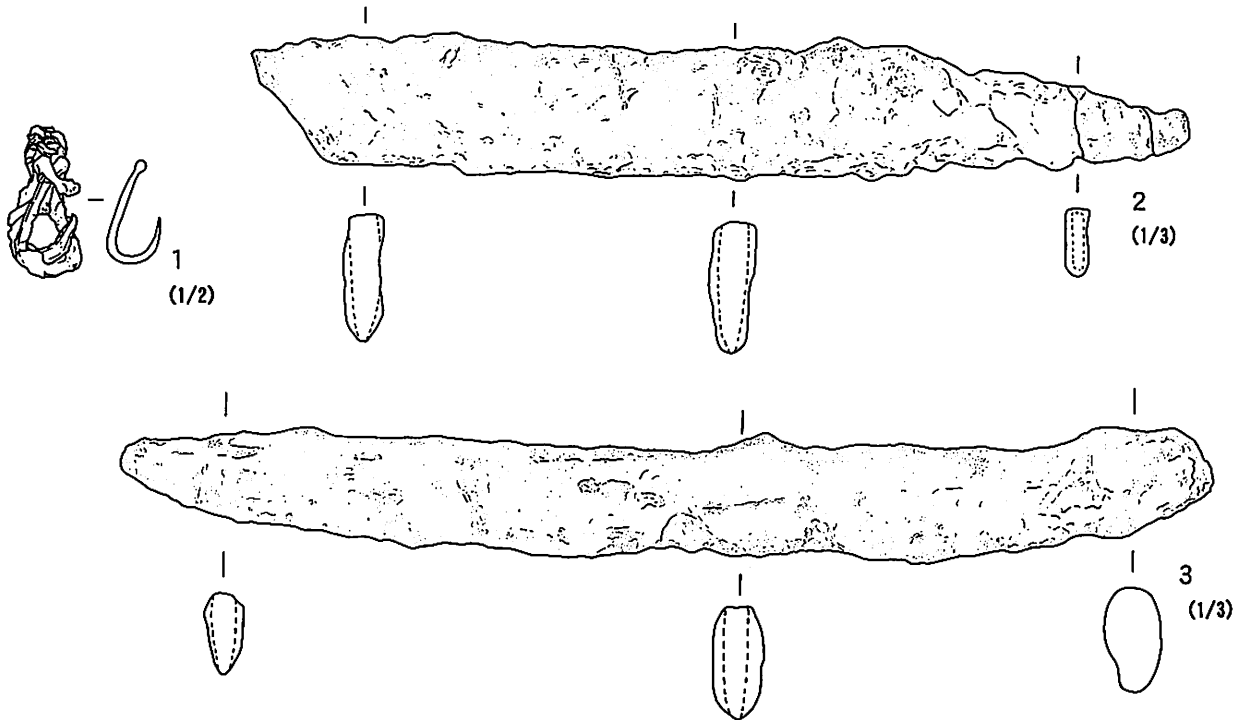
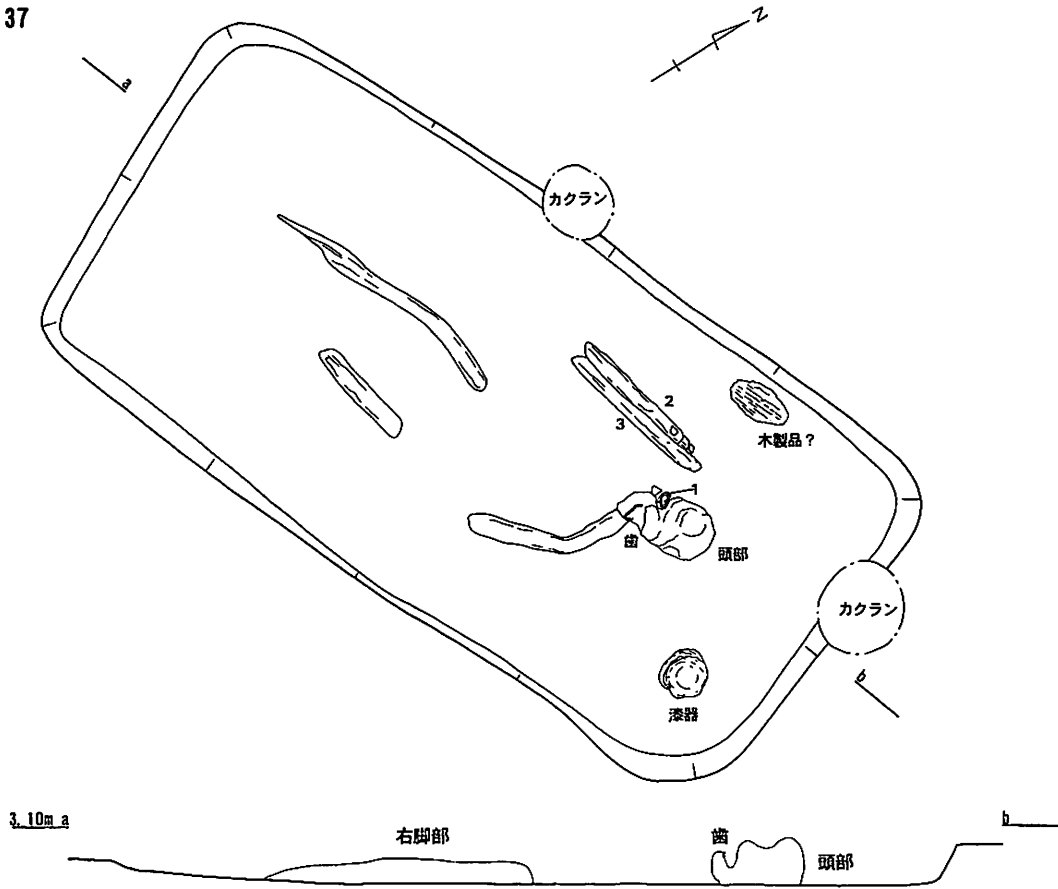


2.50m a

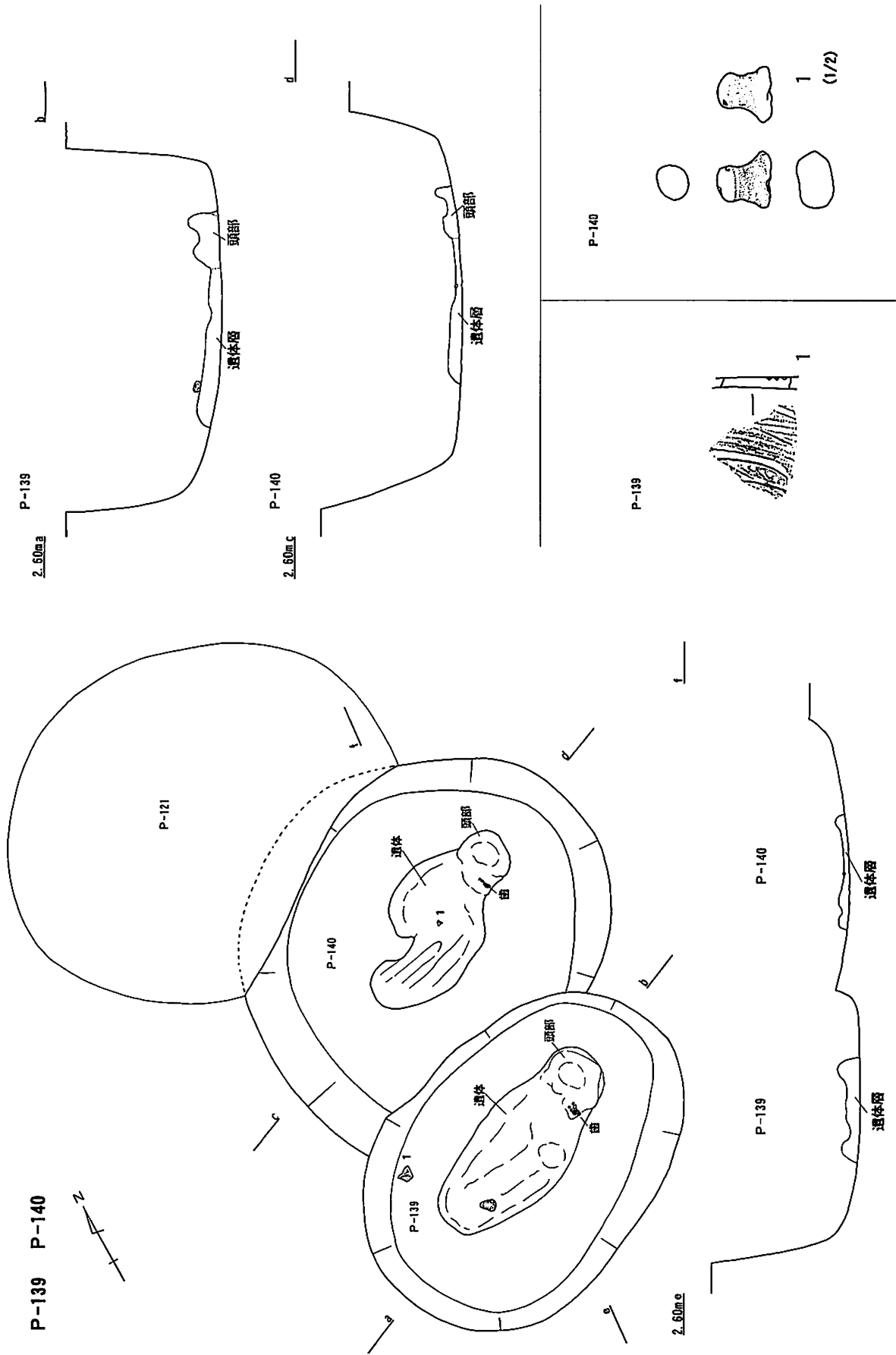


第106図 P-136 平面図と出土遺物

P-137

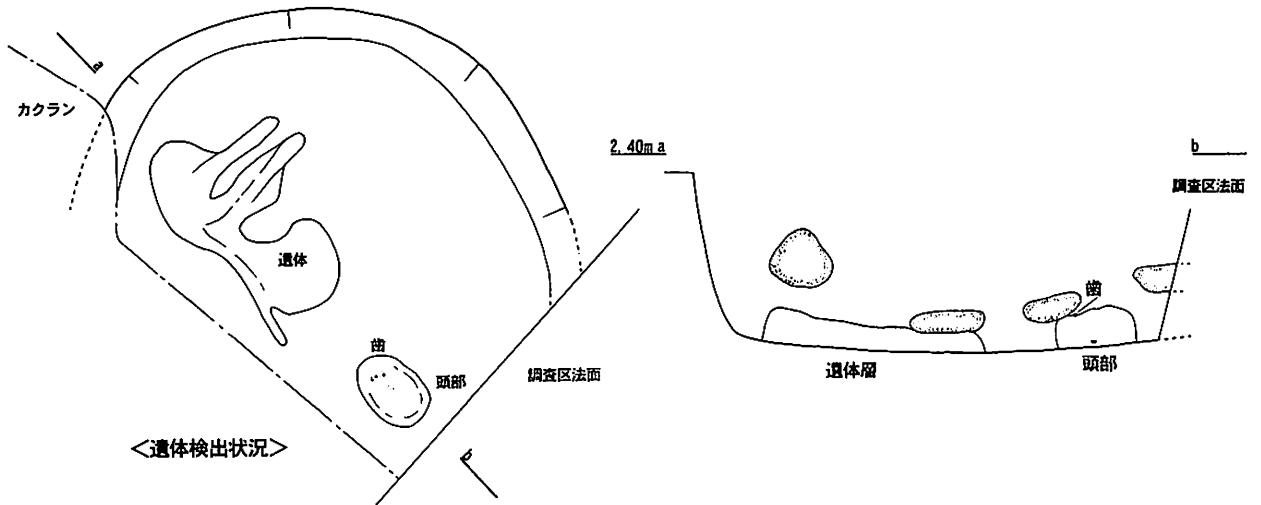
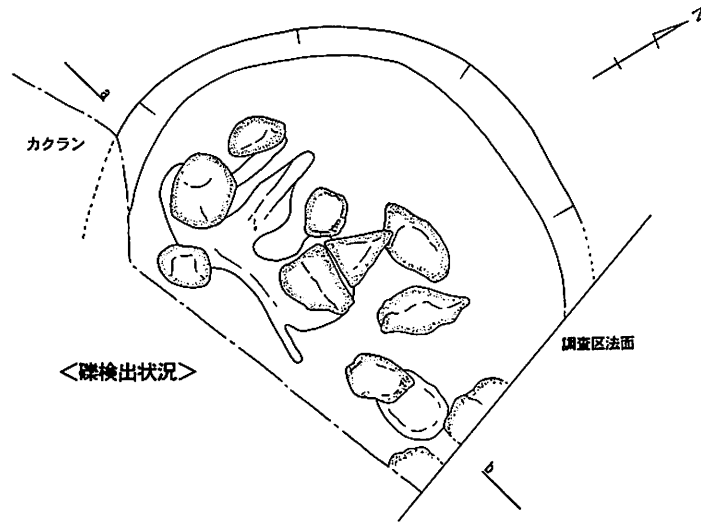


第107図 P-137 平面図と出土遺物

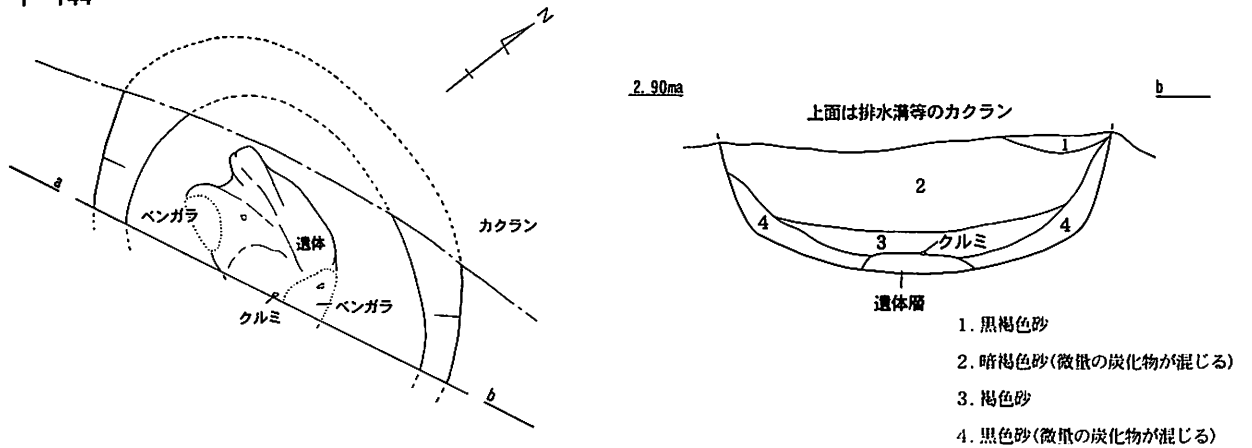


第108図 P-139・140 平面図と出土遺物

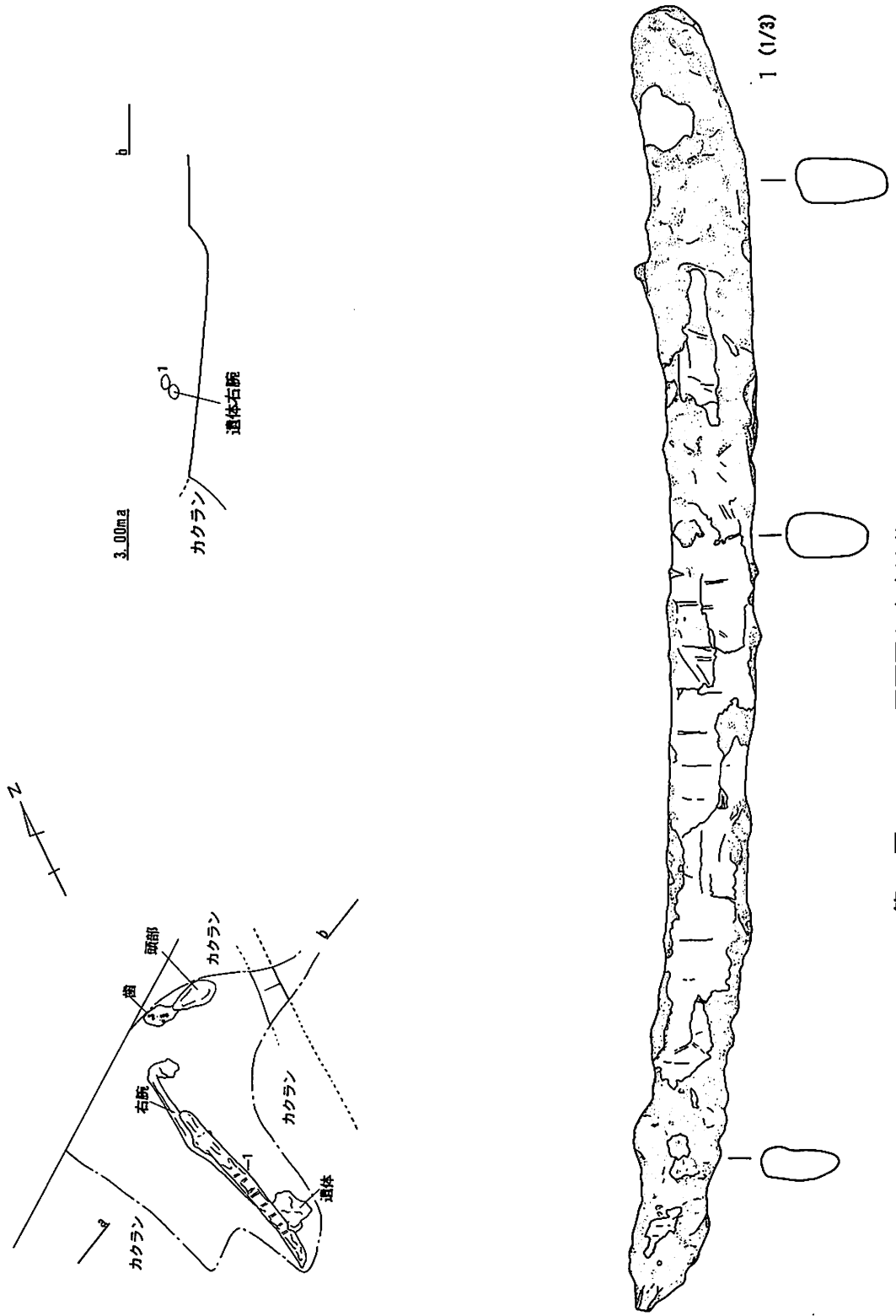
P-141



P-144

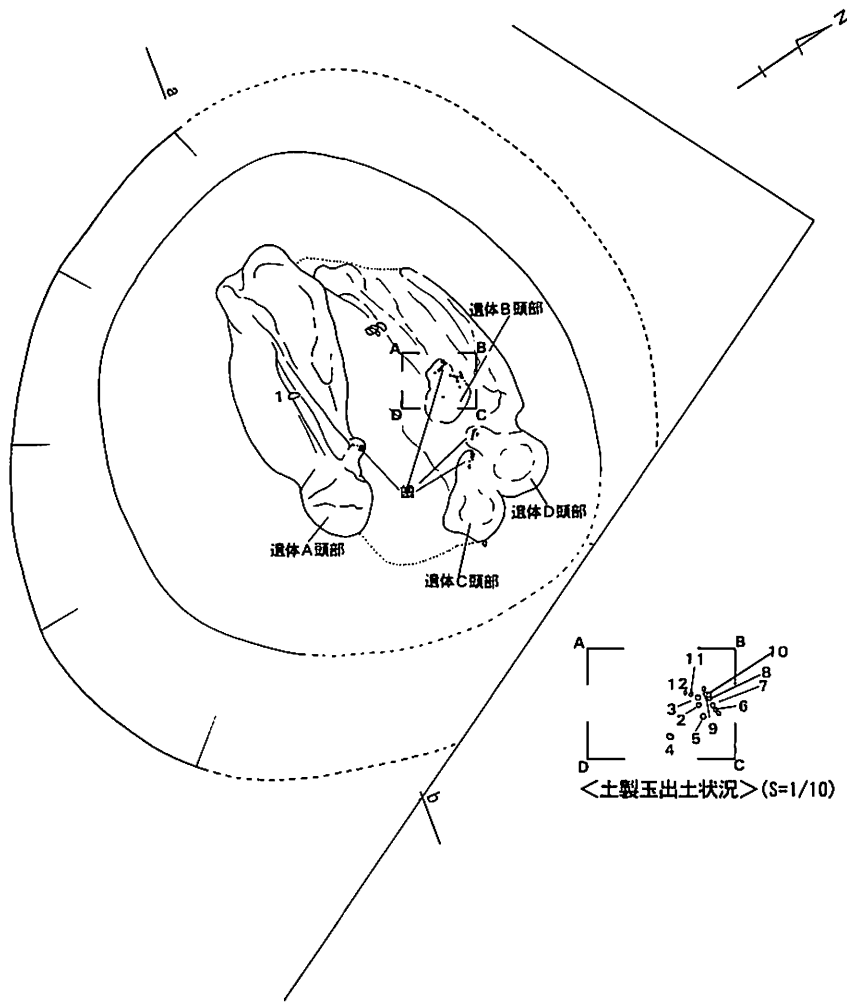


第109図 P-141・144 平面図

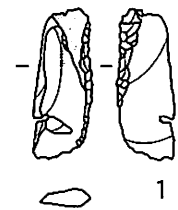
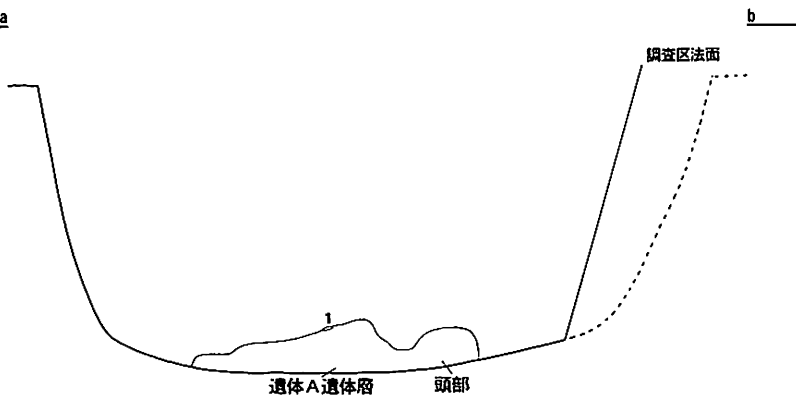


第110図 P-142 平面図と出土遺物

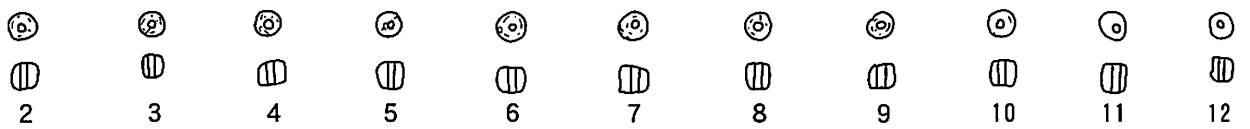
P-143



2.50m a



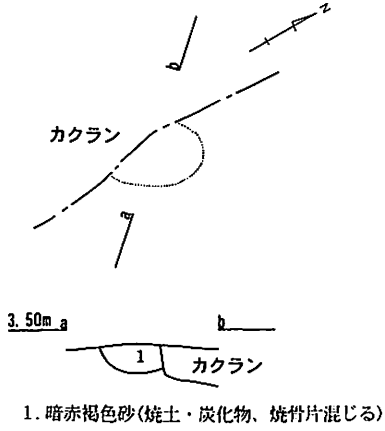
2~12 (1/2)



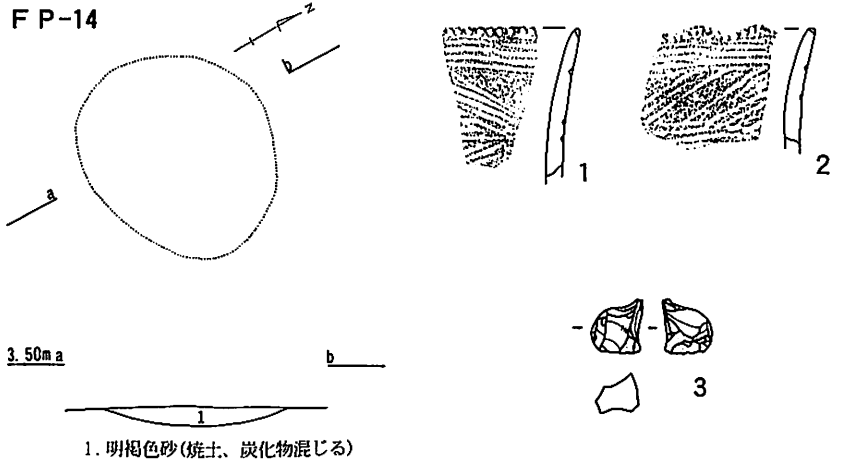
第111図 P-143 平面図と出土遺物



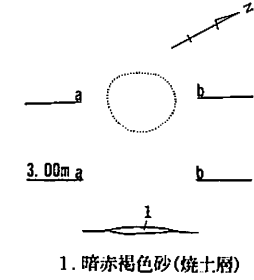
FP-12



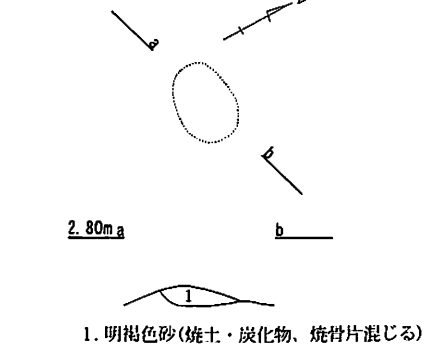
FP-14



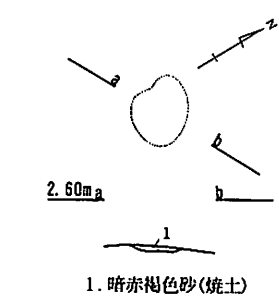
FP-15



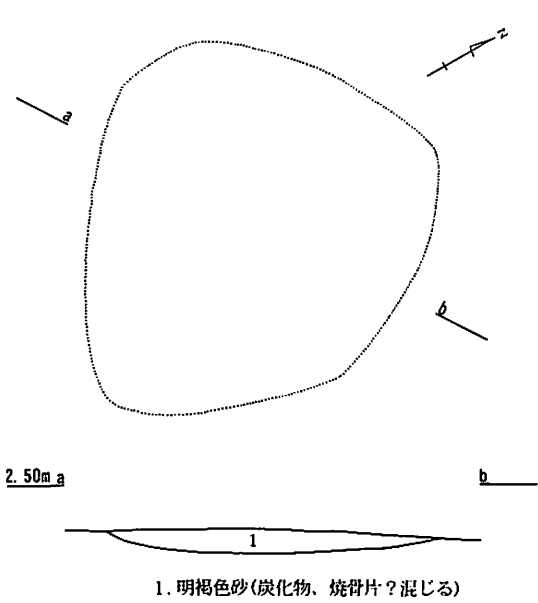
FP-16



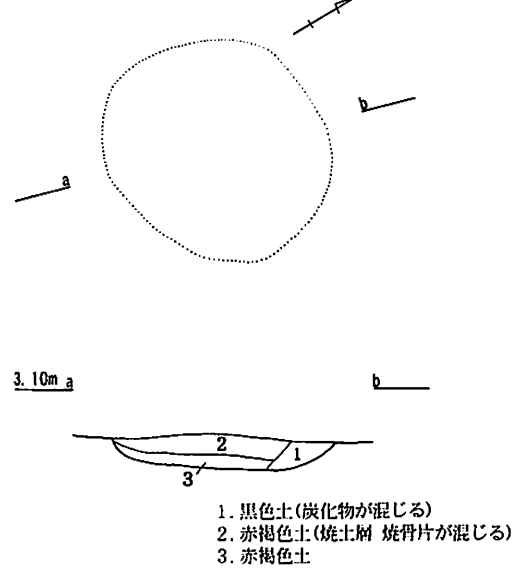
FP-17



FP-18

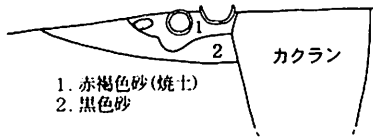
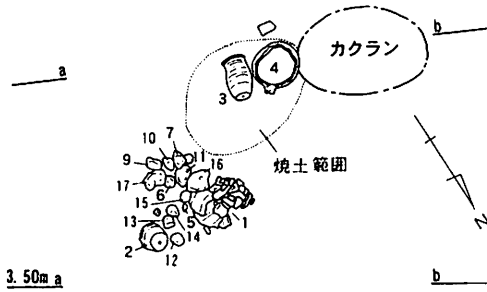


FP-19

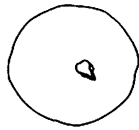
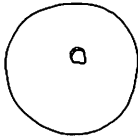
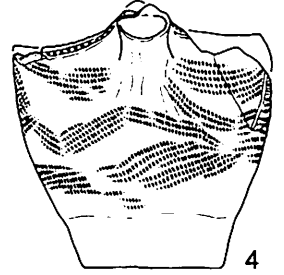
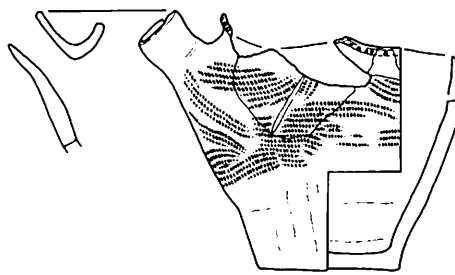
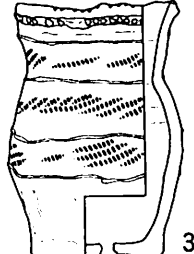
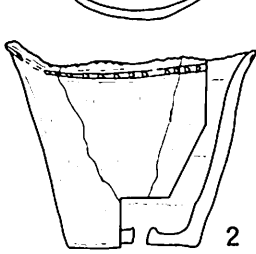
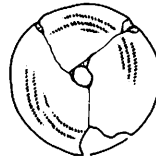
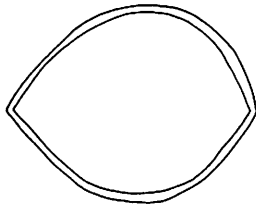
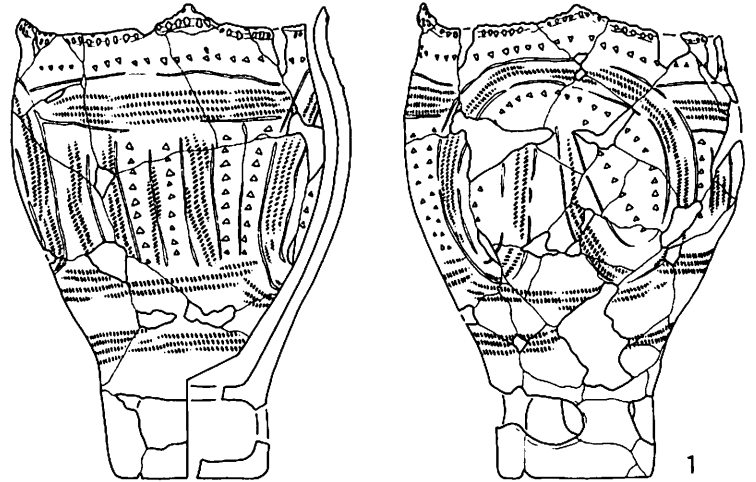


第112図 FP-12・14~19 平面図とFP-14 出土遺物

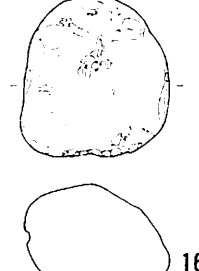
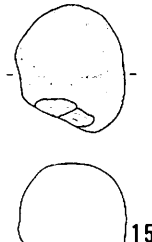
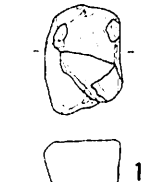
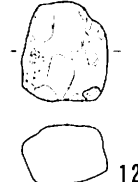
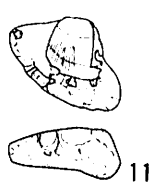
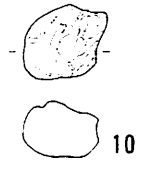
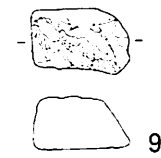
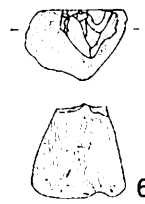
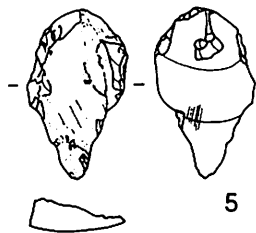
FP-13



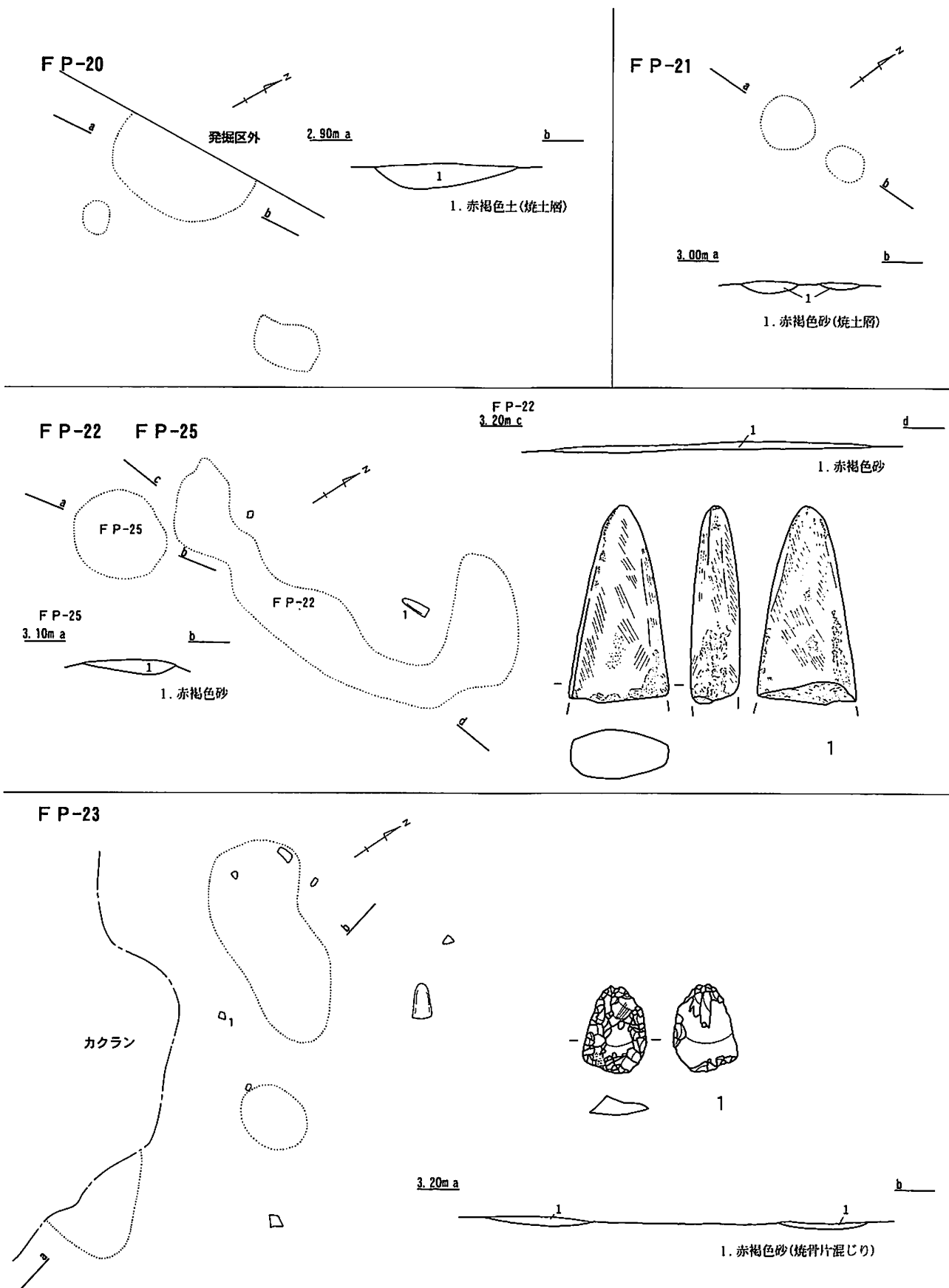
- 1. 赤褐色砂(焼土)
- 2. 黒色砂



6~17 (1/3)

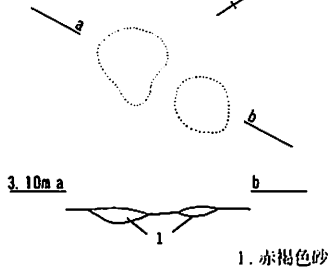


第113図 FP-13 平面図と出土遺物



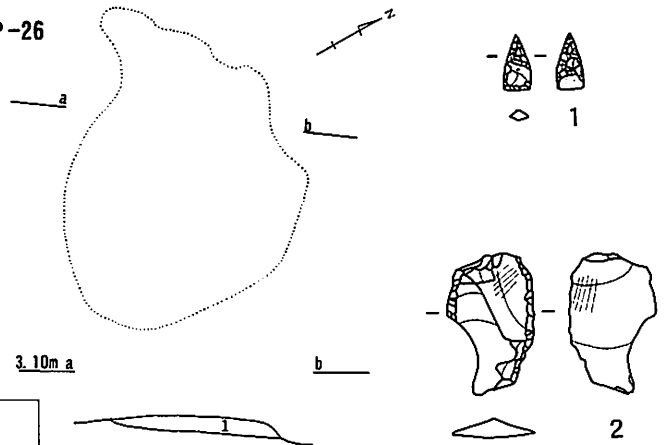
第114図 FP-20~23・25 平面図とFP-22・23 出土遺物

FP-24



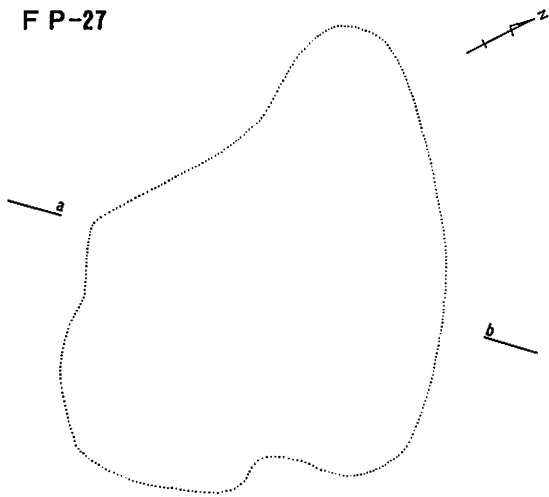
1. 赤褐色砂

FP-26

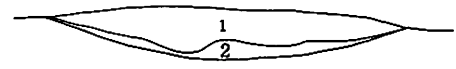


1. 赤褐色砂

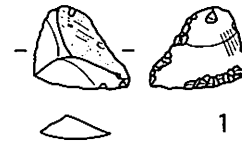
FP-27



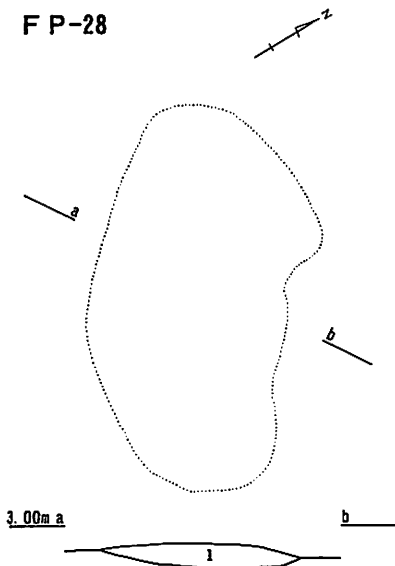
3.10m a



1. 赤褐色砂  
2. 暗赤褐色砂

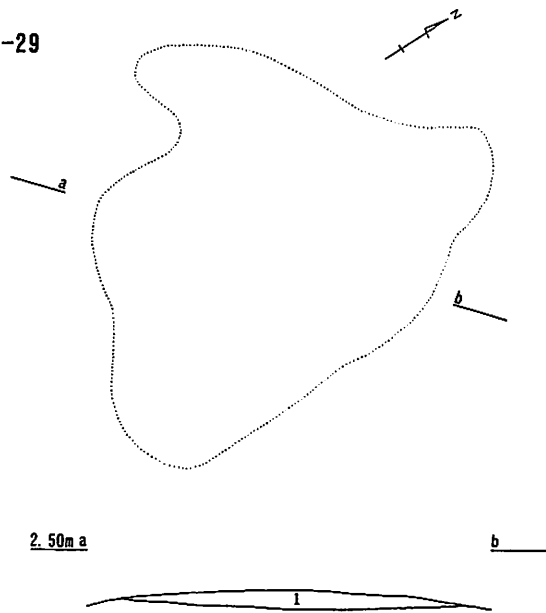


FP-28



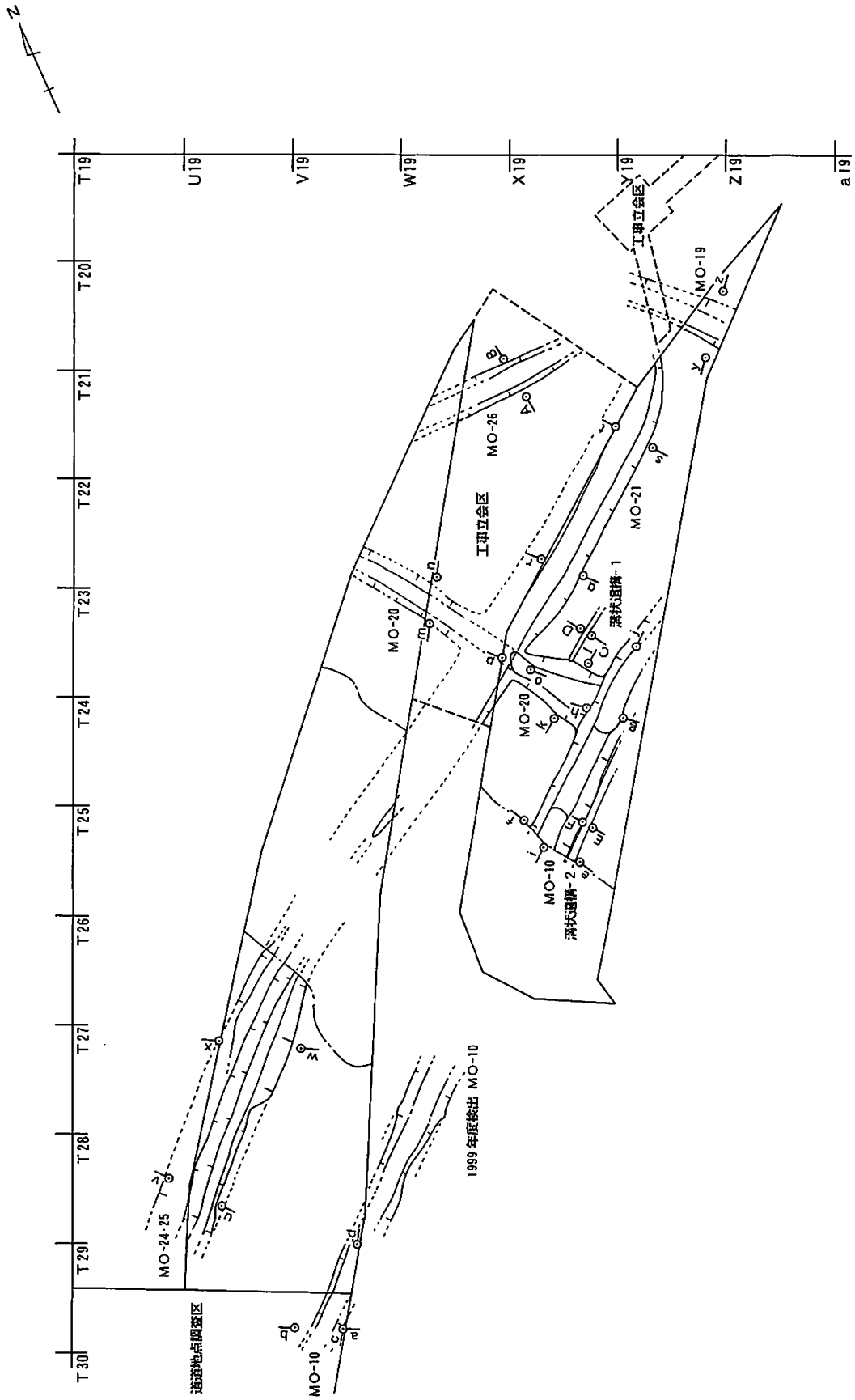
1. 赤褐色砂(焼骨片混じり)

FP-29

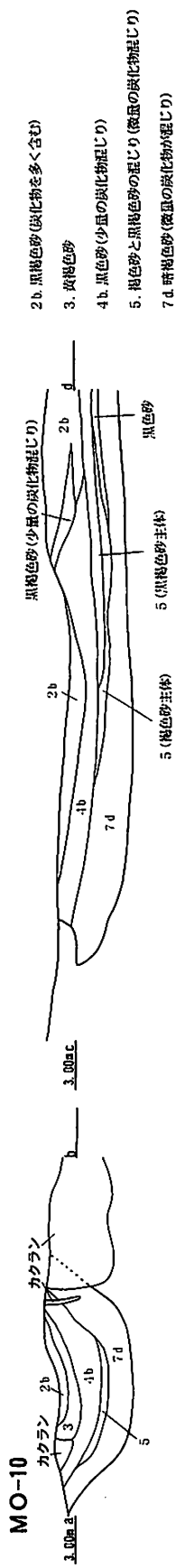


1. 橙色砂(少量の炭化物混じり)

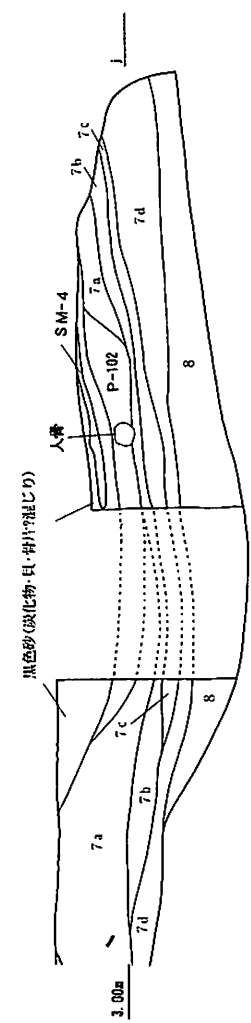
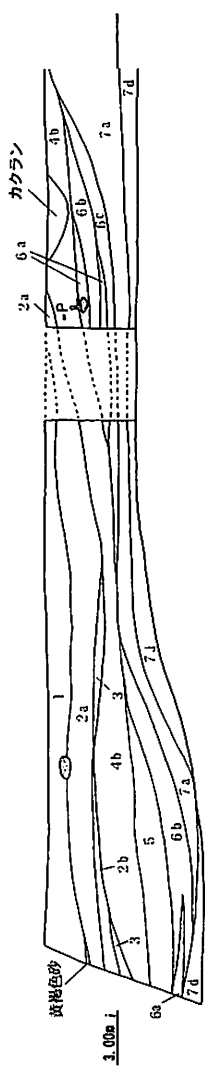
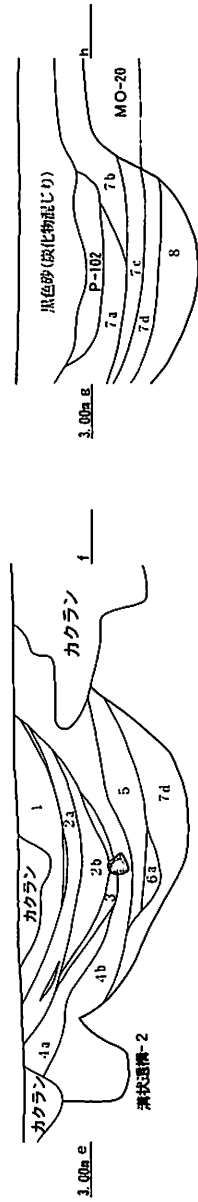
第115図 FP-24・26~29 平面図とFP-26・27 出土遺物



第116図 迂回路地点壕状遺構・溝状遺構分布図

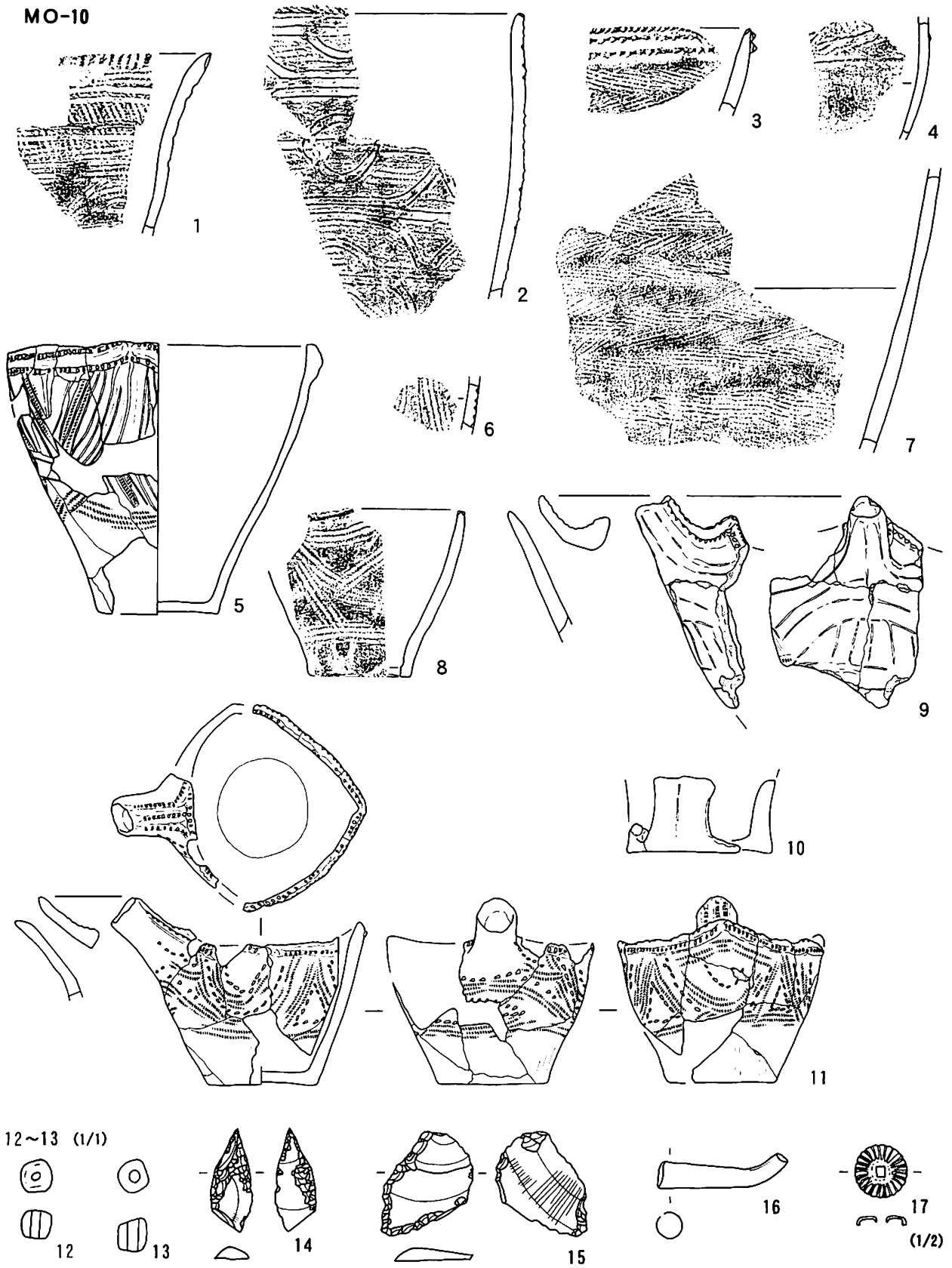


- 1. 暗褐色砂(炭化物混じり)
- 2a. 黒色砂(炭化物層 一部に黄褐色砂層が入る)
- 2b. 黒褐色砂(炭化物を多く含む)
- 3. 黄褐色砂
- 4a. 暗褐色砂(炭化物混じり)
- 4b. 暗褐色砂(炭化物混じり、4a層に比して暗い)
- 5. 暗褐色砂(やや粒子が粗い)
- 6a. 暗赤褐色砂(炭化物が多く含む)
- 6b. 黒褐色砂(微量の炭化物混じり)
- 6c. 褐色砂
- 7a. 黒褐色砂(少量の炭化物混じり、下面はよくしまる)
- 7b. 暗赤褐色砂
- 7c. 黒褐色砂(やや粒子が粗い)
- 7d. 暗褐色砂(微量の炭化物混じり、固くしまる)
- 8. 褐色砂(粗粒、炭化物混じり)

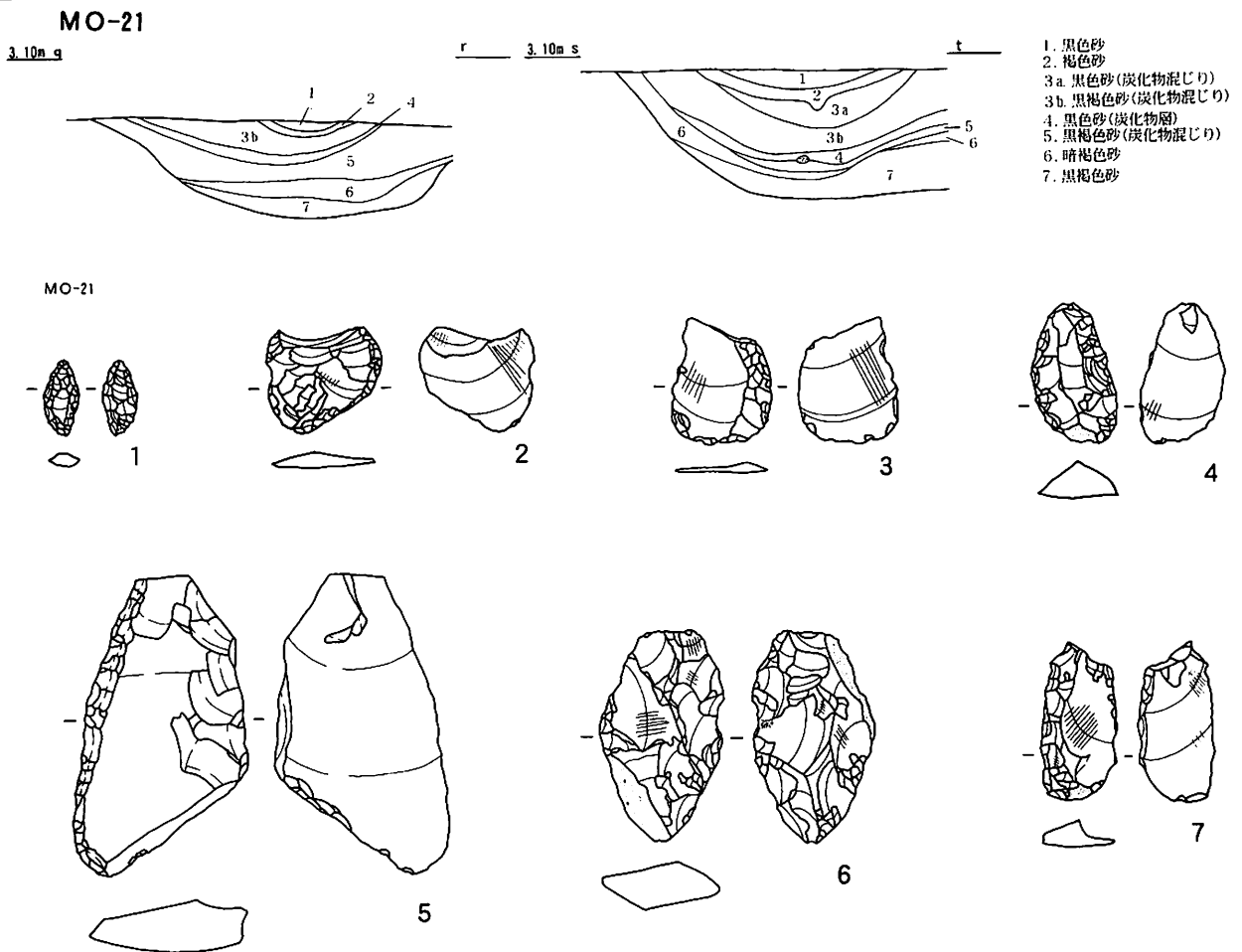
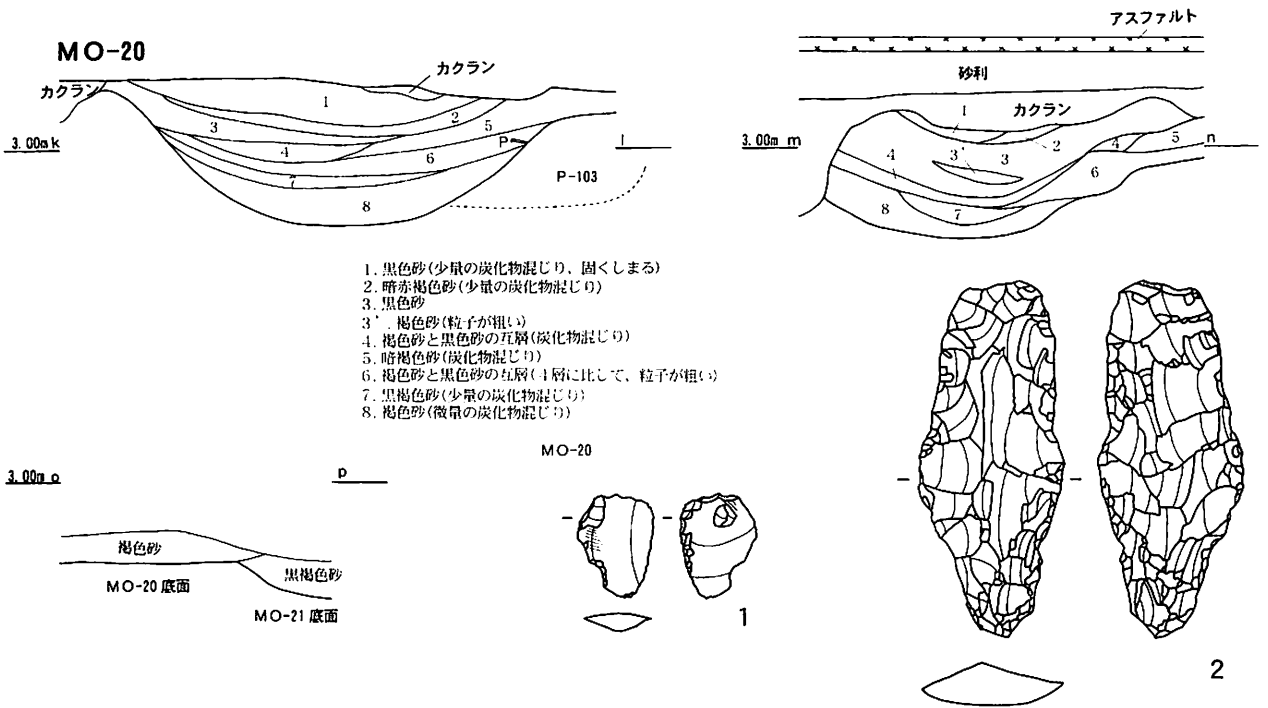


第117図 MO-10 断面図

MO-10



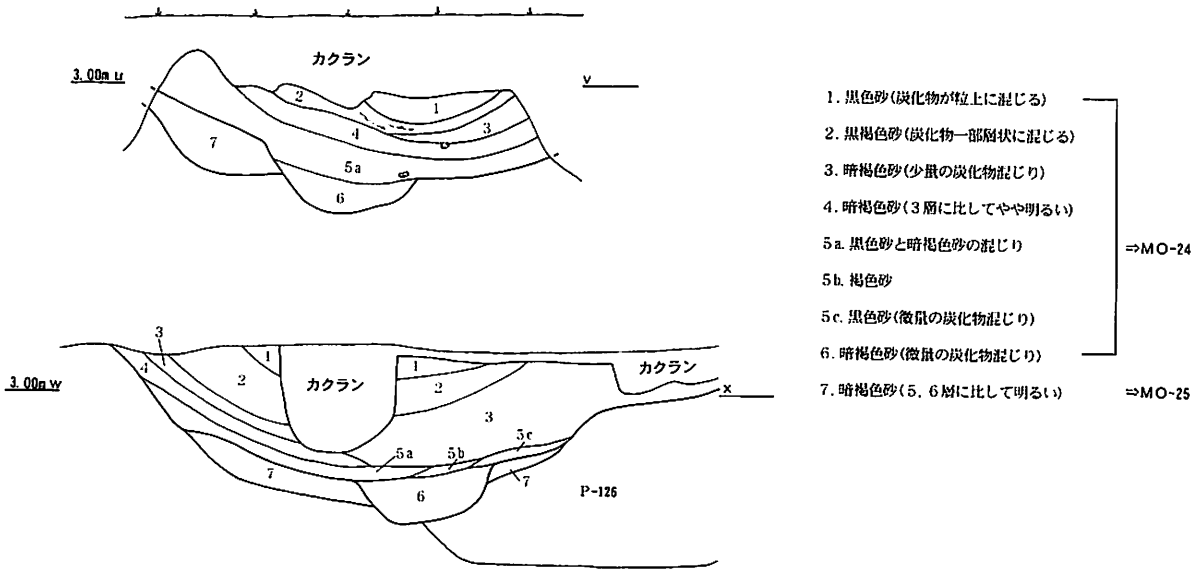
第118图 MO-10 出土遺物



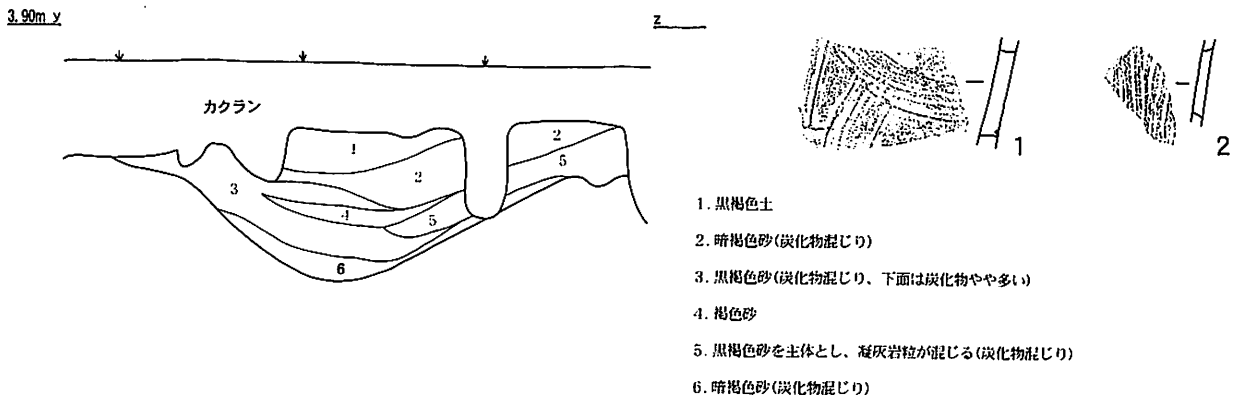
第119図 MO-20・21 断面図と出土遺物



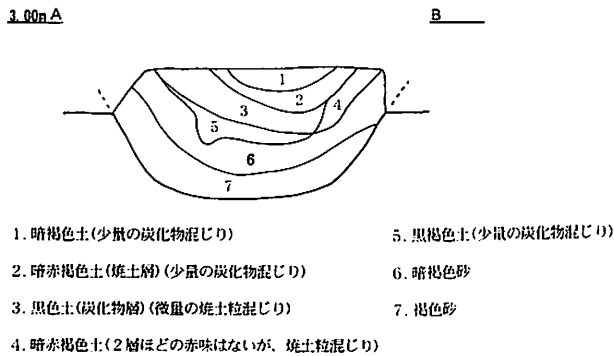
MO-24・25



MO-19



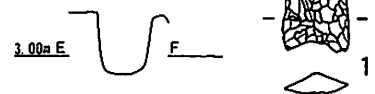
MO-26



溝状遺構-1



溝状遺構-2



第120図 MO-19・24~26・溝状遺構-1・2断面図と出土遺物

### 3. 遺構外出土の遺物

今年度迂回路地点における遺構外出土の遺物は、土器6,538点、土製品3点、石器・剥片類1,559点、石製品1点、ガラス玉2点、金属製品19点、陶磁器109点、合計8,231点を数える。調査区全体に攪乱がおよび、遺物量としてはさほど多くはない。続縄文時代後半の後北式期の土器を主体に、続縄文時代前半から近世・近代に亘る遺物が出土している。以下に若干の説明をするが、個々の遺物の計測値等については巻末の遺物一覧表を参照願いたい。

#### 土 器

##### ・第Ⅲ群b類 (第121図-2~9)

続縄文時代の恵山式に類するもので、器種は多様であるが深鉢形を呈するものが多い。原体RLの斜行或いは縦走縄文が地文となり、平行沈線を多用し、変形工字文や列点文等が組み合わされる。渦巻文が施されるものも見られ、口縁部内面にも施文される。底部を欠くものが多いが、概ね上げ底となっている。

##### ・第Ⅲ群c類 (第123図-29~32)

本州の影響を受けた弥生系の土器群である。斜行或いは縦走する撚糸文が施され、交互刺突文が見られるものもある。

##### ・第Ⅲ群d類 (第123図-33)

北方の鈴谷式に類するもので、2条の縄線文の下に押圧縄文が施される口縁部直下の破片である。

##### ・第Ⅲ群e類 (第123図-28)

続縄文時代後北式に先行する東歌別式に類するもので、外面横方向に穿孔を施し外耳を作出している口縁部破片である。

##### ・第Ⅲ群f類 (第121図-1, 第122図-10~19, 第123図-20~27)

続縄文時代後半の後北式に類するもので、その大半はC<sub>2</sub>-D式に属すると思われる。例外としてNo.1はA式に相当すると思われ、帯縄文や沈線文、三角列点文等の文様が施されている。C<sub>2</sub>-D式は注口を有するものが多く、底面に帯縄文が施される皿形を呈するものや器面に赤色顔料の見られるものもある。注口部の長さや形は多様で、特にNo.18は筒型を成さず上部の開いた半裁竹管状を呈しており、基部に一对の瘤が付され各々横方向に穿孔を施す。裏返すと爬虫類の顔の様にも見える。全体に微隆起線を主体に原体RLの縦走縄文や横走縄線文、三角列点文等の文様が施されているものが多いが、帯縄文を縦横に巡らし、胴部下半にヘラ撫でが見られるものもある。底部を欠くものも多いが、概ね平底となっている。

##### ・第Ⅲ群g類 (第123図-34~37)

続縄文時代末の北大式に類するもので、口縁部のみの出土であるが、沈線文や刷毛目が見られ、突瘤文が施される。

・第Ⅳ群 a 類 (第124図-38~41)

擦文式土器に類するもので、口縁部がアサガオ状に開き、頸部に鋸歯状沈線や横走沈線が施され、刻みが巡るものもある。外面は縦方向に刷毛目、横方向にヘラ撫でが見られる。頸部に補修孔の見られるものもある。

・第Ⅴ群 b 類 (第124図-44~47)

石川県所産の珠洲焼に類するもので、櫛状工具により内面に卸目が付けられる擂鉢の破片である。底面には糸切り痕が見られ、口縁部は肥厚する。

土製品 (第124図-42・43・48)

No.42・43は紡錘車で、中央に穿孔が施され沈線文や刺突文により装飾されるもので擦文時代のものと思われる。No.48は土錘で、近世以降のものと思われる。

石 器

・石鏃 (第125図-50)

頁岩製でやや太めの茎部を有し、縁辺部に細かな剥離を施す。

・ラウンドスクレイパー (第125図-51~54)

いずれも黒曜石製で円形を呈し、片面の縁辺部に細かな剥離を施し、原石面を残すものも見られ、続縄文時代後半に特徴的に見られるものである。

・スクレイパー (第125図-55~70)

大半が黒曜石製であるが、頁岩や石英質のものも見られる。不定形の剥片の縁辺部に細かな剥離を施し、刃部を作出しており、厚みがあり、片面調整のものが多い。

・砥石 (第125図-71)

扁平な砂岩製で、両面を研磨面として使用した痕跡が見られる。

石製品 (第125図-72)

粘板岩製で、原石面を残す薄い剥片に穿孔を施しているが、欠損したものと思われる。

ガラス玉 (第125図-73)

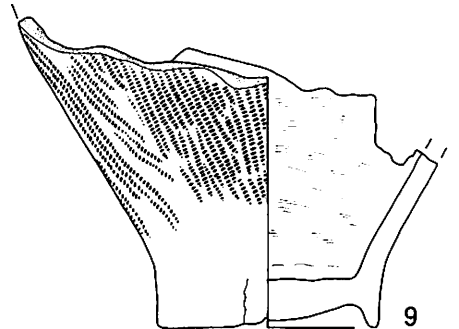
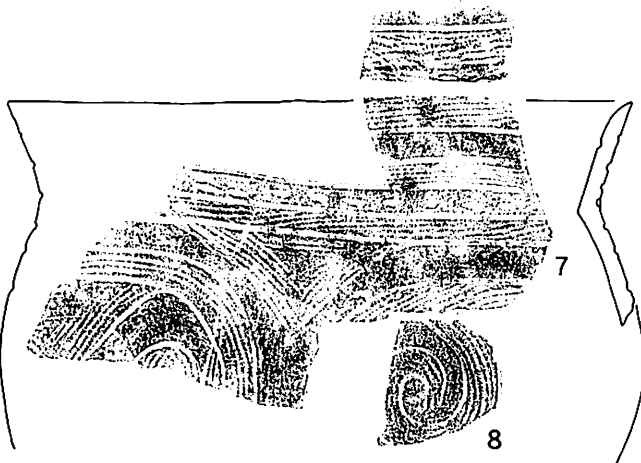
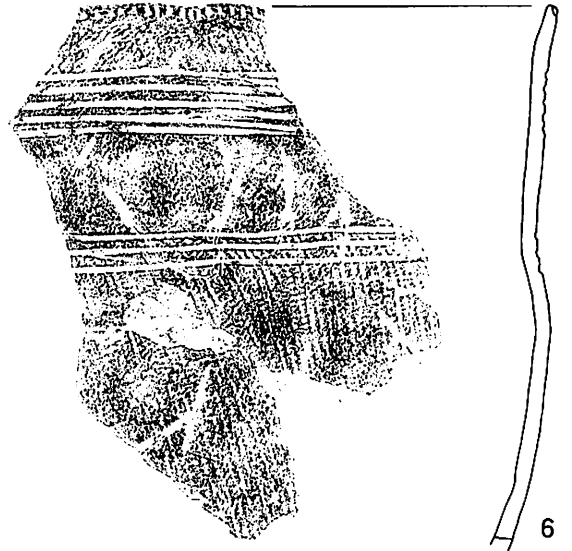
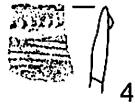
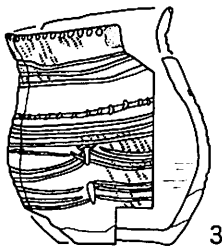
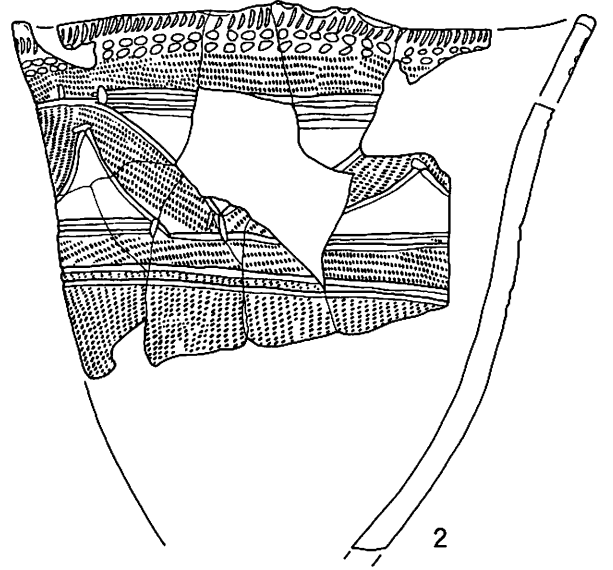
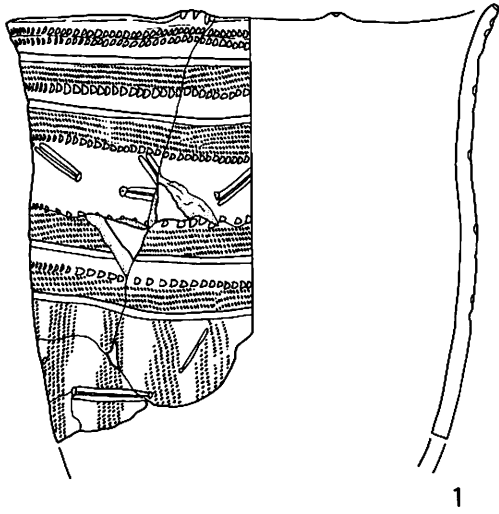
小型で薄い水色を呈しており、続縄文時代後半の墓坑に見られるものに類似する。

金属製品 (第125図-74)

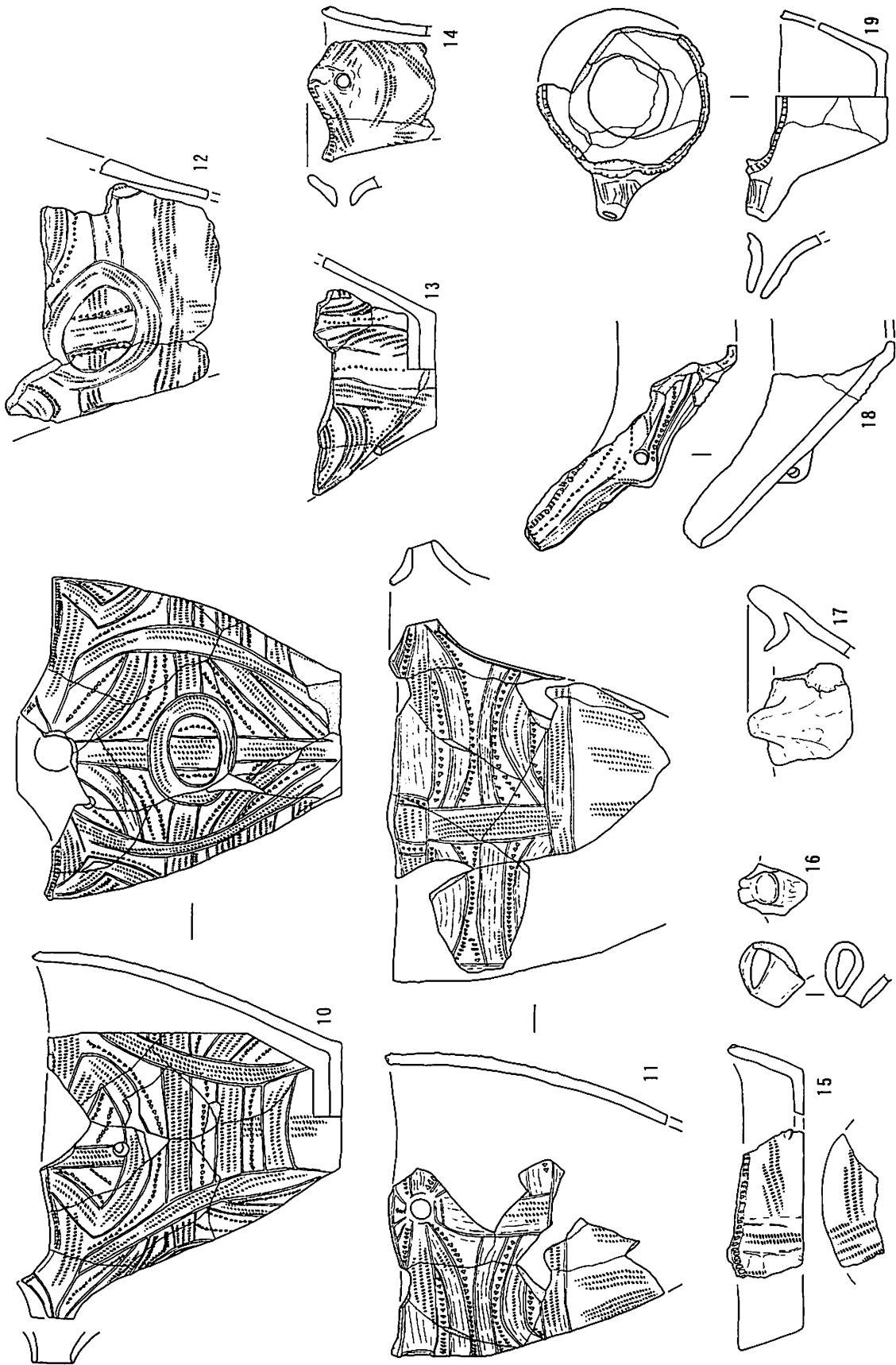
銅製煙管 (キセル) の雁首で火皿は変形、首部は短く、胴部に細かな網目状の文様が施される。

陶磁器 (第124図-49)

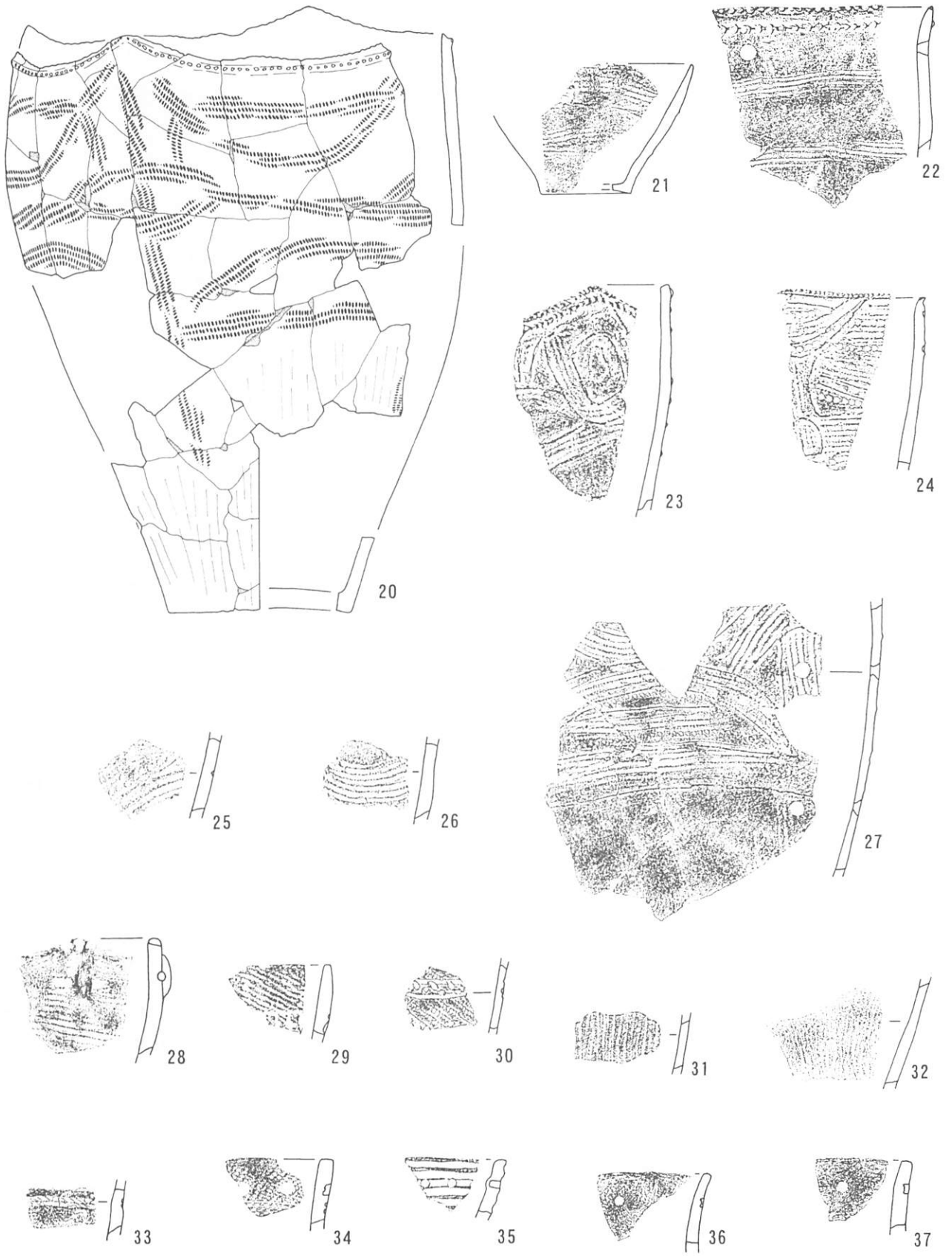
近世肥前産の染付皿で、見込には五弁花文、内側面には植物を意匠とする文様、外側面には唐草文が描かれる。



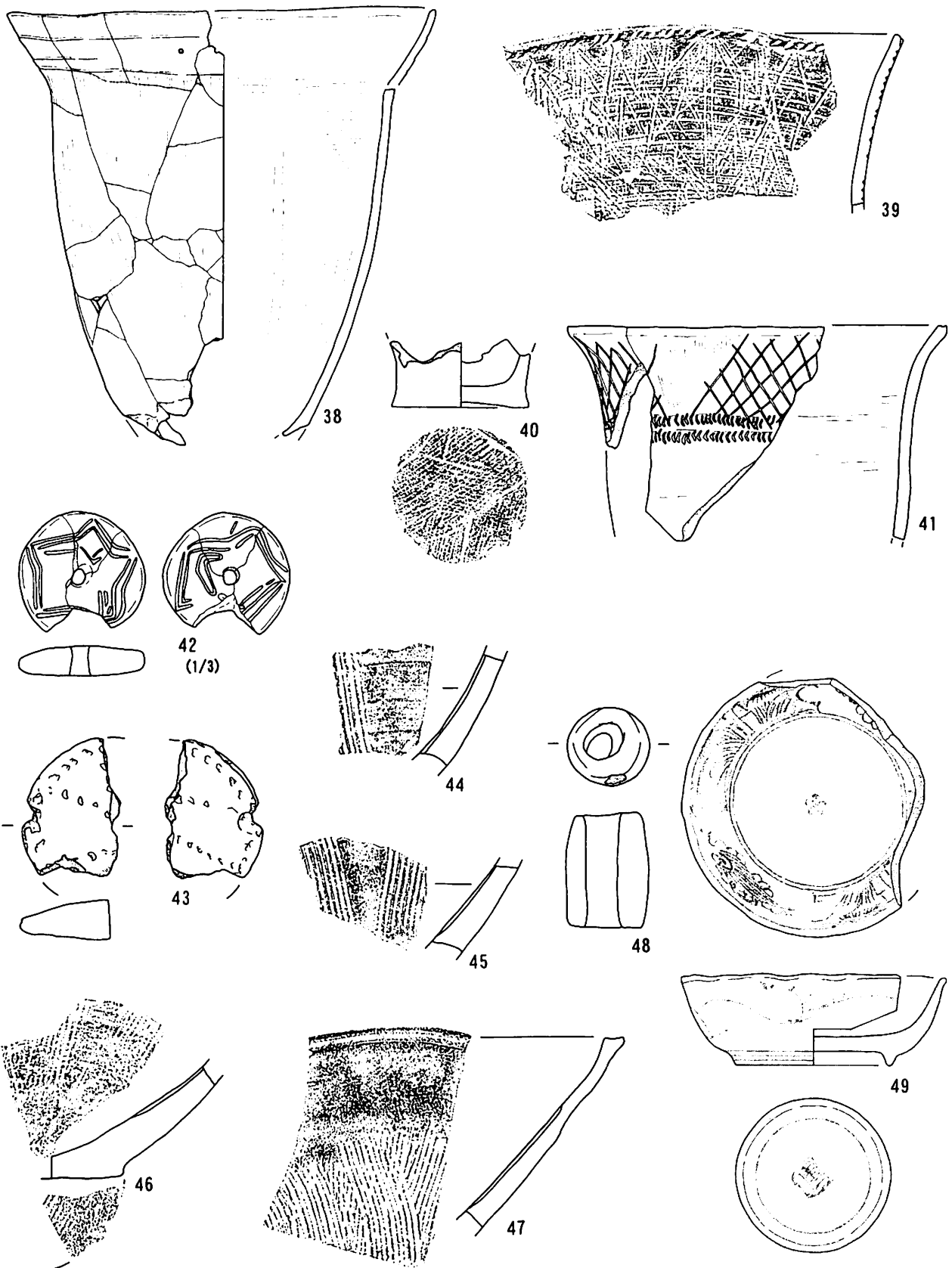
第121図 遺構外出土の遺物（1）



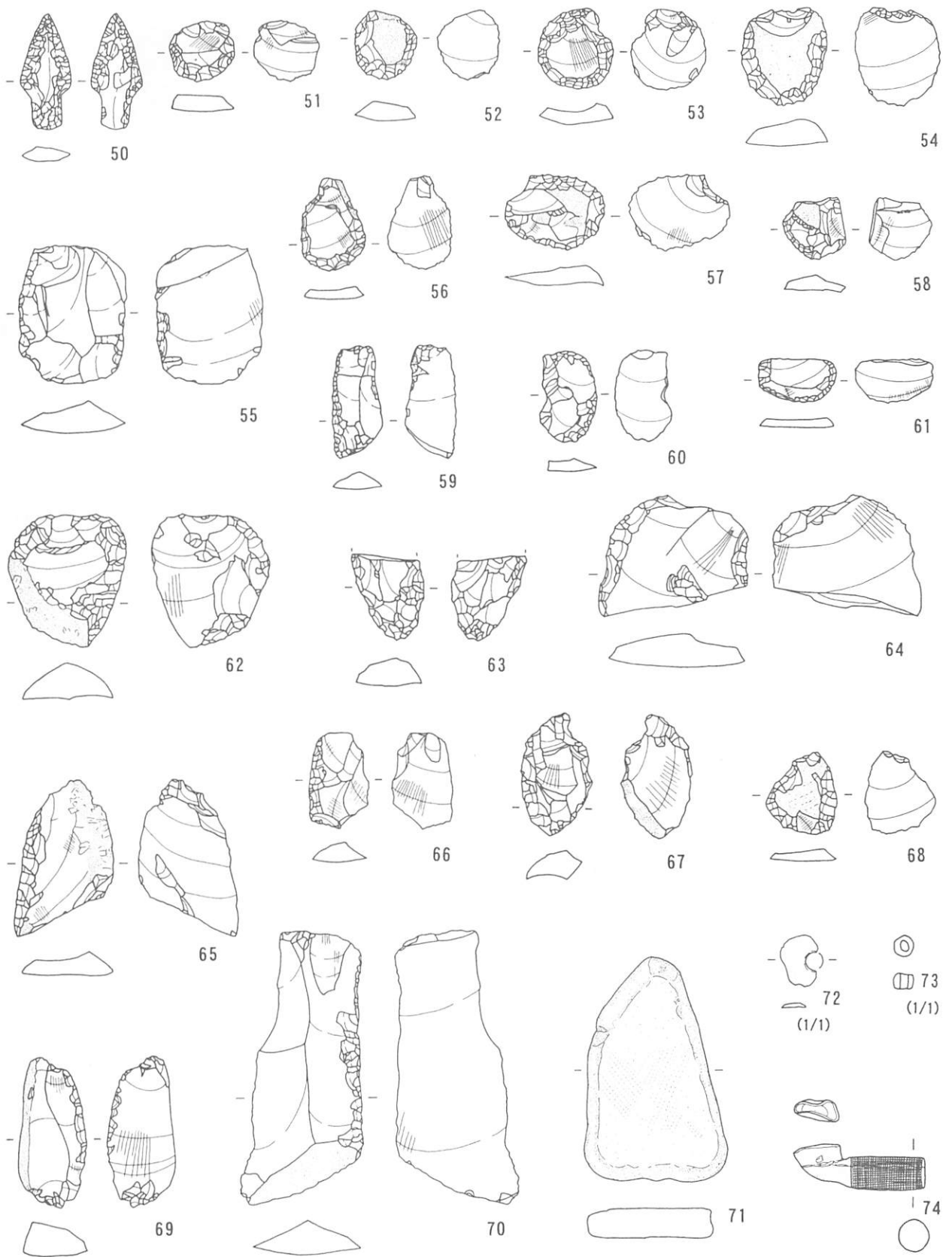
第122図 遺構外出土の遺物(2)



第123図 遺構外出土の遺物（3）



第124図 遺構外出土の遺物（4）



第125図 遺構外出土の遺物 (5)



遺物一覧表 (遺構)

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考	
					口径長さ (cm)	底径 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)			
76-1	P-97	43	遺体層	ガラス玉	口径 0.7	底径 0.4	胴径 0.7	器高 0.4 g	ガラス	藍色	
2	P-97	44	遺体層	ガラス玉	口径 0.8	底径 0.2	胴径 0.6	器高 0.4 g	ガラス	藍色	
3	P-97	45	遺体層	ガラス玉	口径 0.7	底径 0.2	胴径 0.5	器高 0.3 g	ガラス	藍色	
4	P-97	51	遺体層	ガラス玉	口径 0.7	底径 0.2	胴径 0.8	器高 0.5 g	ガラス	藍色	
5	P-97	57	遺体層	ガラス玉	口径 0.6	底径 0.15	胴径 0.6	器高 0.4 g	ガラス	藍色	
6	P-97	58	遺体層	ガラス玉	口径 0.7	底径 0.2	胴径 0.5	器高 0.4 g	ガラス	藍色	
7	P-97	59	遺体層	ガラス玉	口径 0.7	底径 0.2	胴径 0.7	器高 0.5 g	ガラス	藍色	
8	P-97	1	遺体層	土玉	口径 0.9	底径 0.2	胴径 0.9	器高 0.3 g	草炭or泥炭		
9	P-97	2	遺体層	土玉	口径 0.9	底径 0.25	胴径 0.9	器高 0.3 g	草炭or泥炭		
10	P-97	3	遺体層	土玉	口径 0.65	底径 0.2	胴径 0.8	器高 0.1 g	草炭or泥炭		
11	P-97	7	遺体層	土玉	口径 0.8	底径 0.25	胴径 0.9	器高 0.1 g	草炭or泥炭		
12	P-97	10	遺体層	土玉	口径 0.8	底径 0.3	胴径 0.75	器高 0.1 g	草炭or泥炭		
13	P-97	9	遺体層	土玉	口径 0.75	底径 0.25	胴径 0.65	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
14	P-97	12	遺体層	土玉	口径 0.85	底径 0.3	胴径 0.9	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
15	P-97	13	遺体層	土玉	口径 0.9	底径 0.3	胴径 0.8	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
16	P-97	50	遺体層	土玉	口径 0.7	底径 0.2	胴径 0.8	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
17	P-97	63	遺体層	土玉	口径 0.8	底径 0.2	胴径 0.8	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
18	P-97	64	遺体層	土玉	口径 0.7	底径 0.2	胴径 0.8	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
19	P-97	65	遺体層	土玉	口径 0.7	底径 0.2	胴径 0.8	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
20	P-97	66	遺体層	土玉	口径 0.6	底径 0.1	胴径 0.8	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
21	P-97	67	遺体層	土玉	口径 0.8	底径 0.2	胴径 0.7	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
22	P-97	68	遺体層	土玉	口径 0.8	底径 0.2	胴径 0.6	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
23	P-97	70	遺体層	土玉	口径 0.8	底径 0.25	胴径 0.7	器高 0.2 g	草炭or泥炭		
24	P-97	94	遺体層	土玉	口径 0.7	底径 0.15	胴径 0.8	器高 0.1 g	草炭or泥炭		
25	P-97	95	遺体層	土玉	口径 0.65	底径 0.2	胴径 0.7	器高 0.1 g	草炭or泥炭		
26	P-97	6	遺体層	石製玉	口径 0.9	底径 0.3	胴径 0.5	器高 0.4 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
27	P-97	4	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.15	胴径 0.3	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
28	P-97	5	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.1	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
29	P-97	8	遺体層	石製玉	口径 0.4	底径 0.1	胴径 0.25	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
30	P-97	11	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.2	胴径 0.3	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
31	P-97	14	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.15	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
32	P-97	15	遺体層	石製玉	口径 0.45	底径 0.1	胴径 0.3	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
33	P-97	16	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.2	胴径 0.3	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
34	P-97	17	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.15	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
35	P-97	18	遺体層	石製玉	口径 0.45	底径 0.1	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
36	P-97	19	遺体層	石製玉	口径 0.45	底径 0.15	胴径 0.3	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
37	P-97	20	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.2	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
38	P-97	21	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.15	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
39	P-97	22	遺体層	石製玉	口径 0.45	底径 0.2	胴径 0.3	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
40	P-97	23	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.2	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
41	P-97	24	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.2	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
42	P-97	25	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.15	胴径 0.2	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
43	P-97	26	遺体層	石製玉	口径 0.5	底径 0.2	胴径 0.3	器高 0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考	
					口径長さ (cm)	底径 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)			
76-44	P-97	27	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
45	P-97	28	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.3	0.2 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
46	P-97	29	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
47	P-97	30	遺体層	石製玉	径 0.6	口径 0.2	0.3	0.2 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
48	P-97	31	遺体層	石製玉	径 0.45	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
49	P-97	32	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
50	P-97	33	遺体層	石製玉	径 0.4	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
51	P-97	34	遺体層	石製玉	径 0.4	口径 0.2	0.4	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
52	P-97	35	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
53	P-97	36	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
54	P-97	37	遺体層	石製玉	径 0.45	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
55	P-97	38	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
56	P-97	39	遺体層	石製玉	径 0.4	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
57	P-97	40	遺体層	石製玉	径 0.45	口径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
58	P-97	41	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.4	0.2 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
59	P-97	42	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.1	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
60	P-97	47	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
61	P-97	48	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
62	P-97	49	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
63	P-97	52	遺体層	石製玉	径 0.45	口径 0.15	0.15	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系
64	P-97	53	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
65	P-97	54	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.2	0.2 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
66	P-97	55	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
67	P-97	56	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
68	P-97	60	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
69	P-97	61	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
70	P-97	62	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
71	P-97	69	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.1	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
72	P-97	71	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.1	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
73	P-97	72	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.1	0.5	0.2 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
74	P-97	73	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
75	P-97	74	遺体層	石製玉	径 0.4	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
76	P-97	75	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
77	P-97	76	遺体層	石製玉	径 0.45	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
78	P-97	77	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
79	P-97	78	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
80	P-97	79	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
81	P-97	80	遺体層	石製玉	径 0.5	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
82	P-97	81	遺体層	石製玉	径 0.45	口径 0.2	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
83	P-97	82	遺体層	石製玉	径 0.4	口径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
84	P-97	83	遺体層	石製玉	径 0.4	口径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
85	P-97	84	遺体層	石製玉	径 0.45	口径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
86	P-97	85	遺体層	石製玉	径 0.4	口径 0.2	0.15	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
76-87	P-97	86	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.2	0.15	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
88	P-97	87	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
89	P-97	88	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.15	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
90	P-97	89	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.2	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
91	P-97	90	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
92	P-97	91	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.2	0.3	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
93	P-97	92	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
94	P-97	93	遺体層	石製玉	径 0.55	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
95	P-97	98	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
96	P-97	99	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
97	P-97	100	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
98	P-97	101	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.1	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
99	P-97	102	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.2	0.2	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
100	P-97	103	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.2	0.2	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
101	P-97	104	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
102	P-97	105	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
103	P-97	106	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
104	P-97	107	遺体層	石製玉	径 0.6	孔径 0.15	0.4	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
105	P-97	108	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
106	P-97	109	遺体層	石製玉	径 0.6	孔径 0.2	0.3	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
107	P-97	110	遺体層	石製玉	径 0.6	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
108	P-97	111	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
109	P-97	112	遺体層	石製玉	径 0.6	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
110	P-97	113	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
111	P-97	114	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
112	P-97	115	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
113	P-97	116	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
114	P-97		遺体層	石製玉	径 0.55	孔径 0.2	0.3	0.1	凝灰岩	平玉 遺体A 頭部より出土 安山岩系
115	P-97		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.35	0.1 g	凝灰岩	平玉 遺体A 頭部より出土 安山岩系
116	P-97		遺体層	石製玉	径 0.55	孔径 0.2	0.35	0.1 g	凝灰岩	平玉 遺体A 頭部より出土 安山岩系
117	P-97		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 遺体B 頭部より出土 安山岩系
118	P-97		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.4	0.1 g	凝灰岩	平玉 遺体B 頭部より出土 安山岩系
119	P-97		覆土	Ⅲ f						口縁部 拓本
120	P-97		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
121	P-97		覆土	フレイク	2.0	1.8	0.4	1.1 g	黒曜石	
122	P-97		覆土	フレイク	3.15	2.8	1.0	3.1 g	黒曜石	
123	P-97		覆土	フレイク	5.8	1.1	0.6	3.5 g	黒曜石	
77-1	P-98	1	坑底	Ⅲ f	15.8	7.8	18.2	30.0		外面ベンガラ付着
2	P-98		覆土	Ⅲ b						胴部 拓本
3	P-98	2	遺体層	ガラス玉	径 0.5	孔径 0.15	0.55	0.2 g	ガラス	藍色
4	P-98	3	遺体層	ガラス玉	径 0.55	孔径 0.15	0.5	0.2 g	ガラス	藍色
5	P-98	4	遺体層	ガラス玉	径 0.5	孔径 0.2	0.55	0.2 g	ガラス	藍色
6	P-98	6	遺体層	ガラス玉	径 (0.35)	孔径 (0.15)	0.3	(0.1) g 以下	ガラス	水色

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径 (cm)	胴径 (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
77-7	P-98	7	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.15	0.1 g 以下	ガラス	水色
8	P-98		遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.15	0.3	0.1 g	ガラス	藍色
9	P-98		遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.2	0.5	0.1 g	ガラス	水色
10	P-98	12	遺体層	ガラス玉	径 0.55	孔径 0.15	0.45	0.2 g	ガラス	藍色 骨片範囲より出土
11	P-98		遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.2	0.55	0.2 g	ガラス	藍色
78-1	P-99		覆土	Ⅲ f						口縁部 拓本
2	P-99		覆土	Ⅲ f						口縁部 拓本
3	P-99		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
4	P-99		覆土	フレイク	2.4	1.8	0.3	1.1 g	黒曜石	
5	P-99		覆土	フレイク	1.7	1.9	0.55	1.6 g	黒曜石	
6	P-99		覆土	フレイク	2.05	3.1	1.2	3.1 g	黒曜石	
79-1	P-100A	6	遺体層	土玉	径 (0.5)	孔径 0.1	0.5	(0.1) g 以下	草炭or泥炭	
2	P-100A	1	遺体層	土玉	径 0.6	孔径 0.1	0.5	0.1 g 以下	草炭or泥炭	
79-1	P-100B	1	遺体層	管玉	2.8	0.9	孔径 0.3	3.6 g	碧玉	
2	P-100B		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
3	P-100B		覆土	Ⅲ f						口縁部 拓本
4	P-100B		覆土	フレイク	2.8	2.6	0.75	3.8 g	黒曜石	
80-1	P-101	2	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.9	0.2 g	草炭or泥炭	
2	P-101	1	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	(0.5)	(0.1) g	草炭or泥炭	
3	P-101		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
4	P-101		覆土	フレイク	2.5	4.5	0.8	6.8 g	黒曜石	
81-1	P-102	2	遺体層	太刀	63.4	5.0	1.7			切羽 径 4.8 厚さ 0.2 鏝 径 8.0 厚さ 0.5
2	P-102	11	遺体層	刀子	15.7	2.3	0.6			
3	P-102	5	坑底	骨角器	(1.9)	0.5	(0.2)	(0.1) g		
4	P-102	5	坑底	骨角器	(2.0)	0.8	0.6	(0.3) g		
5	P-102	5	坑底	骨角器	(2.5)	0.6	(0.2)	(0.1) g		
6	P-102	5	坑底	骨角器	(3.3)	0.6	0.5	(0.5) g		
7	P-102	5	坑底	骨角器	(3.9)	0.8	0.8	(0.8) g		
8	P-102	5	坑底	骨角器	(5.2)	0.7	0.5	(0.7) g		
9	P-102	6	坑底	磔	8.0	6.0	4.3	63.5 g	軽石	
82-1	P-103	4	坑底	Ⅲ c	10.3	7.0	16.7	24.3		外面ベンガラ付着
2	P-103	19	遺体層	Ⅲ f						口縁部 拓本
3	P-103	1	遺体層	Ⅲ f						胴部 拓本
4	P-103		覆土	Ⅲ f						口縁部 拓本
5	P-103		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
6	P-103	10	遺体層	石鏃	2.1	0.9	0.2	0.3 g	黒曜石	
7	P-103	16	遺体層	フレイク	3.0	2.9	0.5	3.1 g	黒曜石	
8	P-103	15	遺体層	フレイク	2.8	1.5	0.25	0.9 g	黒曜石	
9	P-103	43	遺体層	フレイク	2.35	2.6	0.6	2.1 g	黒曜石	
10	P-103	18	遺体層	フレイク	1.9	2.85	0.3	1.1 g	黒曜石	
11	P-103		覆土	フレイク	2.6	2.85	0.6	4.5 g	黒曜石	
12	P-103		覆土	磔	2.1	1.6	1.2	0.8 g	軽石	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
82-13	P-103		覆土	礫	3.3	1.25	1.3	2.6 g	軽石	
14	P-103	2	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.25	0.1 g	ガラス玉	水色
15	P-103	5	遺体層	ガラス玉	径 0.5	孔径 0.2	0.35	0.1 g	ガラス玉	水色
16	P-103	6	遺体層	ガラス玉	径 0.3	孔径 0.1	0.4	0.1g 以下	ガラス玉	水色
17	P-103	7	遺体層	ガラス玉	径 0.5	孔径 0.2	0.35	0.1 g	ガラス玉	水色
18	P-103	9	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.3	0.1g 以下	ガラス玉	水色
19	P-103	12	遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1g 以下	ガラス玉	水色
20	P-103	13	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.4	0.1 g	ガラス玉	水色
21	P-103	14	遺体層	ガラス玉	径 0.5	孔径 0.25	0.35	0.1 g	ガラス玉	藍色
22	P-103	20	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.4	0.1g 以下	ガラス玉	水色
23	P-103	21	遺体層	ガラス玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1g 以下	ガラス玉	水色
24	P-103	22	遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.1	0.3	0.1g 以下	ガラス玉	水色
25	P-103	23	遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1g 以下	ガラス玉	水色
26	P-103	24	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.2	0.1g 以下	ガラス玉	水色
27	P-103	26	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.2	0.25	0.1g 以下	ガラス玉	水色
28	P-103	27	遺体層	ガラス玉	径 0.25	孔径 0.1	0.25	0.1g 以下	ガラス玉	水色
29	P-103	28	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.2	0.25	0.1g 以下	ガラス玉	水色
30	P-103	29	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.25	0.1g 以下	ガラス玉	水色
31	P-103	30	遺体層	ガラス玉	径 0.35	孔径 0.15	0.3	0.1g 以下	ガラス玉	水色
32	P-103	31	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.25	0.1g 以下	ガラス玉	水色
33	P-103	32	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.35	0.1g 以下	ガラス玉	水色
34	P-103	33	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.1	0.3	0.1 g	ガラス玉	水色
35	P-103	35	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.35	0.1g 以下	ガラス玉	水色
36	P-103	36	遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.2	0.25	0.1g 以下	ガラス玉	水色
37	P-103	37	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.3	0.1g 以下	ガラス玉	水色
38	P-103	38	遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.15	0.35	0.1 g	ガラス玉	水色
39	P-103	40	遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.2	0.3	0.1 g	ガラス玉	藍色
40	P-103	41	遺体層	ガラス玉	径 0.45	孔径 0.15	0.4	0.1 g	ガラス玉	水色
41	P-103	42	遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.15	0.3	0.1g 以下	ガラス玉	水色
42	P-103	44	遺体層	ガラス玉	径 0.35	孔径 0.15	0.25	0.1g 以下	ガラス玉	水色
43	P-103	45	遺体層	ガラス玉	径 0.35	孔径 0.1	0.35	0.1g 以下	ガラス玉	水色
44	P-103		遺体層	ガラス玉	径 0.4	孔径 0.2	0.3	0.1g 以下	ガラス玉	水色 ベンガラ範囲より出土
83-1	P-104	2	遺体層	Ⅲ f	8.3	4.7		7.2		
2	P-104	2a	遺体層	Ⅲ f	長さ 7.1 短 6.2	3.9		8.5		外面ベンガラ付着
3	P-104	2b	遺体層	Ⅲ f	6.5	3.8		7.1		外面ベンガラ付着
4	P-104	1	遺体層	Ⅲ f	5.9	3.8		5.7		外面ベンガラ付着
84-1	P-105	1	坑底	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.5	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
2	P-105	2	坑底	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.7	0.3 g	凝灰岩	稜玉 安山岩系
3	P-105	2	坑底	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.4	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
4	P-105	2	坑底	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.5	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
5	P-105	2	坑底	石製玉	径 0.3	孔径 0.2	0.8	0.2 g	凝灰岩	稜玉 安山岩系
6	P-105	3	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.4	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
7	P-105	3	遺体層	石製玉	径 0.6	孔径 0.1	0.4	0.2 g	凝灰岩	平玉 安山岩系

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考	
					口径長さ (cm)	孔径 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)			
84-8	P-105	4	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.9	0.4 g	凝灰岩	棗玉	安山岩系
9	P-105	5	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.4	0.2 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
10	P-105	7	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.4	0.2 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
11	P-105		覆土	Ⅲ f						胴部	拓本
12	P-105		覆土	フレイク	4.7	3.3	1.6	18.0 g	黒曜石		
13	P-105		覆土	スクレイパー	2.45	2.0	0.7	2.6 g	黒曜石		
14	P-105		覆土	R・F	2.9	2.3	0.5	2.9 g	黒曜石		
15	P-105		覆土	フレイク	3.05	2.1	0.5	3.0 g	黒曜石		
16	P-105		覆土	R・F	2.9	2.8	0.35	2.6 g	黒曜石		
85-1	P-106	3	遺体層	土玉	径 0.7	孔径 0.2	(0.5)	(0.1) g	草炭or泥炭		
2	P-106	8	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.75	0.1 g	草炭or泥炭		
3	P-106	9	遺体層	土玉	径 0.7	孔径 0.2	0.75	0.1 g	草炭or泥炭		
4	P-106	28	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	(0.5)	(0.1) g	草炭or泥炭		
5	P-106	29	遺体層	土玉	径 0.75	孔径 0.3	(0.7)	(0.1) g 以下	草炭or泥炭		
6	P-106	30	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.8	0.2 g	草炭or泥炭		
7	P-106	31	遺体層	土玉	径 0.85	孔径 0.25	1.0	0.2 g	草炭or泥炭		
8	P-106	32	遺体層	土玉	径 0.9	孔径 0.3	0.8	0.2 g	草炭or泥炭		
9	P-106	6	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.25	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系
10	P-106	7	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
11	P-106	10 a	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
12	P-106	10 b	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
13	P-106	10 c	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.25	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系
14	P-106	11 a	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
15	P-106	11 b	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
16	P-106	12	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
17	P-106	13	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
18	P-106	14	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.2	0.2	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系
19	P-106	15	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
20	P-106	16	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
21	P-106	17	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系
22	P-106	18	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
23	P-106	19	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
24	P-106	20	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.2	0.15	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系
25	P-106	21	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
26	P-106	22	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系
27	P-106	23 a	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
28	P-106	24	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
29	P-106	25	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
30	P-106	26	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
31	P-106	27 <sup>①</sup>	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.15	0.1 g 以下	凝灰岩	平玉	安山岩系
32	P-106	27 <sup>②</sup>	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
33	P-106	27 <sup>③</sup>	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系
34	P-106	27 <sup>④</sup>	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉	安山岩系

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
85-35	P-106	27 <sup>(5)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
36	P-106	27 <sup>(6)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
37	P-106	27 <sup>(7)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
38	P-106	27 <sup>(8)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
39	P-106	27 <sup>(9)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
40	P-106	27 <sup>(10)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
41	P-106	27 <sup>(11)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
42	P-106	27 <sup>(12)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
43	P-106	27 <sup>(13)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
44	P-106	27 <sup>(14)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
45	P-106	27 <sup>(15)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.25	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
46	P-106	27 <sup>(16)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
47	P-106	27 <sup>(17)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.25	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
48	P-106	27 <sup>(18)</sup>	遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.25	0.2	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
49	P-106		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.2	0.3	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
50	P-106		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
51	P-106		遺体層	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.25	0.1 g	凝灰岩	平玉 安山岩系
52	P-106		坑底	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
53	P-106		坑底	石製玉	径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
54	P-106		遺体層	石製玉	径 0.45	孔径 0.15	0.2	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
55	P-106		遺体層	石製玉	径 0.4	孔径 0.15	0.2	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
56	P-106		遺体層	石製玉	径 0.35	孔径 0.15	0.2	0.1g以下	凝灰岩	平玉 安山岩系
57	P-106	1	覆土	礫	12.5	8.5	4.3	409 g	安山岩	
58	P-106	2	坑底	敲石	(8.5)	5.5	2.1	(155)g	泥岩	
59	P-106		覆土	Ⅲ f						口縁部 拓本
60	P-106		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
61	P-106		覆土	フレイク	2.4	2.3	0.4	1.8 g	黒曜石	
62	P-106		覆土	フレイク	3.2	2.1	0.4	2.4 g	黒曜石	
63	P-106		覆土	フレイク	3.4	2.0	0.5	1.8 g	黒曜石	
64	P-106		覆土	フレイク	4.2	2.7	0.7	5.5 g	黒曜石	
86-1	P-107	1	坑底	Ⅲ f	14.4	8.0		17.3		
2	P-107		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
3	P-107		遺体層	石鏃	1.95	1.1	0.25	0.3 g	黒曜石	
4	P-107		遺体層	石鏃	2.1	0.7	0.2	0.3 g	黒曜石	
87-1	P-108	2	遺体層	石製玉	径 1.1	孔径 0.5	0.8	1.3 g	蛇紋岩	平玉
2	P-108	1	遺体層	フレイク	2.7	0.7	0.4	0.8 g	黒曜石	
3	P-108		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
4	P-108		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
5	P-108		覆土	フレイク	2.2	2.3	0.5	1.5 g	黒曜石	
6	P-108		覆土	フレイク	2.4	2.0	0.5	1.7 g	黒曜石	
7	P-108		覆土	フレイク	4.3	3.5	1.1	9.8 g	黒曜石	
88-1	P-112	3	遺体層	Ⅲ b		2.3	5.2	6.0		
2	P-112	2	坑底	Ⅲ b		5.5		(5.5)		

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計 測 値				材 質	備 考
					口 径 長さ (cm)	底 径 軸 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
88-3	P-112	5	遺体層	Ⅲ b		4.8		(6.4)		
4	P-112	27	遺体層	環	径 3.3	孔径 1.4	0.4	6.4 g	蛇紋岩	
5	P-112	28	遺体層	環	径 3.2	孔径 1.1	0.55	6.0 g	蛇紋岩	
6	P-112	29	遺体層	環	径 3.1	孔径 1.1	0.4	5.1 g	蛇紋岩	
7	P-112	13	坑底	スクレイパー	7.2	3.5	1.2	24.0 g	頁 岩	
8	P-112	19	遺体層	ナイフ	6.8	3.4	1.0	19.0 g	頁 岩	
9	P-112	17	坑底	スクレイパー	4.3	3.2	0.9	9.6 g	メノウ	
10	P-112	16	坑底	スクレイパー	6.6	2.8	0.9	14.6 g	頁 岩	
11	P-112	9	遺体層	スクレイパー	7.1	3.3	1.3	23.6 g	チャート	
12	P-112	4	遺体層	スクレイパー	9.4	3.5	1.4	37.0 g	頁 岩	
13	P-112	11	坑底	スクレイパー	10.1	3.3	1.5	35.4 g	頁 岩	
89-1	P-113	1	遺体層	Ⅲ b	6.7	4.3	7.5	7.7		内外面ベンガラ付着
2	P-113	2	坑底	石鏃	(4.2)	1.2	0.5	(1.6)g	黒曜石	
3	P-113	3	遺体層	石鏃	(3.5)	1.2	0.35	(1.0)g	黒曜石	
4	P-113	5	遺体層	スクレイパー	5.3	1.1	0.7	2.7 g	黒曜石	異形石器
5	P-113	4	遺体層	R・F	4.0	0.8	0.6	2.0 g	黒曜石	異形石器
6	P-113	6	遺体層	R・F	3.1	0.9	0.5	1.3 g	黒曜石	異形石器
7	P-113	7	遺体層	R・F	2.4	2.8	1.2	7.1 g	黒曜石	自然穴
89-1	P-114	3	坑底	石槍	8.0	2.9	1.3	21.4 g	チャート	
2	P-114	2	遺体層	スクレイパー	5.8	2.4	0.75	9.8 g	頁 岩	
3	P-114	1	坑底	石斧	10.1	4.6	1.5	(99.0)g	泥 岩	
90-1	P-115	6	遺体層	石鏃	3.8	1.2	0.4	1.3 g	黒曜石	
2	P-115	5	遺体層	石鏃	3.8	1.1	0.3	0.9 g	黒曜石	
3	P-115	4	遺体層	石鏃	3.5	1.2	0.4	1.0 g	黒曜石	
4	P-115	3	遺体層	石鏃	3.8	1.1	0.4	1.1 g	黒曜石	
5	P-115	1	遺体層	石鏃	4.0	1.2	0.5	1.4 g	黒曜石	
90-1	P-117	1	坑底	Ⅲ b	(12.0)	6.2	12.5	14.8		内面スス付着
91-1	P-116	15	遺体層	Ⅲ b	7.6	5.6	16.4	22.0		
92-2	P-116	30	遺体層	石鏃	2.5	1.1	0.3	0.5 g	黒曜石	
3	P-116	34	遺体層	石鏃	2.65	1.15	0.4	0.7 g	黒曜石	
4	P-116	35	遺体層	石鏃	3.05	1.2	0.4	0.7 g	黒曜石	
5	P-116	33	遺体層	石鏃	3.1	1.3	0.4	0.8 g	黒曜石	
6	P-116	48	遺体層	石鏃	(3.4)	1.2	0.45	(1.1)g	黒曜石	
7	P-116	31	遺体層	石鏃	3.75	1.4	0.4	1.0 g	頁 岩	
8	P-116	32	遺体層	石鏃	4.5	1.25	0.3	1.1 g	黒曜石	
9	P-116	36	遺体層	石鏃	3.8	1.3	0.4	1.2 g	黒曜石	
10	P-116	38	遺体層	石鏃	(3.15)	1.3	0.4	(1.1)g	黒曜石	
11	P-116	39	遺体層	石鏃	(2.15)	1.15	0.35	(0.6)g	黒曜石	
12	P-116	46	遺体層	石鏃	2.2	1.15	0.3	0.5 g	黄色チャート	
13	P-116	47	遺体層	石鏃	2.1	1.05	0.3	0.3 g	黄色チャート	
14	P-116	45	遺体層	石鏃	2.65	1.0	0.5	0.6 g	黄色チャート	
15	P-116	44	遺体層	石鏃	2.1	1.25	0.4	0.4 g	黄色チャート	
16	P-116	13	遺体層	ドリル	5.1	1.2	0.45	3.4 g	チャート	



図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
92-17	P-116	27	遺体層	ナイフ	7.0	2.6	0.5	9.2 g	頁岩	
18	P-116	23	遺体層	ナイフ	4.2	2.0	0.35	3.3 g	黄色頁岩	
19	P-116	4	遺体層	ナイフ	5.8	3.4	0.6	9.8 g	頁岩	
20	P-116	9	遺体層	ナイフ	4.2	2.5	0.5	6.5 g	黒曜石	
21	P-116	29	遺体層	スクレイパー	6.6	2.6	1.0	15.4 g	黒曜石	
22	P-116	27	遺体層	スクレイパー	7.0	2.6	0.5	9.2 g	頁岩	
23	P-116	22	遺体層	スクレイパー	5.4	2.9	0.9	9.7 g	チャート	
24	P-116	2	遺体層	スクレイパー	6.0	2.6	0.7	4.8 g	チャート	
25	P-116	10	遺体層	スクレイパー	6.8	3.3	0.8	19.8 g	頁岩	
26	P-116	20	遺体層	スクレイパー	7.4	2.7	0.95	11.6 g	頁岩	
27	P-116	14	遺体層	スクレイパー	9.15	3.5	0.95	36.2 g	頁岩	
28	P-116	4	遺体層	石斧	10.35	3.9	2.1	146 g	泥岩	
29	P-116	36	遺体層	砥石	8.8	6.0	2.9	104 g	砂岩	両面使用
93-1	P-118	1	坑底	Ⅲ b	16.4	5.4		19.7		
2	P-118	5	坑底	ドリル	2.3	0.8	0.4	0.7 g	チャート	
3	P-118	2	坑底	石斧	15.7	5.3	3.0	355 g	泥岩	
4	P-118	4	遺体層	石斧	(13.1)	5.4	1.7	(200) g	泥岩	
5	P-118	3	坑底	石斧	20.0	6.8	2.7	482 g	ハンレイ岩	
94-1	P-120	1	遺体層	Ⅲ b	17.1	6.8	18.5	26.8		
2	P-120	6	遺体層	ナイフ	4.9	2.5	0.7	9.2 g	頁岩	
3	P-120	11	遺体層	ナイフ	6.3	2.3	0.6	8.4 g	チャート	ベンガラ付着
4	P-120	7	遺体層	ナイフ	7.7	3.8	1.1	22.8 g	頁岩	
5	P-120	3	遺体層	スクレイパー	6.0	2.0	0.6	4.4 g	黒曜石	ベンガラ付着
95-1	P-121	1	遺体層	管玉	2.5	0.9	孔径 0.3	3.4 g	蛇紋岩	
96-1	P-138	1		Ⅲ f	12.1	7.5		14.5		
2	P-138		覆土	ナイフ	(2.1)	1.4	0.4	(0.7) g	黒曜石	
3	P-138		覆土	スクレイパー	4.6	2.9	4.0	11.0 g	黒曜石	
4	P-138		覆土	R・F	2.4	2.8	0.3	2.0 g	黒曜石	
96-1	P-123	1	遺体層	石鏃	1.6	0.6	0.3	0.2 g	黒曜石	
2	P-123	2	遺体層	石鏃	(0.9)	0.7	0.3	(0.2) g	黒曜石	
97-1	P-124	1	坑底	Ⅲ b		6.0		(8.9)		
98-1	P-125	1	遺体層	Ⅲ b	(21.3)	5.5	21.0	28.3		
100-1	P-129	1	遺体層	Ⅲ b	(14.4)	6.0	14.5	18.8		
2	P-129	2	遺体層	フレイク	3.9	3.5	1.3	11.0 g	黒曜石	
3	P-129		覆土	石斧	12.4	3.8	2.1	170 g	泥岩	
100-1	P-126	3	坑底	有孔石	4.1	2.8	1.8	19.8 g	安山岩	自然穴
2	P-126	4	遺体層	刀子	(4.6)	0.8	(0.15)		鉄製	柄の木質残存
100-1	P-132	1	遺体層	Ⅲ b	(15.9)	5.8	14.5	19.1		
101-1	P-127	11	坑底	石鏃	1.9	1.1	0.3	0.6 g	黒曜石	
101-1	P-128	1	遺体層	Ⅲ b	10.2			(13.0)		
2	P-128	3	遺体層	有孔石	3.5	3.3	1.1	18.4 g	黒曜石	自然穴
3	P-128	4	遺体層	礫	4.0	2.7	2.0	18.0 g	安山岩	自然石
102-1	P-130	4	遺体層	石鏃	3.6	1.0	0.4	0.9 g	黒曜石	

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重量 (g)		
102-2	P-130	3	遺体層	石鏃	3.9	1.0	0.4	0.9 g	黒曜石	
3	P-130	2	遺体層	石鏃	3.2	1.5	0.4	0.9 g	チャート	
4	P-130	1	遺体層	石鏃	3.1	1.2	0.4	0.8 g	チャート	
5	P-130		覆土	スクレイパー	4.5	2.1	0.8	8.4 g	頁岩	
6	P-130	5	坑底	スクレイパー	5.8	2.3	0.7	6.6 g	頁岩	
103-1	P-131	18	遺体層	管玉	2.2	0.4	孔径 0.2	0.7 g	碧玉	
2	P-131	19	遺体層	管玉	2.25	0.4	孔径 0.15	0.7 g	碧玉	
3	P-131	20	遺体層	管玉	2.9	0.4	孔径 0.15	1.0 g	碧玉	
4	P-131	21	遺体層	管玉	1.5	0.45	孔径 0.15	0.6 g	碧玉	
5	P-131	22	遺体層	管玉	1.55	0.45	孔径 0.15	0.6 g	鉄石英	
6	P-131	23	遺体層	管玉	1.3	0.4	孔径 0.15	0.4 g	碧玉	
7	P-131	24	遺体層	管玉	1.4	0.4	孔径 0.15	0.4 g	碧玉	
8	P-131	25	遺体層	管玉	2.1	0.4	孔径 0.15	0.7 g	碧玉	
9	P-131	26	遺体層	管玉	2.4	0.45	孔径 0.15	0.8 g	碧玉	
10	P-131	27	遺体層	管玉	2.6	0.4	孔径 0.2	0.9 g	碧玉	
11	P-131	28	遺体層	管玉	2.35	0.5	孔径 0.2	1.0 g	碧玉	
12	P-131	29	遺体層	管玉	2.05	0.5	孔径 0.2	0.9 g	碧玉	
13	P-131	30	遺体層	管玉	2.65	0.45	孔径 0.15	0.9 g	碧玉	
14	P-131	31	遺体層	管玉	2.7	0.4	孔径 0.2	0.9 g	碧玉	
15	P-131	32	遺体層	管玉	2.3	0.35	孔径 0.15	0.9 g	碧玉	
16	P-131	34	遺体層	管玉	2.65	0.4	孔径 0.15	0.8 g	碧玉	
17	P-131	33	遺体層	管玉	1.3	0.5	孔径 0.15	0.8 g	碧玉	
18	P-131	35	遺体層	管玉	0.85	0.45	孔径 0.15	0.3 g	鉄石英	
19	P-131	36	遺体層	管玉	2.4	0.45	孔径 0.2	0.8 g	碧玉	
20	P-131	37	遺体層	管玉	(1.0)	0.45	孔径 0.15	(0.4)g	鉄石英	
21	P-131	38	遺体層	管玉	(1.35)	0.45	孔径 0.2	(0.4)g	碧玉	
22	P-131	39	遺体層	管玉	(1.4)	0.4	孔径 0.2	(0.3)g	碧玉	
23	P-131	40	遺体層	管玉	(1.4)	0.45	孔径 0.2	(0.4)g	碧玉	
24	P-131	41	遺体層	管玉	(0.9)	0.45	孔径 0.15	(0.3)g	碧玉	
25	P-131	42	遺体層	管玉	1.1	0.45	孔径 0.2	0.3 g	碧玉	
26	P-131	43	遺体層	管玉	(0.7)	0.5	孔径 0.2	(0.1)g	碧玉	
27	P-131	60,62	遺体層	管玉	1.74	0.6	孔径 0.2	1.1 g	碧玉	2点接合
28	P-131	61	遺体層	管玉	(1.4)	0.45	孔径 0.15	(0.4)g	碧玉	
29	P-131	63	遺体層	管玉	(1.3)	0.45	孔径 0.15	(0.4)g	鉄石英	
30	P-131	70	遺体層	管玉	(1.75)	0.45	孔径 0.15	(0.5)g	碧玉	
31	P-131	71	遺体層	管玉	2.3	0.4	孔径 0.15	0.8 g	碧玉	
32	P-131	72	遺体層	管玉	1.65	0.45	孔径 0.2	0.5 g	碧玉	
33	P-131	73	遺体層	管玉	1.0	0.45	孔径 0.2	0.3 g	碧玉	
34	P-131	74	遺体層	管玉	2.4	0.5	孔径 0.15	0.9 g	碧玉	
104-35	P-131	57	遺体層	Ⅲ b	15.4	7.0	17.0	25.1		
36	P-131	7	遺体層	石鏃	3.5	1.2	0.4	0.9 g	黒曜石	
37	P-131	8	遺体層	石鏃	2.9	1.2	0.4	0.7 g	黒曜石	
38	P-131	9	遺体層	石鏃	4.2	1.3	0.4	1.3 g	黒曜石	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径 長さ (cm)	底径 幅 (cm)	胴径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
104-39	P-131	10	遺体層	石鏃	3.5	1.2	0.4	0.9 g	黒曜石	
40	P-131	11	遺体層	石鏃	3.5	1.2	0.5	1.0 g	黒曜石	
41	P-131	12	遺体層	石鏃	3.5	1.2	0.4	0.9 g	黒曜石	
42	P-131	13	遺体層	石鏃	4.0	1.2	0.4	1.0 g	黒曜石	
43	P-131	14	遺体層	石鏃	3.3	1.3	0.3	0.7 g	黒曜石	
44	P-131	64	遺体層	石鏃	4.0	1.3	0.5	1.3 g	黒曜石	
45	P-131	75	遺体層	石鏃	3.9	1.2	0.5	1.7 g	頁岩	
46	P-131	76	遺体層	石鏃	3.7	1.5	0.5	2.0 g	黒曜石	
47	P-131	68	遺体層	石鏃	1.7	1.4	0.4	0.6 g	黒曜石	
48	P-131	1	遺体層	石槍	5.5	2.4	0.6	4.7 g	黒曜石	
49	P-131	54	遺体層	ドリル	(2.0)	0.7	0.4	(0.7)g	チャート	
50	P-131	67	遺体層	ナイフ	2.4	1.6	0.5	1.7 g	頁岩	つまみ付
51	P-131	66	遺体層	ナイフ	3.0	1.4	0.3	1.6 g	チャート	つまみ付
52	P-131	15	遺体層	ナイフ	7.0	4.0	0.8	19.4 g	チャート	
53	P-131	58	遺体層	ナイフ	5.3	2.9	0.9	10.8 g	頁岩	
54	P-131	16	遺体層	ナイフ	4.6	3.9	0.7	10.0 g	頁岩	
55	P-131	65	遺体層	ナイフ	4.9	2.9	0.7	9.6 g	頁岩	
56	P-131	49	遺体層	ナイフ	6.1	2.1	0.6	9.0 g	チャート	
57	P-131	17	遺体層	スクレイパー	5.0	1.7	0.7	5.7 g	チャート	
58	P-131	47	遺体層	スクレイパー	8.5	3.0	1.4	27.0 g	頁岩	
105-1	P-134	1	遺体層	Ⅲ b	(13.5)	5.6	14.2	17.7		
2	P-134	5	遺体層	石鏃	(1.8)	1.2	0.3	(0.6)g	黒曜石	
3	P-134	8	遺体層	石鏃	(1.3)	1.2	0.3	(0.4)g	黒曜石	
4	P-134	6	遺体層	石槍	5.3	2.1	0.6	4.5 g	黒曜石	
5	P-134	2	遺体層	有孔石	2.5	2.9	1.8	14.2 g	石英	自然穴
6	P-134	3	遺体層	石製品	5.2	5.0	2.6	35.6 g	安山岩	
106-1	P-136	1	遺体層	石鏃	3.5	1.2	0.3	0.8 g	黒曜石	
2	P-136	4	遺体層	石鏃	2.6	1.3	0.4	0.8 g	黒曜石	
3	P-136	5	遺体層	石鏃	2.1	1.4	0.4	0.6 g	黒曜石	
4	P-136	6	遺体層	石鏃	2.6	1.6	0.3	0.7 g	黒曜石	
5	P-136	7	遺体層	石鏃	3.0	1.5	0.4	0.8 g	黒曜石	
6	P-136	8	遺体層	石鏃	2.1	1.4	0.3	0.6 g	黒曜石	
7	P-136	9	遺体層	石鏃	3.1	1.5	0.3	0.8 g	黒曜石	
8	P-136		覆土	石鏃	2.1	1.4	0.3	0.7 g	粘板岩	後北式に伴出の可能性有
9	P-136	2	遺体層	ナイフ	6.4	2.4	0.9	14.2 g	頁岩	
107-1	P-137	6	坑底	釣針	2.7	1.2			鉄製	4点が密着
2	P-137	2	坑底	山刀	38.3	5.7	1.9		鉄製	
3	P-137	3	坑底	太刀	44.5	5.0	2.4		鉄製	
108-1	P-139	1	坑底	Ⅲ f						胴部 拓本
108-1	P-140	1	遺体層	石製品	2.0	2.05	1.4	5.9 g	泥岩	石英質の部分あり
110-1	P-142	1	遺体層	太刀	59.0	5.2	2.1		鉄製	
111-1	P-143	1	遺体層	スクレイパー	4.1	1.6	0.5	2.8 g	黒曜石	
2	P-143	2	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.7	0.1 g	草炭or泥炭	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
111-3	P-143	3	遺体層	土玉	径 0.7	孔径 0.2	0.6	0.1 g	草炭or泥炭	
4	P-143	9	遺体層	土玉	径 0.7	孔径 0.2	0.6	0.1 g	草炭or泥炭	
5	P-143	10	遺体層	土玉	径 0.7	孔径 0.2	0.7	0.1 g	草炭or泥炭	
6	P-143	12	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.7	0.1 g	草炭or泥炭	
7	P-143	13	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.8	0.1 g	草炭or泥炭	
8	P-143	14	遺体層	土玉	径 0.7	孔径 0.2	0.7	0.1 g	草炭or泥炭	
9	P-143	17	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.7	0.1 g	草炭or泥炭	
10	P-143	18	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.7	0.1 g	草炭or泥炭	
11	P-143	19	遺体層	土玉	径 0.8	孔径 0.2	0.8	0.2 g	草炭or泥炭	
12	P-143	20	遺体層	土玉	径 0.6	孔径 0.2	0.7	0.1 g	草炭or泥炭	
112-1	F P-14			Ⅲ b						口縁部 拓本
2	F P-14			Ⅲ b						口縁部 拓本
3	F P-14			フレイク	1.5	1.4	1.1	2.1 g	黒曜石	
113-1	F P-13	16		Ⅲ f	12.4	6.2	13.9	19.5		ベンガラ付着 底部穿孔
2	F P-13	15		Ⅲ f	10.3	5.4		8.4		底部穿孔
3	F P-13	2		Ⅲ f	6.4	5.3	7.1	10.5		底部穿孔
4	F P-13	1		Ⅲ f	(10.2)	5.8		11.7		ベンガラ付着
5	F P-13	11		フレイク	4.6	2.8	0.9	8.5 g	黒曜石	
6	F P-13	10		コア	3.0	4.3	3.9	51.5 g	黒曜石	
7	F P-13	3		コア	6.0	3.5	5.1	91.0 g	黒曜石	
8	F P-13	17		コア	4.7	2.4	2.7	29.6 g	黒曜石	
9	F P-13	5		原石	2.8	4.1	2.2	32.8 g	黒曜石	
10	F P-13	4		原石	3.0	3.1	2.3	28.8 g	黒曜石	
11	F P-13	8		コア	3.8	4.8	2.1	30.6 g	黒曜石	
12	F P-13	14		原石	4.1	3.5	2.4	42.0 g	黒曜石	
13	F P-13	13		原石	4.5	3.2	1.9	33.8 g	黒曜石	
14	F P-13	12		原石	4.1	4.1	2.4	43.2 g	黒曜石	
15	F P-13	9		原石	5.3	4.6	3.9	95.0 g	黒曜石	
16	F P-13	7		原石	6.5	6.2	4.0	191.0 g	黒曜石	
17	F P-13	6		原石	7.9	5.1	5.0	160.6 g	黒曜石	
114-1	F P-22	2		石斧	(11.0)	5.6	2.8	(232) g	泥岩	
114-1	F P-23	3		スクレイパー	3.2	2.4	0.7	4.5 g	黒曜石	
115-1	F P-26			石鏃	1.5	0.8	0.3	0.2 g	黒曜石	
2	F P-26			スクレイパー	3.9	2.4	0.5	4.0 g	黒曜石	
115-1	F P-27			スクレイパー	2.2	2.6	0.7	2.7 g	黒曜石	
118-1	MO-10		覆土	Ⅲ b						口縁～胴部 拓本
2	MO-10		覆土	Ⅲ f						口縁～胴部 拓本
3	MO-10		覆土	Ⅲ f						口縁部 拓本
4	MO-10		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本 外面ベンガラ付着
5	MO-10		覆土	Ⅲ f	16.0	7.0		15.0		
6	MO-10		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本 内面ベンガラ付着
7	MO-10		覆土	Ⅲ f						胴部 拓本
8	MO-10		覆土	Ⅲ f		5.4		9.2		口縁～底部 拓本

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径 長さ (cm)	底径 幅 (cm)	胴径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
118-9	MO-10		覆土	Ⅲ f	11.6					
10	MO-10		覆土	Ⅲ f		8.0		4.2		
11	MO-10		覆土	Ⅲ f	11.3	6.0		10.3		
12	MO-10	4	8層	ガラス玉	径 0.6	孔径 0.2	0.5	0.2 g	ガラス	青緑色
13	MO-10	5	8層	ガラス玉	径 0.2	孔径 0.2	0.6	0.2 g	ガラス	藍色
14	MO-10		覆土	石鏃	3.8	1.5	0.5	1.7 g	黒曜石	
15	MO-10		覆土	スクレイパー	3.8	3.4	0.5	5.4 g	黒曜石	
16	MO-10		覆土	キセル	(4.8)			管径 1.0	銅製	雁首 火皿欠損
17	MO-10	2	5層	鋌金具	1.9	1.9	0.3	2.0 g	銅製	
119-1	MO-20		覆土	フレイク	2.9	2.1	0.5	2.4 g	黒曜石	
2	MO-20		覆土	ナイフ	9.7	4.0	1.2	48.4 g	頁岩	
119-1	MO-21		覆土	石鏃	2.1	1.0	0.4	0.9 g	黒曜石	
2	MO-21		覆土	スクレイパー	2.8	3.2	0.5	3.8 g	黒曜石	
3	MO-21		覆土	スクレイパー	3.5	2.7	0.3	3.3 g	黒曜石	
4	MO-21		覆土	スクレイパー	3.8	2.3	1.0	7.6 g	黒曜石	
5	MO-21		覆土	スクレイパー	8.3	4.8	1.5	5.6 g	頁岩	
6	MO-21		覆土	スクレイパー	5.8	3.4	1.8	21.8 g	黒曜石	
7	MO-21		覆土	スクレイパー	4.3	2.1	0.7	6.5 g	黒曜石	
120-1	MO-19	1	6層	Ⅲ f						胴部 拓本
2	MO-19		覆土	Ⅲ c						胴部 拓本
120-1	溝状遺構-2		覆土	石鏃	4.0	1.9	0.6	2.8 g	黒曜石	

遺物一覽表 (遺構外)

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
121-1	U26		II	III f	(20.0)		(17.9)	(17.5)		
2	X23-1 X24-1		III	III b	(23.4)			(22.1)		接合
3			攪乱	III b	(7.0)	(4.5)	8.1	9.5		
4	X23		II	III b						口縁部 拓本
5	X23		II	III b						胴部 拓本
6	X25-1		IV	III b						口縁~胴部 拓本
7	V27-3		III 攪乱	III b						} 接合 拓本
8	V28-1		II	III b					胴部	
9	X23	1	III	III b		8.8		(12.4)		
122-10	W23-2		II	III f	(18.5)	6.8		(17.1)		
11	W22-3		II	III f	(16.0)			(15.1)		
12	X23-1, 4		II	III f				(11.3)		ベンガラ付着
13	X24-2		II	III f		6.0		(6.6)		
14			攪乱	III f	(7.8)			(6.8)		
15	X22-3		II	III f	(15.0)	(13.8)		4.1		
16	V28-1		II	III f	2.0	注口径 (1.5)				
17	W24-2		II	III f	(5.6)	(5.4)				
18	U27		攪乱	III f				(11.5)		
19	W24-1		II	III f	(7.5)	4.8	7.7			
123-20	X24	1	II	III f	23.5	(10.0)	(25.3)	33.2		
21	W24-3		II	III f						口縁~底部 拓本
22	X23-4 X24-4		II	III f						口縁部 拓本
23	X24-4		II	III f						口縁部 拓本
24	X23-2		II	III f						口縁部 拓本
25	Y21		II	III f						胴部 拓本
26	X23		II	III f						胴部 拓本
27	W24-3		II	III f						胴部 拓本
28	V29-1		II	III e						口縁部 拓本
29			攪乱	III c						口縁部 拓本
30			攪乱	III c						胴部 拓本
31			攪乱	III c						胴部 拓本
32			攪乱	III c						胴部 拓本
33	Y23		攪乱	III d						胴部 拓本
34			攪乱	III g						口縁部 拓本
35			攪乱	III g						口縁部 拓本
36			攪乱	III g						口縁部 拓本
37			攪乱	III g						口縁部 拓本
124-38	W24-2	1	II	IV a	(23.4)			(24.0)		
39	X23-4 X24-4		II	IV a						口縁部 拓本
40	X22-1		II	IV a		(7.4)		(3.6)		底面 拓本
41	W24-2		II	IV a	(20.6)			(11.8)		
42	X20		攪乱	紡錘車	6.8	孔径 0.7	1.6	(65.0) g	土製	
43	W23-3		II	紡錘車	(5.0)	(3.5)	(1.4)	(18.2) g	土製	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径 長さ (cm)	底径 (cm)	胴径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
124-44	X22-4		II	V b						卸目6条 胴部 拓本
45	X22-4		II	V b						卸目7条 胴部 拓本
46	Y21-1		II	V b						卸目10条 底部 拓本
47	X22-2		II	V b						卸目10条 口縁~胴部 拓本
48	X21		II	土錘	4.1	3.2	孔径 1.4	29.8 g	土製	
49			攪乱	VI a	(14.4)	8.4		5.0		見込「五弁花文」外面「唐草文」
125-50			攪乱	石鏃	4.3	1.9	0.6	4.0 g	頁岩	
51	X22-2		II	ラウンド スクレイパー	2.2	2.4	0.7	3.4 g	黒曜石	
52	Y24-4		II	ラウンド スクレイパー	2.6	2.3	0.8	4.9 g	黒曜石	
53	X24-4		II	ラウンド スクレイパー	3.0	2.8	0.8	6.6 g	黒曜石	
54	W24-2		II	ラウンド スクレイパー	3.7	3.2	1.0	11.8 g	黒曜石	
55	X22-4		II	スクレイパー	5.1	4.0	1.2	20.8 g	頁岩	
56	W24-2		II	スクレイパー	3.4	2.4	0.5	3.8 g	黒曜石	
57	W24-3		II	スクレイパー	2.8	3.7	0.8	6.9 g	黒曜石	
58	X24-4		II	スクレイパー	2.3	2.3	0.6	3.0 g	黒曜石	
59	X24		II	スクレイパー	4.1	1.9	0.7	4.8 g	石英	
60	X23-3		II	スクレイパー	3.3	2.1	0.5	3.3 g	黒曜石	
61	X22-2		II	スクレイパー	2.9	1.6	0.4	2.0 g	黒曜石	
62	X22-3		II	スクレイパー	4.9	4.3	1.4	24.4 g	黒曜石	
63	X24-1		II	スクレイパー	3.1	2.7	1.0	7.7 g	黒曜石	
64	X23-3		II	スクレイパー	4.4	5.6	1.2	29.4 g	黒曜石	
65	W24-3		II	スクレイパー	5.7	3.6	0.9	18.2 g	黒曜石	
66	Y21-4		II	スクレイパー	3.5	2.2	0.8	4.7 g	黒曜石	
67	X23		II	スクレイパー	4.5	2.7	1.1	10.8 g	黒曜石	
68	W24-2		II	スクレイパー	3.0	2.7	0.5	4.2 g	黒曜石	
69	X24-4		II	スクレイパー	5.6	2.6	1.3	16.4 g	黒曜石	
70	Y20-3		II	スクレイパー	10.1	4.5	1.2	45.6 g	頁岩	
71			攪乱	礫石	8.1	5.3	1.1	59.0 g	砂岩	
72	Y21	2	II	有孔石製品	(1.9)	(1.4)	(0.15)	(0.3)g	粘板岩	
73	X23-3		III	ガラス玉	0.4	孔径 0.15 火皿径 1.8	0.3	0.1g 以下	ガラス	水色
74	X24-3		II	キセル	4.9	火皿高 0.8	0.8	管径 1.1	銅製	雁首

迂回路地点 遺物集計表

遺構等	土器		石					器				類				装身具				金属製品			陶磁器	土製品	骨角器	サメの歯	その他	合計
	(定形)総数	(不定形)総数	石楯 石楯	スカル ナイフ	ドリル	R・F	コア フレイク	石斧	擦石 砥石	原石 礫	有孔 石製品	石製 玉	碧玉	土玉	ガラス 玉	礫玉	刀	キセル	その他									
Pit	463 <sup>(19)</sup>		121	49	4	35	581	6	5	28	6	155	39	51	88	0	4	0	15	0	1	2	6	2	13	1,674		
FP	180 <sup>(4)</sup>		1	4	0	2	55	1	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	254		
FC	0		0	0	0	0	384	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	384		
SP	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
MO	3,975		13	29	0	9	592	2	1	10	0	0	0	0	2	0	0	1	26	17	3	0	1	0	0	4,681		
溝状遺構	53		1	0	0	0	33	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	91		
SM	8		0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	18		
木椀土坑	13		0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18		
小計	4,693 <sup>(23)</sup>		136	82	4	46	1,654	9	7	47	6	155	39	51	90	0	4	1	50	17	4	2	9	2	13	7,121		
包含層Ⅱ	3,853		11	42	0	15	806	0	5	6	1	0	0	0	0	0	0	1	6	17	2	0	0	0	0	4,765		
Ⅲ	223		6	4	0	1	50	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	286		
Ⅳ	6		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
トレンチ	11		1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
攪乱	2,445		6	11	0	12	564	6	5	5	0	0	0	0	1	0	0	3	8	92	1	0	0	0	0	3,159		
小計	6,538		24	57	0	28	1,423	6	10	11	1	0	0	0	2	0	0	4	15	109	3	0	0	0	0	8,231		
総計	11,231 <sup>(23)</sup>		160	139	4	74	3,077	15	17	58	7	155	39	51	92	0	4	5	65	126	7	2	9	2	13	15,352		







迂回路地点 遺構出土遺物集計表 (3)

遺構等	土器 (完形) 総数	石			器				類				装身具					金属製品			陶磁器	土製品	石製品	骨角器	サメの歯	その他	合計		
		石鏃 石釘	ツルギ ナイフ	クラゲ フ	ドリル	R・F	コブ フレイク	石斧	磨石 砥石	原石 礫	有孔 石製品	石製 玉	管玉	土玉	ガラス 玉	礫玉	刀	キセル	その他										
FP-12										3																		3	
FP-13										13				8															94
FP-14										5																			12
FP-15																													0
FP-16																													0
FP-17																													0
FP-18										1																			1
FP-19																													2
FP-20											2																		7
FP-21																													0
FP-22										13																			20
FP-23										8		2																	16
FP-24																													0
FP-25																													0
FP-26										9		1																	14
FP-27										59		1																	74
FP-28										4																	2		11
FP-29																													0
FC-1																													338
FC-2																													46
SP-16										1																			1



# 大川遺跡旧河口港地点

## 第Ⅳ章 旧河口港地点

### 1. 概要

2003年度の旧河口港地点からは、近代の石組炉2基、貝塚2基、墓坑1基、小土坑13基、建材の集中が1ヶ所、擦文時代の土坑1基等が検出された。

出土遺物の総数は19,864点、その内土器が10,485点、石器が2,018点、近世・近代の遺物が7,354点である。

今年度の旧河口港地点は1993年度と1994年度において発掘調査を行った部分から今回は川側にもっとも近い部分の調査を行った。

旧河口港地点の立地としては余市市街地中央を流れる余市川と旧登川との合流地点に面し、現在の標高は約2mである。表土から標高約1mの高さ迄は近代の埋設土及び攪乱により基本層序のⅡ層及びⅢ層の包含層は壊されている。そのため近代に構築された遺構が残った。

上面の埋設土及び攪乱からは縄文後期の土器・石器、続縄文時代の土器・石器、擦文時代の土器・石器、近世・近代の陶磁器及び鉄器等が出土した。これにより上面の埋設土は以前から堆積していた土を掘り返したものであると考えられる。一部、攪乱においては深くなっておりⅣ層にまで達する。

旧河口港地点において昭和初期に造船所があった事が記録されている。

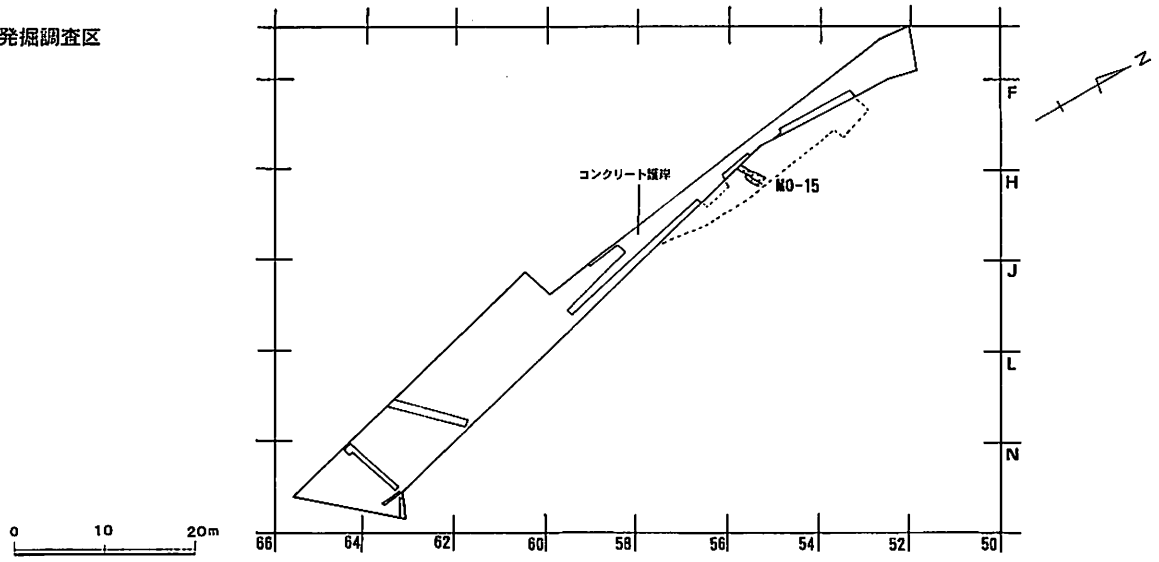
旧河口港地点において調査区北側においては船を係留するためのコンクリート製の護岸が調査区内に設けられており、重機及び人力でも撤去することができなかった。そのため北側の調査区においては今年度の調査区の大部分が壊されており調査対象のⅢ層も調査することができなかった。それにより、一部、1994年度の調査区の表土を重機で除去し、再調査を行った。それにより、大川遺跡全体で見られる壕状遺構(MO)のMO-15の一部を再確認することができた。

また、1994年度の調査区の一部を再調査した部分からはⅢ層の包含層が確認され遺物を取り上げることはできたが、遺構は確認されなかった。

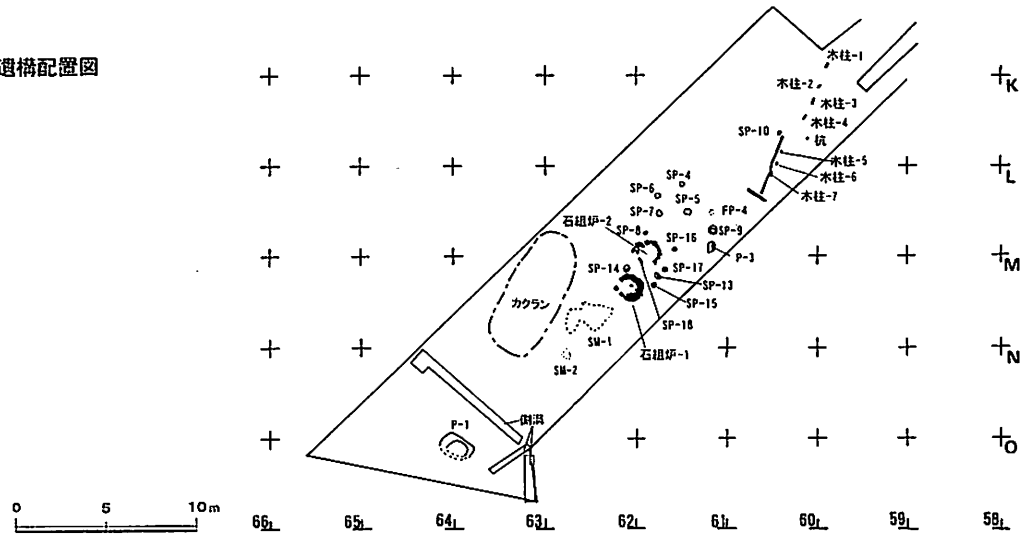
調査区南側において、Ⅲ層包含層は確認されたが遺物の量は少なくまばらである。Ⅲ層を掘り下げⅣ層上面まで調査を行った。そのⅣ層上面においては最下点の標高は0.10mに達する。このことを踏まえて推測すると調査区南側は旧登川に向かう形で標高が下がっていた。

基本層序は他の2地点に準ずるが、Ⅲ層(茶褐色砂層)においては色味が薄く、砂の粒子が大きく粘性がある。Ⅳ層(褐色砂層)においても色味が薄く、粘性がある。このことは他の2地点に比べて砂丘の中心からずれており、河川の影響を受け易かったと推測される。

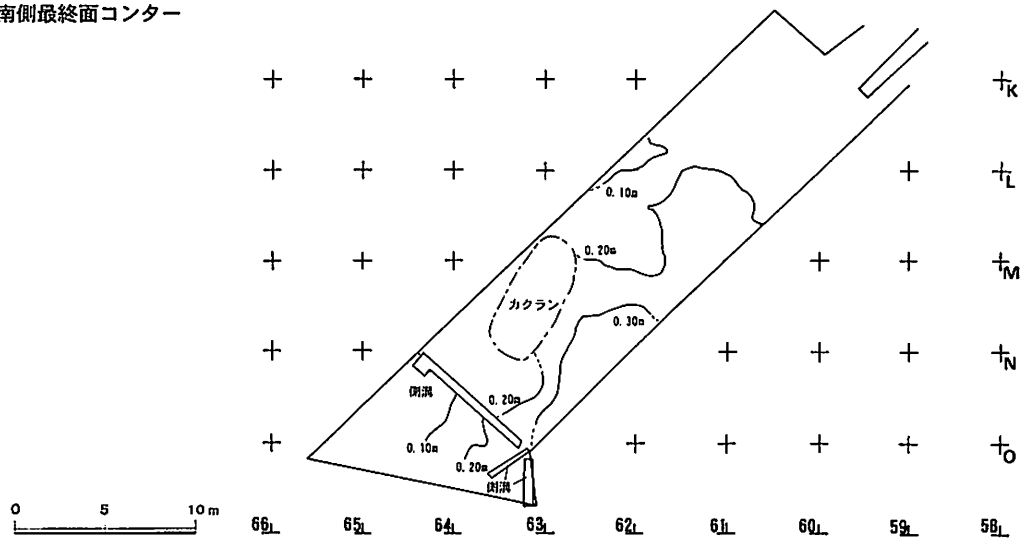
発掘調査区



遺構配置図



南側最終面コンター



第126図 旧河口港地点調査区見取り図





## 2. 遺構と遺物

### (1) 墓坑および土坑 (P-2 は欠番)

#### P-1 (第132図, 写真30)

O63・O64グリッドに位置し、規模は約1.63×(1.34)m、深さ約24cmを測る。P-1においては、調査区の際のため全体は確認できなかった。Ⅱ層から掘り込んで作られている。調査した範囲からは遺体は確認されなかった。出土遺物は坑底から続縄文時代の恵山期の土器片が一点出土したが流れ込みの可能性が高い。Ⅱ層の掘り込み面の周辺から口縁部から胴部にかけての約1/4程度の擦文土器片が出土、口縁部は刺突文、頸部は馬蹄形圧痕文を付した鋸歯状沈線文を施している。擦文時代後半のものである。これらのことから推測すると擦文時代後半に構築された土坑であると思われる。

#### P-3 (第133図)

L61グリッドに位置し、規模は約0.60×0.30mを測る。P-3はⅡ層上面に掘り込んだ墓ではなく人骨が一定の範囲に収まっていたその範囲をP-3とした。その周辺においては表土からの攪乱があり、ウマ等の獣骨が散乱し、近代の漆椀片、ガラス瓶、陶磁器片も散乱していた。P-3の直接の遺物としては三分割に壊れた太刀、包丁と思われる金属製品も出土した。周辺の状況から推測すると以前、その周辺にあった墓が何らかの事情で壊され、人骨が一つにまとめて埋葬されたものであると考えられる。時期としては近代の墓であると思われる。

### (2) 石組炉

#### 石組炉-1 (第128・129図, 写真30)

M62グリッドに位置し、規模は約1.46×1.43m、深さ約52cmを測る。外径は約1.5mの円形をなし、約50cmに亘り石を積んでいる。焚口は南西方向で、旧登川河口に向いている。焚口は、高さ約50cmの安山岩が2個で作られている。焚口の幅は約38cmで、焚口の石から南西方向に向かって約1.30×0.74m、深さ12cmの炭化物集中の範囲があり、炉を使用した際に出た灰や炭をかき出したものであると思われる。時期としては大正時代であると思われる。

#### 石組炉-2 (第129図, 写真30)

L61・M61グリッドに位置し、規模は約1.48×(1.38)m、深さ約42cmを測る。外径は約1.5mの円形をなし、約40cmに亘り石を積んでいる。焚口は石組炉-1と同じく旧登川河口に向かって作られている。焚口は南側の石は無く、北側の石は斜めに立っており、炉を使用した際の熱の影響を受け一部は剥離している。焚口の幅は約40cmである。

全体において出土した状況は上面の石は壊され、南側の石の大半は無く、掘り込み面で

確認できた状態である。石組炉-1に見られたような焚口から川側に向かっての炭化物集中は見られなかった。

これらの事を踏まえて石組炉-1、2は二つの炉を一組として使用されたと考えられる。根拠としては、二つの炉がほぼ同じ規模、焚口の距離が約2mしか離れていない。同時に使用するために作られたと思われる。また、この石組炉の規模としては明治時代からの大掛かりなニシン漁のための石組炉ではなく、自家消費のための石組炉であると考えられる。時期としては、昭和初期には造船所が作られていたことが確認されているためそれ以前のものであると考えられる。そのため、遅くても大正時代には作られていたものであると思われる。

### (3) 貝塚

#### SM-1 (第130・131図,写真31)

M62グリッドに位置する。Ⅲ層に位置し、上面と下面に分かれる。上面の規模は約2.85×1.62m、厚さ約13cmで、層位は1層にあたる。上面の表面にはホタテガイ、カレイ、マグロ等の貝殻や魚骨が、ガラス瓶、陶磁器片、キセル、土器片、剥片石器などの遺物が散乱していた。貝層の残りが良好な部分の約30×25cm範囲でサンプルを採集し、1mmメッシュの篩によって選別を行った。選別されたものはコタマガイ、イガイ、ホタテガイの完形、ニシン、カレイ、ウグイ等の魚骨、ヤマゴボウ、ヤマブドウ、アカザ等の種子が選別された。上面を除去したあとに一段低く貝層がみられたので下面として記録した。規模は約1.10×0.89m、厚さ約7cmで、層位としては2層にあたる。同じく、表面上にはホタテガイなどの貝殻等がみられ、遺物はガラス瓶、陶磁器片、土器片などがみられた。上面と同じく良好な部分の約30×25cm範囲でサンプルを採集し、1mmメッシュの篩によって選別を行った。選別されたものは、貝類はコタマガイの完形、その他にニシン、キタムラサキウニの棘、ヤマゴボウ、ヤマブドウ、アカザなどが選別された。時期としては近代の貝塚であると思われる。

#### SM-2 (第132図)

N62グリッドに位置する。Ⅲ層に位置し、規模は約0.65×0.45m、厚さ約11cmである。表面にはホタテガイの貝殻、カレイ、マグロ等の魚骨が出土した。貝層の残りが良好な部分の約20×20cm範囲でサンプルを採集し、1mmメッシュの篩によって選別を行った。選別されたものはイガイの完形が選別された。時期としては近代の貝塚であると思われる。

### (4) 焼土

#### FP-1 (第133図)

L61グリッドに位置する。Ⅱ層上面の攪乱に位置し、規模は約0.31×0.27mを測る。一部において引き込まれた部分がある。伴出遺物は伴わない。時期は近代であると思われる。

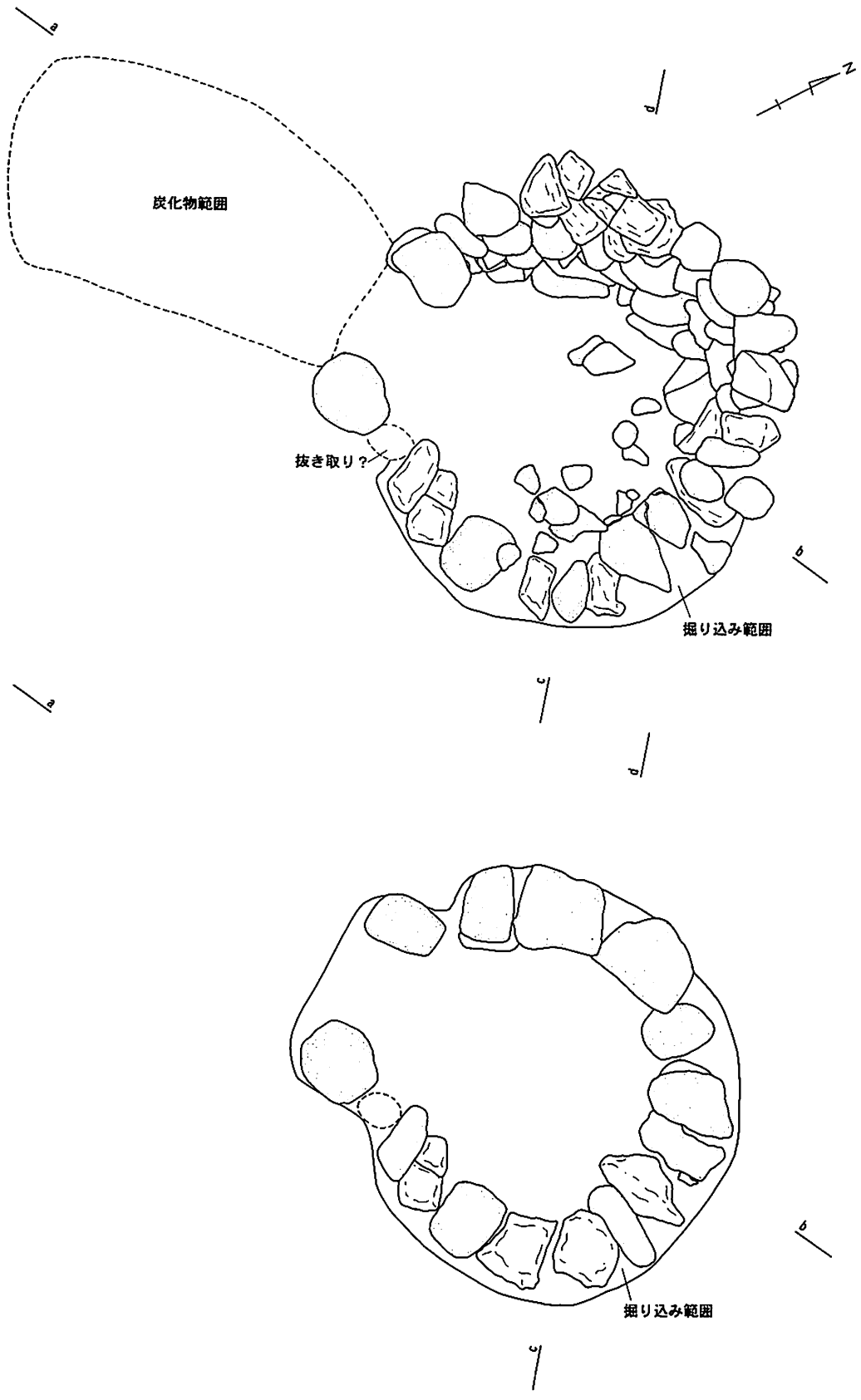
(5) 小土坑 (SP-1, 2, 3, 11, 12は欠番) (第134図, 写真31)

小土坑においてはL61グリッドを中心にM61、M62に広がり、SP-4～9、SP-13～18を検出した。小土坑の集中の南側には石組炉がある。大きさは直径20cm以上が7ヶ所、20cm以下のものが5ヶ所あり、20cm以上は建物の柱穴で、20cm以下のものは建物ではないが付属の施設のためのものであると推測される。その中で径8cmのSP-18は、刺し杭の痕跡であると推測される。SP-10においては、同じグリッドに建材集中があり、杭が検出しているためそれに関連したものであると推測される。時期としては近代のものであると思われる。

(6) 建材集中 (第135図, 写真31)

K60グリッドを中心に約10×40cmの柱が7本出土し、木柱-5～7の脇において舟釘が付いた材が出土した。その南側のグリッドからは規模約2.00×0.74mの攪乱があり、板材や角材等の建材が集中して出土した。このことからここになんらかの建物が作られていたと推測される。時期としては近代のものであると思われる。

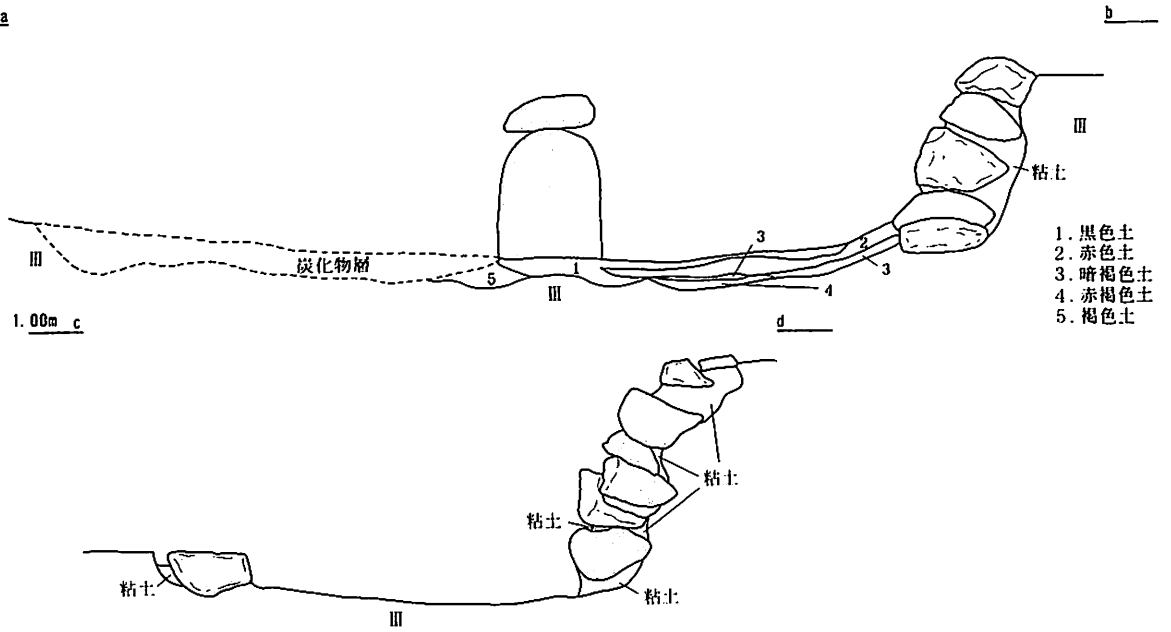
石組炉-1



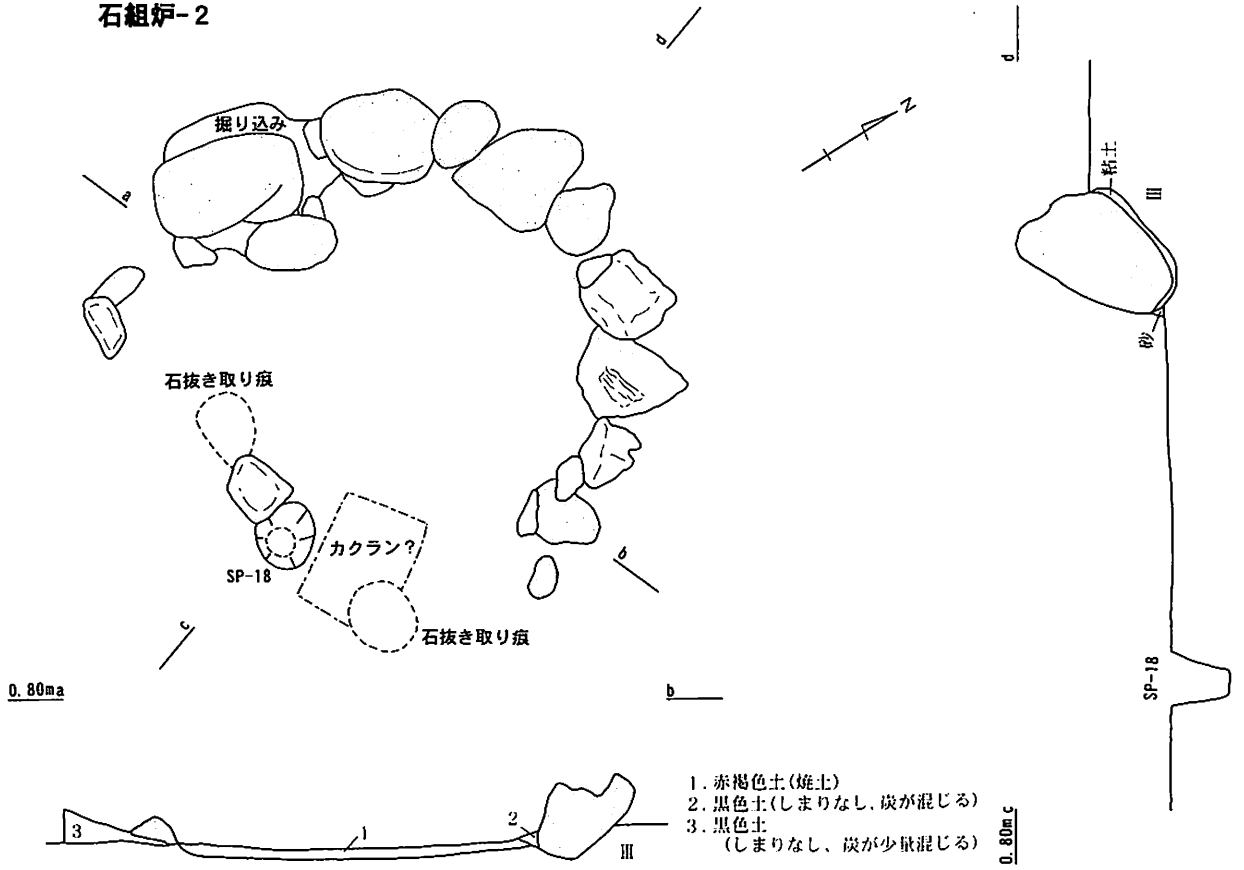
第128図 石組炉-1 平面図

石組炉-1

1.00m a

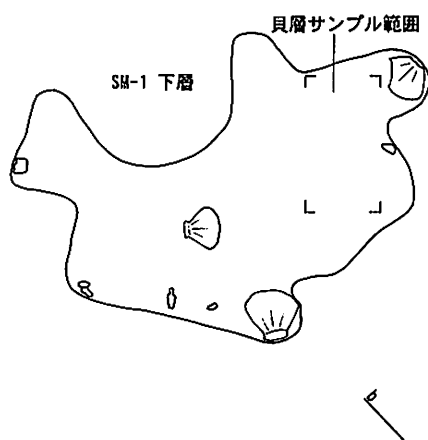
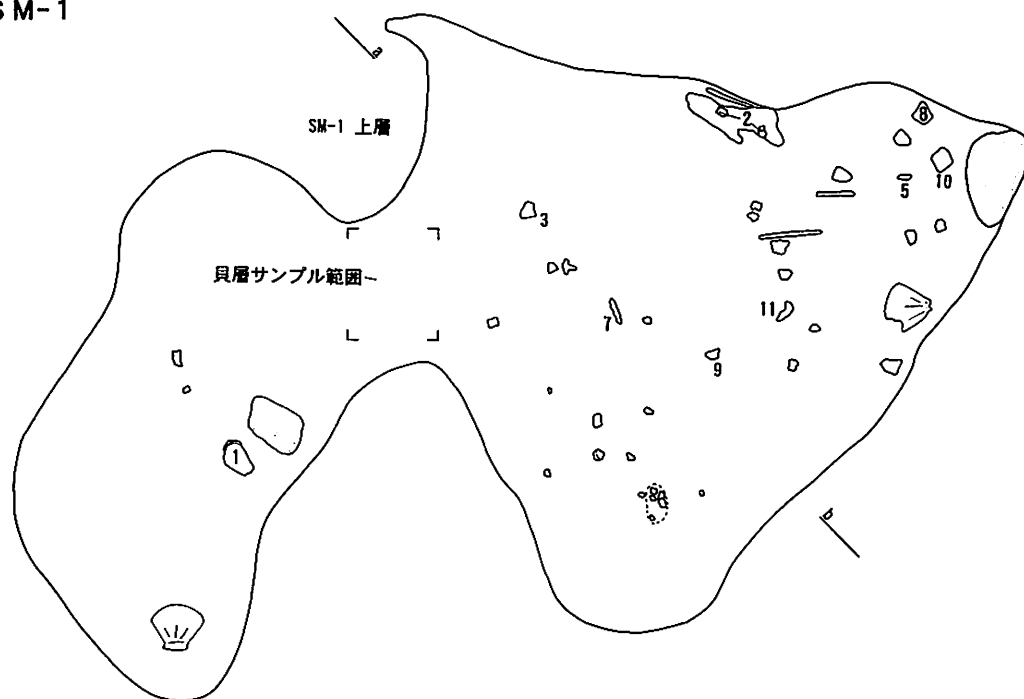


石組炉-2



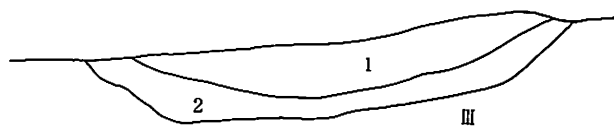
第129図 石組炉-1 断面図と石組炉-2 平面図

SM-1



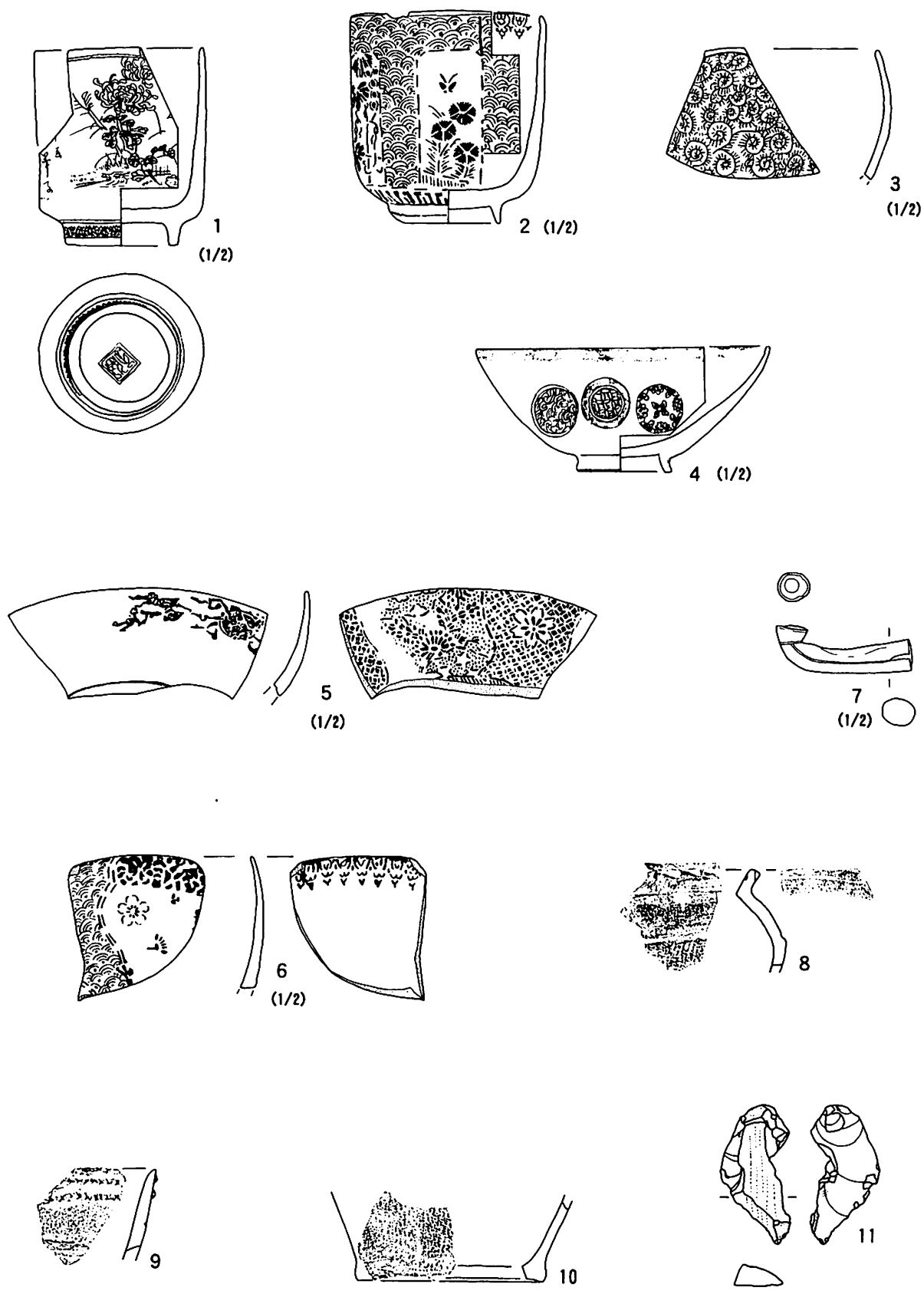
0.80m a

b



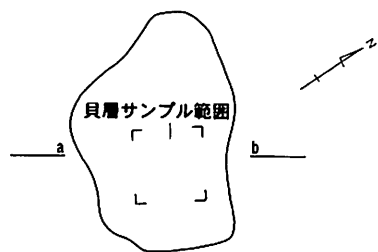
- 1. 褐色土(貝層が多く含まれる)
- 2. 暗褐色土(貝層が少量含まれる)

第130図 SM-1 平面図



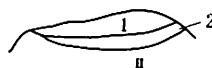
第131图 SM-1 出土遗物

SM-2



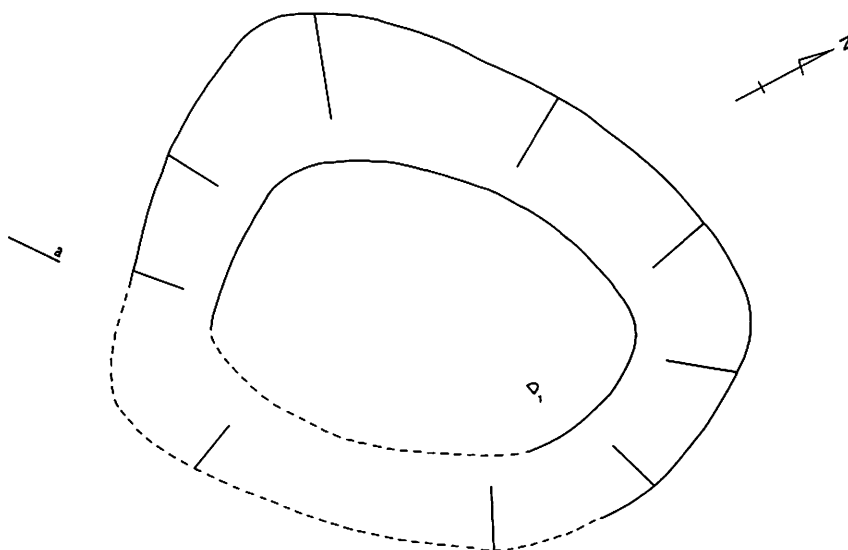
1.0m a

b



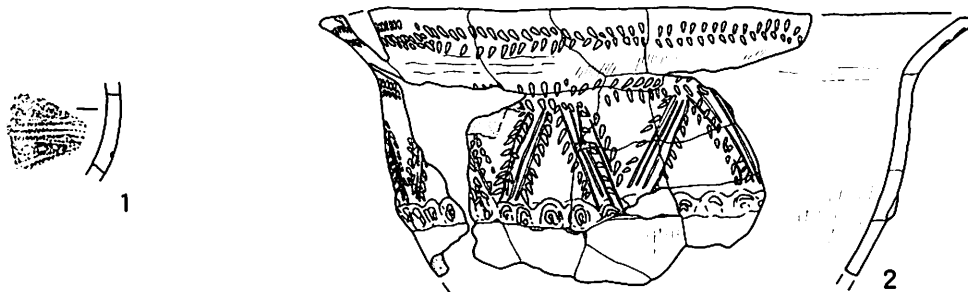
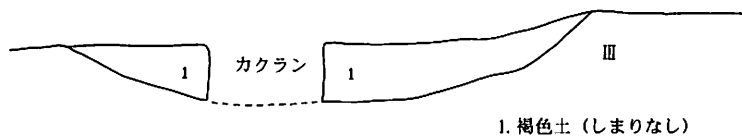
- 1. 黒色土(貝層が多く含まれる)
- 2. 黒色土(貝層が少層含まれる)

P-1



0.80m a

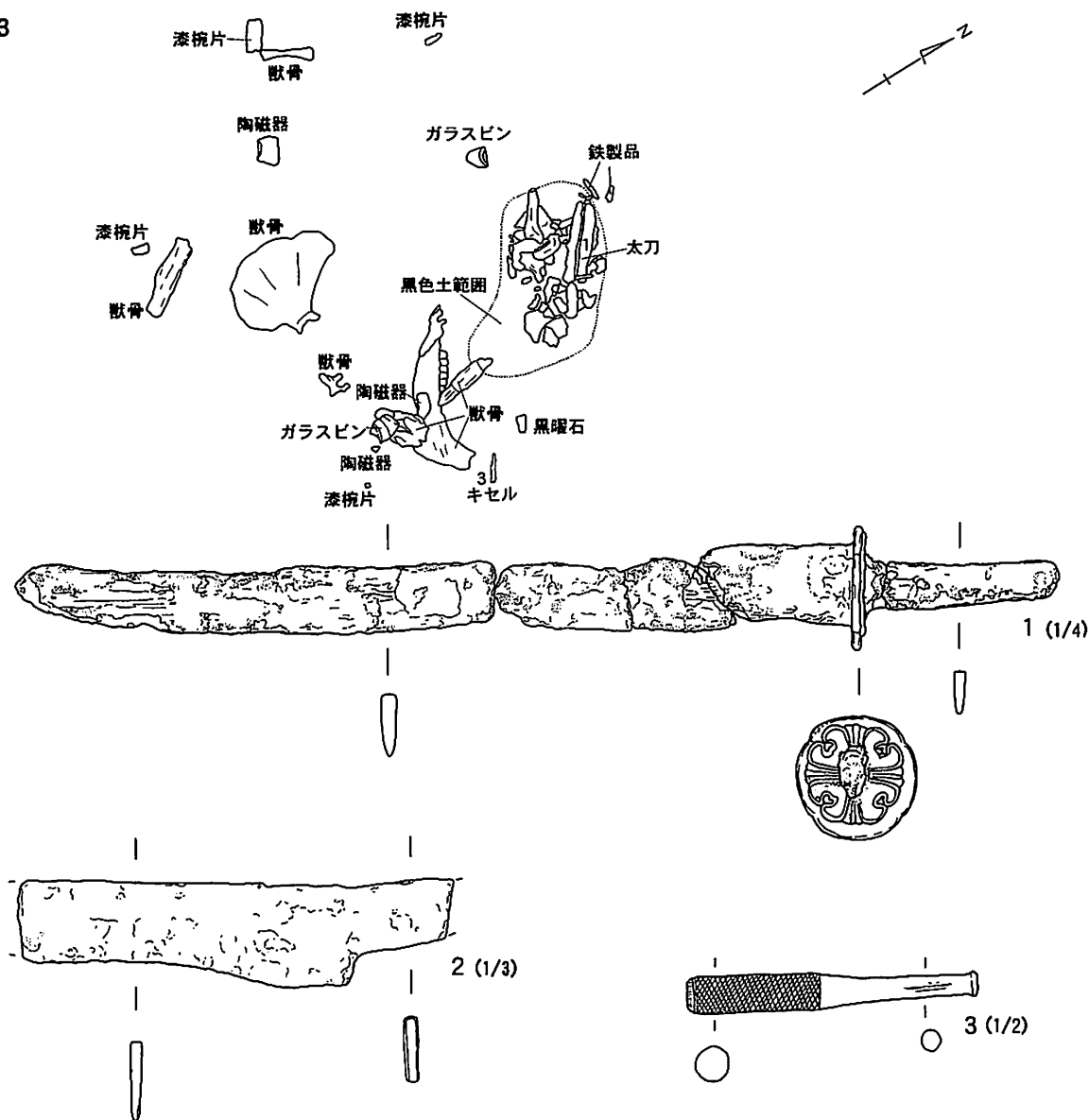
b



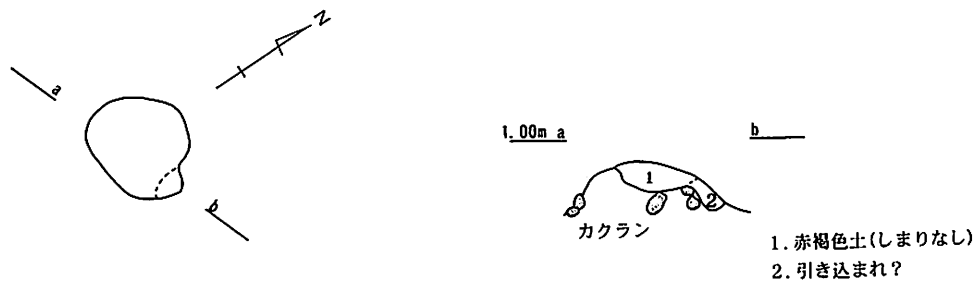
第132図 SM-2 平面図・P-1 平面図と出土遺物



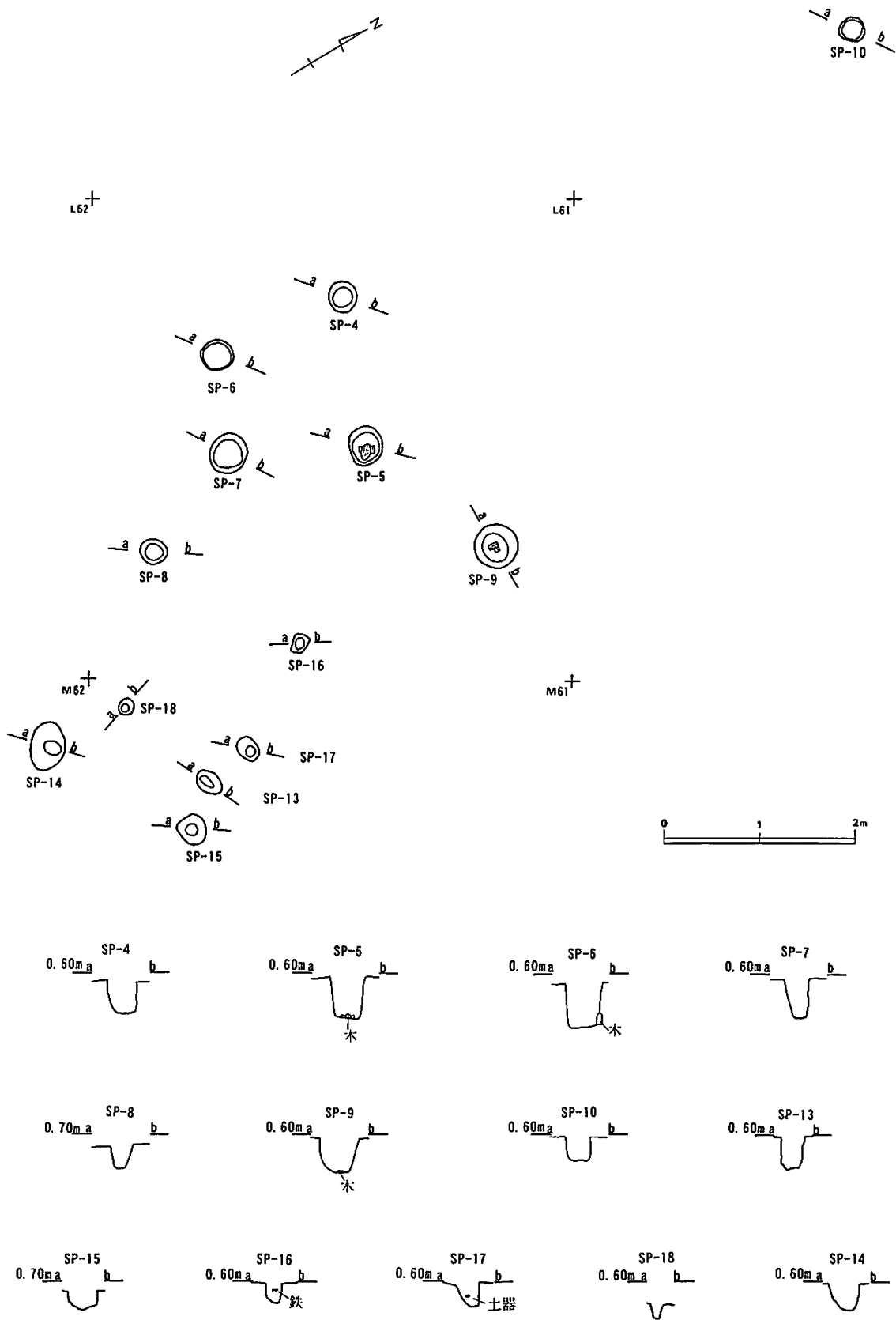
P-3



FP-1

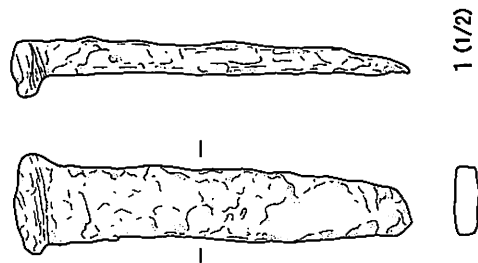
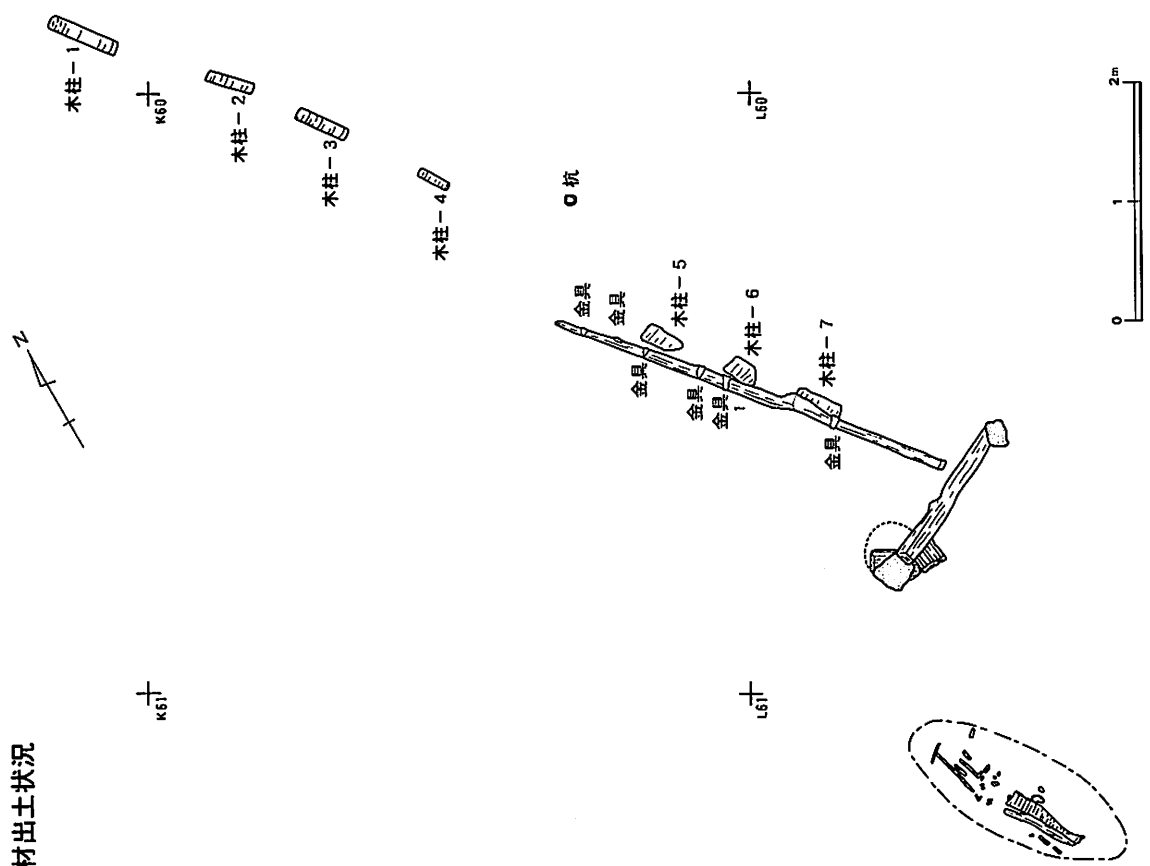


第133図 P-3 平面図と出土遺物・FP-1 平面図



第134図 SP集中配置図

建材出土状況



第135図 建材出土状況と出土遺物

### 3. 遺構外出土の遺物

遺構外出土の遺物は19,640点出土しており、内訳は包含層5,134点、攪乱層（埋立土）14,160点、表採346点となっている。なお、主要な遺物のみについて説明を加えたため個々の遺物については一覧表を参照願いたい。

#### (1) 包含層出土の遺物

包含層は余市川の合流地点に僅かに見られるもので、多くの遺物の大半は攪乱層（埋立土）である。

#### 土器

##### ・第Ⅰ群土器（第136図 No. 1～3）

縄文時代後期前半のニセコ式、涌元式などに相当するもので、胎土に小石粒子を多く含み沈線による曲線文を基調とし、貼付けなどがみられる。

##### ・第Ⅱ群c類（第136図 No. 4～第137図 No. 8）

縄文時代晩期後葉の大洞A～A'式に相当するものである。壺は頸部が直立し肩の張る器形を特徴とするもので、工字文や平行沈線が見られ、胴部に縦位の縄文や条線が施されている。No. 7は浅鉢に付けられたクマを模した動物意匠と思われる。土器の一部分であるため、恵山式の可能性もある。

#### 土製品（第137図 No. 9・10）

No. 9は沈線による曲線が見られるが、破片のために全体の形は不明である。No. 10は土器の破片を円形に加工したものであり、いずれも縄文時代晩期後半に属するものと思われる。

#### 石器

##### ・石 鏃（第138図 No. 11～37）

有茎石鏃で、石質の大半は黒曜石で、長さに比べて幅広のものが多い。No. 37は基部が太いために石銛やナイフとして利用された可能性もある。

##### ・スクレイパー（第138図 No. 38～第139図 No. 57）

不定形の剥片の側縁に刃部を作出しているもので、石質の大半は黒曜石である。No. 45・49・50・51・55は玄武岩の大形剥片であり、縁辺に刃部を作出するものである。石質から切断には適しないことから、皮なめしや土掘具などに使用したと思われる。

##### ・R・F（第139図 No. 58～60）

Retouched flake の略で剥片素材の一部に刃部をもつものである。定型石器とともに多くの剥片はこのような使用をしていたと思われる。

- ・石 斧 (第140図 No.61～67)  
小形の石斧で、欠損しているものが目立つ。製作として自然礫の一部を研磨しているものと敲打して整形し研磨しているものがある。

- ・敲石・砥石・擦石 (第140図 No.68～71)  
いずれも自然礫をそのまま使用しているものである。砥石・擦石 (部分的な摩擦のあるれ礫) とも泥岩利用している。

#### 刀 子 (第140図 No.72)

小刀とも言えるものである。漁師が使用する魚をさばくサバサキ、アイヌ民族の使用するマキリにも類似しているものである。

## (2) 攪乱層出土の遺物

この攪乱層からは縄文時代から近世・近代までの多種多様な人工遺物や動物遺体が混在している。内容的には大川遺跡の遺物と類似することから、この一帯の土砂を大量に利用した埋土と思われる。また、攪乱層の遺物については多くが小破片であるためここでは割愛した。

#### 土 器 (第141図 No. 1～4)

No. 1 は沈線文の下部に結節縄文が多重に施文しているもので、道東における縄文晩期後半の緑ヶ岡式に類似する。No. 2・4 は須恵器で、叩き目痕が見られる。No. 3 は初期の擦文土器である。

#### 土製品 (第141図 No. 5～9)

No. 6～9 は泥面子である。近世・近代に使用されたと思われる遊び道具である。

#### 石 器

- ・石 鏃 (第141図 No.10～24)  
有茎石鏃で、石質の大半は黒曜石で、長さ比べて幅広のものが多い。基部にえぐりのあるものは縄文時代晩期後半の可能性がある。
- ・石 槍 (第141図 No.25)  
厚みのあるもの尖頭器である。スクレイパーとしての使用も考えられる。
- ・ドリル (第141図 No.26～30)  
柄部を有するものと細身との2形態がある。先端部は打撃面の反対側を加工している場合が多く、石質として頁岩、黒曜石が利用されている。
- ・石製ナイフ (第141図 No.31)  
続縄文時代に属するもので、柄部が太く刃部が薄いものである。裏面に剥離痕を残し周縁を加工している。
- ・スクレイパー (第141図 No.32～第142図 No.45)  
不定形の剥片の側縁に刃部を作出しているもので、石質の多くは黒曜石であるが頁岩やチャートも見られる。

・石 斧 (第142図 No.46~51)

製作として自然礫の一部を研磨しているものと敲打して整形し研磨しているものがある。刃部が破損しているものが多く、小形のものにはクサビとして使用された可能性がある。

石製品 (第142図 No.52~54)

No.52は擦痕跡が全体に見られる両端欠損の石製品の破片であり、石棒となる可能性もある。No.53は石製の人形顔であり、首の部分に小穴があることから胴体と一体であると思われる。No.54はサイコロで目はわずかに茶色を帯びていることから、かつては着色していたと思われる。

陶磁器 (第143図 No.55~59)

肥前陶磁器の染付である。No.55は蛇の目高台の浅鉢で、見込部分に重ね焼きの輪痕が見られる。No.58・59は酒徳利で笹文が描かれている。

漆 器 (第143図 No.60・63)

No.60は椀の一部で、底部がわずかに上底となり、外面は茶、内面に赤漆を塗布している。No.63は脚付き行器の一部である。脚部上部の青銅金具で草花の彫刻が見られ、木質部に黒漆が僅かに残存している。アイヌ民族が宝器とするシントコに相当するものである。

骨角器 (第143図 No.61・62)

No.61はシカ骨を加工した中柄である。No.62は歯ブラシの柄の部分を用いたもので、かすかに会社名と思われる刻印が見られるが読み取ることはできない。

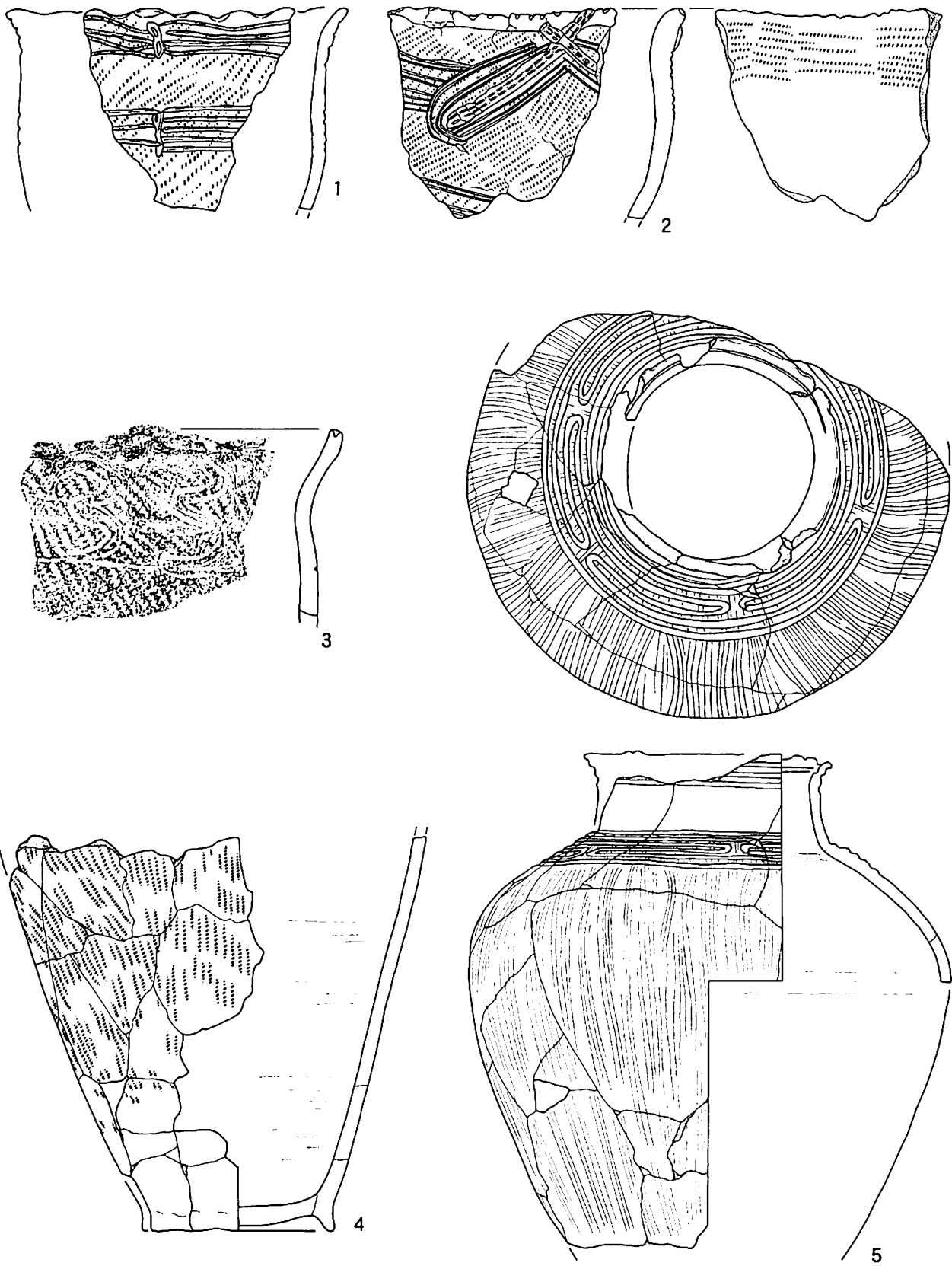
針がねが巻きつけられたままとされており、用途については不明である。

キセル (第144図 No.64~74)

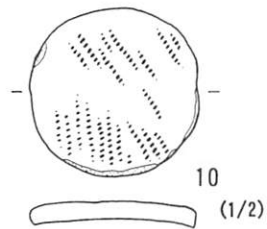
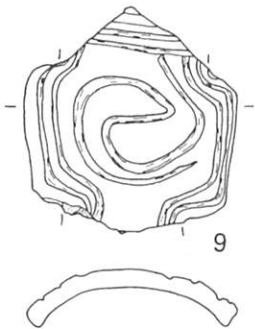
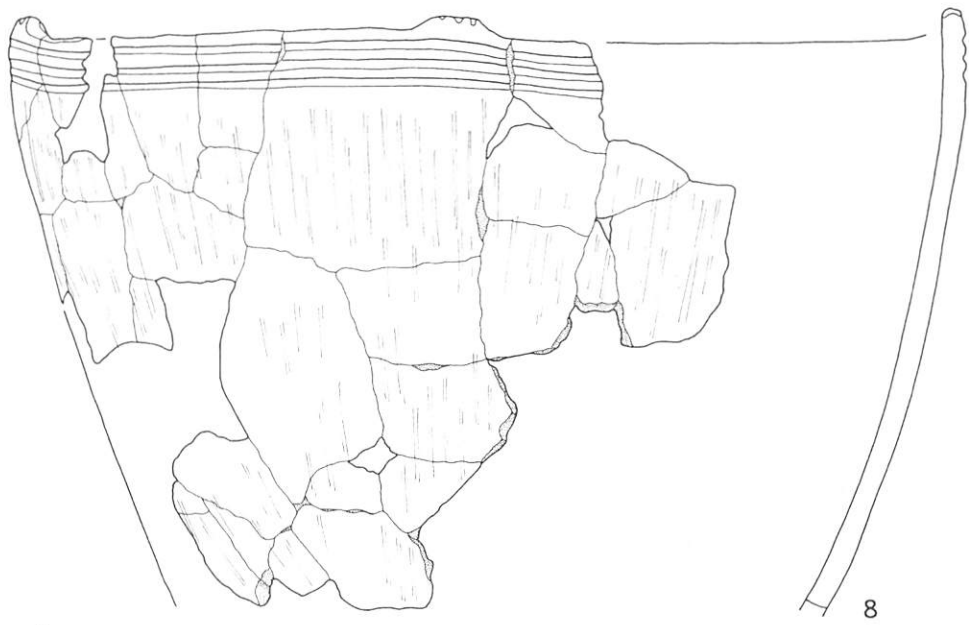
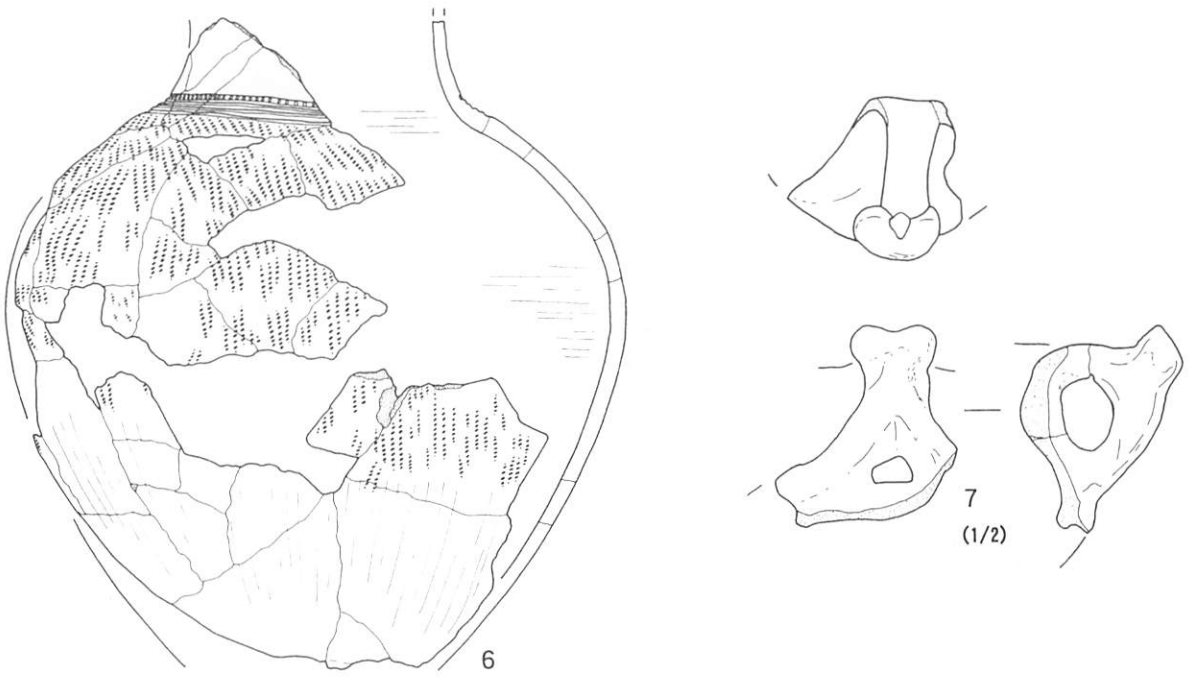
火皿と吸口部分であり、近世後半から近代のものと思われる。

古 銭 (第144図 No.75~81)

No.81は洪武通宝 (明銭1368年) であるが、変形し摩滅も著しく背文字の判読はできない。No.75~80は寛永通宝であり、古寛永 (1636~1659年) と新寛永 (1668年以降) が出土している。

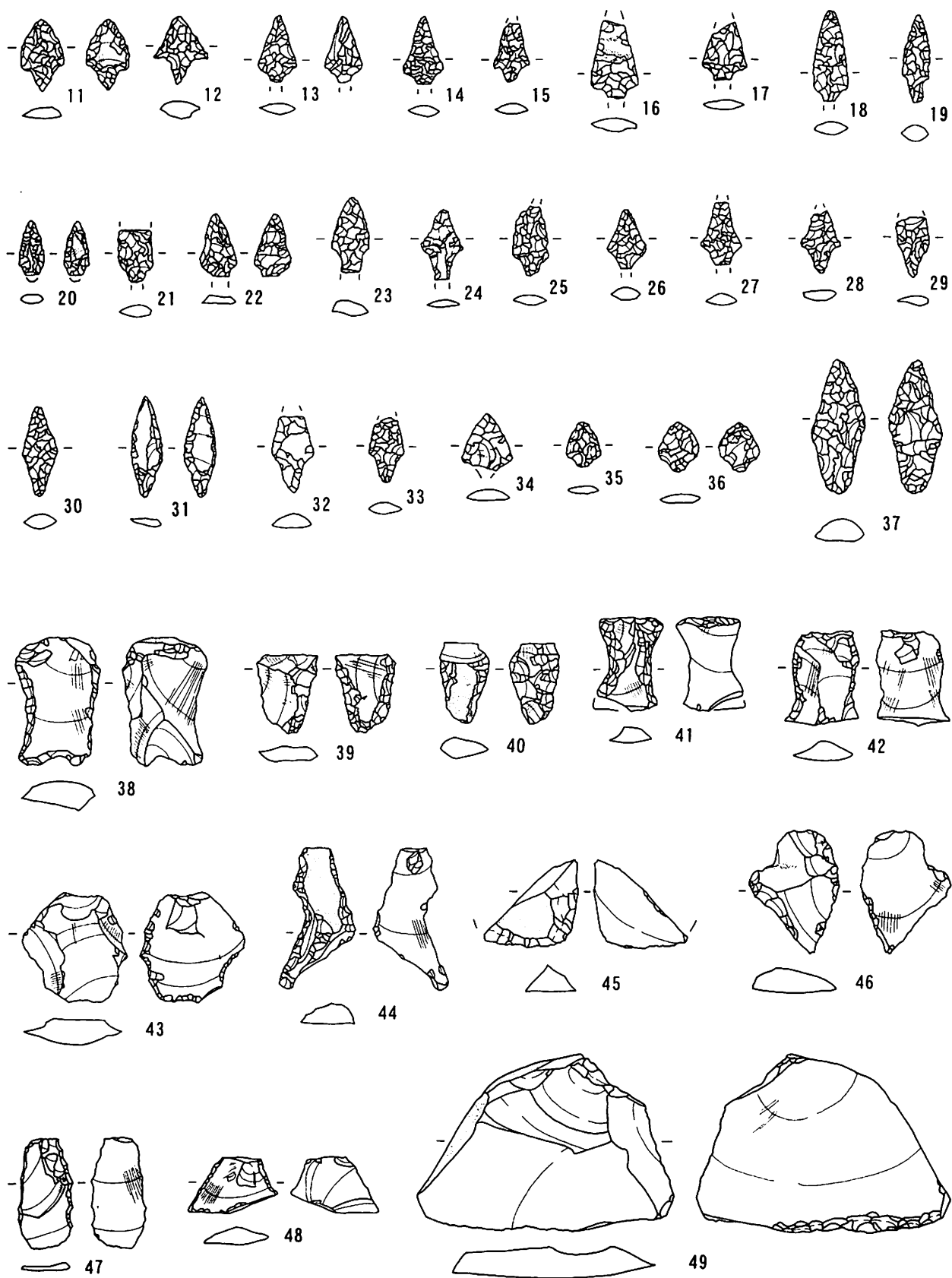


第136図 包含層出土の遺物（1）

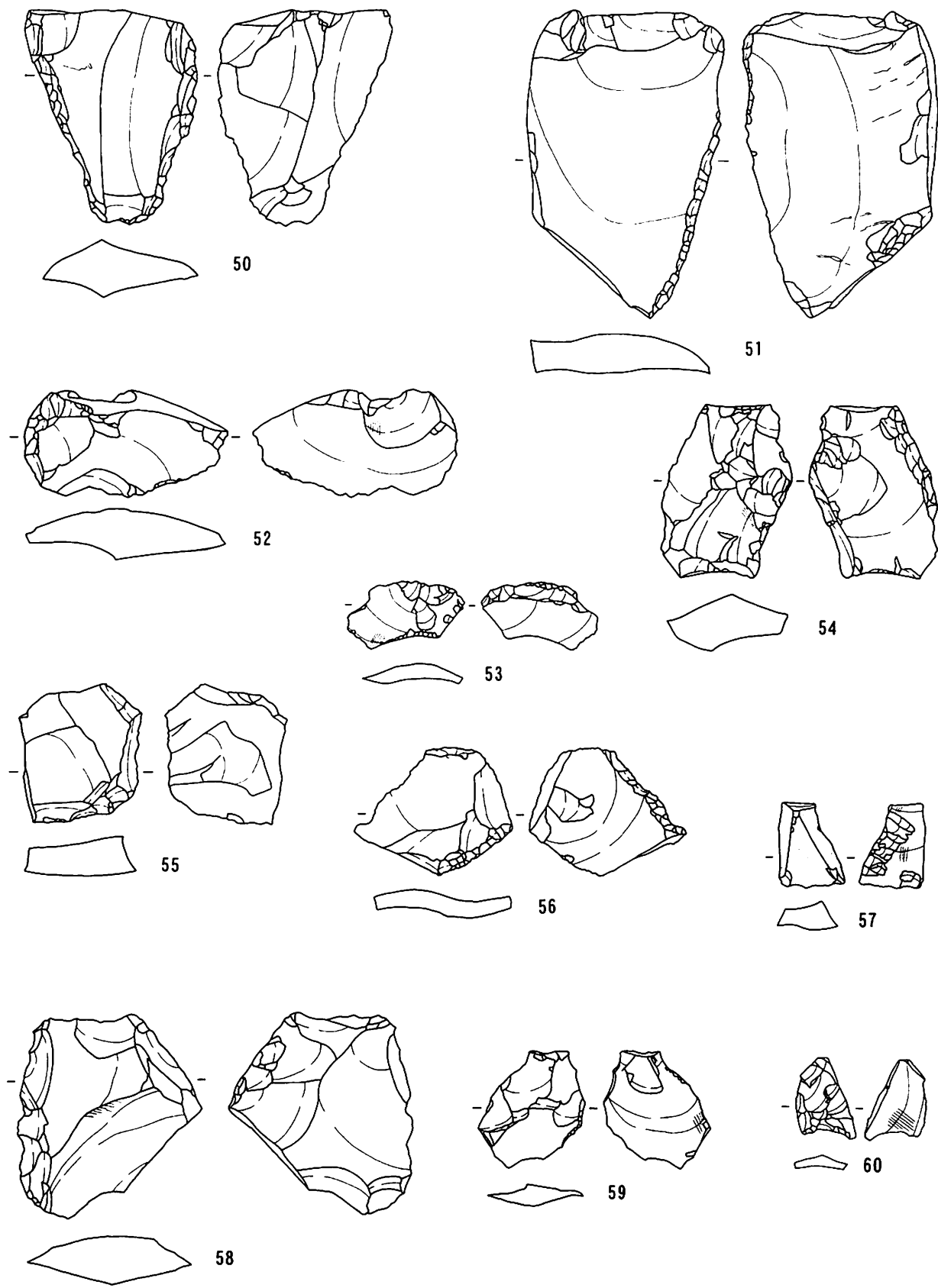


第137図 包含層出土の遺物（2）

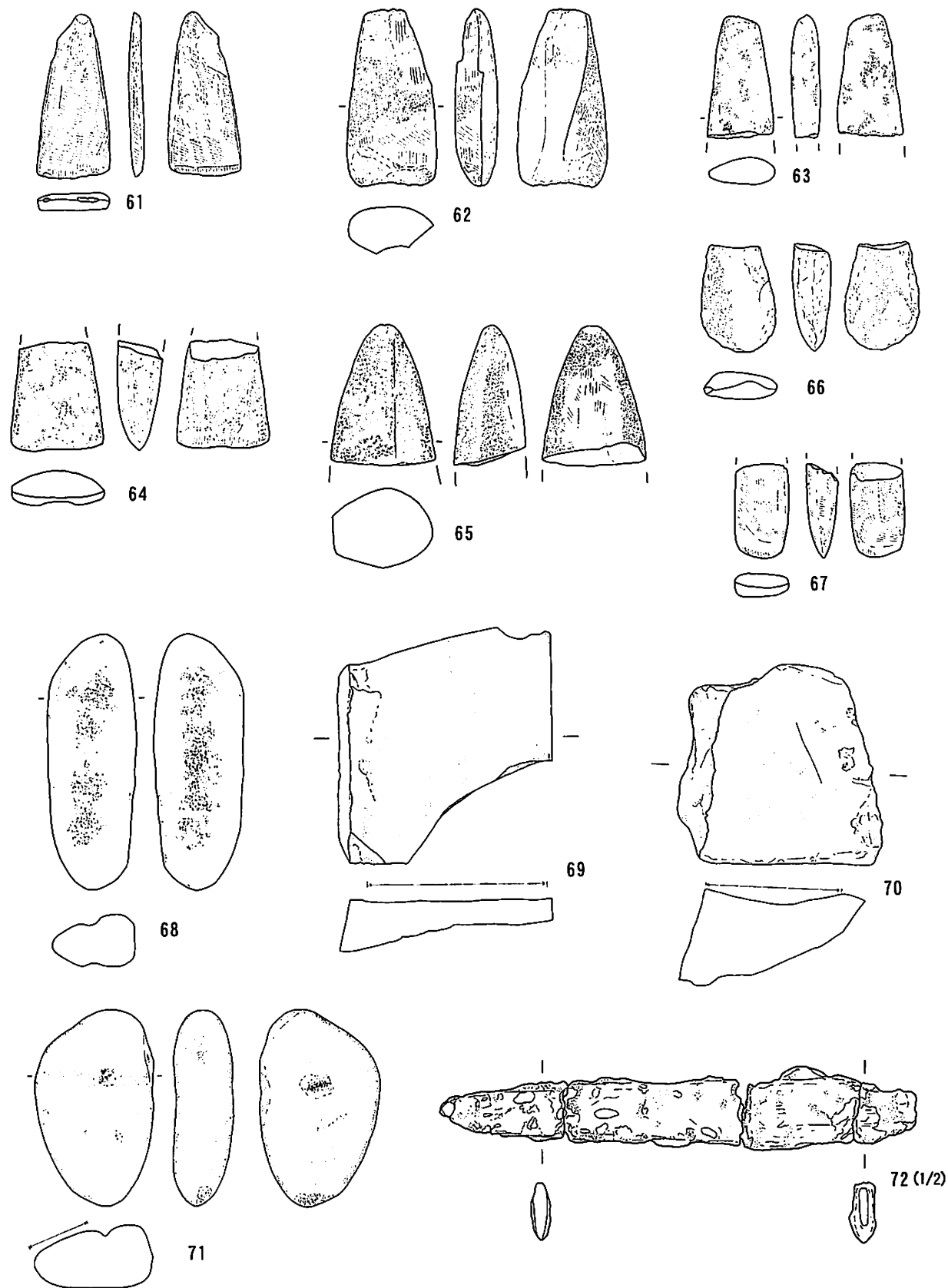




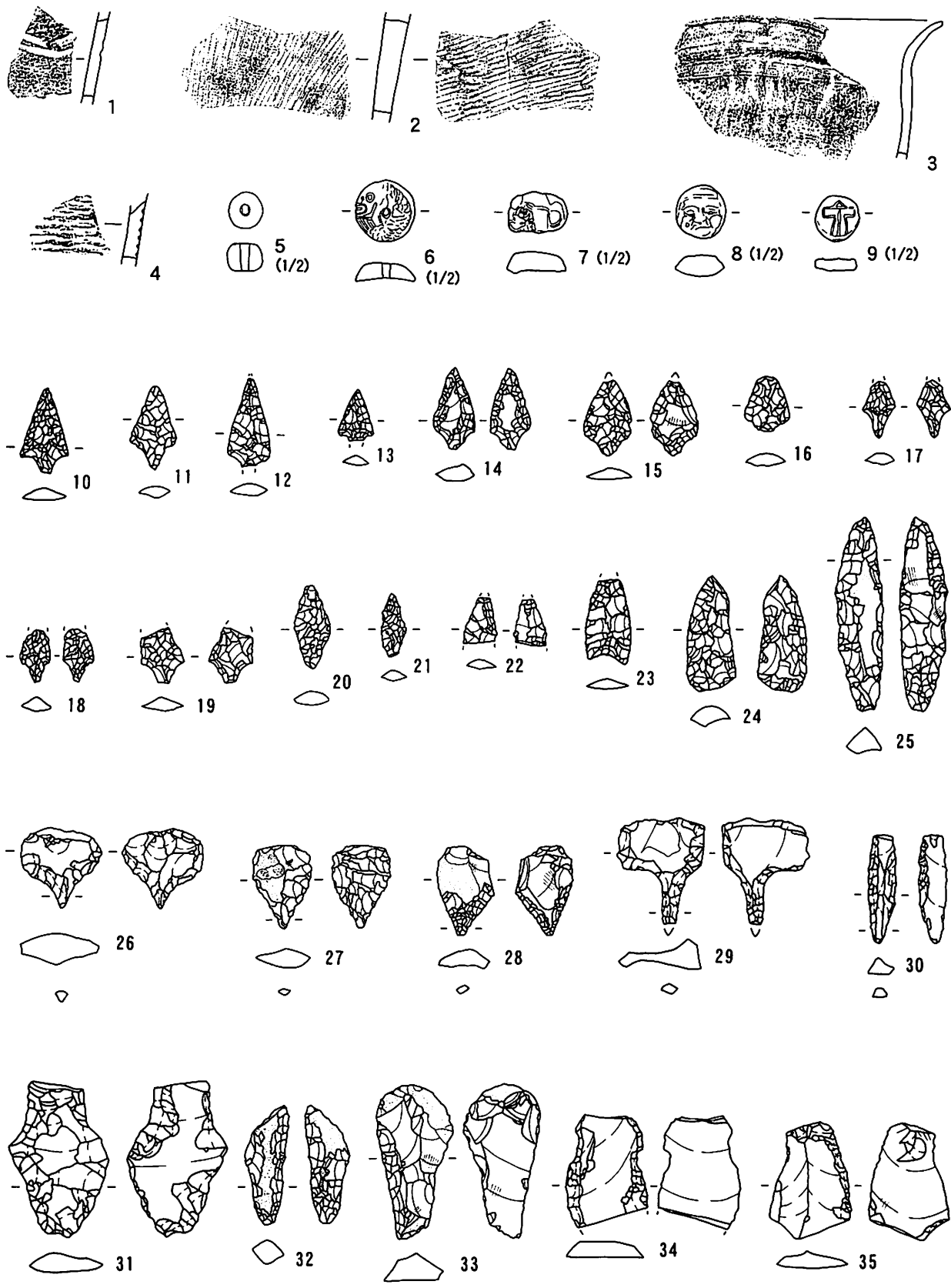
第138図 包含層出土の遺物 (3)



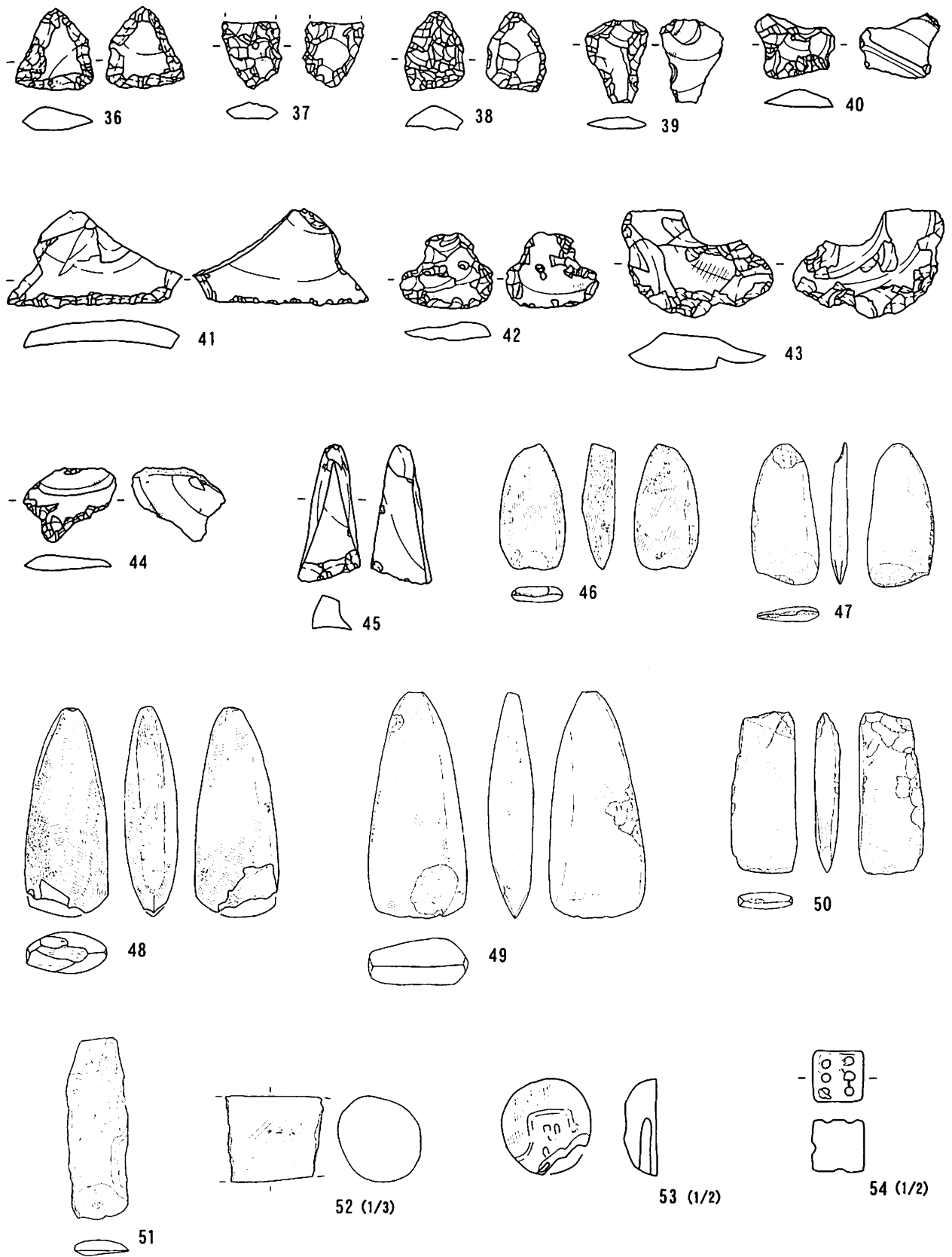
第139図 包含層出土の遺物（4）



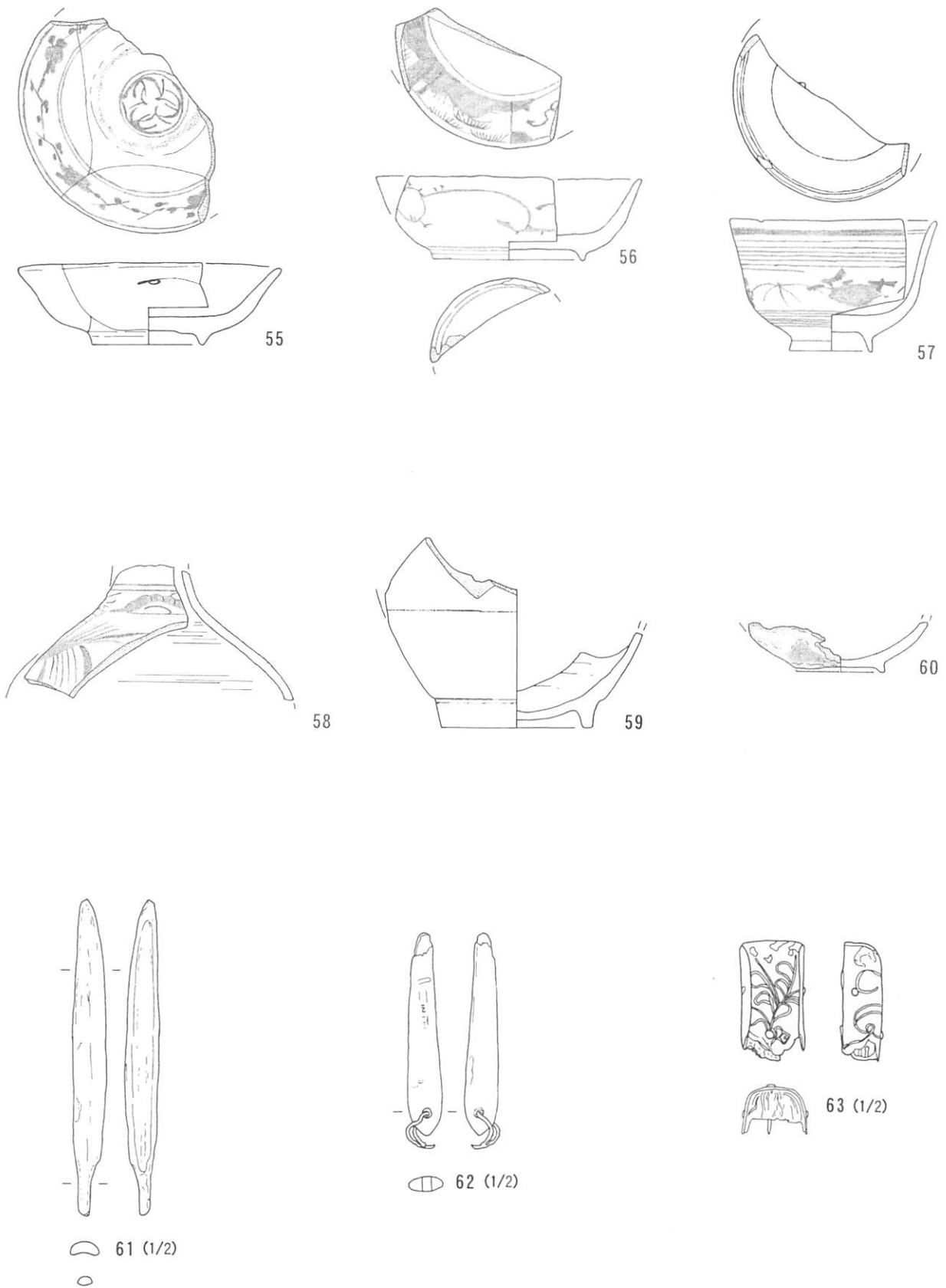
第140図 包含層出土の遺物（5）



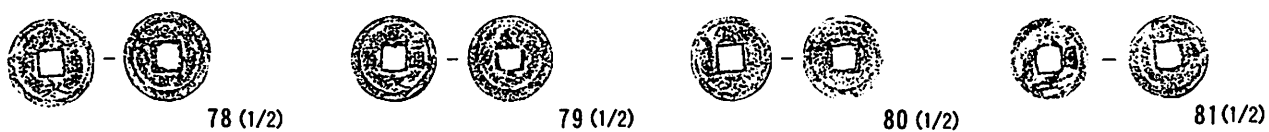
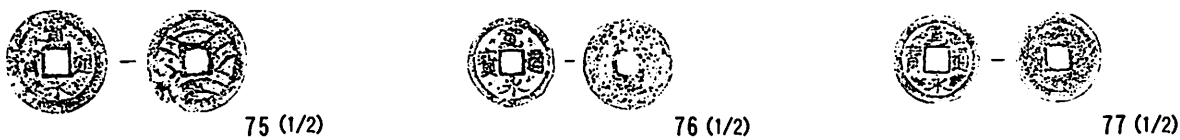
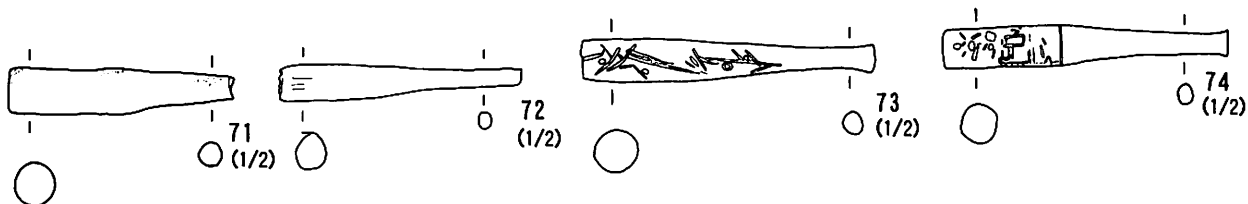
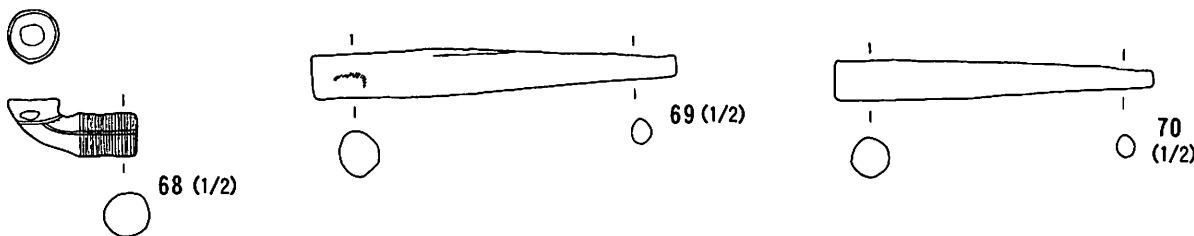
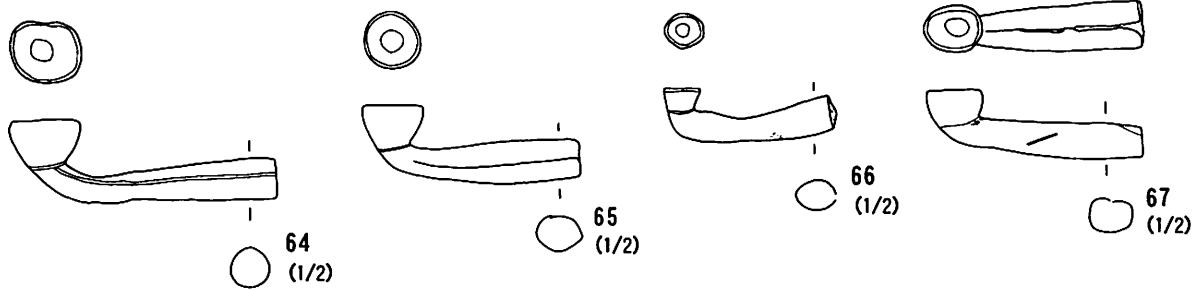
第141図 攪乱層出土の遺物（1）



第142図 攪乱層出土の遺物（2）



第143図 攪乱層出土の遺物（3）



第144図 攪乱層出土の遺物（4）

遺物一覧表 (遺構)

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計 測 値				材 質	備 考
					口 径 長さ (cm)	底 径 幅 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
131-1	SM-1	20	上層	Ⅶ	(6.0)	(3.9)		7.0		
2	SM-1	21	上層	Ⅶ	7.0	3.5		7.6		
3	SM-1	38	上層	Ⅶ				4.7		
4	SM-1	3	上層	Ⅶ	(10.3)	(3.4)		4.4		
5	SM-1	3	上層	Ⅶ				3.5		
6	SM-1	3	上層	Ⅶ				5.0		
7	SM-1	23	上層	キセル	4.8	火皿径 1.2	火皿高 0.6	管径 1.1	銅 製	雁首
8	SM-1	1	上層	Ⅱ c						口縁部 拓本
9	SM-1	33	上層	Ⅲ f						口縁部 拓本
10	SM-1	2	上層	Ⅱ b						底部 拓本
11	SM-1	10	上層	フレイク	4.9	2.5	0.8	7.6 g	黒曜石	
132-1	P-1	1	坑底	Ⅲ b						胴部 拓本
2	O-63		Ⅱ	Ⅳ a	(26.8)			(11.1)		
133-1	P-3	1, 4		太刀	60.0	4.6	0.8		鉄 製	切羽 長さ 5.5cm 厚さ 0.2cm
				鏝	7.1		0.5		銅 製	
2	P-3	15		包丁?	(19.0)	4.5	刀厚 0.5		鉄 製	
3	P-3	6		キセル	8.4	吸口径 0.55		管径 1.0	銅 製	吸口
135-1	K60-2	3	Ⅲ	舟釘	10.9	2.8	0.8	54.4 g	鉄 製	



遺物一覽表 (包含層)

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径 長さ (cm)	底径 幅 (cm)	胴径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
136-1	G54-4		Ⅲ	I	(18.0)		0.5	(10.9)		口縁部 拓本 } 接合
2	G54		Ⅲ	I				(11.6)		
3	G53-4		Ⅲ	I						
4	H55-1		Ⅲ	II c		(10.4)		(21.3)		
	H55-1		Ⅳ							
	H55-4		Ⅲ							
5	H55-4		Ⅲ	II c	(13.5)		26.3	(26.6)		} 接合
	H55-1		Ⅲ							
137-6	H55-1		Ⅲ	II c			(25.6)	(27.0)		} 接合
	H55-1		Ⅳ							
	H55-4		Ⅲ							
7	H55-4		Ⅲ	II c	5.5	5.0				
8	H55-1		Ⅲ	II c	(39.6)			(24.7)		} 接合
	H55-4		Ⅲ							
9	G54-2		Ⅲ	土製品	(9.2)	8.7	2.3			
10	H55-1		Ⅲ	円形土器片	4.6	4.7	0.6			
138-11	H55-1		Ⅲ	石鏃	2.6	1.6	0.4	1.1 g	黒曜石	
12	H55-3		Ⅲ	石鏃	2.5	1.9	0.65	1.5 g	黒曜石	
13	G54		Ⅲ	石鏃	(2.4)	1.4	0.4	(0.9)g	黒曜石	
14	G53-4		Ⅲ	石鏃	(2.5)	1.45	0.4	(1.0)g	黒曜石	
15	G54-2		Ⅲ	石鏃	(2.1)	1.3	0.35	(0.7)g	黒曜石	
16	H55-1		Ⅲ	石鏃	(2.85)	1.7	0.5	(1.6)g	黒曜石	
17	G55-2		Ⅲ	石鏃	(2.1)	1.65	0.35	(0.9)g	黒曜石	
18	G54		Ⅲ	石鏃	(3.3)	1.3	0.5	(1.5) g	黒曜石	
19	G54		Ⅲ	石鏃	(3.2)	1.0	0.6	(1.5)g	黒曜石	
20	I56-1		Ⅲ	石鏃	(2.0)	0.95	0.3	(0.6)g	黒曜石	
21	H55-3		Ⅲ	石鏃	(1.9)	1.3	0.45	(1.1)g	黒曜石	
22	I56-1		Ⅲ	石鏃	(2.3)	1.35	0.3	(0.8)g	黒曜石	
23	G54		Ⅲ	石鏃	(2.7)	1.4	0.55	(1.6)g	黒曜石	
24	G53-4		Ⅲ	石鏃	(2.5)	1.55	0.25	(0.9)g	チャート	
25	G55-2		Ⅲ	石鏃	(2.45)	1.3	0.4	(0.7)g	黒曜石	
26	G53-4		Ⅲ	石鏃	(2.1)	1.4	0.45	(0.6)g	黒曜石	
27	H55-3		Ⅲ	石鏃	(2.25)	1.5	0.4	(0.9)g	黒曜石	
28	H55-4		Ⅲ	石鏃	(2.25)	1.5	0.35	(0.9)g	黒曜石	
29	G55-2		Ⅲ	石鏃	(2.15)	1.25	0.35	(0.8)g	黒曜石	
30	G54		Ⅲ	石鏃	3.2	1.3	0.5	1.5 g	黒曜石	
31	G53-1		Ⅲ	石鏃	3.6	1.15	0.3	1.3 g	黒曜石	
32	G55-2		Ⅲ	石鏃	(2.75)	1.5	0.5	(1.8)g	黒曜石	
33	G55-2		Ⅲ	石鏃	(2.3)	1.3	0.4	(0.9)g	黒曜石	
34	H55-4		Ⅲ	石鏃	(2.1)	1.85	0.4	(1.2)g	黒曜石	
35	H55-3		Ⅲ	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.6 g	黒曜石	
36	H55-1		Ⅲ	石鏃	1.8	1.5	0.3	0.7 g	黒曜石	
37	G53-4		Ⅲ	石鏃	4.8	2.0	0.8	6.3 g	黒曜石	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口 径 長さ (cm)	底 径 幅 (cm)	胴 径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
138-38	H55-1		Ⅲ	スクレイパー	4.6	3.1	1.1	14.4 g	黒曜石	
39	F54-1		Ⅲ	スクレイパー	2.9	2.2	0.6	2.9 g	黒曜石	
40	G54		Ⅲ	スクレイパー	2.9	1.8	0.8	3.0 g	黒曜石	
41	H55-4		Ⅲ	スクレイパー	(3.4)	2.4	0.6	(5.1)g	黒曜石	
42	G54-2		Ⅲ	スクレイパー	3.4	2.8	0.7	6.1 g	黒曜石	
43	H56-2		Ⅲ	スクレイパー	4.0	3.9	1.0	12.4 g	黒曜石	
44	H56-2		Ⅲ	スクレイパー	5.2	2.8	0.8	6.3 g	黒曜石	
45	G55-2		Ⅲ	スクレイパー	3.2	3.5	1.0	7.8 g	玄武岩	
46	H56-3		Ⅲ	スクレイパー	4.5	3.3	0.9	10.2 g	黒曜石	
47	G53-4		Ⅲ	スクレイパー	4.0	2.0	0.3	3.0 g	黒曜石	
48	H55-1		Ⅲ	スクレイパー	2.1	3.3	0.6	3.9 g	黒曜石	
49	H55-4		Ⅲ	スクレイパー	6.4	9.3	1.1	69.5 g	玄武岩	
139-50	G55-2		Ⅲ	スクレイパー	7.8	6.3	2.1	93.0 g	玄武岩	
51	H55-4		Ⅲ	スクレイパー	11.1	7.0	1.5	150.4 g	玄武岩	
52	H55-1		Ⅲ	スクレイパー	3.8	7.3	1.8	41.2 g	頁 岩	
53	H56-2		Ⅲ	スクレイパー	2.5	4.3	0.7	5.4 g	黒曜石	
54	H55-4		Ⅲ	スクレイパー	6.2	4.7	2.1	48.8 g	頁 岩	
55	G55-2		Ⅲ	スクレイパー	5.1	4.4	1.4	38.2 g	玄武岩	
56	H55-4		Ⅲ	スクレイパー	4.6	5.8	1.0	25.6 g	頁 岩	
57	G55-2		Ⅲ	スクレイパー	3.1	2.4	1.0	7.4 g	黒曜石	
58	G55-2		Ⅲ	R・F	7.3	6.7	1.8	77.0 g	玄武岩	
59	H55-1		Ⅲ	R・F	4.2	4.0	0.8	9.2 g	頁 岩	
60	H56-2		Ⅲ	R・F	3.0	2.2	0.5	2.5 g	黒曜石	
140-61	G53-4		Ⅲ	石斧	9.0	4.1	0.9	44.4 g	ハンレイ岩	
62	H56-2		Ⅲ	石斧	9.7	5.1	2.6	(150.6)g	ハンレイ岩	
63	G55-2		Ⅲ	石斧	(6.8)	(3.8)	1.5	(62.5)g	泥 岩	
64	H55-1		Ⅲ	石斧	(5.9)	5.2	2.6	(116.0)g	泥 岩	
65	H55-4		Ⅲ	石斧	(7.5)	(6.0)	4.3	(229.0)g	泥 岩	
66	G55-3		Ⅲ	石斧	(5.9)	2.2	4.3	(75.0)g	泥 岩	
67	H55-1		Ⅲ	石斧	(5.2)	3.1	1.8	(43.6)g	泥 岩	
68	H55-4		Ⅲ	敲石	14.0	5.0	2.9	310.0 g	安山岩	
69	G53-4		Ⅲ	砥石	(12.7)	(12.1)	(2.8)	(396.0)g	泥 岩	
70	L62		Ⅲ	擦石	11.0	(11.6)	(5.3)	(750.0)g	泥 岩	
71	G55-2		Ⅲ	敲石・擦石	10.5	6.7	3.4	225.0 g	安山岩	
72	N62		Ⅲ	刀子	17.9	2.9	1.0		鉄 製	

遺物一覧表 (攪乱層)

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径 長さ (cm)	底径 (cm)	胴径 厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
141-1	L 60		攪乱	II						胴部 拓本
2	L 61		攪乱	IV c						胴部 拓本
3	M63-3		攪乱	IV c						口縁部 拓本
4	I 57		攪乱	IV c						胴部 拓本
5	F 54		攪乱	土製玉	径 1.2	孔径 0.35	1.0	1.6 g		
6	K 60		攪乱	泥面子	2.2	2.15	0.65	2.4 g	土製	鯛
7			攪乱	泥面子	1.5	2.15	0.8	1.8 g	土製	牛
8	K 60		攪乱	泥面子	1.95	1.8	0.8	2.2 g	土製	顔
9	L 60		攪乱	泥面子	1.6	1.6	0.5	1.2 g	土製	奴
10	G 54		攪乱	石鏃	3.1	1.8	0.5	1.6 g	黒曜石	
11			攪乱	石鏃	3.05	1.7	0.4	1.5 g	黒曜石	
12	K 61		攪乱	石鏃	(3.2)	1.5	0.4	(1.7)g	黒曜石	
13	K 61		攪乱	石鏃	(1.9)	1.3	0.4	(0.7)g	黒曜石	
14	F 53		攪乱	石鏃	3.0	1.5	0.6	2.3 g	黒曜石	
15	K 60		攪乱	石鏃	(2.7)	1.8	0.4	(1.6)g	黒曜石	
16			攪乱	石鏃	2.0	1.6	0.45	1.2 g	黒曜石	
17	G 56		攪乱	石鏃	(2.1)	1.3	0.4	(0.7)g	黒曜石	
18	M 62		攪乱	石鏃	(1.9)	1.1	0.5	(0.9)g	黒曜石	
19	M 62		攪乱	石鏃	(2.0)	1.6	0.5	(1.4)g	黒曜石	
20			攪乱	石鏃	3.0	1.3	0.5	1.4 g	黒曜石	
21	G 53		攪乱	石鏃	2.3	0.9	0.4	0.7 g	黒曜石	
22	K 60		攪乱	石鏃	(1.7)	1.2	0.4	(0.6)g	黒曜石	
23	M 61		攪乱	石鏃	(3.1)	1.7	0.4	(1.9)g	黒曜石	
24	M 63		攪乱	石鏃	4.2	1.8	0.8	4.9 g	黒曜石	
25	F 53		攪乱	石槍	7.1	1.3	1.0	10.6 g	黒曜石	
26			表採	ドリル	2.9	2.9	1.1	6.5 g	頁岩	
27			表採	ドリル	3.0	2.1	0.7	3.5 g	黒曜石	
28	L 62		表採	ドリル	(3.3)	2.1	0.7	(3.4)g	黒曜石	
29	N 64		表採	ドリル	(3.9)	3.2	1.1	(6.9)g	頁岩	
30			表採	ドリル	4.0	1.0	0.6	2.3 g	頁岩	
31	N 64		表採	ナイフ	5.6	3.7	0.7	10.2 g	チャート	
32	M 63		表採	ドリル	4.3	1.5	0.9	5.2 g	黒曜石	
33	L 61		表採	スクレイパー	5.6	2.8	1.0	16.2 g	黒曜石	
34	K 61		表採	スクレイパー	4.1	3.0	0.6	9.2 g	頁岩	
35	K 61		表採	スクレイパー	4.3	3.0	0.7	7.6 g	頁岩	
142-36	L 61		表採	スクレイパー	3.0	2.9	0.9	7.6 g	頁岩	
37	L 62		表採	スクレイパー	2.4	2.3	0.6	2.9 g	黒曜石	
38	M 63		表採	スクレイパー	2.9	2.2	0.9	5.3 g	黒曜石	
39	N 64		表採	スクレイパー	(3.1)	2.3	0.5	(2.5)g	黒曜石	
40	M 62		表採	スクレイパー	2.4	3.0	0.6	3.9 g	黒曜石	
41	G 54		表採	スクレイパー	3.0	6.5	1.0	20.2 g	チャート	
42	N 64		表採	スクレイパー	2.8	3.4	0.7	5.5 g	黒曜石	
43	G 54		表採	スクレイパー	4.0	5.6	1.4	19.0 g	チャート	

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ (cm)	底径幅 (cm)	胴径厚さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
142-44	N64		攪乱	スクレイパー	2.7	3.4	0.6	4.5 g	黒曜石	
45	N64		攪乱	スクレイパー	5.0	2.3	1.3	11.8 g	頁岩	
46	M63		攪乱	石斧	7.0	3.6	0.9	60.5 g	泥岩	
47			攪乱	石斧	7.9	3.6	1.2	44.0 g	泥岩	
48	K60		攪乱	石斧	11.4	4.7	2.3	(213.0)g	泥岩	
49			攪乱	石斧	12.4	5.5	2.5	266.0 g	泥岩	
50			攪乱	石斧	9.0	3.6	1.4	89.0 g	泥岩	
51			攪乱	石斧	(10.0)	(3.0)	(1.1)	(58.0)g	泥岩	
52	M61		攪乱	石製品	5.4	4.8	4.6	185.0 g	安山岩	
53			攪乱	石製品	(3.5)	3.3	1.0	(11.6)g	泥岩	
54			攪乱	サイコロ	1.9	1.9	1.9	9.6 g	泥岩	
143-55	L60		攪乱	VI a	(14.0)	(6.0)		4.4		肥前
56			攪乱	VI a	(14.1)	(8.0)		4.5		肥前
57			攪乱	VI a	(11.0)	(2.5)		7.1		肥前
58			攪乱	VI a				(7.1)		肥前
59	M63		攪乱	VI a		8.0		10.2		肥前
60	L61		攪乱	漆器		(4.8)		(2.6)	木製	椀
61			攪乱	骨角器	11.2	1.25	0.5	5.8 g	シカ骨製	中柄
62	M63		攪乱	骨角器	7.15	1.2	0.55	4.2 g	家畜骨製	歯ブラシの柄
63	I57		攪乱	行器	(4.3)	2.3			銅製	脚金具
144-64	M63		攪乱	キセル	7.4	火皿径 1.9 火皿高 1.1	火皿高 1.1 管径 1.1	管径 1.1	銅製	雁首
65	K60		攪乱	キセル	6.1	火皿径 1.6 火皿高 1.1	火皿高 1.1 管径 1.3	管径 1.3	銅製	雁首
66	L61		攪乱	キセル	4.8	火皿径 1.1 火皿高 0.6	火皿高 0.6 管径 1.1	管径 1.1	銅製	雁首
67	K60		攪乱	キセル	6.0	火皿径 1.6 火皿高 1.0	火皿高 1.0 管径 1.2	管径 1.2	銅製	雁首
68	N64		攪乱	キセル	3.6	火皿径 1.4 吸口径 0.6	火皿高 0.6 管径 1.3	管径 1.3	銅製	雁首
69	M63		攪乱	キセル	10.2	吸口径 0.6	管径 1.1	管径 1.1	銅製	吸口
70	N62		攪乱	キセル	8.9	吸口径 0.5	管径 1.1	管径 1.1	銅製	吸口
71	M63		攪乱	キセル	(6.2)	吸口径 0.7	管径 1.1	管径 1.1	銅製	吸口
72	L61		攪乱	キセル	6.7	吸口径 0.4	管径 0.8	管径 0.8	銅製	吸口
73			攪乱	キセル	8.1	吸口径 0.6	管径 1.2	管径 1.2	銅製	吸口
74	L61		攪乱	キセル	8.0	吸口径 0.5	管径 1.0	管径 1.0	銅製	吸口
75			攪乱	古銭	2.85		0.1	4.8 g		「寛永通宝」背11波
76	G54		攪乱	古銭	2.3		0.1	3.1 g		「寛永通宝」古寛永
77	K60		攪乱	古銭	2.35		0.1	3.0 g		「寛永通宝」
78			攪乱	古銭	2.4		0.1	2.9 g		「寛永通宝」
79			攪乱	古銭	2.3		0.1	2.9 g		「寛永通宝」
80	N64		攪乱	古銭	2.2		0.1	2.6 g		「寛永通宝」
81	O63		攪乱	古銭	2.2		0.1	3.0 g		「洪武通宝」

旧河口港地点 遺物集計表

遺構等	層位	土器 (完形) 総数	石					器			類			土製品	金属			陶磁器	その他	合計	
			石罨 石棺	スクレイパ ナイフ	ドリル	R・F	コア フレイク	石斧	擦石 砥石	原石 礫	刀	キセル	古銭		その他	ガラス玉	その他				
P-1		1																		1	
P-3		1						1						1					1		6
石組炉-1		34						5				11							21		71
石組炉-2		7						2				1							20		30
SP-4		2																	1		2
SP-7		1																	1		2
SP-8																			1		1
SP-9																			1		1
SP-13		1																			1
SP-16		1																	1		2
SP-17																				2	2
SM-1		42						9				1							31		84
建材集中																				7	7
小計		90						17				13		1	2				77		225
包含層	II	32																			32
	III	4,435	30	17			2	596	10	4	5	2						1			5,102
攪乱層		5,726	20	49	4	4	13	1,164	8	8	4	5		11	11	88	10	7,040	14	14,175	
表探		202	3	2			1	48											90		346
小計		10,394	53	66	6	6	16	1,808	18	12	9	7		11	12	88	10	7,130	14	19,655	
合計		10,485	53	66	6	6	16	1,825	18	12	21	7		1	13	98	10	7,207	14	19,880	

## 第V章 ま と め

今年度の発掘区は、すでに新大川橋と道道の切り替え工事も終了したために、旧道道下の道道地点、町道下の迂回路地点、余市川の支流である登川との合流場所にあたる旧河口港地点の3ヵ所となり、いずれもかつての調査区に隣接する。特に道道地点はこれまでの発掘区の中央部にあたり、ようやく遺跡の全体が把握できたと言える。

大川遺跡は、余市市街地の中央を流れる余市川河口の右岸に位置し標高約2～5mの砂丘上に立地し、道道・迂回路地点はI層の表土・II層の黒色土層・III層の茶褐色砂層は舗装道路の関係でほとんど消失していたが、幸いに続縄文時代の遺構として多くの墓坑が確認された。旧河口港地点は殆どが攪乱層（埋立土）であるが、遺構として近代の石組炉や貝塚が発見されている。

次に各地点の遺構と遺物の概要と成果について述べてみたい。

道道地点では墓坑78基が確認され、その大半は続縄文時代前半の恵山式期のものである。恵山式期の墓坑形態はほぼ円形を呈し径1～1.5mを測り、遺体は東頭位を意識した屈葬で、副葬品が多くみられる。ベンガラが厚く散布され、頭部付近に土器が1～2個置かれることが多く、石器として石鏃、ナイフ、魚形石器、また剥片の集中もみられる。土器の器形については一般的な深鉢、浅鉢、壺以外に小型土器（ウニ形、扁平小判形）の伴出もみられる。これらを伴うものは筆者の恵山II式段階のものであり、以後には製作されないようである。

北大III式に相当する墓坑も1基確認された。攪乱のため形態は判然としないが3個体の土器が副葬されており、坏には印と思われる「×」が底部に刻まれており、擦文土器の坏にみられる底部刻印の初期段階のものとして重要である。

迂回路地点では墓坑48基が確認された。時期は恵山式期、後北式期、北大式期？、近世・近代のアイヌ文化期のものである。その中で特記すべき点は後北C<sub>2</sub>-D式期の墓坑群とともに弥生系の墓坑が1基発見されたことである。これまでの調査で知られていなかった時期のものであり重要である。

後北式期の墓坑は円形または楕円形を呈し、径1～1.5mを測る。遺体は東頭位の屈葬でベンガラが散布されているものもある。副葬品として土器、石器として石鏃、装身具としてガラス玉がみられる。しかし、恵山式期と比較して副葬品は数点程度であり、その量は急激に減少する傾向がある。弥生系の墓坑は円形を呈するもので径約1.2mを測る。遺体はほとんど痕跡がないが玉の位置から東頭位の屈葬と推定される。厚くベンガラが散布されており、副葬品として土器1点、石器として石鏃1点、剥片の集中、装身具として水色と藍色のガラス玉が35点も確認された。恐らくこれらの玉は本州の弥生文化の文物として搬入されたものであろう。また、続縄文時代後半と思われる時期の墓坑が数基発見された。形態は楕円形を呈し、長軸約1.5m、短軸約1.2m前後を測り、東頭位の屈葬である。副葬品に玉類のみがみられるものである。玉についてはガラス玉、土玉、石製玉の組み合

わせがある。この土玉については草炭や泥炭などを加工したもので1989年度に確認されたG P-102の墓坑で北大Ⅱ式土器とともに副葬されていた。このことから土玉の副葬された墓坑については北大式期の可能性が考えられる。

旧河口港地点は縄文時代後期～晩期の遺物が見られ、遺構として近代の貝塚と石組炉跡が発見された。遺物から明治時代に相当すると思われるが、川岸であるためにたびたび河川の氾濫にあったと思われる。その後は埋め立てられ漁船の係留地として利用され、今日に至ったものと考えられる。

次に壕状遺構であるが大川遺跡の全体に走るものである。北東から南西方向にみられる基本となる壕状遺構MO-10は延長約180mにもおよび、直交して10～20mもの壕が見られるが今回の調査においても確認された。遺構に伴う遺物はなく、年代については明確にできなかったが、壕の一部において、壕の堀直しや切り合いが確認された。

以上のように概況を記してきたが、1989～1994・1998～2001・2003年度にわたる大川遺跡の発掘調査は今年で終了した。これまでの発掘調査による墓坑は約1200基を越えており、縄文時代晩期から近世・近代までの変遷についての膨大な資料が蓄積されている。今年度の調査をふまえると、大川遺跡における墓坑群はほぼ全体像が把握されたことになり、年代とともに墓域が移動していることが確認でき、墓域ごとの詳細な比較・検討が重要な課題といえる。

大川遺跡は北海道小樽土木現業所による余市川改修および大川橋線街路事業に伴う緊急発掘によって約30000㎡が調査されたが、現在は掘削され、その殆どは河川となっており、その面影は写真を含む記録でしか見ることができない。しかし、出土した遺物は約200万点もあり、今後も遺構・遺物の調査および研究を通して、大川遺跡の歴史的変遷について解明していかねばならないと考えている。

【引用・参考文献：50音順】

- 青野友哉 1999「碧玉製管玉と琥珀製玉類から見た縄文文化の特質」『北海道考古学』35  
1999「大洞～恵山式土器の墓と副葬品」『海峡と北の考古学』
- 石井 淳 1997「北日本における後北C<sub>2</sub>-D式期の集団様相」『物質文化』63  
1998「後北式期における生業の転換」『考古学ジャーナル』439
- 石狩町教育委員会 1976『Wakkaoi』  
1977『Wakkaoi』Ⅱ  
1984『紅葉山33号遺跡』
- 石本省三 1984「北海道南部の縄文文化」『北海道の研究』1
- 乾 芳宏 1998「恵山文化の北方伝播について」『列島の考古学』  
2002「縄文時代晩期から縄文時代への墓壇の変遷について」『地域考古学の展開』  
2002「天内山遺跡出土の縄文土器について」『余市水産博物館研究報告』5
- 上野秀一 1992「北海道における天王山式系土器について」『東北文化論のための先史学歴史論集』
- 江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究辞典』
- 恵庭市教育委員会 1981『柏木B遺跡』
- 江別市教育委員会 1981『元江別遺跡群』
- 大賀克彦 2001「弥生時代における管玉の流通」『考古学雑誌』86-4
- 大島秀俊 1991「後北C<sub>2</sub>・D式期における土器組成について」『蘭島餅屋沢遺跡』小樽市教育委員会  
1991「北海道における縄文時代の墳墓」『原始・古代の墓制』
- 大沼忠春 1996「北海道の古代社会と文化」『古代蝦夷の世界と交流』
- 大橋康二 1993『肥前陶器』考古学ライブラリー55
- 小川 勝編 2003『フゴッペ洞窟・岩面刻画の総合的研究』
- 小樽市教育委員会 1990『蘭島餅屋沢遺跡』
- 加藤邦雄 1976「道南・道央地方の墳墓」『縄文文化の研究』6
- 萱野 茂 1978『アイヌの民具』
- 木村方一 1980「砂丘と古砂丘」『北海道5万年史』
- 久保武夫 1966「余市海岸の砂丘」『余市高校研究紀要』2
- 熊木俊朗 1996「北海道北部の鈴谷式土器について」『古代文化』48-5
- 札幌市教育委員会 1987『K135』
- 佐藤 剛 1998「北海道出土のいわゆる赤穴式土器について」『北方の考古学』
- 佐藤利雄 2000「大川・入舟遺跡の歴史的概要について」『余市水産博物館研究報告』3
- 西連寺 健 1981「いわゆる北大式省察野帳」『古代』69・70



- 鈴木克彦 1999 「北海道渡島・檜山地域の後期前～中葉の編年」『国学院大学考古学資料館紀要』15
- 鈴木 信 1999 「北大式期以降の墓制について－北海道中央部の様相を中心にして」『海峡と北の考古学』
- 瀬棚町教育委員会 1981 『瀬棚南川』
- 高瀬克範 1996 「恵山文化における魚形石器の機能・用途」『物質文化』60  
1999 「恵山式土器群の成立・拡散とその背景」『北海道考古学』34
- 高橋正勝編 1980 『アヨロ』
- 田才雅彦 1993 「続縄文時代後北期から擦文時代初頭の土壙墓について」『21世紀の考古学』
- 高橋 理 1996 「余市式再考」『北海道考古学』32
- 千代 肇 1984 『続縄文文化』考古学ライブラリー25  
1984 『続縄文時代の生活様式』考古学ライブラリー29
- 寺田貞次 1919 「余市附近の土地と住民」『北海道人類学会雑誌』1
- 長沼 孝 2000 「続縄文文化」『季刊考古学』70
- 西脇対名夫 2001 「魚形石器ノート」『渡島半島の考古学』
- 野村 崇 1992 「北海道余市町フゴッペ洞窟出土の土器」『北海道開拓記念館調査報告』12
- 日高 慎 2003 「北海道大川遺跡出土資料の再検討」『考古学に学ぶⅡ』同志社大学考古学シリーズⅧ
- フゴッペ洞窟調査団編 1970 『フゴッペ洞窟』
- 北海道埋蔵文化財センター 1998 『茂別遺跡』
- 野村 崇・宇田川 洋編 2003 『新・北海道の古代』2
- 町田 洋他 1986 『地層の知識～考古学シリーズ』8
- 宮 宏明・青木 誠 1994 「サメの歯とサパンペ」『動物考古学』2
- 山田悟郎・渡部真人・赤松守雄 1992 「積丹半島の第四系について」『北海道開拓記念館研究報告』12
- 横山英介 1990 『擦文文化』考古学ライブラリー59
- 吉岡康暢 1984 「北海道の中世陶器」『北海道の研究』2
- 余市町教育委員会 1971 『天内山』
- 余市町教育委員会 1999 『大川遺跡（1998年度）』
- 余市町教育委員会 2000 『大川遺跡における考古学的調査』Ⅰ・Ⅱ
- 余市町教育委員会 2001 『大川遺跡における考古学的調査』Ⅲ・Ⅳ
- 余市町教育委員会 2001 『大川遺跡（1999年度）』
- 余市町教育委員会 2002 『大川遺跡（2000・2001年度）』
- 余市町教育委員会 2003 『安芸遺跡』
- 余市町登町区会 1986 「登町の先史時代」『登郷土史』
- 吉崎昌一 1965 「北海道 縄文文化の発展と地域性」『日本の考古学』Ⅱ

付 編

## 付編 1 大川遺跡出土の動物遺体

名古屋大学博物館 新美倫子

大川遺跡の2003年度調査では続縄文期から近代にかけての動物遺体が出土しており、その大部分は近世～近代の資料である。これらの動物遺体には貝ブロックやその一部を土ごと取り上げ、ふるいで選別・抽出したものと、発掘時に目に付いた資料を取り上げたものがある。貝ブロックSM-1（近代・明治期）においては、上層で30cm×25cmの範囲（第130図）で、下層で35cm×20cmの範囲（第130図）で資料が土ごと採集され、貝ブロックSM-2（近代・明治期）では20cm×20cmの範囲（第132図）で資料が土ごと採集された。また貝ブロックSM-4（近世末～近代）はその全体が土ごと取り上げられて、それぞれ1mm目のふるいを用いて動物遺体を選別・抽出された。これら以外には、発掘時に目に付いた資料が取り上げられた。その結果、ここで扱う資料のうち貝類・フジツボ類・ウニ類はすべてふるいで選別されたものであり、魚類はふるいで選別されたものと発掘時に取り上げられたものがある。また、鳥類・哺乳類資料はほとんど発掘時に取り上げられたが、SM-1やSM-4中の資料にはふるいで選別されたものも含まれている。

ここでは、すべての動物遺体について表1に出土種名を示し、貝類の出土量を表2に、魚類の出土量を表3・4に、哺乳類の出土量を表5に示して、その内容について述べることにする。なお、国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生には種同定に関して御教示をいただき、余市町教育委員会の乾芳宏氏にはこの資料を分類する機会を与えていただいた。ここに感謝いたします。

### 1、貝類・フジツボ類・ウニ類（表2）

貝類はSM-1（近代）・SM-2（近代）・SM-4（近世末～近代）から185点が出土しており、表2では殻頂部の残存する左殻・右殻の出土数を示した。コタマガイが最小個体数で66個体と最も多く出土し、他にはイガイ類30個体、ホタテガイ・ムラサキインコ・ウバガイが1個体ずつ出土している。

コタマガイはSM-1でのみ出土した。小さなものから殻長6.5cm程度までさまざまな大きさの個体が見られたが、上層の方が下層よりもやや大きな個体が多い。イガイ類は殻頂部の残る資料はSM-2・SM-4で出土したが、SM-1にも破片は含まれていた。すべての資料が壊れていたが、殻高10cm以下の個体が多いと思われる。ホタテガイとウバガイはいずれも割れており、大型の個体である。カワシンジュガイは貝殻が消失して殻皮のみが残っていたが、SM-2・SM-4ではかなり多く見られ、SM-1上層でも少量見られた。

フジツボ類はチシマフジツボと思われる破片がSM-4で少量見られ、ウニ類ではSM-1の下層でキタムラサキウニの棘が少量見られた。

## 2、魚類・鳥類（表3・4）

魚類は113点の資料が出土し、このうち種を同定できた資料は101点である。ふるいで選別された資料88点の内容を表3に、発掘時に取り上げられたもの25点の内容を表4に示した。

ふるいで選別された資料は、SM-1（近代）でニシン20点、カレイ類9点、サバ類1点、ウグイ類1点が出土し、SM-4（近世末～近代）からニシン31点、ホッケ11点、カレイ類2点、サケ類の椎骨破片がごく少量、ガンギエイ類の歯1点が出土している。発掘時に取り上げられた資料としては、続縄文期のP-105からニシンの焼けた椎骨1点、P-161からホシザメ椎骨1点が出土し、近世～近代ではMO-21覆土中から焼けたニシン耳石21点、SM-1からマグロ類椎骨1点、旧河口港地点包含層でマグロ類歯骨1点が見られた。

ニシンはいずれの資料もほとんどが大きさから見て体長30cm程度の成熟個体のものであり、春の産卵期に接岸したものであろう。ホッケはSM-4のみで見られ、体長35～40cm前後の個体と考えられる資料が多い。これらは秋に接岸するいわゆるネボッケと思われる。カレイ類は体長20～30cm程度の個体と思われる椎骨が多い。サバ類は小さな個体であり、ウグイ類は大きなマルタタイプであった。マグロ類は中型の個体であり、サケ類の椎骨破片は大型のシロザケタイプのものであった。

鳥類はSM-4から四肢骨破片が1点と攪乱層から焼けた破片1点が出土しただけであり、種の同定できる資料はなかった。

## 3、哺乳類（表5）

哺乳類は205点が出土し、その内訳は家畜類が66点、ヒトが4点、陸獣類が27点、海獣類が13点、不明95点である。家畜類では、イヌ40点、ウマ4点、ウシ2点、ウマまたはウシ16点、ネコ2点、ブタ1点、家畜？1点が見られ、いずれも近世末～近代に所属する資料あるいは攪乱層から出土したものである。

イヌはその大部分がSM-4（近世末～近代）と旧河口港地点包含層（近代）で出土した。SM-4出土資料32点のうち、頭蓋骨破片の大部分と左右の上顎骨・下顎骨は同一個体のものと思われるが、明らかに別個体の左右の側頭骨鼓室部破片も混じっていた。資料を筆書所蔵の現生柴犬標本と比較すると、上顎骨・下顎骨とも骨体は柴犬よりも少し大きい。下顎骨は下顎底が比較的平らで、第3前臼歯中央部分での骨体の高さ（頬側）が21.0mm、骨体の厚さが9.9mmであり、歯列の湾曲も少ない。上・下顎とも歯の磨滅はほとんどなく、上顎右第4前臼歯の長さは16.0mmであり、下顎左第1後臼歯の長さは19.7mm、幅は7.6mmであった。環椎や四肢骨も柴犬よりもひとまわり大きい資料であった。

旧河口港地点包含層出土の資料は5点であり、完全には復元できなかったが頭蓋骨が1点含まれていた。これは柴犬と比較すると吻部は細く短い、頬骨の張り出し方や脳頭蓋部分の大きさはほぼ同じであった。歯はほとんど磨滅しておらず、第4前臼歯の長さは

15.9mmである。また、四肢骨はいずれも柴犬よりもひとまわり大きかった。攪乱層出土の軸椎も柴犬よりもひとまわり大きい資料である。

ウマは旧河口港地点包含層の切歯1点を除いて、すべて攪乱層から出土している。下顎骨はほぼ完存であり、歯・骨体共に筆書の所蔵するヨナグニウマ♀現生標本より少し大きい。犬歯があることから雄であり、歯の萌出・摩耗状態から年齢は5～10歳と思われる。大きさから見て小型馬と思われ、骨体は比較的きゃしゃである。その前臼歯・後臼歯の長さ・幅を表6に示した。尺骨・脛骨は共にヨナグニウマ♀現生標本よりもひとまわり大きな資料であった。ウマまたはウシとしたものは四肢骨・肋骨の破片であり、家畜?としたものも小さな骨片である。ヒトはSM-4で幼児の側頭骨破片と上顎骨、乳犬歯が見られ、旧河口港地点包含層からは成人と思われる頭蓋骨破片・四肢骨破片が出土した。

陸獣類では、シカ13点、クマ2点、タヌキ1点、ネズミ類2点、中小陸獣椎骨1、陸獣破片2、陸獣焼破片6点が見られた。シカ1点を除いて、すべて近世末～近代に所属する資料または攪乱層出土のものである。ネズミ類は2点ともエゾヤチネズミに近い形態であった。海獣類ではアシカ雄獣の肩甲骨1点が旧河口港地点包含層から出土し、イルカ類椎骨1点が攪乱層から出土している。他にクジラ類破片5点、海獣椎骨5点、海獣肋骨1点が見られた。不明とした資料は保存状態が非常に悪いために家畜・陸獣・海獣の区別がつかないもので95点見られ、うち5点は焼けていた。

#### \* 各遺構の検出地点

- (道道地点) P-156、P-161、FP-18、MO-23  
 (迂回路地点) P-105、FP-28、MO-21、SM-4  
 (旧河口港地点) SM-1、SM-2

表1 出土動物種名

I. 貝類	IV. 魚類	V. 哺乳類
1 ムラサキインコ	1 ガンギエイ類	1 ネズミ類
2 イガイ類	2 ホシザメ	2 エゾヒグマ
3 ホタテガイ	3 ニシン	3 エゾタヌキ
4 カワシンジュガイ	4 サケ類	4 エゾシカ
5 コタマガイ	5 ウグイ類	5 ニホンアシカ
6 ウバガイ	6 サバ類	6 イルカ類
	7 マグロ類	7 クジラ類
II. フジツボ類	8 ホッケ	8 イヌ
1 チシマフジツボ	9 カレイ類	9 ネコ
		10 ウマ
III. ウニ類		11 ウシ
1 キタムラサキウニ		12 ブタ
		13 ヒト

表2 貝類出土量

遺構		種		イガイ類		カワシン ジュガイ殻皮	その他	備考
		コタマガイ		左	右			
SM-1	上層サンプル	35	32			少量	ホタテガイ右1	
	下層サンプル	31	26					ウニ棘少量あり
SM-2				9	10	多量		
SM-4				19	20	多量	ムラサキインコ左1 ウバガイ右1	フジツボ破片あり
計		66	58	28	30		3/185	

註 左：左殻、右：右殻。

表3 魚類出土量（ふるい選別資料）

遺構		種	ニシン	ホッケ	カレイ類	その他	同定不可 椎骨破片
SM-1	上層サンプル		椎骨16、耳石2		椎骨9	サバ類椎骨1 ウグイ類椎骨1	7
	下層サンプル		椎骨2				
SM-4			椎骨17、耳石8、焼2 上顎骨左1、右1 鰓蓋骨左1、右1	椎骨9、上顎骨左1 歯骨左1	椎骨1、焼1	サケ類 椎骨破片わずか ガンギエイ類歯1	5
計			51	11	11	3/76	12

註 焼：焼けた資料。

表4 魚類出土量（現場取り上げ資料）

時期	遺構	種・部位・出土量
続縄文期	P-105	ニシン椎骨1焼
	P-161	ホシザメ椎骨1
近世～近代	MO-21覆土	ニシン耳石21焼
近代(明治)	SM-1	マグロ類椎骨1
	旧河口港地点包含層	マグロ類歯骨左1

註 表3参照。

表5 哺乳類出土量

時 期	遺 構	種・部位・出土量	計
続縄文期	P-105	不明焼破片 1	1
	P-156	不明焼破片 4	4
中世～近世	FP-18	シカ肋骨破片 1 焼	1
近世	FP-28	シカ中手骨破片 2 焼、陸獣焼破片 2	4
近世～近代	MO-23覆土	シカ中足骨破片 2 焼、中手・中足骨破片 2 焼、角破片 1	5
近世末 ～近代	SM-4	イヌ頭蓋骨破片+上顎骨左 (C×P234M12) } 同一 右 (C×P234M12) }	123
		側頭骨鼓室部破片左 1、右 1 下顎骨左 (C×P234M12×) } 同一 右 (C×P234M12×) }	
		環椎 1、上腕骨左下 1、橈骨右上 1 尺骨左 1、右破片 1、大腿骨左 1 中手・中足骨上 5、下 3、基節骨 3、中節骨 2 末節骨 1、手根・足根骨 2、椎骨破片 1、肋骨破片 4 ヒト側頭骨左+上顎骨右 (m12) 幼、乳犬歯左右不明 1 ネズミ類上顎骨右 1、下顎骨左 1、不明破片 87	
近代(明治)	SM-1	イヌ橈骨右中間破片 1、尺骨右 1、ウシ寛骨右 1	3
	旧河口港地点 包含層	イヌ頭蓋骨破片 1 個体分 +上顎骨左 (×××C×××P4M1×) } 同一 右 (×××××××P4M12) }	43
	寛骨左 1、大腿骨右下 1 若、脛骨右 1 若、肋骨 1 ヒト頭蓋骨破片 1、四肢骨破片 1 ウマ下第 2 切歯左 1、ウシ軸椎 1 (半欠) ウマorウシ四肢骨破片 13、肋骨破片 3 ネコ上犬歯左 1、下顎骨左後半分 1、ブタ頭蓋骨破片 1 クマ上腕骨右中間破片 1、中足骨 1 左 1 タヌキ尺骨左 1、中小陸獣椎骨 1、陸獣破片 2 アシカ肩甲骨左♂ 1、クジラ類破片 5、海獣肋骨 1 不明破片 2		
攪 乱		イヌ軸椎 1 シカ大腿骨左上 1 若、中手・中足骨破片 1、2 焼 角破片 1 焼 ウマ下顎骨左 (I123C P 234M123) } 同一 右 (I123C P 234M123) } ♂ 尺骨右 1、脛骨左中間～下 1 家畜? 破片 1、陸獣焼破片 4 イルカ類椎骨 1、海獣類椎骨 5、不明破片 1	21
計			205

註 表3参照。 I:切歯、C:犬歯、P:前臼歯、M:後臼歯、m:乳臼歯。  
I・P・M・mに伴う数字は歯の順番を示す。( )は顎骨があることを示し、×は歯が脱落していることを示す。上:近位部、下:遠位部、上・中間・下のないものは完存。幼:幼獣、若:若獣、幼・若のないものは成獣。

表6 ウマ下顎歯の長さとは幅

歯 種	左右	長さ (mm)	幅 (mm)
第2前臼歯	右	30.1	13.8
第3前臼歯	右	27.0	15.7
第4前臼歯	左	25.0	15.9
第1後臼歯	左	23.6	14.6
第2後臼歯	左	23.8	13.2
第3後臼歯	左	27.5	12.6

## 付編 2 放射性炭素年代測定結果について

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

### 報告内容の説明

**未補正14C年代 (y BP)** : (同位体分別未補正) 14C年代 “measured radiocarbon age”  
試料の 14C/12C 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前 (BP) かを計算した年代。

**14C年代 (y BP)** : (同位体分別補正) 14C年代 “conventional radiocarbon age”  
試料の炭素安定同位体比 (13C/12C) を測定して試料の炭素の同位体分別を知り 14C/12C の測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。  
試料の  $\delta^{13}C$  値を -25(‰) に標準化することによって得られる年代値である。  
(Stuiver, M. and Polach, H.A. (1977) Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon, 19 を参照のこと)  
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

**$\delta^{13}C$  (permil)** : 試料の測定 14C/12C 比を補正するための 13C/12C 比。  
この安定同位体比は、下式のように標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表現する。

$$\delta^{13}C (\text{‰}) = \frac{(13C/12C)[\text{試料}] - (13C/12C)[\text{標準}]}{(13C/12C)[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $13C/12C[\text{標準}] = 0.0112372$  である。

**暦年代** : 過去の宇宙線強度の変動による大気中 14C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴの U-Th 年代と 14C 年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース (“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al. 1998, Radiocarbon 40 (3)) により約 19000yBP までの換算が可能となった。\*

\* 但し、10000yBP 以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

“The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a “best fit” compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results.”

### 測定方法などに関するデータ

**測定方法** AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによる  $\beta$ -線計数法

**処理・調製・その他** : 試料の前処理、調製などの情報

**前処理** acid-alkali-acid : 酸 - アルカリ - 酸洗浄  
acid washes : 酸洗浄  
acid etch : 酸によるエッチング  
none : 未処理

**調製、その他**

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理  
Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出  
Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出

Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

**分析機関** BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155



# C14年代測定結果

No.1456

試料データ	未補正14C年代 (y BP) (measured radiocarbon age)	$\delta^{13}C$ (permil)	14C年代(y BP) (Conventional radiocarbon age)
-------	-----------------------------------------------	-------------------------	-----------------------------------------------

Beta <sup>-</sup> 187749	610 ± 60	-26.2	590 ± 60
--------------------------	----------	-------	----------

試料名 ( 24429) MO-21 (2003年度大川遺跡迂回路地点)

測定方法、期間 Radiometric-Standard Extended Counting

試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid

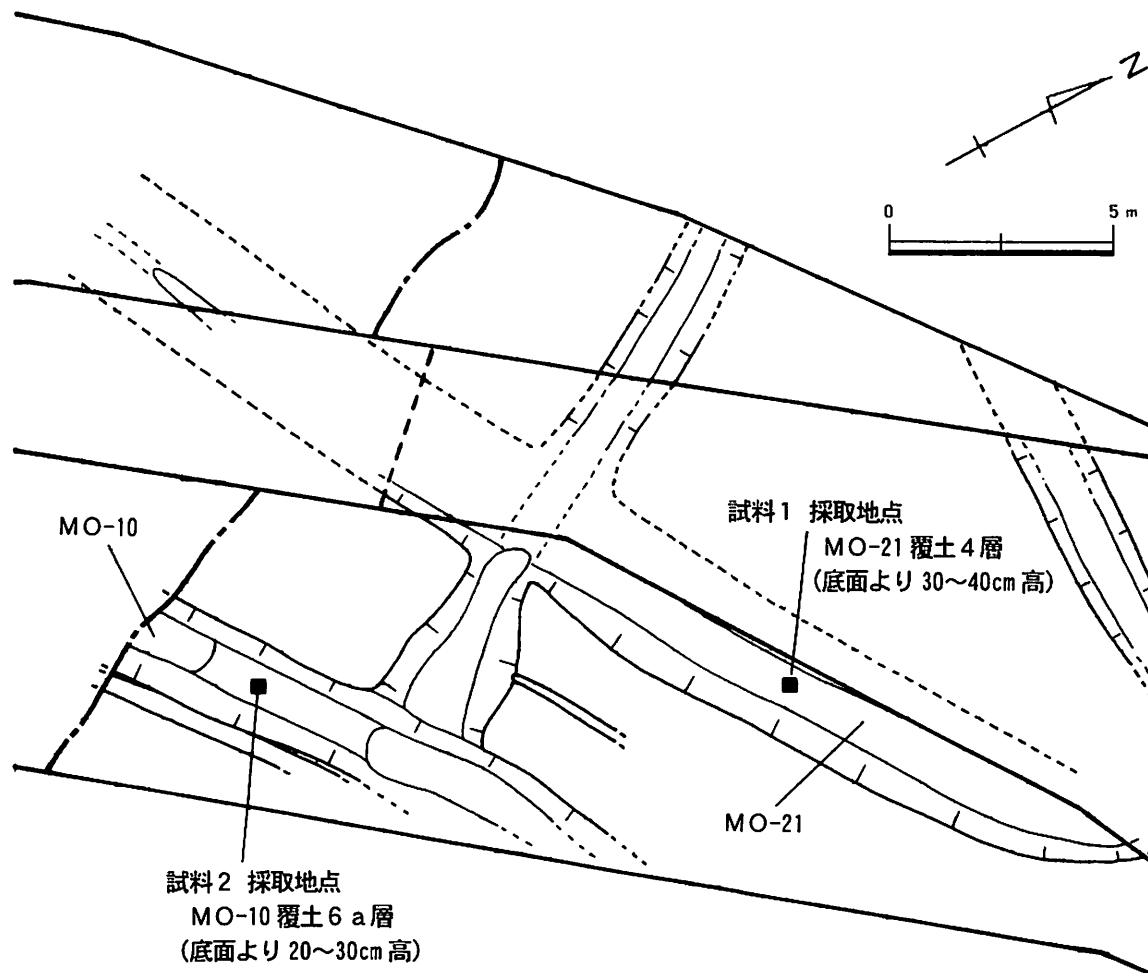
Beta <sup>-</sup> 187750	560 ± 60	-25.8	550 ± 60
--------------------------	----------	-------	----------

試料名 ( 24430) MO-10 (2003年度大川遺跡迂回路地点)

測定方法、期間 Radiometric-Standard Extended Counting

試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid

年代値は RCYBP (1950 A.D. を 0 年とする) で表記。モダン リファレンス スタンドは国際的な慣例として NBS Oxalic Acid の C14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。



### 付編3 大川遺跡出土の人骨について

札幌医科大学 乗安整而・松村博文・山上実紀

極めて数多いピットから人骨が出土しているが、そのほとんどの人骨の保存状態はよくない。その中でも保存状態のよい人骨についてのみ記載する。

#### 迂回路地点P-3 (近世)

頭蓋の右側頭骨の錐体部が一部残存しており、内耳孔が認められる。また、右の下顎骨歯槽部(第2小臼歯、第1、2大臼歯)と左の下顎骨歯槽部(第1、2小臼歯、第1、2大臼歯)が残存している。

#### 本多地点P-4 (近世～近代)

頭蓋では左の頭蓋底が残存するが、接合不能の部分もある。また、下顎骨がある。環椎と軸椎も残存しているが、かなり小さい。頸椎はその他第3、4、5、6頸椎を残す。また胸椎から腰椎にかけての椎骨は詳細観察不能である。肋骨も1本残存する。上肢では橈骨体および尺骨体は残存するが、極めて脆い。下肢では寛骨や大腿骨が残存している。右の寛骨は耳状面や大坐骨切痕が認められる腸骨部および寛骨臼部の後部が残存しており、大腿骨頭の一部が中に残っている。大坐骨切痕の角度から、女性人骨と思われる。左の寛骨は耳状面の一部と寛骨臼部が残存している。また右大腿骨の骨頭は欠損しているが、骨頸部から骨体上部3/4が残存する。左大腿骨は骨頭から骨体上半部が残存している。ただし、大転子から小転子にかけて欠損している。

#### 服部地点P-21 (近代)

上肢では、右手根骨の有頭骨が残存している。また中手骨、基節骨、中節骨等も残存している。下肢では、寛骨の寛骨臼を一部残す坐骨結節部が残存する。また骨頭の一部が破損した左大腿骨が残存するが、右の大腿骨はない。左の大腿骨の最大長は415mmである。しかし男女の区別は不明である。左右の脛骨も残存するが、右脛骨は下端部が欠損している。腓骨は左右とも残存する。左の距骨、踵骨、中足骨も残っている。

#### 服部地点P-22 (近代)

頭蓋片7個残存している。体幹では、環椎、軸椎を含めて5個の頸椎が残存している。胸椎は14個、腰椎は7個残存しているので、少なくとも2個体分があると思われる。肋骨も多数残存している。上肢では、肩甲骨が右1個、左2個ある。鎖骨は左右1本ずつあるが、別個体である。左上腕骨の下半部が残存しているが、上腕骨小頭は欠損している。左右の橈骨が残存するが、これも別個体である。左の第Ⅱ指中手骨および第Ⅳ中手骨も残存しているが、同個体かどうかは不明である。下肢では、左の距骨と右の踵骨が残存するが、上記と同様に同個体かどうかは不明である。

#### 服部地点P-23 (近代)

歯は3本残っている。左右不明の中手骨1本および指骨等が残存。下肢の左右の脛骨、

腓骨は残存しており、右の膝蓋骨も残存している。また左右の足根骨および中足骨は完全に揃っている。趾骨も残存する。

また幼児期の大腿骨1本と左右の脛骨、腓骨が残存している。

#### 服部地点P-24 (近代)

栄養孔が認められる右の脛骨の骨体上半部および左脛骨上半部(後部は欠損)が残存している。また左右不明の腓骨体部2本(長さ93mmと87mm)が残存している。

#### 服部地点P-27 (近代) 写真32

頭蓋はほぼ完全であるが、右の側頭部が土圧で歪んでいる。頭蓋長は194mmで長く、頭蓋幅は141mmである。したがって、長幅示数は72.7で長頭を示す。また眼窩高は右40mm、左41mmであり、眼窩幅は右36mm、左35mmで、眼窩示数は、それぞれ右90.0、左85.4の高眼窩で矩形を呈する。眉間の突出が認められ、頬骨上顎縫合付近が後退している。頬骨後裂が左右とも存在する。鼻根の陥凹が深く、鼻骨は高い。梨状口は広い。犬歯窩も認められる。上顎の左右、および下顎の右の第3大臼歯は萌出していない。しかし、歯が小さく下顎の切歯はシャベル状を呈していない。下顎骨の角前切痕は浅い。また鉗子状咬合である。

脊柱はほぼ完全に残存する。仙骨は、尾骨が癒合している。

上肢では左右の肩甲骨が残存するが、左肩甲骨の下角部が欠損している。左右の鎖骨も残存するが、左右とも胸骨端、また左は肩峰端が若干欠損している。上腕骨は左右ともに残存するが、左の骨頭部左側および外側上顆が欠損している。橈骨も左右とも残存するが、左右とも多少茎状突起部が欠損している。また尺骨も左右ともに残存するが、尺骨頭部が若干破損しているため、左右ともに茎状突起はない。左右の手根骨、中手骨、指骨はほぼ完全に残存する。

寛骨は、右は完全、左の寛骨は腸骨翼後部および恥骨結合面上部がわずかに欠損している。しかし自由下肢骨は、左右ともにほぼ完全に残存している。大腿骨は柱状形成をなす。大腿骨は最大長は405mmである。脛骨は扁平脛骨を呈する。

以上のことから、この人骨の特徴からアイヌ人骨と推定される。また大坐骨切痕の角度や乳様突起の大きさから男性と考えられる。また矢状縫合の消失、恥骨結合面の形状、歯の咬耗度から熟年である。大腿骨の長さからの推定身長は154.9cmである。

#### 服部地点P-28 (近代)

頭蓋はないが、歯が2本残っている。右の尺骨および橈骨が残存しているが、橈骨は半分に折れている。折れている部分に治癒痕が認められる。また、橈骨頭や下端部の茎状突起は欠損している。腸骨翼が一部欠損している右の寛骨および大腿骨が残存している。寛骨の恥骨下角、閉鎖孔の形状および大坐骨切痕の角度から男性と推察される。大腿骨の長さは407mmで、推定身長は155.4cmと推定される。右の第1肋骨も残存する。

#### 服部地点P-38 (近世末~近代)

頭蓋は頭蓋冠や側頭部は残存するが、接合は不能である。下顎骨もある。上肢では手指骨、手根骨は残存するが、その他の上肢の骨はない。下肢では、右の大腿骨の下端部が残存するが、左はない。左右の膝蓋骨、脛骨、腓骨は残存している。しかし、右の腓骨は腓

骨頭と外果が欠損している。左右の足根骨、中足骨および指骨の基節骨は残存しているが、中節骨、末節骨は不完全。側頭骨の乳様突起や下肢の骨から成人男性の可能性が高い。

#### 迂回路地点P-40（中世）

頭蓋では、左の側頭骨の乳様突起部および頬骨突起の一部が残る下顎窩部が残存している。左右の上腕骨の骨体部が残存している。左は肘頭窩上部も残存するが、接合は不能である。その他、歯冠が15個残存している。

#### 迂回路地点P-41（中世）

No. 1～No. 4に分けられているが、おそらく2個体分は混合していると考えられる。

##### No. 1

頭蓋骨片、椎骨片、肋骨片に四肢骨片が残存している。

##### No. 2

頭蓋の左眼窩部、鼻根部が残存するが接合は不能である。また下顎骨の前部も残存する。体幹では椎骨、肋骨等が残存する。上肢の骨はないが、下肢の大腿骨の下端部および左の膝蓋骨が残存する。

##### No. 3

頭蓋では炭化した骨片が多数残存する。下顎骨の前部も残存している。体幹では頸椎の軸椎歯突起、肋骨も残存する。右の上腕骨滑車部、橈骨の上部1/3と下部1/3および尺骨の上部1/3が残存している。

##### No. 4

頭蓋では、右の側頭骨錐体部、下顎窩部、および眼窩上縁部、左の眼窩部、頬骨部が残存している。左右は不明であるが下顎の下顎頭が残存している。また頸椎等も残存する。上肢では、上腕骨体部、左尺骨の下端部、中手骨、基節骨等が残存。下肢では、大腿骨片が残存している。

#### 迂回路地点P-71（近世）

頭蓋では、左右の側頭骨錐体部が残存している。錐体部長軸での長さは、右48mm、左30mmである。また、舌下神経管が認められる後頭骨大孔部が残存する。第1～3大臼歯の歯槽突起部を残す左の下顎体が残存している。また、大臼歯および小臼歯の歯冠12個が残存する。

写 真 图 版



作業風景①  
(南東→北西)



作業風景②  
(南西→北東)



作業風景③  
(南東→北西)

写真1 道道地点〔1〕



調査区南東側完掘状況  
(西→東)



調査区南西側完掘状況  
(北西→南東)



調査区北東側完掘状況  
(北西→南東)

写真2 道道地点〔2〕



P-148 検出状況 (北東→南西)



P-148 土器出土状況 (北→南)



P-149 検出状況 (北東→南西)



P-149 遺物出土状況 (北東→南西)



P-154 検出状況 (北→南)



P-154 遺物出土状況 (西→東)

写真3 道道地点〔3〕





P-140 検出状況 (西→東)



P-143 検出状況 (北→南)



P-150 検出状況 (南東→北西)



P-151 検出状況 (北西→南東)



P-152 検出状況 (北東→南西)



P-152 遺物出土状況 (北東→南西)

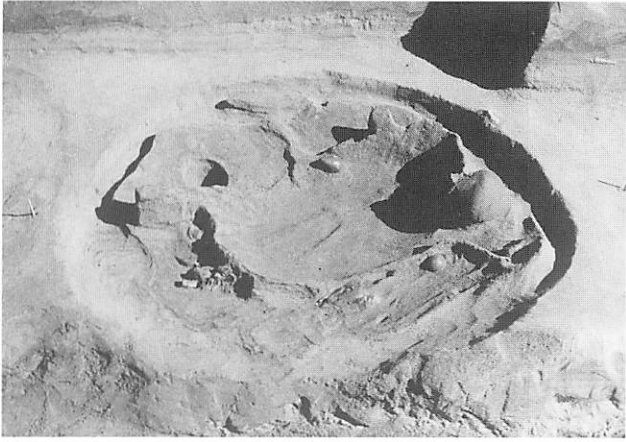


P-153 検出状況 (北→南)

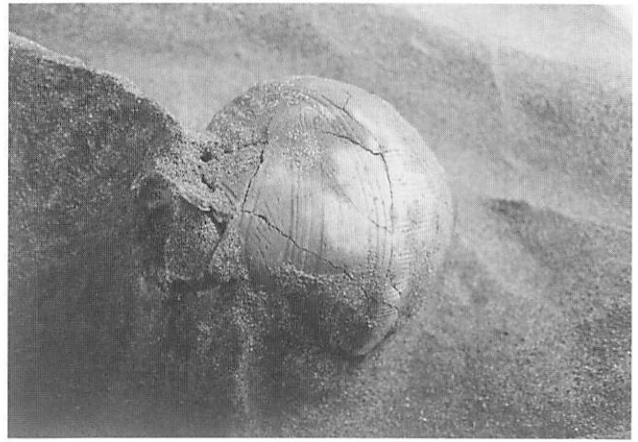


P-156 遺物出土状況 (北西→南東)

写真4 道道地点〔4〕



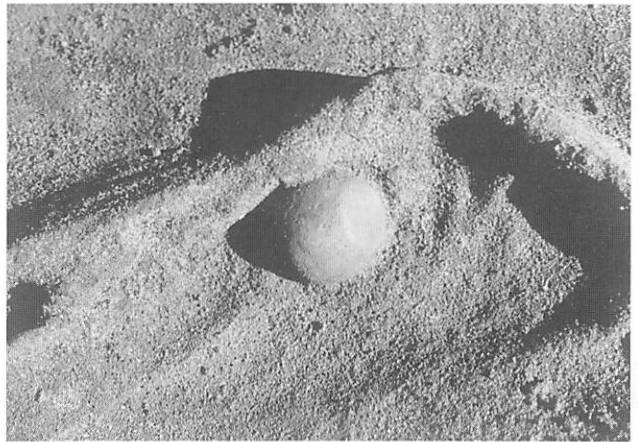
P-165 検出状況 (南西→北東)



P-165 土器出土状況① (西→東)



P-165 土器出土状況② (南東→北西)



P-165 土器出土状況③ (南西→北東)



P-165 石器出土状況 (北東→南西)



P-165 石製品出土状況 (南西→北東)

写真5 道道地点〔5〕



P-157 検出状況 (北東→南西)



P-163 検出状況 (北西→南東)



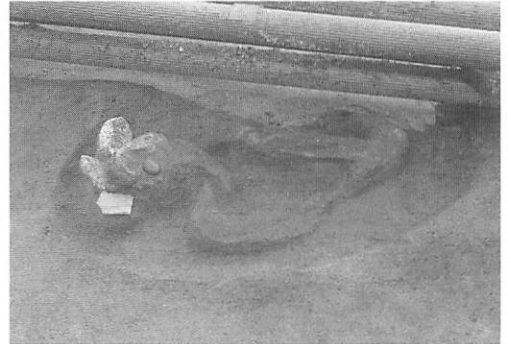
P-166 検出状況 (南西→北東)



P-170 検出状況 (南東→北西)



P-172 検出状況 (北西→南東)



P-173 検出状況 (北西→南東)



P-175 検出状況 (北東→南西)



P-178 検出状況 (南西→北東)

写真6 道道地点〔6〕



P-169 遺物出土状況 (北西→南東)

P-168 (奥)・P169 (手前) 検出状況  
(西→東)



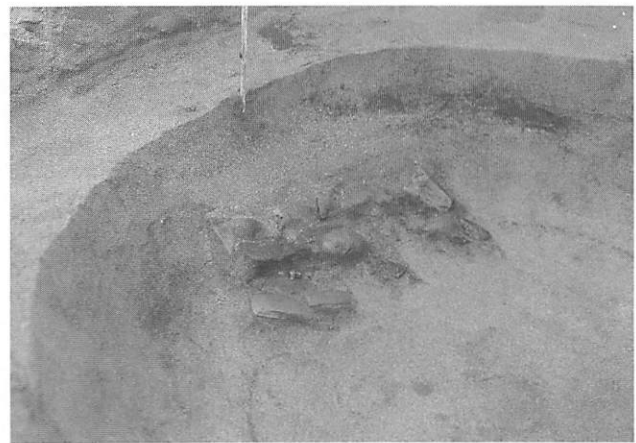
P-183 検出状況 (南西→北東)



P-184 検出状況 (北東→南西)



P-187 検出状況 (南西→北東)



P-187 遺物出土状況 (南西→北東)

写真7 道道地点〔7〕



P-192 検出状況 (南→北)



P-199 検出状況 (北西→南東)



P-200 検出状況 (北東→南西)



P-201 検出状況 (北→南)



P-202 検出状況 (南西→北東)



P-203 検出状況 (北東→南西)



P-205 検出状況 (北東→南西)



P-206 検出状況 (北→南)

写真8 道道地点〔8〕



P-188 検出状況 (南東→北西)



P-188 遺物出土状況 (南東→北西)



P-204 検出状況 (北東→南西)



P-204 遺物出土状況 (北東→南西)



P-207 検出状況 (北西→南東)



P-208 検出状況 (南西→北東)

写真9 道道地点〔9〕



P-209 検出状況 (西→東)



P-210 検出状況 (東→西)



土器集中-1 検出状況 (北西→南東)



土器集中-2 検出状況 (北→南)



FC-3 検出状況 (南西→北東)



礫玉集中検出状況 (南西→北東)



FP-17 検出状況 (北東→南西)



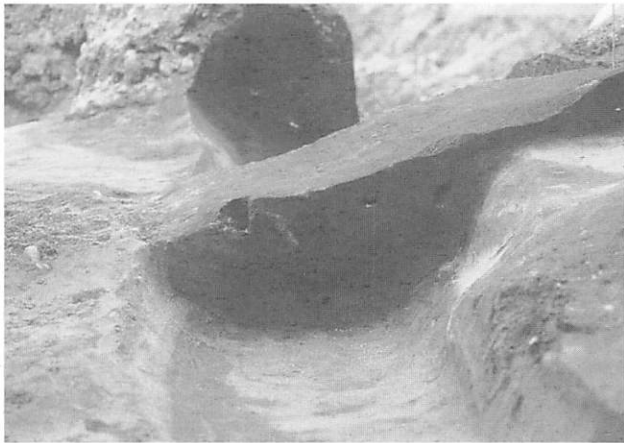
SP-5 検出状況 (北西→南東)

写真10 道道地点 [10]



MO-23 検出状況 (東→西)

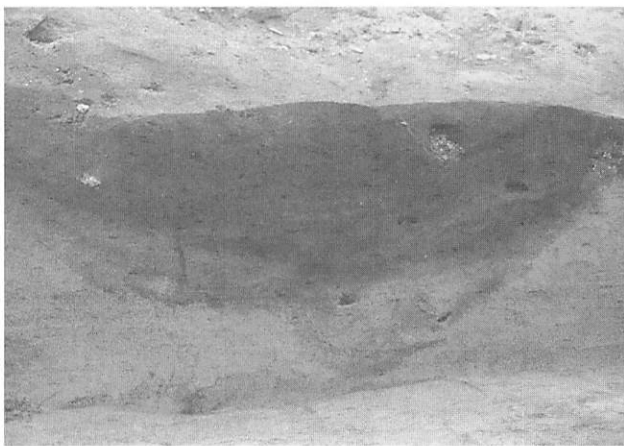
MO-23 検出状況  
(北西→南東)



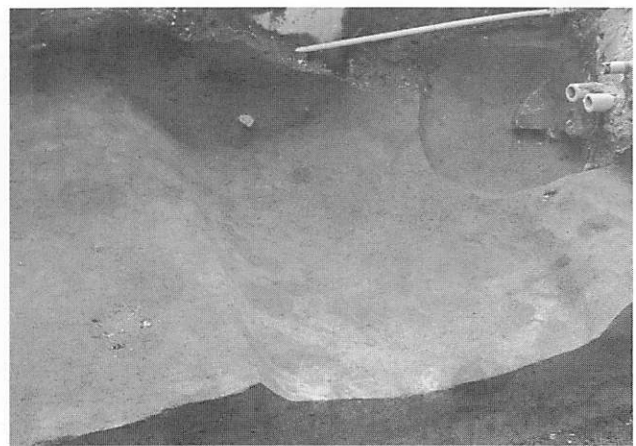
MO-23 断面 (P31グリッド, 南東→北西)



MO-23 検出状況 (南東→北西)



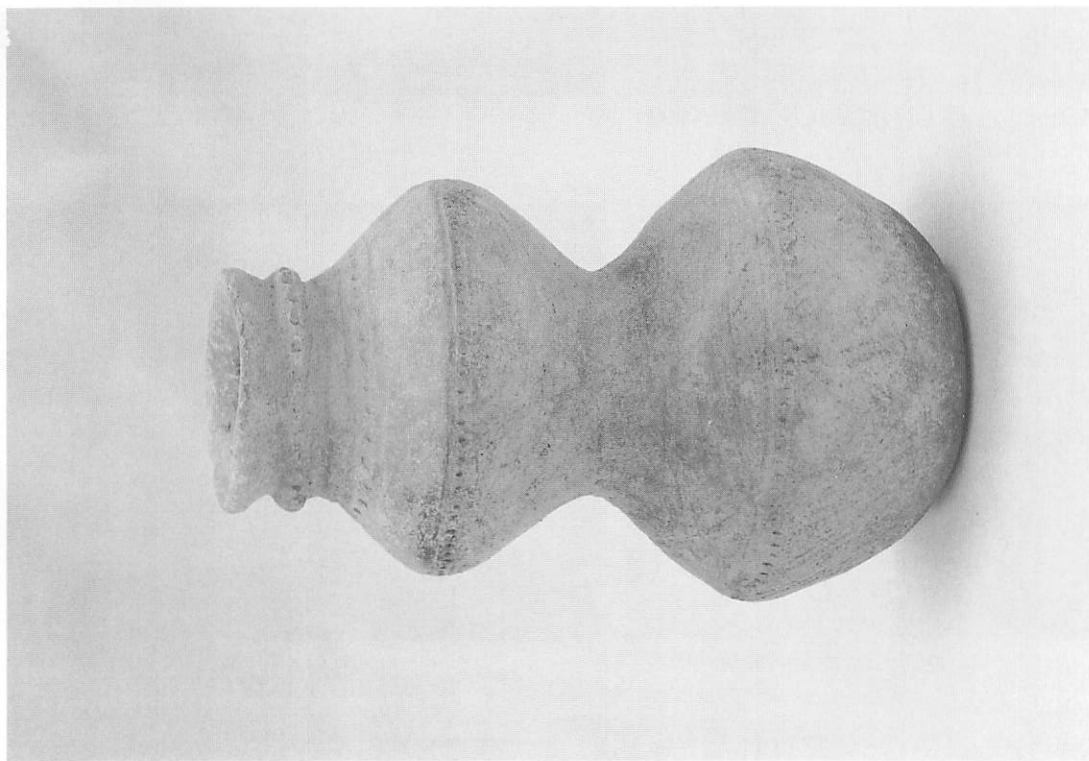
MO-22 断面 (北東→南西)



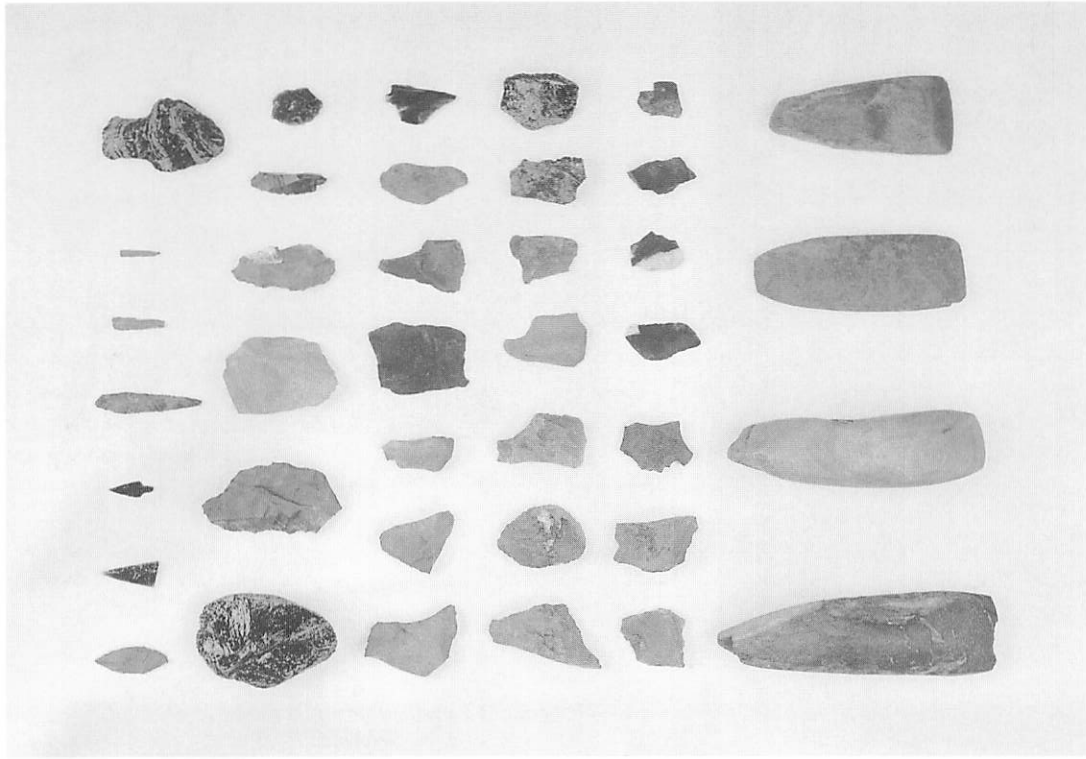
MO-22 検出状況 (北東→南西)

写真11 道道地点〔11〕





P-177



P-144

写真12 道道地点出土の遺物

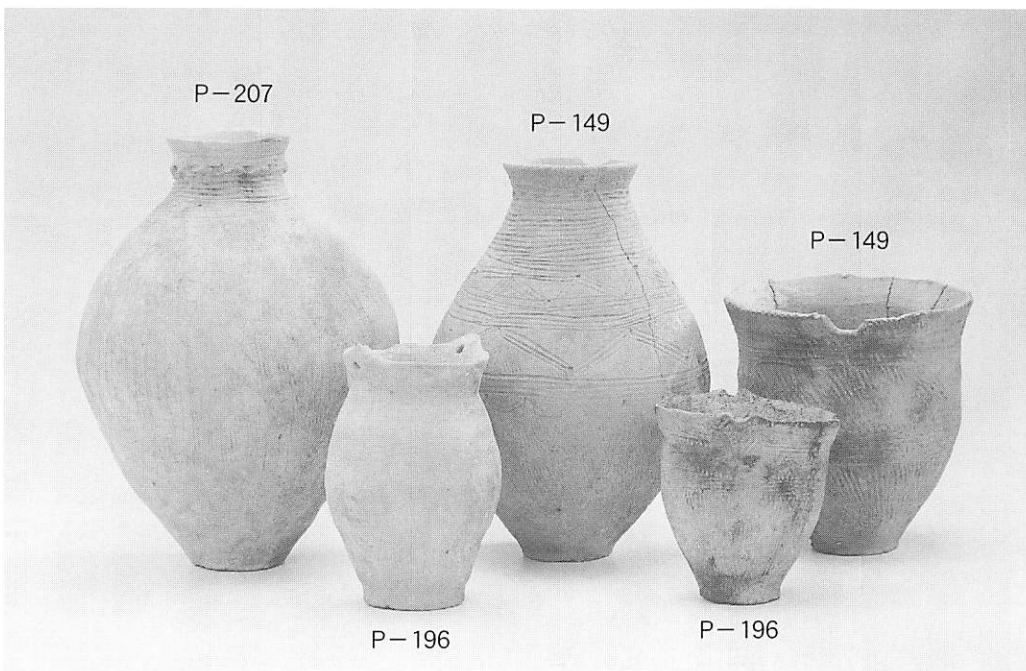
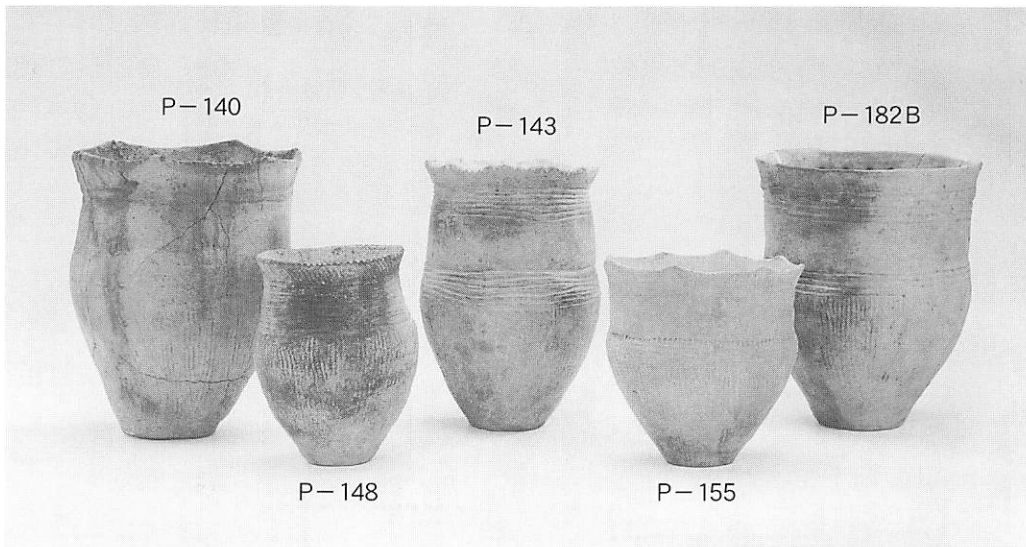
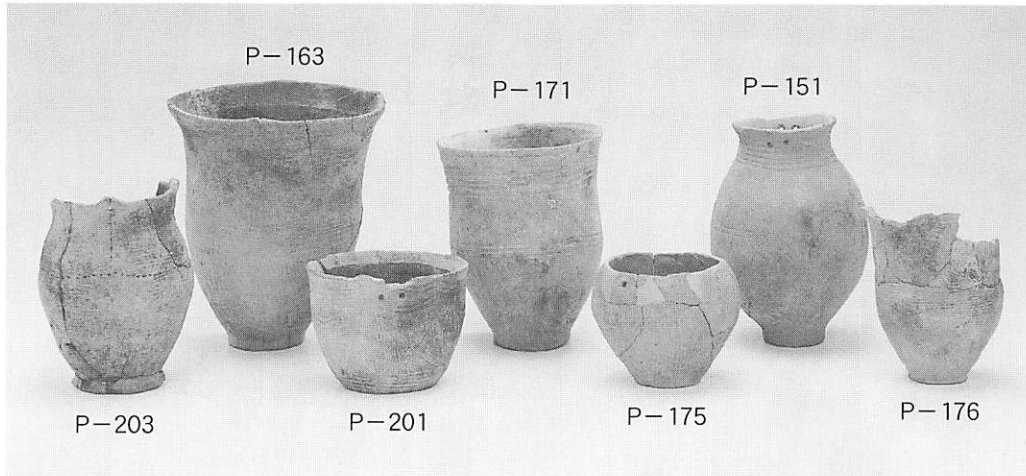


写真13 道道地点出土の土器〔1〕

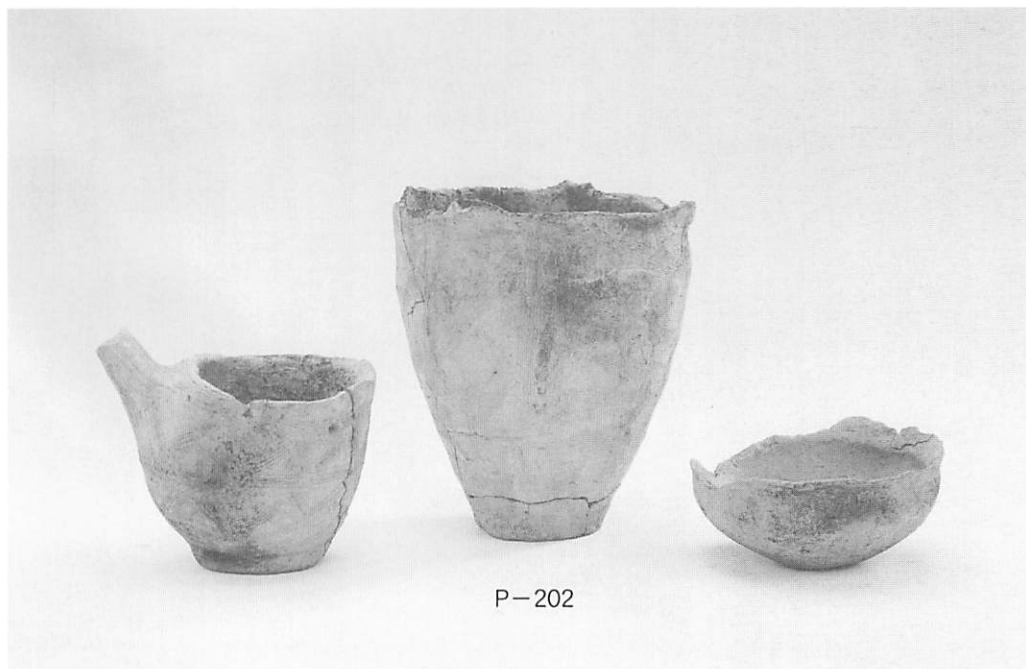
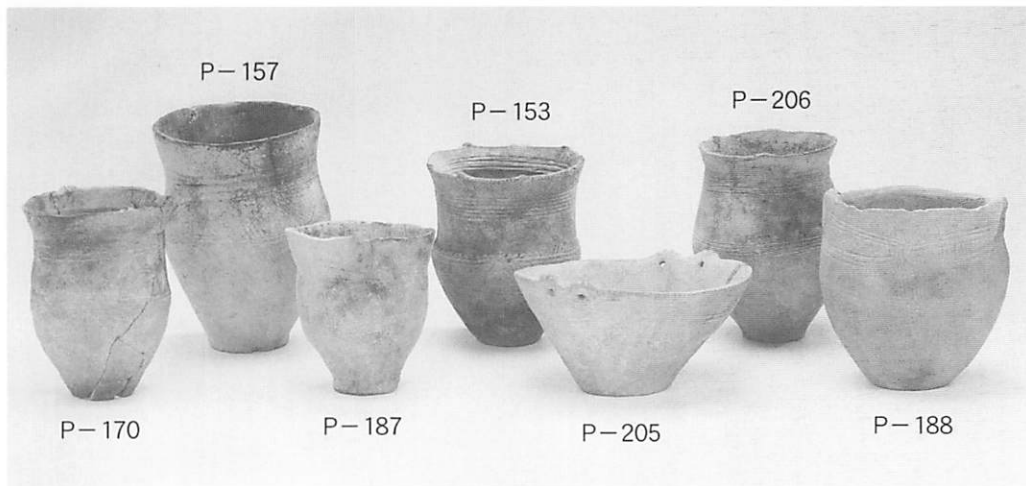
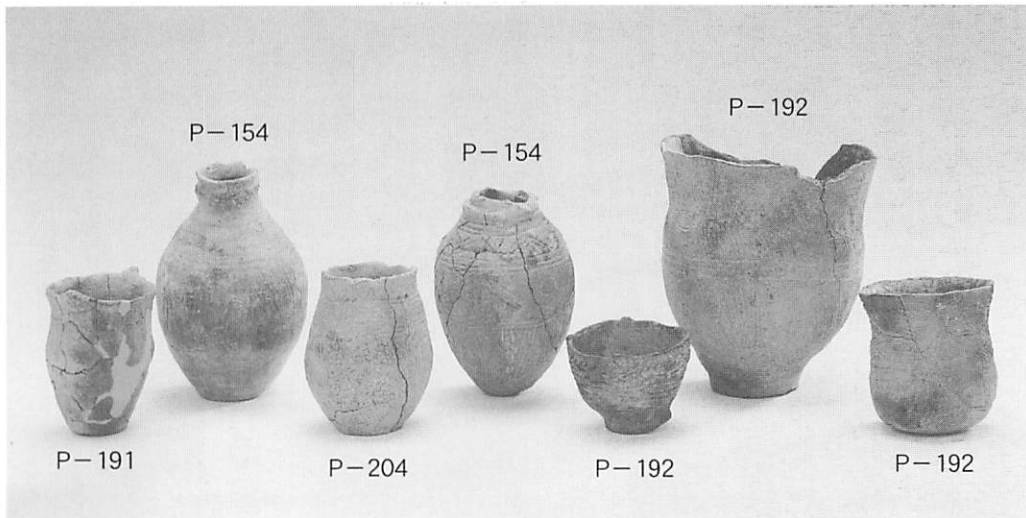
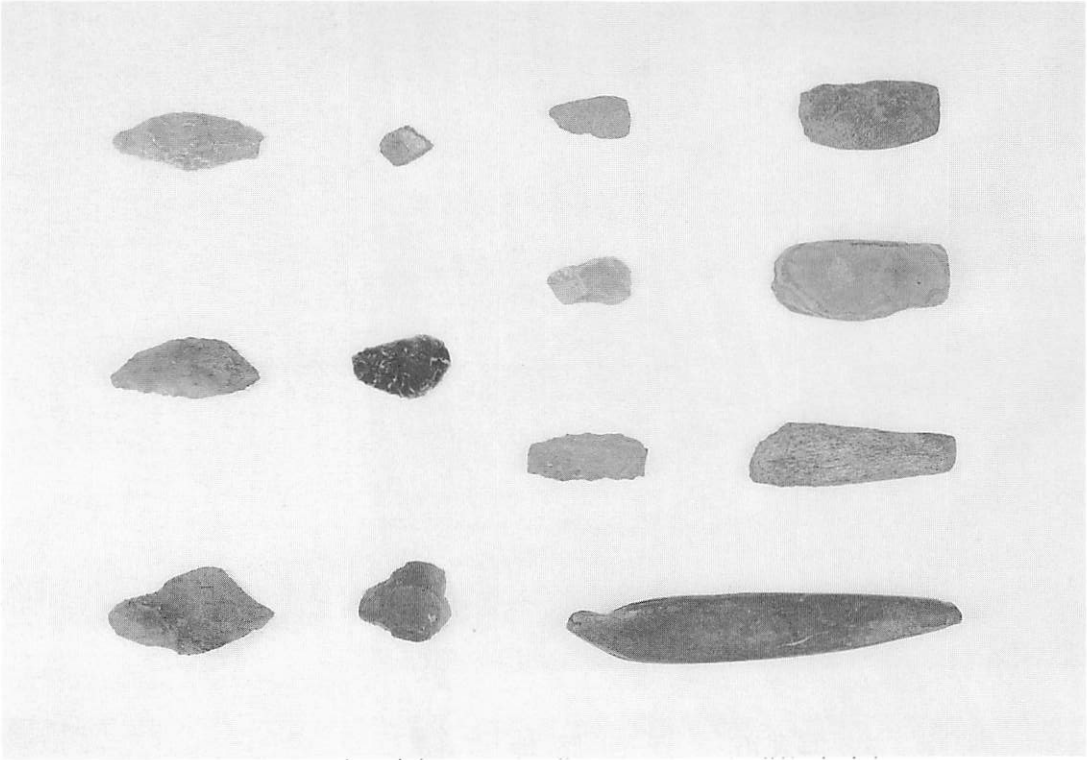
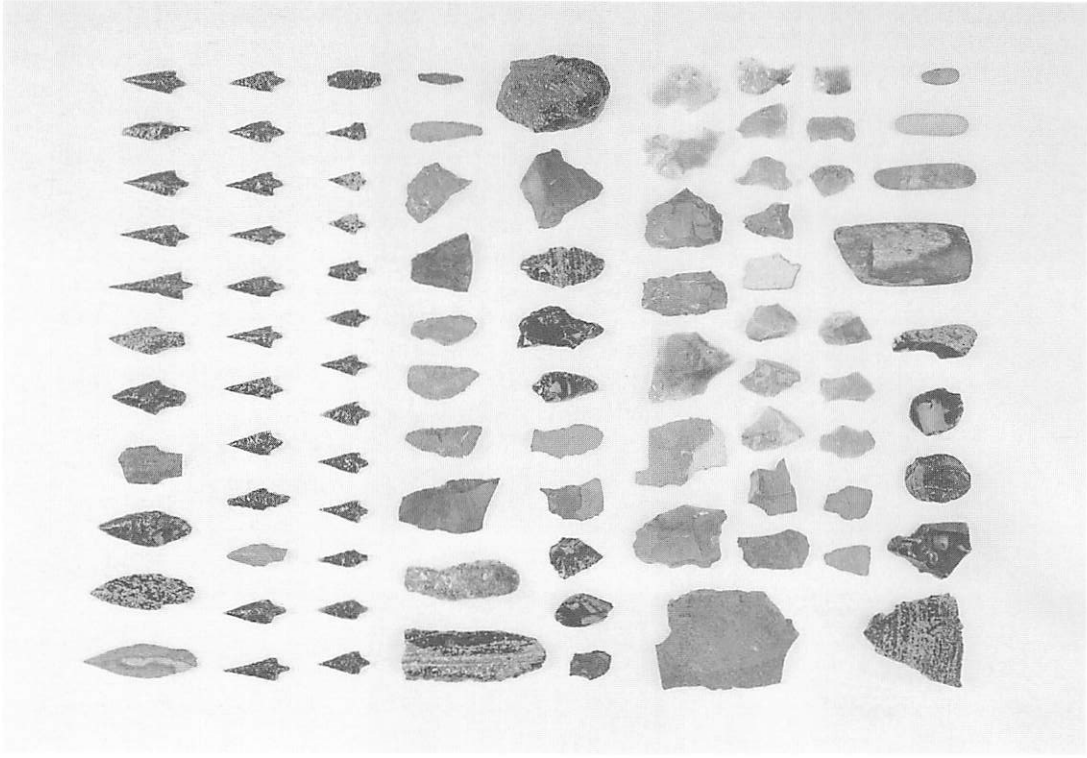


写真14 道道地点出土の土器〔2〕



P-137



P-165

写真15 道道地点出土の石器



調査区遠景  
(南西→北東)



作業風景①  
(南西→北東)



作業風景②  
(北東→南西)

写真16 迂回路地点〔1〕



南東側調査区完掘状況  
(南西→北東)



北西側調査区完掘状況  
(北東→南西)



工事立会区完掘状況  
(南西→北東)

写真17 迂回路地点〔2〕



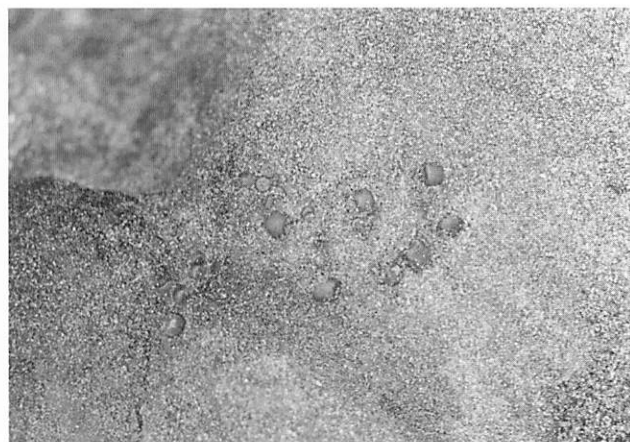
P-97(左)・99(右) 検出状況 (西→東)



P-97 遺体A 玉出土状況① (西→東)



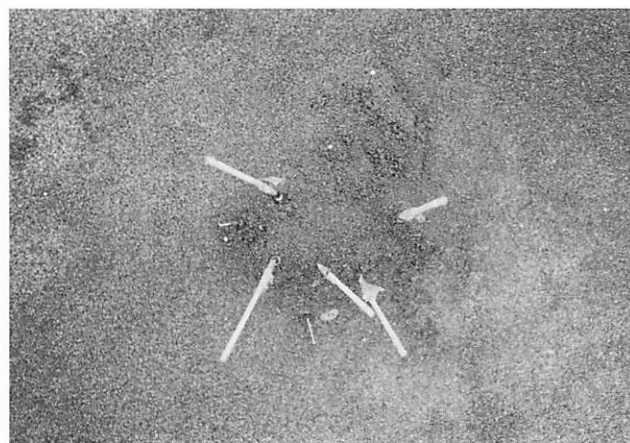
P-97 遺体B 玉出土状況 (西→東)



P-97 遺体A 玉出土状況② (西→東)

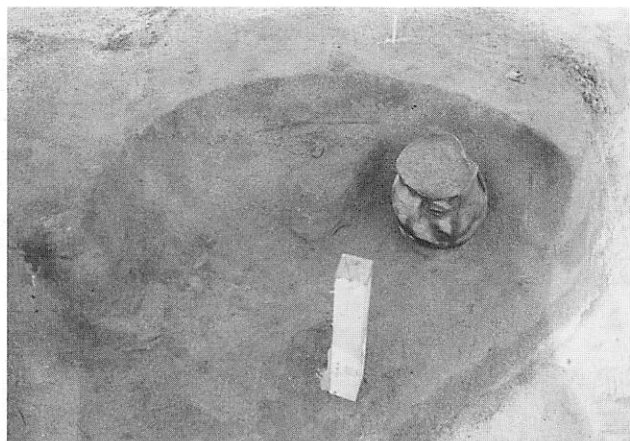


P-105(右)・106(左) 検出状況 (北西→南東)

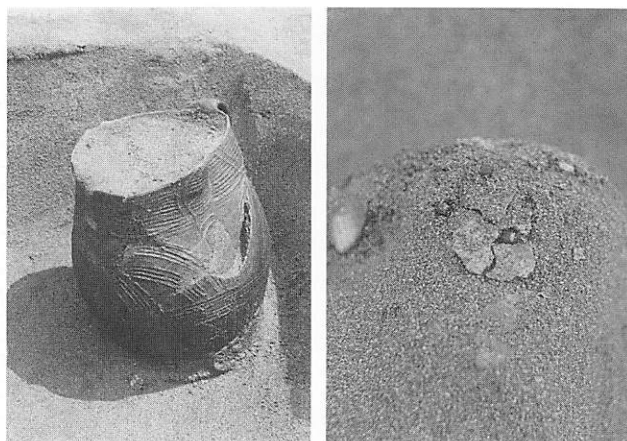


P-106 玉出土状況 (北→南)

写真18 迂回路地点〔3〕



P-98 検出状況 (西→東)



P-98 遺物出土状況



P-98 遺体検出状況 (北西→南東)



P-107 断面 (北西→南東)



P-107 土器出土状況 (北西→南東)



P-107 検出状況 (北西→南東)

写真19 迂回路地点〔4〕





P-100 A(左)・100B(右) 検出状況 (西→東)



P-100 A  
検出状況  
(西→東)



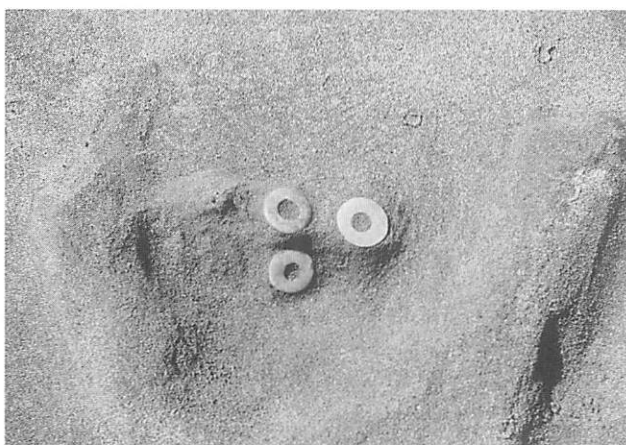
P-104 検出状況 (南東→北西)



P-113 検出状況 (南東→北西)



P-112 検出状況 (南東→北西)

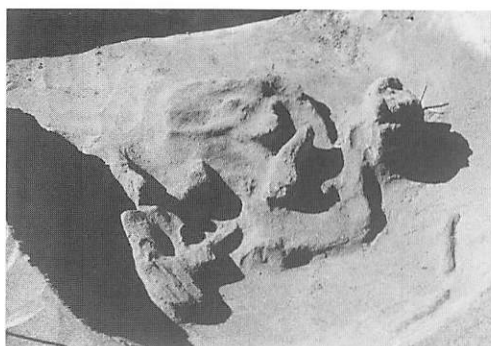


P-112 石製品出土状況 (南東→北西)

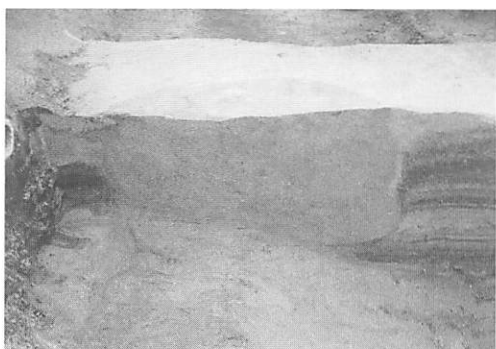
写真20 迂回路地点〔5〕



P-108 検出状況 (西→東)



P-114 検出状況 (南東→北西)



P-117 断面 (北西→南東)



P-117 検出状況 (北西→南東)



P-118 検出状況 (北西→北東)



P-118 土器出土状況 (南東→北西)



P-120 検出状況 (北西→南東)



P-120 土器出土状況 (南西→北東)

写真21 迂回路地点〔6〕



P-116 断面 (西→東)



P-116 検出状況 (南西→北東)



P-116 遺物出土状況 (北西→南東)



P-126 断面 (南東→北西)

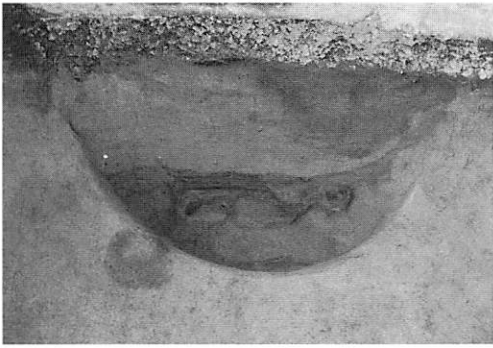


P-126 検出状況 (南東→北西)



P-126 刀子出土状況 (南東→北西)

写真22 迂回路地点〔7〕



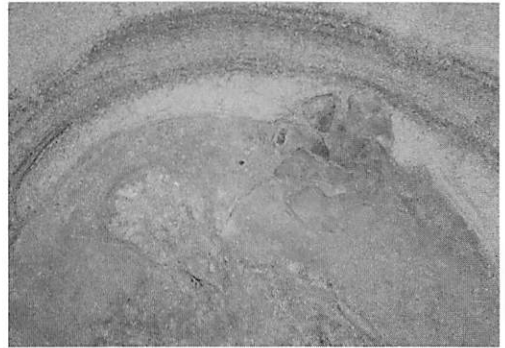
P-122 検出状況 (南東→北西)



P-123 検出状況 (西→東)



P-129 検出状況 (北西→南東)



P-129 土器出土状況 (北→南)



P-127 検出状況 (南西→北東)



P-132 検出状況 (北東→南西)



P-134 検出状況 (北東→南西)



P-134 土器出土状況 (北東→南西)

写真23 迂回路地点〔8〕



P-136 検出状況 (東→西)



P-136 遺物出土状況 (南東→北西)



P-140 検出状況 (西→東)



P-138 土器出土状況 (東→西)



P-139 検出状況 (西→東)



P-141 検出状況 (西→東)



P-143 検出状況 (西→東)



P-143 玉出土状況 (南西→北東)

写真24 迂回路地点〔9〕



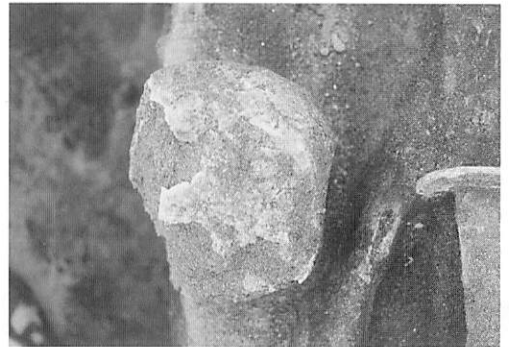
P-102 検出状況 (南東→北西)



P-102 遺物出土状況



P-102 遺体A 頭部検出状況 (南西→北東)



P-102 遺体B 頭部検出状況 (南西→北東)



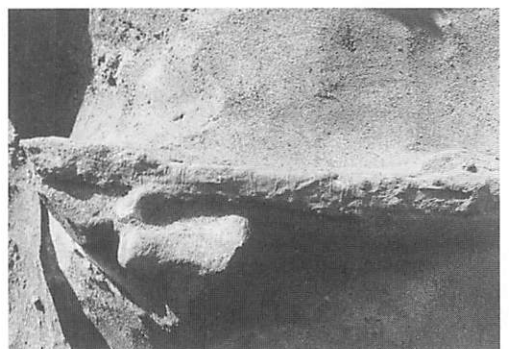
P-137 遺物出土状況



P-137 検出状況  
(南西→北東)



P-137 遺体頭部検出状況 (南西→北東)



P-142 太刀出土状況 (東→西)

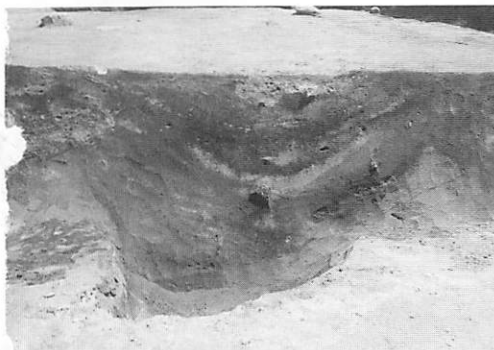
写真25 迂回路地点 [10]



MO-10・20・21 検出状況 (南東→北西)



MO-10 検出状況  
(南西→北東)



MO-10 断面 (X25グリッド, 南西→北東)



MO-19 断面 (Y20グリッド, 北西→南東)



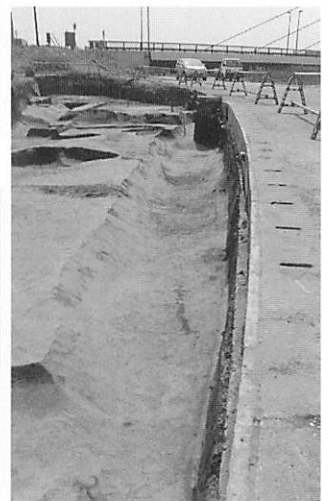
MO-20 北西側検出状況  
(北西→南東)



MO-20 断面 (X23・24グリッド, 北西→南東)



MO-21 断面 (X22グリッド, 南西→北東)



MO-21 検出状況  
(北東→南西)



MO-21 断面 (W24グリッド, 北西→南東)



MO-24・25 断面 (U28グリッド, 北東→南西)

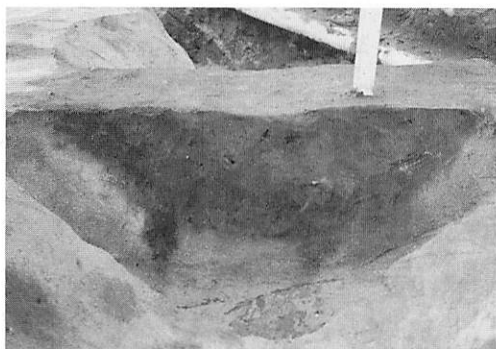
写真26 迂回路地点 [11]



MO-24・25 検出状況 (北東→南西)



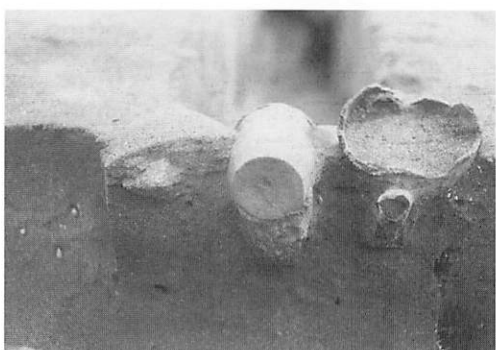
MO-24・25 検出状況 (南西→北東)



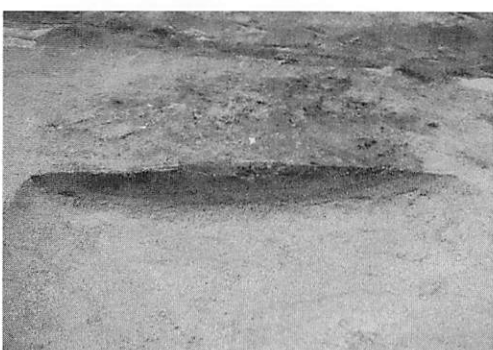
MO-26 断面 (東→西)



MO-26 検出状況 (西→東)



FP-13 断面 (北東→南西)



FP-18 断面 (南東→北西)



FC-1 検出状況 (北東→南西)



SM-4 検出状況 (北東→南西)



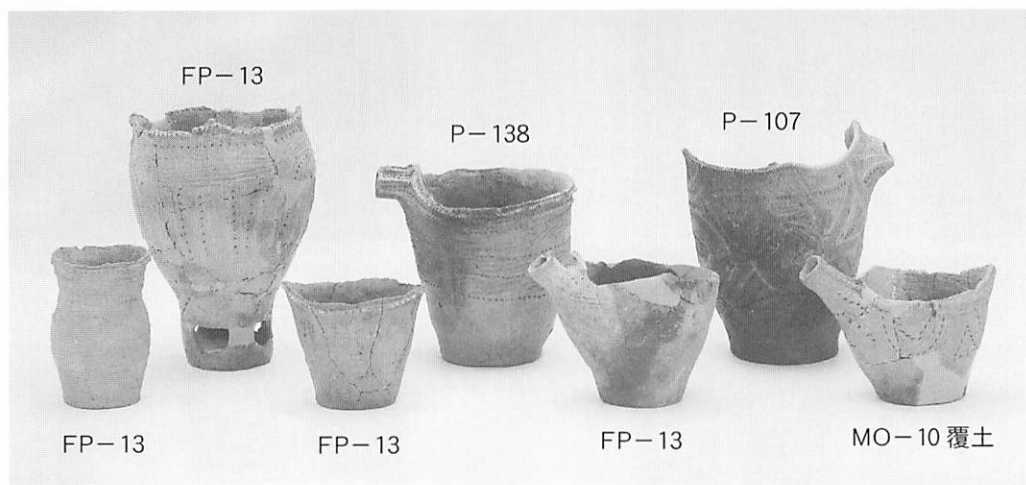
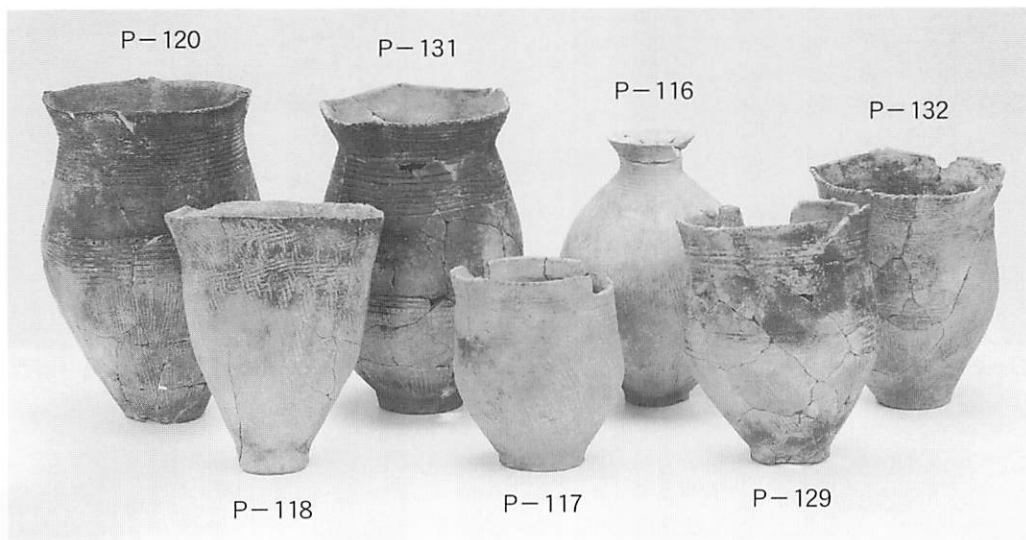


写真28 迂回路地点出土の土器



作業風景  
(南西→北東)

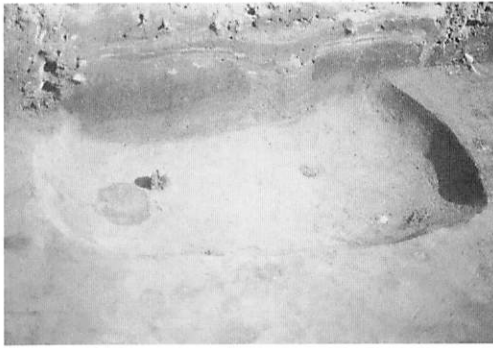


調査区完掘状況①  
(南→北)

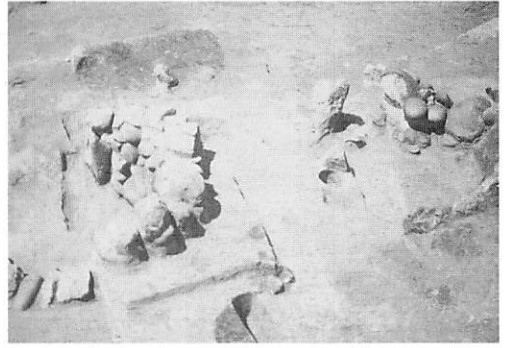


調査区完掘状況②  
(北東→南西)

写真29 旧河口港地点〔1〕



P-1 検出状況 (西→東)



石組炉-1(左)・2(右) 検出状況 (東→西)



石組炉-1 検出状況 (北東→南西)



石組炉-2 検出状況 (東→西)



石組炉-1 断面 (南東→北西)



石組炉-2 断面 (南→北)

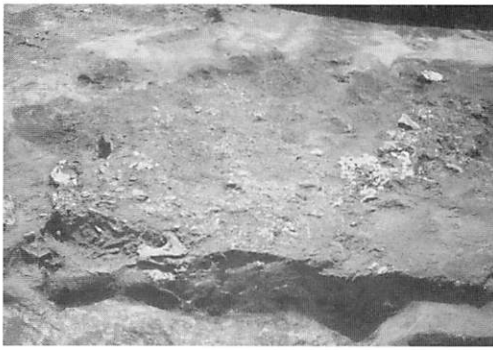


N63Ⅲ 漆碗出土状況 (北東→南西)



L61攪乱 漆碗出土状況 (南西→北東)

写真30 旧河口港地点〔2〕



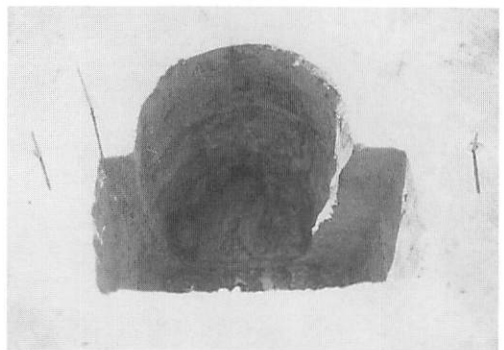
SM-1上面 検出状況 (西→東)



SM-1 断面 (西→東)



SM-1下面 検出状況 (西→東)



SP-5 断面 (北西→南東)



建材検出状況 (北→南)



木柱-1~4 検出状況 (南東→北西)



木柱-5~7 検出状況 (北東→南西)



木柱-6(右)・7(左) 取り上げ後

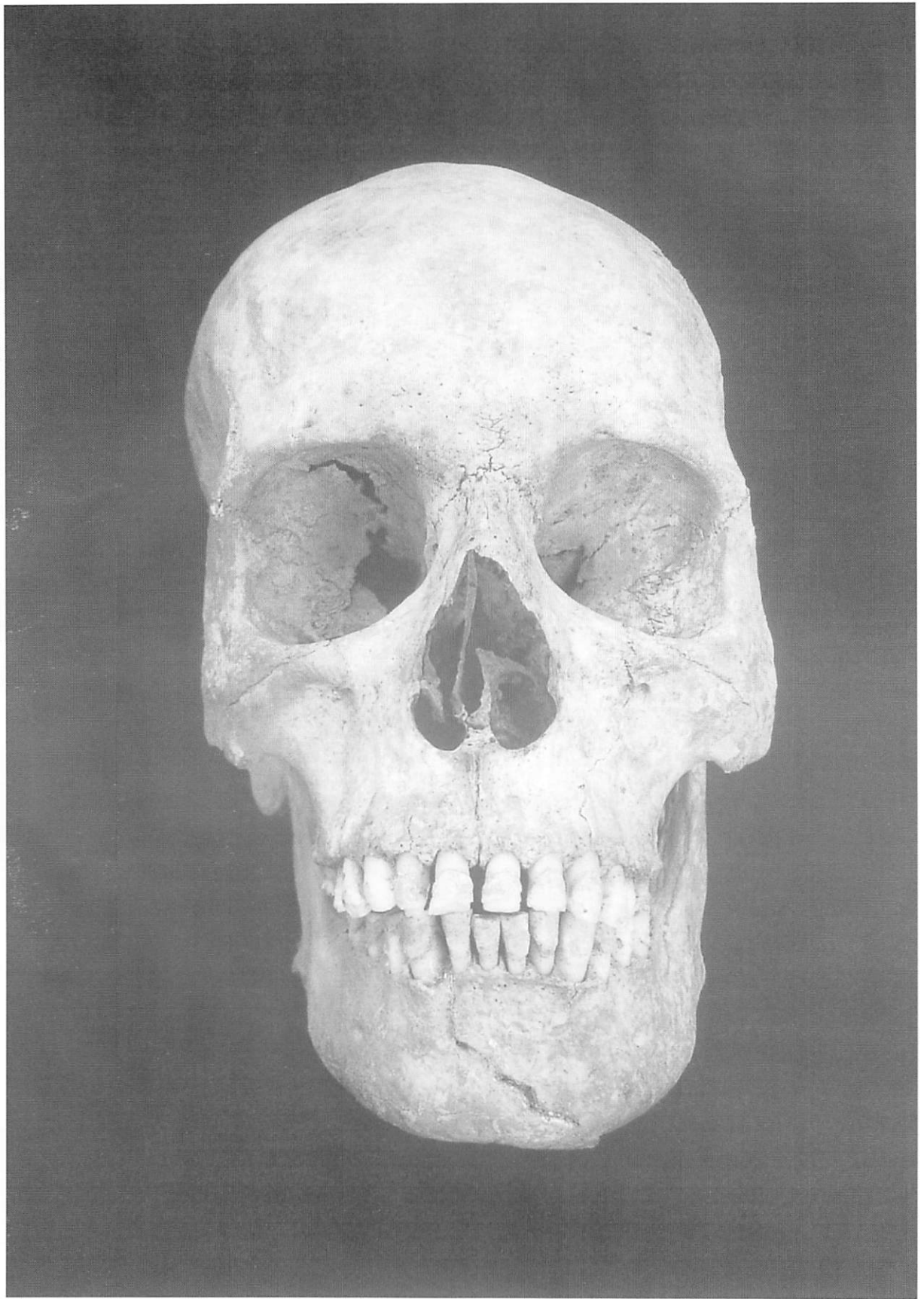


写真32 服部地点 P-27の人骨

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	おおかわいせき							
書 名	大川遺跡							
副 書 名	余市川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編 著 者 名	乾 芳宏・小川康和・原 靖寿							
編 集 機 関	北海道余市郡余市町教育委員会							
所 在 地	〒046-0015 北海道余市郡余市町朝日町26番地 TEL 0135-21-2111							
発行年月日	西暦2004年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査 原因
	所在地	市町村	遺跡番号					
おおかわいせき 大川遺跡	ほっかいどう 北海道 よいちぐん 余市郡 よいちちょう 余市町 おおかわちょう 大川町	0148	D-19-6	43° 11' 37"	140° 47' 25"	2003.5~11	1,775 m <sup>2</sup>	余市川 改修 事業
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
大川遺跡	包蔵地	縄文時代晩期 続縄文 中世 近世	墓坑	土 器 石 器 陶磁器 鉄 器 骨角器 ガラス玉		続縄文時代の墓 坑群であり多量 の副葬品が出土 した。		

---

# 大 川 遺 跡

(2003年度)

余市川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 平成16年3月26日

編集・発行 余市町教育委員会  
〒046-0015  
北海道余市郡余市町朝日町26番地

印刷 株式会社 おおはし  
北海道余市郡余市町大川町14丁目14番地

---